精神神経学雑誌／第121巻第4号付録／2019年4月25日発行

第115回
日本精神神経学会学術総会

The 115th Annual Meeting of the Japanese Society of Psychiatry and Neurology

－ときをこえてはばたけ－

人・こころ・脳をつなぐ精神医学

Psychiatry to bridge human, mind, and brain:
Beyond time and current matters

会　長　**染矢 俊幸**　新潟大学大学院医歯学総合研究科 精神医学分野　教授

副会長　**松田 ひろし**　特定医療法人財団 立川メディカルセンター 柏崎厚生病院　院長

2019.6.20（木）－22（土）

会場｜朱鷺メッセ

目　次

ご挨拶 …… 2
第115回日本精神神経学会学術総会 ご案内 …… 4
交通案内図…… 7
会場周辺のご案内/会場配置図 …… 9
日程表…… 12
参加者の皆様へ…… 20
精神科専門医資格の更新に必要な単位について …… 24
司会および演者・発表者の皆様へ …… 25
日本精神神経学会関連各賞 …… 29
日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞/研修医、学部学生による演題 …… 32
第115回日本精神神経学会学術総会 同時開催
　日本精神神経学会主催 講習会・研修会について …… 33
市民公開講座…… 34
世界各国の若手精神科医との国際交流に向けたミーティングのご案内 …… 35
「新専門医制度報告会」の開催のご案内 …… 36
第115回日本精神神経学会学術総会 プログラム委員 …… 37
セッション一覧 …… 39
プログラム …… 47
ワークショップのご案内 …… 287
日本精神神経学会学術総会 会長一覧 …… 301
広告掲載企業…… 305
第115回日本精神神経学会学術総会　専門医単位について …… 306
受講記録表…… 307

ご挨拶

第115回日本精神神経学会学術総会
会長:染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

2019年6月20～22日の3日間にわたり、新潟市の朱鷺メッセにて第115回日本精神神経学会学術総会を開催いたします。新潟での開催は63年ぶり3回目になります。新潟は本学会と縁が深く、1935年の第34回総会は「新潟革命」とも呼ばれ、学会名が「日本神経学会」から「日本精神神経学会」に、機関誌も「神経学雑誌」から「精神神経学雑誌」に改められ、これを機に本学会は日本の精神医学を牽引するプロパーの学会としての旗幟を鮮明にしたと記されています。後に本学会の英文機関誌「Psychiatry and Clinical Neurosciences」となる、本邦初の欧文精神神経学雑誌「Folia Psychiatrica et Neurologica Japonica」の1933年の創刊にも深く関わり、本学会が掲げる「学会の国際化」の大きな一歩が踏み出された頃です。第34回の盛況ぶりは神経学雑誌第38巻第8号の雑報欄に「本会懇親会は28日夜新潟市内イタリア軒に於いて開催せられ、これまた本会としては稀有の盛会なりき。(中略) 来会者一同渾然融和するが如き観あり」と記載されています。第115回学術総会も、参加者が「渾然融和する如き」盛況となるよう努めたいと思います。

本学術総会のテーマは「−ときをこえてはばたけ− 人・こころ・脳をつなぐ精神医学 Psychiatry to bridge human, mind, and brain: Beyond time and current matters」といたしました。ときをこえての“とき”は、解き、時、朱鷺を意味し、心や脳の機能・病気を解き明かし、時を超えて、新潟の象徴でもある朱鷺のように未来へ羽ばたいていけ、というメッセージです。

人はbiopsychosocialな存在です。生物的存在であることに加えて、複雑なこころを持つ心理的存在であり、ここに他の生物とは異なる最大の特徴があります。また、「違いを認識する感覚」主体から「違いには目をつぶって共通性を認識する (同じにする)」能力の獲得によって「意味」や「情報」の共有が可能な、そしてその追求を重視する非常に複雑な社会を形成し、人は社会に影響を与えると同時に、社会からも大きな影響を受ける社会的存在でもあります。

われわれは、こうした「こころ」に表れる医学的問題に専門家として対応していますが、「こころ」の問題にきちんと対応するためには、それらの現象をよく理解することが大切です。そのためには基盤にある「脳」機能について理解を深める必要があり、たとえその道筋が困難でも、それを乗り越えていかなければなりません。一方、還元的理解ではなく総体としての人間、一人ひとりの「人」を主役において「こころ」・「脳」をつなぐ精神医学、その人の人生経験や価値観を理解する医学をめざしたいという意図が込められています。

第115回学術総会の準備にあたっては、一般演題の充実を目標に掲げました。多種多様なテーマを取り扱う、きわめて幅の広い学問という精神医学の特徴からか、一般演題はそれぞれの専門学会で発表される傾向があり、本学会のような親学会で一般演題を発表し、経験や知識をより広く共有しようとする文化が十分醸成されていません。参加者約8,000人という、医学会としてわが国有数の規模にもかかわらず、一般演題は例年300題前後という状況がそれを示しています。将来的には2,000題を超える一般演題が寄せられ、さらに充実した学会になることを願いますが、昨年の学術総会で「来年は1,000題」を宣言したところ、多くの方々のご協力により今回は1,300題に迫る一般演題登録をいただきました。この場を借りて厚く感謝の意を表します。

一般演題のカテゴリーとしては、論文でいえば原著論文や症例報告に相当する従来の一般演題に加え、各関連学会やテーマごとに現状や課題を概説する「総説」的な特別枠を新設しました。このコーナーに足を運び、多くの専門学会や団体、各大学がどのようなテーマに取り組み、どのような成果をあげているのかを広く学んでほしいと思います。専門

研修基幹施設のコーナーでは、各研修プログラムの魅力や問題点を共有するとともに、研修担当者間での意見交換の場、研修医に向けた情報提供の場になることを期待しています。

本学会は、精神神経領域を代表する基幹学会として、きわめて重要な役割を担っています。新潟大会が精神医学の学問としての発展に寄与することはもちろん、関連学会や関連団体との連携によって、参加者が専門外の領域についての現状と課題も知ることができるような大会を創ることで、基幹学会学術総会のあり方を考える第一歩としたいと思います。同時に、次世代を担う精神科医の養成、ICDなどの国際活動への対応、社会に貢献できる精神医学や精神科医療の姿を真摯に議論し、それらの道筋を発信する活発な学術総会になればと願っています。

また学術総会への参加は、新潟を訪れていただくせっかくの機会でもあります。学会以外でも新潟の魅力に触れて大いに楽しんでいただきたいと思っております。

会員の皆さまのご参加を心からお願い申し上げます。

第115回日本精神神経学会学術総会
ご 案 内

会　　長：染矢 俊幸（新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野 教授）

副 会 長：松田 ひろし（特定医療法人財団 立川メディカルセンター柏崎厚生病院 院長）

会　　期：2019年6月20日（木）～22日（土）

総会テーマ：–ときをこえてはばたけ– 人・こころ・脳をつなぐ精神医学

会　　場：朱鷺メッセ
- 新潟コンベンションセンター
  〒950-0078　新潟市中央区万代島6番1号　TEL：025-246-8400
- ホテル日航新潟
  〒950-0078　新潟市中央区万代島5番1号　TEL：025-240-1888
- 万代島ビル会議室
  〒950-0078　新潟市中央区万代島5番1号 万代島ビル6階　TEL：025-248-8661

会場名	施設名	建物名		フロア	部屋名
A会場（センター 1F 大会場）	朱鷺メッセ	新潟コンベンションセンター		1F	展示ホールB
B会場（センター 1F 中会場）					展示ホールA内
C会場（センター 1F 中会場）					展示ホールA内
特別ポスター会場（センター 1F）					展示ホールA内
D会場（センター 2F 中会場）				2F	メインホールA
E会場（センター 2F 中会場）					メインホールB
F会場（センター 2F 小会場）					中会議室201
ポスター会場1（センター 2F）					展示ホールＡＢ前 エスプラナード
ポスター会場2（センター 2F）					メインホールＡＢ前ホワイエ ＋エスプラナード
ポスター会場3（センター 2F）					201前ホワイエ
G会場（センター 3F 小会場）				3F	中会議室301B
H会場（センター 3F 小会場）					中会議室301A
I会場（センター 3F 小会場）					中会議室302B
J会場（センター 3F 小会場）					中会議室302A
K会場（センター 3F 中会場）					小会議室303+304
L会場（センター 3F 中会場）					小会議室306+307
ポスター会場4（センター 3F）					301・302前ホワイエ
M会場（センター 4F 中会場）				4F	国際会議室マリンホール
ポスター会場5（センター 4F）					国際会議室前ホワイエ
N会場（ホテル 3F 小会場）		万代島ビル	ホテル（日航新潟）	3F	孔雀
O会場（ホテル 4F 小会場）				4F	朱鷺A
P会場（ホテル 4F 小会場）					朱鷺B
ポスター会場6（ホテル 4F）					朱鷺ホワイエ
Q会場（万代島ビル 6F）			会議室	6F	会議室

理　事　会：2019年6月19日（水）10：00～12：00
（新潟コンベンションセンター 2F F会場「中会議室201」）

代議員総会：2019年6月19日（水）13：00～18：00
（新潟コンベンションセンター 2F E会場「メインホールB」）

新 理 事 会：2019年6月19日（水）18：00～20：00
（新潟コンベンションセンター 2F F会場「中会議室201」）

会員報告会：2019年6月22日（土）15：45～16：30
（新潟コンベンションセンター 2F F会場「中会議室201」）

懇　親　会：2019年6月21日（金）19：30～21:00
（新潟グランドホテル 3F「悠久」）

総会事務局：新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
〒951-8510 新潟市中央区旭町通一番町757
須貝 拓朗（事務局長）

運営事務局：株式会社コンベンションリンケージ内
〒102-0075 東京都千代田区三番町2
TEL：03-3263-8688　　FAX：03-3263-8693
E-mail：jspn115@c-linkage.co.jp

総会ホームページ：
http://www.c-linkage.co.jp/jspn115/

協　　力：新潟県・新潟市・公益財団法人 新潟市観光コンベンション協会

総合受付（総合案内、当日参加受付、お弁当デスク、懇親会受付、プレス受付、抄録販売、トラベルデスク）：

新潟コンベンションセンター 2F「アトリウム」	6月20日（木）	7：30～18：00
	6月21日（金）	7：30～17：00
	6月22日（土）	7：30～14：30

クローク：

新潟コンベンションセンター 1F「エントランスホール」	6月20日（木）	7：30～19：30
	6月21日（金）	7：30～19：30
	6月22日（土）	7：30～20：00

PC受付 （演者受付）：

①新潟コンベンションセンター 2F E会場「メインホールB」前	6月20日（木）	7：30～18：00
②ホテル日航新潟 4F「神殿」	6月21日（金）	7：30～18：00
③万代島ビル 6F Q会場「会議室」内受付スペース	6月22日（土）	①7：30～18：00 ②7：30～15：00 ③7：30～16：00

日本精神神経学会事務局デスク：

新潟コンベンションセンター 3F	6月20日（木）	8：30～17：00
	6月21日（金）	8：30～17：00
	6月22日（土）	8：30～14：30

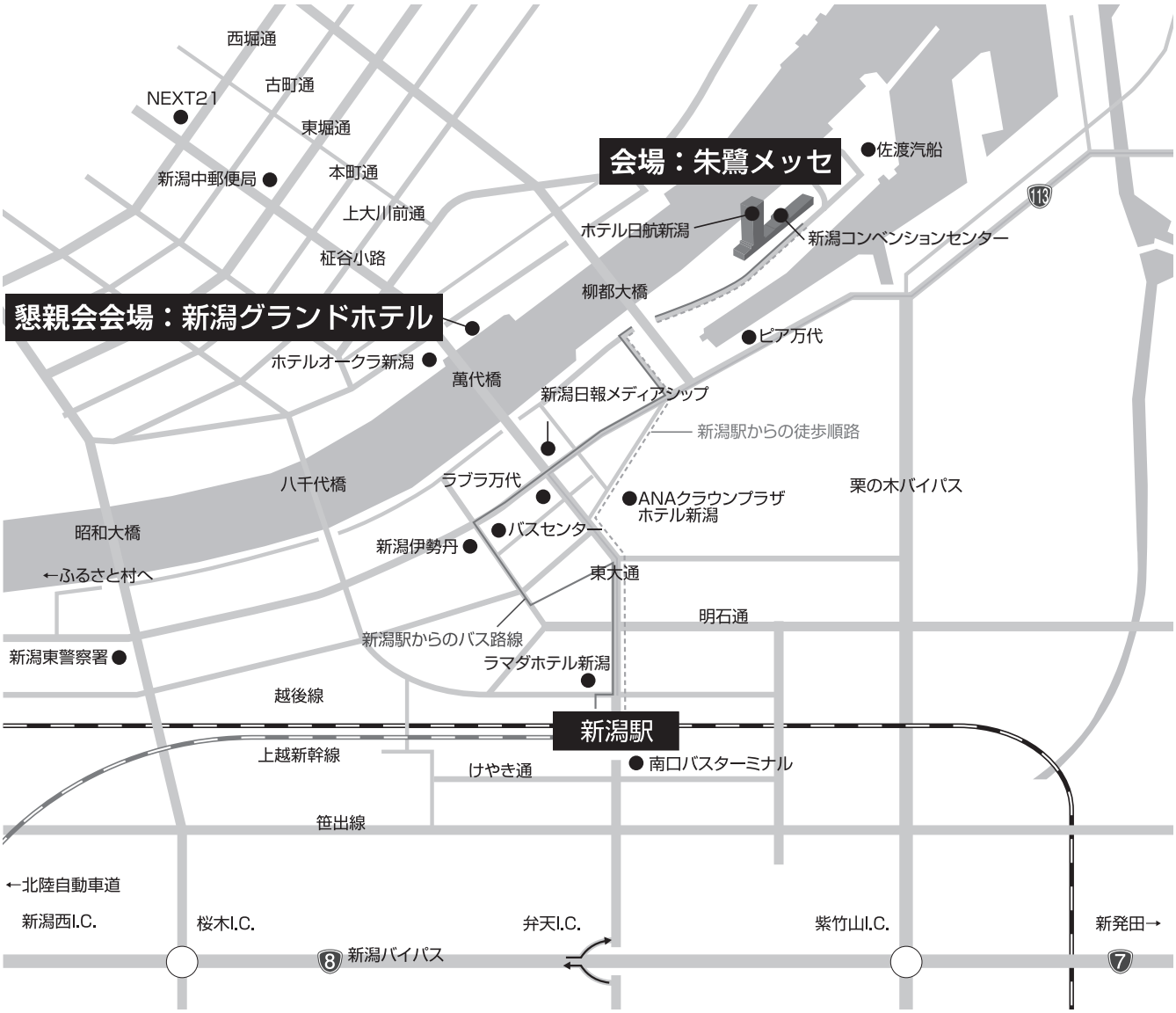
書籍展示：

新潟コンベンションセンター 1F「展示ホールA」内

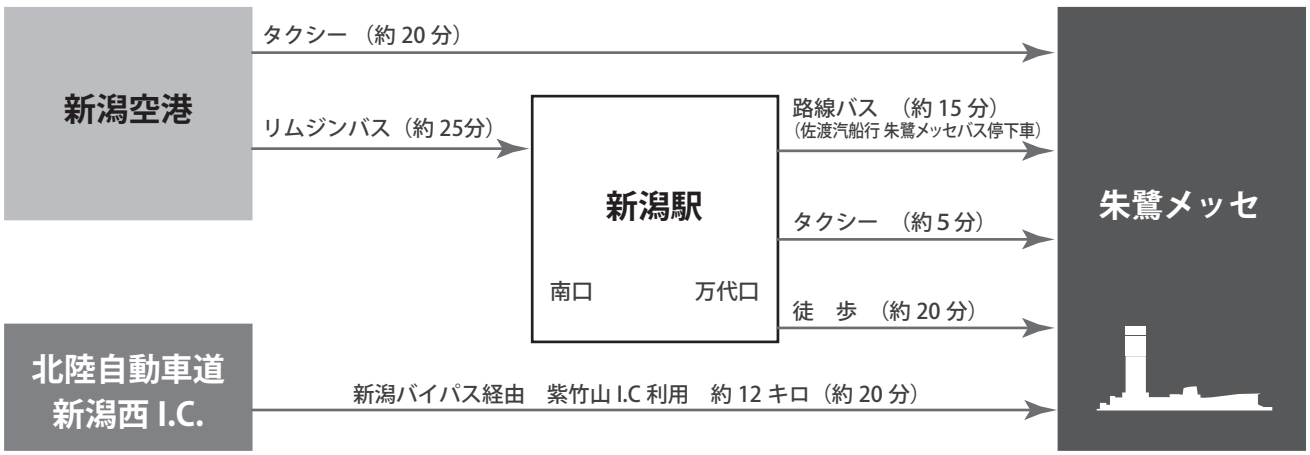
iPad無料レンタル：

新潟コンベンションセンター 2F「アトリウム」	6月20日（木）	8：30～18：10
	6月21日（金）	8：00～18：30
	6月22日（土）	8：00～15：40

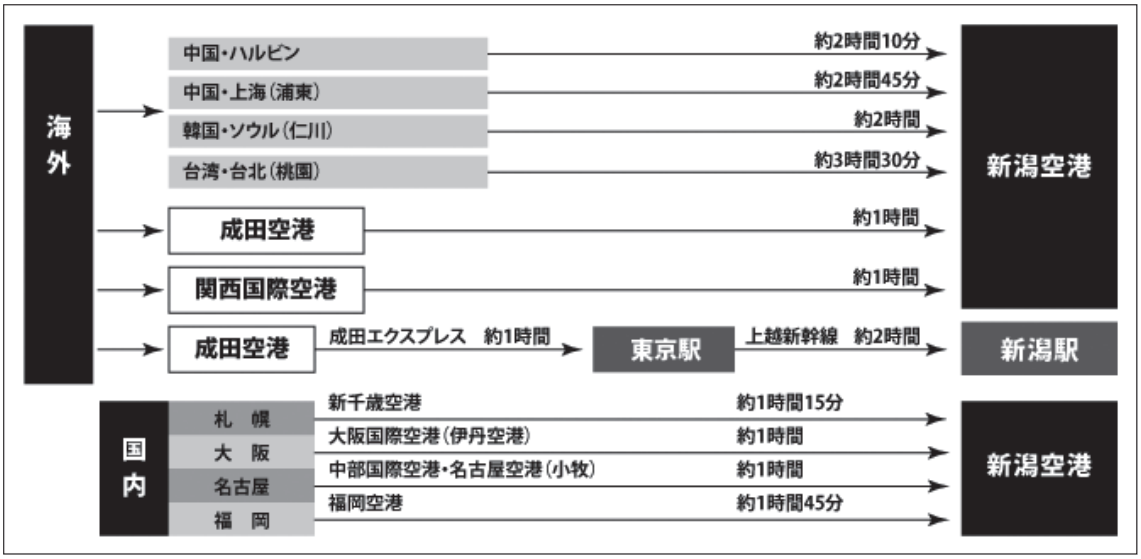
交通案内図



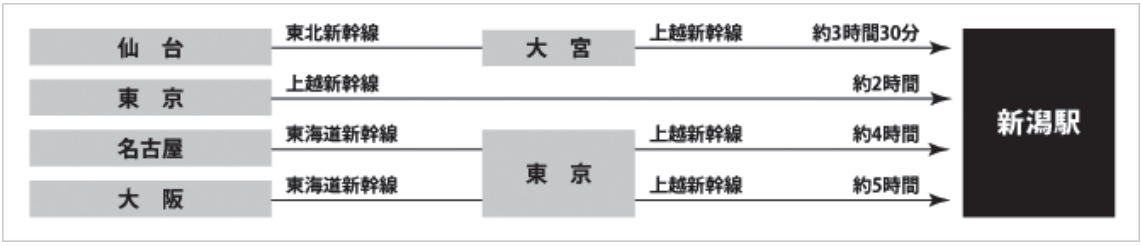
■朱鷺メッセへのアクセス



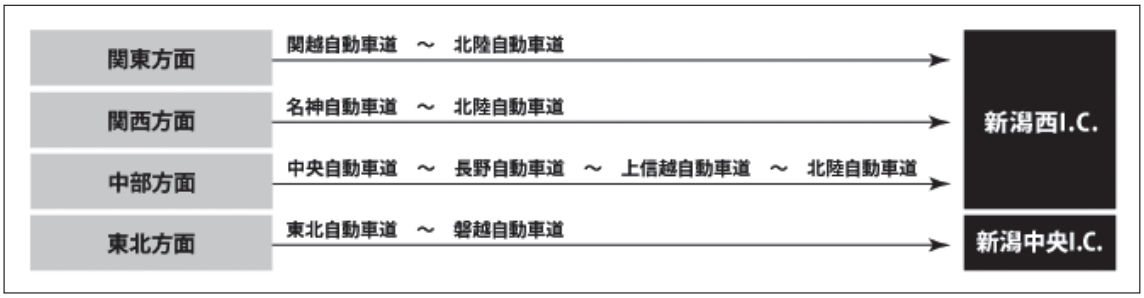
飛行機をご利用の場合



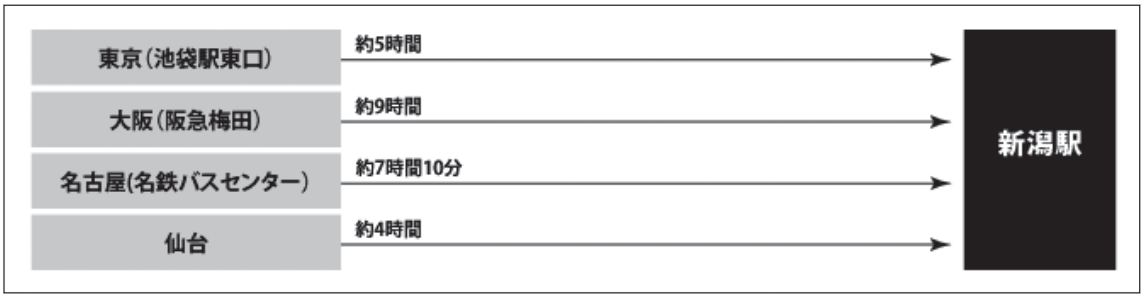
鉄道をご利用の場合



お車をご利用の場合

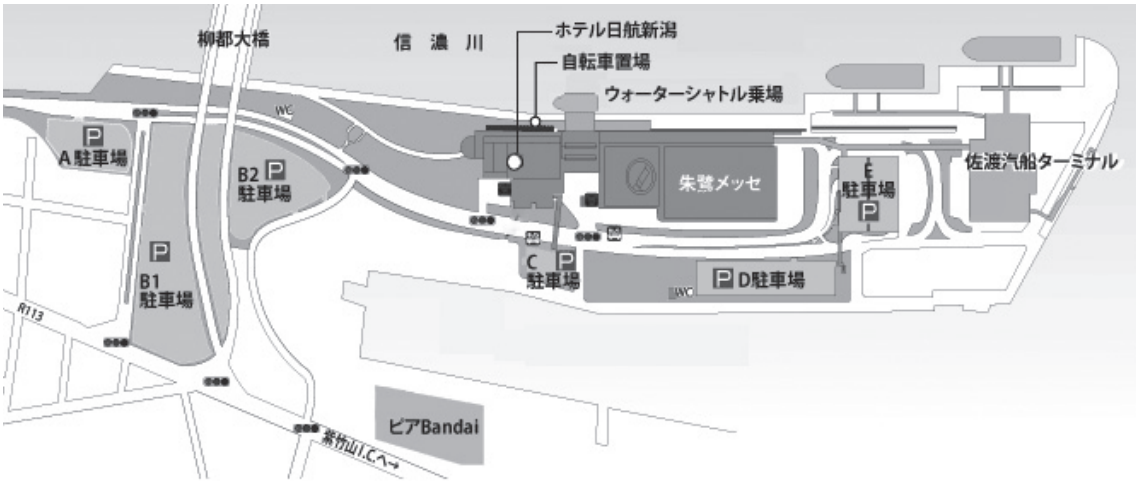


高速バスをご利用の場合



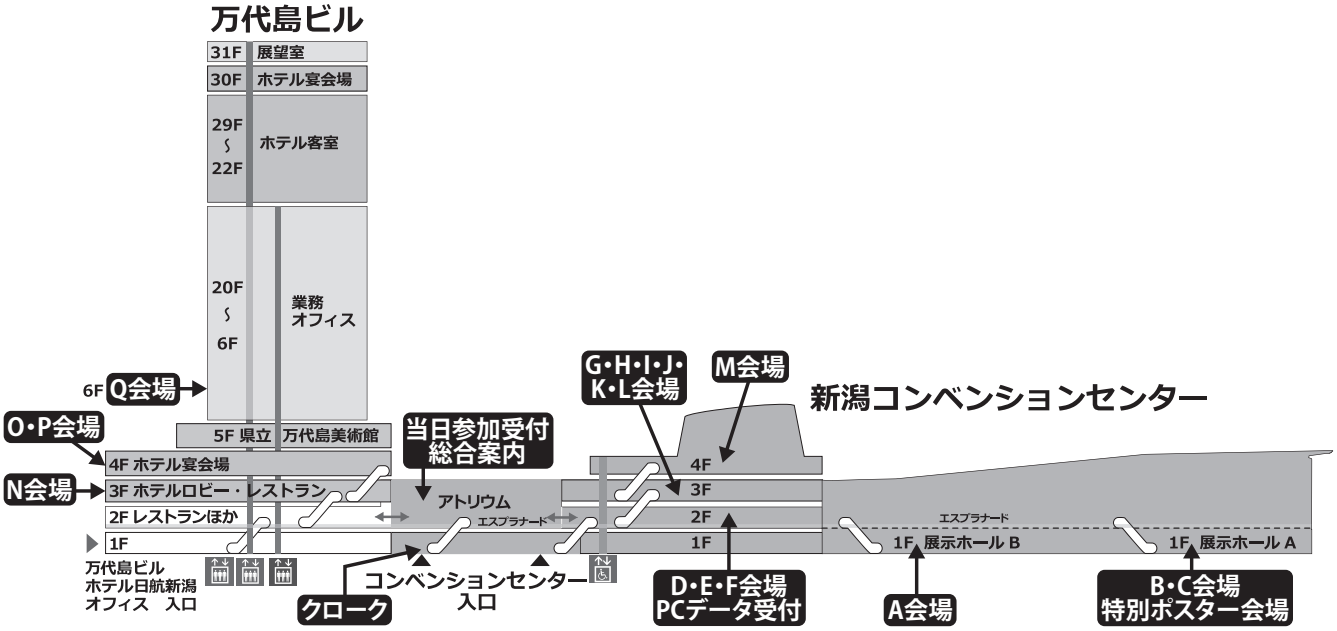
会場周辺のご案内

←至 新潟グランドホテル

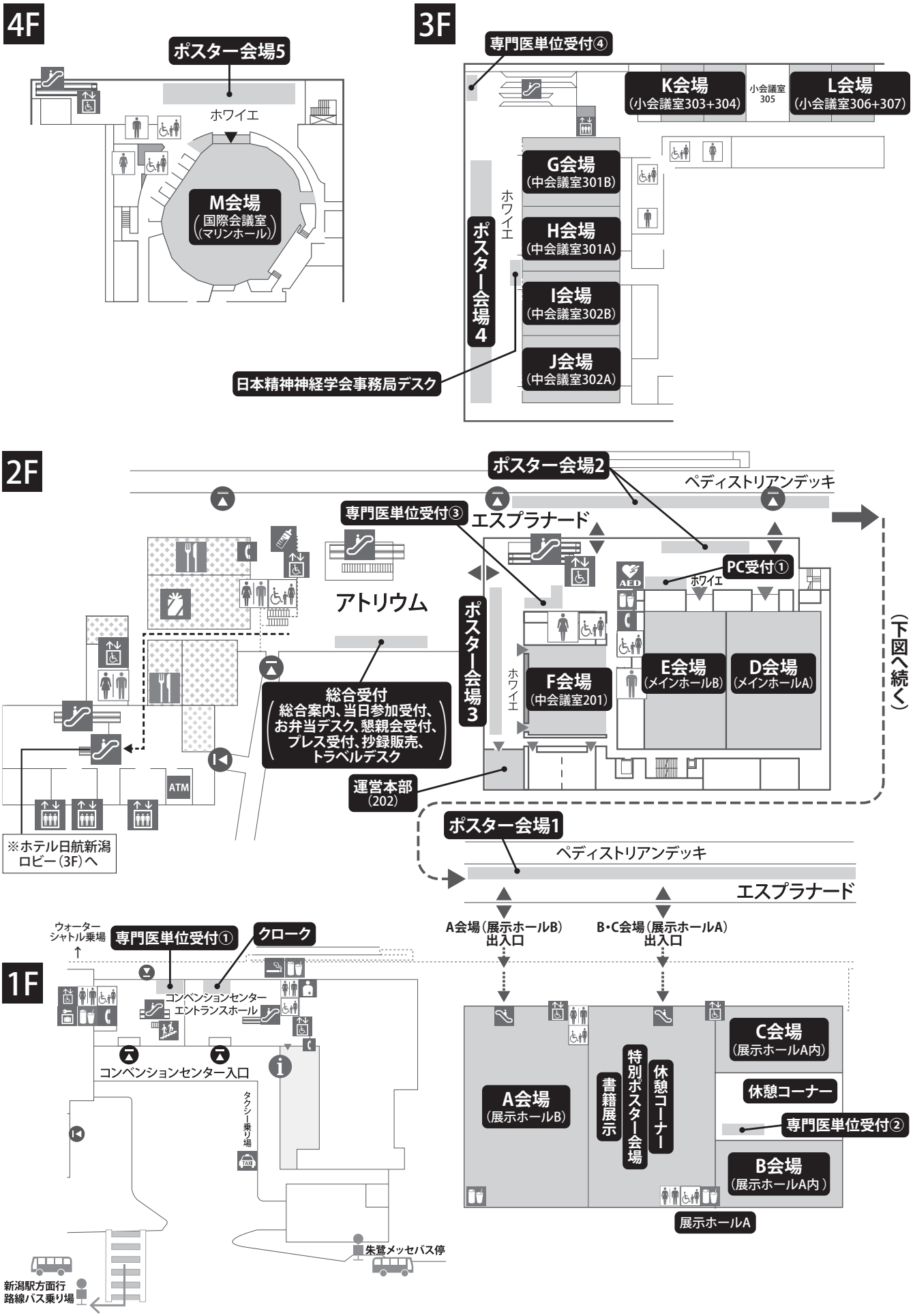


会場配置図

朱鷺メッセ

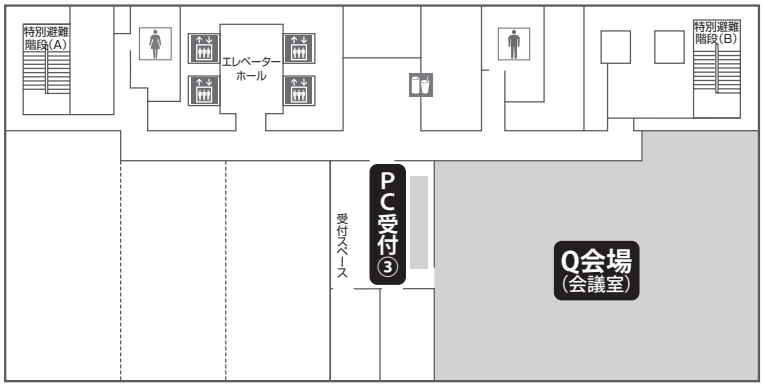


新潟コンベンションセンター



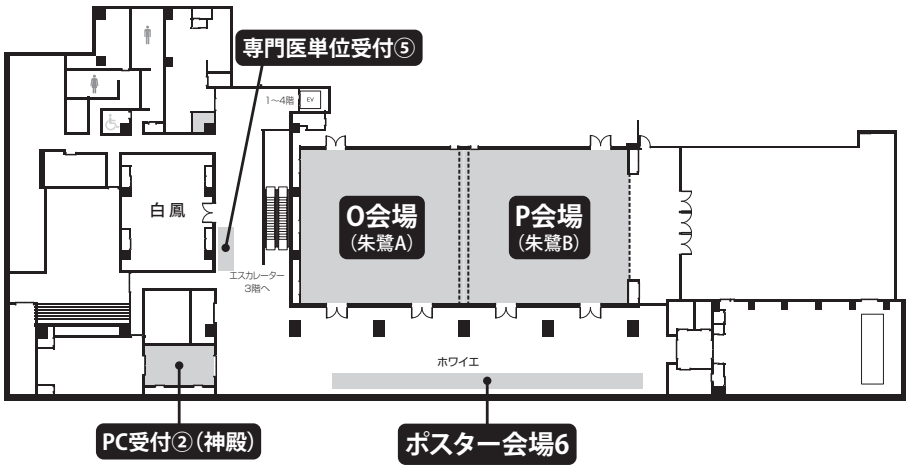
万代島ビル

6F

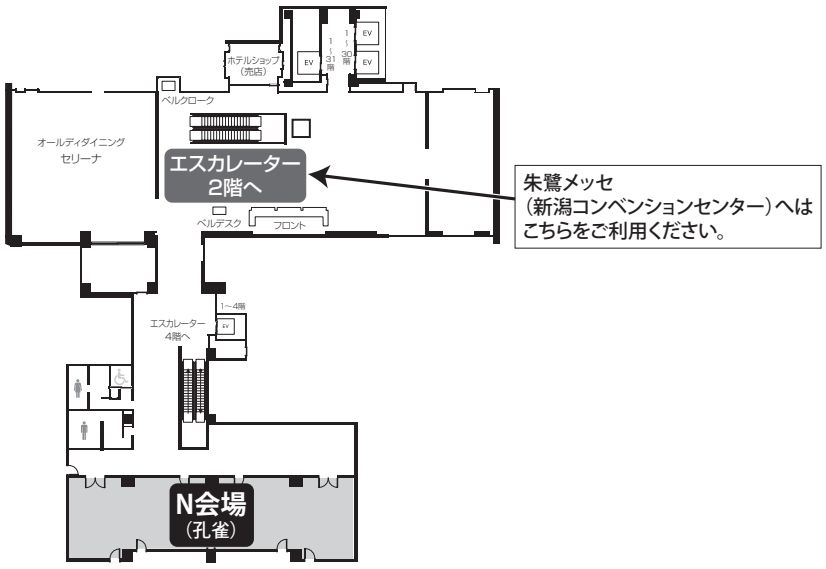


ホテル日航新潟

4F



3F



2019年6月20日木 1日目

建物名	新潟コンベンションセンター								
会場名	A会場（センター 1F 大会場）	B会場（センター 1F 中会場）	C会場（センター 1F 中会場）	D会場（センター 2F 中会場）	E会場（センター 2F 中会場）	F会場（センター 2F 小会場）	G会場（センター 3F 小会場）	H会場（センター 3F 小会場）	I会場（センター 3F 小会場）
フロア 部屋名	1F 展示ホールB	1F 展示ホールA-1	1F 展示ホールA-2	2F メインホールA	2F メインホールB	2F 中会議室201	3F 中会議室301B	3F 中会議室301A	3F 中会議室302B
8:00									
8:20～8:30 開会式									
8:30	8:30～10:30 **会長企画シンポジウム1** 科学的根拠に基づいた精神保健医療政策立案：病床推計法の進化からみたこれからの方向性 PS1-1～PS1-4	8:30～10:30 **シンポジウム1** 認知症とてんかんにおける記憶障害を探る S1-1～S1-4	8:30～10:30 **委員会シンポジウム1** 退院後支援の現状と課題 −措置入院を中心に− CS1-1～CS1-5 （精神医療・保健福祉システム委員会）	8:30～9:30 **教育講演1** 精神神経機能障害としての'てんかん'：病態機序を神経病理学からさぐる EL1	8:30～10:30 **委員会シンポジウム2** 精神科専門医に必要な精神療法の学び方 CS2-1～CS2-5 （精神療法委員会）	8:30～10:30 **委員会シンポジウム3** ECTの標準化に向けて CS3-1～CS3-5 （ECT・rTMS等検討委員会）	8:30～10:30 **シンポジウム2** よくわかるうつ病脳科学入門 −臨床医のための脳科学研究講座− S2-1～S2-4	8:30～10:30 **シンポジウム3** 精神科学と神経免疫学のクロストーク S3-1～S3-4	8:30～10:30 **シンポジウム4** 新精神科専門医制度における内科教育の実践 S4-1～S4-5
9:00									
9:30				9:35～10:35 **教育講演2** 精神障害リハビリテーション −人が回復するということ EL2					
10:00									
10:30									
10:40～11:40 **会長講演** −ときをこえてはばたけ− 人・こころ・脳をつなぐ精神医学 PL	10:40～12:40 **シンポジウム12** 高齢者に求められる精神療法とはどのようなものか S12-1～S12-4	10:40～12:40 **シンポジウム13** 精神保健予防に向けた学校・地域における連携 S13-1～S13-5	10:40～11:40 **教育講演3** 精神分析的アプローチから見た自閉スペクトラム症と自閉スペクトラム心性について EL3	10:40～12:40 **シンポジウム14** 不安症・強迫症の診療ガイドライン S14-1～S14-4	10:40～12:40 **委員会シンポジウム5** 認知症診療における精神科医の役割 −適正な薬物療法についての再検討− CS5-1～CS5-4 （認知症委員会）	10:40～12:40 **委員会シンポジウム6** メンタルヘルスの専門家ないし医療者は性的マイノリティについて何を知るべきか CS6-1～CS6-4 （性同一性障害に関する委員会）	10:40～12:40 **シンポジウム15** 自閉スペクトラム症の本質に迫る：感覚・運動機能という新たな視点から S15-1～S15-6	10:40～12:40 **シンポジウム16** 症状把握を掘り下げる S16-1～S16-3
11:00									
11:30				11:45～12:45 **教育講演4** 摂食障害の認知行動療法改良版（CBT-E） EL4					
11:50～12:50 **先達に聞く** 精神科診断学とICDの今後の課題 MP									
12:00									
12:30									
13:00									
13:30									
13:50～15:50 産 **シンポジウム24** 精神・発達障害者の就労支援に関わる精神科医（主治医・産業医）の必須アイテム S24-1～S24-4	13:50～14:50 **一般演題（口演）1** 統合失調症1 1-O1-1～1-O1-5	13:50～14:50 **一般演題（口演）2** 統合失調症2 1-O2-1～1-O2-4	13:50～14:50 **教育講演5** 認知機能低下にともなう不安への精神療法的アプローチ～軽度認知障害やアルツハイマー病を対象として～ EL5	13:50～14:50 **一般演題（口演）3** 気分障害1 1-O3-1～1-O3-5	13:50～14:50 **一般演題（口演）4** 児童・思春期、発達障害1 1-O4-1～1-O4-5	13:50～14:50 **一般演題（口演）5** 気分障害2 1-O5-1～1-O5-5	13:50～14:50 **一般演題（口演）6** 気分障害3 1-O6-1～1-O6-5	13:50～14:50 **一般演題（口演）7** 脳器質性・症状性精神病障害1 1-O7-1～1-O7-5
14:00									
14:30									
15:00	14:50～15:50 **一般演題（口演）15** 統合失調症3 1-O15-1～1-O15-5	14:50～15:50 **一般演題（口演）16** その他 1-O16-1～1-O16-5	14:55～15:55 **教育講演6** トラウマ記憶を処理する心理療法：EMDR（眼球運動による脱感作と再処理法） EL6	14:50～15:50 **一般演題（口演）17** その他 1-O17-1～1-O17-5	14:50～15:50 **研修医・学部学生演題（口演）1** 研修医・学部学生1 1-KO1-1～1-KO1-5	14:50～15:50 **研修医・学部学生演題（口演）2** 研修医・学部学生2 1-KO2-1～1-KO2-5	14:50～15:50 **研修医・学部学生演題（口演）3** 研修医・学部学生3 1-KO3-1～1-KO3-4	14:50～15:50 **一般演題（口演）18** 脳器質性・症状性精神病障害3 1-O18-1～1-O18-5
15:30									
16:00									
16:00～18:00 産 **委員会シンポジウム7** うつ病から復職就労者の再発再燃を防ぐために精神科医と産業医ができること CS7-1～CS7-4 （精神保健に関する委員会）	16:00～18:00 **シンポジウム25** 全国の精神保健福祉センターにおける自殺対策の取り組みについて S25-1～S25-5	16:00～18:00 **シンポジウム26** 不安症治療でベンゾジアゼピン系抗不安薬はいかに用いられるべきか～最適化を目指すためのコツと注意点～ S26-1～S26-5	16:00～17:00 **教育講演7** 精神科における高齢者てんかん診療のこつを探る EL7	16:00～18:00 **シンポジウム27** 自然災害時における統合失調症をもつ人々のSSTによる支援 S27-1～S27-4	16:00～18:00 **委員会シンポジウム8** 訪問診療・訪問看護における多職種協働 CS8-1～CS8-4 （多職種協働委員会）	16:00～18:00 **委員会シンポジウム9** 向精神薬と死亡リスク CS9-1～CS9-5 （薬事委員会）	16:00～18:00 **シンポジウム28** 身体症状症および関連症群の治療導入はどうすべきか？ −最前線の臨床医による工夫− S28-1～S28-4	16:00～18:00 **シンポジウム29** てんかんと知的障害の併存症例に対する精神科医の工夫と取り組み S29-1～S29-4
16:30									
17:00				17:05～18:05 **教育講演8** NDB等を用いた多様な精神疾患の患者数の集計 EL8					
17:30									
18:00									
18:30									
19:00									
19:30									

同…同時通訳あり
産…日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッションです。※ セッション開始・終了時に、入退室の管理をさせていただきます。

＊1：P9・10・11参照
＊2：P9・10参照

建物名	新潟コンベンションセンター				ホテル日航新潟			万代島ビル	ポスター	特別ポスター
会場名	J会場（センター 3F 小会場）	K会場（センター 3F 中会場）	L会場（センター 3F 中会場）	M会場（センター 4F 中会場）	N会場（ホテル 3F 小会場）	O会場（ホテル 4F 小会場）	P会場（ホテル 4F 小会場）	Q会場（万代島ビル 6F）	会場 1～6 ＊1	特別ポスター会場 ＊2
フロア部屋名	3F 中会議室302A	3F 小会議室303＋304	3F 小会議室306＋307	4F 国際会議室	3F 孔雀	4F 朱鷺A	4F 朱鷺B	6F 会議室		
8:00									8:00～10:00 ポスター掲示	8:00～10:00 特別ポスター掲示
8:30	8:30～10:30 **シンポジウム5** 双極性障害の予後を悪化させる要因と対応 S5-1～S5-5	8:30～10:30 **シンポジウム6** 精神病理学の古典を再読する：DSM精神医学の補完を目指して S6-1～S6-4	8:30～10:30 **委員会シンポジウム4** 育てと育ちの精神医学～困難な育児・逆境における育ちの支えII～ CS4-1～CS4-5 （精神保健に関する委員会）	8:30～10:30 **シンポジウム7** 精神科救急・急性期医療と地域包括ケア～厚生労働科学研究の成果～ S7-1～S7-4	8:30～10:30 **シンポジウム8** 精神神経科領域におけるロボット治療の現状と今後の課題 S8-1～S8-8	8:30～10:30 **シンポジウム9** 新規抗うつ剤の最適使用戦略を確立する日本最大の実践的メガトライアルSUN☺D study S9-1～S9-5	8:30～10:30 **シンポジウム10** 実践!双極性感情障害の対人関係社会リズム療法（IPSRT）入門～明日からできる、つまみ食いIPSRTのすすめ! S10-1～S10-4	8:30～10:30 **シンポジウム11** 内観療法の理論と現代的応用 S11-1～S11-5		
9:00										
9:30										
10:00									10:00～12:50 ポスター閲覧	10:00～18:10 特別ポスター閲覧
10:30	10:40～12:40 **シンポジウム17** 精神疾患の臨床病理検討（CPC）から疾病を理解する精神科ブレインバンクへの期待（その3） S17-1～S17-6	10:40～12:40 **シンポジウム18** ICD-11に収載された複雑性PTSDの理解と治療 –トラウマケア技法の実際– S18-1～S18-5	10:40～12:40 **シンポジウム19** うつ病リワークプログラムの始め方、続け方～クリニック、病院、大学、and etc S19-1～S19-6	10:40～12:40 **シンポジウム20** てんかんと精神医療の新たな連携の形（psycho-epilepsy-tology） S20-1～S20-4	10:40～12:40 **シンポジウム21** 定型的な薬物療法に行き詰まった時の新たな治療戦略 –難治性精神症状への挑戦– S21-1～S21-5	10:40～12:40 **シンポジウム22** アルツハイマー型認知症の臨床：現状と今後への展望 S22-1～S22-6	10:40～12:40 **シンポジウム23** 物質使用障害のスティグマを乗り越える S23-1～S23-7	10:40～12:40 **Fellowship Award Symposium 1** Coercive measures in psychiatry FAS1-1～FAS1-4		
11:00										
11:30										
12:00										
12:30										
13:00									12:50～13:38 一般演題（ポスター）1～29 研修医・学部学生演題（ポスター）1	
13:30								※19ページ参照		
14:00	13:50～14:50 **一般演題（口演）8** 脳器質性・症状性精神病障害2 1-O8-1～1-O8-5	13:50～14:50 **一般演題（口演）9** 気分障害4 1-O9-1～1-O9-5	13:50～14:50 **一般演題（口演）10** 産業精神医学 1-O10-1～1-O10-4	13:50～14:50 **一般演題（口演）11** 神経症 1-O11-1～1-O11-5	13:50～14:50 **一般演題（口演）12** 摂食障害関連1 1-O12-1～1-O12-5	13:50～14:50 **一般演題（口演）13** 認知症1 1-O13-1～1-O13-5	13:50～14:50 **一般演題（口演）14** 認知症2 1-O14-1～1-O14-5	13:50～15:50 **Fellowship Award Symposium 2** Coercive measures in psychiatry FAS2-1～FAS2-4	13:38～18:10 ポスター閲覧	
14:30										
15:00	14:50～15:50 **一般演題（口演）19** 気分障害5 1-O19-1～1-O19-5	14:50～15:50 **一般演題（口演）20** 統合失調症4 1-O20-1～1-O20-4	14:50～15:50 **一般演題（口演）21** 統合失調症5 1-O21-1～1-O21-5	14:50～15:50 **一般演題（口演）22** 脳器質性・症状性精神病障害/その他 1-O22-1～1-O22-5	14:50～15:50 **一般演題（口演）23** 疫学・その他 1-O23-1～1-O23-5	14:50～15:50 **一般演題（口演）24** 地域精神医療1 1-O24-1～1-O24-3	14:50～15:50 **一般演題（口演）25** 地域精神医療2 1-O25-1～1-O25-5			
15:30										
16:00	16:00～18:00 **シンポジウム30** 過眠は神経症状か、精神症状か? S30-1～S30-4	16:00～18:00 **シンポジウム31** 医療倫理コンサルテーションと意思決定支援：リエゾン精神医学の新たな課題 S31-1～S31-4	16:00～18:00 **委員会シンポジウム10** 近年の自然災害から学ぶ精神保健医療支援の実際 –身近な地域での災害発生に備えて– CS10-1～CS10-4 （災害支援委員会）	16:00～18:00 同 **委員会シンポジウム11** Fellowship Award programの新たな展開 –社会的ひきこもりに関する国際共同研究 CS11-1～CS11-5 （国際委員会）	16:00～18:00 **シンポジウム32** 金沢総会後50年 –その後の学会の変革と将来への展望– S32-1～S32-4	16:00～17:40 **ワークショップ1** 性同一性障害に対する精神的治療と身体的治療 WS1 （性同一性障害に関する委員会）	16:00～17:40 **ワークショップ2** 映像で学ぶ初回面接 –遷延性うつ病編– WS2 （精神療法委員会）	16:00～17:40 **ワークショップ3** 脳波の基礎コース WS3		
16:30										
17:00										
17:30										
18:00										
18:30										18:10～19:10 フリーディスカッション（サブ）
19:00										
19:30										

2019年6月21日金 2日目

建物名	新潟コンベンションセンター								
会場名	A会場（センター 1F 大会場）	B会場（センター 1F 中会場）	C会場（センター 1F 中会場）	D会場（センター 2F 中会場）	E会場（センター 2F 中会場）	F会場（センター 2F 小会場）	G会場（センター 3F 小会場）	H会場（センター 3F 小会場）	I会場（センター 3F 小会場）
フロア部屋名	1F 展示ホールB	1F 展示ホールA-1	1F 展示ホールA-2	2F メインホールA	2F メインホールB	2F 中会議室201	3F 中会議室301B	3F 中会議室301A	3F 中会議室302B
8:00									
8:30	8:30〜9:30 **受賞報告会**	8:30〜9:30 **一般演題（口演）26** 依存・行動嗜癖1 2-O26-1〜2-O26-5	8:30〜9:30 **一般演題（口演）27** 依存・行動嗜癖2 2-O27-1〜2-O27-5	8:30〜9:30 **一般演題（口演）28** 認知症3 2-O28-1〜2-O28-5	8:30〜9:30 **一般演題（口演）29** 依存・行動嗜癖3 2-O29-1〜2-O29-5	8:30〜9:30 **一般演題（口演）30** ECT・ニューロモデュレーション 2-O30-1〜2-O30-5	8:30〜9:30 **一般演題（口演）31** ECT関連・神経画像 2-O31-1〜2-O31-5	8:30〜9:30 **一般演題（口演）32** 臨床検査・バイオマーカー 2-O32-1〜2-O32-5	8:30〜9:30 **一般演題（口演）33** 睡眠障害・てんかん 2-O33-1〜2-O33-5
9:00									
9:30		9:30〜10:30 **一般演題（口演）39** 薬物療法1 2-O39-1〜2-O39-5	9:30〜10:30 **一般演題（口演）40** 薬物療法2 2-O40-1〜2-O40-5	9:35〜10:35 **教育講演9** 刑事精神鑑定の基礎 EL9	9:30〜10:30 **一般演題（口演）41** 薬物療法3 2-O41-1〜2-O41-5	9:30〜10:30 **一般演題（口演）42** 分子遺伝・動物モデル 2-O42-1〜2-O42-5	9:30〜10:30 **一般演題（口演）43** 児童・思春期、発達障害3 2-O43-1〜2-O43-5	9:30〜10:30 **一般演題（口演）44** コンサルテーション・リエゾン1 2-O44-1〜2-O44-5	9:30〜10:30 **一般演題（口演）45** コンサルテーション・リエゾン2 2-O45-1〜2-O45-5
10:00	9:40〜11:40 産 **シンポジウム33** ポジティブ精神医学の産業メンタルヘルスへの活用 S33-1〜S33-4								
10:30		10:40〜12:40 **シンポジウム34** あなたにもできる神経化学研究 S34-1〜S34-4	10:40〜12:40 **日本精神神経学会と日本神経科学学会との連携シンポジウム** 精神疾患の新しい理解と支援に寄与する最先端神経科学 RS-1〜RS-5	10:40〜11:40 **教育講演10** 精神医学における生物・心理・社会モデルと多元主義 EL10	10:40〜12:40 **シンポジウム35** 精神科領域におけるShared Decision Making（SDM）の実現可能性 S35-1〜S35-5	10:40〜12:20 **ワークショップ5** アクセプトされる精神医学研究論文の書き方 WS5（PCN編集委員会）	10:40〜12:40 **委員会シンポジウム13** 精神科医療における権利擁護制度 −とりわけアドボケーター・代弁者を巡って− CS13-1〜CS13-5（精神保健福祉法委員会）	10:40〜12:40 **シンポジウム36** 統合失調症バイオマーカーとしてのMismatch negativity（MMN） S36-1〜S36-4	10:40〜12:20 **ワークショップ6** 身体疾患を有する患者の自殺および希死念慮に対するリエゾン・コンサルテーション WS6
11:00									
11:30				11:45〜12:45 **教育講演11** 児童・思春期精神障害を理解するための3要因 −アタッチメント、虐待、そして発達障害− EL11					
12:00	11:50〜13:50 **シンポジウム42** ASDとADHDの臨床的特徴と鑑別診断 S42-1〜S42-4								
12:30									
13:00									
13:30									
14:00		13:50〜15:50 **シンポジウム43** 精神医学における価値の諸相 S43-1〜S43-5	13:50〜15:50 **シンポジウム44** 向精神薬と自動車運転等の注意喚起 −実臨床での課題とエビデンス、そして考えるべきこと− S44-1〜S44-5	13:50〜14:50 **教育講演12** 精神疾患における睡眠障害の治療戦略 EL12	13:50〜15:50 **シンポジウム45** 平成30年度診療報酬改定後のベンゾジアゼピン系睡眠薬の減量 S45-1〜S45-5	13:50〜15:50 **シンポジウム46** 発達障害の連続・不連続とそれを踏まえた薬物療法について S46-1〜S46-4	13:50〜15:50 **シンポジウム47** 国際カップルをめぐる諸問題と破局例の検討 S47-1〜S47-5	13:50〜15:50 **シンポジウム48** 生物学的精神医学のフロンティア S48-1〜S48-4	13:50〜15:30 **ワークショップ7** 脳波の応用コース WS7
14:30	14:10〜16:10 **会長企画シンポジウム2** 統合失調症患者の生命と健康を守るための新たなる視点 PS2-1〜PS2-4			14:55〜15:55 **教育講演13** 認知行動療法 −過去、現在、未来、その先へ− EL13					
15:00									
15:30									
16:00			16:00〜18:00 **委員会シンポジウム16** 刑事責任能力鑑定の方法 −裁判員裁判における私の実践 CS16-1〜CS16-4（司法精神医学委員会）	16:00〜17:00 **教育講演14** 精神・神経疾患の脳内回路と分子の可視化 EL14	16:00〜18:00 **委員会シンポジウム17** 母乳と授乳の精神医学 CS17-1〜CS17-5（男女共同参画推進委員会）	16:00〜18:00 **委員会シンポジウム18** 精神科医療における身体拘束の現状と課題 CS18-1〜CS18-4（精神保健福祉法委員会）	16:00〜18:00 **シンポジウム52** 任意入院の開放処遇でうつ病の自殺を防止する −ストレスケア病棟の調査から− S52-1〜S52-4	16:00〜18:00 **シンポジウム53** 反芻思考とうつ病 S53-1〜S53-4	16:00〜18:00 **シンポジウム54** 成人の自閉スペクトラム症における精神科医と心理職の協働 −日常診療で公認心理師にどう活躍してもらうか S54-1〜S54-4
16:30	16:20〜18:20 産 **シンポジウム51** 昨今の産業衛生のトピックスとメンタルヘルス的視点 S51-1〜S51-4	16:20〜18:00 **新専門医制度報告会**							
17:00				17:05〜18:05 **教育講演15** 精神科臨床に役立つ神経心理学の知識 EL15					
17:30									
18:00									
18:30									
19:00									
19:30									

新潟グランドホテル 3F 悠久

19:30〜21:00 **懇親会**

同時通訳あり
産…日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッションです。※ セッション開始・終了時に、入退室の管理をさせていただきます。

＊1：P9・10・11参照
＊2：P9・10参照

建物名	新潟コンベンションセンター				ホテル日航新潟			万代島ビル	ポスター会場 1〜6 ＊1	特別ポスター会場 ＊2
会場名	J会場（センター 3F 小会場）	K会場（センター 3F 中会場）	L会場（センター 3F 中会場）	M会場（センター 4F 中会場）	N会場（ホテル 3F 小会場）	O会場（ホテル 4F 小会場）	P会場（ホテル 4F 小会場）	Q会場（万代島ビル 6F）		
フロア部屋名	3F 中会議室302A	3F 小会議室303＋304	3F 小会議室306＋307	4F 国際会議室	3F 孔雀	4F 朱鷺A	4F 朱鷺B	6F 会議室		
8:00										
8:30	8:30〜9:30 一般演題（口演）34 社会・司法精神医学 2-O34-1〜2-O34-5	8:30〜9:30 一般演題（口演）35 診断学1 2-O35-1〜2-O35-5	8:30〜9:30 一般演題（口演）36 児童・思春期、発達障害2 2-O36-1〜2-O36-5	8:30〜9:30 一般演題（口演）37 精神療法 2-O37-1〜2-O37-4	8:30〜9:30 一般演題（口演）38 精神科救急1 2-O38-1〜2-O38-5	8:30〜10:10 ワークショップ4 ICD-11の最新情報：ストレス関連障害群、不安および強迫関連障害群、パーソナリティ障害群 WS4 （ICD-11委員会）	8:30〜10:30 委員会シンポジウム12 症例報告における倫理的配慮〜本人同意をめぐる課題 CS12-1〜CS12-4 （倫理委員会）	8:30〜10:30 Fellowship Award Symposium 3 Case Vignette FAS3-1〜FAS3-4	8:30〜12:50 ポスター閲覧	8:30〜18:10 特別ポスター閲覧
9:00										
9:30	9:30〜10:30 一般演題（口演）46 精神科救急2 2-O46-1〜2-O46-5	9:30〜10:30 一般演題（口演）47 分子遺伝・その他 2-O47-1〜2-O47-4	9:30〜10:30 一般演題（口演）48 精神療法・その他 2-O48-1〜2-O48-4	9:30〜10:30 一般演題（口演）49 てんかん 2-O49-1〜2-O49-5	9:30〜10:30 一般演題（口演）50 精神科救急2 2-O50-1〜2-O50-5					
10:00										
10:30	10:40〜12:40 シンポジウム37 環境や食生活とメンタルヘルス S37-1〜S37-4	10:40〜12:40 シンポジウム38 第三世代認知行動療法を精神科臨床に活かす S38-1〜S38-5	10:40〜12:40 シンポジウム39 （日本精神神経科診療所協会推薦）私たちはなぜクリニックを開業したか −日精診女性会員の場合− S39-1〜S39-5	10:40〜11:40 特別講演1 Current issues in women's mental health	10:40〜12:40 シンポジウム40 家族をベースにする治療をどう実臨床に生かすのか S40-1〜S40-4	10:40〜12:40 シンポジウム41 「適応障害とその背景」−日本精神分析学会企画 S41-1〜S41-5	10:40〜12:40 委員会シンポジウム14 人為災害、テロがメンタルヘルスに及ぼす影響：2020年東京五輪に向けて考えるべきこと CS14-1〜CS14-5 （災害支援委員会）	10:40〜12:40 Fellowship Award Symposium 4 Case Vignette FAS4-1〜FAS4-4		
11:00										
11:30				11:45〜12:45 特別講演2 The ICD-11 as a part of a comprehensive global mental health strategy						
12:00										
12:30										
12:50〜13:38 30〜60（一般演題（ポスター））								※19ページ参照		
13:00										
13:30									13:38〜18:10 ポスター閲覧	
13:50〜15:50 シンポジウム49 子どもを虐待したくてしているわけじゃない! −逆境体験（ACE）に精神科医療はどう向き合うか− S49-1〜S49-4	13:50〜15:30 ワークショップ8 統合失調症の精神鑑定 WS8 （司法精神医学委員会）	13:50〜15:30 ワークショップ9 新アルコール使用障害の診断治療ガイドラインに基づく治療の実際 WS9	13:50〜15:50 委員会シンポジウム15 ICD-11が世界の精神科医療へもたらす影響 CS15-1〜CS15-3 （ICD-11委員会）	13:50〜15:50 シンポジウム50 向精神薬による稀ではあるが重篤な副作用を避けるために（患者と医療者の双方のしあわせのために） S50-1〜S50-5	14:00〜16:40 ワークショップ11 複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ：自殺のハイリスク患者に対するアセスメントと問題解決アプローチ WS11 （精神保健に関する委員会） ［事前申込制］	13:50〜15:30 ワークショップ10 小児精神医療入門：新シリーズ（2）子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について WS10 （小児精神医療委員会）	13:50〜15:50 Leaders Round Table アジア太平洋地域各国における精神科の多職種チーム医療について （国際委員会）		
14:00										
14:30										
15:00										
15:30										
16:00〜18:00 シンポジウム55 患者の違法薬物使用を知ったとき、精神科医はどうふるまうべきなのか? S55-1〜S55-6	16:00〜18:00 シンポジウム56 新アウトリーチ事業に始まる日本の精神科地域包括ケアシステムの可能性 S56-1〜S56-5	16:00〜18:00 シンポジウム57 認知症非専門医のための認知症診療の基本 S57-1〜S57-5	16:00〜18:00 委員会シンポジウム19 卒後教育サブスペシャルティ CS19-1〜CS19-4 （国際委員会）	16:00〜18:00 シンポジウム58 精神疾患へのスティグマ研究の現在：学校教育、市民啓発、社会の取り組みに向けて S58-1〜S58-5		16:00〜18:00 ワークショップ12 日常診療に治療ガイドラインは役に立つのか? WS12 ［事前申込制］	16:00〜18:00 シンポジウム59 精神疾患における神経炎症の役割〜バイオマーカー開発から病態解明まで S59-1〜S59-4		
17:00										
17:30										
18:00										18:10〜19:10 フリーディスカッション（メイン）
18:30										
19:00										
19:30										

2019年6月22日(土) 3日目

建物名	新潟コンベンションセンター								
会場名	A会場 (センター 1F) 大会場	B会場 (センター 1F) 中会場	C会場 (センター 1F) 中会場	D会場 (センター 2F) 中会場	E会場 (センター 2F) 中会場	F会場 (センター 2F) 小会場	G会場 (センター 3F) 小会場	H会場 (センター 3F) 小会場	I会場 (センター 3F) 小会場
フロア 部屋名	1F 展示ホールB	1F 展示ホールA-1	1F 展示ホールA-2	2F メインホールA	2F メインホールB	2F 中会議室201	3F 中会議室301B	3F 中会議室301A	3F 中会議室302B
8:00									
8:30	8:10～10:10 **委員会** **シンポジウム20** 精神疾患レジストリの構築による新たな診断・治療法の開発へ CS20-1～CS20-5 (精神医学研究推進委員会)	8:10～10:10 **委員会** **シンポジウム21** 教育を通じて伝えたいこと・伝えるべきこと –学校保健教育への発信– CS21-1～CS21-4 (アンチスティグマ委員会)	8:10～10:10 **委員会** **シンポジウム22** 脳機能の可視化から探る精神機能の動態と病態 CS22-1～CS22-4 (PCN編集委員会)	8:10～9:10 産 **教育講演16** 精神疾患の労災認定後の長期療養の現状と課題 EL16 (精神保健に関する委員会)	8:10～10:10 **シンポジウム60** 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに於ける精神科診療所の可能性 S60-1～S60-5	8:10～10:10 **シンポジウム61** 神経症圏治療における治療導入、摂食障害を例として：どこまで医療化(外在化)し、いかに本格治療に導入するのか S61-1～S61-5	8:10～10:10 **シンポジウム62** 難治性トゥレット症の現状及び脳深部刺激療法に関する検討 S62-1～S62-5	8:10～10:10 **シンポジウム63** せん妄の新たな予防方略とその実効性を高める発症予測の研究展開 S63-1～S63-4	8:10～10:10 **シンポジウム64** 今、マインドフルネスを考える S64-1～S64-4
9:00				9:15～10:15 **教育講演17** ゲノム医科学の進展と精神科領域でのゲノム医療への展望 EL17					
9:30									
10:00									
10:30	10:20～12:20 **シンポジウム73** 外来診療に活かす認知行動療法 S73-1～S73-5	10:20～12:20 **委員会** **シンポジウム23** 日常精神医療が自治体の自殺対策計画に貢献できること CS23-1～CS23-4 (精神保健に関する委員会)	10:20～12:20 **シンポジウム74** 摂食障害治療の国際比較 S74-1～S74-4	10:20～11:20 **教育講演18** 神経発達症の診断・治療の基礎と展開：青年期とそれ以後を中心に EL18	10:20～12:20 **委員会** **シンポジウム24** 精神医学ガイドラインの持つ意味：日本精神神経学会が果たすべき役割 CS24-1～CS24-4 (ガイドライン検討委員会、精神医療・精神医学情報センター運営委員会)	10:20～12:20 **委員会** **シンポジウム25** 精神科臨床倫理の在り処その6 (医療倫理と安全(責任)の葛藤) CS25-1～CS25-4 (医療倫理委員会)	10:20～12:20 **委員会** **シンポジウム26** 公認心理師との協働と『医師の指示』 CS26-1～CS26-5 (心理技術職に関する委員会)	10:20～12:20 **シンポジウム75** 児童虐待対応における地域精神保健・医療の役割 S75-1～S75-4	10:20～12:20 **シンポジウム76** 発達障害とてんかん：各診療科の立場から S76-1～S76-4
11:00									
11:30				11:25～12:25 **教育講演19** 利益相反と責務相反 EL19 (利益相反委員会)					
12:00									
12:30									
13:00						13:00～14:00 **一般演題** **(口演)51** 依存・行動嗜癖4 3-O51-1～3-O51-5			
13:30		13:30～15:30 **シンポジウム85** 憑依再考 –DSM-5時代の精神医療と霊のナラティブ S85-1～S85-5	13:30～15:30 **委員会** **シンポジウム27** 国内におけるうつ病へのrTMS療法の現状と課題 CS27-1～CS27-4 (ECT・rTMS等検討委員会)				13:30～14:30 **一般演題** **(口演)52** 依存・その他 3-O52-1～3-O52-3	13:30～14:30 **一般演題** **(口演)53** 社会・司法精神医学 3-O53-1～3-O53-4	13:30～14:30 **一般演題** **(口演)54** 神経心理 3-O54-1～3-O54-5
14:00									
14:30							14:30～15:30 **一般演題** **(口演)55** 精神保健福祉1 3-O55-1～3-O55-7	14:30～15:30 **一般演題** **(口演)56** 精神保健福祉・その他 3-O56-1～3-O56-5	14:30～15:30 **一般演題** **(口演)57** 神経薬理・その他 3-O57-1～3-O57-4
15:00									
15:30	15:30～19:10 **第24回指導医講習会**			15:30～18:40 **生涯教育研修会**		15:45～16:30 **会員報告会**			
16:00									
16:30						16:30～16:40 **閉会式**			
17:00									
17:30									
18:00									
18:30									
19:00									
19:30									

同…同時通訳あり
産…日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッションです。※ セッション開始・終了時に、入退室の管理をさせていただきます。

＊1：P9・10・11参照
＊2：P9・10参照

建物名	新潟コンベンションセンター				ホテル日航新潟			万代島ビル	ポスター会場 1〜6 ＊1	特別ポスター会場 ＊2
会場名	J会場（センター 3F 小会場）	K会場（センター 3F 中会場）	L会場（センター 3F 中会場）	M会場（センター 4F 中会場）	N会場（ホテル 3F 小会場）	O会場（ホテル 4F 小会場）	P会場（ホテル 4F 小会場）	Q会場（万代島ビル 6F）		
フロア部屋名	3F 中会議室302A	3F 小会議室303＋304	3F 小会議室306＋307	4F 国際会議室	3F 孔雀	4F 朱鷺A	4F 朱鷺B	6F 会議室		
8:00										
8:30	8:10〜10:10 **シンポジウム65** 「共同意思決定」を生む対話についての検討〜患者の権利、意思とはなにか〜 S65-1〜S65-5	8:10〜10:10 **シンポジウム66** 精神科医は強度行動障害に何が出来るか？ S66-1〜S66-6	8:10〜10:10 **シンポジウム67** ミクログリアは精神疾患の成り立ちにどのように関与するのか？ S67-1〜S67-4	8:10〜10:10 **シンポジウム68** 医療と司法からみたダイバーシティ S68-1〜S68-5	8:10〜10:10 **シンポジウム69** 慢性疼痛 S69-1〜S69-5	8:10〜10:10 **シンポジウム70** 精神科治療に対する同意能力は適切に評価されているのか？患者の保護と自己決定の尊重 S70-1〜S70-4	8:10〜10:10 **シンポジウム71** さまざまな精神神経疾患の妊娠・出産・授乳への対応 S71-1〜S71-5	8:10〜10:10 **シンポジウム72** 今必要な精神科臨床における心理教育 S72-1〜S72-5	8:10〜12:30 **ポスター閲覧**	8:10〜13:18 **特別ポスター閲覧**
9:00										
9:30										
10:00										
10:30	10:20〜12:20 **シンポジウム77** 急性精神病の最近の状況 S77-1〜S77-5	10:20〜12:20 **シンポジウム78** わが国における大規模処方調査“MUSUBI-J”から分かる双極性障害治療のあるべき姿 S78-1〜S78-5	10:20〜12:20 **シンポジウム79** 当事者研究・オープンダイアローグ・ACT−現在の地点と将来：その協働が日本の精神保健福祉にもたらすもの S79-1〜S79-5	10:20〜12:20 **シンポジウム80** 統合失調症のSense of Agency研究：精神病理学−計算論的精神医学− 神経科学の連繋 S80-1〜S80-5	10:20〜12:20 **シンポジウム81** 不安症状に対する新しい取り組み S81-1〜S81-5	10:20〜12:20 **シンポジウム82** 精神科診断に求められる機能・要件を考える S82-1〜S82-5	10:20〜12:20 **シンポジウム83** 精神科診療における自律神経活動評価：心拍変動計測の現状と展望 S83-1〜S83-5	10:20〜12:20 **シンポジウム84** DVで避難してきた患者とその子どもの精神疾患をどう診ていくか S84-1〜S84-4		
11:00										
11:30										
12:00										
12:30									12:30〜13:18 **一般演題 61〜72（ポスター）**	
13:00								※19ページ参照		
13:30	13:30〜15:30 **シンポジウム86** 摂食障害の心理教育に役立つコンテンツ −ミニマル・エッセンシャルズ S86-1〜S86-3	13:30〜15:30 **シンポジウム87** 腸内細菌叢 −腸管− 脳軸：発達早期における精神活動と行動への影響 S87-1〜S87-4	13:30〜15:30 **シンポジウム88** 精神疾患の背後に発達障害特性を見いだしたとき、いかに治療すべきか S88-1〜S88-4	13:30〜15:30 **委員会シンポジウム28** 旧優生保護法と精神科医療を検証する CS28-1〜CS28-4（法委員会）	13:30〜15:30 **シンポジウム89** 精神科薬物療法の出口戦略を考える S89-1〜S89-6	13:30〜15:30 **シンポジウム90** 精神科診断を向上させるためのヘルスリテラシーの活用 S90-1〜S90-4	13:30〜15:30 **委員会シンポジウム29** オンライン精神科医療：保険承認後の現状と課題 CS29-1〜CS29-4（精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会）		13:20〜14:20 **ポスター撤去**	
14:00										
14:30										
15:00										
15:30										
16:00				16:00〜17:30 **市民公開講座**						
16:30										
17:00										
17:30										
18:00										
18:30										
19:00										
19:30										

ポスター発表 日程表

日時	6月20日（木）		6月21日（金）		6月22日（土）	
会場名	ポスター会場 1〜6	特別ポスター会場（センター 1F 大会場）	ポスター会場 1〜6	特別ポスター会場（センター 1F 大会場）	ポスター会場 1〜6	特別ポスター会場（センター 1F 大会場）
建物名 フロア 部屋名	※次ページ参照	新潟コンベンションセンター 1F 展示ホールB	※次ページ参照	新潟コンベンションセンター 1F 展示ホールB	※次ページ参照	新潟コンベンションセンター 1F 展示ホールB
8:00	8:00〜10:00 ポスター掲示	8:00〜10:00 特別ポスター掲示			8:10〜12:30 ポスター閲覧	8:10〜13:18 特別ポスター閲覧
8:30			8:30〜12:50 ポスター閲覧	8:30〜18:10 特別ポスター閲覧		
9:00						
9:30						
10:00	10:00〜12:50 ポスター閲覧	10:00〜18:10 特別ポスター閲覧				
10:30						
11:00						
11:30						
12:00						
12:30					12:30〜13:18 一般演題（ポスター） 61〜72	
13:00	12:50〜13:38 一般演題（ポスター） 1〜29 研修医・学部学生演題（ポスター）1		12:50〜13:38 一般演題（ポスター） 30〜60			
13:30					13:20〜14:20 ポスター撤去	
14:00	13:38〜18:10 ポスター閲覧		13:38〜18:10 ポスター閲覧			
14:30						
15:00						
15:30						
16:00						
16:30						
17:00						
17:30						
18:00						
18:30		18:10〜19:10 特別ポスター フリーディスカッション（サブ）		18:10〜19:10 特別ポスター フリーディスカッション（メイン）		
19:00						
19:30						

20日（1日目）12:50〜13:38	ポスター会場1	一般演題（ポスター）1	統合失調症1	1-P1-1〜1-P1-6
		一般演題（ポスター）2	統合失調症2	1-P2-1〜1-P2-6
		一般演題（ポスター）3	統合失調症3	1-P3-1〜1-P3-6
		一般演題（ポスター）4	統合失調症4	1-P4-1〜1-P4-6
		一般演題（ポスター）5	統合失調症5	1-P5-1〜1-P5-6
		一般演題（ポスター）6	気分障害1	1-P6-1〜1-P6-6
	ポスター会場2	一般演題（ポスター）7	統合失調症6	1-P7-1〜1-P7-6
		一般演題（ポスター）8	統合失調症7	1-P8-1〜1-P8-6
		一般演題（ポスター）9	気分障害2	1-P9-1〜1-P9-6
		一般演題（ポスター）10	気分障害3	1-P10-1〜1-P10-6
		一般演題（ポスター）11	気分障害4	1-P11-1〜1-P11-5
		一般演題（ポスター）12	気分障害5	1-P12-1〜1-P12-6
		一般演題（ポスター）13	気分障害6	1-P13-1〜1-P13-6
	ポスター会場3	一般演題（ポスター）14	統合失調症8	1-P14-1〜1-P14-6
		一般演題（ポスター）15	統合失調症9	1-P15-1〜1-P15-6
		一般演題（ポスター）16	神経症性障害とその類縁1	1-P16-1〜1-P16-6
		研修医・学部学生演題（ポスター）1	研修医・学部学生1	1-KP1-1〜1-KP1-6
	ポスター会場4	一般演題（ポスター）17	児童・思春期精神障害および知的障害1	1-P17-1〜1-P17-6
		一般演題（ポスター）18	薬物療法・その他	1-P18-1〜1-P18-6
		一般演題（ポスター）19	神経症性障害とその類縁2	1-P19-1〜1-P19-6
	ポスター会場5	一般演題（ポスター）20	検査・診断・その他	1-P20-1〜1-P20-5
		一般演題（ポスター）21	産業精神医学	1-P21-1〜1-P21-6
		一般演題（ポスター）22	統合失調症10	1-P22-1〜1-P22-6
		一般演題（ポスター）23	統合失調症11	1-P23-1〜1-P23-6
		一般演題（ポスター）24	統合失調症12	1-P24-1〜1-P24-6
		一般演題（ポスター）25	統合失調症13	1-P25-1〜1-P25-6
		一般演題（ポスター）26	気分障害7	1-P26-1〜1-P26-6
	ポスター会場6	一般演題（ポスター）27	神経症性障害・その他	1-P27-1〜1-P27-5
		一般演題（ポスター）28	てんかん	1-P28-1〜1-P28-6
		一般演題（ポスター）29	認知症1	1-P29-1〜1-P29-6

21日（2日目）12:50〜13:38	ポスター会場1	一般演題（ポスター）30	統合失調症14	2-P30-1〜2-P30-6
		一般演題（ポスター）31	認知症2	2-P31-1〜2-P31-6
		一般演題（ポスター）32	認知症3	2-P32-1〜2-P32-5
		一般演題（ポスター）33	認知症4	2-P33-1〜2-P33-6
		一般演題（ポスター）34	脳器質性症状性精神障害1	2-P34-1〜2-P34-6
		一般演題（ポスター）35	脳器質性症状性精神障害2	2-P35-1〜2-P35-5
		一般演題（ポスター）36	脳器質性症状性精神障害3	2-P36-1〜2-P36-6
	ポスター会場2	一般演題（ポスター）37	アルコール・薬物依存、行動嗜癖	2-P37-1〜2-P37-6
		一般演題（ポスター）38	老年期精神障害	2-P38-1〜2-P38-6
		一般演題（ポスター）39	コンサルテーション・リエゾン1	2-P39-1〜2-P39-6
		一般演題（ポスター）40	コンサルテーション・リエゾン2	2-P40-1〜2-P40-5
		一般演題（ポスター）41	社会精神医学または多文化精神医学	2-P41-1〜2-P41-6
	ポスター会場3	一般演題（ポスター）42	統合失調症15	2-P42-1〜2-P42-5
	ポスター会場4	一般演題（ポスター）43	脳器質性症状性精神障害4	2-P43-1〜2-P43-6
		一般演題（ポスター）44	ECT・ニューロモデュレーション1	2-P44-1〜2-P44-5
	ポスター会場5	一般演題（ポスター）45	睡眠障害・その他	2-P45-1〜2-P45-6
		一般演題（ポスター）46	児童・思春期精神障害および知的障害2	2-P46-1〜2-P46-6
		一般演題（ポスター）47	児童・思春期精神障害および知的障害3	2-P47-1〜2-P47-6
		一般演題（ポスター）48	地域精神医療1	2-P48-1〜2-P48-6
		一般演題（ポスター）49	精神科救急	2-P49-1〜2-P49-6
		一般演題（ポスター）50	ECT・ニューロモデュレーション2	2-P50-1〜2-P50-6
	ポスター会場6	一般演題（ポスター）51	気分障害8	2-P51-1〜2-P51-6
		一般演題（ポスター）52	認知症5	2-P52-1〜2-P52-6
		一般演題（ポスター）53	脳器質性症状性精神障害5	2-P53-1〜2-P53-6
		一般演題（ポスター）54	パーソナリティ・その他	2-P54-1〜2-P54-6
		一般演題（ポスター）55	精神保健・医学教育	2-P55-1〜2-P55-6
		一般演題（ポスター）56	神経画像	2-P56-1〜2-P56-6
		一般演題（ポスター）57	神経生理・薬理学	2-P57-1〜2-P57-6
		一般演題（ポスター）58	神経心理・画像	2-P58-1〜2-P58-6
		一般演題（ポスター）59	司法精神医学・その他	2-P59-1〜2-P59-6
		一般演題（ポスター）60	その他1	2-P60-1〜2-P60-6

22日（3日目）12:30〜13:18	ポスター会場1	一般演題（ポスター）61	遺伝学・分子遺伝学	3-P61-1〜3-P61-6
		一般演題（ポスター）62	児童・思春期精神障害および知的障害3	3-P62-1〜3-P62-6
		一般演題（ポスター）63	児童・思春期精神障害および知的障害4	3-P63-1〜3-P63-6
		一般演題（ポスター）64	児童・思春期精神障害および知的障害5	3-P64-1〜3-P64-6
	ポスター会場2	一般演題（ポスター）65	コンサルテーション・リエゾン3	3-P65-1〜3-P65-6
		一般演題（ポスター）66	コンサルテーション・リエゾン4	3-P66-1〜3-P66-5
		一般演題（ポスター）67	薬物療法1	3-P67-1〜3-P67-5
		一般演題（ポスター）68	産業精神医学	3-P68-1〜3-P68-6
		一般演題（ポスター）69	動物モデル・基礎研究	3-P69-1〜3-P69-6
	ポスター会場6	一般演題（ポスター）70	地域精神医療2	3-P70-1〜3-P70-5
		一般演題（ポスター）71	精神療法・心理教育	3-P71-1〜3-P71-5
		一般演題（ポスター）72	睡眠障害・その他	3-P72-1〜3-P72-5

ポスター会場1（センター 2F）
新潟コンベンションセンター
2F エスプラナード

ポスター会場2（センター 2F）
新潟コンベンションセンター
2F メインホールAB前ホワイエ

ポスター会場3（センター 2F）
新潟コンベンションセンター
2F 201前ホワイエ

ポスター会場4（センター 3F）
新潟コンベンションセンター
3F 301・302前ホワイエ

ポスター会場5（センター 4F）
新潟コンベンションセンター
4F 国際会議室前ホワイエ

ポスター会場6（ホテル 4F）
ホテル日航新潟
4F 朱鷺ホワイエ

参加者の皆様へ

1. 参加受付

事前登録を、総会ホームページよりオンラインシステムにて受付しております。※5月31日（金）正午まで
参加費が割安となりますのでぜひご利用いただき、当日受付の混雑緩和にご協力をお願いいたします。
事前登録は、クレジットカードによるオンライン決済のみの受付となります。

※ご利用いただけるカード：

参加区分	事前登録（5月31日（金）まで）	当日登録
会　員	16,000円	17,000円
非会員	18,000円	19,000円
臨床研修医（＝前期研修医）※1※2、学生（大学院生を除く）	—	2,000円※4
ユーザーとそのご家族※3	—	1,000円※4
海外	—	9,000円

※1　会期当日2019年6月20日（木）～22日（土）の時点で、臨床研修医（＝前期研修医）であることが条件となります。
※2　一般演題を応募いただいた学生、初期臨床研修医（演題応募時）は参加費が無料となります。
※3　ユーザーの方は、原則、精神障害者手帳、または、療育手帳を総合案内でご提示ください。
　　なお、「ご家族のみ」でのご参加は、原則、受け付けておりません。何卒ご了承ください。
※4　現金でのお支払いをお願いいたします。

(1) 事前登録がお済みの方：
ネームカードは、事前登録システム画面の指示に従って各自で印刷・切り取りのうえ、当日忘れずにご持参ください。

(2) 当日受付の方：
当日受付で現金、またはクレジットカードにて参加費をお支払いください。

※ご利用いただけるカード：

(3) 抄録集販売：
総合案内にて販売しております。ご希望の方はお買い求めください。
1部　3,000円　　※現金でのお支払いをお願いいたします。

2. お弁当販売

1,200円（お茶付・税込）でお弁当を事前販売いたします。お弁当販売受付は、事前登録制のみとなり、当日の販売はございませんのでご注意ください。
お弁当の受渡しは、下記の通り行います。
※必ず事前登録システムよりお弁当引換券を印刷して、当日お持ちください。お弁当引換券と引き換えに、お弁当をお渡しします。なお会場内でのお弁当引換券の再発行はいたしかねます。
予めご了承ください。

・日　時：6月20日（木）～22日（土）11：00～14：00
・場　所：新潟コンベンションセンター 2F 受付横

※会場内にはレストランがございますが、座席数が限られております。また、会場周辺の飲食店は少ないため、事前のお弁当購入を推奨いたします。
お弁当は、新潟コンベンションセンター 1F「展示ホールA」内の休憩コーナーにて、お召しあがりください。
食後は所定の場所に廃棄ください。

3. 懇親会

参加者の交流の場となりますので、お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。
皆様のお越しをお待ちしております。

・日　時：6月21日（金）19：30〜21：00
・会　場：新潟グランドホテル 3F「悠久」
・参加費：5,000円

※参加をご希望される方は、事前登録の際にお申込みいただくか、会期中は懇親会当日の6月21日（金）正午までに懇親会受付にてお申込みください。
※定員に達し次第、受付を締め切ります。

〈懇親会会場への移動方法〉

1. ウォーターシャトル（所用時間約6分）
   先着100名：乗船希望の方は、整理券を入手してください。
   整理券配布
   日　時：6月21日（金）7：30〜
   場　所：総合受付（新潟コンベンションセンター2Fにて配布いたします。）
   19：10　新潟コンベンションセンター1F「ウォーターシャトル」のりばより出航
   19：15　対岸「萬代橋西詰のりば」到着。
   　　下船後新潟グランドホテルまで徒歩1分。

2. バス（所用時間約5分）
   乗車場所：新潟コンベンションセンターロータリー前
   19：00　1・2号車出発→19：05　ホテル前着
   19：05　3・4号車出発→19：10　ホテル前着
   19：10　5・6号車出発→19：15　ホテル前着
   19：15　7・8号車出発→19：20　ホテル前着

4. 2019年度代議員総会について

公益社団法人移行後は、会員から選出された代議員の皆様が構成する「代議員総会」が最終議決機関となります。
代議員の皆様におかれましては、万障お繰り合わせのうえ、ご出席賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。
※資料は事前送付いたしますので当日ご持参ください。

・日　時：6月19日（水）13：00〜18：00
・会　場：新潟コンベンションセンター 2F E会場「メインホールB」

5. 2019年度会員報告会

下記日時で「会員報告会」を開催いたしますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

・日　時：6月22日（土）15：45〜16：30
・会　場：新潟コンベンションセンター 2F F会場「中会議室201」

※当日の報告資料につきましては、学会ホームページ（https://www.jspn.or.jp/）の会員専用ページ内に6月中旬に掲載いたしますので、ご覧いただきますようお願い申しあげます。
※当日、会員報告会に出席される会員の先生で、紙媒体の資料がご入用の方は、ご自身で印刷のうえご持参ください。
※会員専用ページにログインされたことのない先生へ：
ログインID、パスワードがご不明な場合は、下記URLをご覧ください。
https://www.jspn.or.jp/modules/about/index.php?content_id=27

※会員専用ページにログインできない等の理由で、紙媒体の資料がご入用な方は、学会事務局（info@jspn.or.jp）までご連絡ください。

6. 日本医師会認定産業医制度産業医学研修会の受講について

本学術総会の以下のセッションは、日本医師会認定産業医制度による単位（以下、日医認定産業医単位）が認定されております。（取得できるのは、生涯（専門）研修単位のみです。）
ただし、単位取得には以下の制約があります。

(1) 単位取得を希望される方は、「完全事前申込制」です。
単位取得をご希望の場合、必ず本学術総会ホームページ（http://www.c-linkage.co.jp/jspn115/）より、事前にお申込みください。
※単位取得の申請は、日本医師会認定産業医有資格者に限ります。
※当日のお申込みは受付けておりません。

(2) (1) と併せて学術総会への事前参加登録も必要となります。
※本学術総会への事前参加登録は学術総会ホームページ（http://www.c-linkage.co.jp/jspn115/）からお申込みください。

(3) 各セッション定員に達した時点で受付終了となります（先着順）。

(4) 聴講のみご希望の方は、「日医認定産業医単位」の取得の事前申込は不要です。

(5) 当日の会場座席は「日医認定産業医単位」の取得に事前申込された方を優先に着席いただきます。

・申込期間：2019年5月10日（金）～6月8日（土）正午
※申込締切より前でも、各セッション定員に達した時点で受付終了となります。（先着順）

・「日医認定産業医単位」の取得対象セッション：
生涯研修とは「日本医師会認定産業医」を更新するため必要な単位を取得することができる研修会です。

6月20日（木）13：50～15：50　新潟コンベンションセンター 1F A会場「展示ホールB」
受講人数：500名　　単位数：2単位（生涯研修専門医単位）
シンポジウム
精神・発達障害者の就労支援に関わる精神科医（主治医・産業医）の必須アイテム

6月20日（木）16：00～18：00　新潟コンベンションセンター 1F A会場「展示ホールB」
受講人数：500名　　単位数：2単位（生涯研修専門医単位）
委員会シンポジウム
うつ病から復職就労者の再発再燃を防ぐために精神科医と産業医ができること

6月21日（金）9：40～11：40　新潟コンベンションセンター 1F A会場「展示ホールB」
受講人数：500名　　単位数：2単位（生涯研修専門医単位）
シンポジウム
ポジティブ精神医学の産業メンタルヘルスへの活用

6月21日（金）16：20～18：20　新潟コンベンションセンター 1F A会場「展示ホールB」
受講人数：500名　　単位数：2単位（生涯研修専門医単位）
シンポジウム
昨今の産業衛生のトピックスとメンタルヘルス的視点

6月22日（土）8：10～9：10　新潟コンベンションセンター 2F D会場「メインホールA」
受講人数：250名　　単位数：1単位（生涯研修専門医単位）
教育講演
精神疾患の労災認定後の長期療養の現状と課題

7. プログラム検索&スケジュール登録システム「Confit」について

本学術総会では、演題検索やスケジュール登録ができるConfitサービスをご利用いただけます。聴講したセッションや演題を検索し、ご自分のスケジュールとして登録することで、学会期間中のオリジナル予定表が作成できます。詳しい使用方法は、本学術総会ホームページ（http://www.c-linkage.co.jp/jspn115/）に掲載いたします。是非、ご利用ください。

・公開日：2019年6月中旬（予定）

・利用環境：利用に際して、Wi-Fi、携帯電話回線などインターネット接続が必要になります。

（会場内Wi-Fi環境に関しては、新潟コンベンションセンターにて設置しておりますが、通信の集中により接続できないこともありますので予めご了承ください。）

SSID：ConventionCenter　　PW：jspn2019

●アプリ版

アプリ名：第115回日本精神神経学会学術総会（JSPN115）

・対応機種：iPad、iPhone、Android

ダウンロード方法：App Store、Google Playより「jspn115」で検索し、「第115回日本精神神経学会学術総会（JSPN115）」をダウンロードしてください（無料）。

●Web版

第115回日本精神神経学会学術総会のホームページ（http://www.c-linkage.co.jp/jspn115/）をご覧ください。

抄録閲覧パスワード：jspn115

8. 抄録集の電子書籍版について

抄録集の電子書籍版が「学術専門電子書籍サービスKaLib」でご利用いただけます。

先ず下記のWebサイトから無料の専用リーダーソフトをダウンロードし、インストールしてください。

（対応端末：iOS、Androidのタブレットまたはスマートフォン、Windows7以降とMac OS Xのパソコン）

http://www.kalib.jp

次にソフト上でKaLibのアカウントを作成し、本学術総会の抄録集をリーダーソフト内のストアサイトからダウンロードすることでお読みいただけます。

なお、抄録集のダウンロードに際し、会員のIDとパスワードが必要になります。

ダウンロードする時のIDとパスワードは日本精神神経学会サイトの会員専用ページにログインするための、ID/パスワードと同じでございます。

なお、同サービスは毎月の通常号も掲載しておりますので、一年を通してご利用いただけます。

9. iPadの無料レンタルサービスについて（会員のみ）

抄録集の電子書籍版が入ったiPadを、会期中に無料でレンタルいたします。

これを機会に抄録集の電子書籍版の素晴らしさをご体験ください。

●レンタルについて

貸出期間：6月20日（木）8：30～18：10
6月21日（金）8：00～18：30
6月22日（土）8：00～15：40

貸出場所：新潟コンベンションセンター 2F 受付付近

※事前予約は受け付けておりません。

※台数に限りがございますことを予めご了承ください。

※レンタルは1日レンタルと大会期間中の通しレンタルが可能です。

●レンタルご利用上の注意

レンタルに際し、ご利用規約にご同意の上「お名前」「勤務先」「会場内でのご連絡先携帯番号」をお伺いいたします。

また、レンタルのiPadは会場内の無線LAN（Wi-Fi）エリア内であれば、インターネット端末としてもご利用いただけます。

精神科専門医資格の更新に必要な単位について

専門医単位の取得には「会員カード」（裏面にバーコード印刷されているブルーとシルバーのカード）が必要ですので、お忘れないようご持参ください。

1. 専門医単位受付場所

下記いずれかで、毎日「入場時」「退場時」両方のチェック受付を必ず行ってください。入場時と退場時で異なる受付場所をご利用いただいても問題ありません。

専門医単位受付	建物名	フロア	場所
①	新潟コンベンションセンター	1F	出入口　エントランスホール
②			展示ホールA内　B会場前
③		2F	ホワイエ
④		3F	エスカレーター前
⑤	ホテル日航新潟	4F	エスカレーター前

2. 取得単位について

○学会認定専門医 更新単位（以下、学会単位）

1時間につき1.5単位、1日最大10単位、1総会の上限20単位となります。

○日本専門医機構認定専門医 更新単位（以下、機構単位）

1時間につき1単位、1〜2日目各日最大7単位・3日目のみ最大6単位、1総会の上限20単位となります。

機構単位種別ではiii）精神科領域講習の項目に該当します。

＜取得例＞6月21日、9：00入場、16：30退場の場合

➢学会単位：10単位（1.5単位×7時間＝10.5単位→1日最大10単位まで）

➢機構単位：7単位（1単位×7時間＝7単位）

※滞在時間に応じて、学会・機構単位いずれにも単位付与されます。

【留意事項】

・入場もしくは退場のどちらかしか記録が無い場合は、学会・機構単位とも1時間分のみの単位付与となります。単位の事後申告は認めておりませんので、各日の「入場時」「退場時」両方のチェック受付をお忘れないようご注意ください。

受講したセッションは巻末の記録表へ、マーカー等により印をつけ、ご自身で記録してください。専門医更新審査時に受講セッションについて問い合わせさせていただく可能性がございますので、次回更新時まで必ず保管してください。

3. 専門医入退場受付時間

各日7：30より開始し、退場のチェック受付は各日プログラム終了20分後までといたします。

下記の単位付与対象時間とは異なりますのでご注意ください。

＜単位付与対象時間＞※開会式について扱いが異なります。

1日目：学会単位 8：20〜19：10、機構単位 8：30〜19：10

2日目：学会・機構単位 8：30〜19：10

3日目：学会・機構単位 8：10〜17：30

＜お問合せ先＞
公益社団法人日本精神神経学会　事務局
E-mail：senmonkoushin@jspn.or.jp

司会および演者・発表者の皆様へ

1. 司会の皆様へ

口演の司会の方は、セッション開始10分前までに各会場内の次司会席にご着席ください。
ポスター発表の司会の方は、30分前までに総合受付（新潟コンベンションセンター　2F　アトリウム）内の「ポスター司会受付」にお立ち寄りいただき、10分前までにご担当ポスター前にお越しください。

2. 演者・発表者の皆様へ

A. セッション・発表時間について

時間は以下の通りです。

セッション名	セッション時間	発表形式	発表・討論時間
会長講演	60分	口演	質疑応答の時間を含む60分
特別講演	60分		質疑応答の時間を含む60分
教育講演	60分		質疑応答の時間を含む60分
会長企画シンポジウム	120分		各セッションにより異なります。司会の指示に従ってください。
委員会シンポジウム	120分		
シンポジウム	120分		
Fellowship Award Symposium	120分		
ワークショップ	100分 一部120分・160分		
一般演題、精神科専門医 研修中の医師による演題（口演）	60分		発表時間8分 討論（質疑応答）4分
初期臨床研修中の医師・ 学部学生による演題（口演）	60分		発表時間8分 討論（質疑応答）4分
一般演題、精神科専門医 研修中の医師による演題（ポスター）	48分	ポスター	発表時間5分 討論（質疑応答）3分
初期臨床研修中の医師・ 学部学生による演題（ポスター）	48分		発表時間5分 討論（質疑応答）3分
一般演題　特別ポスター	60分	フリーディスカッション形式	次々ページ参照

B. 倫理的配慮及びCOI（利益相反）について

ご発表の際には、倫理的配慮及びCOI（利益相反）に関して明記いただきますよう、お願いいたします。
COIに関するご案内は、日本精神神経学会ホームページ（http://www.jspn.or.jp/modules/about/index.php?content_id=22）にてご確認ください。尚、発表の際の明記方法につきましては、次項をご参照ください。
ポスター発表の場合は、ポスターの最後にCOIに関するシートを提示するか、COIに関する文面をポスターに記載してください。

様式2　講演等でのCOI開示例
（開示情報がある場合）

日本精神神経学会
利益相反（COI）開示
筆頭発表者名：○○ ○○

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業など：

・受託研究・共同研究費：　○○製薬
・奨学寄附金：　○○製薬
・寄付金講座所属：　あり（○○製薬）

※この形式はサンプルなので、必要な情報が開示されれば、形式は自由です。

様式2　講演等でのCOI開示例
（開示情報がない場合）

日本精神神経学会
利益相反（COI）開示
筆頭発表者名：○○ ○○

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

※この形式はサンプルなので、必要な情報が開示されれば、形式は自由です。

C. 口演発表方法について

口演の発表方法は「PCプレゼンテーション」のみとなります。メディアまたはご自身のPCをご持参ください。
発表時には、ご発表データの1枚目をスライドショー状態でスクリーンに映写いたしますので、ご自身で演台上のマウス・キーボードを使って操作を行ってください。

＜PC受付（演者受付）について＞

場所		対象	受付時間		
			6月20日（木）	6月21日（金）	6月22日（土）
PC受付①	新潟コンベンションセンター 2F E会場「メインホールB」前	A～M会場での発表者	7：30～18：00	7：30～18：00	7：30～18：00
PC受付②	ホテル日航新潟 4F「神殿」	N～P会場での発表者			7：30～15：00
PC受付③	万代島ビル 6F Q会場「会議室」内受付スペース	Q会場での発表者			7：30～16：00

※演者の方はセッション開始の1時間前までにPCセンターにて試写を行い、発表データをご提出ください。
※試写終了後は、セッション開始の20分前までに各会場内の次演者席にご着席ください。
※2日目、3日目午前中の演者の方は、できる限り前日までにお越しください。
※ご発表される会場のある施設にて必ずPC受付を行ってください。（他の施設では受付できません。）

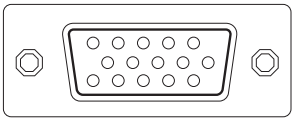
＜メディアをご持参の場合＞

・事務局でご用意するPCは下記の通りです。
　OS：Windows 10
　アプリケーション：Windows版PowerPoint 2010・2013・2016
・発表データは、CD−R（CD−RW不可）またはUSBフラッシュメモリーでご持参ください。
　（MO、フロッピーディスク、その他のメディアは受け付けられませんのでご注意ください。）
・使用するフォントについては標準で搭載されているフォント（MS・MSP明朝、MS・MSPゴシック、Times New Roman、Century等）を使用してください。
・Macintoshで作成されたデータをメディアでお持込の場合は、Windowsで対応できるよう事前にご調整ください。
・データ内に動画（PowerPointのアニメーション機能は除く）が含まれている場合は、ご自身のPCをご持参ください。音声がある場合は、PC受付の際にお申し出ください。
・お預かりした発表データは、学術総会終了後に事務局にて責任を持って消去いたします。
・発表者ツールは、使用できません。

＜ご自身のPCを使用される場合＞

・Windows、Macintoshとも受付可能です。
・発表中またはその準備中にバッテリー切れとなることがありますので、電源アダプターは必ずご持参ください。

・下記図のMini D−Sub15ピンの外部出力端子付きのPCをご持参ください。なお、SONYのVAIO、SHARPのMebius、Macintoshなどの一部のPCで、モニター出力端子のMini DSub15ピンが装備されていないものがあります。この端子が装備されていないPCをご使用の場合は、付属もしくは別売りのアダプターを必ずご持参ください。



※事務局でご用意するのは、通常のMini D−Sub15ピンに対応する端子のみとなります。

・発表中にスクリーンセーバー・ウイルス対策ソフト等が作動したり、省電力機能で画面が見えなくなったり、電源が切れてしまわないよう、設定をご確認ください。

・プロジェクターの解像度は、XGA（1024×768）です。解像度の切り替えが必要なコンピューターは、予め設定しておいてください。

・データ内に動画（PowerPointのアニメーションは除く）がある場合、PCによっては外部出力に動画が映らない可能性がありますので、動画の使用はご注意ください。
音声がある場合は、PC受付の際にお申し出ください。

・念のため、発表データのバックアップをCD−RまたはUSBフラッシュメモリーでご持参ください。

・PCプレビューで試写が終わりましたら、ご発表の20分前までにご自身でPC本体を会場内へ運んでいただき、会場内におりますオペレーターにお渡しください。セッション終了後ご自身でお引取りをお願いします。

D. ポスター発表について　※一般演題ポスター・特別ポスター共通

(1) ポスターの掲示・撤去時間

下記時間帯にポスター会場所定のパネルに掲示・撤去してください。

ポスター掲示	6月20日（木） 8：00〜10：00
ポスター撤去	6月22日（土）13：20〜14：20

※撤去時間を過ぎても取り外されていない場合は、事務局にて処分いたしますので、予めご了承ください。

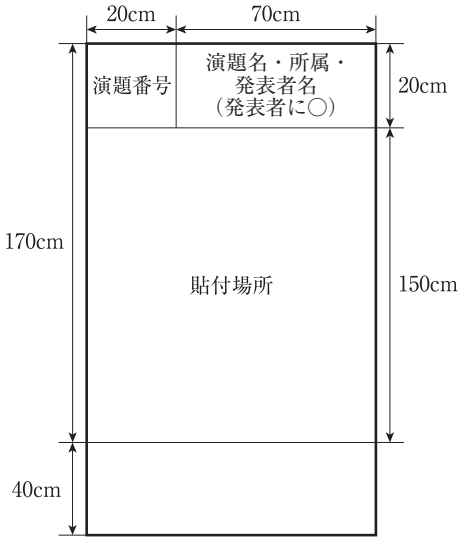
(2) ポスターの展示方法（右図参照）

・会場には、高さ210cm、幅90cmのポスターパネルを用意します。ポスターの貼付寸法は、高さ150cm×幅90cmです。

・演題番号（20cm×20cm）は事務局で準備しますが、演題名、所属、発表者名（発表者に○）の表示（20cm×70cm）は、各自ご準備ください。

・画鋲はポスター会場にてご用意しております。

・発表資料は各自お持ちください。郵送による受付・返却はいたしません。



[一般演題ポスター発表の先生方へ]

発表者は、セッション開始10分前までにポスター前で待機してください。

持ち時間は、発表5分/討論（質疑応答）3分の計8分です。進行は司会に従ってください。

[一般演題ポスター司会の先生方へ]

ご担当セッション開始30分前までに総合受付（新潟コンベンションセンター 2F アトリウム）内の「ポスター司会受付」にお越しください。司会用リボンと指示棒をお渡しいたします。

担当セッション開始10分前までに、ご担当ポスター前へ移動してください。定刻になりましたら各自セッションを開始してください。発表時間を厳守いただき、円滑な進行にご協力をいただきますようお願い申しあげます。

［一般演題特別ポスター発表者の先生方へ］

(1) 発表形式

フリーディスカッション形式とします。

発表者（筆頭著者）は下記のフリーディスカッションの時間帯にご自身のポスターの前にお立ちになり、発表・質疑応答等をお願いいたします。

複数の発表がある方は、共著者の方にもご協力いただき分担をお願いいたします。

(2) フリーディスカッション日時

①6月21日（金）18：10～19：10（メイン）

②6月20日（木）18：10～19：10（サブ）

［両日①・②とも立ち会っていただけるのは歓迎です。］

発表が重なっている場合は共著者の方にご協力をいただく等のご対応をご検討いただけるとありがたいです。ディスカッション時には両日ともフロアに軽食とお飲み物を準備させていただきます。和やかな雰囲気の中で、参加者間の活発な議論と情報交換が行われることを期待いたします。

※上記①②いずれにも立ち会いができない場合には、ポスター内に「お問合せ方法、お問合せ先」等を明記するようにしてください。

(3) 特別ポスターの掲示

1テーマにつき1枚のパネルにポスターをお貼りください。

3. 筆頭演者・発表者（一般演題）の資格について

筆頭演者・発表者は原則として日本精神神経学会の会員に限ります。非会員の方は、あらかじめ入会手続きをお願いします。入会手続きに関しましては、日本精神神経学会事務局までお問合わせください。

※ただし今回の特別ポスターでの発表についてはその限りではございません。

共同演者・共同発表者は、日本精神神経学会への入会手続きを義務付けるものではありません。

筆頭演者・発表者が共同演者・共同発表者を登録する際には、共同演者・共同発表者が発表についての承諾および当学会の倫理規定等を遵守することの確認承諾を得たうえでご登録ください。

4. 応募演題の取り扱いについて

プログラム委員会で検討した結果、一般演題（口演）275題、一般演題（ポスター）439題、精神科専門医研修中の医師による演題（口演）25題、精神科専門医研修中の医師による演題（ポスター）27題、初期臨床研修中の医師・学部学生による演題（口演）14題、初期臨床研修中の医師・学部学生による演題（ポスター）6題が採択となりました。

日本精神神経学会関連各賞

精神医学奨励賞

久島 周　　名古屋大学高等研究院・大学院医学系研究科

〈司会〉 **福田 正人**　　群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

国際学会発表賞

個人発表部門

久保田 学　　国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
発表学会：12th Human Amyloid Imaging; January 17-19, 2018, Miami
演 題 名：A head-to-head comparison between [11C] PBB3 and [18F] PM-PBB3 in patients with AD and non-AD tauopathy

黒川 駿哉　　慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室
発表学会：18th Congress of the ACPM (Asian College of Psychosomatic Medicine)
演 題 名：Therapeutic potential of Fecal Microbiota Transplantation for Depressive Mood and Anxiety: An Open-Label Observational Study in Patients with Functional Gastrointestinal Disorders.

藤野 純也　　昭和大学発達障害医療研究所
発表学会：WFSBP 2018 KOBE (WFSBP Asia Pacific Regional Congress of Biological Psychiatry)
演 題 名：Neural mechanisms of the sunk cost effect in gambling disorder

藤本 岳　　京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座 精神医学教室
発表学会：The World Federation of Societies of Biological Psychiatry (WFSBP) Asia Pacific Regional Congress of Biological Psychiatry 2018
演 題 名：Brainstem atrophy and cognitive impairment in the chronic phase and clinical severity in the acute phase in diffuse axonal injury

吉田 和生　　慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室
発表学会：Canadian Psychiatric Association (CPA)
演 題 名：A preliminary multi-genic prediction model for antipsychotic-induced weight gain

シンポジウム組織発表部門

長 徹二　　三重県立こころの医療センター、奈良県立医科大学精神医学教室
発表学会：The 20th International Society of Addiction Medicine Annual Meeting
演 題 名：Various legal issues related to addiction in Asian Countries

〈司会〉 **岸本 年史**　　奈良県立医科大学医学部精神科

フォリア賞

宮田 明美　桶狭間病院藤田こころケアセンター

岩本 邦弘　名古屋大学医学部附属病院精神科

受賞論文：Driving performance of stable outpatients with depression undergoing real-world treatment
Psychiatry and Clinical Neurosciences, Volume 72, Issue 6, 2018 p399-408掲載

〈司会〉 **三村 將**　慶應義塾大学精神神経科学教室

PCN Reviewer Awards

池田 俊一郎　関西医科大学精神神経科学教室

石井 良平　市立芦屋病院緩和ケア内科

岩脇 淳　駅前メンタルクリニック

山内 彩　名古屋大学医学部附属病院 精神科

馬場 元　順天堂大学大学院医学研究科　精神・行動科学

松尾 幸治　埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

西 大輔　東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻　精神保健学分野

〈司会〉 **三村 將**　慶應義塾大学精神神経科学教室

●授賞式
日時：2019年6月21日（金）8：30～9：30（受賞報告会）
会場：新潟コンベンションセンター 1F A会場「展示ホールB」

Fellowship Award

●受賞者

Adam Mollinger	St Vincent's Hospital, Melbourne, Australia
Anna R. Szczegielniak	Department of Psychiatric Rehabilitation, Department of Psychiatry and Psychotherapy, School of Medicine in Katowice, Medical University of Silesia, Poland
Bryan G. Smith	Wake Med Health and Duke University Medical Center, USA
Camille Noël	1. Department of Psychiatry, Saint-Luc University Hospital. 2. Child and adolescent psychiatry hospital La Petite Maison ACIS, Belgium
Chau Sian Lim	Department of Psychological Medicine, Changi General Hospital, Singapore
Jiann Lin Loo	Faculty of Medicine and Health Sciences, Universiti Malaysia Sabah, Malaysia
Michael Wallies	Psychiatric Clinic Clienia Littenheid of Thurgau, Switzerland
Óscar Soto	Department of Psychiatry, Vall d'Hebrn University Hospital, Spain

Özlem Kuman Tunçel	Ege University Faculty of Medicine Psychiatry Department, Turkey
Pavita Chongsuksiri	Buddhachinaraj Hospital, Thailand
Rashmi Patel	Department of Psychosis Studies, IoPPN, King's College London, UK
Zijie Su	Maimonides Medical Center, USA

〈司会〉 **岸本年史**　　奈良県立医科大学医学部精神科

●授賞式

日時：2019年6月21日（金）19：30～21：00（懇親会）

会場：新潟グランドホテル 3F「悠久」

日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞

日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞は、学術総会時にすぐれた演題を若干数選考し、授与する賞とする。

●発　表、表彰式

日時：2019年6月21日（金）19：30～21：00（懇親会）

会場：新潟グランドホテル 3F「悠久」

※選考の結果、本賞を受賞された演者の方はぜひ表彰式にご出席ください。

研修医、学部学生による演題

本学術総会では、研修中の医師および学部学生による演題発表の場を設けました。例外的に本学会の会員でなくても、以下条件のもと本学術総会の演題への応募を可能といたしました。

●応募条件

・演題応募時において初期臨床研修中の医師、もしくは学部学生（本学会会員・非会員は問いません）
・日本精神神経学会の会員である施設の精神科研修責任者ないし指導医の医師が共同著者であること
・筆頭著者が共同著者を登録する際は、共同著者に発表についての承諾および当学会の倫理規定等を遵守することの確認承諾を得ること

第115回日本精神神経学会学術総会 同時開催
日本精神神経学会主催 講習会・研修会について

1. 第24回指導医講習会

本講習会は事前の参加登録が必須となっております。会場での当日受付はいたしません。

・**日　時**：2019年6月22日（土）
　　15：30～19：10
・**会　場**：新潟コンベンションセンター 1F A会場「展示ホールB」
※総会とは別に当学会認定専門医ならびに日本専門医機構認定専門医資格の更新単位3単位を取得することができます。
※ご参加いただけるのは、**事前登録をいただいた**指導医資格保持者のみです。
※「会員カード」を必ずご持参ください。

【お問い合わせ先】
公益社団法人 日本精神神経学会 事務局
E-mail：jimu-shidoui@jspn.or.jp

2. 第13回生涯教育研修会

本研修会は事前の参加登録が必須となっております。会場での当日受付はいたしません。

・**日　時**：2019年6月22日（土）15：30～18：40　※15：00受付開始
・**会　場**：新潟コンベンションセンター 2F D・E会場「メインホールAB」
・**講演内容・講師**：
演題1「人格主義医学倫理学の新たな展開 –ヒポクラテスの医の倫理の現代化とグローバル化の最前線–」
　　秋葉 悦子（富山大学 経済学部 経営法学科）
演題2「マインドフルネス認知療法」佐渡 充洋（慶應義塾大学 医学部 精神神経科学教室）
演題3「アルコール依存症 –その予防から治療まで–」杠 岳文（国立病院機構 肥前精神医療センター）
・**司　会**：太田 敏男（生涯教育委員会）、大野 史郎（生涯教育委員会）

精神科専門医取得単位：
演題1：学会単位・機構単位（共通講習「医療倫理【必修】」）1単位対象
演題2：学会単位・機構単位（精神科領域講習）1単位対象
演題3：学会単位・機構単位（精神科領域講習）1単位対象

※総会とは別に当学会認定専門医ならびに日本専門医機構認定専門医資格の更新単位を最大3単位取得することができます。
※なお、2020年度（認定期限2021年3月末）まで「専門医機構認定専門医」での更新は中止し、2021年度（認定期限2022年3月末）から「専門医機構認定専門医」の更新を開始する予定です。
※専門医の先生は「会員カード」を忘れずにご持参ください。
※日本精神神経学会の会員であれば事前参加登録の上、どなたでもご参加いただけます。

【お問い合わせ先】
公益社団法人 日本精神神経学会 事務局
E-mail：senmonkoushin@jspn.or.jp

市民公開講座

・**日　時**　：2019年6月22日（土）16：00～17：30（開場15：45）
・**会　場**　：新潟コンベンションセンター 4F M会場「国際会議室」
・**テーマ**　：うちの家族は大丈夫!?
「やめたい・・でもやめられない」**依存**を理解する

・**主旨・狙い**：「依存症」という病気をご存知ですか?
昔からあるアルコールや薬物といった「物質」への依存だけでなく、最近ではインターネットやゲーム、ギャンブルなど「行為」への依存が大きな社会問題となっています。
はじめるきっかけは、気分転換になるから、あるいは好奇心から、といった些細なことです。次第に、それ自体が楽しいというより、そうしていないとイライラするようになり、まるでそうした不快さを解消するためにその行為を繰り返しているように見えます。
もうその頃には、脳に変化が生じていると考えられ、自分でコントロールすることは大変むつかしい状態です。やめた方がいいとわかっていてもやめられない、やり続けるための理由を探すという状況になると、心身の健康や社会生活にも支障が生じ、家族も振り回されて疲弊していきます。ご本人もご家族もどうしていいのか分からない、大変苦しい、困った事態になるのです。
この市民公開講座では「インターネット・ゲーム依存」と「ギャンブル依存」について市民の皆様によくご理解いただけるよう、経験豊富な先生からわかりやすくお話しいただきます。

・**司会**　：北村 秀明（医療法人 水明会 佐潟荘）

・**講演1**　：インターネット依存・ゲーム障害の実情と対策
中山 秀紀（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター）

・**講演2**　：知って防ごうギャンブル依存
小原 圭司（島根県立心と体の相談センター）

【事前参加申し込み方法】
ホームページ、FAXのいずれかにてお申込みください。
氏名・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス・参加人数を明記ください。
お申込書は、本学術総会ホームページよりダウンロード可能です。
http://www.c-linkage.co.jp/jspn115/contents/public.html
事前参加申込締切日：2019年6月14日（金）
※応募に関する個人情報は、本市民公開講座以外に利用いたしません。

お申込み・お問合せ先
第115回日本精神神経学会学術総会 運営事務局
株式会社コンベンションリンケージ内
E-mail：jspn115@c-linkage.co.jp
TEL：03-3263-8688　FAX：03-3263-8693

世界各国の若手精神科医との国際交流に向けたミーティングのご案内

日本精神神経学会では、毎年、優れた海外の若手医師12名に対してFellowship Awardを授与し、年次学術総会にて、世界各国で中心的な活躍をされているエキスパート座長のもと、日本の医師と共にシンポジウム（International Symposium）発表の場を設ける事業を行っています。
この日本と海外の協働・協力の機会を更に発展させるべく、Fellowship Award受賞者と日本の医師・研究者との間での国際交流を促進するための会議を開催しています。会議の成果として2018年にはシンポジウム「Fellowship Award programの新たな展開 –自殺に関する国際共同研究の報告」が開催され、2019年は「Fellowship Award programの新たな展開 –社会的ひきこもりに関する国際共同研究」が開催されます。
今年度も継続して国際交流の促進のため、awardeeと日本の精神科医で研究テーマを持ち寄りディスカッションを行います。このディスカッションをきっかけに海外の若手医師との交流を深め、将来に向けた国際的な精神科医同士のネットワークを構築することを目指します。国際交流に興味をお持ちの皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げております。

【実施企画】

①**日 時**：6月20日（木）9:00～10:10
会 場：新潟コンベンションセンター 1F「展示ホールA内展示控室5B」
提示された研究計画について、国際的に用いられている評価シートを利用し、研究計画を吟味します。複数の研究計画を吟味する過程で、研究計画に求められる要素を体得することを目指しています。

②**日 時**：6月22日（土）9:00～12:00
会 場：ホテル日航新潟 30F［鳳凰］
特に優れた研究テーマを選択し議論を深めます。実現性を高めるためにはどうすれば良いか?といった、具体的な観点から議論を行う過程で、研究計画の改善方法を学び、また、国際交流を深めます。

主 催：日本精神神経学会 国際委員会
共 催：特定非営利活動法人 日本若手精神科医の会
※すべて英語で行います。通訳の予定はありません。

【参加資格・参加方法】

対象者は日本精神神経学会のすべての会員で、年齢、経験は問いません。参加していただくための準備などは必要ありません。一人でも多くの方々に関心を持っていただき、国際研究が促進される機会となれば幸甚です。お申込みの手続きはございませんので当日直接会場にお越しください。会場スペースの都合により入室ができない場合もございますこと、予めご了承ください。

【お問合せ先】

公益社団法人 日本精神神経学会 事務局
E-mail：jimu-kokusai@jspn.or.jp

「新専門医制度報告会」の開催のご案内

2019年4月から新たな専門医制度の下、465名の専攻医が精神科のプログラムで研修を開始しました。
また2021年度より原則として機構専門医としての更新となります。
昨年度に引き続き新専門医制度の現状についてご説明し、またご出席の皆様からご意見を頂き、制度の運営をより良いものにしたいと考えております。

専門医制度常任委員会
委員長　神庭 重信

日　時：6月21日（金）16：20〜18：00
会　場：新潟コンベンションセンター 1F B会場「展示ホールA-1」
主　催：専門医制度常任委員会
内　容（予定）
- 新専門医制度の現状報告
- 専攻医募集について
- 日本専門医機構更新について
- 学会のサブスペシャルティの現状について
- 質疑応答

【聴講方法】
お申込みの手続きはございませんので、当日直接会場にお越しください。
その為、会場スペースの都合により入室できない場合もございますが、予めご了承ください。

第115回日本精神神経学会学術総会 プログラム委員

新井 哲明	筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
池淵 恵美	帝京平成大学大学院臨床心理学研究科
石田 康	宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野
井上 幸紀	大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学
○井上 猛	東京医科大学精神医学分野
井上 眞	独立行政法人国立病院機構やまと精神医療センター
伊豫 雅臣	千葉大学大学院医学研究院精神医学
上野 修一	愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学
鵜飼 聡	和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室
内村 直尚	久留米大学医学部神経精神医学講座
内山 真	日本大学医学部精神医学系
榎戸 芙佐子	医療法人社団和敬会谷野呉山病院医局
遠藤 謙二	千曲荘病院
大久保 善朗	日本医科大学大学院精神・行動医学
○太田 敏男	埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
大谷 浩一	山形大学医学部精神科
大森 哲郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
兼子 幸一	鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野
川嵜 弘詔	福岡大学医学部精神医学教室、福岡大学病院精神神経科
河西 千秋	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
神庭 重信	九州大学
岸本 年史	奈良県立医科大学付属病院精神科
木下 利彦	関西医科大学精神神経科
久住 一郎	北海道大学大学院医学研究院精神医学教室
黒木 俊秀	九州大学大学院人間環境学研究院臨床心理学講座
齊藤 卓弥	北海道大学大学院医学研究院児童思春期精神医学分野
佐久間 啓	社会医療法人あさかホスピタル
佐野 輝	鹿児島大学
○紫藤 昌彦	紫藤クリニック
○下田 和孝	獨協医科大学精神神経医学講座
○鈴木 道雄	富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学教室
※染矢 俊幸	新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
寺尾 岳	大分大学医学部精神神経医学講座
長尾 喜一郎	医療法人長尾会ねや川サナトリウム
中野 和広	中野クリニック
中村 和彦	弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座
中村 敬	東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科・森田療法センター
西川 徹	東京医科歯科大学大学院精神行動医科学分野
○西村 勝治	東京女子医科大学医学部精神医学講座
針間 博彦	東京都立松沢病院精神科
○樋口 進	独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター
福田 正人	群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学
細田 眞司	こころの診療所細田クリニック
堀口 淳	島根大学医学部免疫精神神経学共同研究講座
○松田 ひろし	柏崎厚生病院精神科
松永 寿人	兵庫医科大学精神科 精神科神経科講座

松本 和紀	東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野
○松本 英夫	東海大学医学部専門診療学系精神科学
水野 雅文	東邦大学医学部精神神経医学講座
○三村 將	慶應義塾大学精神神経科学教室
村井 俊哉	京都大学大学院医学研究科精神医学教室
森 隆夫	あいせい紀年病院
門司 晃	佐賀大学医学部精神医学講座
矢部 博興	福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
山末 英典	浜松医科大学精神科
山田 了士	岡山大学大学院精神神経病態学教室
吉村 玲児	産業医科大学精神医学教室
米田 博	大阪医科大学医学部神経精神医学教室
鷲塚 伸介	信州大学医学部精神医学教室
渡邊 衡一郎	杏林大学医学部精神神経科学教室

（五十音順）

○　コアプログラム委員

※　プログラム委員長

セッション一覧

🎧 ：同時通訳(E→J)
(産)：日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッション

会長講演

演題名	演者	月日	時間	会場	同通/単位
–ときをこえてはばたけ– 人・こころ・脳をつなぐ精神医学	染矢 俊幸	6月20日(木)	10:40～11:40	A会場	–

特別講演

	演題名	演者	月日	時間	会場	同通/単位
1	Current issues in women's mental health	Helen Herrman	6月21日(金)	10:40～11:40	M会場	🎧
2	The ICD-11 as a part of a comprehensive global mental health strategy	Geoffrey M. Reed	6月21日(金)	11:45～12:45	M会場	🎧

先達に聞く

演題名	演者	月日	時間	会場	同通/単位
精神科診断学と ICD の今後の課題	髙橋 三郎	6月20日(木)	11:50～12:50	A会場	–

教育講演

	演題名	演者	月日	時間	会場	同通/単位
1	精神神経機能障害としての'てんかん'：病態機序を神経病理学からさぐる	柿田 明美	6月20日(木)	8:30～ 9:30	D会場	–
2	精神障害リハビリテーション –人が回復するということ	池淵 恵美	6月20日(木)	9:35～10:35	D会場	–
3	精神分析的アプローチから見た自閉スペクトラム症と自閉スペクトラム心性について	福本 修	6月20日(木)	10:40～11:40	D会場	–
4	摂食障害の認知行動療法改良版（CBT-E）	安藤 哲也	6月20日(木)	11:45～12:45	D会場	–
5	認知機能低下にともなう不安への精神療法的アプローチ～軽度認知障害やアルツハイマー病を対象として～	繁田 雅弘	6月20日(木)	13:50～14:50	D会場	–
6	トラウマ記憶を処理する心理療法：EMDR（眼球運動による脱感作と再処理法）	市井 雅哉	6月20日(木)	14:55～15:55	D会場	–
7	精神科における高齢者てんかん診療のこつを探る	渡辺 雅子	6月20日(木)	16:00～17:00	D会場	–
8	NDB 等を用いた多様な精神疾患の患者数の集計	山之内 芳雄	6月20日(木)	17:05～18:05	D会場	–
9	刑事精神鑑定の基礎	岡田 幸之	6月21日(金)	9:35～10:35	D会場	–
10	精神医学における生物・心理・社会モデルと多元主義	村井 俊哉	6月21日(金)	10:40～11:40	D会場	–
11	児童・思春期精神障害を理解するための 3 要因 –アタッチメント、虐待、そして発達障害–	齊藤 万比古	6月21日(金)	11:45～12:45	D会場	–
12	精神疾患における睡眠障害の治療戦略	内山 真	6月21日(金)	13:50～14:50	D会場	–
13	認知行動療法 –過去、現在、未来、その先へ–	中川 敦夫	6月21日(金)	14:55～15:55	D会場	–
14	精神・神経疾患の脳内回路と分子の可視化	須原 哲也	6月21日(金)	16:00～17:00	D会場	–
15	精神科臨床に役立つ神経心理学の知識	三村 將	6月21日(金)	17:05～18:05	D会場	–
16	精神疾患の労災認定後の長期療養の現状と課題（精神保健に関する委員会）	黒木 宣夫	6月22日(土)	8:10～ 9:10	D会場	(産)
17	ゲノム医科学の進展と精神科領域でのゲノム医療への展望	岩田 仲生	6月22日(土)	9:15～10:15	D会場	–
18	神経発達症の診断・治療の基礎と展開：青年期とそれ以後を中心に	松本 英夫	6月22日(土)	10:20～11:20	D会場	–

	演題名	演者	月日	時間	会場	同通/単位
19	利益相反と責務相反（利益相反委員会）	竹下 啓	6月22日（土）	11:25～12:25	D会場	−

会長企画シンポジウム

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
1	科学的根拠に基づいた精神保健医療政策立案：病床推計法の進化からみたこれからの方向性	染矢 俊幸 伊藤 弘人	6月20日（木）	8:30～10:30	A会場	−
2	統合失調症患者の生命と健康を守るための新たなる視点	染矢 俊幸 須貝 拓朗	6月21日（金）	14:10～16:10	A会場	−

委員会シンポジウム

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
1	退院後支援の現状と課題 −措置入院を中心に−（精神医療・保健福祉システム委員会）	太田 順一郎 松原 三郎 吉住 昭	6月20日（木）	8:30～10:30	C会場	−
2	精神科専門医に必要な精神療法の学び方（精神療法委員会）	池田 暁史 菊地 俊暁	6月20日（木）	8:30～10:30	E会場	−
3	ECT の標準化に向けて（ECT・rTMS 等検討委員会）	水野 雅文 野田 隆政	6月20日（木）	8:30～10:30	F会場	−
4	育てと育ちの精神医学～困難な育児・逆境における育ちの支え II～（精神保健に関する委員会）	加茂 登志子 笠原 麻里	6月20日（木）	8:30～10:30	L会場	−
5	認知症診療における精神科医の役割 −適正な薬物療法についての再検討−（認知症委員会）	武田 雅俊	6月20日（木）	10:40～12:40	F会場	−
6	メンタルヘルスの専門家ないし医療者は性的マイノリティについて何を知るべきか（性同一性障害に関する委員会）	松本 洋輔 太田 順一郎	6月20日（木）	10:40～12:40	G会場	−
7	うつ病から復職就労者の再発再燃を防ぐために精神科医と産業医ができること（精神保健に関する委員会）	吉村 玲児	6月20日（木）	16:00～18:00	A会場	（産）
8	訪問診療・訪問看護における多職種協働（多職種協働委員会）	秋山 剛	6月20日（木）	16:00～18:00	F会場	−
9	向精神薬と死亡リスク（薬事委員会）	稲垣 中 三村 將	6月20日（木）	16:00～18:00	G会場	−
10	近年の自然災害から学ぶ精神保健医療支援の実際 −身近な地域での災害発生に備えて−（災害支援委員会）	福島 昇 松原 六郎	6月20日（木）	16:00～18:00	L会場	−
11	Fellowship Award program の新たな展開 −社会的ひきこもりに関する国際共同研究（国際委員会）	堀之内 徹	6月20日（木）	16:00～18:00	M会場	🎧
12	症例報告における倫理的配慮～本人同意をめぐる課題（倫理委員会）	久住 一郎	6月21日（金）	8:30～10:30	P会場	−
13	精神科医療における権利擁護制度 −とりわけアドボケーター・代弁者を巡って−（精神保健福祉法委員会）	太田 順一郎	6月21日（金）	10:40～12:40	G会場	−
14	人為災害、テロがメンタルヘルスに及ぼす影響：2020年東京五輪に向けて考えるべきこと（災害支援委員会）	高橋 晶 重村 淳 大塚 耕太郎	6月21日（金）	10:40～12:40	P会場	−
15	ICD-11 が世界の精神科医療へもたらす影響（ICD-11 委員会）	神庭 重信 丸田 敏雅 松本 ちひろ	6月21日（金）	13:50～15:50	M会場	−
16	刑事責任能力鑑定の方法 −裁判員裁判における私の実践（司法精神医学委員会）	五十嵐 禎人	6月21日（金）	16:00～18:00	C会場	−
17	母乳と授乳の精神医学（男女共同参画推進委員会）	加茂 登志子 早苗 麻子	6月21日（金）	16:00～18:00	E会場	−
18	精神科医療における身体拘束の現状と課題（精神保健福祉法委員会）	太田 順一郎 岡崎 伸郎	6月21日（金）	16:00～18:00	F会場	−
19	卒後教育サブスペシャルティ（国際委員会）	秋山 剛	6月21日（金）	16:00～18:00	M会場	🎧
20	精神疾患レジストリの構築による新たな診断・治療法の開発へ（精神医学研究推進委員会）	中込 和幸	6月22日（土）	8:10～10:10	A会場	−
21	教育を通じて伝えたいこと・伝えるべきこと −学校保健教育への発信−（アンチスティグマ委員会）	水野 雅文 秋山 剛	6月22日（土）	8:10～10:10	B会場	−
22	脳機能の可視化から探る精神機能の動態と病態（PCN 編集委員会）	加藤 忠史	6月22日（土）	8:10～10:10	C会場	−
23	日常精神医療が自治体の自殺対策計画に貢献できること（精神保健に関する委員会）	太刀川 弘和 張 賢徳	6月22日（土）	10:20～12:20	B会場	−

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
24	精神医学ガイドラインの持つ意味：日本精神神経学会が果たすべき役割（ガイドライン検討委員会、精神医療·精神医学情報センター運営委員会）	鹿島 晴雄 尾崎 紀夫	6月22日（土）	10:20～12:20	E会場	–
25	精神科臨床倫理の在り処その 6（医療倫理と安全（責任）の葛藤）（医療倫理委員会）	水野 雅文	6月22日（土）	10:20～12:20	F会場	–
26	公認心理師との協働と『医師の指示』（心理技術職に関する委員会）	中嶋 義文 佐藤 忠彦	6月22日（土）	10:20～12:20	G会場	–
27	国内におけるうつ病への rTMS 療法の現状と課題（ECT・rTMS 等検討委員会）	鬼頭 伸輔 中村 元昭	6月22日（土）	13:30～15:30	C会場	–
28	旧優生保護法と精神科医療を検証する（法委員会）	佐藤 眞弓 三野 進 早苗 麻子	6月22日（土）	13:30～15:30	M会場	–
29	オンライン精神科医療：保険承認後の現状と課題（精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会）	稲垣 中 辻本 哲士	6月22日（土）	13:30～15:30	P会場	–

シンポジウム

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
1	認知症とてんかんにおける記憶障害を探る	渡辺 雅子 吉野 相英	6月20日（木）	8:30～10:30	B会場	–
2	よくわかるうつ病脳科学入門 –臨床医のための脳科学研究講座–	松尾 幸治 竹林 実	6月20日（木）	8:30～10:30	G会場	–
3	精神科学と神経免疫学のクロストーク	神林 崇 来住 由樹	6月20日（木）	8:30～10:30	H会場	–
4	新精神科専門医制度における内科教育の実践	清水 勇雄 俊野 尚彦 中島 亮太郎	6月20日（木）	8:30～10:30	I会場	–
5	双極性障害の予後を悪化させる要因と対応	山田 和男 鈴木 映二	6月20日（木）	8:30～10:30	J会場	–
6	精神病理学の古典を再読する：DSM 精神医学の補完を目指して	加藤 敏 大嶋 明彦	6月20日（木）	8:30～10:30	K会場	–
7	精神科救急・急性期医療と地域包括ケア～厚生労働科学研究の成果～	杉山 直也 藤井 千代	6月20日（木）	8:30～10:30	M会場	–
8	精神神経科領域におけるロボット治療の現状と今後の課題	熊崎 博一 加藤 隆弘 吉川 雄一郎	6月20日（木）	8:30～10:30	N会場	–
9	新規抗うつ剤の最適使用戦略を確立する日本最大の実践的メガトライアル SUN☺ D study	山田 光彦 古川 壽亮	6月20日（木）	8:30～10:30	O会場	–
10	実践！双極性感情障害の対人関係社会リズム療法（IPSRT）入門～明日からできる、つまみ食い IPSRT のすすめ！	宗 未来 近藤 真前	6月20日（木）	8:30～10:30	P会場	–
11	内観療法の理論と現代的応用	塚﨑 稔	6月20日（木）	8:30～10:30	Q会場	–
12	高齢者に求められる精神療法とはどのようなものか	中村 敬	6月20日（木）	10:40～12:40	B会場	–
13	精神保健予防に向けた学校・地域における連携	松本 和紀 鈴木 道雄 水野 雅文	6月20日（木）	10:40～12:40	C会場	–
14	不安症・強迫症の診療ガイドライン	井上 猛 清水 栄司	6月20日（木）	10:40～12:40	E会場	–
15	自閉スペクトラム症の本質に迫る：感覚・運動機能という新たな視点から	今村 明 小坂 浩隆 熊崎 博一	6月20日（木）	10:40～12:40	H会場	–
16	症状把握を掘り下げる	内海 健 古茶 大樹	6月20日（木）	10:40～12:40	I会場	–
17	精神疾患の臨床病理検討（CPC）から疾病を理解する精神科ブレインバンクへの期待（その 3）	入谷 修司 池田 研二	6月20日（木）	10:40～12:40	J会場	–
18	ICD-11 に収載された複雑性 PTSD の理解と治療 –トラウマケア技法の実際–	新谷 宏伸 黒木 俊秀 松本 俊彦	6月20日（木）	10:40～12:40	K会場	–
19	うつ病リワークプログラムの始め方、続け方～クリニック、病院、大学、and etc	大橋 昌資 岡 敬	6月20日（木）	10:40～12:40	L会場	–
20	てんかんと精神医療の新たな連携の形（psycho-epileptology）	山田 了士 渡辺 雅子 谷口 豪	6月20日（木）	10:40～12:40	M会場	–

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
21	定型的な薬物療法に行き詰まった時の新たな治療戦略 −難治性精神症状への挑戦−	中島 振一郎	6月20日(木)	10:40〜12:40	N会場	−
22	アルツハイマー型認知症の臨床：現状と今後への展望	三村 將 岩波 明	6月20日(木)	10:40〜12:40	O会場	−
23	物質使用障害のスティグマを乗り越える	田中 増郎 長 徹二 成瀬 暢也	6月20日(木)	10:40〜12:40	P会場	−
24	精神・発達障害者の就労支援に関わる精神科医（主治医・産業医）の必須アイテム	神山 昭男 紫藤 昌彦 高野 知樹	6月20日(木)	13:50〜15:50	A会場	（産）
25	全国の精神保健福祉センターにおける自殺対策の取り組みについて	田中 治 太田 順一郎	6月20日(木)	16:00〜18:00	B会場	−
26	不安症治療でベンゾジアゼピン系抗不安薬はいかに用いられるべきか〜最適化を目指すためのコツと注意点〜	松永 寿人	6月20日(木)	16:00〜18:00	C会場	−
27	自然災害時における統合失調症をもつ人々の SST による支援	浅見 隆康 丹羽 真一	6月20日(木)	16:00〜18:00	E会場	−
28	身体症状症および関連症群の治療導入はどうすべきか？ −最前線の臨床医による工夫−	名越 泰秀 富永 敏行	6月20日(木)	16:00〜18:00	H会場	−
29	てんかんと知的障害の併存症例に対する精神科医の工夫と取り組み	辻 富基美 兼本 浩祐	6月20日(木)	16:00〜18:00	I会場	−
30	過眠は神経症状か、精神症状か？	栗山 健一 北島 剛司	6月20日(木)	16:00〜18:00	J会場	−
31	医療倫理コンサルテーションと意思決定支援：リエゾン精神医学の新たな課題	西村 勝治 中嶋 義文	6月20日(木)	16:00〜18:00	K会場	−
32	金沢総会後 50 年 −その後の学会の変革と将来への展望−	山口 成良	6月20日(木)	16:00〜18:00	N会場	−
33	ポジティブ精神医学の産業メンタルヘルスへの活用	佐久間 啓 須賀 英道	6月21日(金)	9:40〜11:40	A会場	（産）
34	あなたにもできる神経化学研究	工藤 喬	6月21日(金)	10:40〜12:40	B会場	−
35	精神科領域における Shared Decision Making(SDM)の実現可能性	渡邊 衡一郎	6月21日(金)	10:40〜12:40	E会場	−
36	統合失調症バイオマーカーとしての Mismatch negativity（MMN）	矢部 博興	6月21日(金)	10:40〜12:40	H会場	−
37	環境や食生活とメンタルヘルス	寺尾 岳	6月21日(金)	10:40〜12:40	J会場	−
38	第三世代認知行動療法を精神科臨床に活かす	佐渡 充洋	6月21日(金)	10:40〜12:40	K会場	−
39	（日本精神神経科診療所協会推薦）私たちはなぜクリニックを開業したか −日精診女性会員の場合−	三原 伊保子 佐藤 眞弓 早苗 麻子	6月21日(金)	10:40〜12:40	L会場	−
40	家族をベースにする治療をどう実臨床に生かすのか	岡田 俊 永田 利彦	6月21日(金)	10:40〜12:40	N会場	−
41	「適応障害とその背景」−日本精神分析学会企画	木村 宏之	6月21日(金)	10:40〜12:40	O会場	−
42	ASD と ADHD の臨床的特徴と鑑別診断	岩波 明	6月21日(金)	11:50〜13:50	A会場	−
43	精神医学における価値の諸相	榊原 英輔	6月21日(金)	13:50〜15:50	B会場	−
44	向精神薬と自動車運転等の注意喚起 −実臨床での課題とエビデンス、そして考えるべきこと−	松尾 幸治 中林 哲夫 岩本 邦弘	6月21日(金)	13:50〜15:50	C会場	−
45	平成 30 年度診療報酬改定後のベンゾジアゼピン系睡眠薬の減量	小曽根 基裕	6月21日(金)	13:50〜15:50	E会場	−
46	発達障害の連続・不連続とそれを踏まえた薬物療法について	齊藤 卓弥 飯田 順三	6月21日(金)	13:50〜15:50	F会場	−
47	国際カップルをめぐる諸問題と破局例の検討	紫藤 昌彦	6月21日(金)	13:50〜15:50	G会場	−
48	生物学的精神医学のフロンティア	牧之段 学	6月21日(金)	13:50〜15:50	H会場	−
49	子どもを虐待したくてしているわけじゃない！ −逆境体験（ACE）に精神科医療はどう向き合うか−	山下 浩	6月21日(金)	13:50〜15:50	J会場	−
50	向精神薬による稀ではあるが重篤な副作用を避けるために（患者と医療者の双方のしあわせのために）	鈴木 映二 山田 和男	6月21日(金)	13:50〜15:50	N会場	−
51	昨今の産業衛生のトピックスとメンタルヘルス的視点	工藤 喬	6月21日(金)	16:20〜18:20	A会場	（産）

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
52	任意入院の開放処遇でうつ病の自殺を防止する –ストレスケア病棟の調査から–	徳永 雄一郎	6月21日(金)	16:00～18:00	G会場	–
53	反芻思考とうつ病	貝谷 久宣 岡本 泰昌	6月21日(金)	16:00～18:00	H会場	–
54	成人の自閉スペクトラム症における精神科医と心理職の協働 –日常診療で公認心理師にどう活躍してもらうか	井上 勝夫	6月21日(金)	16:00～18:00	I会場	–
55	患者の違法薬物使用を知ったとき、精神科医はどうふるまうべきなのか?	松本 俊彦 成瀬 暢也	6月21日(金)	16:00～18:00	J会場	–
56	新アウトリーチ事業に始まる日本の精神科地域包括ケアシステムの可能性	窪田 彰 原 敬造	6月21日(金)	16:00～18:00	K会場	–
57	認知症非専門医のための認知症診療の基本	馬場 元 水上 勝義	6月21日(金)	16:00～18:00	L会場	–
58	精神疾患へのスティグマ研究の現在：学校教育、市民啓発、社会の取り組みに向けて	小池 進介 中根 秀之 安藤 俊太郎	6月21日(金)	16:00～18:00	N会場	–
59	精神疾患における神経炎症の役割～バイオマーカー開発から病態解明まで	朴 秀賢 篠崎 元	6月21日(金)	16:00～18:00	Q会場	–
60	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに於ける精神科診療所の可能性	上ノ山 一寛 紫藤 昌彦	6月22日(土)	8:10～10:10	E会場	–
61	神経症圏治療における治療導入、摂食障害を例として：どこまで医療化(外在化)し、いかに本格治療に導入するのか	永田 利彦 宮岡 等	6月22日(土)	8:10～10:10	F会場	–
62	難治性トゥレット症の現状及び脳深部刺激療法に関する検討	金生 由紀子 岡田 俊	6月22日(土)	8:10～10:10	G会場	–
63	せん妄の新たな予防方略とその実効性を高める発症予測の研究展開	八田 耕太郎 岸 泰宏	6月22日(土)	8:10～10:10	H会場	–
64	今、マインドフルネスを考える	新村 秀人 北西 憲二	6月22日(土)	8:10～10:10	I会場	–
65	「共同意思決定」を生む対話についての検討～患者の権利、意思とはなにか～	伊藤 順一郎 福井 里江	6月22日(土)	8:10～10:10	J会場	–
66	精神科医は強度行動障害に何が出来るか？	市川 宏伸 會田 千重	6月22日(土)	8:10～10:10	K会場	–
67	ミクログリアは精神疾患の成り立ちにどのように関与するのか？	門司 晃	6月22日(土)	8:10～10:10	L会場	–
68	医療と司法からみたダイバーシティ	安藤 久美子	6月22日(土)	8:10～10:10	M会場	–
69	慢性疼痛	臼井 千恵 井上 雄一	6月22日(土)	8:10～10:10	N会場	–
70	精神科治療に対する同意能力は適切に評価されているのか？患者の保護と自己決定の尊重	古郡 規雄	6月22日(土)	8:10～10:10	O会場	–
71	さまざまな精神神経疾患の妊娠・出産・授乳への対応	鈴木 利人 岡野 禎治	6月22日(土)	8:10～10:10	P会場	–
72	今必要な精神科臨床における心理教育	後藤 雅博 渡邊 衡一郎	6月22日(土)	8:10～10:10	Q会場	–
73	外来診療に活かす認知行動療法	大野 裕	6月22日(土)	10:20～12:20	A会場	–
74	摂食障害治療の国際比較	紫藤 昌彦	6月22日(土)	10:20～12:20	C会場	–
75	児童虐待対応における地域精神保健・医療の役割	中山 浩	6月22日(土)	10:20～12:20	H会場	–
76	発達障害とてんかん：各診療科の立場から	曾根 大地 金生 由紀子 谷口 豪	6月22日(土)	10:20～12:20	I会場	–
77	急性精神病の最近の状況	須賀 英道	6月22日(土)	10:20～12:20	J会場	–
78	わが国における大規模処方調査“MUSUBI-J”から分かる双極性障害治療のあるべき姿	渡邊 衡一郎 古郡 規雄	6月22日(土)	10:20～12:20	K会場	–
79	当事者研究・オープンダイアローグ・ACT –現在の地点と将来：その協働が日本の精神保健福祉にもたらすもの	石原 孝二 斎藤 環	6月22日(土)	10:20～12:20	L会場	–
80	統合失調症の Sense of Agency 研究：精神病理学–計算論的精神医学–神経科学の連繋	前田 貴記 山下 祐一	6月22日(土)	10:20～12:20	M会場	–
81	不安症状に対する新しい取り組み	穐吉 條太郎 井上 猛	6月22日(土)	10:20～12:20	N会場	–
82	精神科診断に求められる機能・要件を考える	太田 敏男 仙波 純一	6月22日(土)	10:20～12:20	O会場	–

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
83	精神科診療における自律神経活動評価：心拍変動計測の現状と展望	榛葉 俊一 仮屋 暢聡 松井 岳巳	6月22日(土)	10:20～12:20	P会場	−
84	DV で避難してきた患者とその子どもの精神疾患をどう診ていくか	上野 千穂	6月22日(土)	10:20～12:20	Q会場	−
85	憑依再考 −DSM-5 時代の精神医療と霊のナラティブ	新谷 宏伸 宮岡 等	6月22日(土)	13:30～15:30	B会場	−
86	摂食障害の心理教育に役立つコンテンツ −ミニマル・エッセンシャルズ	鈴木 眞理	6月22日(土)	13:30～15:30	J会場	−
87	腸内細菌叢−腸管−脳軸：発達早期における精神活動と行動への影響	三上 克央	6月22日(土)	13:30～15:30	K会場	−
88	精神疾患の背後に発達障害特性を見いだしたとき、いかに治療すべきか	岡田 俊 小平 雅基	6月22日(土)	13:30～15:30	L会場	−
89	精神科薬物療法の出口戦略を考える	三島 和夫 橋本 亮太 渡辺 範雄	6月22日(土)	13:30～15:30	N会場	−
90	精神科診断を向上させるためのヘルスリテラシーの活用	鈴木 利人 井上 猛	6月22日(土)	13:30～15:30	O会場	−

日本精神神経学会と日本神経科学学会との連携シンポジウム

テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
精神疾患の新しい理解と支援に寄与する最先端神経科学	神庭 重信 柚崎 通介 笠井 清登	6月21日(金)	10:40～12:40	C会場	−

Fellowship Award Symposium

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
1	Coercive measures in psychiatry	Toshitaka Ii	6月20日(木)	10:40～12:40	Q会場	−
2	Coercive measures in psychiatry	Nozomu Oya	6月20日(木)	13:50～15:50	Q会場	−
3	Case Vignette	Tomohiro Shirasaka	6月21日(金)	8:30～10:30	Q会場	−
4	Case Vignette	Kumi Aoyama	6月21日(金)	10:40～12:40	Q会場	−

ワークショップ

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
1	性同一性障害に対する精神的治療と身体的治療 (性同一性障害に関する委員会)	松本 洋輔 織田 裕行 松永 千秋	6月20日(木)	16:00～17:40	O会場	−
2	映像で学ぶ初回面接 −遷延性うつ病編− (精神療法委員会)	渡辺 俊之	6月20日(木)	16:00～17:40	P会場	−
3	脳波の基礎コース	矢部 博興	6月20日(木)	16:00～17:40	Q会場	−
4	ICD-11 の最新情報：ストレス関連障害群、不安および強迫関連障害群、パーソナリティ障害群 (ICD-11 委員会)	丸田 敏雅 秋山 剛 松本 ちひろ	6月21日(金)	8:30～10:10	O会場	−
5	アクセプトされる精神医学研究論文の書き方 (PCN 編集委員会)	加藤 忠史	6月21日(金)	10:40～12:20	F会場	−
6	身体疾患を有する患者の自殺および希死念慮に対するリエゾン・コンサルテーション	清水 研 西村 勝治	6月21日(金)	10:40～12:20	I会場	−
7	脳波の応用コース	矢部 博興 太田 克也	6月21日(金)	13:50～15:30	I会場	−
8	統合失調症の精神鑑定 (司法精神医学委員会)	五十嵐 禎人	6月21日(金)	13:50～15:30	K会場	−
9	新アルコール使用障害の診断治療ガイドラインに基づく治療の実際	樋口 進	6月21日(金)	13:50～15:30	L会場	−
10	小児精神医療入門：新シリーズ(2)子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について (小児精神医療委員会)	松本 英夫	6月21日(金)	13:50～15:30	P会場	−

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
11	複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ：自殺のハイリスク患者に対するアセスメントと問題解決アプローチ（精神保健に関する委員会）	河西 千秋 大塚 耕太郎	6月21日（金）	14:00～16:40	O会場	–
12	日常診療に治療ガイドラインは役に立つのか？	橋本 亮太 渡邊 衡一郎 稲田 健	6月21日（金）	16:00～18:00	P会場	–

Leaders Round Table

テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
アジア太平洋地域各国における精神科の多職種チーム医療について（国際委員会）	秋山 剛	6月21日（金）	13:50～15:50	Q会場	–

プ ロ グ ラ ム

Program

6月20日（木） A会場（センター 1F 大会場）［展示ホールB］

8:30～10:30 会長企画シンポジウム 1
科学的根拠に基づいた精神保健医療政策立案：病床推計法の進化からみたこれからの方向性

司会：**染矢 俊幸** 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
伊藤 弘人 労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所過労死等防止調査研究センター

PS1-1 **統合失調症入院患者数の将来予測：推計法開発の根拠と妥当性について**
○染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

PS1-2 **新しい精神保健福祉資料と 630 調査**
○山之内 芳雄
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神医療政策研究部

PS1-3 **レセプトデータを用いた保険診療の実態分析**
○吉村 健佑
千葉大学医学部附属病院病院経営管理学研究センター

PS1-4 **証拠に基づく政策立案を推進するための政府による公的統計の整備と具体的活用例**
○伊藤 弘人
労働者健康安全機構

〈コーディネーター〉 染矢 俊幸 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
伊藤 弘人 労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所過労死等防止調査研究センター

10:40～11:40 会長講演

司会：**神庭 重信** 九州大学

PL **–ときをこえてはばたけ– 人・こころ・脳をつなぐ精神医学**
○染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

11:50～12:50 先達に聞く

司会：**染矢 俊幸** 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

MP **精神科診断学と ICD の今後の課題**
○髙橋 三郎
埼玉江南病院

13:50～15:50 シンポジウム 24

日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッション

精神・発達障害者の就労支援に関わる精神科医（主治医・産業医）の必須アイテム

司会：**神山 昭男**　医療法人社団桜メデイスン産業保健サポートセンター
奥山 真司　トヨタ自動車

S24-1 働き方改革とこれからのメンタルヘルス対策

○神ノ田 昌博
厚生労働省

S24-2 労働者の適性を重視した就労支援

○渡辺 洋一郎
医療法人メディカルメンタルケア横山・渡辺クリニック

S24-3 精神・発達障害者の就労支援に関わる精神科医(主治医・産業医)の必須アイテム～精神科主治医の立場から～

○高野 知樹
医療法人社団弘冨会神田東クリニック

S24-4 嘱託産業医の立場から

○森口 次郎
一般財団法人京都工場保健会

〈コーディネーター〉 神山 昭男　医療法人社団桜メデイスン産業保健サポートセンター
紫藤 昌彦　医療法人社団コスモス会紫藤クリニック
高野 知樹　医療法人社団弘冨会神田東クリニック

16:00～18:00 委員会シンポジウム 7（精神保健に関する委員会）

日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッション

うつ病から復職就労者の再発再燃を防ぐために精神科医と産業医ができること

司会：**吉村 玲児**　産業医科大学精神医学
井上 幸紀　大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

CS7-1 うつ病理解と精神科医と産業医との連携

○新開 隆弘
産業医科大学精神医学教室

CS7-2 4つのケアを念頭に置いた職域との連携

○井上 幸紀
大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

CS7-3 うつ病から復職就労者の再発再燃を防ぐために精神科医と産業医ができること

○高野 知樹
医療法人社団弘冨会神田東クリニック

CS7-4 うつ病から復職後就労者の再発再燃を防ぐために産業医ができること

○塚本 浩二
東京ガス株式会社安全健康・福利室

〈コーディネーター〉 吉村 玲児　産業医科大学精神医学

6月20日（木） B会場（センター 1F 中会場）［展示ホールA-1］

8:30～10:30 シンポジウム 1
認知症とてんかんにおける記憶障害を探る

司会：**渡辺 雅子** 新宿神経クリニック
田中 晋 特定医療法人楽山会三島病院

S1-1 **高齢者てんかんをめぐって**
○吉野 相英
防衛医科大学校精神科

S1-2 **認知症における記憶障害**
○數井 裕光
高知大学医学部附属病院神経精神科

S1-3 **認知機能とてんかん性放電**
○塩崎 一昌[1,2]
[1]横浜市総合保健医療センター地域精神保健部、[2]公立大学法人横浜市立大学附属病院精神科

S1-4 **てんかん性健忘と認知症**
○鵜飼 克行[1,2]
[1]総合上飯田第一病院老年精神科、[2]名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

〈コーディネーター〉 渡辺 雅子 新宿神経クリニック
吉野 相英 防衛医科大学校精神科

10:40～12:40 シンポジウム 12
高齢者に求められる精神療法とはどのようなものか

司会：**中村 敬** 東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科・森田療法センター
繁田 雅弘 東京慈恵会医科大学精神医学講座

S12-1 **高齢者のこころの在り様**
○阿保 順子
北海道医療大学

S12-2 **高齢者の精神療法 –その課題と方法**
○北西 憲二
森田療法研究所/北西クリニック

S12-3 **高齢者に対する精神療法的アプローチ：生老病死に逆らわない生き方を支える**
○新村 秀人
慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

S12-4 **認知症患者に対する心理・社会的介入としての精神療法**
○稲村 圭亮
東京慈恵会医科大学精神医学講座

〈コーディネーター〉 中村 敬 東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科・森田療法センター

13:50～14:50 一般演題（口演）1
統合失調症 1

司会：**井上 猛**　東京医科大学精神医学分野

1-01-1　統合失調症の回復を予測する養育環境に関する研究

○石井 洵平[1]、小高 文聰[2]、宮田 久嗣[2]、稲村 圭亮[2]、瀬戸 光[3]、山寺 亘[1]、繁田 雅弘[2]
[1]東京慈恵会医科大学葛飾医療センター精神神経科、[2]東京慈恵会医科大学附属病院、[3]公益財団法人復光会総武病院

1-01-2　Clozapine 中止後に brexpiprazole による維持を試みた治療抵抗性統合失調症の 2 例

○熊倉 隼、岡田 剛史、安田 学、塩田 勝利、小林 聡幸、須田 史朗
自治医科大学附属病院精神医学講座

1-01-3　統合失調症患者における Brexpiprazole の使用経験

○菱本 明豊、青山 慎介、大塚 郁夫、朴 秀賢、蓬莱 政、木村 敦、新名 尚史、山木 愛久、
曽良 一郎
神戸大学大学院医学研究科精神医学分野

1-01-4　統合失調症の新規遺伝的リスクの発見 –新たな検出法提案も交えて–

○大石 賢吾[1]、伊豫 雅臣[1,2]、新津 富央[1]、高瀬 正幸[1]、佐藤 泰憲[3]、金原 信久[2]
[1]千葉大学医学部大学院医学研究院精神医学、[2]千葉大学社会精神保健教育センター、
[3]慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学

1-01-5　統合失調症患者における脳内コンドロイチン硫酸鎖の変化

○湯川 尊行[1,2,3]、岩倉 百合子[2]、武井 延之[2]、斎藤 摩美[2,3]、渡部 雄一郎[3]、豊岡 和彦[4]、
五十嵐 道弘[5]、新里 和弘[6]、大島 健一[6]、國井 泰人[7]、矢部 博興[7]、松本 純弥[7]、和田 明[7]、
日野 瑞城[7]、入谷 修司[6,8]、丹羽 真一[7]、竹内 亮子[9]、高橋 均[9]、柿田 明美[9]、染矢 俊幸[3]、
那波 宏之[2]
[1]魚沼基幹病院精神科、[2]新潟大学脳研究所分子神経生物学分野、[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、
[4]南浜病院、[5]新潟大学大学院医歯学総合研究科分子細胞機能学分野・新潟大学超域学術院、[6]東京都立松沢病院、
[7]福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、[8]名古屋大学大学院精神医療学講座、[9]新潟大学脳研究所病理学分野

14:50～15:50 一般演題（口演）15
統合失調症 3

司会：**榎戸 芙佐子**　医療法人社団和敬会谷野呉山病院

1-015-1　統合失調症家族心理教育による親の EE の変化

○渡部 和成
医療法人崇徳会田宮病院精神科

1-015-2　統合失調症の指タッピングについて（第 6 報）–MDI との質的特徴の比較–

○大江 米次郎[1]、木下 秀夫[2]、夏目 誠[2]
[1]大阪樟蔭女子大学学芸学部、[2]医療法人養心会国分病院

1-015-3　統合失調症認知機能簡易評価尺度日本語版を用いた統合失調症患者の臨床的特徴と認知機能との関連

○國塚 拓郎、鈴木 雄太郎、染矢 俊幸
新潟大学医歯学総合病院精神科

1-015-4　心因反応が疑われたが、精神病症状を呈したため電気けいれん療法を行った精神遅滞を伴う統合失調症の一症例

○長濱 道治[1]、河野 公範[1]、伊藤 司[1]、錦織 光[1]、伊豆原 宗人[1]、小池 昌弘[1]、松田 泰行[1]、
三木 啓之[1]、金山 三紗子[1]、三浦 章子[1]、山下 智子[1]、大朏 孝治[1]、林田 麻衣子[1]、岡崎 四方[1]、
橋岡 禎征[1]、和氣 玲[1]、宮岡 剛[1]、稲垣 正俊[1]、堀口 淳[2]
[1]島根大学医学部精神医学講座、[2]島根大学医学部免疫精神神経学共同研究講座

1-015-5 **千葉クロザピンサターンプロジェクト～千葉県クロザピン治療連携システム～**

○佐々木 剛[1,2]、仲田 祐介[2]、新津 富央[2]、小松 英樹[2]、石川 雅智[2]、伊豫 雅臣[1,2]
[1]千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部、[2]千葉大学大学院医学研究院精神医学

16:00～18:00 **シンポジウム 25**
全国の精神保健福祉センターにおける自殺対策の取り組みについて

司会：**高橋 祥友**　筑波大学医学医療系災害・地域精神医学講座
太田 順一郎　岡山市こころの健康センター

S25-1 **自殺対策計画における目標値の設定について**

○竹島 正[1]、山内 貴史[2]、南島 和久[3]、中西 三春[4]、坂元 昇[5]
[1]川崎市精神保健福祉センター、[2]東京慈恵会医科大学、[3]新潟大学、[4]公益財団法人東京都医学総合研究所、
[5]川崎市立看護短期大学

S25-2 **若年層における自殺予防対策の取り組み～鳥取県の自殺統計から～**

○原田 豊
鳥取県立精神保健福祉センター

S25-3 **学校における包括的な自殺対策**

○二宮 貴至
浜松市精神保健福祉センター

S25-4 **民間団体と協働して取組む啓発活動について**

○波床 将材
京都市こころの健康増進センター

S25-5 **マンガ冊子を活用した中高生向け自殺対策について**

○鎌田 隼輔
札幌市精神保健福祉センター/札幌市保健福祉局障がい保健福祉部

〈コーディネーター〉 田中 治　青森県立精神保健福祉センター
太田 順一郎　岡山市こころの健康センター

6月20日（木） C会場（センター 1F 中会場）［展示ホールA-2］

8:30～10:30 委員会シンポジウム 1（精神医療・保健福祉システム委員会）
退院後支援の現状と課題 –措置入院を中心に–

司会：**山下 俊幸** 京都府立洛南病院
太田 順一郎 岡山市こころの健康センター

CS1-1 **措置入院制度の現状**
○瀬戸 秀文
長崎県精神医療センター精神科

CS1-2 **措置入院に関する保健所実態調査**
○佐竹 直子
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

CS1-3 **措置入院者の退院後支援における課題～ガイドライン策定に至る経緯と現状を踏まえて～**
○金田一 正史
千葉県習志野健康福祉センター〔習志野保健所〕

CS1-4 **岡山市保健所における措置入院者等への退院後支援**
○妹尾 忍
岡山市こころの健康センター

CS1-5 **〔指定発言〕**
○藤井 千代
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈コーディネーター〉 太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
松原 三郎 社会医療法人財団松原愛育会松原病院
吉住 昭 医療法人翠会八幡厚生病院

10:40～12:40 シンポジウム 13
精神保健予防に向けた学校・地域における連携

司会：**鈴木 道雄** 富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学
松本 和紀 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

S13-1 **都立学校における専門医派遣事業を通じての学校と医療の連携について**
○武士 清昭
あさかホスピタル

S13-2 **東日本大震災被災地域における学校教育と精神保健医療福祉との連携による普及啓発活動**
○片柳 光昭[1]、千葉 学[2]、高橋 祥恵[2]、橋本 佳純[2]、守屋 佑亮[3]、横山 志帆[3]、高橋 和成[3]、遠藤 眞[4]、松浦 雄介[4]、斎藤 里砂[5]、菅野 翼[6]、小山 寛子[7]、菅野 優[7]、小野 かおり[8]、永沼 直子[8]、高橋 智美[1]、相澤 理沙[1]、遠藤 紀寿[9]
[1]みやぎ心のケアセンター、[2]気仙沼保健福祉事務所、[3]光が丘保養園、[4]三峰病院、[5]気仙沼市障害者支援センター、[6]気仙沼市社会福祉課、[7]気仙沼市健康増進課、[8]南三陸町保健福祉課、[9]宮城県精神保健福祉センター

S13-3 **学校教育と地域機関の協働による小学校におけるメンタルヘルス対策事業**
○全 有耳
京都府立医科大学大学院医学研究科小児科学

S13-4 **中学校における学校と地域の精神保健医療の連携ネットワーク事例**
○舩渡川 智之、大岡 美奈子、山口 大樹、片桐 直之、根本 隆洋、水野 雅文
東邦大学医学部精神神経医学講座

S13-5 〔指定発言〕

○水野 雅文
東邦大学医学部精神神経医学講座

〈コーディネーター〉 松本 和紀 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野
鈴木 道雄 富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学
水野 雅文 東邦大学医学部精神神経医学講座

13:50～14:50 一般演題（口演）2
統合失調症 2

司会：**大森 哲郎** 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野

1-02-1 **日本人統合失調症患者における抗精神病薬多剤併用療法と喫煙との関係**

○鈴木 雄太郎[1,2]、須貝 拓朗[2]、山崎 學[3]、下田 和孝[4]、森 隆夫[3]、尾関 祐二[4]、松田 ひろし[3]、岡本 呉賦[3]、寒河江 豊昭[5]、菅原 典夫[6]、古郡 規雄[7]、染矢 俊幸[2]
[1]医療法人敬愛会末広橋病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院、[3]公益社団法人日本精神科病院協会、[4]獨協医科大学病院、[5]山形県立米沢栄養大学、[6]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[7]獨協医科大学精神神経医学講座

1-02-2 **アセナピンの Sc の社会機能障害に対する効果についての評価考察**

○葉 高文
特定医療法人浩洋会田中病院医局

1-02-3 **Brexpiprazole への switching によって陰性症状と自覚的服用感が著明に改善した統合失調症の 1 例**

○宮本 聖也[1]、中島 和樹[1,2]、岩下 覚[1]
[1]桜ヶ丘記念病院精神科、[2]慶應義塾大学病院

1-02-4 **妄想性障害の病因は視床背内側核の内側（大細胞性部分）の機能異常なのか？ −教科書的知見による考察の試み**

○野村 和広
野村クリニック

14:50～15:50 一般演題（口演）16
その他

司会：**米田 博** 大阪医科大学神経精神医学教室

1-016-1 **九州大学病院救命救急センターにおけるリエゾン活動：自殺企図症例への早期介入**

○田中 裕記[1]、大橋 綾子[1]、赤星 朋比古[2]、平野 羊嗣[1]、田口 智章[2]、神庭 重信[1]
[1]九州大学大学院医学研究院精神病態医学、[2]九州大学病院救命救急センター

1-016-2 **認知症高齢者と運転免許をめぐる諸問題 −検診命令のもとで診察の現実−**

○上村 直人
高知大学医学部附属病院神経精神科学教室

1-016-3 **神経性やせ症患者に対する包括的入院診療プログラムの効果：退院 1 年後の予後調査**

○竹林 淳和[1,2]、栗田 大輔[1,2]、刀根 那津美[1]、山末 英典[1]
[1]浜松医科大学附属病院精神神経科、[2]静岡県摂食障害治療支援センター

1-016-4 **医学的に不安定な摂食障害患者に対する皮下埋め込み型中心静脈ポートの有用性について**

○黒鳥 偉作[1]、三井 信幸[1]、曽山 武士[2]、渡辺 晋也[1]、賀古 勇輝[1]、久住 一郎[1]
[1]北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室、[2]北海道大学大学院医学研究院放射線科学分野放射線医学教室

1-O16-5 **妊娠中に悪阻とともに幻聴を呈した 1 例**

○岡安 寛明[1]、尾関 祐二[2]、下田 和孝[1]
[1]獨協医科大学精神神経医学講座、[2]滋賀医科大学精神医学講座

16:00～18:00 **シンポジウム 26**

不安症治療でベンゾジアゼピン系抗不安薬はいかに用いられるべきか～最適化を目指すためのコツと注意点～

司会：**松永 寿人** 兵庫医科大学精神科精神科神経科講座
塩入 俊樹 岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野

S26-1 **パニック症治療でベンゾジアゼピン系抗不安薬はいかに用いられるべきか：最適化を目指すためのコツと注意点**

○塩入 俊樹
岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野

S26-2 **社交不安症治療でベンゾジアゼピン系抗不安薬はいかに用いられるべきか**

○朝倉 聡
北海道大学保健センター・同大学院医学研究院精神医学教室

S26-3 **全般不安症治療でベンゾジアゼピン系抗不安薬はいかにもちいられるべきか**

○大坪 天平
東京女子医科大学東医療センター精神科

S26-4 **PTSD 治療における抗不安薬の位置づけ**

○金 吉晴
国立精神・神経医療研究センター精神保健研所

S26-5 **強迫症治療でベンゾジアゼピン系抗不安薬はいかに用いられるべきか**

○松永 寿人
兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

〈コーディネーター〉 松永 寿人 兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

6月20日（木） D会場（センター 2F 中会場）［メインホールA］

8:30～9:30 教育講演 1

司会：**入谷 修司** 名古屋大学大学院医学系研究科精神医療学講座

EL1 **精神神経機能障害としての‘てんかん’：病態機序を神経病理学からさぐる**

○柿田 明美
新潟大学脳研究所病理学分野

9:35～10:35 教育講演 2

司会：**後藤 雅博** こころのクリニックウィズ

EL2 **精神障害リハビリテーション –人が回復するということ**

○池淵 恵美
帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

10:40～11:40 教育講演 3

司会：**岡田 暁宜** 名古屋工業大学保健センター

EL3 **精神分析的アプローチから見た自閉スペクトラム症と自閉スペクトラム心性について**

○福本 修
長谷川病院精神科

11:45～12:45 教育講演 4

司会：**井上 幸紀** 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

EL4 **摂食障害の認知行動療法改良版（CBT-E）**

○安藤 哲也
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所行動医学研究部

13:50～14:50 教育講演 5

司会：**木下 利彦**　関西医科大学精神神経科

EL5 **認知機能低下にともなう不安への精神療法的アプローチ～軽度認知障害やアルツハイマー病を対象として～**

○繁田 雅弘、稲村 圭亮
東京慈恵会医科大学精神医学講座

14:55～15:55 教育講演 6

司会：**紫藤 昌彦**　医療法人社団コスモス会紫藤クリニック

EL6 **トラウマ記憶を処理する心理療法：EMDR（眼球運動による脱感作と再処理法）**

○市井 雅哉
兵庫教育大学

16:00～17:00 教育講演 7

司会：**千葉 茂**　旭川医科大学医学部精神医学

EL7 **精神科における高齢者てんかん診療のこつを探る**

○渡辺 雅子
新宿神経クリニック

17:05～18:05 教育講演 8

司会：**中込 和幸**　国立精神・神経医療研究センター

EL8 **NDB 等を用いた多様な精神疾患の患者数の集計**

○山之内 芳雄
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神医療政策研究部

6月20日（木） E会場（センター 2F 中会場）［メインホールB］

8:30～10:30 委員会シンポジウム 2（精神療法委員会）
精神科専門医に必要な精神療法の学び方

司会：**菊地 俊暁** 慶應義塾大学医学部精神・神経科
池田 暁史 文教大学人間科学部臨床心理学科

CS2-1 **精神療法委員会のアンケート結果からの展望**
○藤山 直樹
個人開業

CS2-2 **精神療法の必要性について**
○原田 誠一
原田メンタルクリニック

CS2-3 **精神療法研修があたえてくれたこと**
○渡辺 俊之
渡辺医院/高崎西口精神療法研修室

CS2-4 **精神療法の学び方～個別性とプログラム～**
○中尾 智博
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

CS2-5 **〔指定発言〕**
○福田 正人
群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

〈コーディネーター〉 池田 暁史 文教大学人間科学部臨床心理学科
菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神・神経科

10:40～12:40 シンポジウム 14
不安症・強迫症の診療ガイドライン

司会：**井上 猛** 東京医科大学精神医学分野
清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学/岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野

S14-1 **パニック症の診療ガイドライン**
○塩入 俊樹
岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野

S14-2 **強迫症（OCD）の治療ガイドライン**
○松永 寿人
兵庫医科大学精神科神経科学講座

S14-3 **社交不安症の診療ガイドライン**
○朝倉 聡[1]、山田 恒[2]、藤井 泰[5]、三井 信幸[1]、吉永 尚紀[3]、金井 嘉宏[4]
[1]北海道大学保健センター・同大学院医学研究院精神医学教室、[2]兵庫医科大学精神科神経科学講座、
[3]宮崎大学テニュアトラック推進機構、[4]東北学院大学教養学部人間科学科、[5]北海道立向陽ヶ丘病院

S14-4 **全般不安症の診療ガイドライン**

○大坪 天平
東京女子医科大学東医療センター精神科

〈コーディネーター〉 井上 猛　東京医科大学精神医学分野
清水 栄司　千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

13:50～14:50 一般演題（口演）3
気分障害 1

司会：**矢部 博興**　福島県立医科大学・医学部・神経精神医学講座

1-03-1 **うつ病患者 2 症例におけるミルタザピン投与後の睡眠に及ぼす急性効果：主観的および客観的指標を用いた評価**

○土生川 光成[1]、小城 公宏[2]、内村 直尚[1]
[1]久留米大学医学部神経精神医学講座、[2]医療法人清友会植田病院

1-03-2 **双極性障害における潜在的危険予測因子としての気圧低下による抑うつ気分**

○近藤 久勝
医療法人社団近藤医院

1-03-3 **循環病と口腔内異常感症、咽喉頭異常感症**

○宮坂 義男、田中 恒孝
医療法人和心会松南病院

1-03-4 **うつ病の個々の症状変化に着目し、初診時の患者対応を考える**

○徳永 雄一郎[1]、奥村 幸祐[1]、島松 まゆみ[1]、原田 康平[1,2]、後藤 玲央[1,2]、川嵜 弘詔[2]、松下 満彦[1]
[1]不知火病院精神科、[2]福岡大学医学部精神医学教室

1-03-5 **治療に難渋し、三環系抗うつ薬で改善がみられた反復性うつ病の 1 例**

○中山 知彦[1]、吉田 朋広[1]、渡部 真也[2]、中瀧 理仁[1]、沼田 周助[2]、大森 哲郎[2]
[1]徳島大学病院精神科神経科、[2]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野

14:50～15:50 一般演題（口演）17
その他

司会：**内山 真**　日本大学医学部精神医学系

1-017-1 **精神科領域におけるダイバーシティとワークライフマネージメントの現状：2017 年調査 –第 2 報**

○安藤 久美子[1]、加茂 登志子[2]、三原 伊保子[3]、池淵 恵美[4]、石井 知行[5]、梅田 寿美代[6]、
榎戸 芙佐子[7]、岸本 年史[8]、佐藤 眞弓[9]、早苗 麻子[10]、平山 太日子[11]、福田 正人[12]、藤井 千代[13]、
布施 泰子[14]、安川 節子[15]、渡辺 雅子[16]
[1]聖マリアンナ医科大学病院、[2]若松町こころとひふのクリニック、[3]三原デイケアクリニックりぼんりぼん、
[4]帝京平成大学大学院臨床心理学研究科、[5]メープルヒル病院、[6]第二大阪警察病院精神科神経科、
[7]医療法人社団和敬会谷野呉山病院、[8]奈良県立医科大学付属病院、[9]佐藤まゆみメンタルクリニック、
[10]萌クリニック、[11]観月診療所、[12]群馬大学大学院、[13]国立精神神経医療研究センター、[14]茨城大学保健管理センター、
[15]熊本ファミリーメンタルクリニック、[16]新宿神経クリニック

1-017-2 **ミルタザピンによる高血糖が強く疑われた糖尿病合併アルコール依存症患者の一例**

○森 康充、金森 敦、藤田 康平
総合心療センターひなが

1-017-3 **当院長期入院中患者に発生した敗血症症例の検討**

○森 康充、藤田 康平
総合心療センターひなが

1-O17-4 **抑うつエピソードへの反復経頭蓋磁気刺激療法と新規刺激条件：無作為化非盲検並行群間比較試験**

○鬼頭 伸輔[1]、宮路 緑[2]、中谷 帆乃加[2]、松田 勇紀[1]、山﨑 龍一[1]、岡本 龍也[2]、五十嵐 良雄[2]
[1]東京慈恵会医科大学精神医学講座、[2]メディカルケア虎ノ門

1-O17-5 **オートノミートレーニング（AT）の日常臨床における適用可能性について**

○植木 啓文
地方独立行政法人岐阜県総合医療センター精神科

16:00～18:00 シンポジウム 27
自然災害時における統合失調症をもつ人々の SST による支援

司会：**浅見 隆康** 群馬大学健康支援総合センター昭和健康支援室
丹羽 真一 福島県立医科大学会津医療センター附属病院

S27-1 **災害急性期における DPAT 活動について**

○五明 佐也香[1,2]、池田 美樹[2]、小見 めぐみ[2]、吉田 航[2]、岸野 真由美[2]、福生 泰久[2]、河嶌 譲[2]、渡 路子[2]
[1]獨協医科大学越谷病院こころの診療科、[2]DPAT事務局

S27-2 **災害時における支援方法としての PFA（サイコロジカル・ファーストエイド）と SST**

○岩田 和彦
地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター

S27-3 **自然災害時における統合失調症をもつ人々の SST による支援**

○天笠 崇[1,2]
[1]代々木病院精神科、[2]京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野

S27-4 **10 のスキルと学習方法**

○浅見 隆康
群馬大学健康支援総合センター昭和健康支援室

〈コーディネーター〉 浅見 隆康 群馬大学健康支援総合センター昭和健康支援室
丹羽 真一 福島県立医科大学会津医療センター附属病院

6月20日（木） F会場（センター 2F 小会場）［中会議室201］

8:30～10:30 委員会シンポジウム 3（ECT・rTMS 等検討委員会）
ECT の標準化に向けて

司会：**水野 雅文** 東邦大学医学部精神神経医学講座
一瀬 邦弘 特定医療法人社団聖美会多摩中央病院

CS3-1 **我が国での電気けいれん療法(ECT)の現況 –日本精神神経学会 ECT・rTMS 委員会の全国調査から–**

○鮫島 達夫[1]、野田 隆政[2]、金野 倫子[3]、神出 誠一郎[4]、一瀬 邦弘[5]、橋本 学[6]、本橋 伸高[7]、澤 温[8]、和田 健[9]、水野 雅文[10]
[1]医療法人泯江堂油山病院精神科、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
[3]埼玉県立大学保健医療福祉学部、[4]東京大学医学部附属病院、[5]特定医療法人社団聖美会多摩中央病院、
[6]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、[7]武蔵野赤十字病院心療内科・精神科、
[8]社会医療法人北斗会さわ病院、[9]広島市立広島市民病院精神科、[10]東邦大学医療センター大森病院

CS3-2 **電気けいれん療法（ECT）の適応**

○安田 和幸[1]、野田 隆政[2]
[1]山梨大学医学部精神神経医学、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

CS3-3 **ECT の術前評価**

○奥村 正紀
大石記念病院精神科

CS3-4 **ECT の治療計画**

○青木 宣篤、嶽北 佳輝、木下 利彦
関西医科大学精神神経科学教室

CS3-5 **ECT におけるインフォームド・コンセント**

○中村 満
医療法人社団翠会成増厚生病院精神科

〈コーディネーター〉 水野 雅文 東邦大学医学部精神神経医学講座
野田 隆政 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

10:40～12:40 委員会シンポジウム 5（認知症委員会）
認知症診療における精神科医の役割 –適正な薬物療法についての再検討–

司会：**武田 雅俊** 学校法人河﨑学園大阪河﨑リハビリテーション大学
森村 安史 一般財団法人仁明会

CS5-1 **抗認知症薬は減らせるのか**

○渕野 勝弘
医療法人社団淵野会緑ヶ丘保養園

CS5-2 **抗精神病薬は減らせるのか**

○新井 平伊
順天堂大学医学部精神医学教室

CS5-3 **向精神薬を用いた認知症治療で留意すべきこと**

○水上 勝義
筑波大学大学院人間総合科学研究科

CS5-4 **過度の薬物療法に頼らない認知症診療**

○三村 將
慶應義塾大学精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 武田 雅俊　　学校法人河﨑学園大阪河﨑リハビリテーション大学

13:50～14:50 一般演題（口演）4
児童・思春期、発達障害 1

司会：**尾崎 紀夫**　名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

1-04-1 **グアンファシン徐放剤の併用によって抗精神病薬を中止できた ADHD＋アスペルガー障害の 1 症例**

○上谷 磨紀[1]、安川 節子[2]
[1]医療法人山田会八代更生病院、[2]熊本ファミリーメンタルクリニック

1-04-2 **三環系抗うつ剤（TCA）により遺尿が改善した ADHD、愛着障害の 2 症例**

○森岡 由紀[1]、安川 節子[2]
[1]医療法人山田会八代更生病院精神科、[2]熊本ファミリーメンタルクリニック

1-04-3 **ダウン症候群の急激退行とアルツハイマー型認知症の鑑別を要した一例**

○松木 晴香、折目 直樹、渡部 雄一郎、森川 亮、須貝 拓朗、染矢 俊幸
新潟大学医歯学総合病院精神科

1-04-4 **緊張病状態を呈した自閉症スペクトラム障害に mECT が奏功した一例**

○河野 ちひろ、赤川 芳樹、吉本 康高、大原 伸騎、大崎 千栄、安岡 江里奈、赤松 正規、
敷井 裕光
高知大学医学部附属病院

1-04-5 **母親に対する被害妄想から入院に至った発達障害者に対しオープンダイアログにて対話実践を行った一例**

○安 泰善、福田 春樹、安孫子 剛、大西 征司、小倉 盛崇、山崎 一毅、坂口 新、長谷川 聖、
日比野 浩之、高屋 淳彦
医療法人財団青山会福井記念病院精神科

14:50～15:50 研修医・学部学生演題（口演）1
研修医・学部学生 1

司会：**長尾 喜一郎**　医療法人長尾会ねや川サナトリウム

1-K01-1 **統合失調症患者に対する心理教育後の DAI-30（Drug Attitude Inventory-30）値と再入院との関係**

○下島 里音[1]、鈴木 雄太郎[2,3]、國塚 拓郎[2]、安部 弘子[2]、今井 理央子[4]、吉田 喬[5]、松澤 幸治[1]、
根井 仁平[1]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟大学医歯学総合病院総合臨床研修センター、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、
[3]医療法人敬愛会末広橋病院、[4]新潟大学医歯学総合病院薬剤部、[5]新潟大学医歯学総合病院栄養管理部

1-K01-2 **当院精神神経科リエゾン・コンサルテーションにおけるステロイド誘発性精神障害の観察研究**

○高橋 優輔[1]、近藤 伸介[1]、八木 優子[1]、緒方 優[1]、山名 隼人[2]、熊倉 陽介[1]、市橋 香代[1]、
笠井 清登[1]
[1]東京大学大学院医学系研究科精神医学分野、[2]東京大学大学院医学系研究科ヘルスサービスリサーチ講座

1-KO1-3 **慢性期統合失調症患者への抗精神病薬 LAI の有効性**

○神川 浩平、高橋 誠人、本多 将人、南 昭宏、松岡 究、山内 崇平、岸本 年史
奈良県立医科大学精神医学講座

1-KO1-4 **筋萎縮性側索硬化症に伴う認知症の一例**

○西 佑記[1]、松田 康裕[1]、松岡 究[1]、大塚 紀朗[1,2]、石岡 希望[1]、岸本 年史[1]
[1]奈良県立医科大学精神医学講座、[2]天理よろづ相談所病院精神神経科

1-KO1-5 **統合失調症患者のサルコペニアについての後ろ向き観察研究**

○松村 美希[1,2]、早川 達郎[2]、待鳥 詔洋[3]、柳内 秀勝[1]、酒匂 赤人[1]
[1]国立国際医療研究センター国府台病院、[2]国立国際医療研究センター国府台病院精神科、
[3]国立国際医療研究センター国府台病院放射線科

16:00～18:00 委員会シンポジウム 8（多職種協働委員会）
訪問診療・訪問看護における多職種協働

司会：**秋山 剛**　NTT東日本関東病院精神科精神神経科
米田 博　大阪医科大学医学部神経精神医学教室

CS8-1 **多職種チームによるアウトリーチと精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム –旭モデルでの経験から–**

○青木 勉
総合病院国保旭中央病院精神科・児童精神科

CS8-2 **医療としての訪問看護**

○花田 政之
黒川病院

CS8-3 **地域ケアと精神科訪問看護**

○辻本 直子
有限会社オラシオン

CS8-4 **当事者が経験から語る精神科医療の多職種協働**

○宇田川 健
認定NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ

〈コーディネーター〉 秋山 剛　NTT東日本関東病院精神科精神神経科

6月20日（木） G会場（センター 3F 小会場）［中会議室301B］

8:30〜10:30 シンポジウム 2
よくわかるうつ病脳科学入門 −臨床医のための脳科学研究講座−

司会：**松尾 幸治** 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
竹林 実 熊本大学医学部附属病院神経精神科

S2-1 **脳機能画像研究からみたうつ病の病態理解**
○岡田 剛
広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医科学

S2-2 **ストレスに強い脳と弱い脳の分子神経メカニズム**
○内田 周作
京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンターSKプロジェクト

S2-3 **ミクログリアを中心とした脳内炎症様反応と情動変容**
○北岡 志保[1]、聶 翔[1]、田中 昂平[2]、小川 惇史[2]、瀬木（西田）恵里[3]、成宮 周[2]、古屋敷 智之[1]
[1]神戸大学大学院医学研究科薬理学分野、[2]京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター、
[3]東京理科大学基礎工学部生物工学科

S2-4 **気分障害（気分症）のゲノム研究**
○池田 匡志
藤田医科大学大学医学部精神神経科学

〈コーディネーター〉 松尾 幸治 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
竹林 実 熊本大学医学部附属病院神経精神科

10:40〜12:40 委員会シンポジウム 6（性同一性障害に関する委員会）
メンタルヘルスの専門家ないし医療者は性的マイノリティについて何を知るべきか

司会：**松本 洋輔** 岡山大学病院ジェンダーセンター
太田 順一郎 岡山市こころの健康センター

CS6-1 **児童思春期の性的マイノリティが疑われる児童の状態と望まれる対応**
○中山 浩
川崎市こども家庭センター

CS6-2 **精神科臨床場面における LGBT の患者への対応**
○針間 克己
はりまメンタルクリニック

CS6-3 **性的マイノリティの健康：自分らしさを模索するために**
○森井 智美
昭和大学医学部精神医学講座

CS6-4 **〔指定発言〕**
○遠藤 まめた
教科書にLGBTを！ネットワーク

〈コーディネーター〉 松本 洋輔 岡山大学病院ジェンダーセンター
太田 順一郎 岡山市こころの健康センター

13:50～14:50 一般演題（口演）5
気分障害 2

司会：**太田 敏男**　さやま総合クリニック

1-05-1　メランコリア（内因性うつ病）の症状学的特徴に関する多施設共同研究 –尺度開発と信頼性・妥当性の検討–

○玉田 有[1,2]、井上 猛[2]、関根 篤[3]、戸田 裕之[4]、武島 稔[2,5]、佐々木 雅明[6]、森田 亘[4]、新留 圭将[4]、大前 晋[6]
[1]虎の門病院分院精神科、[2]東京医科大学精神医学分野、[3]慧眞会ケイメンタルクリニック、
[4]防衛医科大学校精神科学講座、[5]十全会Jクリニック、[6]虎の門病院

1-05-2　産後うつをいつ診断するべきか?退院時、産後 2 週間、産後 1 か月後の 3 点評価

○佐藤 晋爾[1]、齋 洋子[2]、矢口 尚子[2]、秋山 順子[2]、安部 加奈子[2]、沖 明典[3]
[1]茨城県立中央病院兼任筑波大学医学医療系茨城県地域臨床教育センター精神科、[2]茨城県立中央病院産科、
[3]茨城県立中央病院兼任筑波大学医学医療系茨城県地域臨床教育センター産科

1-05-3　うつ病のメタ認知トレーニング（D－MCT）：その概念と実践方法

○石垣 琢麿
東京大学大学院総合文化研究科

1-05-4　制止が優勢な病像を呈し社会機能の低下が顕著な思春期~若年成人期発症のうつ病：3 例の症例報告

○兼子 幸一、朴 盛弘
鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

1-05-5　難治性うつ状態とパーソナリティ障害を併存する患者の行動特徴

○早坂 友成[1,2,3]、長島 泉[1,3]、高江洲 義和[2,3]、坪井 貴嗣[2,3]、片桐 建志[2,3]、野﨑 和博[2,3]、今村 弥生[2,3]、松本 由美[3]、栗原 真理子[2,3]、大江 悠樹[2,3]、二田 未来[3]、渡邊 衡一郎[2,3]
[1]杏林大学保健学部作業療法学科、[2]杏林大学医学部精神神経科学教室、[3]杏林大学医学部付属病院

14:50～15:50 研修医・学部学生演題（口演）2
研修医・学部学生 2

司会：**堀口 淳**　島根大学医学部精神神経学共同研究講座

1-K02-1　脳腫瘍術後の症候性てんかんの治療により、精神症状が改善し、化学療法が遂行できた一例

○外山 皓喜、稲田 健、河野 敬明、林 安奈、山元 健太郎、安楽 勇太、西村 勝治
東京女子医科大学医学部

1-K02-2　ASD が疑われた思春期のうつ病の一例

○法山 勇樹、鳥塚 通弘、太田 豊作、大森 章代、岸本 年史
奈良県立医科大学精神医学講座

1-K02-3　難治性うつ病に対し三環系抗うつ薬を使用した一例

○安田 真和、盛本 翼、松岡 究、森戸 瞳、岸本 年史
奈良県立医科大学精神医学講座

1-K02-4　ドパミントランスポーター分布密度とドパミン作動性神経ネットワークの機能的関連

○小澤 頌[1]、肥田 道彦[2]、守屋 洋紀[2]、坂寄 健[2]、舘野 周[2]、大久保 善朗[2]
[1]日本医科大学医学部、[2]日本医科大学付属病院精神神経科

1-K02-5　clozapine による薬疹を疑われ中止した後に再投与した治療抵抗性統合失調症の一例

○垰本 大喜[1]、近江 翼[2]、藤本 美智子[2]、岩瀬 真生[2]、阿古目 純[3]、中川 幸延[3]、池田 学[2]
[1]大阪大学医学部附属病院精神科、[2]大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、
[3]大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学皮膚科学教室

16:00〜18:00 委員会シンポジウム 9（薬事委員会）
向精神薬と死亡リスク

司会：**稲垣 中**　青山学院大学
三村 將　慶應義塾大学医学部

CS9-1 **精神障害と死亡リスク**

○稲垣 中
青山学院大学教育人間科学部/保健管理センター

CS9-2 **抗精神病薬と死亡リスク**

○助川 鶴平
独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター精神科

CS9-3 **統合失調症患者における抗精神病薬と身体リスク**

○鈴木 雄太郎[1,2]
[1]医療法人敬愛会末広橋病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院

CS9-4 **向精神薬と自殺関連リスク：抗うつ薬を中心として**

○中川 敦夫
慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教育研修部門

CS9-5 **向精神薬投与下での死亡リスクと法律的問題**

○浅田 眞弓
丸ビルあおい法律事務所

〈コーディネーター〉 稲垣 中　青山学院大学
三村 將　慶應義塾大学医学部

6月20日（木） H会場（センター 3F 小会場）［中会議室301A］

8:30～10:30 シンポジウム 3
精神科学と神経免疫学のクロストーク

司会：**神林 崇** 秋田大学附属病院神経科精神科/筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構
来住 由樹 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

S3-1 **自己免疫性脳炎と精神症状**
○田中 惠子[1,2]、大野 萌[1]、筒井 幸[3,4]、神林 崇[3,4]
[1]新潟大学脳研究所モデル動物開発分野、[2]福島県立医科大学多発性硬化症治療学講座、
[3]秋田大学附属病院神経科精神科、[4]筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

S3-2 **精神科臨床を免疫学的な視点で検討することの意義について**
○千葉 悠平[1,2]、阿部 紀絵[1]、服部 早紀[1]、伊倉 崇浩[1]、齋藤 知之[1]、須田 顕[1]、藤城 弘樹[1,3]、
勝瀬 大海[1]、西野 精治[4]
[1]横浜市立大学医学部精神医学教室、[2]医療法人積愛会横浜舞岡病院、[3]医療法人花咲会かわさき記念病院、
[4]スタンフォード大学医学部精神医学

S3-3 **精神疾患と自己抗体の基礎研究と臨床～抗 NMDA 受容体から他受容体へ**
○高木 学
岡山大学病院精神科神経科

S3-4 **精神科領域からみた自己免疫性辺縁系脳炎**
○筒井 幸[1]、馬越 秋瀬[1]、奥口 悠紀[1]、神林 崇[1]、田中 惠子[2]、清水 徹男[3]、三島 和夫[1]
[1]秋田大学附属病院神経科精神科、[2]新潟大学脳研究所、[3]秋田県精神保健福祉センター

〈コーディネーター〉 神林 崇 秋田大学附属病院神経科精神科/筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構
来住 由樹 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

10:40～12:40 シンポジウム 15
自閉スペクトラム症の本質に迫る：感覚・運動機能という新たな視点から

司会：**今村 明** 長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部
小坂 浩隆 福井大学医学部精神医学

S15-1 **自閉スペクトラム症の視覚的選好と疼痛感覚について**
○小坂 浩隆
福井大学医学部精神医学

S15-2 **嗅覚特性からみえる自閉スペクトラム症者の本質**
○熊崎 博一[1,2]
[1]金沢大学子どものこころの発達研究センター、[2]国立研究開発法人国立精神神経医療研究センター

S15-3 **身体性から自閉スペクトラム症を捉え直す～発達性協調運動症という視点～**
○中井 昭夫
武庫川女子大学大学院教育研究所臨床教育学研究科子ども発達科学研究センター

S15-4 **自閉スペクトラム症にみられる協調運動障害の特徴**
○東恩納 拓也[1,2]、岩永 竜一郎[1]
[1]長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、[2]みさかえの園むつみの家

S15-5 **生物心理社会（BPS）モデルによる自閉スペクトラム症の感覚の問題の検討**
○今村 明
長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部

S15-6 〔指定発言〕

○内山 登紀夫
大正大学心理社会学部臨床心理学科

〈コーディネーター〉 今村 明　長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部
小坂 浩隆　福井大学医学部精神医学
熊崎 博一　金沢大学子どものこころの発達研究センター

13:50〜14:50 一般演題（口演）6
気分障害 3

司会：**西川 徹**　昭和大学医学部薬理学講座・京都府立大学精神機能病態学

1-06-1 **双極性感情障害の長期罹患中に、前頭側頭型認知症と高齢初発てんかんを発症した 2 症例**

○田辺 瑞穂[1]、長谷川 直哉[2]、渡部 裕美子[3]、和知 学[1]
[1]新潟信愛病院精神科、[2]国立病院機構西新潟中央病院てんかん科、[3]信楽園病院脳神経内科

1-06-2 **重度うつ病患者の入院治療におけるポジティブサイコロジー**

○島松 まゆみ[1]、後藤 玲央[2]、松下 満彦[1,2]、徳永 雄一郎[1,2]
[1]医療法人社団新光会不知火病院、[2]福岡大学医学部精神医学教室

1-06-3 **治療抵抗症うつ病患者における終夜睡眠ポリグラフ検査所見と臨床指標及び向精神薬との関連**

○神田 優太[1]、高江洲 義和[1]、坪井 貴嗣[1]、野﨑 和博[1]、今村 弥生[1]、中島 亨[2]、渡邊 衡一郎[1]
[1]杏林大学精神神経学教室、[2]杏林大学保健学部臨床心理学科

1-06-4 **抗うつ薬未服用患者を対象とした乱数生成課題時の自律神経応答を用いた年代別うつ病スクリーニング法の開発**

○林原 史明[1]、松井 岳巳[1]、榛葉 俊一[1,2]、孫 光鎬[1,3]、仮屋 暢聡[4]
[1]首都大学東京システムデザイン学部、[2]静岡済生会総合病院、[3]電気通信大学、[4]マインズタワーメンタルクリニック

1-06-5 **強迫を腑分けする**

○小林 聡幸
自治医科大学精神医学講座

14:50〜15:50 研修医・学部学生演題（口演）3
研修医・学部学生 3

司会：**山本 賢司**　東海大学医学部専門診療学系精神科学

1-K03-1 **鑑別と診断に苦慮した遷延するアルコール離脱せん妄の一例**

○長妻 渉、新名 尚史、塚本 亮、木村 敦、蓬莱 政、大塚 郁夫、青山 慎介、菱本 明豊、曽良 一郎
神戸大学医学部附属病院

1-K03-2 **2 型糖尿病を合併した抑うつ患者の食行動と血糖コントロールに関する後方視研究**

○木下 慶一朗[2]、早川 達郎[1]、柳内 秀勝[2]、酒匂 赤人[2]
[1]国立国際医療研究センター国府台病院精神科、[2]国立国際医療研究センター国府台病院総合内科

1-K03-3 **下剤濫用を伴う神経性やせ症に肝線維化・間質性腎炎を合併した一例**

○栗原 優[1,4]、富田 吉敏[3]、河合 啓介[2]、田村 奈穂[2]、細川 真理子[2]、村上 匡史[2]
[1]国立国際医療研究センター国府台病院、[2]国立国際医療研究センター国府台病院心療内科、
[3]国立精神・神経医療研究センター病院総合内科部心療内科、[4]東京医科歯科大学医学部附属病院精神科

1-KO3-4 **亜昏迷状態を呈した双極性感情障害にレビー小体病の合併を認めた一例**

○平井 靖明、松岡 究、山口 泰成、隅田 江美、中島 史裕、山内 崇平、岸本 年史
奈良県立医科大学精神医学講座

16:00～18:00 **シンポジウム 28**

身体症状症および関連症群の治療導入はどうすべきか？ –最前線の臨床医による工夫–

司会：**宮岡 等** 北里大学医学部精神科学
明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

S28-1 **身体症状症および関連症群の積極的診断と適切な連携 –総合診療の立場から–**

○上田 剛士
洛和会丸太町病院救急総合診療科

S28-2 **身体症状症および関連症群における精神科医の役割の重要性と初期治療**

○富永 敏行
京都府立医科大学大学院医学系研究科精神機能病態学

S28-3 **身体症状症および関連症群の治療の円滑な導入および成功への戦略 –薬物療法の立場から–**

○名越 泰秀
京都第一赤十字病院精神科（心療内科）

S28-4 **身体症状症および関連症群の治療導入 –認知行動療法の立場から–**

○近藤 真前
名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

〈コーディネーター〉 名越 泰秀 京都第一赤十字病院精神科（心療内科）
富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

6月20日（木） I会場（センター 3F 小会場）[中会議室302B]

8:30〜10:30 シンポジウム 4
新精神科専門医制度における内科教育の実践

司会：**清水 勇雄** 医療法人恵風会高岡病院
俊野 尚彦 医療法人財団光明会明石こころのホスピタル

S4-1 **新医師臨床研修制度を通して見えてくる精神科医の意識変化**

○澤頭 亮[1]、佐藤 明[5]、大矢 希[4]、中神 由香子[3]、堀之内 徹[2]
[1]北海道大学医学院・医学研究院医学部医学科神経生理学教室、
[2]北海道大学大学院医学院神経病態学講座精神医学教室、[3]京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座（精神医学）、
[4]京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、[5]京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野

S4-2 **リエゾンチームにおいて精神科医に期待すること**

○杉野 幸恵
地方独立行政法人りんくう総合医療センター

S4-3 **精神科で内科教育を実践するにはどうすればよいのか**

○中島 亮太郎
特定医療法人恵風会高岡病院精神科

S4-4 **精神科専門医制度における内科教育の実践：救急医の立場から**

○石田 琢人
東京都立墨東病院救命救急センター

S4-5 **新精神科専門医制度における内科教育の実践 −持続可能な教育：Clinical problem-solving を用いて−**

○清水 勇雄
医療法人恵風会高岡病院精神科

〈コーディネーター〉 清水 勇雄 医療法人恵風会高岡病院
俊野 尚彦 医療法人財団光明会明石こころのホスピタル
中島 亮太郎 医療法人恵風会高岡病院

10:40〜12:40 シンポジウム 16
症状把握を掘り下げる

司会：**内海 健** 東京藝術大学保健管理センター
古茶 大樹 聖マリアンナ医科大学病院

S16-1 **意識障害の精神病理**

○兼本 浩祐
愛知医科大学精神神経科

S16-2 **症状の生まれる場所**

○藤山 直樹
上智大学総合人間科学部心理学科

S16-3 **了解と病態把握**

○熊﨑 努
東京農工大学保健管理センター

〈コーディネーター〉 内海 健 東京藝術大学保健管理センター
古茶 大樹 聖マリアンナ医科大学病院

13:50〜14:50 一般演題（口演）7
脳器質性・症状性精神病障害 1

司会：**細田 眞司**　細田クリニック

1-07-1　過換気症候群として治療されていたもやもや病の一例

○樋口 悠子[1]、高橋 努[1]、木戸 幹雄[1]、黒田 敏[2]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、[2]富山大学大学院医学薬学研究部脳神経外科学講座

1-07-2　人物認知の障害を初期症状として後部脳の機能低下が顕著な Creutzfeldt-Jakob 病の 1 例

○大井 博貴[1,2]、船山 道隆[1,2]、三村 悠[1,2]、高田 武人[1,2]、三村 將[2]
[1]足利赤十字病院神経精神科、[2]慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

1-07-3　前頭葉症状を呈した脳梁菲薄化を伴うクッシング症候群の一例

○武藤 悠平、上野 幹二、小坂 浩隆、大森 一郎
福井大学医学部附属病院神経科精神科

1-07-4　多彩な精神症状を呈した臍帯血移植後 HHV6 脳炎の一例

○福島 春子[1]、鶴谷 茂[2]、宮井 宏之[1]、大谷 恭平[1]、松石 邦隆[1]
[1]神戸市立医療センター中央市民病院精神・精神科、[2]神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部

1-07-5　感冒症状後にチック症状と強迫症状の出現増悪を認め、PANDAS が疑われた 1 例

○青井 駿[1,2]、梅原 英裕[1]、郷司 彩[1,3]、東田 好広[1,3]、高橋 幸利[4]、渡部 真也[5]、中瀧 理仁[1,4]、
沼田 周助[4,5]、大森 哲郎[5]
[1]徳島大学病院精神科神経科、[2]徳島県立中央病院、[3]徳島大学病院小児科、[4]静岡てんかん・神経医療センター、
[5]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野

14:50〜15:50 一般演題（口演）18
脳器質性・症状性精神病障害 3

司会：**山田 尚登**　社会医療法人杏嶺会上林記念病院

1-018-1　せん妄におけるスボレキサントの有用性

○沖野 和麿[1]、鈴木 洋久[1,2]、富岡 大[1,2]、山田 浩樹[1,2]、野崎 伸次[1,2]、佐藤 裕一[1]、岩波 明[2]、
稲本 淳子[1,2]
[1]昭和大学横浜市北部病院精神科、[2]昭和大学医学部精神医学講座

1-018-2　精神症状に修正型電気けいれん療法が著効した橋本脳症の 1 症例

○松井 宏樹[1]、田端 一基[1]、米田 誠[2]、中山 貴裕[1]、昔農 雄太[1]、飯田 愛弓[1]、森川 文淑[1]、
鈴木 太郎[1]、直江 綾子[1]、猪俣 光孝[1]、直江 寿一郎[1]
[1]医療法人社団旭川圭泉会病院、[2]福井県立大学看護福祉学部看護学科

1-018-3　片頭痛に関連して幻覚妄想状態を呈した症例

○井上 悟
医療法人静和会浅井病院精神科

1-018-4　筋萎縮性側索硬化症診断後に生じた精神病性うつ病に対し修正電気痙攣療法が奏功した一例

○宮田 潮[1]、射場 亜希子[1,2]、曽我 洋二[1]、寺澤 英夫[2]、土居 正典[1]、田中 究[1]
[1]兵庫県立ひょうごこころの医療センター精神科、[2]兵庫県立姫路循環器病センター

1-018-5　向精神薬の投与のみで改善した NPSLE の 2 症例の病態についての考察

○中村 啓信、田畑 光一、田中 修、谷 顕、石倉 菜子
青梅市立総合病院

16:00〜18:00 シンポジウム 29
てんかんと知的障害の併存症例に対する精神科医の工夫と取り組み

司会：**兼本 浩祐**　愛知医科大学精神神経科
辻 富基美　和歌山県立医科大学医学部神経精神科

S29-1 **知的障害を併存するてんかんの診療**

○西田 拓司
静岡てんかん・神経医療センター精神科

S29-2 **知的障害を併存する心因性非てんかん性発作（PNES）の診療**

○谷口 豪[1]、藤岡 真生[1]、岡村 由美子[1]、矢野 健一[2]
[1]東京大学医学部附属病院精神神経科、[2]東京大学医学部附属病院リハビリテーション部

S29-3 **てんかんと知的障害を併存する患者の行動障害の診療**

○川崎 淳
川崎医院

S29-4 **知的障害とてんかんを併存する患者の小児科と精神科との連携上の課題**

○栗原 まな
神奈川県総合リハビリテーションセンター小児科

〈コーディネーター〉 辻 富基美　和歌山県立医科大学医学部神経精神科
兼本 浩祐　愛知医科大学精神神経科

6月20日（木） J会場（センター 3F 小会場）［中会議室302A］

8:30～10:30 シンポジウム 5
双極性障害の予後を悪化させる要因と対応

司会：**神庭 重信** 九州大学
秋山 剛 NTT東日本関東病院

S5-1 **双極性障害と攻撃性**
○寺尾 岳
大分大学医学部精神神経医学講座

S5-2 **職域不適応の発生プロセスとリワーク支援の意義**
○秋山 剛
NTT東日本関東病院精神科精神神経科

S5-3 **双極性障害に対する抗うつ薬使用の功罪**
○田中 輝明
KKR札幌医療センター精神科

S5-4 **不十分量・不十分期間の気分安定薬・非定型抗精神病薬の使用**
○山田 和男
東北医科薬科大学病院精神科

S5-5 **不適切な患者対応～患者会の意見より**
○鈴木 映二
東北医科薬科大学医学部精神科学教室

〈コーディネーター〉 山田 和男 東北医科薬科大学病院精神科
鈴木 映二 東北医科薬科大学病院精神科

10:40～12:40 シンポジウム 17
精神疾患の臨床病理検討（CPC）から疾病を理解する精神科ブレインバンクへの期待（その 3）

司会：**入谷 修司** 名古屋大学医学部精神科
池田 研二 香川大学医学部附属病院

S17-1 **統合失調症における臨床病理検討（clinicopathological conference；CPC）の重要性**
○鳥居 洋太
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

S17-2 **摂食障害の病態解明に向けた神経病理学的検討**
○河上 緒[1,2,3]
[1]東京都健康長寿医療センター研究所、[2]東京都医学総合研究所、[3]東京都立松沢病院

S17-3 **気分障害の臨床病理検討**
○藤城 弘樹
かわさき記念病院精神科

S17-4 **精神症状から始まる変性疾患の臨床病理検討（CPC）．AGD の疾患概念の確立から治療まで**
○池田 研二
香川大学医学部炎症病理学

S17-5 **精神疾患でなく精神神経疾患としての CPC −精神科医に役立つ CPC−**

○吉田 眞理
愛知医科大学加齢医科学研究所

S17-6 **〔指定発言〕**

○新井 哲明
筑波大学附属病院

〈コーディネーター〉 入谷 修司　名古屋大学医学部精神科
池田 研二　香川大学医学部附属病院

13:50〜14:50 一般演題（口演）8
脳器質性・症状性精神病障害 2

司会：**宮岡 等**　北里大学医学部精神科学

1-08-1 **高次脳機能障害を有する脳損傷患者の激しい怒りの爆発(anger burst)に対して認知行動療法が奏効した 2 症例**

○宗 未来[1,2]、菊地 俊暁[2]、堀田 章悟[2]、山市 大輔[2]、藤澤 大介[2]、佐渡 充洋[2]、斎藤 文恵[2]、山縣 文[2]、三村 將[2]
[1]東京歯科大学市川総合病院精神科、[2]慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

1-08-2 **精神疾患を疑われ当科紹介となった辺縁系脳炎 7 例についての検討**

○齋藤 実奈子、菊池 孝、岡崎 伸郎
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター精神科

1-08-3 **VMAT2 特異的阻害薬により抑うつ症状を呈したハンチントン病の 1 例**

○笠毛 渓[1]、冨永 佳吾[1]、塩川 奈理[1]、林 岳宏[1]、石塚 貴周[1]、山田 康一郎[2]、寿 幸治[3]、中村 雅之[1]、佐野 輝[1]
[1]鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野、[2]やまだメンタルクリニック、[3]公益財団法人慈愛会谷山病院

1-08-4 **精神病症状を伴うパーキンソン病患者に対する電気けいれん療法の有用性**

○板垣 圭、石川 亮、山下 理英子、増田 慶一、和田 健
広島市民病院精神科

1-08-5 **非パーキンソン症状への精神科介入によって適切な病態理解と治療介入につながったパーキンソン症候群の一例**

○豊田 早織、田村 赳紘、治徳 大介、車地 暁生
東京医科歯科大学医学部附属病院

14:50〜15:50 一般演題（口演）19
気分障害 5

司会：**中村 純**　社会医療法人北九州古賀病院

1-019-1 **悪性緊張病を呈した双極性障害の 1 例**

○大和田 環、佐々木 はづき、近藤 年隆、長谷川 千絵、岡安 寛明、下田 和孝
獨協医科大学病院精神神経科

1-019-2 **大うつ病性障害と双極性障害の鑑別における TEMPS-A 短縮版の有用性**

○森下 千尋[1]、成瀬 麻夕[1]、亀山 梨絵[2]、戸田 裕之[3]、久住 一郎[4]、井上 猛[1,4]
[1]東京医科大学精神医学分野、[2]滝川市立病院精神神経科、[3]防衛医科大学校精神科学講座、[4]北海道大学大学院医学研究院精神医学教室

1-O19-3 **鑑別に苦慮した高齢発症の双極性障害の 1 例**

○北林 佳晃、藤平 明広、岡安 寛明、下田 和孝
獨協医科大学精神神経医学講座

1-O19-4 **双極性障害における内服自己中断の問題 –家族間葛藤や生活習慣など複数の要因が関係していた症例を通じて–**

○松田 有史、吉村 篤、藤井 勇佑、眞田 陸、栗山 健一
滋賀医科大学医学部付属病院精神医学講座

1-O19-5 **父子関係への家族介入後、急激なうつ病の改善と宗教観の変化を示したキリスト教牧師の一例**

○小川 晴香、白石 直、沢田 光代、石川 貴康、真川 明将、関口 文乃、明智 龍男
名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

16:00～18:00 **シンポジウム 30**
過眠は神経症状か、精神症状か？

司会：**栗山 健一** 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部
北島 剛司 藤田医科大学医学部精神神経科学講座

S30-1 **ねむけ・過眠の精神生理学的特徴**

○吉池 卓也
滋賀医科大学精神医学講座

S30-2 **睡眠–覚醒障害における過眠の位置づけ～ナルコレプシーにおける過眠**

○神林 崇[1,2]、今西 彩[1]、近藤 英明[2]、大森 佑貴[1]、吉沢 和久[1]、筒井 幸[1]、小野 太輔[1]、鈴木 りほ[1]、成田 恵理子[1]、高橋 淳[1]
[1]秋田大学医学部附属病院精神科、[2]筑波大学睡眠研究機構

S30-3 **気分障害における過眠**

○鈴木 正泰、内山 真
日本大学医学部精神医学系

S30-4 **発達障害における過眠**

○北島 剛司
藤田医科大学医学部精神神経科学講座

〈コーディネーター〉 栗山 健一 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部
北島 剛司 藤田医科大学医学部精神神経科学講座

6月20日（木） K会場（センター 3F 中会場）［小会議室303＋304］

8:30～10:30 シンポジウム 6
精神病理学の古典を再読する：DSM 精神医学の補完を目指して

司会：**加藤 敏** 医療法人心救会小山富士見台病院/自治医科大学精神医学教室
大嶋 明彦 佐野厚生総合病院精神神経科/慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

S6-1 **急性期と慢性期を区別して構想するグリージンガーの治療的視点**
○加藤 敏
医療法人心救会小山富士見台病院/自治医科大学精神医学教室

S6-2 **精神医学における疾患とは何か –クルト・シュナイダーに学ぶ臨床精神病理学**
○古茶 大樹
聖マリアンナ医科大学神経精神科

S6-3 **うつ病患者の気質・発病状況・発症・症状形成を包括的に説明するテレンバッハ**
○阿部 隆明
自治医科大学とちぎ子ども医療センター子どもの心の診療科

S6-4 **偉大な多元主義者としての内村祐之**
○大嶋 明彦[1,2]
[1]佐野厚生総合病院精神神経科、[2]慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 加藤 敏 医療法人心救会小山富士見台病院/自治医科大学精神医学教室
大嶋 明彦 佐野厚生総合病院精神神経科/慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

10:40～12:40 シンポジウム 18
ICD-11 に収載された複雑性 PTSD の理解と治療 –トラウマケア技法の実際–

司会：**松本 俊彦** 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
新谷 宏伸 本庄児玉病院/USPT研究会

S18-1 **複雑性 PTSD からの回復とホログラフィートーク**
○嶺 輝子
アースシー・ヒーリング・セラピー

S18-2 **映像で見る USPT の実際（精神科外来編）–第二次構造的解離としての複雑性 PTSD–**
○新谷 宏伸[1,2]
[1]本庄児玉病院、[2]USPT研究会

S18-3 **複雑性 PTSD に対するスキーマ療法の臨床実践**
○伊藤 絵美
洗足ストレスコーピング・サポートオフィス

S18-4 **注視によりトラウマへの焦点化を強め、根こそぎに処理を行う心理療法「ブレインスポッティング」**
○鈴木 孝信[1,2]
[1]赤坂クリニック、[2]アダムズ州立大学

S18-5 **〔指定発言〕**
○植村 太郎
独立行政法人労働者健康安全機構神戸労災病院

〈コーディネーター〉 新谷 宏伸 本庄児玉病院/USPT研究会
黒木 俊秀 九州大学大学院人間環境学研究院臨床心理学講座
松本 俊彦 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

13:50～14:50 一般演題（口演）9
気分障害 4

司会：**森 隆夫**　あいせい紀年病院

1-09-1 **ストレスケア病棟でのうつ病治療と自殺防止効果について**

○栗田 輝久[1]、佐藤 悟朗[3]、松下 満彦[2]、徳永 雄一郎[2]
[1]医療法人社団桜珠会可也病院、[2]医療法人社団新光会不知火病院、[3]医療法人社団更生会草津病院

1-09-2 **亜鉛補充療法後に抑うつ症状の改善をみた亜鉛欠乏を伴う産後うつ病の一例**

○平野 ゆかり
真野みずほ病院診療部

1-09-3 **L-dopa 投与により Anhedonia が著明に改善した Parkinson 病の一例**

○天木 雄大[1]、松田 勇紀[1]、繁田 雅弘[1]、小曽根 基裕[2]
[1]東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科、[2]久留米大学医学部神経精神医学講座

1-09-4 **入院治療の意義**

○松下 満彦[1,2]、徳永 雄一郎[1]、奥村 幸祐[1]、高田 和秀[1,2]、島松 まゆみ[1]、小柳 綾[1]、原田 康平[1,2]、後藤 玲央[1,2]、川嵜 弘詔[2]
[1]医療法人社団新光会不知火病院、[2]福岡大学病院

1-09-5 **うつ病患者における非言語性情動音声を用いた感情評価に関する予備的研究**

○肥田 道彦[1]、長峰 愛[2]、川良 徳広[2]、大久保 善朗[1]
[1]日本医科大学付属病院精神神経科、[2]文京学院大学

14:50～15:50 一般演題（口演）20
統合失調症 4

司会：**西村 良二**　福岡大学医学部総合医学研究センター

1-020-1 **アリピプラゾール持効性注射剤と多職種による関わりで治療継続が可能となった妄想性障害の 1 例**

○金 悠七、斎藤 武、池水 結輝、小吉 伸治、山本 千尋、焼田 まどか、町澤 暁、高瀬 正幸、木村 敦史、石川 雅智、伊豫 雅臣
千葉大学医学部付属病院精神神経科

1-020-2 **児童期統合失調症の急性期において、自発描画が診断・治療の一助となった一例**

○岡井 公志[1]、渡邊 さつき[1]、谷木 夏妃[1]、高杉 綾香[1]、今泉 照明[1]、倉持 泉[1]、平田 吾一[1]、松岡 孝祐[1,2]、横山 富士男[1]、松尾 幸治[1]、太田 敏夫[1]
[1]埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科、[2]埼玉医科大学国際医療センター精神科救命救急科

1-020-3 **ARMS に対し中等量の抗精神病薬投与にて改善を得た一例**

○二井矢 峻、田村 赳紘、塩江 遼太、治徳 大介、車地 暁生、篠竹 利和、若山 由賀里
東京医科歯科大学医学部附属病院精神科

1-020-4 **クロザピン使用者における耐糖能異常 –本邦全例調査の結果より–**

○宮内 美貴子[1]、松井 健太郎[1]、稲田 健[1]、河野 仁彦[2]、押淵 英弘[1]、石郷岡 純[3]、西村 勝治[1]
[1]東京女子医科大学医学部精神医学講座、[2]医療法人一誠会都城新生病院、[3]CNS薬理研究所

16:00〜18:00 シンポジウム 31
医療倫理コンサルテーションと意思決定支援：リエゾン精神医学の新たな課題

司会：**西村 勝治**　東京女子医科大学医学部精神医学講座
中嶋 義文　社会福祉法人三井記念病院

S31-1 **臓器移植における意思決定支援**

○木村 宏之
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

S31-2 **周産期医療における倫理的な問題 −精神科医の役割−**

○竹内 崇
東京医科歯科大学医学部附属病院精神科

S31-3 **がんにおける意思決定支援**

○小川 朝生
国立がん研究センター東病院先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野

S31-4 **維持血液透析の開始と継続に関する精神科コンサルテーション**

○大内 雄太[1]、藤倉 恵美[2]
[1]庄子内科クリニック精神科・心療内科、[2]東北大学病院血液浄化療法部

〈コーディネーター〉 西村 勝治　東京女子医科大学医学部精神医学講座
中嶋 義文　社会福祉法人三井記念病院

6月20日（木） L会場（センター 3F 中会場）[小会議室306＋307]

8:30～10:30 **委員会シンポジウム 4**（精神保健に関する委員会）
育てと育ちの精神医学～困難な育児・逆境における育ちの支え II～

司会：**吉益 光一** 和歌山県立医科大学医学部衛生学
笠原 麻里 医療法人財団青渓会駒木野病院

CS4-1 **医療・保健・福祉が連携した周産期の親子支援のあり方について**
○立花 良之[1]、小泉 典章[2]
[1]国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科、[2]長野県精神保健福祉センター

CS4-2 **東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援より（第２報）**
○八木 淳子
岩手医科大学医学部神経精神科学講座

CS4-3 **児童精神科臨床における養育支援の取り組み**
○細金 奈奈
恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科

CS4-4 **思春期・青年期における基本的価値観に関する被影響体験と心の健康：日本の大学における調査研究**
○阪上 優
京都大学健康科学センター

CS4-5 **〔指定発言〕**
○加茂 登志子
若松町こころとひふのクリニック

〈コーディネーター〉 加茂 登志子 若松町こころとひふのクリニック
笠原 麻里 医療法人財団青渓会駒木野病院

10:40～12:40 **シンポジウム 19**
うつ病リワークプログラムの始め方、続け方～クリニック、病院、大学、and etc

司会：**大橋 昌資** 医療法人啓夏会響ストレスケア~こころとからだの診療所
柴田 信義 たてばやし心療クリニック

S19-1 **地方都市のうつ病休職者におけるリワークプログラムの意義**
○高橋 誠
まことクリニック

S19-2 **大学病院におけるリワークプログラム**
○田中 佐千恵[1]、岩井 龍之介[2]、中野 未来[2]、犬飼 清香[3]、寺澤 美穂[4]、濱本 緑[5]、北澤 加純[5]、北村 由佳[4]、小林 正義[1]、杉山 暢宏[1,5]、鷲塚 伸介[5]
[1]信州大学医学部保健学科、[2]信州大学医学部附属病院リハビリテーション部、
[3]信州大学医学部附属病院医療福祉支援センター、[4]信州大学医学部附属病院薬剤部、[5]信州大学医学部精神医学教室

S19-3 **リワークプログラムの安定の為の課題**
○後藤 智行
柏駅前なかやまメンタルクリニック

S19-4 **地方都市の単科病院におけるリワーク**
○後藤 剛
社会医療法人二本松会山形さくら町病院医局

S19-5 〔指定発言〕
○鷲塚 伸介
信州大学医学部精神医学教室

S19-6 〔指定発言〕
○岡 敬
医療法人十全会十全病院

〈コーディネーター〉 大橋 昌資　医療法人啓夏会響ストレスケア~こころとからだの診療所
岡 敬　医療法人十全会十全病院

13:50～14:50 一般演題（口演）10
産業精神医学

司会：**佐久間 啓**　社会医療法人あさかホスピタル

1-010-1 **医学生・研修医の抑うつとバーンアウト –卒前卒後の縦断的調査–**
○三好 良英[1]、松尾 寿栄[1]、小松 弘幸[2]、石田 康[1]
[1]宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野、[2]宮崎大学医学部医療人育成支援センター

1-010-2 **リワークデイケアとフードバンクのコラボレーション**
○三好 修、髙見 裕也、穴井 卓杜、廣瀬 亜耶、姫野 美奈、大倉 千賀子
こころの先生クリニック

1-010-3 **福島県で就労している行政職員のメンタルヘルスの経年変化**
○竹林 唯[1,2]、前田 正治[1,2]、瀬藤 乃理子[1,2]、伊藤 亜希子[1,2]、桃井 真帆[1,2]、後藤 紗織[1,2]
[1]福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座、[2]福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

1-010-4 **メンタルヘルス不調者の復職から３年間の就業継続率 –休業回数の影響–**
○三嶋 正芳[1]、足立 浩祥[2]、三嶋 千恵子[3]、清水 政彦[1]、中島 淑貴[1]
[1]ダイハツ工業保健センター、[2]大阪大学キャンパスライフ健康支援センター、[3]市立伊丹病院

14:50～15:50 一般演題（口演）21
統合失調症５

司会：**池淵 恵美**　帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

1-021-1 **精神科病院でのオープンダイアローグの試み –クライシスから３ヶ月で就労へ至った一例–**
○西 泰孝、村上 純一、石田 展弥
琵琶湖病院精神科

1-021-2 **松沢病院を受診する強迫症患者の特徴 特に併存症、発症契機や洞察に関する考察**
○岡村 泰[1]、杉本 達哉[3]、川瀬 愛[2]、梅田 夕奈[2]、根路銘 要太[2]、福田 陽明[2]、松本 光輔[2]、
針間 博彦[2]、齋藤 正彦[2]、平安 良雄[4]
[1]東京都立松沢病院/横浜市立大学医学部精神医学教室、[2]東京都立松沢病院、[3]静岡県立静岡がんセンター、
[4]医療法人へいあん平安病院

1-021-3 **高血圧が誘因であることが示唆された反復性の緊張病の１例**
○石井 沙安也、岡安 寛明、佐々木 はづき、藤井 久彌子、下田 和孝
獨協医科大学病院精神神経医学講座

1-021-4 **担当医の退院前訪問により効果的な支援体制が構築できた７症例**
○稲熊 徳也、崎川 典子、正木 秀和、黒田 治、齋藤 正彦
東京都立松沢病院精神科

1-021-5 **アリピプラゾールで急性増悪したが m-ECT 後にブレクスピプラゾールで安定したドパミン過感受性精神病の一例**

○早津 龍之介、小林 玲美子、阿久津 実彩、大木 望、大石 賢吾、大岩 宜博、小田 靖典、小松 英樹、佐々木 剛、伊豫 雅臣
千葉大学医学部附属病院精神神経科

16:00～18:00 委員会シンポジウム 10（災害支援委員会）
近年の自然災害から学ぶ精神保健医療支援の実際 –身近な地域での災害発生に備えて–

司会：**福島 昇**　新潟市こころの健康センター
矢田部 裕介　熊本こころのケアセンター

CS10-1 **北海道胆振東部地震における災害時精神保健医療活動**

○岡﨑 大介
北海道立精神保健福祉センター

CS10-2 **岡山県の豪雨災害における DPAT 活動について**

○野口 正行、岡崎 翼
岡山県精神保健福祉センター

CS10-3 **熊本地震における受援を経験して～保健師の立場から～**

○日高 梨沙
御船町役場健康づくり支援課

CS10-4 **東日本大震災を通して考える災害での支援と受援：宮城での経験から**

○松本 和紀[1,2,3]、林 みづ穂[4]、小原 聡子[5]、福地 成[3]、原 敬造[6,7]
[1]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、[2]東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄附講座、[3]みやぎ心のケアセンター、[4]仙台市精神保健福祉総合センター、[5]宮城県精神保健福祉センター、[6]原クリニック、[7]震災こころのケア・ネットワークみやぎ

〈コーディネーター〉 福島 昇　新潟市こころの健康センター
松原 六郎　公益財団法人松原病院

6月20日（木） M会場（センター 4F 中会場）[国際会議室]

8:30～10:30 シンポジウム 7
精神科救急・急性期医療と地域包括ケア～厚生労働科学研究の成果～

司会：**澤 温** 社会医療法人北斗会さわ病院

S7-1 精神科救急及び急性期医療サービスにおける医療判断やプロセスの標準化と質の向上に関する研究

○杉山 直也[1,2,3]
[1]公益財団法人復康会沼津中央病院、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
[3]一般社団法人日本精神科救急学会

S7-2 精神科救急及び急性期医療に関する実態と課題に関する研究

○平田 豊明[1,2,3]
[1]千葉県精神科医療センター、[2]医療法人学而会木村病院、[3]一般社団法人日本精神科救急学会

S7-3 地域包括ケアにおけるプレ・ホスピタルケア

○塚本 哲司[1,2]
[1]埼玉県立精神医療センター、[2]一般社団法人日本精神科救急学会

S7-4 〔指定発言〕

○戸部 美起
厚生労働省

〈コーディネーター〉 杉山 直也 公益財団法人復康会沼津中央病院/国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
藤井 千代 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

10:40～12:40 シンポジウム 20
てんかんと精神医療の新たな連携の形（psycho-epileptology）

司会：**山田 了士** 岡山大学大学院精神神経病態学教室
和田 健 広島市立広島市民病院精神科

S20-1 てんかん外科と精神医療の連携

○西田 拓司
静岡てんかん・神経医療センター精神科

S20-2 小児科と精神科の医療連携：てんかんのトランジション

○谷口 豪[1]、佐藤 敦志[2]、藤岡 真生[1]、岡村 由美子[1]
[1]東京大学医学部附属病院精神神経科、[2]東京大学医学部附属病院小児科

S20-3 精神科医療からてんかん医療へ～てんかんと脳波を知っておく重要性～

○渡邊 さつき
埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

S20-4 精神科病院とてんかん専門クリニックの連携および現状の課題

○天神 雄也
医療法人社団翠会成増厚生病院精神科医局

〈コーディネーター〉 山田 了士 岡山大学大学院精神神経病態学教室
渡辺 雅子 新宿神経クリニック
谷口 豪 東京大学医学部附属病院

13:50～14:50 一般演題（口演）11
神経症

司会：**久住 一郎**　北海道大学大学院医学研究院精神医学教室

1-011-1 **憑依障害を伴った解離性同一性障害の一例**

○小栗 康平
早稲田通り心のクリニック

1-011-2 **複合的なアプローチで効果を認めた高齢の身体症状症の一例**

○阪上 和美[1]、関口 剛[1]、松本 英夫[1,2]
[1]医療法人丹沢病院、[2]東海大学医学部付属病院精神科

1-011-3 **症状の素因子から迫る ASD 及びその他疾患の解釈**

○木村 潤
木村ネットカウンセリング

1-011-4 **ためこみ症に対して入院行動療法が奏功した一例**

○溝部 太郎、中尾 智博、山田 聖、神庭 重信
九州大学病院精神科神経科

1-011-5 **暴露療法的アプローチにより内服が可能になった身体症状症の一例**

○坪内 浩一、安部 賢郎、吉田 卓、清水 秀明、森 崇明、上野 修一
愛媛大学医学部附属病院

14:50～15:50 一般演題（口演）22
脳器質性・症状性精神病障害/その他

司会：**根本 隆洋**　東邦大学医学部精神神経医学講座

1-022-1 **ハンチントン病による精神症状に対しブロナンセリンが有効であった一例**

○嶋田 修一郎、丸山 直樹、山田 治、渡部 和成
医療法人崇徳会田宮病院

1-022-2 **幻覚妄想を伴う抑うつ症状を呈するパーキンソン病の治療について –電気けいれん療法が奏功した症例を通じて**

○山本 佳樹[1]、吉村 篤[1]、藤井 勇佑[2]、眞田 陸[2]、北村 彰浩[3]、川合 寛道[3]、栗山 健一[1,2]
[1]滋賀医科大学医学部附属病院精神科、[2]滋賀医科大学精神医学講座、[3]滋賀医科大学医学部附属病院脳神経内科

1-022-3 **思春期のうつ病による心因性腹痛とみなされていた前皮神経絞扼症候群の一例**

○横山 宜史[1]、白木 亮祐[1]、藤平 明広[1]、岡安 寛明[1]、渡邊 崇[1]、椎木 麻姫子[2]、任 理宏[2]、
志水 太郎[2]、下田 和孝[1]
[1]獨協医科大学病院精神神経医学講座、[2]獨協医科大学病院総合診療医学講座

1-022-4 **「うつ」の進化精神医学**

○高野 覚
医療法人社団明雄会本庄児玉病院精神科

1-022-5 **Microbleeds を伴った Adult-onset leukoencephalopathy with axonal spheroids and pigmented glia の一例**

○石川 亮[1]、山下 理英子[1]、増田 慶一[1]、板垣 圭[1]、和田 健[1]、池内 健[1,2]
[1]広島市立広島市民病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院

16:00～18:00 **委員会シンポジウム 11（国際委員会）** 同時通訳(E→J)

Fellowship Award program の新たな展開 –社会的ひきこもりに関する国際共同研究

司会：**加藤 隆弘** 九州大学大学院医学研究院精神病態医学
堀之内 徹 北海道大学大学院医学院神経病態学講座精神医学教室/認定NPO日本若手精神科医の会

CS11-1 **International symposium 後の国際共同研究への取り組み twitter hikikomori project**

○河岸 嶺将[1]、堀之内 徹[2]
[1]千葉県精神科医療センター精神科、[2]北海道大学大学院医学院神経病態学講座精神医学教室

CS11-2 **Hikikomori in other countries：evidence from an international case vignette survey**

○Marcus P. J. Tan
South London and Maudsley NHS Foundation Trust

CS11-3 **Understanding social withdrawal behaviour：cultural and demographic differences**

○Óscar Soto Angona
Department of Psychiatry, Vall d'Hebrn University Hospital

CS11-4 **Assessing the global extent of the hikikomori phenomenon in social media：a mixed Twitter analysis**

○Víctor Pereira-Sánchez
Clínica Universidad de Navarra（CUN）. Departamento de Psiquiatría y Psicología Clínica. Pamplona（Navarra）, SPAIN

CS11-5 **〔指定発言〕**

○加藤 隆弘
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

〈コーディネーター〉 堀之内 徹　北海道大学大学院医学院神経病態学講座精神医学教室

6月20日（木） N会場（ホテル 3F 小会場）[孔雀]

8:30〜10:30 シンポジウム 8
精神神経科領域におけるロボット治療の現状と今後の課題

司会：**村松 太郎** 慶應義塾大学精神神経科学教室
松本 吉央 産業技術総合研究所ロボットイノベーション研究センター

S8-1 **精神疾患患者へロボットを用いた介入の現状、アンドロイドの潜在性**
○熊崎 博一[1,2]
[1]金沢大学子どものこころの発達研究センター、[2]国立研究開発法人国立精神神経医療研究センター

S8-2 **複数ロボットがもたらす精神科治療における新たな潜在性**
○吉川 雄一郎[1,2]、松本 吉央[3]、熊崎 博一[4]、宮尾 益知[5]、石黒 浩[1,2]
[1]大阪大学、[2]JST ERATO石黒共生ヒューマンロボットインタラクションプロジェクト、[3]産業技術総合研究所、[4]金沢大学、[5]どんぐりクリニック

S8-3 **神経回路モデルを用いた自閉スペクトラム症の発生原理の構成的解明**
○長井 志江
東京大学

S8-4 **ひきこもり治療にロボットをどう活かすか？ドラえもんがのび太を救う**
○加藤 隆弘
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S8-5 **精神神経科領域におけるロボット治療の有効性と病理・病態の検討**
○宮尾 益知
どんぐり発達クリニック

S8-6 **〔指定発言〕**
○今村 明
長崎大学病院精神科神経科

S8-7 **〔指定発言〕**
○上出 寛子
名古屋大学未来社会創造機構

S8-8 **〔指定発言〕**
○岩田 和彦
地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター

〈コーディネーター〉 熊崎 博一 金沢大学子どものこころの発達研究センター
加藤 隆弘 九州大学病院精神科神経科
吉川 雄一郎 大阪大学大学院基礎工学研究科

10:40〜12:40 シンポジウム 21
定型的な薬物療法に行き詰まった時の新たな治療戦略 –難治性精神症状への挑戦–

司会：**品川 俊一郎** 東京慈恵会医科大学附属病院
野田 賀大 慶應義塾大学医学部精神神経科

S21-1 **治療抵抗性統合失調症とクロザピン、グルタミン酸仮説**
○中島 振一郎
慶應義塾大学医学部精神神経科

S21-2 **定型的な薬物療法に行き詰まった時の新たな治療戦略：認知症の BPSD に対して**

○品川 俊一郎
東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

S21-3 **治療抵抗性うつ病に対するニューロモデュレーションの可能性**

○野田 賀大
慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

S21-4 **治療抵抗性双極性障害の薬物療法：これまでとこれから**

○仁王 進太郎
東京都済生会中央病院精神科（心療科）

S21-5 **難治性うつ病の画期的治療薬として期待されるケタミン**

○橋本 謙二
千葉大学

〈コーディネーター〉 中島 振一郎　慶應義塾大学医学部精神神経科

13:50～14:50 一般演題（口演）12
摂食障害関連 1

司会：**木下 利彦**　関西医科大学精神神経科

1-012-1 **摂食障害患者の初回入院における退院時 BMI と再入院についての検討**

○兒玉 貴久子[1,3]、塚田 恵鯉子[1]、根本 清貴[2]、新井 哲明[2]
[1]筑波大学附属病院、[2]筑波大学医学医療系精神医学、[3]公益財団法人報恩会石崎病院

1-012-2 **当院の回復支援入院プログラムによる神経性やせ症の 1 年後の転帰について**

○米良 貴嗣
八幡厚生病院精神科・心療内科

1-012-3 **当院における重症摂食障害患者に対する急性期の栄養管理**

○小林 弘典[1]、眞次 康弘[2]、今岡 貴久[2]、伊藤 圭子[2]、安田 由美[1]、片岡 努[1]、岡田 怜[1]、
住吉 秀律[1]、高畑 紳一[1]
[1]県立広島病院精神神経科、[2]県立広島病院栄養管理科

1-012-4 **病的窃盗あるいは窃盗癖あり過去 5 年間に当院受診した症例の臨床特徴について**

○山下 陽三
社会医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院

1-012-5 **胃切除後のダンピング症候群を合併し、病態が複雑化した神経性やせ症の一例**

○黒鳥 偉作、三井 信幸、渡辺 晋也、賀古 勇輝、久住 一郎
北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

14:50～15:50 一般演題（口演）23
疫学・その他

司会：**三村 將**　慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

1-023-1 **福島県における震災関連自殺 −予防の手掛かりを求めて**

○丹羽 真一[1]、前田 正治[2]、星野 大[3]、國井 泰人[1]、竹林 由武[4]
[1]福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座、[2]福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座、
[3]福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、[4]福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座

1-023-2 **保険者保有のレセプト情報を用いた睡眠薬過量投与の予防的介入研究**

○喜多村 祐里[1]、小川 俊夫[2]、清林 章[3]、飯地 智紀[4]、祖父江 友孝[1]
[1]大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座環境医学、大阪大学医学部附属病院神経科精神科（診療科）、
[2]国際医療福祉大学大学院、[3]協会けんぽ大阪支部、[4]協会けんぽ本部

1-023-3 **過敏性腸症候群：警告徴候をめぐって**

○齊尾 武郎[1,2]
[1]SMBC日興証券健康管理室、[2]フジ虎ノ門整形外科病院精神科

1-023-4 **精神科病院に通院中の統合失調症患者の禁煙ステージとその後の禁煙行動 –アンケートによる縦断調査**

○藤原 雅樹[1]、樋口 裕二[2]、稲垣 正俊[3]、中谷 直樹[4]、藤森 麻衣子[5]、林原 千夏[6]、宋 龍平[7]、
新川 郁太[7]、佐藤 康治郎[7]、矢田 勇慈[7]、児玉 匡史[7]、竹中 央[7]、来住 由樹[7]、掛田 恭子[8]、
内富 庸介[5]、山田 了士[9]
[1]岡山大学病院精神科神経科、[2]こころの医療たいようの丘ホスピタル、[3]島根大学医学部精神医学講座、
[4]東北大学東北メディカル・メガバンク機構予防医学・疫学部門、[5]国立研究開発法人国立がん研究センター、
[6]星城大学リハビリテーション学部、[7]地方独立行政法人岡山県精神科医療センター、
[8]高知大学医学部神経精神科学教室、[9]岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学

1-023-5 **精神医学史研究とアーカイブズの現況**

○後藤 基行
東京大学先端科学技術研究センター

16:00～18:00 シンポジウム 32
金沢総会後 50 年 –その後の学会の変革と将来への展望–

司会：**山口 成良**　社会医療法人財団松原愛育会松原病院精神科
小島 卓也　医療法人社団輔仁会大宮厚生病院

S32-1 **金沢総会当日のこと**

○山口 成良
社会医療法人財団松原愛育会松原病院精神科

S32-2 **金沢総会後の学会の変革**

○小島 卓也
医療法人社団輔仁会大宮厚生病院

S32-3 **未完の革命 –69 年金沢学会–日本精神神経学会は真に改革されたのか–**

○星野 征光
大阪・高槻 星のクリニック

S32-4 **日本精神神経学会の現在の課題と今後の方向**

○神庭 重信
九州大学

〈コーディネーター〉 山口 成良　社会医療法人財団松原愛育会松原病院精神科

6月20日（木） O会場（ホテル 4F 小会場）［朱鷺A］

8:30～10:30 シンポジウム 9
新規抗うつ剤の最適使用戦略を確立する日本最大の実践的メガトライアル SUN☺D study

司会：**古川 壽亮** 京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野
山田 光彦 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部

S9-1 **SUN☺D 試験の背景と臨床疑問**
○稲垣 正俊
島根大学医学部精神医学講座

S9-2 **SUN☺D Step 1、Step 2 の結果**
○古川 壽亮
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康増進・行動学分野

S9-3 **うつ病に対する急性期抗うつ薬治療における寛解後の再燃予測因子**
○明智 龍男
名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

S9-4 **臨床試験の質を保証するための工夫：SUN☺D 試験の経験**
○山田 光彦
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部

S9-5 **〔指定発言〕**
○中込 和幸
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈コーディネーター〉 山田 光彦 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部
古川 壽亮 京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野

10:40～12:40 シンポジウム 22
アルツハイマー型認知症の臨床：現状と今後への展望

司会：**田渕 肇** 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
大嶋 明彦 佐野厚生総合病院精神神経科/慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

S22-1 **アルツハイマー型認知症 神経心理学の立場から**
○尾鷲 登志美[1,2]
[1]牧田総合病院精神科、[2]昭和大学医学部精神医学教室

S22-2 **アルツハイマー病における PET 検査とその問題点について**
○田渕 肇
慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

S22-3 **アルツハイマー型認知症の薬物療法**
○山田 浩樹
昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター

S22-4 **アルツハイマー病の予防をめぐって**
○大嶋 明彦[1,2]
[1]佐野厚生総合病院精神神経科、[2]慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

S22-5 〔指定発言〕
○中込 和幸
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S22-6 〔指定発言〕
○船山 道隆[1,2]
[1]慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、[2]足利赤十字病院

〈コーディネーター〉 三村 將　慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
岩波 明　昭和大学附属烏山病院

13:50～14:50 一般演題（口演）13
認知症 1

司会：**下田 和孝**　獨協医科大学精神神経医学講座

1-013-1 **認知症の運転免許；診断例の実際と問題点 –MCI や軽症例、AD 以外の認知症における問題点**
○上村 直人、藤戸 良子
高知大学医学部附属病院神経精神科学教室

1-013-2 **認知症専門老人保健施設における重度認知症患者への個人別音楽聴取実施の結果および集団音楽聴取との比較**
○小林 知佳[1]、黒川 達也[1,2]、菅原 玲子[1]
[1]医療法人社団成仁成仁介護老人保健施設、[2]医療法人社団成仁病院

1-013-3 **認知症の人の社会的包摂を目指した、上越における 3 年間の稲作ケアの成果**
○岡村 毅[1]、宇良 千秋[1]、鳥島 佳佑[2]、石黒 太一[2]、山崎 幸子[3]、新名 正弥[1,4]、川室 優[2]
[1]東京都健康長寿医療センター、[2]川室記念病院、[3]文京学院大学、[4]公益財団法人未来工学研究所

1-013-4 **認知症患者の家族介護者に対する心理教育プログラムの有効性の検討**
○姜 善貴、大石 智、滝澤 毅矢、宮岡 等
北里大学病院精神神経科

1-013-5 **認知症周辺症状（BPSD）に対する escitalopram の効果と安全性について**
○小原 喜美夫[1,2]
[1]行橋厚生病院精神科、[2]医療法人コミュノテ風と虹のぞえ総合心療病院

14:50～15:50 一般演題（口演）24
地域精神医療 1

司会：**遠藤 謙二**　医療法人友愛会千曲荘病院

1-024-1 **戦前の全国公立と代用精神科病院、院主院長会議**
○金川 英雄[1,4]、石田 文孝[2]、儀賀 理暁[2,3]、大島 孝[2]、細田 泰雄[2]、原 彰男[2]
[1]国立病院機構埼玉病院精神科、[2]国立病院機構埼玉病院、[3]埼玉医科大学総合医療センター、[4]昭和大学精神科

1-024-2 **大分県における私宅監置の書類**
○金川 英雄[2,5]、奥村 克行[1]、野田 武志[3]、横村 信子[4]、湯之原 絢[4]、荒 義昭[4]、高橋 邦雄[4]
[1]五反田駅前メンタルクリニック、[2]国立病院機構埼玉病院精神科、[3]NPO法人大分県近現代資料調査センター、[4]国立病院機構埼玉病院、[5]昭和大学精神科

1-024-3 **地域における総合病院での心療内科（精神科）外来における臨床的特徴**
○新井 久稔[1,2]、加藤 啓子[2]、大久保 築世[3]、内田 望[2]、宮岡 等[1]
[1]北里大学医学部精神科学、[2]小鹿野中央病院、[3]小鹿野町役場

16:00〜17:40　ワークショップ 1（性同一性障害に関する委員会）
性同一性障害に対する精神的治療と身体的治療

司会：**織田 裕行**　関西医科大学総合医療センター
松永 千秋　ちあきクリニック

WS1

〈講演者〉
康 純　大阪医科大学附属病院
松本 洋輔　岡山大学病院ジェンダーセンター
市原 浩司　札幌医科大学附属病院
難波 祐三郎　岡山大学病院ジェンダーセンター

〈コーディネーター〉
松本 洋輔　岡山大学病院ジェンダーセンター
織田 裕行　関西医科大学総合医療センター
松永 千秋　ちあきクリニック

6月20日（木） P会場（ホテル 4F 小会場）[朱鷺B]

8:30～10:30 シンポジウム 10

実践！双極性感情障害の対人関係社会リズム療法(IPSRT)入門～明日からできる、つまみ食い IPSRT のすすめ！

司会：**宗 未来** 東京歯科大学市川総合病院精神科/慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
近藤 真前 名古屋市立大学病院

S10-1 **先ず“社会リズム療法”から始めよ！：小乗 IPSRT ではない、大乗 IPSRT のすすめ**

○宗 未来
東京歯科大学市川総合病院精神科、慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

S10-2 **双極性障害と対人関係療法“社会的ひきこもり”に対して対人関係社会リズム療法を施行した一例を通して**

○今井 理紗[1,2]
[1]名古屋市立大学病院精神科、[2]医療法人資生会八事病院

S10-3 **初学者がゼロから始めた対人関係療法**

○山市 大輔[1]、横山 貴和子[1,2]、宗 未来[1,3]
[1]慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、[2]東京都立小児総合医療センター、[3]東京歯科大学市川総合病院

S10-4 **対人関係療法の臨床的特徴 –認知行動療法との比較–**

○近藤 真前
名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

〈コーディネーター〉 宗 未来 東京歯科大学市川総合病院精神科/慶應義塾大学病院
近藤 真前 名古屋市立大学病院

10:40～12:40 シンポジウム 23

物質使用障害のスティグマを乗り越える

司会：**長 徹二** 名古屋医専
齋藤 利和 北仁会幹メンタルクリニック

S23-1 **アルコール依存症に対するスティグマとその乗り越えの試み**

○齋藤 利和
医療法人北仁会幹メンタルクリニック

S23-2 **薬物依存症のスティグマを乗り越える**

○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

S23-3 **物質使用障害に対して一般病院および高齢者医療でできること**

○射場 亜希子
兵庫県立姫路循環器病センター高齢者脳機能治療室

S23-4 **少年非行と物質使用障害**

○中野 温子
奈良少年院

S23-5 **アルコール・薬物使用障害を抱える人を多角的に理解する**

○長 徹二
名古屋医専

S23-6 〔指定発言〕

○宮田 久嗣
東京慈恵会医科大学附属病院

S23-7 〔指定発言〕

○橋本 望
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

〈コーディネーター〉 田中 増郎 医療法人信和会高嶺病院精神科/公益財団法人慈圭会慈圭病院
長 徹二 名古屋医専
成瀬 暢也 埼玉県立精神医療センター

13:50～14:50 一般演題（口演）14
認知症 2

司会：**山下 俊幸** 京都府立洛南病院

1-014-1 **老年期の Late-onset AD/HD に関する臨床的研究**

○佐々木 博之[1]、遊亀 誠二[1]、石川 智久[1]、福原 竜治[1]、城野 匡[1]、橋本 衛[2]、池田 学[3]、竹林 実[1,2]
[1]熊本大学医学部附属病院神経精神科、[2]熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野、
[3]大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

1-014-2 **精神科単科病院における認知症難聴患者に対する語音明瞭度検査**

○清水 謙祐[1,2]、松田 圭二[2]、船橋 英樹[3]、石田 康[3]、吉田 建世[1]、東野 哲也[2]
[1]医療法人建悠会吉田病院精神科、[2]宮崎大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室、
[3]宮崎大学医学部臨床神経学会講座精神医学分野

1-014-3 **日本へ移住した外国人で若年性アルツハイマー型認知症を発症した一例**

○濱村 尚子、中村 毅、今村 研介、横塚 紗永子、西田 佳晃、寺崎 茜、佐々木 なつき、
春日井 基文、中村 雅之、佐野 輝
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

1-014-4 **口腔内水分量変化を用いた高齢者精神科病棟における口腔ケアの評価**

○佐藤 啓[1]、富岡 大[2]、坂内 めぐみ[1]、大日方 絵美子[1]、加藤 順子[1]、古谷野 妙子[1]、畠山 千春[1]、
本間 圭[3]、嘉部 匡朗[4]、大野 実里[4]、稲本 淳子[2]
[1]昭和大学横浜市北部病院看護部、[2]昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、
[3]昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門、
[4]昭和大学横浜市北部病院リハビリテーション室

1-014-5 **カタトニアを呈した前頭側頭型認知症の一例**

○田村 赳紘、治徳 大介、車地 暁生
東京医科歯科大学医学部附属病院精神科

14:50～15:50 一般演題（口演）25
地域精神医療 2

司会：**寺尾 岳** 大分大学医学部精神神経医学講座

1-025-1 **精神科通院患者における援助希求行動促進に向けた携帯メール介入の効果～ランダム化比較試験～**

○児玉 豊彦[1]、田村 裕子[2]、小森 照久[2]、片岡 三佳[2]、井倉 一政[3]、橋本 健志[4]
[1]産業医科大学産業保健学部看護学科、[2]三重大学大学院医学系研究科、[3]三重県立看護大学、
[4]神戸大学大学院保健学研究科

1-025-2 **当院の精神科医療再建に向けた活動報告現状、今後の課題と展望**

○佐久間 寛之、西澤 芳子、村上 優、野村 憲一、下村 登規夫
独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター

1-025-3 **自殺予防外来に求められるニーズについて**

○衞藤 暢明、川嵜 弘詔
福岡大学医学部精神医学教室

1-025-4 **災害後の精神的健康状態と歩行習慣の関連**

○内海 裕介[1]、富田 博秋[2]、根本 晴美[1]、奥山 純子[2]
[1]東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野、[2]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

1-025-5 **精神科オンライン診療の可能性**

○磯部 昌憲
京都大学医学部附属病院

16:00～17:40 **ワークショップ 2（精神療法委員会）**
映像で学ぶ初回面接 –遷延性うつ病編–

司会：**渡辺 俊之** 渡辺医院/高崎西口精神療法研修室
水野 雅文 東邦大学

WS2 〈講演者〉

中村 敬	東京慈恵会医科大学
吾妻 壮	上智大学
布施 泰子	茨城大学
大野 裕	大野研究所

〈コーディネーター〉 渡辺 俊之 渡辺医院/高崎西口精神療法研修室

6月20日（木） Q会場（万代島ビル 6F）［会議室］

8:30～10:30 シンポジウム 11
内観療法の理論と現代的応用

司会：**堀井 茂男** 公益財団法人慈圭会慈圭病院
小澤 寛樹 長崎大学病院精神科神経科

S11-1 **依存症に対する内観療法**
○塚﨑 稔
医療法人清潮会三和中央病院

S11-2 **生活習慣病・摂食障害への内観療法の適応**
○河合 啓介
国立国際医療研究センター国府台病院心療内科

S11-3 **希死念慮に表れる日常から離れて行う内観療法の効果**
○橋本 章子[1,2]
[1]帝京大学医療技術学部臨床検査学科、[2]くるみクリニック心理室

S11-4 **内観療法の作用機序**
○高橋 美保
東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース

S11-5 **〔指定発言〕**
○真栄城 輝明
佛教大学/大和内観研修所

〈コーディネーター〉 塚﨑 稔 医療法人清潮会三和中央病院

10:40～12:40 Fellowship Award Symposium 1
Coercive measures in psychiatry

Chairpersons：**Saul Levin** American Psychiatric Association
Toshitaka Ii Aichi Medical University Department of Psychiatry

FAS1-1 **Coercive Measures in Psychiatry：The Patient's View**
○Adam Mollinger
St Vincent's Hospital, Melbourne, Australia

FAS1-2 **Patient's rights in a psychiatric hospital –an outline of the problems from the Polish perspective.**
○Anna R Szczegielniak
Department of Psychiatric Rehabilitation, Department of Psychiatry and Psychotherapy, School of Medicine in Katowice, Medical University of Silesia, Poland

FAS1-3 **Coercive Measures in Psychiatry：Least Restrictive Means**
○Bryan G Smith
Wake Med Health and Duke University Medical Center, USA

FAS1-4 **Emergency Psychiatry in Japan**
○Ryo Kawagishi
Chiba Psychiatric Medical Center

〈Coordinator〉 Toshitaka Ii：Aichi Medical University Department of Psychiatry

13:50〜15:50 Fellowship Award Symposium 2
Coercive measures in psychiatry

Chairpersons：**Shin-Cheng Liao** National Taiwan University
Nozomu Oya Department of psychiatry, Kyoto Prefectural University of Medicine

FAS2-1 **The Double-edged Sword of Coercive Measures in Psychiatry：A Case Discussion from Malaysian Context**

○Jiann Lin Loo
Faculty of Medicine and Health Sciences, Universiti Malaysia Sabah, Malaysia

FAS2-2 **DILEMMA OF INVOLUNTARY TREATMENTS**

○Özlem Kuman Tunçel
Ege University Faculty of Medicine Psychiatry Department, Turkey

FAS2-3 **Compulsory detention and treatment for mental disorders in the United Kingdom**

○Rashmi Patel
Department of Psychosis Studies, IoPPN, King's College London, UK

FAS2-4 **Coercive measures in Japanese psychiatric hospitals：Current condition and future directions**

○Naoki Takamatsu
Tama Aoba Hospital, Department of Neuropsychiatry University of Tokyo Hospital

〈Coordinator〉 Nozomu Oya：Department of psychiatry, Kyoto Prefectural University of Medicine

16:00〜17:40 ワークショップ３
脳波の基礎コース

司会：**山内 俊雄** 埼玉医科大学名誉学長
矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

WS3 〈講演者〉
矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
原 恵子 原クリニック
太田 克也 恩田第2病院
渡邊 さつき 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

〈コーディネーター〉 矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

6月20日（木） ポスター会場1（センター 2F）［エスプラナード］

12:50～13:38 一般演題（ポスター）1
統合失調症 1

司会：**中野 和広** 中野クリニック

1-P1-1 **統合失調症患者、非罹患近親者および健常者における病前推定 IQ と現在の IQ 間の知的機能障害**

○大井 一高[1,2]、嶋田 貴充[1]、片岡 譲[1]、小出 蓉子[1]、上原 隆[1]、大久保 裕章[1]、川﨑 康弘[1]
[1]金沢医科大学精神神経科学、[2]金沢医科大学総合医学研究所

1-P1-2 **日本の統合失調症患者のグルテン感受性と、グルテン制限食が有効であった治療抵抗性統合失調症の一例**

○本山 美久仁[1,2]、山田 恒[1]、本西 正道[2]、松永 寿人[1]
[1]兵庫医科大学精神科神経科学講座、[2]医療法人好寿会美原病院

1-P1-3 **CYP2D6 遺伝子多型が risperidone 代謝に与える影響**

○常山 暢人[1]、鈴木 雄太郎[1]、福井 直樹[1]、須貝 拓朗[1]、渡邉 純蔵[2]、小野 信[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟厚生連中条第二病院

1-P1-4 **短期間に感染症を繰り返した、好中球低下を示さず正常抗体価だったクロザピン服用患者の一例**

○冨田 哲[1]、神 崇太[1]、古郡 規雄[1,2]、中村 和彦[1]
[1]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[2]獨協医科大学精神神経医学講座

1-P1-5 **新規抗精神病薬内服後に胃排出能の変化が疑われた統合失調症の一例**

○三上 剛明[1]、福井 直樹[1]、坂上 仁[1]、折目 直樹[1]、横山 裕一[1]、小野 信[2]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学医歯学総合病院精神科、[2]新潟県立精神医療センター

1-P1-6 **At-risk mental state および統合失調症における嗅覚機能障害**

○高橋 努[1]、中村 美保子[1]、笹林 大樹[1]、小森 祐子[1]、樋口 悠子[1]、西川 祐美子[1]、西山 志満子[1]、伊藤 博子[1]、政岡 ゆり[2]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、[2]昭和大学医学部生理学講座

12:50～13:38 一般演題（ポスター）2
統合失調症 2

司会：**國井 泰人** 福島県立医科大学会津医療センター

1-P2-1 **治療抵抗性統合失調症患者に対するドパミン過感受性を考慮した長半減期型非定型抗精神病薬の効果検証**

○仲田 祐介[1]、金原 信久[2]、伊豫 雅臣[1]
[1]千葉大学大学院医学研究院精神医学、[2]千葉大学社会精神保健教育研究センター

1-P2-2 **健常者及び統合失調症の作業記憶神経ネットワークにおける GABA ニューロンサブグループ選択的転写産物の発現**

○坪本 真[1,2]、川端 梨加[2]、Xiaonan Zhu[3]、三邉 義雄[2,4]、Kehui Chen[3]、David A Lewis[5,6]、橋本 隆紀[2,4,5]
[1]独立行政法人国立病院機構北陸病院、[2]金沢大学医薬保健研究域医学系精神行動科学、[3]Department of Statistics, University of Pittsburgh、[4]金沢大学子どものこころの発達研究センター、[5]Department of Psychiatry, University of Pittsburgh、[6]Department of Neuroscience, University of Pittsburgh

1-P2-3 **機能的多型 rs6295 は急性期白人統合失調症患者における非定型抗精神病薬ルラシドンの治療反応性を予測する**

○吉川 茜[1,2]、Jiang Li[1]、Herbert Meltzer[1]
[1]Northwestern University Psychiatry and Behavioral Sciences、[2]公益財団法人東京都医学総合研究所

1-P2-4 **統合失調症罹患同胞対・両親の全エクソームシーケンス**

○井桁 裕文[1]、渡部 雄一郎[1]、保谷 智史[1]、森川 亮[1]、小泉 暢大栄[1,2]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟県立精神医療センター

1-P2-5 **統合失調症多発罹患家系において疾患と共分離する変異の検索**

○布川 綾子[1,2]、渡部 雄一郎[1]、金子 尚史[2]、村竹 辰之[3]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]大島病院、[3]古町心療クリニック

1-P2-6 **統合失調症におけるマクロファージ遊走阻止因子（MIF）の血清濃度増加と遺伝子多型関連解析**

○岡﨑 賢志[1]、大塚 郁夫[1]、渡部 雄一郎[2]、朴 秀賢[1]、新名 尚史[1]、平田 尚士[1]、蓬莱 政[1]、
染矢 俊幸[2]、曽良 一郎[1]、菱本 明豊[1]
[1]神戸大学大学院医学研究科精神医学分野、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

12:50～13:38 一般演題（ポスター）3
統合失調症 3

司会：**澁谷 雅子**　恵生会　南浜病院

1-P3-1 **精神科長期入院患者におけるサルコペニアの有病率**

○北村 秀明、齋藤 公子、宗村 恵介、竹田 裕子、佐藤 宏平、鶴巻 まどか、加藤 あい、
中野 優、乙川 聖史
医療法人水明会佐潟荘精神科

1-P3-2 **統合失調症患者における抗精神病薬持続性注射剤の使用実態と再入院に関するナショナルデータベース研究**

○臼杵 理人[1]、間宮 教之[2]、宇佐美 智浩[2]、山之内 芳雄[1]
[1]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神医療政策研究部、
[2]大塚製薬株式会社メディカル・アフェアーズ部

1-P3-3 **アリピプラゾール持続性注射薬とブレクスピプラゾールの併用が有効であった統合失調症の一症例**

○清水 義雄、小林 建太郎
医療法人万成病院精神科

1-P3-4 **重度かつ慢性の統合失調症患者における地域移行支援の一例**

○豊岡 和彦、清野 治子、近 奈香子、清水 巧
医療法人恵生会南浜病院

1-P3-5 **緊張型統合失調症の特徴**

○長沼 英俊
医療法人優なぎ会雁の巣病院

1-P3-6 **周産期における統合失調症患者の薬物療法と再発に関する後方視的研究**

○菊地 紗耶[1]、小林 奈津子[1]、本多 奈美[2]、富田 博秋[2,3]
[1]東北大学病院精神科、[2]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、
[3]東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野

12:50～13:38 一般演題（ポスター）4
統合失調症 4

司会：**林 直樹**　帝京大学医学部精神神経科学講座

1-P4-1 **多剤併用により Neuroleptic-Induced Catatonia が見られた統合失調症の一例**

○小泉 暢大栄[1]、橋尻 洸陽[2]、小野 信[1,3]、細木 俊宏[1]
[1]新潟県立精神医療センター、[2]新潟県立新発田病院、[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座

1-P4-2 **日本語版 PANSS の信頼性、妥当性評価**

橋本 直樹、岡 松彦、高信 径介、○成田 尚、北川 寛、宇土 仁木、前田 珠希、渡辺 晋也、大柳 有加、宮崎 茜、伊藤 侯輝、久住 一郎
北海道大学病院精神科神経科

1-P4-3 **ドパミン部分作動薬とブロナンセリンの併用によって回復した治療抵抗性統合失調症の３例**

○田村 紀郎[1]、山本 愛[1]、八木 剛平[1,2]、堤 康彦[1]
[1]医療法人社団朋友会けやきの森病院、[2]おおぞらクリニック

1-P4-4 **統合失調症治療薬による心血管系イベント発症リスクの検証：医療情報データベースを用いたコホート研究**

○久住 一郎[1]、井上 幸恵[2]、馬塲 健次[3]、野坂 忠史[3]、安斉 俊久[4]
[1]北海道大学大学院医学研究院精神医学教室、[2]クレコンメディカルアセスメント株式会社、
[3]大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部、[4]北海道大学大学院医学研究院循環病態内科学教室

1-P4-5 **当院でのクロザピン治療の現状と効果が見込める症例の検討～後方視的調査研究及び脳機能画像学的検査～**

○須藤 友博[1]、田川 みなみ[1,2]、武井 雄一[2]、芦名 孝一[1]、赤田 卓志朗[1]、福田 正人[2]
[1]群馬県立精神医療センター、[2]群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学教室

1-P4-6 **統合失調症患者における神経発達症合併の臨床経過への影響の評価**

○尾関 祐二[1]、藤井 久彌子[1]、Katja Koelkebeck[2]、下田 和孝[1]
[1]獨協医科大学精神神経医学講座、[2]University of Muenster, Department of Psychiatry and Psychotherapy

12:50～13:38 一般演題（ポスター）５
統合失調症５

司会：**山口 哲顕**　医療法人正永会港北病院

1-P5-1 **統合失調症患者に対する非定型抗精神病薬認知機能改善効果**

○堀 輝、香月 あすか、阿竹 聖和、井形 亮平、小西 勇輝、吉村 玲児
産業医科大学精神医学教室

1-P5-2 **日本人統合失調症患者の中性脂肪と抗精神病薬との関連：外来-入院における差異**

○小野 信[1]、須貝 拓朗[2]、鈴木 雄太郎[2]、山崎 學[3]、下田 和孝[4]、森 隆夫[3]、尾関 祐二[4]、
松田 ひろし[3]、菅原 典夫[5]、古郡 規雄[4,5]、岡本 呉賦[3]、寒河江 豊昭[6]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、
[3]公益社団法人日本精神科病院協会、[4]獨協医科大学精神神経医学講座、
[5]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[6]山形県立米沢栄養大学健康栄養学部健康栄養学科

1-P5-3 **「重度かつ慢性」精神科長期入院統合失調症の入院後１年間の処方調査**

○宮田 量治[1]、三澤 史斉[1]、藤井 康男[1]、武田 俊彦[2]、内田 裕之[3]
[1]地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院精神科、[2]公益財団法人慈圭会慈圭病院、[3]慶應義塾大学病院

1-P5-4 **クロザピンとリチウムを長期併用し腎性尿崩症に至った１例**

○小松 宗央[1]、菊池 結花[1]、佐藤 優真[2]、大森 佑貴[1]、神林 崇[1]、三島 和夫[1]、清水 徹男[1,3]
[1]秋田大学医学部附属病院精神科、[2]能代厚生医療センター、[3]秋田県精神保健福祉センター

1-P5-5 **精神科入院統合失調症の処方実態調査**

○宮田 量治[1]、三澤 史斉[1]、藤井 康男[1]、武田 俊彦[2]、内田 裕之[3]
[1]地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院精神科、[2]公益財団法人慈圭会慈圭病院、[3]慶應義塾大学病院

1-P5-6 **クロザピンによる振戦、ミオクロニー発作、強直間代発作に対するペランパネルの有効性に関する報告**

○菊池 結花[1]、佐藤 優真[2]、吉沢 和久[4]、大森 佑貴[1]、三島 和夫[1]、清水 徹男[3]
[1]秋田大学医学部附属病院精神科、[2]能代厚生医療センター、[3]秋田県精神保健福祉センター、[4]市立大曲病院

12:50〜13:38 一般演題（ポスター）6
気分障害 1

司会：**石井 知行**　メープルヒル病院

1-P6-1　うつ病における血清アミロイド β タンパクの推移

○夏目 俊太朗[1,2]、馬場 元[1,2]、前嶋 仁[1,2]、島野 嵩久[1,2]、済田 貴生[1]、鈴木 利人[1]、新井 平伊[1]
[1]順天堂大学院医学研究科精神行動科学、[2]順天堂大学医学部付属順天堂越谷病院

1-P6-2　セルトラリンが奏効した CADASIL に伴う精神病性うつ病の一症例

○大竹 将貴[1]、横山 裕一[1]、三上 剛明[1]、野崎 洋明[2]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学医歯学総合病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院神経内科

1-P6-3　難治性うつ病に対する rTMS における前頭葉機能の改善と炎症系バイオマーカーの変化との相関

○立石 洋[1]、白石 匠[1]、菊池 潤[1]、藤井 由佳[1]、小嶋 亮平[1]、馬渡 星示[1]、諸隈 暢[1]、村川 徹[2]、松島 淳[2]、國武 裕[1]、國武 浩子[1]、今村 義臣[1]、前川 敏彦[3]、浅見 豊子[4]、溝口 義人[2]、川口 淳[4]、門司 晃[2]
[1]佐賀大学医学部附属病院精神神経科、[2]佐賀大学医学部精神医学講座、[3]九州大学大学院、[4]佐賀大学医学部

1-P6-4　初回エピソードの大うつ病性障害患者における PCLO 遺伝子多型 rs2522833 と大脳皮質容量の関連

○井形 亮平[1]、香月 あすか[1]、掛田 伸吾[2]、渡邉 啓太[2]、井形 夏貴[2]、堀 輝[1]、阿竹 聖和[1]、小西 勇輝[1]、川崎 祐也[2]、興梠 征典[2]、吉村 玲児[1]
[1]産業医科大学精神医学教室、[2]産業医科大学病院

1-P6-5　妊娠期発症のうつ病が分娩後に軽快した一症例

○森川 亮[1]、上馬塲 伸始[2]、小泉 暢大栄[3]
[1]新潟大学医歯学総合病院精神科、[2]新潟県立新発田病院精神科、[3]新潟県立精神医療センター

1-P6-6　寛解後のうつ病における認知機能の長期追跡調査

○島野 嵩久[1,2]、馬場 元[1,2]、前嶋 仁[1,2]、井上 恵[1,2]、鈴木 利人[1,2]、新井 平伊[2]
[1]順天堂大学医学部付属順天堂越谷病院メンタルクリニック、[2]順天堂大学精神医学教室

6月20日（木） ポスター会場2（センター 2F）［メインホールAB前ホワイエ］

12:50～13:38 一般演題（ポスター）7
統合失調症 6

司会：**片桐 直之** 東邦大学医学部精神神経医学講座

1-P7-1 **統合失調症に対する methylfolate 補充療法の有効性に関するサブグループメタ解析**
○佐久間 健二[1]、野村 郁雄[1]、奥谷 理[1]、大矢 一登[1]、松永 慎史[1,2]、岸 太郎[1]、岩田 仲生[1]
[1]藤田医科大学精神神経科学、[2]藤田医科大学認知症・高齢診療科

1-P7-2 **クロザピンおよびその活性代謝物濃度モニタリング中に好中球・白血球減少症となった 1 例**
○菊池 結花[1]、佐藤 優真[1]、小松 宗央[1]、赤嶺 由美子[2]、大森 佑貴[1]、神林 崇[1]、三島 和夫[1,3]、清水 徹男[3]
[1]秋田大学医学部附属病院精神科、[2]秋田大学医学部付属病院、[3]秋田県精神保健センター

1-P7-3 **アリピプラゾール投与中に性機能障害を訴え、低プロラクチン血症が見られた男性統合失調症患者の 2 症例**
○金子 尚史
恵愛会大島病院

1-P7-4 **精神科病院でのオープンダイアローグの試み：支援者・当事者の関係に変化が生まれ、問題が解消した一例**
○村上 純一、西 泰孝、石田 展弥
医療法人明和会琵琶湖病院精神科

1-P7-5 **血清 IGF-1 値、血清 cortisol 値と統合失調症の重症度との関連**
○有波 浩[1]、鈴木 雄太郎[1,2]、田尻 美寿々[1]、常山 暢人[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]医療法人敬愛会末広橋病院

1-P7-6 **統合失調症と診断された症例を対象とした成人型ニーマンピック病 C 型を示唆する所見の検討**
○藤井 久彌子[1]、前川 正充[2]、尾関 祐二[3]、衞藤 義勝[4]、齋藤 尚大[5]、篠﨑 将貴[1]、有銘 預世布[6]、永島 隆秀[7,8]、岡安 寛明[1]、石井 沙安也[1]、下田 和孝[1]
[1]獨協医科大学精神神経医学講座、[2]東北大学病院薬剤部、[3]滋賀医科大学精神医学講座、
[4](財）脳神経疾患研究所附属先端医療研究センター＆遺伝病治療研究所、
[5]医療法人カメリア横浜カメリアホスピタル、[6]獨協医科大学精神生物学講座、[7]足利赤十字病院内科（神経)、
[8]獨協医科大学内科学（脳神経）講座

12:50～13:38 一般演題（ポスター）8
統合失調症 7

司会：**髙木 学** 岡山大学病院精神科神経科

1-P8-1 **薬物治療により認知機能および臨床症状の改善を認めた単純型統合失調症の 2 症例**
○大竹 裕美[1]、鈴木 雄太郎[2]、常山 暢人[2]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟県立新発田病院、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

1-P8-2 **単純型統合失調症をプロトタイプとした「青年期認知機能障害」における認知機能や臨床症状の推移**
○大竹 裕美[1]、鈴木 雄太郎[2]、常山 暢人[2]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟県立新発田病院、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

1-P8-3 **統合失調症患者に対する aripiprazol LAI の安全性及び有効性の検討 –PMS の中間報告**
○曽我 綾華[1]、安田 守良[1]、高山 智代[1]、滝沢 京子[1]、徳山 年美[1]、福田 泰彦[1]、岩田 仲生[2]
[1]大塚製薬株式会社PV部メディカルセーフティー室、[2]藤田医科大学医学部精神神経科学講座

1-P8-4 **アリピプラゾール血中濃度と血清プロラクチン濃度の関係**

○久保 一利[1]、古郡 規雄[1,3]、土嶺 章子[2]、中村 和彦[1]
[1]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
[3]獨協医科大学精神神経医学講座

1-P8-5 **統合失調症患者における HDL コレステロールと薬剤間差について**

○大竹 将貴[1]、須貝 拓朗[1]、小野 信[7]、鈴木 雄太郎[1]、山崎 學[2]、下田 和孝[3]、森 隆夫[2]、
尾関 祐二[3]、松田 ひろし[2]、菅原 典夫[5]、古郡 規雄[3,6]、岡本 呉賦[2]、寒河江 豊昭[4]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]公益財団法人日本精神科病院協会、
[3]獨協医科大学精神神経医学講座、[4]山形県立米沢栄養大学、
[5]国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター、
[6]弘前大学大学院神経精神医学講座、[7]新潟県立精神医療センター

1-P8-6 **水中毒により横紋筋融解症を呈した統合失調症の 1 例**

○佐野 英孝
白根緑ケ丘病院精神科

12:50～13:38 一般演題（ポスター）9
気分障害 2

司会：**村上 直人**　地方独立行政法人静岡県立病院機構　静岡県立こころの医療センター

1-P9-1 **認知症発症の危険因子としてのうつ病及び双極性障害**

○須田 寛子[1]、鈴木 雄太郎[1,2]、茂木 崇治[1]、横山 裕一[1]、福井 直樹[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]医療法人敬愛会末広橋病院精神科

1-P9-2 **注意欠陥多動性障害の診断及び治療が双極性感情障害の寛解維持に有用であった一例**

○小林 七彩、三瀬 耕平、塩江 遼太、塩飽 裕紀、田村 赳紘、治徳 大介、車地 暁生
東京医科歯科大学医学部附属病院/東京医科歯科大学医学部精神科

1-P9-3 **うつ病患者の受療行動に関するアンケート調査：診療科とその理由**

○内藤 宏
藤田医科大学医学部精神神経科学講座

1-P9-4 **自然風景画像が抑うつ・不安症状を有する健常者にもたらすリラックス効果：機能的 NIRS を用いた検討**

○萩原 康輔、高尾 晃世、中川 恵里花、陳 冲、古林 亜由美、藤井 優子、平田 圭子、
松原 敏郎、橋本 亜希子、原田 健一郎、山形 弘隆、佐々木 順、樋口 文宏、中川 伸
山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

1-P9-5 **リワークプログラム通所中の気分障害患者における自律神経活動動態調査**

○岸田 郁子[1,2]、服部 早紀[2]、須田 顕[2]、宮内 雅利[2]、白石 洋子[2]、石井 千恵[1]、石井 紀夫[1]、
平安 良雄[3]
[1]医療法人社団清心会藤沢病院、[2]公立大学法人横浜市立大学医学部精神医学、[3]医療法人へいあん平安病院

1-P9-6 **OLIG2 遺伝子多型（rs1059004）と自己スキーマ及び抑うつ症状との関連**

○小松 浩[1,9]、竹内 光[2]、菊地 淑恵[3]、小野 千晶[3]、兪 志前[3,9]、飯塚 邦夫[10]、角藤 芳久[1]、
舩越 俊一[1,4]、大野 高志[1,7]、川島 隆太[2,5,7]、瀧 靖之[5,6,8]、富田 博秋[3,8,9,10]
[1]宮城県立精神医療センター精神科、[2]東北大学加齢医学研究所認知機能発達寄附研究部門、
[3]東北大学災害科学国際研究所災害医学研究部門災害精神医学分野、
[4]東北大学大学院医学系研究科地域精神医療分野、[5]東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター、
[6]東北大学加齢医学研究所機能画像医学研究分野、[7]東北大学加齢医学研究所応用脳科学研究分野、
[8]東北大学東北メディカル・メガバンク機構、[9]東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野、
[10]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

12:50～13:38　一般演題（ポスター）10
気分障害３

司会：**松原 六郎**　公益財団法人松原病院

1-P10-1　多施設共同トリオ解析による双極性障害の遺伝的構造の解明

○西岡 将基[1]、酒井 直美[1]、数野 安亜[1]、池田 匡志[2]、早馬 俊[3]、渡部 芳徳[4]、岡 敬[5]、小森 敦子[1]、石渡 みずほ[1]、的場 奈々[1]、片岡 宗子[1]、藤井 久彌子[6]、松尾 幸治[7]、岩田 仲生[2]、高田 篤[1,8]、加藤 忠史[1]
[1]理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態チーム、[2]藤田医科大学医学部精神神経科学、[3]医療法人南山会横浜メンタルクリニック戸塚、[4]医療法人社団慈泉会ホズミひもろぎクリニック、[5]特定医療法人十全会十全病院、[6]獨協医科大学医学部精神神経科、[7]山口大学医学部精神科神経科、[8]横浜市立大学医学部遺伝学

1-P10-2　双極性障害および大うつ病性障害患者における不安症併存頻度とその関連因子

○井上 猛[1]、木村 敏史[2]、稲垣 芳文[2]、白川 治[3]
[1]東京医科大学精神医学分野、[2]グラクソ・スミスクライン株式会社メディカル本部メディカル・アフェアーズ部門、[3]近畿大学医学部精神神経科学教室

1-P10-3　メランコリーの概念はうつ病の治療および予後予測の指標になりえるのか

○長谷川 千絵、下田 和孝
獨協医科大学精神神経医学講座

1-P10-4　治療抵抗性うつ状態の重症度と関連する要因の検討

○野﨑 和博、高江洲 義和、坪井 貴嗣、今村 弥生、片桐 建志、神田 優太、松本 由美、渡邊 衡一郎
杏林大学付属病院精神神経科

1-P10-5　エジンバラ産後うつ病自己評価表の周産期における因子不変性

○久保田 智香[1]、稲田 俊也[2]、椎野 智子[1]、安藤 昌彦[2]、山内 彩[2]、大原 聖子[2]、佐藤 真耶[2]、森川 真子[2]、岡田 俊[2]、中村 由嘉子[2]、尾崎 紀夫[2]
[1]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[2]名古屋大学医学部付属病院

1-P10-6　うつ病の再燃に対して認知行動療法の上乗せが有効であった１例

○笹林 大樹[1]、菊地 俊暁[2]、西山 志満子[1]、樋口 悠子[1]、高橋 努[1]、堀 有行[3]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、[2]慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、[3]常願寺病院神経内科

12:50～13:38　一般演題（ポスター）11
気分障害４

司会：**嶽北 佳輝**　関西医科大学精神神経科学教室

1-P11-1　大うつ病性障害の抗うつ薬治療における認知機能、抑うつ症状及び心理社会的機能：PERFORM-Jでの縦断的解析

○住吉 太幹[1,2]、渡邊 衡一郎[3]、能登 真一[4]、坂本 繁[5]、守口 善也[6]、フェルナンデス ジュベル[5]
[1]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター情報管理・解析部、[3]杏林大学医学部精神神経科学、[4]新潟医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法学科、[5]武田薬品工業株式会社ジャパンファーマビジネスユニットメディカルアフェアーズ部、[6]ルンドベック・ジャパン株式会社メディカルアフェアーズ部

1-P11-2　弘前大学および関連病院におけるうつ病心理教育の実態と特徴

○冨田 哲[1]、古郡 規雄[1,8]、工藤 周平[2]、菅原 典夫[3]、藤井 学[4]、敦賀 光嗣[5]、佐藤 靖[6]、石岡 雅道[7]、中村 和彦[1]
[1]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[2]つがる西北五広域連合つがる総合病院、[3]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[4]一部事務組合下北医療センターむつ総合病院、[5]青森県立つくしが丘病院、[6]大館市立総合病院、[7]医療法人清照会湊病院、[8]獨協医科大学精神神経医学講座

1-P11-3 **電気痙攣療法後に炭酸リチウム単剤で長期維持が可能であったうつ病３症例**

○富永 裕崇、香月 あすか、堀 輝、阿竹 聖和、吉村 玲児
産業医科大学病院神経精神科

1-P11-4 **無作為比較試験を基にした大うつ病性障害患者の長期治療経過に関する検討**

○嶽北 佳輝、越川 陽介、斧原 藍、分野 正貴、砂田 尚孝、緒方 治彦、木下 利彦、加藤 正樹
関西医科大学精神神経科学講座

1-P11-5 **Vortioxetine の大うつ病性障害患者を対象とした国内第３相無作為化プラセボ対照二重盲検試験**

○井上 猛[1]、西村 章[2]、笹井 清史[2]、北川 忠行[2]
[1]東京医科大学精神医学分野、[2]武田薬品工業

12:50～13:38 一般演題（ポスター）12
気分障害５

司会：**工藤 喬**　　大阪大学大学院医学系研究科精神健康医学

1-P12-1 **うつ病の重症度と血清 cortisol 値、IGF-1 値、PRL 値との関連**

○有波 浩[1]、鈴木 雄太郎[1,2]、田尻 美寿々[1]、常山 暢人[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]医療法人敬愛会末広橋病院

1-P12-2 **うつ病治療予測マーカーとしての血清コルチゾール値の可能性**

○有波 浩[1]、鈴木 雄太郎[1,2]、田尻 美寿々[1]、常山 暢人[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]医療法人敬愛会末広橋病院

1-P12-3 **光トポグラフィーを用いた大うつ病性障害の前頭葉機能の年齢差についての検討**

○関谷 樹、武井 雄一、高橋 由美子、須田 真史、小野 樹郎、櫻井 敬子、福田 正人
群馬大学医学部附属病院精神科神経科

1-P12-4 **右半球の扁桃体と帯状皮質の治療前機能結合性は、TRD に対するケタミンの抗うつ効果反応を予測する**

○中村 倫之[1]、石橋 正敏[1]、堀川 直希[2]、上松 謙[1]、富田 克[1]、内村 直尚[1]
[1]久留米大学病院精神神経科、[2]久留米厚生病院

1-P12-5 **双極スペクトラム障害と双極性障害の形態学的脳変化の相違について：拡散テンソル画像を用いた検討**

○下田 健吾[1,2]、木村 真人[1,2]、大久保 善朗[2]
[1]日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科、[2]日本医科大学精神医学教室

1-P12-6 **安静時機能的結合解析を用いたうつ病への経磁気刺激法の遠隔作用機序の推定**

○石田 卓也[1,2]、森島 陽介[2]
[1]和歌山県立医科大学付属病院神経精神科、[2]ベルン大学精神科病院

12:50〜13:38 一般演題（ポスター）13
気分障害 6

司会：**相澤 明憲**　特定医療法人佐藤会弓削病院

1-P13-1 **全国の精神科医向けアンケート研究；妊娠可能年齢の女性および妊婦におけるうつ病・双極性障害の薬物選択**

○橘 真澄[1]、橋本 佐[1,8]、渡邊 博幸[2]、田中 麻未[3]、佐藤 泰憲[4]、竹内 崇[5]、寺尾 岳[6]、中里 道子[1]、伊豫 雅臣[1]
[1]千葉大学大学院医学研究院精神医学教室、[2]千葉大学社会精神保健教育研究センター治療・社会復帰支援研究部門、[3]千葉大学社会精神保健教育研究センター非行臨床研究部門、[4]慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室、[5]東京医科歯科大学医学部附属病院精神科、[6]大分大学医学部精神神経医学講座、[7]社会医療法人社団さつき会袖ケ浦さつき台病院心療内科・精神科

1-P13-2 **TEG（東大式エゴグラム）におけるうつ病患者と適応障害患者の特性**

○西脇 淳、田才 恵子、川嶋 咲世、伊藤 麻衣、稲井 徳栄
医療法人崇徳会田宮病院

1-P13-3 **周産期の抑うつ状態と関連する人格傾向の検討**

○中村 由嘉子、岡田 俊、森川 真子、山内 彩、佐藤 真耶、大原 聖子、久保田 智香、尾崎 紀夫
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

1-P13-4 **うつ病患者での血中コルチゾールと脳画像**

○吉村 玲児
産業医科大学精神医学

1-P13-5 **うつ病患者の VEGF 遺伝子多型と脳形態**

○吉村 玲児、ウェン ホワ
産業医科大学精神医学

1-P13-6 **うつ病診断における光トポグラフィー検査（NIRS）の妥当性の検討**

○田中 晋、田中 政春、田中 弘
医療法人楽山会三島病院精神科

6月20日（木） ポスター会場3（センター 2F）[201前ホワイエ]

12:50～13:38 一般演題（ポスター）14
統合失調症 8

司会：**稲本 淳子** 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター

1-P14-1 **20 歳未満の統合失調症関連障害の後方視的分析**

○石橋 孝勇、島袋 盛洋、近藤 毅
琉球大学医学部付属病院精神科神経科

1-P14-2 **当院における悪性緊張病に対する治療経験**

○高津 圭介[1]、三田村 康衣[2]、菊池 綾子[1]、磯野 友厚[1]、大塚 祐司[1]、川副 泰成[1]、青木 勉[1]
[1]総合病院国保旭中央病院、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

1-P14-3 **高齢統合失調症患者の入院要因に関する検討**

○秋山 久、吉田 雄介、三浦 元、細川 嘉之、本間 裕士
国立病院機構帯広病院精神・神経科

1-P14-4 **統合失調症と特異的な身体奇形の中間表現型を有する家系における遺伝子解析**

○横塚 紗永子[1]、中村 雅之[1]、佐々木 なつき[1]、富安 陽子[1]、永井 美緒[1,2]、佐野 輝[1]
[1]鹿児島大学病院、[2]松山赤十字病院

1-P14-5 **精神科訪問看護導入による統合失調症の初回入院患者の再入院予防効果の検証**

○武内 清子、宋 龍平
岡山県精神科医療センター医局

1-P14-6 **デイケアを利用している統合失調症患者の地域生活を支える要因の検討**

○北畑 雄大[1]、辻 富基美[2]、小池 なお美[2]、喜多 彬[1]、上西 優介[2]、坂本 友香[1]、小野 紀夫[1]、糸川 秀彰[1]、下原 文明[1]、高橋 隼[2]、山本 眞弘[2]、鵜飼 聡[2]
[1]紀南こころの医療センター、[2]和歌山県立医科大学神経精神医学教室

12:50～13:38 一般演題（ポスター）15
統合失調症 9

司会：**赤穂 理絵** 東京女子医科大学 精神医学講座

1-P15-1 **ブレクスピプラゾールで悪性症候群を呈した一例**

○恩田 優子、野地 貴、井上 佳祐、許 博陽、野本 宗孝、六本木 知秀、高橋 雄一
横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター

1-P15-2 **クロザピン使用患者における無顆粒球症 –本邦全例調査の結果より–**

○松井 健太郎[1]、稲田 健[1]、石橋 美貴子[1]、河野 仁彦[2]、押淵 英弘[1]、石郷岡 純[3]、西村 勝治[1]
[1]東京女子医科大学医学部精神医学講座、[2]医療法人一誠会都城新生病院、[3]CNS薬理研究所

1-P15-3 **統合失調症の再燃に対して抗精神病薬持効性注射剤を導入した一例**

○石川 新[1]、木村 宏之[2]、阿部 浩崇[2]、尾崎 紀夫[2]
[1]愛知県精神医療センター、[2]名古屋大学医学部附属病院精神科

1-P15-4 **皮膚終末糖化産物は統合失調症患者における光過敏性のバイオマーカーとなるか**

○谷 恵梨子[1]、大沼 徹[1]、廣瀬 仁樹[1]、中山 賢[1]、毛 婉怡[1]、中平 茉莉子[1]、折茂 生裕[1]、山下 大樹[1]、竹林 佑人[1]、三木 康衣[1]、勝田 成昌[1]、西紋 昌平[1]、長谷川 敏男[2]、込山 悦子[2]、須賀 康[2]、池田 志孝[2]、新井 平伊[1]
[1]順天堂大学医学部附属順天堂医院精神医学講座、[2]順天堂大学医学部皮膚科学講座

1-P15-5 **統合失調症における安静時脳活動について：脳磁図を用いた神経ネットワークのグラフ解析による検討**

○田川 みなみ[1,2]、武井 雄一[2]、加藤 隆[3]、須藤 友博[1]、大城 武史[4]、櫻井 敬子[2]、福田 正人[2]
[1]群馬県立精神医療センター、[2]群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学教室、
[3]医療法人康生会つつじメンタルホスピタル、[4]東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻

1-P15-6 **クロザピンを投与中に抗好中球細胞質抗体陽性となった治療抵抗性統合失調症の 2 例の長期経過**

○佐藤 優真[1,2]、菊池 結花[2]、佐々木 諒[3]、齋藤 英知[1]、神林 崇[4]、三島 和夫[2]、清水 徹男[5]
[1]能代厚生医療センター精神科、[2]秋田大学大学院医学系研究科医学専攻病態制御医学系精神科学講座、
[3]秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、[4]筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構、
[5]秋田県精神保健福祉センター

12:50～13:38 一般演題（ポスター）16
神経症性障害とその類縁 1

司会：**岩田 正明**　鳥取大学医学部精神科

1-P16-1 **入院森田療法の経過中に怒りが治療のテーマとなった強迫症 2 症例**

○舘野 歩[1,2]
[1]東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科、[2]東京慈恵会医科大学森田療法センター

1-P16-2 **摂食障害の患者・家族に対する自助グループ支援の経験**

○川嶋 義章
南浜病院精神科

1-P16-3 **無症状性の強迫傾向の皮質 –線条体における相関**

○久保田 泰考[1]、佐藤 弥[2]、河内山 隆紀[3]、義村 さや香[4]、崎濱 盛三[5]、十一 元三[4]
[1]滋賀大学保健管理センター、[2]京都大学こころの未来研究センター、
[3]株式会社国際電気通信基礎技術研究所/脳情報通信総合研究所、[4]京都大学大学院医学研究科人間健康科学系、
[5]医療法人社団洛和会洛和会音羽病院

1-P16-4 **J・S・バッハのマタイ受難曲第 52 曲によって表現された失感情症の精神医学的考察**

○細田 信一
医療法人社団松籟会宇都宮西ヶ丘病院

1-P16-5 **当科における強迫症の多職種連携入院治療プログラムの実践と有効性調査**

○岡﨑 敏馬、向井 馨一郎、林田 和久、前林 憲誠、宮内 雅弘、橋本 卓也、吉田 賀一、
鈴木 健太、徳谷 晃、松永 寿人
兵庫医科大学病院

1-P16-6 **神経性やせ症患者の臨床的特徴における 30 年間の変遷**

○原田 朋子、山内 常生、宮本 沙緒里、西幹 和哉、松塚 巧、本多 美穂子、井上 幸紀
大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

12:50～13:38 研修医・学部学生演題（ポスター）1
研修医・学部学生 1

司会：**岡田 剛**　広島大学大学院医系科学研究科精神神経医科学

1-KP1-1 **「僕も ADHD?」：尤度比計算尺を用いたベイズ確率の可視化**

○古川 由己、古水 克明
総合病院南生協病院

1-KP1-2 **自閉スペクトラム症の経過中に右優位の意味性認知症が明らかになった 1 例**

○下島 里音[1]、横山 裕一[2]、吉田 悠里[2]、徳武 孝允[3]、池内 健[4]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟大学医歯学総合病院総合臨床研修センター、[2]新潟大学医歯学総合病院精神科、
[3]新潟大学医歯学総合病院神経内科、[4]新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野

1-KP1-3 **ヒトの自己・他者の認知に関する機能的神経画像研究**

○前田 遥、川﨑 康弘、和田 彩令奈、土田 和奈、上原 隆、長澤 達也、嶋田 貴充、片岡 譲
金沢医科大学精神神経科学

1-KP1-4 **安静時脳機能 MRI から得られる局所均一性を用いた、実行機能の改善に関与する領域の検討**

○黒下 彰喜[1]、根本 清貴[2]、所 圭吾[3]、山田 典子[4]、田村 昌士[4]、臼庭 等[4]、Adam Lebowitz[5]、
石川 和宏[6]、関根 彩[7]、新井 哲明[2]
[1]筑波大学医学群医学類、[2]筑波大学医学医療系精神医学、[3]Rise Total Support、[4]茨城県立こころの医療センター、
[5]自治医科大学医学部総合教育部門、[6]池田病院、[7]筑波大学附属病院

1-KP1-5 **安静時脳機能 MRI から得られる機能的結合を用いた、実行機能の改善に関与する領域の検討**

○本多 皓一[1]、根本 清貴[2]、所 圭吾[3]、山田 典子[4]、田村 昌士[4]、臼庭 等[4]、Adam Lebowitz[5]、
石川 和宏[6]、関根 彩[7]、新井 哲明[2]
[1]筑波大学医学群医学類、[2]筑波大学医学医療系精神医学、[3]Rise Total Support、[4]茨城県立こころの医療センター、
[5]自治医科大学医学部総合教育部門、[6]池田病院、[7]筑波大学附属病院精神神経科

1-KP1-6 **新潟大学精神科リエゾンチームの活動：せん妄予防を目的とした睡眠薬適正使用の取り組み**

○横山 航平、横山 裕一、橋尻 洸陽、宮下 真子、國塚 拓郎、塚野 満明、横尾 ゆかり、
染矢 俊幸
新潟大学医歯学総合病院精神科

6月20日（木） ポスター会場4（センター 3F）［301・302前ホワイエ］

12:50〜13:38 一般演題（ポスター）17
児童・思春期精神障害および知的障害 1

司会：**赤田 卓志朗** 群馬県立精神医療センター

1-P17-1 発達障害症例に、一般精神科病棟にて TEACCH・応用行動分析を取り入れて治療した 1 例

○千葉 洋平、千石 利広、牧口 幸一、坂本 隆、吉田 宏美、長谷川 博一、武田 修、
森山 奈津子、町田 憲彦、関谷 修
津軽保健生活協同組合藤代健生病院

1-P17-2 児童・思春期精神科入院患者における QT 延長の頻度：後ろ向きコホート研究

○齊藤 慧[1]、公家 里依[1,2]、長沢 崇[1]、大倉 勇史[1]、三浦 大[3,4]
[1]東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科、[2]信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、
[3]東京都立小児総合医療センター循環器科、[4]東京都立小児総合医療センター臨床研究支援センター

1-P17-3 致命的な自殺行動を行い、当センターに入院することとなった未成年患者の特徴について

澤田 健、○服部 道成、川村 静香、藤 美佳子、永野 志歩
高知医療センター精神科

1-P17-4 成人期発達障害における ADOS-2 評価の検討

○花輪 洋一、林 若穂、青柳 啓介、岩見 有里子、太田 真里絵、佐藤 綾夏、新井 豪佑、
佐賀 信之、太田 晴久、岩波 明
昭和大学附属烏山病院精神医学講座

1-P17-5 気分障害、物質関連障害における AQ と CAARS

○小島 睦[1,2]、中村 暖[1,2]、宇野 宏光[1,2]、林 若穂[1,2]、石井 弘毅[1,2]、宮保 嘉津真[1,2]、川合 秀明[1,2]、
岩見 有里子[1]、長塚 雄大[1,2]、佐藤 諒太郎[1,2]、石川 文徳[1,2]、花輪 洋一[1,2]、小野 英里子[1,2]、
神保 光一[1,2]、新村 一樹[1,2]、笹森 大貴[1,2]、横山 佐知子[2]、吉澤 徹[2]、石部 穣[1,2]、中村 亮介[1,2]、
常岡 俊昭[1,2]、岩波 明[1,2]
[1]昭和大学附属烏山病院、[2]昭和大学医学部精神医学講座

1-P17-6 小児総合病院におけるコンサルテーション・リエゾン〜千葉県こども病院の現状〜

○河岸 嶺将、冨田 陽子、横田 瑛子、井原 祐子、敦賀 壮太、小菅 ちひろ、安藤 咲穂
千葉県こども病院

12:50〜13:38 一般演題（ポスター）18
薬物療法・その他

司会：**寺田 整司** 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 精神神経病態学

1-P18-1 統合失調症患者の服薬アドヒアランスについての治療者の認識：精神科医を対象とした国際的オンライン調査

○黒川 駿哉[1]、岸本 泰士郎[1]、田澤 雄基[1]、髙宮 彰紘[1]、堀込 俊郎[1]、三村 將[1]、ケイン ジョン[2]
[1]慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、[2]Department of Psychiatry, The Zucker Hillside Hospital

1-P18-2 統合失調症以外の精神疾患患者に対するアリピプラゾール持効性注射剤の有効性と安全性

○岩見 有里子、川合 秀明、長塚 雄大、山田 真理、常岡 俊昭、岩波 明
昭和大学付属烏山病院精神科

1-P18-3 スボレキサントによって惹起されたせん妄の 1 例

○吉田 和貴[1]、古郡 規雄[1,2]、中村 和彦[1]
[1]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[2]獨協医科大学精神神経医学講座

1-P18-4 **精神疾患・身体合併症センターの設立**

○松田 達也[1]、和田 大樹[2]、池田 俊一郎[1]、許 全利[1]、山田 妃沙子[2]、住田 緒理依[2]、織田 裕行[1]、中森 靖[2]、木下 利彦[1]
[1]関西医科大学附属滝井病院精神神経科、[2]関西医科大学総合医療センター

1-P18-5 **信州大学医学部附属病院精神科における初診時診断の推移 第２報**

○高橋 翔[1]、山本 和希[2]、中村 敏範[1]、荻原 朋美[3]、萩原 徹也[1]、鷲塚 伸介[1]
[1]信州大学医学部精神医学教室、[2]長野県立こころの医療センター駒ヶ根、[3]信州大学医学部地域精神医療学講座

1-P18-6 **老年期精神病に対して電気けいれん療法が著効し寛解に至った一例**

○佐竹 祐人[1,2]、吉山 顕次[1]、志村 容子[1]、佐々木 祥子[1,3]、岩瀬 真生[1]、池田 学[1]
[1]大阪大学医学部附属病院神経科精神科、[2]大阪急性期・総合医療センター、[3]国立国際医療研究センター国府台病院

12:50～13:38 一般演題（ポスター）19
神経症性障害とその類縁２

司会：**木村 真人**　日本医科大学千葉北総病院

1-P19-1 **青年期における日本語版摂食障害簡易スクリーニング検査 SCOFF の有用性についての検討**

○細田 豊[1]、大渓 俊幸[2]、花澤 寿[3]、田中 麻未[4]、橋本 佐[5]、伊豫 雅臣[1]、中里 道子[6]
[1]千葉大学医学部付属病院精神神経科、[2]千葉大学総合衛生安全管理機構、[3]千葉大学教育学部養護教育講座、[4]千葉大学社会精神保健教育研究センター、[5]社会医療法人社団さつき会袖ケ浦さつき台病院、[6]国際医療福祉大学

1-P19-2 **トラウマ体験と自殺との関連：近年の論文をもとにした論考**

○大江 美佐里、石田 哲也、千葉 比呂美、長沼 清、小林 雄大、内村 直尚
久留米大学医学部精神神経科

1-P19-3 **肉芽腫性口唇炎の発症後に表面化した強迫症の１症例**

○萩倉 美奈子[1]、稲田 俊也[2]、松本 由紀奈[1]、萩倉 祥一[1]、飯倉 康郎[1,3]、藤田 潔[1]
[1]桶狭間病院藤田こころケアセンター精神科、[2]名古屋大学大学院医学系研究科精神生物学分野、[3]医療法人社団宗仁会筑後吉井こころホスピタル

1-P19-4 **汚染/洗浄強迫の汚染の方向性による異種性の検討 第２報**

○向井 馨一郎、橋本 卓也、宮内 雅弘、中嶋 章浩、山西 恭輔、前林 憲誠、林田 和久、松永 寿人
兵庫医科大学病院

1-P19-5 **重症かつ難治性の強迫症に対するＮ－アセチルシステインの使用経験**

○渡邊 崇[1,2,3]、下田 和孝[1]
[1]獨協医科大学精神神経医学講座、[2]桂慈会菊池病院、[3]さくら・ら心療内科

1-P19-6 **身体表現性障害として治療中、咽頭部違和感にビペリデンが有効だった一例**

○冨田 哲[1]、古郡 規雄[1,2]、中村 和彦[1]
[1]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[2]獨協医科大学精神神経医学講座

6月20日（木） ポスター会場5（センター 4F）［国際会議室前ホワイエ］

12:50～13:38 一般演題（ポスター）20
検査・診断・その他

司会：**山本 賢司**　東海大学医学部専門診療学系精神科学

1-P20-1 **地域在住の高齢者を対象として唾液中 MHPG 濃度と頭部 MRI 画像解析結果の関連を検討する**
○福地 絢子、今村 義臣、溝口 義人、門司 晃
佐賀大学精神科

1-P20-2 **自閉スペクトラム症の傾向と白質線維束における関連解析の試み**
○戸田 亘[1]、松本 純弥[1]、板垣 俊太郎[1]、大西 隆[2]、伊藤 浩[3]、石井 士朗[3]、志賀 哲也[1]、
松本 貴智[1]、青木 俊太郎[1]、三浦 至[1]、矢部 博興[1]
[1]福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、[2]ヤンセンファーマ株式会社メディカルアフェアーズ本部、
[3]福島県立医科大学医学部放射線医学講座

1-P20-3 **生来の白血球数・顆粒球数とクロザピン誘発性顆粒球減少症：Mendelian Randomization 解析**
○島﨑 愛夕[1,2]、齋藤 竹生[1]、大河内 智[1]、谷口 賢[1]、二宮 光平[1]、橋本 亮太[3,4]、池田 匡志[1]、
岩田 仲生[1]、CPC-J日本クロザピン薬理ゲノム学コンソーシアム[1]
[1]藤田医科大学精神神経科学、[2]桶狭間病院藤田こころケアセンター、
[3]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、[4]大阪大学

1-P20-4 **成人発達障害専門外来における通院継続・中断率について**
○中村 善文、太田 晴久、西尾 崇志、土岐 幸生、傅 佳慧、加藤 進昌、岩波 明
昭和大学附属烏山病院

1-P20-5 **心理社会因子が地域で生活する統合失調症者のリカバリーに与える影響**
○上原 徹[1]、岡本 隆寛[1,2]
[1]高崎健康福祉大学大学院・保健福祉学専攻、[2]順天堂大学看護学科

12:50～13:38 一般演題（ポスター）21
産業精神医学

司会：**森川 将行**　三重県立こころの医療センター

1-P21-1 **中小企業勤労者に対する昭和大学精神科のメンタルヘルス活動**
○石井 弘毅、高塩 理、岡島 由佳、長井 友子、平田 亮人、青柳 啓介、佐藤 諒太郎、
石川 文徳、岩波 明
昭和大学附属烏山病院精神科

1-P21-2 **残業時間は心身のストレス反応に直接影響せず、睡眠時間の短縮や食生活の乱れを介して不調をもたらす**
○渡邊 天志[1,2]、志村 哲祥[2]、井上 猛[2]
[1]成仁病院精神神経科、[2]東京医科大学精神医学分野

1-P21-3 **職業性ストレス、ストレス反応、睡眠の問題はプレゼンティズムにどのような影響を与えるのか**
○古市 亘、志村 哲祥、美山 仁、大野 浩太郎、市来 真彦、井上 猛
東京医科大学精神医学分野

1-P21-4 **小児期の被養育体験と神経症傾向が職業性ストレスに与える複合的影響の検討**
○積 知輝[1]、成瀬 麻夕[1]、藤村 洋太[1,2]、志村 哲祥[1]、市来 真彦[1]、井上 猛[1]
[1]東京医科大学病院精神科、[2]東京医科大学八王子医療センター

1-P21-5 **夜型のクロノタイプを持つ者の早すぎる起床時刻は、心身のストレス反応を招く**

○美山 仁、志村 哲祥、古市 亘、成瀬 麻夕、大野 浩太郎、市来 真彦、井上 猛
東京医科大学精神医学分野

1-P21-6 **小児期の被養育体験とレジリアンスが職業性ストレスに与える複合的影響の検討**

○鮫島 寛人[1]、成瀬 麻夕[1]、志村 哲祥[1]、桝屋 二郎[1,2]、市来 真彦[1]、中島 聡美[3]、井上 猛[1]
[1]東京医科大学精神医学分野、[2]東京医科大学茨城医療センター精神科、[3]武蔵野大学人間科学部

12:50～13:38 一般演題（ポスター）22
統合失調症 10

司会：**本多 義治**　医療法人爽神堂 七山病院

1-P22-1 **At-risk mental state および統合失調症における眼窩前頭皮質の脳溝脳回パターンと社会-認知機能の関連**

○高橋 努[1]、中村 美保子[1]、西川 祐美子[1]、小森 祐子[1]、西山 志満子[1]、高柳 陽一郎[1]、古市 厚志[1]、木戸 幹雄[1]、笹林 大樹[1]、樋口 悠子[1]、野口 京[2]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、[2]富山大学大学院医学薬学研究部放射線診断・治療学講座

1-P22-2 **At-risk mental state および統合失調症における透明中隔腔と臨床特徴の関連**

○高橋 努[1]、中村 美保子[1]、西川 祐美子[1]、小森 祐子[1]、西山 志満子[1]、高柳 陽一郎[1]、古市 厚志[1]、木戸 幹雄[1]、笹林 大樹[1]、樋口 悠子[1]、野口 京[2]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、[2]富山大学大学院医学薬学研究部放射線診断・治療学講座

1-P22-3 **統合失調症における α7 ニコチン性アセチルコリン受容体：[11C](R) -MeQAA を用いた PET 脳画像の予備的研究**

○和久田 智靖[1]、横倉 正倫[1]、中泉 享子[1]、加藤 康彦[1]、亀野 陽亮[1]、桑原 斉[1]、二ツ橋 昌実[2]、吉川 悦次[2]、間賀田 泰寛[3]、尾内 康臣[4]、武井 教使[5]、山末 英典[1]
[1]浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科、[2]浜松ホトニクス、[3]浜松医科大学医学部分子病態イメージング研究室、[4]浜松医科大学医学部生体機能イメージング研究室、[5]浜松医科大学子どものこころの発達研究センター

1-P22-4 **胎生期免疫ストレス誘発統合失調症モデルの社会性行動と GABA 作動性インターニューロン変化に関する研究**

○橋本 恵理、鵜飼 渉、西村 恵美、橋口（辻野）華子、木川 昌康、田山 真矢、出利葉 健太、廣瀬 奨真、古瀬 研吾、石井 貴男、河西 千秋
札幌医科大学医学部神経精神医学講座

1-P22-5 **統合失調症患者を対象としたブレクスピプラゾールの長期投与試験における切り替え例に関する追加解析**

○石郷岡 純[1]、間宮 教之[2]、小島 慶嗣[2]、岩下 修一[2]、宇佐美 智浩[2]
[1]医療法人石郷岡病院、[2]大塚製薬株式会社

1-P22-6 **統合失調症患者のメタボリックシンドロームを改善するデイケアでの取り組み**

○福井 弘恵[1]、八藤後 昭代[1]、志田 幸枝[1]、相馬 多恵子[1]、大鷹 李予[1]、鈴木 雄太郎[1,2]
[1]末広橋病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院

12:50〜13:38 一般演題（ポスター）23
統合失調症 11

司会：**清水 徹男**　秋田県精神保健福祉センター

1-P23-1　外来-入院統合失調症患者における生活習慣病罹患率の差異

○恩田 啓伍[1]、須貝 拓朗[2]、鈴木 雄太郎[2]、山崎 學[3]、下田 和孝[4]、森 隆夫[3]、尾関 祐二[4]、
松田 ひろし[3]、菅原 典夫[6]、古郡 規雄[7,8]、岡本 呉賦[3]、寒河江 豊昭[5]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院、[2]新潟大学医歯学総合病院、[3]日本精神科病院協会、
[4]獨協医科大学病院、[5]山形県立米沢栄養大学、[6]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
[7]弘前大学医学部附属病院、[8]獨協医科大学精神神経医学講座

1-P23-2　Clozapine により好酸球増加症が生じたが継続投与が可能であった治療抵抗性統合失調症の一例

○藤本 美智子[1,2]、山森 英長[2,3]、安田 由華[2,4]、加藤 恒[5]、金倉 譲[5]、岩瀬 真生[1]、池田 学[1]、
橋本 亮太[2,6]
[1]大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、
[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、
[3]独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院、[4]生きる・輝く・育むメンタルクリニック、
[5]大阪大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学、[6]大阪大学

1-P23-3　ブロナンセリンとリスペリドンの自律神経活動へ与える影響の比較

○服部 早紀[1]、須田 顕[1]、岸田 郁子[1,2]、宮内 雅利[1]、白石 洋子[1]、藤林 真美[3]、辻田 那月[4]、
石井 千恵[2]、石井 紀夫[2]、福島 端[5]、佐伯 隆史[5]、森谷 敏夫[6]、平安 良雄[7]
[1]横浜市立大学医学部精神医学教室、[2]医療法人社団清心会藤沢病院、[3]摂南大学、
[4]京都大学大学院人間・環境学研究科、[5]医療法人誠心会あさひの丘病院、[6]京都産業大学、[7]医療法人へいあん平安病院

1-P23-4　当院外来における risperidone 持効性注射製剤の使用状況と継続率に関与する因子

○許 全利、嶽北 佳輝、越川 陽介、坂井 志帆、加藤 正樹、木下 利彦
関西医科大学精神神経科学講座

1-P23-5　早期精神症における大脳白質微細構造と幻覚との関連

○佐藤 祐太朗[1,2]、佐久間 篤[2]、大室 則幸[2]、桂 雅宏[2]、阿部 光一[1]、冨本 和歩[1]、飯塚 邦夫[2]、
松岡 洋夫[1,2]、富田 博秋[1,2,3]、松本 和紀[1,2]
[1]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、[2]東北大学病院精神科、
[3]東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野

1-P23-6　統合失調症における社会機能と語流暢課題遂行中の前頭前皮質機能の関係：光トポグラフィ検査を用いた研究

○板倉 征史、朴 盛弘、大立 博昭、松村 博史、横山 勝利、長田 泉美、岩田 正明、兼子 幸一
鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

12:50〜13:38 一般演題（ポスター）24
統合失調症 12

司会：**一瀬 邦弘**　多摩中央病院

1-P24-1　統合失調症患者の健康意識と MetS 罹患率との関連

○須貝 拓朗[1]、鈴木 雄太郎[1]、山崎 學[2]、下田 和孝[3]、森 隆夫[2]、尾関 祐二[3]、松田 ひろし[2]、
菅原 典夫[4]、古郡 規雄[3,5]、岡本 呉賦[2]、寒河江 豊昭[6]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]公益社団法人日本精神科病院協会、
[3]獨協医科大学精神神経医学講座、
[4]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター、
[5]弘前大学大学院神経精神医学講座、[6]山形県立米沢栄養大学

1-P24-2　血漿中アミノ酸濃度と認知機能の関係：構造方程式モデリングを用いた評価

○尾関 祐二[1,2]、関根 正恵[3]、藤井 久彌子[1]、岡安 寛明[1]、秋山 一文[4]、本間 浩[3]、下田 和孝[1]
[1]獨協医科大学精神神経医学講座、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
[3]北里大学薬学部生体分子解析学、[4]獨協医科大学精神生物学講座

1-P24-3 **外来統合失調症の持効性注射剤の長期使用における有用性と安全性 –リカバリーを目指した治療のために–**

○窪田 幸久
中央公園クリニック

1-P24-4 **統合失調症における Y 染色体モザイク欠損の検討**

○平田 尚士、菱本 明豊、大塚 郁夫、岡﨑 賢志、朴 秀賢、木村 敦、蓬莱 政、曽良 一郎
神戸大学大学院医学研究科精神医学分野

1-P24-5 **単純型統合失調症と考えられた 1 症例 –アセナピンの使用経験–**

○中川 東夫、池原 理恵、岡田 豊人
医療法人松原会七尾松原病院精神科

1-P24-6 **統合失調症における社会機能と QOL の変化に対する社交不安症状の関与**

○根本 隆洋[1]、相川 さやか[1]、松尾 悟志[2]、間宮 教之[2]、和田 葉[1]、田久保 陽司[1]、山口 英理子[1]、
内野 敬[1]、田形 弘実[1]、紫藤 佑介[1]、松村 尭明[1]、馬場 遥子[1]、松本 裕史[1]、舩渡川 智之[1]、
柴崎 佳幸[2]、宇佐美 智浩[2]、山口 大樹[1]、片桐 直之[1]、辻野 尚久[1]、水野 雅文[1]
[1]東邦大学医学部精神神経医学講座、[2]大塚製薬株式会社メディカル・アフェアーズ部

12:50～13:38 一般演題（ポスター）25
統合失調症 13

司会：**篠崎 和弘**　浅香山病院臨床研究研修センター

1-P25-1 **Clozapine 投与により就労就学に繋がった若年統合失調症患者三症例**

○内山 翔太郎、朝山 健太郎、館野 周、大久保 善朗
日本医科大学付属病院精神神経科

1-P25-2 **統合失調症入院患者の体重管理に対する取り組み**

○佐野 英孝、庭野 弥栄子、益川 和也、金子 しのぶ、五十嵐 さゆみ、小笠原 小百合、吉沢 美咲
白根緑ケ丘病院精神科

1-P25-3 **統合失調症患者におけるビフィズス菌とオリゴ糖による便性状改善の取り組み**

○渡邉 晴香[1]、鈴木 雄太郎[1,2]、羽賀 優美子[1]、山田 旭子[1]、長谷川 優子[1]、藤田 美香[1]、
八藤後 昭代[1]、福井 弘恵[1]
[1]末広橋病院、[2]新潟大学医歯学総合病院

1-P25-4 **科学的根拠に基づく統合失調症薬物治療を支える医療機関のシステムについての調査**

○三澤 史斉[1]、内田 裕之[2]、武田 俊彦[3]、藤井 康男[1]、宮田 量治[1]
[1]山梨県立北病院、[2]慶應義塾大学病院、[3]公益財団法人慈圭会慈圭病院

1-P25-5 **アリピプラゾール持続性水懸筋注用製剤（ARP－LAI）が統合失調症患者の処方に与える影響についての検討**

○森川 文淑[1]、粟野 雄大[2]、昔農 雄太[1]、飯田 愛弓[1]、田端 一基[1]、猪俣 光孝[1]、直江 寿一郎[1]
[1]医療法人社団旭川圭泉会病院、[2]あわの診療所

1-P25-6 **多職種連携が有効であった青年期統合失調症の二例**

○増澤 菜生[1]、高橋 聡子[1]、白井 文臣[2]、青柳 寿美[1]
[1]佐潟荘、[2]訪問看護ステーションつばさ

12:50～13:38　一般演題（ポスター）26
気分障害 7

司会：**飯田 順三**　　奈良県立医科大学看護学科人間発達学

1-P26-1　未治療のうつ病患者での一塩基多型の脳形態への影響の検討

○香月 あすか[1]、掛田 伸吾[2]、渡邉 啓太[2]、井形 亮平[1]、大塚 悠加[1]、上田 一生[2]、興梠 征典[2]、吉村 玲児[1]
[1]産業医科大学精神医学教室、[2]産業医科大学放射線科

1-P26-2　日本人女性の周産期うつ病の有病割合：メタアナリシス

○徳満 敬大[1]、菅原 典夫[2]、丸尾 和司[3]、鈴木 利人[4]、古郡 規雄[5,6]
[1]十和田市立中央病院メンタルヘルス科、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[3]筑波大学医学医療系臨床試験・臨床疫学研究室、[4]順天堂大学医学部付属順天堂越谷病院、[5]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[6]獨協医科大学精神神経医学講座

1-P26-3　双極性障害を併発し気分安定薬により症状改善を得た強迫症の一例

○佐藤 健登、北條 彩、新貝 慈利、中村 満
成増厚生病院

1-P26-4　難治性うつ状態患者に併存するパーソナリティー障害と作業遂行特徴出現場面との関連

○長島 泉[1,3]、早坂 友成[1,2,3]、高江洲 義和[2,3]、坪井 貴嗣[2,3]、片桐 建志[2,3]、野﨑 和博[2,3]、今村 弥生[2,3]、松本 由美[3]、栗原 真理子[2,3]、大江 悠樹[2,3]、二田 未来[2,3]、渡邊 衡一郎[2,3]
[1]杏林大学保健学部作業療法学科、[2]杏林大学医学部精神神経科学教室、[3]杏林大学医学部付属病院

1-P26-5　リチウム投与が中枢性無呼吸および閉塞性無呼吸の出現に関係したと考えられる 1 例

○神田 優太[1]、中島 亨[2]
[1]杏林大学精神神経学教室、[2]杏林大学保健学部臨床心理学科

1-P26-6　うつ病寛解直後に強迫症を発症した一例

○大塚 道人、大竹 裕美、上馬場 伸始
新潟県立新発田病院精神科

6月20日（木） ポスター会場6（ホテル 4F）［朱鷺ホワイエ］

12:50～13:38 一般演題（ポスター）27
神経症性障害・その他

司会：**橘 輝** 新潟大学

1-P27-1 **解離性健忘における脳血流 SPECT 画像の 3D-SRT 解析における検討：ケースシリーズ**

○泉 竜太[1]、松本 純弥[1]、國井 泰人[1,2]、戸田 亘[1]、石井 士朗[3]、伊藤 浩[3]、三浦 至[1]、矢部 博興[1]
[1]福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、[2]福島県立医科大学会津医療センター附属病院、
[3]福島県立医科大学医学部放射線医学講座

1-P27-2 **解離性幻聴が強くみられた強迫性障害の一例**

○一瀬 瑞絵、松本 純弥、板垣 俊太郎、刑部 有祐、山本 慎之助、三浦 至、矢部 博興
福島県立医科大学附属病院神経精神医学講座

1-P27-3 **併存したパニック症症状が経過や治療に悪影響を及ぼしていた強迫症の２例**

○橋本 卓也[1]、向井 馨一郎[1]、澤井 幸代[1]、日下部 新[2]、柳澤 嘉伸[3]、前林 憲誠[1]、林田 和久[1]、
吉田 賀一[4]、松永 寿人[1]
[1]兵庫医科大学病院兵庫医科大学精神神経科、[2]医療法人仁真会白鷺病院、[3]医療法人古橋会揖保川病院、
[4]兵庫医科大学病院兵庫医科大学臨床心理部

1-P27-4 **皮下気腫・縦隔気腫を合併した神経性無食欲症の一例**

○上村 永[1]、下出 崇輝[1]、村田 佳子[1]、松尾 幸治[1]、太田 敏男[2]
[1]埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科、[2]さやま総合クリニック

1-P27-5 **『ひきこもり』者の回避性パーソナリティ特性と血中バイオマーカー**

○早川 宏平[1]、加藤 隆弘[1]、渡部 幹[2]、テオ アラン[3,4]、堀川 英喜[1]、桑野 信貴[1]、下川 憲宏[1]、
佐藤 美那[1]、久保 浩明[1]、扇谷 昌宏[1]、佐方 功明[1]、戸田 裕之[5]、館農 勝[6]、新福 尚隆[7]、
岸本 淳司[8]、神庭 重信[1]
[1]九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野、[2]モナッシュ大学マレーシア校ビジネススクール、[3]VA Portland Health Care System、[4]Department of Psychiatry, Oregon Health and Science University、
[5]防衛医科大学校病院精神科、[6]札幌医科大学医学部神経精神医学講座、[7]神戸大学医学部医学医療国際交流センター、
[8]九州大学大学院医学研究院次世代医療研究開発講座

12:50～13:38 一般演題（ポスター）28
てんかん

司会：**和知 学** 医療法人青山信愛会 新潟信愛病院

1-P28-1 **Perampanel が発作周辺期精神症状に対し有効であった難治性てんかんの一例**

○長谷川 直哉[1]、福多 真史[2]
[1]国立病院機構西新潟中央病院てんかんセンターてんかん科、
[2]国立病院機構西新潟中央病院てんかんセンター脳神経外科

1-P28-2 **強直発作後に意識障害が遷延し、非けいれん性てんかん重積と診断した一例**

○北元 健、横山 誠、元永 悠介、吉永 陽子
医療法人社団碧水会長谷川病院

1-P28-3 **てんかん患者のセルフスティグマ低減方法の開発に向けた質的研究**

○倉持 泉[1,2,3]、堀川 直史[4]、下津 咲絵[5]、樋渡 豊彦[2,6]、渡辺 雅子[7]、村田 佳子[1,3]、渡邊 さつき[1,3]、
岡崎 光俊[3]、吉益 晴夫[2]、松尾 幸治[1]、太田 敏男[8]
[1]埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科、[2]埼玉医科大学総合医療センター、
[3]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[4]埼玉医科大学かわごえクリニック、
[5]京都女子大学発達教育学部、[6]社会福祉法人埼玉医療福祉会丸木記念福祉メディカルセンター、
[7]新宿神経クリニック、[8]さやま総合クリニック

1-P28-4 **ペランパネル使用患者における精神症状出現に関する検討**

○水村 亮介[1]、渡邊 さつき[2]、石川 章[1]、岸野 亨[1]、倉持 泉[2]、村田 佳子[2]、岡島 宏明[2]、松尾 幸治[2]、太田 敏男[3]
[1]埼玉医科大学病院薬剤部、[2]埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科、[3]さやま総合クリニック

1-P28-5 **解離性障害として 6 か月経過観察された後に辺縁系脳炎と診断された一例**

○茨木 丈博[1]、中村 蓉子[2]、池井 大輔[2]、岩井 一正[1]
[1]地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立精神医療センター精神科、[2]横浜市立みなと赤十字病院

1-P28-6 **ラコサミド導入後､周期性一側てんかん性発射の消退と易刺激性・衝動性の改善をみた器質性精神障害の一例**

○谷木 夏妃[1]、倉持 泉[1]、平田 吾一[1]、岡井 公志[1]、高杉 綾香[1]、今泉 照明[1,2]、渡邊 さつき[1]、松岡 孝裕[1,2]、松尾 幸治[1]、太田 敏男[3]
[1]埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科、[2]埼玉医科大学国際医療センター精神科救命救急科、[3]さやま総合クリニック

12:50～13:38 一般演題（ポスター）29
認知症 1

司会：**森田 昌宏**　三島病院　認知症疾患医療センター

1-P29-1 **Sertraline により常同・脱抑制行動が増悪した前頭側頭型認知症の一例**

○宮本 忍
黒川病院

1-P29-2 **アルツハイマー病患者における誤認妄想の神経基盤について**

○橋本 衛[1]、福原 竜治[2]、津野田 尚子[3]、竹林 実[1]
[1]熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野、[2]熊本大学医学部附属病院神経精神科、[3]みつぐまち診療所

1-P29-3 **幻視、脱抑制、認知症を呈した Fahr 病の一例**

○橋尻 洸陽[1,3]、小野 信[1,2,3]、小泉 暢大栄[1,3]、細木 俊宏[1]
[1]新潟県立精神医療センター、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座、[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

1-P29-4 **高齢者の嫉妬妄想がドネペジルにより改善した 1 例**

○恩田 啓伍[1]、折目 直樹[2]、横山 裕一[2]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院、[2]新潟大学医歯学総合病院

1-P29-5 **石灰沈着を伴うびまん性神経原線維変化病（小阪・柴山病）と特発性基底核石灰化症**

○鵜飼 克行[1]、小阪 憲司[2]、柴山 漠人[3]
[1]社会医療法人愛生会総合上飯田第一病院、[2]湘南いなほクリニック、[3]あさひが丘ホスピタル

1-P29-6 **前頭側頭型認知症を疑う臨床症状を呈した Frontal variant アルツハイマー型認知症の一例**

○藤井 由佳[1]、諸隈 暢[1]、國武 裕[1]、江里口 誠[2]、門司 晃[1]
[1]佐賀大学医学部附属病院精神神経科、[2]佐賀大学医学部附属病院神経内科

一般演題（特別ポスター）

※フリーディスカッション形式

特別ポスター会場（新潟コンベンションセンター 1F「展示ホール A」内）

フリーディスカッション日時

①6 月 21 日（金）18：10〜19：10（メイン）

②6 月 20 日（木）18：10〜19：10（サブ）

［両日①・②とも立ち会っていただけるのは歓迎です。］

発表が重なっている場合は共著者の方にご協力をいただく等のご対応をご検討いただけるとありがたいです。

ディスカッション時には両日ともフロアに軽食とお飲み物を準備させていただきます。

和やかな雰囲気の中で、参加者間の活発な議論と情報交換が行われることを期待いたします。

日本精神神経学会の委員会活動紹介コーナー

日本精神神経学会

PN-1 **ICD-11 委員会の活動について**

○神庭 重信[1]、秋山 剛[2]、丸田 敏雅[3]、松本 ちひろ[4]
[1]九州大学、[2]NTT東日本関東病院、[3]聖徳大学、[4]日本精神神経学会

PN-2 **精神科用語検討委員会・精神科病名検討連絡会の活動について**

○神庭 重信[1]、針間 博彦[2]、松本 ちひろ[3]
[1]九州大学、[2]東京都立松沢病院、[3]日本精神神経学会

PN-3 **精神神経学雑誌編集委員会の活動について**

○大森 哲郎[1]、久住 一郎[2]、細田 眞司[3]、熊倉 陽介[4]
[1]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野、[2]北海道大学大学院医学研究院、[3]こころの診療所細田クリニック、
[4]東京大学医学部大学院医学系研究科精神保健学分野

PN-4 **PCN 編集委員会の活動について**

○平野 羊嗣[1]、神庭 重信[1]、加藤 忠史[2]
[1]九州大学大学院医学研究院精神病態医学、[2]理化学研究所脳神経科学研究センター

PN-5 **精神療法委員会の活動について**

○藤山 直樹[1]、池田 暁史[2]、中尾 智博[3]、吾妻 壮[4]、内海 健[5]、大野 裕[6]、岡野 憲一郎[7]、
加茂 登志子[8]、菊地 俊暁[9]、黒木 俊秀[10]、白波瀬 丈一郎[9]、高橋 恵[11]、中村 敬[12]、中村 伸一[13]、
原田 誠一[14]、福田 正人[15]、布施 泰子[16]、水野 雅文[17]、渡辺 俊之[18]、渡辺 義文[19]
[1]個人開業、[2]文教大学、[3]九州大学病院精神科神経科、[4]上智大学、[5]東京藝術大学、[6]大野研究所、
[7]京都大学大学院教育学研究科、[8]若松町こころとひふのクリニック、[9]慶應義塾大学医学部精神・神経科、
[10]九州大学大学院人間環境学研究院、[11]北里大学北里研究所病院精神科、
[12]東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科、[13]中村家族療法研究室、[14]原田メンタルクリニック、
[15]群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学、[16]茨城大学保健管理センター、[17]東邦大学医学部精神神経医学講座、
[18]渡辺医院、[19]南東北医療クリニック

PN-6 **小児精神医療委員会**

○松本 英夫[1]、森 隆夫[2]、紫藤 昌彦[3]、齊藤 万比古[4]、大重 耕三[5]、館農 勝[6]、本多 奈美[7]、
中土井 芳弘[8]、岩坂 英巳[9]、松田 文雄[10]、今村 明[11]、野邑 健二[12]、山野 かおる[13]、鈴村 俊介[14]、
高橋 秀俊[15]、山下 洋[16]、榎戸 芙佐子[17]、齊藤 卓弥[18]
[1]東海大学医学部専門診療学系精神科学、[2]あいせい紀年病院、[3]紫藤クリニック、
[4]恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック、[5]地方独立行政法人岡山県精神科医療センター、
[6]特定医療法人さっぽろ悠心の郷ときわ病院、[7]東北大学大学院医学系研究科、
[8]独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター、[9]ハートランドしぎさん、
[10]医療法人翠星会松田病院、[11]長崎大学病院、[12]名古屋大学、[13]櫻和メンタルクリニック、[14]東京都立大塚病院、
[15]高知大学医学部児童青年期精神医学講座、[16]九州大学病院子どものこころの診療部、
[17]医療法人社団和敬会谷野呉山病院、[18]北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門

PN-7 司法精神医学委員会

○五十嵐 禎人
千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門

PN-8 司法精神医学研修会について

○五十嵐 禎人
千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門

PN-9 認知症委員会

○武田 雅俊
学校法人河﨑学園大阪河﨑リハビリテーション大学

PN-10 常任委員会の活動について

○神庭 重信[1]、上野 修一[2]、尾崎 紀夫[3]、鹿島 晴雄[4]、久住 一郎[5]、小島 卓也[6]、紫藤 昌彦[7]、
武田 雅俊[8]、細田 眞司[9]、松田 ひろし[10]、三村 將[11]、宮岡 等[12]、森 隆夫[13]、森村 安史[14]、
山内 俊雄[15]
[1]九州大学、[2]愛媛大学大学院医学系研究科、[3]名古屋大学大学院医学系研究科、[4]医療法人葛野会木野崎病院、
[5]北海道大学大学院医学研究院、[6]大宮厚生病院、[7]紫藤クリニック、
[8]学校法人河﨑学園大阪河﨑リハビリテーション大学、[9]こころの診療所細田クリニック、[10]柏崎厚生病院、
[11]慶應義塾大学、[12]北里大学、[13]あいせい紀年病院、[14]一般財団法人仁明会、[15]埼玉医科大学

PN-11 サブスペシャルティに関する検討班

○森 隆夫[1]、岸本 年史[2]、佐野 輝[3]、水野 雅文[4]、武田 雅俊[5]、鹿島 晴雄[6]、小島 卓也[7]、山内 俊雄[8]
[1]あいせい紀年病院、[2]奈良県立医科大学付属病院、[3]鹿児島大学、[4]東邦大学、
[5]学校法人河﨑学園大阪河﨑リハビリテーション大学、[6]医療法人葛野会木野崎病院、[7]大宮厚生病院、[8]埼玉医科大学

PN-12 専門医研修委員会

○三村 將
慶應義塾大学

PN-13 研修プログラム審査委員会

○森村 安史
一般財団法人仁明会

PN-14 生涯教育委員会 これまでに実施した生涯教育研修会

○紫藤 昌彦[1]、松田 ひろし[2]、岸本 年史[3]、渕野 勝弘[4]、吉住 昭[5]、市川 宏伸[6]、太田 敏男[7]、
大野 史郎[8]、篠崎 和弘[9]、丹羽 真一[10]、大下 隆司[11]、平島 奈津子[12]、松原 六郎[13]、三村 將[14]、
油井 邦雄[15]、一瀬 邦弘[16]、越川 裕樹[17]、坂本 博子[18]、皆川 英明[19]、小田垣 雄二[20]、中尾 和久[21]、
岩永 英之[22]、須藤 良隆[9]、島本 卓也[23]、辻 富基美[24]
[1]紫藤クリニック、[2]柏崎厚生病院、[3]奈良県立医科大学付属病院、[4]医療法人社団淵野会、
[5]医療法人社団翠会八幡厚生病院、[6]日本発達障害ネットワーク、[7]さやま総合クリニック、[8]研水会平塚病院、
[9]浅香山病院、[10]福島県立医科大学会津医療センター、[11]医療法人社団邦秀会代々木の森診療所、
[12]国際医療福祉大学三田病院、[13]公益財団法人松原病院、[14]慶應義塾大学、[15]藤田医科大学、
[16](医) 聖美会多摩中央病院、[17]石神井公園クリニック、[18]医療法人社団すずき病院、[19]広島市精神保健福祉センター、
[20]埼玉医科大学医学部、[21]甲南女子大学、[22]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、
[23]医療法人亀廣記念医学会関西記念病院、[24]和歌山県立医科大学医学部

PN-15 生涯教育委員会 共通講習についての案内

○紫藤 昌彦[1]、松田 ひろし[2]、岸本 年史[3]、渕野 勝弘[4]、吉住 昭[5]、市川 宏伸[6]、太田 敏男[7]、
大野 史郎[8]、篠崎 和弘[9]、丹羽 真一[10]、大下 隆司[11]、平島 奈津子[12]、松原 六郎[13]、三村 將[14]、
油井 邦雄[15]、一瀬 邦弘[16]、越川 裕樹[17]、坂本 博子[18]、皆川 英明[19]、小田垣 雄二[20]、中尾 和久[21]、
岩永 英之[22]、須藤 良隆[9]、島本 卓也[23]、辻 富基美[24]
[1]紫藤クリニック、[2]柏崎厚生病院、[3]奈良県立医科大学付属病院、[4]医療法人社団淵野会、
[5]医療法人社団翠会八幡厚生病院、[6]日本発達障害ネットワーク、[7]さやま総合クリニック、[8]研水会平塚病院、
[9]浅香山病院、[10]福島県立医科大学会津医療センター、[11]医療法人社団邦秀会代々木の森診療所、
[12]国際医療福祉大学三田病院、[13]公益財団法人松原病院、[14]慶應義塾大学、[15]藤田医科大学、
[16](医) 聖美会多摩中央病院、[17]石神井公園クリニック、[18]医療法人社団すずき病院、[19]広島市精神保健福祉センター、
[20]埼玉医科大学医学部、[21]甲南女子大学、[22]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、
[23]医療法人亀廣記念医学会関西記念病院、[24]和歌山県立医科大学医学部

PN-16 生涯教育委員会 機構専門医への移行開始について

○紫藤 昌彦[1]、松田 ひろし[2]、岸本 年史[3]、渕野 勝弘[4]、吉住 昭[5]、市川 宏伸[6]、太田 敏男[7]、
大野 史郎[8]、篠崎 和弘[9]、丹羽 真一[10]、大下 隆司[11]、平島 奈津子[12]、松原 六郎[13]、三村 將[14]、
油井 邦雄[15]、一瀬 邦弘[16]、越川 裕樹[17]、坂本 博子[18]、皆川 英明[19]、小田垣 雄二[20]、中尾 和久[21]、
岩永 英之[22]、須藤 良隆[9]、島本 卓也[23]、辻 富基美[24]
[1]紫藤クリニック、[2]柏崎厚生病院、[3]奈良県立医科大学付属病院、[4]医療法人社団淵野会、
[5]医療法人社団翠会八幡厚生病院、[6]日本発達障害ネットワーク、[7]さやま総合クリニック、[8]研水会平塚病院、
[9]浅香山病院、[10]福島県立医科大学会津医療センター、[11]医療法人社団邦秀会代々木の森診療所、
[12]国際医療福祉大学三田病院、[13]公益財団法人松原病院、[14]慶應義塾大学、[15]藤田医科大学、
[16](医) 聖美会多摩中央病院、[17]石神井公園クリニック、[18]医療法人社団すずき病院、[19]広島市精神保健福祉センター、
[20]埼玉医科大学医学部、[21]甲南女子大学、[22]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、
[23]医療法人亀廣記念医学会関西記念病院、[24]和歌山県立医科大学医学部

PN-17 生涯教育委員会 単位取得についての案内

○紫藤 昌彦[1]、松田 ひろし[2]、岸本 年史[3]、渕野 勝弘[4]、吉住 昭[5]、市川 宏伸[6]、太田 敏男[7]、
大野 史郎[8]、篠崎 和弘[9]、丹羽 真一[10]、大下 隆司[11]、平島 奈津子[12]、松原 六郎[13]、三村 將[14]、
油井 邦雄[15]、一瀬 邦弘[16]、越川 裕樹[17]、坂本 博子[18]、皆川 英明[19]、小田垣 雄二[20]、中尾 和久[21]、
岩永 英之[22]、須藤 良隆[9]、島本 卓也[23]、辻 富基美[24]
[1]紫藤クリニック、[2]柏崎厚生病院、[3]奈良県立医科大学付属病院、[4]医療法人社団淵野会、
[5]医療法人社団翠会八幡厚生病院、[6]日本発達障害ネットワーク、[7]さやま総合クリニック、[8]研水会平塚病院、
[9]浅香山病院、[10]福島県立医科大学会津医療センター、[11]医療法人社団邦秀会代々木の森診療所、
[12]国際医療福祉大学三田病院、[13]公益財団法人松原病院、[14]慶應義塾大学、[15]藤田医科大学、
[16](医) 聖美会多摩中央病院、[17]石神井公園クリニック、[18]医療法人社団すずき病院、[19]広島市精神保健福祉センター、
[20]埼玉医科大学医学部、[21]甲南女子大学、[22]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、
[23]医療法人亀廣記念医学会関西記念病院、[24]和歌山県立医科大学医学部

PN-18 指導医資格認定委員会

○森村 安史
一般財団法人仁明会

PN-19 サマースクール実行委員会の活動について

○堀之内 徹[1]、久住 一郎[2]、大森 哲郎[3]、佐野 輝[4]、紫藤 昌彦[5]、長 徹二[6]、松田 ひろし[7]
[1]北海道大学大学院医学院神経病態学講座精神医学教室、[2]北海道大学大学院医学研究院精神医学教室、
[3]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野、[4]鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野、
[5]医療法人社団コスモス会紫藤クリニック、[6]三重県立こころの医療センター、
[7]医療法人立川メディカルセンター柏崎厚生病院

PN-20 精神科薬物療法研修運営委員会の活動について

○大森 哲郎[1]、石郷岡 純[2]、稲田 健[3]、岩田 仲生[4]、内山 真[5]、菊地 俊暁[6]、久住 一郎[7]、
鈴木 正泰[5]、細田 眞司[8]、松田 ひろし[9]、三浦 智史[10]、三野 進[11]、和田 清[12]、渡邊 衡一郎[13]
[1]徳島大学、[2]医療法人石郷岡病院、[3]東京女子医科大学、[4]藤田医科大学、[5]日本大学医学部、[6]慶應義塾大学、
[7]北海道大学大学院医学研究院、[8]こころの診療所細田クリニック、[9]柏崎厚生病院、
[10]国立病院機構小倉医療センター、[11]みのクリニック、[12]埼玉県立精神医療センター、[13]杏林大学医学部

PN-21 精神保健福祉法委員会の活動について

○太田 順一郎、根本 康
精神保健福祉法委員会

PN-22 精神保健に関する委員会の活動について

○立花 良之[1]、水野 雅文[2]、荒井 稔[3]、安藤 俊太郎[4]、稲垣 正俊[5]、井上 幸紀[6]、太田 順一郎[7]、
大塚 耕太郎[8]、河西 千秋[9]、笠原 麻里[10]、加茂 登志子[11]、黒木 宣夫[12]、阪上 優[13]、太刀川 弘和[14]、
張 賢徳[15]、細金 奈奈[16]、細田 眞司[17]、丸山 総一郎[18]、八木 淳子[19]、吉益 光一[20]、吉村 玲児[21]
[1]国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科、[2]東邦大学医学部精神神経医学講座、
[3]日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院、[4]東京大学医学部付属病院精神神経科、
[5]島根大学医学部精神医学講座、[6]大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学、[7]岡山市こころの健康センター、
[8]岩手医科大学神経精神科学講座、[9]札幌医科大学医学部神経精神医学講座、
[10]医療法人財団青溪会駒木野病院児童精神科、
[11]若松町こころとひふのクリニックメンタルケア科PCIT研修センター、[12]勝田台メディカルクリニック、
[13]京都大学健康科学センター、[14]筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学、
[15]帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科、
[16]恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科、
[17]こころの診療所細田クリニック精神科、[18]神戸親和女子大学発達教育部心理学科、
[19]岩手医科大学医学部神経精神科学講座、[20]和歌山県立医科大学医学部衛生学教室、[21]産業医科大学精神医学

PN-23 精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会活動報告

○稲垣 中[1]、榎戸 芙佐子[2]、大石 賢吾[3]、辻本 哲士[4]、根本 康[5]、松井 徳造[6]、水野 雅文[7]、
安川 節子[8]、吉村 健佑[3]、米田 博[9]
[1]青山学院大学、[2]谷野呉山病院、[3]千葉大学、[4]滋賀県立精神保健福祉センター、[5]南飯能病院、[6]兵庫医療大学、
[7]東邦大学、[8]熊本ファミリーメンタルクリニック、[9]大阪医科大学

PN-24 心理技術職に関する委員会の活動について

○松田 ひろし[1]、浅川 雅晴[2]、阿部 恵一郎[3]、岩井 圭司[4]、岩瀬 利郎[5]、大下 隆司[6]、加茂 登志子[7]、
菅野 庸[8]、幸田 るみ子[9]、定松 美幸[10]、佐藤 忠彦[11]、佐野 輝[12]、西松 能子[13]、西村 勝治[14]、
三野 進[15]、宮岡 等[16]
[1]柏崎厚生病院、[2]医療法人浅川クリニック、[3]あべクリニック、[4]兵庫教育大学大学院、
[5]医療法人弘心会武蔵の森病院、[6]医療法人社団邦秀会代々木の森診療所、[7]若松町こころとひふのクリニック、
[8]医療法人菅野愛生会こころのホスピタル・古川グリーンヒルズ、[9]静岡大学、[10]金城学院大学人間科学部、
[11]桜ヶ丘記念病院、[12]鹿児島大学、[13]立正大学、[14]東京女子医科大学医学部精神医学講座、[15]みのクリニック、[16]北里大学

PN-25 ECT・rTMS 等検討委員会の活動について

○鮫島 達夫[1]、水野 雅文[2]、野田 隆政[3]、中村 元昭[4]、金野 倫子[5]、鬼頭 伸輔[6]、一瀬 邦弘[7]、
篠崎 和弘[8]、本橋 伸高[9]、神出 誠一郎[10]、澤 温[11]、和田 健[12]、橋本 学[13]、渡辺 雅子[14]、
三浦 智史[15]、福田 正人[16]、三村 將[17]
[1]医療法人泯江堂油山病院、[2]東邦大学医学部精神神経医学講座、
[3]国立精神・医療研究センター脳病態総合イメージングセンター臨床脳機能画像研究部、
[4]昭和大学発達障害医療研究所脳画像室、[5]埼玉県立大学教育研究科、[6]東京慈恵会医科大学精神医学教室、
[7]特定医療法人社団聖美会多摩中央病院、[8]総合病院浅香山病院精神科、[9]社会福祉法人同愛記念病院神経科・精神科、
[10]東京大学医学部附属病院精神神経科、[11]社会医療法人北斗会さわ病院、[12]広島市立広島市民病院精神科、
[13]国立病院機構肥前精神医療センター、[14]新宿神経クリニック、[15]国立病院機構小倉医療センター、
[16]群馬大学医学部精神神経医学、[17]慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

PN-26 多職種協働委員会

○米田 博
大阪医科大学

PN-27 「精神科臨床における多職種チームの活かし方」フォーラムについて

○米田 博
大阪医科大学

PN-28 性同一性障害に関する委員会の活動について

○太田 順一郎[1]、阿部 恵一郎[2]、阿部 輝夫[3]、池田 官司[4]、織田 裕行[5]、加茂 登志子[6]、
岸本 真希子[7]、康 純[8]、齋藤 利和[9]、佐藤 俊樹[10]、中塚 幹也[11]、中根 秀之[12]、中山 浩[13]、
難波 祐三郎[14]、丹羽 幸司[15]、針間 克己[16]、舛森 直哉[17]、松永 千秋[18]、松本 洋輔[14]、森井 智美[19]
[1]岡山市こころの健康センター、[2]あべクリニック、[3]あべメンタルクリニック、[4]北海道文教大学、[5]関西医科大学、
[6]若松町こころとひふのクリニック、[7]国立成育医療研究センター、[8]大阪医科大学、
[9]医療法人北仁会幹メンタルクリニック、[10]さとうクリニック、[11]岡山大学大学院保健学研究科、[12]長崎大学、
[13]川崎市こども家庭センター、[14]岡山大学病院、[15]医療法人ガクト会ナグモクリニック大阪、
[16]はりまメンタルクリニック、[17]札幌医科大学付属病院、[18]ちあきクリニック、[19]昭和大学医学部

PN-29 今期の薬事委員会活動報告

○三村 將[1]、稲垣 中[2]、井上 猛[3]、岸本 泰士郎[1]、久住 一郎[4]、齊尾 武郎[5]、齊藤 卓弥[6]、
佐藤 眞弓[7]、曽良 一郎[8]、坪井 貴嗣[9]、橋本 亮太[10]、松尾 幸治[11]、三浦 智史[12]、三木 和平[13]、
三野 進[14]、宮岡 等[15]、渡邊 衡一郎[9]
[1]慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、[2]青山学院大学教育人間科学部教育学科、[3]東京医科大学精神医学講座、
[4]北海道大学大学院医学研究院精神医学教室、[5]SMBC日興証券健康管理室、フジ虎ノ門整形外科病院、
[6]北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門、[7]医療法人ひまわり佐藤まゆみメンタルクリニック、
[8]神戸大学附属病院、[9]杏林大学医学部精神神経科学教室、
[10]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、[11]埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科、
[12]九州大学病院精神科神経科、[13]三木メンタルクリニック、[14]みのクリニック、[15]北里大学医学部精神科学

PN-30 災害支援委員会の活動の紹介

○佐野 輝
鹿児島大学

PN-31 **災害支援フォーラムについて①**

○佐野 輝
鹿児島大学

PN-32 **災害支援フォーラムについて②**

○佐野 輝
鹿児島大学

PN-33 **災害支援フォーラムについて③**

○佐野 輝
鹿児島大学

PN-34 **災害支援フォーラムについて④**

○佐野 輝
鹿児島大学

PN-35 **災害支援フォーラムについて⑤**

○佐野 輝
鹿児島大学

PN-36 **災害支援フォーラムについて⑥**

○佐野 輝
鹿児島大学

PN-37 **災害支援フォーラムについて⑦**

○佐野 輝
鹿児島大学

PN-38 **災害支援フォーラムについて⑧**

○佐野 輝
鹿児島大学

PN-39 **医療倫理委員会の活動について**

○石川 博康[1]、榎戸 芙佐子[2]、遠藤 謙二[3]、白石 弘巳[4]、新村 秀人[5]、藤井 千代[6]、水野 雅文[7]、
森村 安史[8]、山口 大樹[7]
[1]中通リハビリテーション病院、[2]医療法人社団和敬会谷野呉山病院、[3]千曲荘病院、[4]埼玉県済生会鴻巣病院、
[5]慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、
[6]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部、[7]東邦大学医学部精神神経医学講座、
[8]一般財団法人仁明会

PN-40 **医学研究や症例報告における倫理的配慮**

○久住 一郎、飯島 祥彦、岩田 仲生、尾崎 紀夫、加藤 忠史、栗原 千絵子、中込 和幸、
夏苅 郁子、櫛島 次郎、平山 太日子
倫理委員会

PN-41 **国際委員会の活動について**

○岸本 年史[1]、白坂 知彦[2]、伊井 俊貴[3]、秋山 剛[4]、武田 雅俊[5]、大森 哲郎[6]、青山 久美[7]、
石川 千明[8]、岩田 正明[9]、大石 賢吾[10]、勝田 吉彰[11]、加藤 隆弘[12]、金井 玉奈[13]、久我 弘典[12]、
齊藤 卓弥[14]、佐藤 創一郎[15]、高橋 秀俊[16]、館農 勝[17]、田中 増郎[18]、丸田 敏雅[19]
[1]奈良県立医科大学精神医学講座、[2]手稲渓仁会病院精神保健科、[3]愛知医科大学医学部精神神経科、
[4]NTT東日本関東病院、[5]学校法人河﨑学園大阪河﨑リハビリテーション大学、
[6]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野、[7]横浜市立大学附属病院、[8]京都府立洛南病院、
[9]鳥取大学医学部精神行動医学分野、[10]千葉大学医学部附属病院精神神経科、[11]関西福祉大学、
[12]九州大学病院精神科神経科、[13]富士リハビリ病院、[14]北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門、
[15]社会医療法人高見徳風会希望ヶ丘ホスピタル、[16]高知大学医学部児童青年期精神医学、
[17]特定医療法人さっぽろ悠心の郷ときわ病院、[18]医療法人信和会高嶺病院、[19]聖徳大学

PN-42 日本精神神経学会 広報委員会の活動について

○今村 弥生
杏林大学医学部精神神経科学教室

PN-43 日本精神神経学会 情報システム委員会の活動について

○鎌田 直樹[1]、上野 修一[2]、小原 圭司[3]、細田 眞司[4]、森 隆夫[5]
[1]富士電機（株）、[2]愛媛大学大学院医学系研究科、[3]島根県立心と体の相談センター、
[4]こころの診療所細田クリニック、[5]あいせい紀年病院

PN-44 日本精神神経学会 財務、特定資産検討委員会 学会の財政状況について

○松田 ひろし[1]、神庭 重信[2]、久住 一郎[3]、渕野 勝弘[4]、細田 眞司[5]
[1]柏崎厚生病院、[2]九州大学、[3]北海道大学大学院医学研究院、[4]医療法人社団淵野会、[5]こころの診療所細田クリニック

PN-45 日本精神神経学会・利益相反委員会の活動について

○仙波 純一[1]、利益相反委員会委員[2]
[1]さいたま市立病院精神科、[2]利益相反委員会

PN-46 情報セキュリティ対策～日本精神神経学会情報管理委員会の役割～

○佐々木 竜二[1]、細田 眞司[2]、鹿島 晴雄[3]、小原 圭司[4]、安川 節子[5]、大磯 義一郎[6]
[1]医療法人社団いまここストレスケアすすきのクリニック、[2]こころの診療所細田クリニック、
[3]国際医療福祉大学大学院、[4]島根県立心と体の相談センター、[5]熊本ファミリーメンタルクリニック、
[6]国立大学法人浜松医科大学

PN-47 男女共同参画推進委員会の活動について

○安田 節子[1]、加茂 登志子[2]、安藤 久美子[3]
[1]医療法人山田会八代更生病院、[2]若松町こころとひふのクリニック、[3]聖マリアンナ医科大学病院

PN-48 アンチスティグマ委員会

○長 徹二
名古屋医専教務部

1. 関連学会ならびにその活動紹介コーナー　※五十音順

GID（性同一性障害）学会

A1

GID（性同一性障害）学会の沿革と活動紹介

○松本 洋輔[1]、中塚 幹也[2]
[1]岡山大学病院ジェンダーセンター、[2]岡山大学大学院保健学研究科

アジア神経精神薬理学会（AsCNP）

A2

アジア神経精神薬理学会（AsCNP）～Neuropsychopharmacology to the next generation：New wave from Asia

○下田 和孝[1]、染矢 俊幸[2]、内田 裕之[3]、笠井 慎也[4]、宮田 久嗣[5]、小高 文聰[5]、吉村 玲児[6]、新開 隆弘[6]、Chay Hoon Tan[7]、Andi J. Tanra[8]、山脇 成人[9]、Tianmei Si[10]、Chan Hyung Kim[11]、Shih-Ku Lin[12]、新田 淳美[13]、池田 和隆[4]
[1]獨協医科大学精神神経医学講座、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、
[3]慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、[4]東京都医学総合研究所精神行動医学研究分野、
[5]東京慈恵会医科大学精神医学講座、[6]産業医科大学精神医学教室、[7]National University of Singapore, Singapore、
[8]Hasanuddin University, Indonesia、[9]広島大学脳・こころ・感性科学研究センター、[10]Peking University, China、
[11]Yonsei University College of Medicine, Korea、[12]Taipei City Hospital and Psychiatric Center, Taiwan、
[13]富山大学大学院医学薬学研究部薬物治療学研究室

愛知児童青年精神医学会

A3

愛知児童青年精神医学会の活動について

○吉川 徹
愛知県医療療育総合センター中央病院

一般社団法人日本社会精神医学会

A4-1

日本社会精神医学会の活動

○西園マーハ 文[1]、吉尾 隆[2]、岡 檀[3]、市来 真彦[4]、新村 秀人[5]、田上 美千佳[6]、下寺 信次[7,8]、渡邊 衡一郎[9]、水野 雅文[10]
[1]明治学院大学心理学部、[2]東邦大学薬学部、[3]統計数理研究所、[4]東京医科大学医学部、[5]慶應義塾大学医学部、
[6]東京医科歯科大学大学院、[7]京都大学医学部、[8]愛宕病院、[9]杏林大学医学部、[10]東邦大学医学部

A4-2

日本社会精神医学会の研修

○西園マーハ 文[1]、吉尾 隆[2]、岡 檀[3]、市来 真彦[4]、新村 秀人[5]、田上 美千佳[6]、下寺 信次[7,8]、渡邊 衡一郎[9]、水野 雅文[10]
[1]明治学院大学心理学部、[2]東邦大学薬学部、[3]統計数理研究所、[4]東京医科大学医学部、[5]慶應義塾大学医学部、
[6]東京医科歯科大学大学院、[7]京都大学医学部、[8]愛宕病院、[9]杏林大学医学部、[10]東邦大学医学部

一般社団法人日本精神科救急学会

A5

日本精神科救急学会が目指すもの

○平田 豊明[1]、杉山 直也[2]、伊豫 雅臣[3]、来住 由樹[4]
[1]千葉県精神科医療センター、[2]復康会沼津中央病院、[3]千葉大学医学部附属病院、[4]岡山県精神科医療センター

一般社団法人日本認知症学会

A6

日本認知症学会の活動について

○秋山 治彦
横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

近畿認知療法・認知行動療法学会

A7 近畿認知療法・認知行動療法学会の発足について

○富永 敏行[1]、須賀 英道[2]、井上 和臣[3]
[1]京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、[2]龍谷大学短期大学部、
[3]内海メンタルクリニック・認知療法研究所

信州精神神経学会

A8 信州精神神経学会について

○篠山 大明[1]、遠藤 謙二[2]、鷲塚 伸介[1]
[1]信州大学医学部精神医学教室、[2]医療法人友愛会千曲荘病院

全国大学メンタルヘルス学会

A9 特定非営利活動法人 全国大学メンタルヘルス学会

○安宅 勝弘[1]、水田 一郎[2]、清水 幸登[3]、須賀 英道[4]
[1]東京工業大学保健管理センター、[2]大阪大学キャンパスライフ健康支援センター、[3]関西学院保健館、[4]龍谷大学

多文化間精神医学会

A10 Global Mental Health –越境する精神医学、多文化間精神医学会の最近の活動から

○桂川 修一[1]、阿部 裕[2]、秋山 剛[3]、鈴木 満[4]、浅井 逸郎[5]、駒橋 徹[6]、三脇 康生[7]、鵜川 晃[7]、
村上 裕子[8]
[1]東邦大学医療センター佐倉病院、[2]明治学院大学、四谷ゆいクリニック、[3]NTT東日本関東病院、[4]外務省診療所、
[5]ハートクリニック、[6]鹿沼病院、[7]仁愛大学、[8]東京海上日動メディカルサービス株式会社

日本 ADHD 学会

A11 日本 ADHD 学会創立 10 年の軌跡

○小野 和哉[1]、齊藤 万比古[2]、宮島 祐[3]、市川 宏伸[4]、牛島 定信[5]
[1]聖マリアンナ医科大学、[2]恩賜財団母子愛育会愛育研究所、[3]東京家政大学、[4]クボタクリニック、
[5]市ヶ谷ひもろぎクリニック

日本 EMDR 学会

A12 日本 EMDR 学会の歩みと使命

○市井 雅哉[1]、天野 玉記[2]、上田 英一郎[3]、菊池 安希子[4]、小林 正幸[5]、白川 美也子[6]、竹内 伸[7]、
仁木 啓介[8]、福山 絵美[9]、藤本 昌樹[10]、本多 正道[11]、森本 武志[12]、幸田 有史[13]、吉川 久史[14]
[1]兵庫教育大学、[2]京都大学医学部人間健康科学科、[3]大阪医科大学、[4]国立精神・神経医療研究センター、
[5]東京学芸大学、[6]こころとからだ光の花クリニック、[7]さきお英子子ども心のクリニック、
[8]ニキハーティーホスピタル、[9]カウンセリングルーム・エミュウ、[10]東京未来大学、[11]本多クリニック、[12]福井大学、
[13]京都府立洛南病院、[14]広島国際大学

日本アルコール・アディクション医学会

A13 多様なアディクションを考える～アルコールから危険ドラッグ、ギャンブルまで～

○宮田 久嗣[1]、藤宮 龍也[2]、池田 和隆[3]、杠 兵文[4]、樋口 進[5]、白石 光一[6]、高田 孝二[7]、廣中 直行[8]
[1]東京慈恵会医科大学精神医学講座、[2]山口大学大学院医学系研究科法医学講座、
[3]東京都医学総合研究所依存性薬物プロジェクト、[4]国立病院機構肥前精神医療センター、
[5]国立病院機構久里浜医療センター、[6]東海大学医学部附属大磯病院消化器内科、[7]帝京大学文学部心理学科、
[8]株式会社LSIメディエンス薬理研究部

日本アルコール関連問題学会

A14 日本アルコール関連問題学会の紹介

○松下 幸生、真栄里 仁、樋口 進
国立病院機構久里浜医療センター

日本うつ病学会

A15 日本うつ病学会の活動

○日本うつ病学会
日本うつ病学会

日本サイコセラピー学会

A16 日本サイコセラピー学会の紹介

○作田 勉
日本保健医療大学

日本スポーツ精神医学会

A17-1 スポーツ精神医学とは

○永井 宏
医療法人日明会日明病院

A17-2 競技スポーツにおける精神科医の役割

○山本 宏明
北里大学メディカルセンター

A17-3 産業精神医学分野におけるスポーツの位置づけと役割

○吉野 聡[1]、宇佐見 和哉[1]、梅田 忠敬[1]、羽岡 健史[2]
[1]吉野聡産業医事務所、[2]医療法人白翔会浦和神経サナトリウム

A17-4 ソーシャルフットボールの発展と現状

○山口 達也
慶應義塾大学医学部スポーツ医学総合センター慶應義塾大学医学部精神・神経科

A17-5 Exercise effects on sleep physiology

○内田 直
すなおクリニック/早稲田大学

日本デイケア学会

A18 人・こころ・未来をつなぐデイケア 日本デイケア学会の活動報告

○林 みづ穂[1]、肥田 裕久[2]、五十嵐 良雄[3]、原 敬造[4]
[1]仙台市精神保健福祉総合センター、[2]医療社団法人宙麦会ひだクリニック、[3]医療法人社団雄仁会、
[4]医療法人社団原クリニック

日本てんかん学会

A19 てんかん診療を精神医療に役立てよう！～日本てんかん学会紹介～

○渡辺 雅子
新宿神経クリニック

日本ポジティブサイコロジー医学会

A20-1 **日本ポジティブサイコロジー医学会の紹介**

○松隈 信一郎
日本ポジティブサイコロジー医学会

A20-2 **日本ポジティブサイコロジー医学会**

○松隈 信一郎
日本ポジティブサイコロジー医学会

A20-3 **日本ポジティブサイコロジー医学会**

○松隈 信一郎
日本ポジティブサイコロジー医学会

日本医療・病院管理学会

A21 **第 57 回 日本医療・病院管理学会学術総会**

○伊藤 弘人
労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所過労死等防止調査研究センター

日本家族療法学会

A22 **日本家族療法学会の精神科診療における存在意義**

○渡辺 俊之
渡辺医院/高崎西口精神療法研修室

日本外来臨床精神医学会

A23 **日本外来臨床精神医学会の魅力及び今後の動向について**

○市橋 秀夫[1]、西松 能子[2]、里村 淳[3]
[1]市橋クリニック、[2]あいクリニック神田、[3]富士見メンタルクリニック

日本芸術療法学会

A24 **日本芸術療法学会の 50 年の歩み**

○高江洲 義英[1]、大森 健一[2]
[1]医療法人和泉会いずみ病院、[2]滝澤病院・獨協医科大学名誉学長

日本航空宇宙精神神経学会

A25 **日本航空宇宙精神神経学会の活動について**

○松原 六郎
公益財団法人松原病院

日本高次脳機能障害学会

A26 **日本高次脳機能障害学会の歴史**

○船山 道隆
足利赤十字病院神経精神科

日本産業精神保健学会

A27 日本産業精神保健学会の歩みと活動

○吉村 靖司
医療法人社団弘冨会神田東クリニック

日本司法精神医学会

A28 学会認定精神鑑定医制度について

○八木 深
独立行政法人国立病院機構花巻病院

日本思春期青年期精神医学会

A29-1 日本思春期青年期精神医学会の歴史と展望

○生田 憲正[1]、守屋 直樹[2]、白波瀬 丈一郎[3]、近藤 直司[4]、平野 直己[5]、小倉 清[6]
[1]クリニックおぐら（学会長）、[2]渋谷もりやクリニック（学会事務局）、[3]慶應義塾大学（第32回年次大会長）、
[4]大正大学（子どものこころ専門医関連委員長）、[5]北海道教育大学（編集委員長）、[6]クリニックおぐら（前会長）

A29-2 国際思春期青年期精神医学会（ISAPP）の歴史と展望

○Lois T. Flaherty[1]、Mario Speranza[2]、Annette Streeck-Fischer[3]、Fusun Cuhadaroglu[4]、
館 直彦[5]、増尾 徳行[6]、補永 栄子[7]
[1]Harvard University, US（President of ISAPP）、[2]University of Versailles, France（President-Elect）、[3]International Psychoanalytic University, Germany（Past President）、[4]Hacettepe University, Turkey（Vice President）、
[5]たちメンタルクリニック、大阪市立大学（ISAPP Vice President、第2回ISAPPアジア地区大会長）、
[6]兵庫県ひょうごこころの医療センター（第2回ISAPPアジア地区大会副会長）、[7]クリニックおぐら（ISAPP counsellor、第2回ISAPPアジア地区大会副会長）

日本児童青年精神医学会

A30-1 日本児童青年精神医学会の概要と多様な委員会活動

○岡田 俊[1,7]、飯田 順三[2,7]、田中 究[3,7]、三上 克央[4,7]、市川 宏伸[5,8]、齊藤 万比古[6,8]、松本 英夫[4,9]
[1]名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科、[2]奈良県立医科大学医学部看護学科、
[3]兵庫県立ひょうごこころの医療センター、[4]東海大学医学部精神科学、[5]東京医科歯科大学、
[6]恩賜財団母子愛育会愛育相談所、[7]日本児童青年精神医学会事務局運営委員会、[8]日本児童青年精神医学会監事、
[9]日本児童青年精神医学会代表理事

A30-2 日本児童青年精神医学会の研究・実践活動の支援と国際的活動

○岡田 俊[1,7]、飯田 順三[2,7]、田中 究[3,7]、三上 克央[4,7]、市川 宏伸[5,8]、齊藤 万比古[6,8]、松本 英夫[4,9]
[1]名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科、[2]奈良県立医科大学看護学科、
[3]兵庫県立ひょうごこころの医療センター、[4]東海大学医学部精神科学、[5]東京医科歯科大学、
[6]恩賜財団母子愛育会愛育相談所、[7]日本児童青年精神医学会事務局運営委員会、[8]日本児童青年精神医学会監事、
[9]日本児童青年精神医学会代表理事

A30-3 日本児童青年精神医学会薬事委員会の活動と研究の概要

○岡田 俊[1,8]、宇佐美 政英[2,8]、辻井 農亜[3,8]、齊藤 卓弥[4,8]、根來 秀樹[5,8]、藤田 純一[6,8]、飯田 順三[7,8]
[1]名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科、[2]国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科、
[3]近畿大学医学部精神神経科学教室、[4]北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門、
[5]奈良教育大学大学院教育学研究科教職開発講座、[6]横浜市立大学附属病院児童精神科、[7]奈良県立医科大学看護学科、
[8]日本児童青年精神医学会薬事委員会

A30-4 離婚後の親子面会交流に関する日本児童青年精神医学会での取り組み

○日本児童青年精神医学会・福祉に関する委員会、山本 朗[1]、小野 善郎[2]、杉村 共英[3]、井出 浩[4]、
奥野 正景[5]、黒崎 充勇[6]、藤田 美枝子[7]、森岡 由起子[8]、金井 剛[9]
[1]東大阪市立障害児者支援センター、[2]和歌山県精神保健福祉センター、[3]発達心療クリニック、
[4]関西学院大学人間福祉学部、[5]理事、三国丘こころのクリニック、[6]広島市立舟入市民病院、
[7]聖隷クリストファー大学社会福祉学部、[8]理事、大正大学心理社会学部、
[9]委員長、三重県立子ども心身発達医療センター

A30-5　「児童・生徒のいじめによる被害や自殺等の重大事態に関する第三者委員会」への委員の推薦について

○野邑 健二[1]、小平 雅基[2]、牛島 洋景[3]、小野 和哉[4]、小野 善郎[5]、清田 晃生[6]、坪井 裕子[7]、
吉田 弘和[8]、若子 理恵[9]、和久田 学[10]、桝屋 二郎[11]、山下 洋[12]、岡田 俊[13]、高岡 健[14]
[1]名古屋大学心の発達支援研究実践センター、[2]総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科、
[3]国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科、[4]聖マリアンナ医科大学神経精神科、
[5]和歌山県精神保健福祉センター、[6]大分療育センター、[7]名古屋市立大学大学院人間文化研究科、
[8]宮城県立精神医療センター、[9]豊田市こども発達センター、[10]大阪大学大学院連合小児発達学研究科、
[11]東京医科大学茨城医療センター精神科、[12]九州大学病院子どものこころの診療部、
[13]名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科、[14]希望が丘こども医療福祉センター

A30-6　少年法適用年齢引き下げ問題について

○高岡 健、安保 千秋、太田 順一郎、木村 一優、定本 ゆきこ、田中 容子、富田 拓、
松田 文雄、村上 真紀
日本児童青年精神医学会子どもの人権と法に関する委員会

A30-7　発達の障害を有する子どもへの軽度三角頭蓋の外科手術と臨床研究の倫理

○田中 究、安保 千秋、生地 新、大倉 勇史、太田 順一郎、木村 一優、坂後 恒久、田中 哲、
中土井 芳弘、羽間 京子、廣常 秀人
日本児童青年精神医学会倫理委員会

日本耳鼻咽喉科心身医学研究会

A31-1　日本耳鼻咽喉科心身医学研究会の概要

○瀬尾 徹[1]、小川 郁[2]、石井 正則[3]、市来 真彦[4]、大坪 天平[5]、清水 謙祐[6]、五島 史行[7]、
室伏 利久[8]、堀井 新[9]、北原 糺[10]
[1]聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院耳鼻咽喉科、[2]慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科、
[3]JCHO東京新宿メディカルセンター耳鼻咽喉科、[4]東京医科大学精神医学分野、
[5]東京女子医科大学東医療センター精神科、[6]建悠会吉田病院精神科・耳鼻咽喉科、宮崎大学医学部耳鼻咽喉科、
[7]東海大学医学部耳鼻咽喉科、[8]帝京大学医学部附属溝口病院耳鼻咽喉科、[9]新潟大学医学部耳鼻咽喉科、
[10]奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科

A31-2　日本耳鼻咽喉科心身医学研究会における耳鼻科医師と精神科医師との連携

○清水 謙祐[1]、瀬尾 徹[2]、五島 史行[3]、小川 郁[4]、大坪 天平[5]、堀井 新[6]、室伏 利久[7]、北原 糺[8]、
石井 正則[9]、市来 真彦[10]
[1]医）建悠会吉田病院精神科、宮崎大学医学部耳鼻咽喉科、[2]聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院耳鼻咽喉科、
[3]東海大学医学部耳鼻咽喉科、[4]慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科、[5]東京女子医科大学東医療センター精神科、
[6]新潟大学医学部耳鼻咽喉科、[7]帝京大学医学部附属溝口病院耳鼻咽喉科、
[8]奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学、
[9]独立行政法人地域医療機能推進機構JCHO東京新宿メディカルセンター耳鼻咽喉科、[10]東京医科大学精神医学分野

日本周産期メンタルヘルス学会

A32　日本周産期メンタルヘルス学会の概要

○竹内 崇[1]、安田 貴昭[2]、菊地 紗耶[2]、宮田 郁[2]、鈴木 利人[3]
[1]情報関連委員会委員長、[2]情報関連委員会、[3]理事長

日本小児精神神経学会

A33-1　日本小児精神神経学会の紹介および発達障害に関する取り組み

○宮本 信也
白百合女子大学

A33-2　小児医療・療育分野における心理職の活動に関する日本小児精神神経学会の取り組み

○松嵜 くみ子、山崎 知克、奥山 眞紀子、小林 繁一、杉山 登志郎、中田 洋二郎、古荘 純一、
宮島 祐、米山 明、宮本 信也
跡見学園女子大学

A33-3 **子どものトラウマおよび子ども虐待に関する日本小児精神神経学会の取り組み**

○山崎 知克[1]、宮本 信也[2]、奥山 眞紀子[3]、小林 繁一[4]、杉山 登志郎[5]、中田 洋二郎[6]、
松嵜 くみ子[7]、宮島 祐[8]、米山 明[9]
[1]浜松市子どものこころの診療所、[2]白百合女子大学、[3]国立成育医療研究センター、[4]静岡県立こども病院、
[5]福井大学医学部、[6]立正大学、[7]跡見学園女子大学、[8]東京家政大学、[9]心身障害児総合医療療育センター

日本心身医学会北海道支部

A34 **日本心身医学会北海道支部の歩み**

○賀古 勇輝[1]、久村 正也[2]、久住 一郎[1]
[1]北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室、[2]札幌心身医療研究所

日本森田療法学会

A35-1 **森田療法の 100 年 –成立から現在まで**

○舘野 歩
東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科

A35-2 **森田療法学会の歩み**

○谷井 一夫
東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科・同大学森田療法センター

A35-3 **森田療法の研修と学会認定制度**

○久保田 幹子
法政大学大学院人間社会研究科

A35-4 **森田療法の多様性と本質を探究する**

○田所 重紀[1]、芦沢 健[2]、山田 秀世[3]、柘野 雅之[6]、小笠原 岳洋[4]、杉岡 品子[5]、土岐 完[3]
[1]室蘭工業大学保健管理センター、[2]千歳病院、[3]大通公園メンタルクリニック、[4]株式会社EAP北海道、[5]北翔大学、
[6]大通つげのクリニック

A35-5 **Autogenous obsession が特徴の強迫症に対して森田療法的アプローチが有効であった一例**

○村山 桂太郎
九州大学病院精神科神経科

日本神経化学会

A36 **日本神経化学会：これまでの活動紹介と将来の展望**

○和田 圭司
国立精神・神経医療研究センター神経研究所

日本神経精神医学会

A37 **日本神経精神医学会について**

○川勝 忍
福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座

日本神経精神薬理学会

A38-1 **日本神経精神薬理学会の概要**

○橋本 亮太[1]、広報委員会[2]
[1]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、[2]日本神経精神薬理学会

A38-2　EGUIDE プロジェクト：精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動

○橋本 亮太[1]、稲田 健[2]、渡邊 衡一郎[3]、EGUIDEプロジェクトメンバーズ[4]
[1]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、[2]東京女子医科大学精神科、
[3]杏林大学医学部精神神経科学教室、[4]EGUIDEプロジェクト
（日本うつ病学会と日本臨床精神神経薬理学会との共同発表）

A38-3　統合失調症薬物治療ガイドライン

○橋本 亮太[1]、稲田 健[2]、古郡 規雄[3]、中込 和幸[4]、
統合失調症薬物治療ガイドラインタスクフォース[5]
[1]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、[2]東京女子医科大学精神科、
[3]獨協医科大学精神神経医学講座、[4]国立精神・神経医療研究センター病院、[5]日本神経精神薬理学会
（日本臨床精神神経薬理学会との共同発表）

A38-4　日本神経精神薬理学会における産学官協同でのデータシェアリングの取り組み

○森尾 保徳[1]、小居 秀紀[1]、橋本 亮太[1]、石郷岡 純[2]、中込 和幸[1]
[1]国立精神・神経医療研究センター、[2]CNS薬理研究所

A38-5　次世代型オープンアクセス誌 Neuropsychopharmacology Reports の紹介

○小清水 久嗣[1]、宮川 剛[1]、編集委員会[2]
[1]藤田医科大学総合医科学研究所、[2]日本神経精神薬理学会

日本神経病理学会

A39　日本神経病理学会の活動概要

○渡辺 亮平[1,2]、河上 緒[2,7,9]、入谷 修司[3]、横田 修[4]、寺田 整司[5]、國井 泰人[6]、大島 健一[7]、
齊藤 祐子[8]、新井 哲明[1]、村山 繁雄[9]
[1]筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学、[2]東京都医学総合研究所認知症プロジェクト、
[3]名古屋大学大学院医学系研究科精神医療学寄附講座、[4]医療法人社団きのこ会きのこエスポアール病院、
[5]岡山大学医学部精神科、[6]福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座、[7]都立松沢病院精神科、
[8]国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部、[9]東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク部門

日本生物学的精神医学会

A40-1　日本生物学的精神医学会の紹介

○牧之段 学[1]、岸本 年史[1]、功刀 浩[2]、尾崎 紀夫[3]
[1]奈良県立医科大学精神医学講座、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部、
[3]名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

A40-2　日本生物学的精神医学会の歴史

○牧之段 学[1]、岸本 年史[1]、功刀 浩[2]、尾崎 紀夫[3]
[1]奈良県立医科大学精神医学講座、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部、
[3]名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

A40-3　本邦における精神疾患のゲノム研究

○日本生物学的精神医学会
日本生物学的精神医学会

A40-4　本邦における精神科ブレインバンク活動

○日本生物学的精神医学会
日本生物学的精神医学会

日本精神医学史学会

A41　日本精神医学史学会の魅力とその活動

○橋本 明[1]、濱田 秀伯[2]、松下 正明[3]
[1]愛知県立大学、[2]六番町メンタルクリニック、[3]東京大学名誉教授

日本精神科診断学会

A42-1 日本精神科診断学会の歩み

○須貝 拓朗[1]、染矢 俊幸[2]、村井 俊哉[3]
[1]新潟大学医歯学総合病院精神科、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、
[3]京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室

A42-2 DSM 導入の背景とその後の発展過程

○保谷 智史、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

A42-3 精神科診断における症状の縦断的・重層的理解とその意義

○白川 治、辻井 農亜、柳 雅也、三川 和歌子、廣瀬 智之
近畿大学医学部精神神経科学教室

A42-4 「統合失調症」という診断概念について

○村井 俊哉
京都大学・精神医学

A42-5 強迫性という観点からみた強迫スペクトラム障害における強迫とこだわり

○松永 寿人
兵庫医科大学精神科神経科学講座

日本精神障害者リハビリテーション学会

A43 日本精神障害者リハビリテーション学会の紹介

○内野 俊郎
久留米大学医学部神経精神医学講座

日本精神分析学会

A44 日本精神分析学会の紹介

○福本 修[1]、池田 暁史[2]、江崎 幸生[3]、衞藤 暢明[4]、岡田 暁宜[5]、奥寺 崇[6]、木部 則雄[7]、
木村 宏之[8]、白波瀬 丈一郎[9]、藤山 直樹[10]、皆川 英明[11]
[1]長谷川病院、[2]文教大学人間科学部臨床心理学科、[3]藤田医科大学精神神経科学講座、[4]福岡大学医学部精神医学教室、
[5]名古屋工業大学保健センター、[6]クリニックおくでら、[7]こども・思春期メンタルクリニック、
[8]名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、[9]慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、[10]個人開業、
[11]広島市精神保健福祉センター

日本精神分析的精神医学会

A45 日本精神分析的精神医学会の活動について

○衣笠 隆幸[1]、浅田 護[2]、岡田 暁宜[3]、小川 豊昭[4]、奥寺 崇[5]、小林 俊三[6]、小林 要二[7]、
白波瀬 丈一郎[8]、高野 晶[9]、福本 修[10]、藤山 直樹[11]、皆川 英明[12]
[1]広島精神分析医療クリニック、[2]浅田心療クリニック、[3]名古屋工業大学保健センター、
[4]名古屋大学大学院精神健康医学・総合保健体育科学センター、[5]クリニックおくでら、[6]小林メンタルクリニック、
[7]こもれび診療所、[8]慶應義塾大学、[9]心の杜・新宿クリニック、
[10]代官山心理・分析オフィス/長谷川病院/きしろメンタルクリニック、[11]個人開業、[12]広島市精神保健福祉センター

日本精神保健・予防学会

A46 日本精神保健・予防学会の歩みと活動

○鈴木 道雄[1]、岡崎 祐士[2]、鹿島 晴雄[3]、笠井 清登[4]、岸本 年史[5]、篠崎 和弘[6]、下寺 信次[7]、
中込 和幸[8]、中根 秀之[9]、西田 淳志[10]、針間 博彦[11]、前川 早苗[12]、松本 和紀[13]、水野 雅文[14]、
村上 雅昭[15]、小椋 力[16]、丹羽 真一[17]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、[2]厚生会道ノ尾病院、[3]国際医療福祉大学保健医療学部、
[4]東京大学医学部附属病院精神神経科、[5]奈良県立医科大学精神医学講座、[6]浅香山病院臨床研究研修センター、
[7]銀座泰明クリニック、[8]国立精神・神経医療研究センター、[9]長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、
[10]東京都医学総合研究所心の健康プロジェクト、[11]都立松沢病院、[12]三重県立看護大学、[13]東北大学病院精神科、
[14]東邦大学医学部精神神経医学講座、[15]明治学院大学社会学部社会福祉学科、[16]久田病院、
[17]福島県立医科大学会津医療センター

日本摂食障害学会

A47 日本摂食障害学会のあゆみ

○小牧 元
日本摂食障害学会理事長/国際医療福祉大学

日本総合病院精神医学会（GHP 研究会）

A48-1 日本総合病院精神医学会の歴史と定義

○厚坊 浩史[1]、保坂 隆[2]、小石川 比良来[3]、清水 研[4]
[1]神戸百年記念病院（日本総合病院精神医学会広報委員長）、
[2]保坂サイコオンコロジー・クリニック（日本総合病院精神医学会理事長）、
[3]亀田総合病院（日本総合病院精神医学会副理事長）、
[4]国立がん研究センター中央病院（日本総合病院精神医学会事務総長）

A48-2 総合病院精神医学の魅力～その 1～

○厚坊 浩史[1]、保坂 隆[2]、小石川 比良来[3]、清水 研[4]
[1]神戸百年記念病院（日本総合病院精神医学会広報委員長）、
[2]保坂サイコオンコロジー・クリニック（日本総合病院精神医学会理事長）、
[3]亀田総合病院（日本総合病院精神医学会副理事長）、
[4]国立がん研究センター中央病院（日本総合病院精神医学会事務総長）

A48-3 総合病院精神医学の魅力～その 2～

○厚坊 浩史[1]、保坂 隆[2]、小石川 比良来[3]、清水 研[4]
[1]神戸百年記念病院（日本総合病院精神医学会広報委員長）、
[2]保坂サイコオンコロジー・クリニック（日本総合病院精神医学会理事長）、
[3]亀田総合病院（日本総合病院精神医学会副理事長）、
[4]国立がん研究センター中央病院（日本総合病院精神医学会事務総長）

日本内観学会

A49 日本内観学会の紹介

○塚﨑 稔[1]、堀井 茂男[2]、長山 恵一[3]、真栄城 輝明[4]
[1]医療法人清潮会三和中央病院、[2]公益財団法人慈圭会慈圭病院、[3]法政大学現代福祉学部、[4]佛教大学/大和内観研修所

日本病院・地域精神医学会

A50 日本病院・地域精神医学会 62 年の歩みと今後の活動

○山下 俊幸[1]、福治 康秀[2]
[1]京都府立洛南病院、[2]国立病院機構琉球病院

日本不安症学会

A51 日本不安症学会の歩みとこれから

○松永 寿人[1]、井上 猛[2]、貝谷 久宣[3]、久保木 富房[4]、佐々木 司[5]、熊野 宏昭[6]、清水 栄司[7]、
笠井 清登[8]、神庭 重信[9]、小山 司[10]、坂野 雄二[11]、塩入 俊樹[12]、関口 正幸[13]、坪井 康次[14]、
野村 忍[15]、福土 審[16]、山田 和夫[17]
[1]兵庫医科大学精神科神経科学講座、[2]東京大学精神科、[3]医療法人和楽会パニック障害研究センター、
[4]東京大学、楽山病院、[5]東京大学大学院教育学研究科、[6]早稲田大学人間科学学術院、[7]千葉大学大学院医学研究院、
[8]東京大学精神神経科、[9]九州大学、[10]医療法人重仁会大谷地病院、[11]北海道医療大学心理科学部、
[12]岐阜大学大学院精神病理学分野、[13]国立精神・神経医療研究センター神経研究所、[14]深川ギャザリアクリニック、
[15]早稲田大学人間科学研究院、[16]東北大学大学院医学系研究科、[17]横浜尾上町クリニック

日本臨床救急医学会

A52 日本臨床救急医学会「自殺企図者のケアに関する検討委員会」の活動と救急医療連携について

○橋本 聡[1]、伊藤 翼[2]、篠田 香恵[3]、寺地 沙緒里[4]、日野 耕介[2]、三宅 康史[5]、松田 潔[6]
[1]国立病院機構熊本医療センター/JSEM自殺企図者のケアに関する検討委員会、
[2]横浜市立大学附属市民総合医療センター、[3]国立病院機構東京医療センター、[4]東海大学医学部付属病院、
[5]帝京大学医学部救急医学講座、[6]日本医科大学武蔵小杉病院

日本臨床催眠学会

A53 臨床催眠学会のご紹介

○松原 慎
医療法人恵愛会福間病院

日本臨床精神神経薬理学会

A54-1 日本臨床精神神経薬理学会の成り立ちについて

○古郡 規雄[1,6]、染矢 俊幸[2]、近藤 毅[3]、大谷 浩一[4]、兼子 直[5]
[1]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[2]新潟大学医学部精神医学教室、[3]琉球大学医学部精神病態医学、
[4]山形大学医学部医学科精神医学講座、[5]北東北てんかんセンター、[6]獨協医科大学精神神経医学講座

A54-2 高度精神科薬物療法専門医について

○古郡 規雄[1,2]、下田 和孝[2]
[1]弘前大学大学院医学研究科精神神経医学講座、[2]獨協医科大学精神神経医学講座

A54-3 精神科薬物治療エキスパートコンセンサスガイドについて

○古郡 規雄[1,4]、内田 裕之[2]、加藤 正樹[3]
[1]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[2]慶應義塾大学医学部精神・神経科学、
[3]関西医科大学精神神経科学講座、[4]獨協医科大学精神神経医学講座

A54-4 統合失調症の身体管理についての取り組み

○古郡 規雄[1,3]、染矢 俊幸[2]、鈴木 雄太郎[2]、須貝 拓朗[2]、下田 和孝[3]、尾関 祐二[3]、菅原 典夫[4]
[1]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[2]新潟大学医学部精神医学教室、[3]獨協医科大学精神神経医学講座、
[4]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、トランスレーショナル・メディカルセンター

A54-5 抗うつ薬の適正使用についての取り組み

○古郡 規雄[1,6]、渡邊 衡一郎[2]、吉村 玲児[3]、加藤 正樹[4]、坪井 貴嗣[2]、中川 敦夫[5]、菊地 俊暁[5]
[1]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[2]杏林大学医学部精神神経科学教室、[3]産業医科大学精神医学教室、
[4]関西医科大学精神神経科学講座、[5]慶應義塾大学精神・神経科学教室、[6]獨協医科大学精神神経医学講座

A54-6 ポールヤンセン賞について

○古郡 規雄[1,2]、尾関 祐二[2]
[1]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[2]獨協医科大学精神神経医学講座

日本老年精神医学会

A55 日本老年精神医学会の活動について

○岸本 年史、紀本 創兵
奈良県立医科大学精神医学講座

北海道精神神経学会

A56 北海道精神神経学会の歩み

○賀古 勇輝、久住 一郎
北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

2. 大学ならびにその活動紹介コーナー

北海道大学

U1-1 **北海道大学精神医学教室の紹介**

○賀古 勇輝、久住 一郎
北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

U1-2 **北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門の活動について**

○前田 珠希、齊藤 卓弥、柳生 一自、須山 聡、中右 麻理子
北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門

札幌医科大学

U2 **札幌医科大学医学部神経精神医学講座の研究紹介**

○橋本 恵理[1]、池田 官司[1,2]、石井 貴男[1]、岩本 倫[1]、鵜飼 渉[1]、木川 昌康[1]、小林 清樹[1,3]、
坂田 太[1]、佐久川 信[1]、白石 将毅[1]、館農 勝[1,4]、出利葉 健太[1]、中野 倫仁[1,5]、松山 清治[1,6]、
村山 友規[1]、河西 千秋[1]
[1]札幌医科大学医学部神経精神医学講座、[2]幹メンタルクリニック、[3]中江病院、[4]ときわ病院、
[5]北海道医療大学心理科学部臨床心理学科、[6]札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

旭川医科大学

U3 **旭川医科大学「睡眠クリニック」のご紹介**

○田村 義之
旭川医科大学医学部精神医学講座

弘前大学

U4 **弘前大学精神科のご紹介**

○冨田 哲、橋本 浩二郎、斉藤 まなぶ、中村 和彦
弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

岩手医科大学

U5-1 **岩手医科大学神経精神科学講座の「子どものこころのケア」の紹介**

○八木 淳子、山家 健仁、吉岡 靖史、内出 希、柿坂 佳菜恵、藤原 碧、大塚 耕太郎
岩手医科大学神経精神科学講座

U5-2 **東日本大震災後の子どものトラウマ関連障害に対するトラウマフォーカスと認知行動療法の効果検証研究の紹介**

○福本 健太郎、八木 淳子、大塚 耕太郎
岩手医科大学

U5-3 **岩手医科大学神経精神科学講座における精神科救急**

○大塚 耕太郎
岩手医科大学神経精神科学講座

U5-4 **岩手医科大学神経精神科学講座における DPAT 活動**

○大塚 耕太郎
岩手医科大学神経精神科学講座

U5-5 **岩手医科大学における岩手県こころのケアセンター事業**

○大塚 耕太郎
岩手医科大学神経精神科学講座

U5-6 **岩手医科大学神経精神科学講座における自殺対策**

○大塚 耕太郎
岩手医科大学神経精神科学講座

U5-7 **岩手医科大学附属病院移転事業における精神神経科診療**

○大塚 耕太郎
岩手医科大学神経精神科学講座

秋田大学

U6-1 **秋田大学精神科学講座について**

○大森 佑貴、竹島 正浩、三島 和夫
秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

U6-2 **秋田大学における過眠症研究**

○今西 彩、大森 佑貴、高橋 裕哉、神林 崇、三島 和夫
秋田大学医学部附属病院

U6-3 **秋田大学における概日リズム障害研究**

○三島 和夫[1]、今西 彩[1]、筒井 幸[1]、菊池 結花[1]、竹島 正浩[1]、大森 佑貴[1]、細谷 倫子[1]、藤原 大[1]、
平野 梨聖[1]、馬越 秋瀬[1]、工藤 瑞樹[1]、小松 宗央[1]、渡邉 真由美[1]、奥口 悠紀[1]、梅田 喜章[1]、
井野 保里[1]、神林 崇[2]、吉沢 和久[1]、竹越 結生[1]、北村 真吾[3]、肥田 昌子[3]
[1]秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座、[2]筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構、
[3]国立精神・神経医療研究センター

U6-4 **秋田大学における自己免疫性脳症に関する研究**

○筒井 幸、三島 和夫
秋田大学付属病院

U6-5 **秋田大学におけるクロザピン研究**

○菊池 結花[1]、佐藤 優真[2]、小松 宗央[3]、大森 佑貴[1]、工藤 瑞樹[1]、清水 徹男[4]、三島 和夫[1]
[1]秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座、[2]能代厚生医療センター、[3]市立秋田総合病院、[4]秋田県精神保健センター

U6-6 **秋田大学における向精神薬適正使用ガイドライン研究**

○三島 和夫、筒井 幸、菊池 結花、高橋 裕哉、竹島 正浩、大森 佑貴、細谷 倫子、藤原 大、
平野 梨聖、馬越 秋瀬、小松 宗央、工藤 瑞樹、今西 彩、渡邉 真由美、奥口 悠紀、
梅田 喜章、井野 保里
秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

山形大学

U7 **山形大学医学部精神医学講座の沿革と現況**

○長澤 浩樹[1]、簡野 宗明[2]、大谷 浩一[3]
[1]山形大学医学部精神医学講座助教、[2]山形大学医学部精神医学講座講師、[3]山形大学医学部精神医学講座

東北大学

U8-1 **東北大学精神科の紹介**

○伊藤 文晃
東北大学病院精神科

U8-2 **未来型個別化精神医療の創造 –東北大学精神科と東北メディカル・メガバンク機構等との連携**

○高橋 雄太[1]、兪 志前[2]、小野 千晶[1]、割田 紀子[1]、菊地 紗耶[1]、小林 奈津子[3]、長神 風二[4]、寶澤 篤[4]、栗山 進一[4]、田宮 元[4]、荻島 創一[4]、小柴 生造[4]、元池 育子[4]、櫻井 美由紀[4]、木下 賢吾[4]、峯岸 直子[4]、布施 昇男[4]、呉 繁夫[4]、山本 雅之[4]、富田 博秋[1]
[1]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、[2]東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野、
[3]東北大学大学院医学系研究科精神看護学分野、[4]東北大学東北メディカル・メガバンク機構

U8-3 **地域のメンタルヘルス向上に向けた取り組み –東北大学精神科と公衆衛生学専攻・地域保健支援センター等との連携**

○鈴木 智美[1]、瀬戸 萌[2]、片柳 光昭[2]、内海 祐介[2]、奥山 純子[2]、菅原 由美[1]、寶澤 篤[1]、栗山 進一[1]、辻 一郎[1]、富田 博秋[3]
[1]東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻、[2]東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野、
[3]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

U8-4 **精神疾患の病態解明に向けた取り組み –東北大学精神科と創生応用医学研究センター等基礎研究基盤との連携**

○兪 志前[1]、坂井 舞[1]、小野 千晶[2]、割田 紀子[2]、ハリマ スルタナ[2]、高橋 雄太[2]、伊藤 文晃[3]、小松 浩[4]、富田 博秋[2]
[1]東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野、[2]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、
[3]東北大学病院精神科、[4]宮城県立精神医療センター

U8-5 **実践的災害精神医学への学際的取り組み –東北大学精神科と災害科学研究拠点/災害科学国際研究所および地域との連携**

○奥山 純子[1]、片柳 光昭[2]、鈴木 智美[2]、冨本 和歩[3]、東海林 渉[4]、上田 一気[5]、佐久間 篤[5]、松本 和紀[3]、佐藤 翔輔[1]、丸谷 浩明[1]、寺田 賢二郎[1]、越村 俊一[1]、児玉 栄一[1]、伊藤 潔[1]、今村 文彦[1]、富田 博秋[3]
[1]東北大学災害科学国際研究所、[2]東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野、
[3]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、[4]東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄附講座、
[5]東北大学病院精神科

U8-6 **東北大学精神科の予防精神医学への取り組み –SAFE クリニック**

○桂 雅宏[1]、阿部 光一[2]、冨本 和歩[2]、佐藤 祐太朗[2]、大室 則幸[1]、佐久間 篤[1]、松本 和紀[1,2,3]、小原 千佳[4]、伊藤 文晃[1]、砂川 恵美[1]、濱家 由美子[1]、富田 博秋[1,2,5,6,7]
[1]東北大学病院精神科、[2]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、
[3]東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄附講座、[4]仙台市立病院、
[5]東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野、[6]東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野、
[7]東北大学東北メディカル・メガバンク機構

U8-7 **東北大学精神科の児童精神医学への取り組み**

○本多 奈美[1]、菊地 紗耶[2]、小林 奈津子[3]、北川 佳奈[2]、松木 佑[2]、遠藤 愛子[4]、瀬戸 萌[1]、富田 博秋[1]
[1]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、[2]東北大学病院精神科、
[3]東北大学大学院医学系研究科精神看護学分野、[4]仙台市立病院

U8-8 **東北大学精神科と産学官連携基盤 –東北大学病院臨床研究推進センター（CRIETO）等との連携**

○八木橋 真央[1]、小野 千晶[2]、割田 紀子[2]、ハリマ スルタナ[2]、兪 志前[3]、高橋 雄太[2]、小松 浩[4]、伊藤 文晃[5]、菊地 紗耶[5]、小林 奈津子[6]、内海 裕介[5]、佐久間 篤[5]、中川 敦寛[1]、富田 博秋[2]
[1]未来型医療創造卓越大学院プログラム、[2]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、
[3]東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野、[4]宮城県立精神医療センター、[5]東北大学病院精神科、
[6]東北大学大学院医学系研究科精神看護学分野

U8-9 **東北大学精神科の周産期メンタルヘルスへの取り組み**

○菊地 紗耶[1]、小林 奈津子[2]、吉井 初美[2]、仲井 邦彦[3]、有馬 隆博[4]、八重樫 伸生[5]、富田 博秋[6]
[1]東北大学病院精神科、[2]東北大学大学院医学系研究科精神看護学分野、
[3]東北大学大学院医学系研究科発達環境医学分野、[4]東北大学大学院医学系研究科情報遺伝学分野、
[5]東北大学病院産婦人科、[6]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

U8-10 **東北大学精神科のリエゾン精神医学への取り組み**

○佐久間 篤[1]、八木橋 真央[1]、鴇田 百合子[1]、上田 一気[1]、五十嵐 江美[1]、中川 高[2]、中川 敦寛[3]、冨永 悌二[3]、久志本 成樹[4]、富田 博秋[5]
[1]東北大学病院精神科、[2]東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野、[3]東北大学病院脳神経外科、[4]東北大学病院高度救命救急センター、[5]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

U8-11 **東北大学精神科のてんかん/意識・睡眠の臨床・人材育成・研究に向けた連携**

○佐久間 篤[1]、菊地 佑樹[2]、神 一敬[3]、中里 信和[3]、上埜 高志[4]、菅野 道[5]、松岡 洋夫[2]、富田 博秋[6]
[1]東北大学精神科、[2]こだまホスピタル、[3]東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野、[4]東北大学大学院教育学研究科、[5]青葉病院、[6]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

U8-12 **東北大学精神科の脳画像研究への取り組み −加齢医学総合研究所等との連携**

○佐藤 祐太朗[1]、高橋 雄太[1]、小野 千晶[1]、ハリマ スルタナ[1]、阿部 光一[2]、菊池 達郎[2]、佐久間 篤[2]、飯塚 邦夫[2]、伊藤 文晃[2]、坂井 舞[3]、兪 志前[3]、小原 千佳[4]、小松 浩[5]、松本 和紀[1,3]、竹内 光[6]、杉浦 元亮[6]、瀧 靖之[6]、川島 隆太[6]、富田 博秋[1]
[1]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、[2]東北大学病院精神科、[3]東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野、[4]仙台市立病院、[5]宮城県精神医療センター、[6]東北大学加齢医学研究所

U8-13 **東北大学精神科の認知行動療法への取り組み**

○冨本 和歩[1]、桂 雅宏[2]、佐藤 祐太朗[1]、大室 則幸[2]、松本 和紀[1,3]、東海林 渉[3,4]、砂川 恵美[2]、濱家 由美子[2]、富田 博秋[1]
[1]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、[2]東北大学病院精神科、[3]東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄附講座、[4]東北学院大学教養学部人間科学科

福島県立医科大学

U9-1 **福島県立医科大学医学部神経精神医学講座の紹介**

○三浦 至、浅野 太志、泉 竜太、穂積 宏俊、森 湧平、一瀬 瑞絵、戸田 亘、刑部 有祐、堀越 翔、野崎 途也、松本 純弥、板垣 俊太郎、矢部 博興
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

U9-2 **福島県立医科大学神経精神医学講座の研究 精神薬理・Genetics 研究**

○三浦 至[1]、金子 春香[1]、堀越 翔[1]、伊藤 雅史[1]、山本 慎之助[1]、一瀬 瑞絵[1]、浅野 太志[1]、山本 ちひろ[2]、渡辺 研弥[2]、野崎 啓子[1]、矢部 博興[1]
[1]福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、[2]福島県立医科大学附属病院薬剤部

U9-3 **福島県立医科大学神経精神医学講座の研究 死後脳研究**

○國井 泰人、長岡 敦子、泉 竜太、日野 瑞城、矢部 博興
福島県立医科大学神経精神医学講座

U9-4 **福島県立医科大学神経精神医学講座の研究 認知行動療法（CBT）研究**

○青木 俊太郎[1]、横倉 俊也[1]、上田 由桂[1]、菊地 潤[1]、志賀 可奈子[1]、大西 真央[1]、石山 あかね[1]、本谷 亮[2]、土屋垣内 晶[3]、矢部 博興[1]
[1]福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、[2]北海道医療大学心理科学部、[3]Laureate Institute for Brain Research

U9-5 **福島県立医科大学神経精神医学講座の研究 光トポグラフィー（NIRS）研究**

○河野 創一[1,2]、菅野 和子[2]、浅野 太志[2]、青木 俊太郎[2,3]、藤原 達雄[4]、阿部 和道[4]、高橋 敦史[4]、義久 精臣[5]、三浦 至[2]、矢部 博興[2]
[1]一般財団法人竹田健康財団竹田綜合病院、[2]福島県立医科大学神経精神医学講座、[3]福島県立医科大学医療人育成・支援センター、[4]福島県立医科大学消化器内科学講座、[5]福島県立医科大学循環器内科学講座

U9-6 **福島県立医科大学神経精神医学講座の研究 力動的精神療法研究**

○松本 貴智[1]、佐藤 亜希子[2]、志賀 可奈子[1]、菊地 潤[1]、石山 あかね[1]、大西 真央[1]、矢部 博興[1]
[1]福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、[2]竹田綜合病院

U9-7 **福島県立医科大学神経精神医学講座の研究 認知神経生理・薬物脳波研究**

○刑部 有祐、星野 大、菅野 和子、高橋 雄一、森 湧平、和田 知紘、伊藤 典和、野崎 途也、
疋田 雅之、志賀 哲也、板垣 俊太郎、松岡 貴志、矢部 博興
福島県立医科大学神経精神医学講座

U9-8 **福島県立医科大学神経精神医学講座の研究 児童青年期精神医学研究**

○板垣 俊太郎、増子 博文、松本 貴智、伊瀬 陽子、佐藤 亜希子、和田 知紘、浅野 太志
福島県立医科大学神経精神医学講座

群馬大学

U10 **群馬大学神経精神医学教室の取り組み**

○小野 樹郎、藤平 和吉、武井 雄一、須田 真史、松川 幸英、井上 恵理子、三浦 侑乃、
野村 隆則、須永 匡一、関谷 樹、中島 弾、中曽根 拓也、花岡 智咲、福田 正人
群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

自治医科大学

U11 **“Offenem Geist”栃木から精神医学の世界を見渡そう**

○須田 史朗、小林 聡幸、阿部 隆明、大塚 公一郎、塩田 勝利、安田 学、西依 康、佐藤 伸秋、
岡田 剛史、加藤 梨佳、福田 和仁、齋藤 暢是、稲川 優多、福田 周一、関谷 龍彦、
中村 博大、河合 徹郎、熊倉 隼、安武 稜多郎、渡辺 亮介、高桑 洋介
自治医科大学精神医学講座

獨協医科大学

U12-1 **獨協医科大学精神神経医学講座の紹介**

○岡安 寛明、下田 和孝
獨協医科大学精神神経医学講座

U12-2 **獨協医科大学精神神経医学講座における向精神薬による心臓突然死予測因子への影響についての研究**

○岡安 寛明、下田 和孝
獨協医科大学精神神経医学講座

U12-3 **獨協医科大学精神神経医学講座における認知症診断・経過に関する Cognitive Reserve の研究**

○大曽根 彰、下田 和孝
獨協医科大学精神神経医学講座

U12-4 **獨協医科大学精神神経医学講座における副作用研究（不随意運動など）**

○藤井 久彌子、下田 和孝
獨協医科大学精神神経医学講座

U12-5 **獨協医科大学精神神経医学講座におけるパニック障害の薬理遺伝学的研究**

○渡邊 崇、上田 幹人、佐伯 吉規、石黒 慎、林 有希、青木 顕子、篠﨑 將貴、佐々木 太郎、
佐々木 はづき、井上 義政、下田 和孝
獨協医科大学精神神経医学講座

U12-6 **獨協医科大学精神神経医学講座における統合失調症患者のアミノ酸代謝に関する研究**

○藤井 久彌子、下田 和孝
獨協医科大学精神神経医学講座

U12-7 **後継者育成のための獨協医科大学の取り組み：「D の血族」広報戦略**

○下田 和孝[1]、五月女 弘美[2]、伊谷野 和弘[2]、荒川 聡[3]、加納 一樹[4]
[1]獨協医科大学精神神経医学講座、[2]獨協医科大学病院臨床研修センター、[3]荒川デザイン、[4]（株）High-Z

U12-8 **獨協医科大学精神神経医学講座における臨床精神薬理学研究：抗うつ薬エナンチオマーの薬物動態学的解析**

○篠﨑 將貴[1]、佐々木 太郎[1]、佐々木 はづき[1]、林 有希[1]、渡邊 崇[1]、井上 義政[1]、加藤 和子[2]、土嶺 章子[3]、秋山 一文[4]、古郡 規雄[1,5]、尾関 祐二[1,6]、下田 和孝[1]
[1]獨協医科大学精神神経医学講座、[2]さくら・ら心療内科、
[3]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部、[4]河田病院、
[5]弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、[6]滋賀医科大学精神医学講座

筑波大学

U13-1 **筑波大学精神神経科における臨床・教育活動**

○松崎 朝樹
筑波大学

U13-2 **筑波大学附属病院における周産期メンタルヘルス活動**

○根本 清貴[1]、渡部 衣美[2]、小畠 真奈[3]、濱田 洋実[3]、新井 哲明[1]
[1]筑波大学医学医療系精神医学、[2]筑波大学附属病院、[3]筑波大学医学医療系産婦人科学

埼玉医科大学

U14-1 **埼玉医科大学グループの臨床システム**

○松岡 孝裕[1]、渡邊 さつき[1]、安田 貴昭[2]、石田 真弓[3]、平田 吾一[1]、梅村 智樹[2]、鈴木 美和[1]、荒瀧 千絵子[2]、村田 佳子[1]、佐々木 剛[2]、下出 崇輝[1]、藤井 良隆[2]、高杉 彩香[1]、宮脇 優子[2]、横山 香[1]、五十嵐 友里[4]、谷木 夏妃[1]、横山 富士男[1]、大西 秀樹[3]、吉益 晴夫[2]、松尾 幸治[1]
[1]埼玉医科大学病院、[2]埼玉医科大学総合医療センター、[3]埼玉医科大学国際医療センター、[4]東京家政大学

U14-2 **埼玉医科大学グループの教育**

○松岡 孝裕[1]、小田垣 雄二[1]、渡邊 さつき[1]、棚橋 伊織[2]、石田 真弓[3]、倉持 泉[2]、平田 吾一[1]、志賀浪 貴文[2]、畠田 順一[4]、嶋崎 広海[2]、鈴木 美和[1]、横山 富士男[1]、大西 秀樹[3]、吉益 晴夫[2]、松尾 幸治[1]
[1]埼玉医科大学病院、[2]埼玉医科大学総合医療センター、[3]埼玉医科大学国際医療センター、[4]東松山病院

U14-3 **埼玉医科大学グループの研究**

○小田垣 雄二[1]、安田 貴昭[2]、石田 真弓[3]、松岡 孝裕[1]、小林 清香[2]、渡邊 さつき[1]、森田 美穂[2]、下出 崇輝[1]、和氣 大成[2]、高杉 彩香[1]、栗原 瑛大[2]、上村 永[1]、岩山 孝幸[4]、高井 美智子[1]、上條 吉人[1]、荒木 とも子[5]、吉益 晴夫[2]、大西 秀樹[3]、松尾 幸治[1]
[1]埼玉医科大学病院、[2]埼玉医科大学総合医療センター、[3]埼玉医科大学国際医療センター、[4]立教大学、
[5]東北文化学園大学

U14-4 **多職種による病院機能評価への取り組み**

○渡邊 さつき[1]、松岡 孝裕[1]、倉持 泉[2]、谷木 夏妃[1]、鬼形 有紀[1]、山本 英津子[1]、原嶋 健太[1]、川村 ひとみ[1]、佐々木 美和子[1]、島崎 賢[1]、斉藤 仁[1]、磯部 幸子[1]、松尾 幸治[1]
[1]埼玉医科大学病院、[2]埼玉医科大学総合医療センター

千葉大学

U15 **千葉大学大学院医学研究院 精神医学・千葉大学医学部附属病院精神神経科・こどものこころ診療部**

○新津 富央[1]、長谷川 直[2]、大石 賢吾[1]、佐藤 愛子[2]、大岩 宜博[2]、細田 豊[3]、仲田 祐介[1]、鎌田 雄[2]、木村 敦史[1]、高瀬 正幸[2]、小田 靖典[1]、小松 英樹[2]、佐々木 剛[3]、金原 信久[4]、椎名 明大[4]、橋本 佐[1]、石川 雅智[1]、伊豫 雅臣[1]
[1]千葉大学大学院医学研究院精神医学、[2]千葉大学医学部附属病院精神神経科、
[3]千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部、[4]千葉大学社会精神保健教育研究センター

国際医療福祉大学

U16 **国際医療福祉大学医学部精神医学教室について**

○半田 聡、細田 豊、木村 大、橋本 佐、中里 道子
国際医療福祉大学医学部精神科

帝京大学

U17 **良き臨床医を育てる～歴史をしのぐ未来へ～**

○栃木 衛[1]、渡邊 由香子[1]、赤羽 晃寿[1]、伊東 ゆたか[1]、池淵 恵美[1,2]、林 直樹[1]
[1]帝京大学医学部精神神経科学教室、[2]帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

日本医科大学

U18 **日本医科大学 精神医学教室の紹介**

○舘野 周、朝山 健太郎、肥田 道彦、山本 正浩、野上 毅、坂寄 健、明野 薫、山本 憲、
内山 翔太郎、大久保 善朗
日本医科大学精神医学教室

順天堂大学

U19-1 **順天堂大学における精神疾患の包括的研究組織**

○大沼 徹、馬場 元、桐野 衛二、八田 耕太郎、鈴木 利人、新井 平伊
順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学

U19-2 **順天堂大学医学部精神医学教室における外国人留学生の研究**

○WANYI MAO、大沼 徹
順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学

東京医科歯科大学

U20-1 **東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 精神行動医科学分野**

○髙橋 英彦、岡田 幸之、車地 暁生、竹内 崇、治徳 大介、武藤 仁志、田村 赳紘、三瀬 耕平、
塩飽 裕紀、塩江 遼太、小林 七彩
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野

U20-2 **東京医科歯科大学医学部附属病院コンサルテーションリエゾン活動①せん妄**

○武藤 仁志[1]、竹内 崇[1]、松岡 裕美[2]、村上 一徳[1]、野口 澄子[1]、坂本 亜希[3]
[1]東京医科歯科大学医学部附属病院精神科、[2]東京医科歯科大学医学部附属病院看護部、
[3]東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部

U20-3 **東京医科歯科大学医学部附属病院コンサルテーションリエゾン活動②周産期メンタルヘルス**

○竹内 崇[1]、武藤 仁志[1]、松岡 裕美[2]、村上 一徳[1]、野口 澄子[1]、坂本 亜希[3]
[1]東京医科歯科大学医学部附属病院精神科、[2]東京医科歯科大学医学部附属病院看護部、
[3]東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部

U20-4 **東京医科歯科大学医学部附属病院コンサルテーションリエゾン活動③アルコール使用障害**

○武藤 仁志[1]、竹内 崇[1]、松岡 裕美[2]、村上 一徳[1]、野口 澄子[1]、坂本 亜希[3]
[1]東京医科歯科大学医学部附属病院精神科、[2]東京医科歯科大学医学部附属病院看護部、
[3]東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部

慶應義塾大学

U21　**慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室の研究紹介**

○内田 裕之、三村 將
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

東京医科大学

U22　**東京医科大学病院精神医学分野の沿革と現在と未来**

○市来 真彦、井上 猛
東京医科大学精神医学分野

東京女子医科大学

U23-1　**東京女子医科大学精神医学講座の歴史**

○高橋 一志、末木 亮嗣、押淵 英弘、稲田 健、赤穂 理絵、西村 勝治
東京女子医科大学精神医学講座

U23-2　**東京女子医科大学精神医学講座の臨床薬理学 1：適正使用**

○稲田 健、村岡 寛之、河野 敬明、末木 亮嗣、押淵 英弘、高橋 一志、赤穂 理絵、西村 勝治
東京女子医科大学精神医学講座

U23-3　**東京女子医科大学精神医学講座の臨床薬理学 2：クロザピン治療**

○稲田 健[1]、河野 仁彦[2]、村岡 寛之[1]、河野 敬明[1]、末木 亮嗣[1]、押淵 英弘[1]、高橋 一志[1]、
赤穂 理絵[1]、西村 勝治[1]
[1]東京女子医科大学精神医学講座、[2]都城新生病院

U23-4　**東京女子医科大学精神医学講座の臨床薬理学 3：ガイドライン**

○稲田 健、押淵 英弘、高橋 一志、赤穂 理絵、西村 勝治
東京女子医科大学精神医学講座

U23-5　**東京女子医科大学精神医学講座の精神療法 1：統合失調症サイコエデュケーション**

○辻 かをる、押淵 英弘、稲田 健、高橋 一志、赤穂 理絵、西村 勝治
東京女子医科大学精神医学講座

U23-6　**東京女子医科大学精神医学講座の精神療法 2：双極性障害サイコエデュケーション**

○井上 敦子、押淵 英弘、稲田 健、高橋 一志、赤穂 理絵、西村 勝治
東京女子医科大学精神医学講座

U23-7　**東京女子医科大学精神医学講座の精神療法 3：ソーシャルスキルトレーニング**

○辻 かをる、押淵 英弘、稲田 健、高橋 一志、赤穂 理絵、西村 勝治
東京女子医科大学精神医学講座

U23-8　**東京女子医科大学精神医学講座のコンサルテーションリエゾン 1：せん妄**

○西村 勝治、押淵 英弘、稲田 健、高橋 一志、赤穂 理絵
東京女子医科大学精神医学講座

U23-9　**東京女子医科大学精神医学講座のコンサルテーションリエゾン 2：移植医療支援**

○押淵 英弘、稲田 健、高橋 一志、赤穂 理絵、西村 勝治
東京女子医科大学精神医学講座

U23-10　**東京女子医科大学精神医学講座のコンサルテーションリエゾン 3：癌・心不全緩和**

○赤穂 理絵、押淵 英弘、稲田 健、高橋 一志、西村 勝治
東京女子医科大学精神医学講座

東京慈恵会医科大学

U24 慈恵医大精神医学講座の魅力

○天谷 美里、品川 俊一郎、繁田 雅弘、慈恵医大精神医学講座医局員一同
東京慈恵会医科大学精神医学講座

昭和大学

U25-1 昭和大学医学部精神医学講座の紹介

○高塩 理、真田 建史、太田 晴久、中村 亮介、常岡 俊昭、田中 宏明、石部 穣、笹森 大貴、幾瀬 大介、中村 暖、神保 光一、新井 豪佑、佐賀 信之、佐藤 諒太郎、花輪 洋一、宇野 宏光、山田 真理、岩見 有里子、長塚 雄大、宮保 嘉津真、岩波 明
昭和大学附属烏山病院

U25-2 昭和大学精神医学講座における腸内細菌叢に関する研究

○宮保 嘉津真[1]、真田 建史[1]、新村 一樹[1]、荒井 慧[2]、石澤 優佳[2]、髙田 絢子[3]、岩波 明[1]
[1]昭和大学精神医学講座、[2]昭和大学附属烏山病院、[3]昭和大学臨床薬理研究所

U25-3 昭和大学附属烏山病院における成人発達障害への取り組み

○太田 晴久
昭和大学発達障害医療研究所昭和大学附属烏山病院

U25-4 昭和大学附属烏山病院における開放病棟での取り組み

○太田 晴久
昭和大学発達障害医療研究所昭和大学附属烏山病院

U25-5 アディクション治療プログラムと研修システム

○常岡 俊昭[1]、小野 英里子[1]、横山 佐知子[1]、川合 秀明[1]、小島 睦[1]、岩見 有里子[1]、長塚 雄大[1]、山田 真理[1]、西尾 崇志[1]、藤澤 尚子[2]、根本 ありす[3]、稲本 淳子[4]、岩波 明[1]
[1]昭和大学医学部精神医学講座・昭和大学附属烏山病院、[2]昭和大学附属烏山病院作業療法士、
[3]昭和大学附属烏山病院臨床心理士、[4]昭和大学医学部精神医学講座・昭和大学横浜市北部病院

U25-6 大学病院慢性期病棟におけるピアスタッフの活動

○常岡 俊昭[1]、町田 聡子[2]、五十嵐 美紀[3]、山本 和弘[4]、小林 崇志[5]、戸坂 由香里[1]、青木 祐香里[1]、河合 恵太[1]、青柳 啓介[1]、川合 秀明[1]、岩見 有里子[1]、西尾 崇志[1]、池ヶ谷 訓章[2]、池田 勝之[2]、岩波 明[1]
[1]昭和大学医学部精神医学講座・昭和大学附属烏山病院、[2]昭和大学附属烏山病院看護部、
[3]昭和大学附属烏山病院PSW/デイケア、[4]昭和大学附属烏山病院PSW、[5]昭和大学附属烏山病院作業療法室

U25-7 多職種による入院患者向け統合失調症心理教育プログラム

○常岡 俊昭[1]、杉沢 諭[2]、倉持 光知子[3]、木川 聖[3]、中坪 太久郎[4]、山本 和弘[5]、鈴木 文[6]、藤澤 尚子[7]、中村 領[8]、西尾 崇志[1]、池田 勝之[3]、稲本 淳子[9]、岩波 明[1]
[1]昭和大学医学部精神医学講座・昭和大学附属烏山病院、[2]昭和大学薬学部病院薬剤学講座、
[3]昭和大学附属烏山病院看護部、[4]淑徳大学実践心理学科、[5]昭和大学附属烏山病院PSW、
[6]昭和大学附属烏山病院栄養科、[7]昭和大学附属烏山病院作業療法室、[8]昭和大学附属烏山病院事務員・当事者、
[9]昭和大学医学部精神医学講座・昭和大学横浜市北部病院

U25-8 昭和大学医学部精神医学講座の不安症研究のご紹介

○高塩 理、中村 暖、大森 裕、澤登 洋輔、福島 隆総、中村 善文、五十嵐 礼子、西尾 崇志、小野 英里子、斉藤 綾華、青柳 啓介、森井 智美、須藤 英隼、小島 睦、林 若穂、石井 弘毅、石川 文徳、新村 一樹、太田 真里絵、吉田 知弘、岩波 明
昭和大学附属烏山病院

U25-9 昭和大学附属烏山病院におけるシニアオレンジカフェ（認知症カフェ）の活動について

○田中 宏明[1]、中野 雄太郎[2]、佐藤 昌子[3]、長谷川 千種[4]、鈴木 文[5]、古原 聡美[5]
[1]昭和大学附属烏山病院精神科、[2]昭和大学附属烏山病院作業療法室、[3]昭和大学附属烏山病院看護部、
[4]昭和大学附属烏山病院精神保健福祉室、[5]昭和大学附属烏山病院栄養科

U25-10 昭和大学病院附属東病院の臨床活動の紹介

○岡島 由佳、戸田 重誠、平田 亮人、高橋 茜里、富田 秋沙、田玉 紘史、川合 秀明
昭和大学病院附属東病院精神神経科

U25-11 昭和大学病院附属東病院の研究活動の報告

○川合 秀明[1]、田玉 紘史[1]、高橋 茜里[1]、富田 秋沙[1]、戸田 重誠[1]、岡島 由佳[1]、高塩 理[2]、岩波 明[2]
[1]昭和大学病院附属東病院精神神経科、[2]昭和大学附属烏山病院

U25-12 昭和大学医学部精神医学講座のメンタルヘルス活動のご紹介

○中村 暖、高塩 理、真田 建史、太田 晴久、田中 宏明、石部 穣、笹森 大貴、岡島 由佳、
山田 浩樹、岩波 明
昭和大学附属烏山病院

U25-13 昭和大学藤が丘病院精神神経科の精神科無床総合病院における役割

○堀内 健太郎[1]、富岡 大[1]、稲本 淳子[2]
[1]昭和大学藤が丘病院、[2]昭和大学横浜市北部病院

U25-14 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンターのリエゾン活動

○沖野 和麿[1]、鈴木 洋久[1]、白井 将博[1]、小金丸 泰史[1]、瀬戸 詩織[1]、富岡 大[1]、山田 浩樹[1]、
野崎 伸次[1]、岩波 明[2]、稲本 淳子[1]
[1]昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、[2]昭和大学医学部精神医学教室

U25-15 昭和大学江東豊洲病院精神科の紹介

○長井 友子、西川 晶子
昭和大学医学部精神医学講座

U25-16 昭和大学江東豊洲病院精神科の研究活動の紹介

○長井 友子、西川 晶子、吉田 知弘、五十嵐 礼子、高塩 理、岩波 明
昭和大学江東豊洲病院精神科

U25-17 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンターのスーパー救急病棟退院後調査

○山田 浩樹
昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター

U25-18 昭和大学附属烏山病院のスーパー救急病棟における入院患者データベース作成

○山田 浩樹、中村 善文、五十嵐 礼子、高塩 理、岩波 明
昭和大学医学部精神医学講座

U25-19 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンターの緩和医療活動

○富岡 大[1]、小田 道子[1]、野村 美香[1]、横山 佐知子[1]、稲本 淳子[1]、横山 和彦[2]
[1]昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、[2]昭和大学横浜市北部病院緩和医療科

U25-20 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンターの周産期メンタルヘルスケア活動

○富岡 大[1]、小田 道子[1]、野村 美香[1]、横山 佐知子[1]、堀内 健太郎[2]、稲本 淳子[1]
[1]昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、[2]昭和大学藤が丘病院精神神経科

U25-21 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンターの NST 活動

○富岡 大[1]、小金丸 泰史[1]、白井 將博[1]、太田 佐保子[1]、近江 真季[1]、鎌田 行織[1]、鈴木 洋久[1]、
沖野 和麿[1]、瀬戸 詩織[1]、横山 佐知子[1]、佐藤 啓[2]、島田 ひかる[2]、本間 圭[3]、島居 美幸[4]、
青塚 光希[4]、星川 麻美[4]、嘉部 匡朗[5]、大野 実里[5]、稲本 淳子[1]
[1]昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、[2]昭和大学横浜市北部病院看護部、
[3]昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門、
[4]昭和大学横浜市北部病院栄養課、[5]昭和大学横浜市北部病院リハビリテーション室

U25-22 **昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンターの高齢精神科患者の支援活動**

○富岡 大[1]、小金丸 泰史[1]、白井 將博[1]、太田 佐保子[1]、近江 真季[1]、鎌田 行織[1]、鈴木 洋久[1]、沖野 和麿[1]、瀬戸 詩織[1]、横山 佐知子[1]、佐藤 啓[2]、島田 ひかる[2]、嘉部 匡朗[3]、大野 実里[3]、井田 百合子[4]、佐藤 裕一[4]、近藤 周康[4]、稲本 淳子[1]
[1]昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、[2]昭和大学横浜市北部病院看護部、
[3]昭和大学横浜市北部病院リハビリテーション室、[4]昭和大学横浜市北部病院総合サポートセンター

東邦大学

U26 **東邦大学医学部精神神経医学講座の紹介**

○片桐 直之、根本 隆洋、山口 大樹、舩渡川 智之、相川 さやか、松本 裕史、大岡 美奈子、永本 晃子、水野 雅文
東邦大学医学部精神神経医学講座

杏林大学

U27-1 **うつ病治療ガイドラインの有効性に関する多施設共同クラスターランダム化比較検討試験**

○高江洲 義和、坪井 貴嗣、渡邊 衡一郎
杏林大学医学部精神神経科学教室

U27-2 **杏林大学精神神経科教室における治療抵抗性うつ状態の検査入院の取り組み**

○野崎 和博[1]、高江洲 義和[1]、坪井 貴嗣[1]、早坂 友成[1,2]、栗原 真理子[1]、渡邊 衡一郎[1]
[1]杏林大学医学部精神神経科学教室、[2]杏林大学保健学部作業療法学科

U27-3 **杏林大学医学部精神神経科学教室の紹介**

○坪井 貴嗣、丸木 拓、前田 優那、田中 彰人、稗貫 理恵、渡邊 果林、渡邊 衡一郎
杏林大学医学部精神神経科学教室

U27-4 **医学生・研修医に向けたマンガの精神医学**

○今村 弥生
杏林大学医学部精神神経科学教室

横浜市立大学

U28-1 **横浜市立大学医学部精神医学教室の概要・歴史**

○須田 顕
横浜市立大学医学部精神医学教室

U28-2 **横浜市立大学研究グループ紹介 神経画像研究グループ**

○浅見 剛[1]、高石 政男[2]、吉田 晴久[1]
[1]横浜市立大学医学部精神医学教室、[2]横浜市立大学大学院博士課程

U28-3 **横浜市立大学研究グループ紹介 分子・薬理グループ**

○服部 早紀[1]、須田 顕[1]、岸田 郁子[2]、宮内 雅利[3]、白石 洋子[1]、古野 拓[4]
[1]横浜市立大学医学部精神医学教室、[2]医療法人社団清心会藤沢病院、[3]医療法人誠心会神奈川病院、
[4]恩賜財団済生会横浜市南部病院

U28-4 **横浜市立大学研究グループ紹介 神経免疫グループ**

○千葉 悠平[1,2]、齋藤 知之[2]、阿部 紀絵[3]、服部 早紀[3]、須田 顕[2]
[1]医療法人積愛会横浜舞岡病院、[2]横浜市立大学医学部精神医学教室、[3]横浜市立大学大学院博士課程

U28-5 **横浜市立大学研究グループ紹介 精神科リハビリテーション**

○中村 亮太[1]、吉見 明香[2]
[1]横浜市立大学大学院博士課程、[2]横浜市立大学医学部精神医学教室

U28-6 **横浜市立大学診療グループ紹介 児童精神科**

○藤田 純一、青山 久美、戸代原 奈央
横浜市立大学医学部精神医学教室

U28-7 **横浜市立大学診療グループ紹介 てんかん外来**

○堀 岳人[1]、白石 洋子[2]、中川 牧子[3]、古荘 竜[4]、天貝 徹[5]、佐倉 義久[4]、山口 隆之[6]、辻村 理司[7]、高石 政男[8]、新井 めぐみ[9]、三木 和美[9]、梶原 智[10]
[1]ふるしょうクリニック横浜市立大学医学部精神医学教室、[2]横浜市立大学医学部精神医学教室、
[3]横浜市立大学附属市民総合医療センター、[4]ふるしょうクリニック、[5]あまがいメンタルクリニック、
[6]公益財団法人積善会曽我病院、[7]医療法人誠心会あさひの丘病院、[8]横浜市立大学大学院博士課程、
[9]医療法人積愛会横浜舞岡病院、[10]かじはらメンタルクリニック

U28-8 **横浜市立大学診療グループ紹介 救命救急センターにおける精神科医療**

○日野 耕介
横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター

U28-9 **横浜市立大学診療グループ紹介 復職支援デイケア**

○須田 顕[1]、石川 由佳子[2]、五十嵐 香[2]、藤田 英美[2]、小林 陵[2]
[1]横浜市立大学医学部精神医学教室、[2]横浜市立大学附属病院精神科

U28-10 **横浜市立大学診療グループ紹介 緩和ケア**

○吉見 明香、井出 恵子、浅見 剛、須田 顕
横浜市立大学附属病院精神医学教室

聖マリアンナ医科大学

U29 **純粋精神医学に基づく臨床家育成**

○三宅 誕実、小口 芳世、古茶 大樹
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

北里大学

U30-1 **北里大学医学部精神科学教室について**

○大石 智、廣岡 孝陽、櫻井 秀樹、姜 善貴、橋本 樹、島野 朋也、一青 良太、佐々木 道夫、星野 俊弥、朝倉 崇文、三浦 祥子、神谷 俊介、吉林 利文、天保 英明、新井 久稔、澤山 透、井上 勝夫、澤山 恵波、齋藤 正範、宮岡 等
北里大学医学部精神科学

U30-2 **北里大学東病院アウトリーチチームの新たな取り組み～教育機関が精神科救急と在宅診療を実践することの意義～**

○石田 匡宏[1]、大石 智[1]、本野 千絵美[2]、中原 美夏[2]、安江 大志[2]、熊坂 真由美[2]、新甫 知恵[2]、宮岡 等[1]
[1]北里大学医学部精神科学、[2]北里大学東病院看護部

U30-3 **ギャンブル障害専門外来・薬物依存症外来における多職種協同による試み**

○朝倉 崇文[1]、寺島 玲奈[1]、岡田 知子[2]、緒方 慶三郎[1]、内田 麻衣[1]、前田 友美[2]、中神 静香[2]、大石 智[1]、宮岡 等[3]
[1]北里大学医学部精神科学教室、[2]北里大学東病院、[3]北里大学医学部精神科

U30-4 **北里大学における認知症疾患医療センターの取り組み**

○大石 智[1]、姜 善貴[1]、鈴木 龍太郎[1]、滝澤 毅矢[1]、中村 奈奈[2]、齋藤 正範[1]、宮岡 等[1]
[1]北里大学医学部精神科学、[2]北里大学東病院

U30-5 **北里大学における公立小中学校教員メンタルヘルス支援の取り組み**

○大石 智[1]、澤山 恵波[1]、滝澤 毅矢[1]、津崎 心也[2]、齋藤 正範[1]、宮岡 等[1]
[1]北里大学医学部精神科学、[2]北里大学病院

東海大学

U31 東海大学医学部専門診療学系精神科学の取り組みについて

○木本 啓太郎
東海大学医学部専門診療学系精神科学

新潟大学

U32-1 新潟大学精神医学教室の歴史と伝統

○福井 直樹、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

U32-2 新潟大学精神医学教室で行なってきた代表的研究

○澁谷 雅子、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

U32-3 新潟大学精神医学教室で現在進めている研究（1）分子遺伝学研究

○渡部 雄一郎、保谷 智史、井桁 裕文、森川 亮、井上 絵美子、澁谷 雅子、江川 純、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

U32-4 新潟大学精神医学教室で現在進めている研究（2）発達精神医学研究

○江川 純、杉本 篤言、林 剛丞、吉永 清宏、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

U32-5 新潟大学精神医学教室で現在進めている研究（3）臨床精神薬理学研究

○有波 浩、鈴木 雄太郎、田尻 美寿々、須貝 拓朗、渡邉 純蔵、小野 信、福井 直樹、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

U32-6 新潟大学精神医学教室で現在進めている研究（4）周産期メンタルヘルス研究

○福井 直樹、茂木 崇治、橋尻 洸陽、坪谷 隆介、須貝 拓朗、江川 純、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

U32-7 新潟大学精神医学教室の児童・青年期診療における取り組み

○林 剛丞、江川 純、杉本 篤言、吉永 清宏、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

U32-8 新潟県での精神科生涯教育における研究会の整備

○福井 直樹、染矢 俊幸
新潟大学医歯学総合研究科精神医学分野

信州大学

U33-1 信州大学医学部精神医学教室のあゆみとこれから

○由井 寿美江[1]、高橋 徹[1]、萩原 徹也[1]、荻原 朋美[2]、中村 敏範[1]、浅井 由佳[1]、田名部 はるか[1]、
白石 健[1]、坂東 朋子[1]、長田 亮太[1]、原田 喜比古[1]、藤井 義之[1]、高橋 翔[1]、美谷島 真理子[1]、
公家 里依[3]、篠山 大明[1]、本田 秀夫[3]、鷲塚 伸介[1]
[1]信州大学医学部精神医学教室、[2]信州大学医学部地域精神医療学講座、
[3]信州大学医学部子どものこころの発達医学教室

U33-2 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室

○篠山 大明[1]、公家 里依[2]、樋端 佑樹[3]、新美 妙美[3]、倉橋 佳那[2]、疋田 祥子[3]、本田 秀夫[3]
[1]信州大学医学部精神医学教室、[2]信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、
[3]信州大学医学部子どものこころの発達医学教室

U33-3 **信州大学医学部地域精神医療学講座について**

○荻原 朋美[1]、埴原 秋児[1,2]
[1]信州大学医学部地域精神医療学講座、[2]長野県立こころの医療センター駒ヶ根

富山大学

U34-1 **富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座のご紹介**

○高橋 努、鈴木 道雄
富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座

U34-2 **富山大学における脳画像研究**

○高橋 努、鈴木 道雄
富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座

U34-3 **富山大学における事象関連電位研究**

○樋口 悠子、立野 貴大、鈴木 道雄
富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座

U34-4 **富山大学における嗅覚機能研究**

○高橋 努、鈴木 道雄
富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座

U34-5 **神経認知機能研究 −精神病ハイリスク状態を中心に−**

○西山 志満子、高橋 努、樋口 悠子、笹林 大樹、小森 祐子、中村 美保子、西川 祐美子、
鈴木 道雄
富山大学大学院医薬学研究部神経精神医学講座

U34-6 **富山大学における社会生活技能訓練（SST）の取り組み**

○坂田 香[1]、中田 翔太郎[1]、山本 奈々穂[2]、山浦 千代美[2]、齊藤 隆晴[1]、立野 貴大[1]、西山 志満子[1]、
樋口 悠子[1]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学附属病院神経精神科、[2]富山大学附属病院医療福祉サポートセンター

金沢大学

U35 **金沢大学神経科精神科・子どものこころの発達研究センター紹介**

○内藤 暢茂
金沢大学神経科精神科

金沢医科大学

U36 **金沢医科大学 国家戦略に基づいたへき地高齢者のメンタルヘルス調査研究**

○橋本 玲子[1]、田中 浩二[1]、小出 蓉子[1]、大嶋 一彰[1]、上原 隆[1]、玉井 顯[2]、川﨑 康弘[1]
[1]金沢医科大学、[2]医療法人敦賀温泉病院

福井大学

U37-1 **福井大学精神医学講座の「自閉スペクトラム症の脳画像研究」**

○小坂 浩隆、丁 ミンヨン、大森 一郎、松村 由紀子、水野 智之、上野 幹二、武藤 悠平、
三崎 真寛、岡田 優、石橋 知明、幅田 加以瑛、福元 進太郎、神谷 拓、森 鉄也、福岡 彩加
福井大学医学部病態制御医学講座精神医学領域

U37-2 **福井大学精神医学講座の「自閉スペクトラム症のバイオマーカー研究・オキシトシン投与研究」**

○小坂 浩隆[1]、藤岡 徹[2]、丁 ミンヨン[1]、大森 一郎[1]、松村 由紀子[1]、水野 智之[1]、上野 幹二[1]、武藤 悠平[1]、三崎 真寛[1]、岡田 優[1]、石橋 知明[1]、幅田 加以瑛[1]、福元 進太郎[1]、神谷 拓[1]、森 鉄也[1]、福岡 彩加[1]
[1]福井大学医学部病態制御医学講座精神医学領域、[2]福井大学教育学部初等教育コース特別支援教育サブコース

U37-3 **福井大学精神医学講座の「気分障害モデル動物における中枢神経系の神経可塑性および酸化ストレスの定量評価研究」**

○水野 智之[1]、小俣 直人[2]、松本 日和[3]、三田 香代[1]、小垣内 咲子[1]、清野 泰[4]、小坂 浩隆[1]
[1]福井大学医学部病態制御医学講座精神医学領域、[2]福井医療大学保健医療学部看護学科、
[3]福井県立病院こころの医療センター、[4]福井大学高エネルギー医学研究センター

浜松医科大学

U38-1 **精神科医療を変え、世界を変える。～浜松医科大学精神医学講座～**

○栗田 大輔、宇佐美 梨奈、市川 太祐、亀野 陽亮、横倉 正倫、和久田 智靖、竹林 淳和、桑原 斉、山末 英典
浜松医科大学精神医学講座

U38-2 **浜松医科大学精神医学・児童精神医学合同連続講座の紹介**

○高貝 就[1]、山末 英典[2]
[1]浜松医科大学児童青年期精神医学講座、[2]浜松医科大学精神医学講座

U38-3 **疫学的アプローチで子どものこころを知る：浜松母と子の出生コホート**

○土屋 賢治
浜松医科大学子どものこころの発達研究センター

名古屋大学

U39 **名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野：サイエンスとアートの共存を目指して**

○名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

藤田医科大学

U40-1 **藤田医科大学精神神経学 講座紹介**

○大河内 智、北島 剛司、内藤 宏、岩田 仲生
藤田医科大学精神神経学

U40-2 **藤田医科大学精神神経学 遺伝子研究報告**

○青木 玲、大河内 智、谷口 賢、二宮 光平、齋藤 竹生、池田 匡志、岩田 仲生
藤田医科大学精神神経学

U40-3 **藤田医科大学精神神経学 精神薬理研究報告**

○大河内 智、野村 郁雄、佐久間 健二、奥谷 理、大矢 一登、岸 太郎、岩田 仲生
藤田医科大学精神神経学

U40-4 **藤田医科大学精神神経学 睡眠研究報告**

○寺部 基、舟橋 孝太、大河内 智、森下 寛史、小野 義明、熊谷 怜子、山本 真太郎、廣瀬 真里奈、北島 剛司、岩田 仲生
藤田医科大学精神神経学

奈良県立医科大学

U41-1 **奈良県立医科大学精神医学講座のあゆみ①**
○岸本 年史
奈良県立医科大学精神医学講座

U41-2 **奈良県立医科大学精神医学講座のあゆみ②**
○岸本 年史
奈良県立医科大学精神医学講座

U41-3 **奈良県立医科大学精神医学講座のあゆみ③**
○岸本 年史
奈良県立医科大学精神医学講座

U41-4 **奈良県立医科大学精神医学講座のあゆみ④**
○岸本 年史
奈良県立医科大学精神医学講座

U41-5 **奈良県立医科大学精神医学講座のあゆみ⑤**
○岸本 年史
奈良県立医科大学精神医学講座

京都大学

U42-1 **京都大学精神科神経科における研究**
○磯部 昌憲、松本 有紀子、鶴身 孝介、田近 亜蘭、諏訪 太朗、上田 敬太、挾間 雅章、杉田 尚子、大塚 貞男、麻生 俊彦、宮田 淳、村井 俊哉
京都大学

U42-2 **京都大学精神科神経科における臨床診療**
○磯部 昌憲、杉田 尚子、上月 遥、上田 敬太、挾間 雅章、松本 有紀子、田近 亜蘭、鶴身 孝介、諏訪 太朗、宮田 淳、村井 俊哉
京都大学

関西医科大学

U43 **あなたの知らない“関西医科大学 精神神経学教室”の世界**
○嶽北 佳輝
関西医科大学精神神経科学教室

大阪市立大学

U44 **大阪市立大学・神経精神医学教室のご紹介**
○岩﨑 進一、宮脇 大、片上 素久、山内 常生、出口 裕彦、内田 健太郎、原田 朋子、後藤 彩子、宮本 沙緒里、井上 幸紀
大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

近畿大学

U45 **近畿大学医学部精神神経科学教室の取り組み**
○柳 雅也、辻井 農亜、髙屋 雅彦、明石 浩幸、細見 史治、三川 和歌子、池田 真優子、安達 融、阪中 聡一郎、廣瀬 智之、川久保 善宏、矢野 貴詩、平野 愛佳、瀧川 清統、山形 祥礼、土屋 有希、森本 拓頌、丹羽 篤、後藤 雄一朗、和田 照平、白川 治
近畿大学医学部精神神経科学教室

和歌山県立医科大学

U46-1 和歌山県立医科大学神経精神医学教室の「歴史と伝統」

○山本 眞弘、鵜飼 聡
和歌山県立医科大学神経精神医学教室

U46-2 和歌山県立医科大学神経精神医学教室の「臨床」

○山本 眞弘、鵜飼 聡
和歌山県立医科大学神経精神医学教室

U46-3 和歌山県立医科大学神経精神医学教室の「研究」

○高橋 隼、鵜飼 聡
和歌山県立医科大学神経精神医学教室

U46-4 和歌山県立医科大学神経精神医学教室の「地域貢献」

○山本 眞弘、鵜飼 聡
和歌山県立医科大学神経精神医学教室

U46-5 和歌山県立医科大学神経精神医学教室の「教育」

○辻 富基美、鵜飼 聡
和歌山県立医科大学神経精神医学教室

兵庫医科大学

U47-1 兵庫医科大学精神科神経科学講座の歩み、現在、そしてこれから

○松永 寿人、湖海 正尋、林田 和久
兵庫医科大学精神科神経科学講座

U47-2 兵庫医科大学精神科神経科講座が取り組んでいる研究の概要そして目標

○松永 寿人、山西 恭輔、向井 馨一郎、橋本 卓也、岸野 恵、本山 美久仁、日下部 新、
橋本 彩、宮内 雅弘、井窪 薫、宇和 典子、山田 恒
兵庫医科大学精神科神経科学講座

U47-3 兵庫医科大学病院を中核とする多職種連携周産期女性のためのメンタルヘルスサポートシステムの概要

○清野 仁美、青木 瑠衣、樋笠 陽子、岸野 恵、澤井 幸代、助永 舞音、都井 渚、本藤 佳子、
山口 恵理子、川谷 冴子、吉村 知穂、松永 寿人
兵庫医科大学精神科神経科学講座

U47-4 強迫症の治療における入院加療の有効性の検討

○向井 馨一郎[1]、松永 寿人[1]、橋本 卓也[1]、岸野 恵[1]、荻野 俊[1]、宮内 雅弘[1]、前林 憲誠[1]、
林田 和久[1]、吉田 賀一[1]、岡﨑 敏馬[2]、前野 孝介[2]、西山 裕子[2]、徳谷 晃[3]、鈴木 健太[3]
[1]兵庫医科大学精神科神経科学講座、[2]兵庫医科大学看護部、[3]兵庫医科大学薬剤部

鳥取大学

U48-1 鳥取大学精神科の研究：うつ病と炎症

○山梨 豪彦、岩田 正明、三浦 明彦、梶谷 直史、松尾 諒一、西口 毅、松村 博史、板倉 征史、
太田 貴士、太田 三恵、有馬 和志、吉岡 大祐、朴 盛弘、兼子 幸一
鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

U48-2 鳥取大学精神科の研究：統合失調症の認知矯正療法

○板倉 征史、朴 盛弘、岩田 正明、松村 博史、三浦 明彦、山梨 豪彦、太田 貴士、太田 三恵、
梶谷 直史、松尾 諒一、西口 毅、有馬 和志、吉岡 大祐、兼子 幸一
鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

U48-3 **鳥取大学精神科の研究：うつ病と NIRS**

○朴 盛弘、板倉 征史、松村 博史、三浦 明彦、岩田 正明、山梨 豪彦、太田 貴士、太田 三恵、
梶谷 直史、松尾 諒一、西口 毅、有馬 和志、吉岡 大祐、兼子 幸一
鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

U48-4 **鳥取大学精神科の歴史と伝統**

○岩田 正明、松村 博史、三浦 明彦、板倉 征史、山梨 豪彦、太田 貴士、太田 三恵、
梶谷 直史、松尾 諒一、西口 毅、有馬 和志、吉岡 大祐、朴 盛弘、兼子 幸一
鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

岡山大学

U49 **123 年目を迎えた岡山大学大学院精神神経病態学教室**

○川田 清宏[1]、山田 了士[2]、寺田 整司[2]、松本 洋輔[1]、髙木 学[1]、井上 真一郎[1]、岡久 祐子[1]、
藤原 雅樹[1]、千田 真友子[1]、植田 真司[1]
[1]岡山大学病院、[2]岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

島根大学

U50 **島根大学医学部 精神医学講座**

○長濱 道治[1]、河野 公範[1]、佐藤 皓平[1]、伊藤 司[1]、錦織 光[1]、伊豆原 宗人[1]、小池 昌弘[1]、
松田 泰行[1]、三木 啓之[1]、金山 三紗子[1]、三浦 章子[1]、山下 智子[1]、大朏 孝治[1]、林田 麻衣子[1]、
岡崎 四方[1]、橋岡 禎征[1]、和氣 玲[1]、宮岡 剛[1]、稲垣 正俊[1]、堀口 淳[2]
[1]島根大学医学部精神医学講座、[2]島根大学医学部免疫精神神経学共同研究講座

広島大学

U51 **広島大学における教育および研究活動について**

○岡田 剛、岡本 泰昌
広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医科学

山口大学

U52 **山口大学神経精神医学教室の紹介**

○山形 弘隆、松原 敏郎、樋口 文宏、樋口 尚子、原田 健一郎、關 友恵、陳 冲、小林 正明、
萩原 康輔、吉田 侑司、山科 貴裕、山田 典宏、橋本 亜希子、藤井 優子、佐藤 裕子、
平田 圭子、中川 伸
山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

徳島大学

U53-1 **徳島大学 精神医学教室の歴史・沿革**

○中瀧 理仁[1]、沼田 周助[2]、富永 武男[2]、亀岡 尚美[1]、渡部 真也[2]、大森 哲郎[2]
[1]徳島大学病院精神科神経科、[2]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学

U53-2 **徳島大学病院 精神科神経科の臨床教育・研修・診療**

○渡部 真也[1]、亀岡 尚美[2]、沼田 周助[1]、中瀧 理仁[2]、富永 武男[1]、大森 哲郎[1]
[1]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学、[2]徳島大学病院精神科神経科

U53-3 **徳島大学 精神医学教室の研究：分子生物学**

○沼田 周助[1]、中瀧 理仁[2]、富永 武男[1]、亀岡 尚美[2]、渡部 真也[1]、大森 哲郎[1]
[1]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学、[2]徳島大学病院精神科神経科

U53-4 **徳島大学 精神医学教室の研究：認知機能・QOL**

○富永 武男[1]、沼田 周助[1]、中瀧 理仁[2]、渡部 真也[1]、亀岡 尚美[2]、大森 哲郎[1]
[1]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野、[2]徳島大学病院精神科神経科

U53-5 **徳島大学 精神医学教室の研究：脳画像**

○中瀧 理仁[1]、沼田 周助[2]、富永 武男[2]、亀岡 尚美[1]、渡部 真也[2]、大森 哲郎[2]
[1]徳島大学病院精神科神経科、[2]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学

愛媛大学

U54-1 **愛媛大学精神神経科学講座の歴史**

○上野 修一
愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

U54-2 **愛媛大学における神経化学研究**

○上野 修一、伊賀 淳一
愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

U54-3 **愛媛大学における神経心理研究**

○上野 修一、森 崇明
愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

U54-4 **愛媛大学における児童青年期精神医学研究**

○上野 修一、堀内 史枝
愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

U54-5 **愛媛大学における臨床・教育**

○上野 修一、伊賀 淳一
愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

高知大学

U55-1 **森田療法を生んだ森田正馬の生家保存活動と高知大学精神科による地域のメンタルヘルス支援対策の紹介**

○上村 直人
高知大学医学部精神科

U55-2 **高知大学における基幹型認知症疾患医療センターの活動と地域貢献**

○大坪 京子、上村 直人
高知大学医学部精神科

U55-3 **高知大学精神科における若年性認知症コーディネーター支援事業への参画と活動について**

○池田 由美、上村 直人
高知大学医学部精神科

U55-4 **認知症ちえのわ net の紹介 –高知大学と大阪大学の共同研究と認知症対策としての社会貢献**

○樫林 哲雄、上村 直人
高知大学医学部精神科

産業医科大学

U56-1 **産業医科大学が世界に誇る専門的な産業医**

○新開 隆弘
産業医科大学精神医学教室

U56-2 **産業医科大学精神科脳画像研究紹介**

○吉村 玲児、香月 あすか、井形 亮平、Nguyen Le Hoa
産業医科大学精神医学教室

U56-3 **産業医科大学精神科における復職支援を目的とした集団精神療法**

○手銭 宏文[1]、堀 輝[1]、香月 あすか[1]、松元 知美[1]、吉野 幸司[2]、井手 健太[1]、坂倉 孝紀[3]、木島 玲緒人[1]、岡本 直道[1]、吉村 玲児[1]
[1]産業医科大学精神医学教室、[2]医療法人義翔会小嶺江藤病院、[3]医療法人日明会日明病院

U56-4 **産業医科大学精神医学教室の研究紹介**

○新開 隆弘
産業医科大学精神医学教室

U56-5 **産業医科大学精神医学教室の教育紹介**

○新開 隆弘
産業医科大学精神医学教室

U56-6 **産業医科大学精神医学教室の臨床紹介**

○新開 隆弘
産業医科大学精神医学教室

九州大学

U57 **九州大学大学院医学研究院 精神病態医学について**

○神庭 重信
九州大学

福岡大学

U58-1 **福岡大学医学部精神医学教室紹介 患者と向き合う医療の実践**

○衞藤 暢明[1]、大串 祐馬[1]、飯田 仁志[1]、原田 康平[1]、永野 健太[1]、箱田 浩介[2]、畑中 聡仁[1]、川嵜 弘詔[1]
[1]福岡大学医学部精神医学教室、[2]福岡大学筑紫病院

U58-2 **福岡大学病院におけるリエゾンチームの現状**

○北井 良和、吉良 健太郎、川口 貴子、川嵜 弘詔
福岡大学医学部精神医学教室

U58-3 **コラボするデイケア −総合大学における試み−**

○永野 健太
福岡大学医学部精神医学教室

U58-4 **福岡大学筑紫病院緩和ケアセンターの活動**

○箱田 浩介、江島 やよい
福岡大学筑紫病院緩和ケアセンター

U58-5 **福岡大学病院における自殺予防チームの活動**

○衞藤 暢明[1]、原田 康平[1]、松尾 真裕子[2]、大串 祐馬[1]、畑中 聡仁[1]、増田 将人[1]、川嵜 弘詔[1]
[1]福岡大学医学部精神医学教室、[2]福岡大学病院

U58-6 **精神分析的精神療法勉強会の紹介**

○原田 康平
福岡大学医学部精神医学教室

久留米大学

U59-1 **大学紹介～久留米大学医学部神経精神医学講座～**

○大島 勇人、柳本 寛子、内村 直尚
久留米大学神経精神医学講座

U59-2 **久留米大学病院高次脳疾患研究所の取り組み**

○佐藤 守[1]、小路 純央[2]、内村 直尚[3]
[1]久留米大学病院、[2]久留米大学病院精神科、[3]久留米大学精神科

佐賀大学

U60 **佐賀大学医学部精神医学講座の紹介**

○溝口 義人
佐賀大学医学部精神医学講座

長崎大学

U61 **長崎大学病院精神神経科学教室 112 年の歩み**

○浦島 佳代子[1]、峰 当基[1]、西山 美枝[1]、山本 直毅[1]、倉田 青弥[1]、松坂 雄亮[2]、木下 裕久[1]、
今村 明[3]、小澤 寛樹[1]
[1]長崎大学病院精神神経科学教室、[2]長崎大学病院医療教育開発センター、[3]長崎大学病院児童思春期精神医学診療部

熊本大学

U62 **熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野・熊本大学病院神経精神科のご案内**

○城野 匡
熊本大学医学部附属病院神経精神科

鹿児島大学

U63-1 **鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野における研究活動**

○石塚 貴周、中村 雅之
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

U63-2 **鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野 医局紹介**

○佐々木 なつき、中村 雅之
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

U63-3 **初期臨床研修制度における鹿児島大学病院メンタルケアセンター神経科精神科の取り組み**

○塩川 奈理、﨑元 仁志、中村 雅之
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

U63-4 **鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野における公認心理師教育について**

○上村 佳代、佐々木 なつき、中村 雅之
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

琉球大学医学部高次機能医科学講座精神病態医学分野

U64 **琉球大学医学研究科 精神病態医学講座の紹介**

○島袋 盛洋、近藤 毅、松隈 憲吾、新里 輔鷹
琉球大学医学研究科精神病態医学講座

3. 関連団体ならびにその活動紹介コーナー　※五十音順

SST 普及協会

G1 一般社団法人 SST 普及協会をご紹介します

○天笠 崇、加瀬 昭彦
（一社）SST普及協会事務局

UBOM 研究会

G2 簡易で SDM に役立つ精神機能指標を求めて –UBOM の紹介

○後藤 大介
福島県精神保健福祉センター

アルコール関連問題予防研究会

G3 アルコール関連問題予防研究会へのお誘い

○伊藤 満、樋口 進
国立病院機構久里浜医療センター

愛知県精神科病院協会

G4 愛知県精神科病院協会の概要

○舟橋 利彦
医療法人明心会仁大病院

依存症関連グループ

G5-1 アルコール依存

○湯本 洋介、樋口 進
国立病院機構久里浜医療センター

G5-2 埼玉県立精神医療センターにおける薬物依存症研究について

○合川 勇三、成瀬 暢也、山﨑 聞平、田中 朋子、和田 清
埼玉県立精神医療センター

G5-3 久里浜医療センターにおけるギャンブル外来受診患者の動向

○西村 光太郎、古野 悟志、岡田 瞳、高山 輝大、日高 淨子、松﨑 尊信、松下 幸生、樋口 進
国立病院機構久里浜医療センター

G5-4 ネット依存・ゲーム障害

○中山 秀紀、松﨑 尊信、三原 聡子、北湯口 孝、前園 真毅、橋本 琢磨、樋口 進
独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

G5-5 依存症対策全国センター～全ての依存症者が等しく治療を受けられる時代を目指して～

○真栄里 仁[1]、村瀬 華子[1]、松下 幸生[1]、松本 俊彦[2]、樋口 進[1]
[1]独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

医療観察法関連グループ

G6-1 医療観察の現状

○村上 優
国立病院機構さいがた医療センター

G6-2 医療観察法入院医療における治療戦略

○村杉 謙次
国立病院機構小諸高原病院

G6-3 医療観察法における転帰

○竹田 康二[1]、山田 悠至[1]、松田 太郎[1]、柏木 宏子[1]、永田 貴子[2]、岡田 幸之[3]、平林 直次[1]
[1]国立精神・神経医療研究センター病院、[2]肥前精神医療センター、
[3]東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野

G6-4 榊原病院での医療観察法長期入院の社会復帰

○村田 昌彦
国立病院機構榊原病院

G6-5 医療観察法通院治療の現状

○大鶴 卓、久保 彩子、吉田 和史、前上里 泰史、知花 浩也
国立病院機構琉球病院

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

G7-1 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所の紹介

○金 吉晴
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

G7-2 国立精神・神経医療研究センター 病院の紹介

○中込 和幸
国立精神・神経医療研究センター病院

G7-3 研究を支える 4 センターの紹介

○髙野 晴成
国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター

精神医学を基本から考える会

G8 精神医学を基本から考える会

○須賀 英道[1]、豊嶋 良一[2]、古茶 大樹[3]、針間 博彦[4]、深尾 憲二朗[5]、野間 俊一[6]、植野 仙経[6]、
玉田 有[7]、榊原 英輔[8]
[1]龍谷大学短期大学部、[2]埼玉医科大学、[3]聖マリアンナ医科大学神経精神科、[4]松沢病院、
[5]帝塚山学院大学人間科学部、[6]京都大学神経精神科、[7]虎の門病院、[8]東京大学精神神経科

精神科スーパー救急関連グループ

G9-1 精神科スーパー救急発足の背景

○深見 悟郎[1]、平田 豊明[1]、來住 由樹[2]、森川 文淑[3]、長谷川 花[4]、伊豫 雅臣[5]、杉山 直也[4]
[1]千葉県精神科医療センター、[2]岡山県精神科医療センター、[3]旭川圭泉会病院、[4]沼津中央病院、
[5]千葉大学大学院医学研究院精神医学

G9-2 精神科スーパー救急の現状と課題

○平田 豊明
千葉県精神科医療センター

G9-3 精神科スーパー救急の今後の展望

○来住 由樹
岡山県精神科医療センター

G9-4 **精神科スーパー救急における治療戦略**

○森川 文淑、丸山 利弥、昔農 雄太、茶谷 奨、飯田 愛弓、田端 一基、猪俣 光孝、直江 寿一郎
医療法人社団旭川圭泉会病院

G9-5 **精神科スーパー救急の治療成果～患者レジストリ～**

○長谷川 花、野田 寿恵、杉山 直也
沼津中央病院

島根県精神科医キャリアアップ支援ネットワーク

G10 **島根県精神科医キャリアアップ支援ネットワーク事業について**

○森﨑 洋平[1]、細田 眞司[2]、妹尾 晴夫[3]、室津 和男[4]、小原 圭司[5]、林田 麻衣子[6]、岡﨑 四方[7]、
小林 孝文[8]、内田 有彦[9]、木村 清志[10]
[1]島根県立中央病院精神神経科、[2]こころの診療所細田クリニック、[3](医) 青葉会松江青葉病院、
[4]松江赤十字病院精神神経科、[5]島根県立心と体の相談センター、[6]島根大学医学部精神医学講座、
[7]島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センター、[8]島根県立こころの医療センター、[9](医) 清和会西川病院、
[10]島根県健康福祉部

東京精神科病院協会

G11 **東京精神科病院協会の紹介**

○平川 淳一[1]、塚本 一[2]、田邉 英一[3]
[1]医療法人社団光生会平川病院、[2]医療法人社団欣助会吉祥寺病院、[3]医療法人社団じうんどう慈雲堂病院

東京精神神経科診療所協会

G12 **精神科クリニック開業医物語 東京編**

○神山 昭男
有楽町桜クリニック

内田クレペリン精神検査研究会

G13 **内田クレペリン精神検査**

○黒川 淳一
医療法人桜桂会犬山病院・名古屋経済大学

日本うつ病リワーク協会

G14 **日本うつ病リワーク協会の歴史と今後について**

○五十嵐 良雄[1]、高尾 哲也[2]、池田 隆一[3]、大野 一人[4]、西村 聡美[5]
[1]メディカルケア大手町、[2]水戸メンタルクリニック、[3]けいふう心療クリニック、[4]養老病院、[5]十全病院

日本児童青年精神科診療所連絡協議会

G15 **追悼 長尾圭造先生 日本児童青年精神科診療所連絡協議会の足跡**

○大高 一則[1]、大嶋 正浩[2]、奥野 正景[3]、原田 剛志[4]、神尾 陽子[5]、中野 育子[6]、橋本 大彦[7]、
溝口 健介[8]、大瀧 和男[9]、中島 洋子[10]、藤岡 宏[11]、中庭 洋一[12]
[1](医) 大高クリニック、[2]社団至空会メンタルクリニック・ダダ、[3]三国丘こころのクリニック、
[4]パークサイドこころの発達クリニック、[5]お茶の水女子大学/国立精神・神経医療研究センター、
[6]札幌こころの診療所、[7]橋本クリニック、[8]ケン・クリニック、[9]かずおメンタルクリニック、[10]まな星クリニック、
[11]つばさ発達クリニック、[12]医療法人なかにわメンタルクリニック

日本若手精神科医の会（JYPO）

G16 日本若手精神科医の会（JYPO）の軌跡と今後の展望

○大矢 希[1,13]、安藝 森央[2,13]、伊井 俊貴[3,13]、江渕 有希[4,13]、澤頭 亮[5,13]、高尾 碧[6,13]、中神 由香子[7,13]、松井 佑樹[8,13]、山田 健生[9,13]、久我 弘典[10,13]、田中 増郎[11,13]、堀之内 徹[12,13]
[1]京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、[2]公立豊岡病院組合立豊岡病院、[3]名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野、[4]桜ヶ丘記念病院、[5]北海道大学大学院医学研究院神経生理学教室、[6]島根県立こころの医療センター、[7]京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室、[8]医療法人明心会仁大病院、[9]大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、[10]九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野、[11]高嶺病院精神科、[12]北海道大学大学院医学院神経病態学講座精神医学教室、[13]認定特定非営利法人日本若手精神科医の会

日本心理教育・家族教室ネットワーク

G17 日本心理教育・家族教室ネットワーク（The Japanese Network of Psychoeducation and Family Support Program）の活動紹介と魅力

○西尾 雅明[1]、池淵 恵美[2]、伊藤 順一郎[3]、内野 俊郎[4]、大島 巌[5]、香月 富士日[6]、後藤 雅博[7]、菅原 明美[8]、贄川 信幸[9]、早川 滋人[10]、福井 里江[11]、渡邉 真里子[12]
[1]事務局担当運営委員、東北福祉大学せんだんホスピタル、[2]幹事、帝京平成大学大学院臨床心理学研究科、[3]幹事、メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ、[4]研究集会担当運営委員、久留米大学、[5]幹事、日本社会事業大学、[6]研究集会担当運営委員、名古屋市立大学、[7]代表幹事、こころのクリニックウィズ、[8]広報担当運営委員、美作大学、[9]研修担当運営委員、日本社会事業大学、[10]研修担当運営委員、立命館大学、[11]研修担当運営委員、東京学芸大学、[12]研修担当運営委員、ちはやACTクリニック

日本精神科病院協会

G18-1 日本精神科病院協会の活動概要報告 1

○松田 ひろし
日本精神科病院協会/柏崎厚生病院

G18-2 日本精神科病院協会の活動概要報告 2

○松原 六郎[1]、堀井 茂男[2]
[1]松原病院、[2]慈圭病院

G18-3 日本精神科病院協会の活動概要報告 3

○松原 六郎[1]、堀井 茂男[2]
[1]松原病院、[2]慈圭病院

G18-4 日本精神科病院協会の活動概要報告 4

○松原 六郎[1]、堀井 茂男[2]
[1]松原病院、[2]慈圭病院

G18-5 日本精神科病院協会の活動概要報告 5

○松原 六郎[1]、堀井 茂男[2]
[1]松原病院、[2]慈圭病院

G18-6 日本精神科病院協会の活動概要報告 6

○松田 ひろし[1]、堀井 茂男[2]
[1]柏崎厚生病院、[2]慈圭病院

G18-7 日本精神科病院協会の活動概要報告 7

○清水 輝彦[1]、堀井 茂男[2]、松原 六郎[3]、山岡 功一[4]
[1]清水桜が丘病院、[2]慈圭病院、[3]松原病院、[4]神経科浜松病院

G18-8 日本精神科病院協会の活動概要報告 8

○松田 ひろし[1]、堀井 茂男[2]
[1]柏崎厚生病院、[2]慈圭病院

G18-9 **日本精神科病院協会の活動概要報告 9**

○堀井 茂男
慈圭病院

G18-10 **日本精神科病院協会の活動概要報告 10**

○山岡 功一[1]、清水 輝彦[2]、藤枝 信夫[3]、浅井 禎之[4]、堤 祐一郎[5]、細見 和代[6]、須藤 康彦[7]、小原 尚利[8]
[1]神経科浜松病院、[2]清水桜が丘病院、[3]清和病院、[4]浅井病院、[5]恩方病院、[6]湊川病院、[7]土佐病院、[8]南ヶ丘病院

G18-11 **日本精神科病院協会の活動概要報告 11**

○南 尚希
万葉クリニック

G18-12 **日本精神科病院協会の活動概要報告 12**

○南 尚希
万葉クリニック

G18-13 **日本精神科病院協会の活動概要報告 13**

○髙宮 眞樹[1]、森村 安史[2]
[1]髙宮病院、[2]仁明会病院

G18-14 **日本精神科病院協会の活動概要報告 14**

○渕野 勝弘[1]、田口 真源[2]、中川 龍治[3]
[1]緑ヶ丘保養園、[2]大垣病院、[3]嬉野温泉病院

G18-15 **日本精神科医学会の活動概要報告 1**

○森 隆夫[1]、松田 ひろし[2]、伴 亨[3]
[1]あいせい紀年病院、[2]柏崎厚生病院、[3]平和台病院

G18-16 **日本精神科医学会の活動概要報告 2**

○森 隆夫[1]、松田 ひろし[2]、伴 亨[3]
[1]あいせい紀年病院、[2]柏崎厚生病院、[3]平和台病院

G18-17 **日本精神科医学会の活動概要報告 3**

○伴 亨
平和台病院

G18-18 **日本精神科医学会の活動概要報告 4**

○伴 亨[1]、松井 隆明[2]
[1]平和台病院、[2]三善病院

G18-19 **日本精神科医学会の活動概要報告 5**

○野木 渡[1]、森 隆夫[2]
[1]浜寺病院、[2]あいせい紀年病院

G18-20 **日本精神科医学会の活動概要報告 6**

○松田 ひろし[1]、松原 六郎[2]
[1]柏崎厚生病院、[2]松原病院

G18-21 **日本精神科医学会の活動概要報告 7**

○田尾 大樹[1]、松原 六郎[2]、伴 亨[3]
[1]大谷地病院、[2]松原病院、[3]平和台病院

G18-22 **日本精神科医学会の活動概要報告 8**

○伴 亨[1]、松原 六郎[2]
[1]平和台病院、[2]松原病院

G18-23 **日本精神科医学会の活動概要報告 9**

○伴 亨[1]、森 隆夫[2]
[1]平和台病院、[2]あいせい紀年病院

G18-24 **日本精神科病院協会・日本精神科医学会 入会案内**

○森 隆夫[1]、野木 渡[2]
[1]あいせい紀年病院、[2]浜寺病院

G18-25 **DPAT の活動と体制整備（1）**

○小見 めぐみ、岸野 真由美、渡 路子
DPAT事務局

G18-26 **DPAT の活動と体制整備（2）**

○小見 めぐみ、岸野 真由美、渡 路子
DPAT事務局

G18-27 **災害拠点精神科病院機能の検討（1）**

○石田 正人、小見 めぐみ、岸野 真由美、渡 路子
DPAT事務局

G18-28 **災害拠点精神科病院機能の検討（2）**

○石田 正人、小見 めぐみ、岸野 真由美、渡 路子
DPAT事務局

日本精神神経科診療所協会

G19 **精神科クリニックの全国ネットワークに参加しませんか**

○神山 昭男
有楽町桜クリニック

日本摂食障害協会

G20-1 **日本摂食障害協会の活動**

○西園マーハ 文[1]、生野 照子[2]、石川 俊男[3]、末松 弘行[4]、鈴木 眞理[5]、鈴木 裕也[6]、山岡 昌之[7]
[1]明治学院大学心理学部、[2]なにわ生野病院、[3]元国立国際医療研究センター国府台病院、[4]元名古屋学芸大学、
[5]政策研究大学院大学、[6]山王メディカルセンター、[7]日本摂食障害治療研究所

G20-2 **日本摂食障害協会の研修**

○西園マーハ 文[1]、生野 照子[2]、石川 俊男[3]、末松 弘行[4]、鈴木 眞理[5]、鈴木 裕也[6]、山岡 昌之[7]
[1]明治学院大学心理学部、[2]なにわ生野病院、[3]元国立国際医療研究センター国府台病院、[4]名古屋学芸大学、
[5]政策研究大学院大学、[6]山王メディカルセンター、[7]日本摂食障害治療研究所

G20-3 **日本摂食障害協会の研究成果**

○西園マーハ 文[1]、生野 照子[2]、石川 俊男[3]、末松 弘行[4]、鈴木 眞理[5]、鈴木 裕也[6]、山岡 昌之[7]
[1]明治学院大学心理学部、[2]なにわ生野病院、[3]元国立国際医療研究センター国府台病院、[4]元名古屋学芸大学、
[5]政策研究大学院大学、[6]山王メディカルセンター、[7]日本摂食障害治療研究所

柏崎臨床精神医学研究会

G21-1 柏崎臨床精神医学研究会の変遷

○野村 健太郎[1]、松田 ひろし[1]、吉濱 淳[1]、石黒 裕美[1]、赤羽 学爾[1]、山田 仁三[1]、長谷川 宝史[1]、坂本 隆行[2]、阿部 亮[3]、清水 洋一[3]、恩田 晃[4]、前畑 幸彦[5]
[1]立川メディカルセンター柏崎厚生病院精神科、[2]医療法人三交会三交病院精神科、[3]医療法人明生会関病院精神科、[4]医療法人社団恩田クリニック、[5]医療法人社団幸洋会駅前クリニック前畑医院

G21-2 柏崎厚生病院における認知症地域支援における取り組み

○西川 弘美[1]、松田 ひろし[1]、吉濱 淳[1]、小黒 希[1]、遠山 由紀子[1]、入澤 未希[2]
[1]柏崎厚生病院、[2]介護老人保健施設米山爽風苑

非定型精神病研究会

G22 非定型精神病研究会のこれまでの流れと今後の発展

○須賀 英道[1]、中山 和彦[2]、米田 博[3]、康 純[3]、針間 博彦[4]、阿部 隆明[5]、岩波 明[6]、坂元 薫[7]、兼本 浩祐[8]、渡辺 憲[9]、金沢 徹文[3]、山田 浩樹[6]、加藤 悦史[8]、樽谷 精一郎[3]、安川 節子[10]、川村 愉[11]
[1]龍谷大学短期大学部、[2]八千代病院、[3]大阪医科大学神経精神科、[4]松沢病院、[5]自治医科大学子どもの心の診療科、[6]昭和大学神経精神科、[7]坂元薫うつ病治療センター、[8]愛知医科大学精神科学講座、[9]渡辺病院、[10]熊本ファミリーメンタルクリニック、[11]三陸病院

福岡県精神神経科診療所協会

G23 福岡県精神神経科診療所女性会員の活動状況 –近年のアンケート結果から–

○三原 伊保子
三原デイケア＋クリニックりぼん・りぼん

理化学研究所脳神経科学研究センター

G24-1 ベタインの新規向精神作用物質としての可能性

○大西 哲生、吉川 武男
理化学研究所脳神経科学研究センター分子精神遺伝研究チーム

G24-2 精神疾患研究における iPS 細胞利用の可能性

○豊島 学、吉川 武男
理化学研究所脳神経科学研究センター分子精神遺伝研究チーム

G24-3 統合失調症患者死後脳でみられるスフィンゴ脂質代謝異常

○江崎 加代子、吉川 武男
理化学研究所脳神経科学研究センター分子精神遺伝研究チーム

G24-4 甲状腺ホルモントランスポーターの神経特異的・時期特異的ノックアウトマウスの作成と解析

○田中-水谷 弘子[1,2]、笠原 和起[1]、笠井 清登[2]、加藤 忠史[1]
[1]理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム、
[2]東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻精神医学分野

G24-5 双極性障害および大うつ病性障害における視床室傍核の障害の可能性と MAO-B の病態的意義について

○小畑 洋平[1]、窪田 美恵[2]、笠原 和起[2]、水野 雅文[1]、加藤 忠史[2]
[1]東邦大学大学院医学研究科精神神経医学分野、[2]理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム

G24-6 双極性障害の原因解明を目指して

○加藤 忠史
理化学研究所脳神経科学研究センター

4. 専門医研修プログラム紹介コーナー

北海道大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T1 **北海道大学病院連携施設精神科専門医研修プログラムの紹介**

○賀古 勇輝、久住 一郎
北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

札幌医科大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T2 **札幌医科大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム**

○石井 貴男、出利葉 健太、木川 昌康、白石 将毅、橋本 恵理、河西 千秋
札幌医科大学医学部神経精神医学講座

弘前大学病院連携施設精神科研修プログラム

T3 **弘前大学の研修紹介～津軽で研修してみよう～**

○冨田 哲、橋本 浩二郎、斉藤 まなぶ
弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

岩手医科大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T4 **岩手医科大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム**

○大塚 耕太郎
岩手医科大学神経精神科学講座

秋田大学付属病院連携施設精神科専攻医研修プログラム

T5 **秋田大学付属病院連携施設 精神科専攻医研修プログラム**

○筒井 幸、細谷 倫子、三島 和夫
秋田大学付属病院

東北大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T6 **東北大学病院精神科での精神科専門研修について**

○伊藤 文晃
東北大学病院精神科

福島県立医科大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T7 **福島県立医科大学医学部附属病院連携施設 精神科専門医研修プログラムについて**

○三浦 至、板垣 俊太郎、松本 純弥、野崎 途也、刑部 有祐、堀越 翔、矢部 博興
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

市立札幌病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T8 **市立札幌病院連携施設 精神科専門医研修プログラムの紹介**

○高田 秀樹、松永 力、石井 純、嶋 香菜子、奥村 真佑、中下 並人、味藤 静、相澤 香織、髙柳 瞬、鹿野 智子
市立札幌病院精神医療センター

山形県立こころの医療センター専門研修プログラム

T9 山形県立こころの医療センター専門研修プログラム

○東海林 岳樹
山形県立こころの医療センター

津軽保健生活協同組合藤代健生病院精神科専攻医プログラム

T10 藤代健生病院の魅力紹介

○千葉 洋平、千石 利広、牧口 幸一、坂本 隆、吉田 宏美、武田 修、森山 奈津子、関谷 修
津軽保健生活協同組合藤代健生病院

社会医療法人あさかホスピタル精神科専門医研修プログラム

T11 あさかホスピタルにおける包括的な地域精神科医療システム

○佐久間 啓
社会医療法人あさかホスピタル

自治医科大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T12 自治医科大学附属病院連携施設 精神科専門医研修プログラム 求めるものは全てここにある？はず

○須田 史朗、小林 聡幸、阿部 隆明、塩田 勝利、大塚 公一郎、安田 学、西依 康、佐藤 伸秋、
岡田 剛史、加藤 梨佳、福田 和仁、齋藤 暢是、稲川 優多、福田 周一、関谷 龍彦、
中村 博大、河合 徹郎、熊倉 隼、安武 稜多郎、渡辺 亮介、高桑 洋介
自治医科大学精神医学講座

獨協医科大学病院精神科専門医育成プログラム

T13 獨協医科大学病院精神科専門医育成プログラムの紹介

○古郡 規雄、下田 和孝
獨協医科大学精神神経医学講座

筑波大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T14 筑波大学附属病院連携施設での専門医研修のススメ

○根本 清貴、松崎 朝樹、井出 政行、塚田 恵鯉子、太田 深秀、白鳥 裕貴、太刀川 弘和、
新井 哲明
筑波大学医学医療系精神医学

埼玉医科大学病院・連携施設精神科専門医研修プログラム

T15 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科の専門医研修プログラム

○松岡 孝裕、渡邊 さつき、横山 富士男、小田垣 雄二、松尾 幸治
埼玉医科大学病院

千葉大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム

T16 千葉大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム

○長谷川 直[1]、新津 富央[2]、佐藤 愛子[1]、大岩 宜博[1]、細田 豊[3]、鎌田 雄[1]、木村 敦史[2]、
高瀬 正幸[1]、小田 靖典[2]、小松 英樹[1]、佐々木 剛[3]、石川 雅智[2]、伊豫 雅臣[2]
[1]千葉大学医学部附属病院精神神経科、[2]千葉大学大学院医学研究院精神医学、
[3]千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部

帝京大学精神科専門医研修プログラム

T17 帝京大学精神科専門医研修プログラム

○栃木 衛[1]、渡邊 由香子[1]、赤羽 晃寿[1]、伊東 ゆたか[1]、池淵 恵美[1,2]、林 直樹[1]
[1]帝京大学医学部精神神経科学教室、[2]帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

東京医科歯科大学精神科専門医研修プログラム

T18 東京医科歯科大学精神科専門医研修プログラム

○高橋 英彦
東京医科歯科大学医学部附属病院精神科

東京医科大学病院精神科専門医研修プログラム

T19 東京医科大学病院における精神科専門医研修プログラム

○市来 真彦、井上 猛
東京医科大学精神医学分野

順天堂大学附属病院精神科専門医研修プログラム

T20 順天堂大学附属病院精神科専門医研修プログラム

○黄田 常嘉、大沼 徹、馬場 元、一宮 洋介、鈴木 利人、八田 耕太郎、桐野 衛二、稲見 理絵、宮川 晃一
順天堂大学医学部精神医学教室

東京女子医科大学医学部精神医学講座専門医研修プログラム

T21 東京女子医科大学精神医学講座の専門医研修プログラム

○高橋 一志、押淵 英弘、稲田 健、赤穂 理絵、西村 勝治
東京女子医科大学精神医学講座

昭和大学横浜市北部病院連携施設精神科領域専門医研修プログラム

T22 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター 専門医研修プログラムのご紹介

○富岡 大、野崎 伸次、山田 浩樹、吉澤 徹、横山 佐知子、小金丸 泰史、鈴木 洋久、稲本 淳子
昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター

昭和大学医学部精神医学教室専門医研修プログラム

T23 昭和大学精神科連携施設 専門医研修プログラムの紹介

○高塩 理、真田 建史、太田 晴久、常岡 俊昭、田中 宏明、石部 穣、幾瀬 大介、笹森 大貴、中村 暖、神保 光一、太田 真里絵、新井 豪佑、佐賀 信之、林 若穂
昭和大学医学部精神医学講座

東邦大学佐倉病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T24 東邦大学医療センター佐倉病院精神科専門研修プログラムの内容、特色

○加藤 祐樹[1]、山本 喜久[1]、林 果林[2]、小山 文彦[3]、桂川 修一[1]
[1]東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック、[2]袖ヶ浦さつき台病院、
[3]東邦大学医療センター佐倉病院産業精神保健・職場復帰支援センター

杏林大学病院精神科専門医研修プログラム

T25 杏林大学病院精神科専門医研修プログラムの紹介（連携施設を中心に）

○渡邊 衡一郎[1]、坪井 貴嗣[1]、菊池 健[2]、半田 貴士[3]、菊本 弘次[4]、岩下 覚[5]、堤 祐一郎[6]、持田 政彦[7]、角田 健一[8]、室 愛子[9]
[1]杏林大学医学部精神神経科学教室、[2]井之頭病院、[3]大泉病院、[4]駒木野病院、[5]桜ヶ丘記念病院、[6]恩方病院、[7]多摩病院、[8]南飯能病院、[9]東京海道病院

横浜市立大学大学院医学研究科精神医学教室専門医研修プログラム

T26 横浜市立大学精神科専門医研修プログラムのご紹介

○須田 顕
横浜市立大学医学部精神医学教室

北里大学東病院精神科専門医研修プログラム

T27 北里大学東病院精神科専門医研修プログラムについて

○大石 智、澤山 透、新井 久稔、井上 勝夫、廣岡 孝陽、姜 善貴、天保 英明、齋藤 正範、宮岡 等
北里大学医学部精神科学

東海大学医学部精神科専門研修プログラム

T28 東海大学医学部精神科専門研修プログラム

○大西 雄一、星山 晋太郎、石山 雄一、米村 薫人、上山 慧、西川 圭太、木本 啓太郎、高橋 有記、赤間 史明、三上 克央、山本 賢司、松本 英夫
東海大学医学部専門診療学系精神科学

群馬県立精神医療センター基幹施設精神科専門医研修プログラム

T29 「群馬モデル」精神科救急システムによる退院後まで見据えた治療を実践できます

○赤田 卓志朗、芦名 孝一、須藤 友博
群馬県立精神医療センター

茨城県立こころの医療センター精神科専門医研修プログラム

T30 茨城県立こころの医療センターにおける研修の魅力

○水谷 洋介、青塚 伸孝、齋藤 伸明、瀬山 風花、田口 高也、小松﨑 智恵、田村 昌士、藤田 俊之、妹尾 栄一、堀 孝文
茨城県立こころの医療センター

栗田病院精神科専門医研修プログラム

T31 茨城県栗田病院における専門研修の特徴

○安部 秀三、栗田 裕文
医療法人社団有朋会栗田病院

埼玉県立精神医療センター精神科専門医研修プログラム

T32 埼玉県立精神医療センターについて

○長尾 眞理子、成瀬 暢也、田中 朋子、三上 智子、合川 勇三
埼玉県立精神医療センター

浦和神経サナトリウム精神科専門医研修プログラム

T33 首都圏のどこからでも通える市中精神科病院～幅広い症例・地域医療・産業医学から学ぶ～

○羽岡 健史[1]、吉野 聡[2]、谷口 和樹[3]、クリストファー ベトリッジ[1]、梶本 隆夫[1]、成島 直紀[1]、商 真哲[1]、寺尾 敦[1]、菊池 章[1]
[1]浦和神経サナトリウム、[2]新宿ゲートウェイクリニック、[3]東大宮メンタルクリニック

成田赤十字病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T34 成田赤十字病院精神神経科の紹介 精神科救急とリエゾンの沢山の症例を学べます

○齋賀 孝久、赤田 弘一、小池 香、松田 久実、竹内 澄子、佐藤 茂樹
成田赤十字病院精神神経科

千葉県精神科医療センター精神科専門医研修プログラム

T35 千葉県精神科医療センター 精神科専門医研修プログラム

○深見 悟郎
千葉県精神科医療センター

総合病院国保旭中央病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T36 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム「旭モデル」について

○青木 勉、小林 宏子、池水 結輝、鈴木 里実、大迫 鑑顕、マンゾッティ 須美礼、高津 圭介、磯野 友厚、大塚 祐司、矢野 望、川副 泰成
地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院神経精神科・児童精神科

都立松沢病院施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

T37 東京都立松沢病院精神科専門研修プログラムについて

○正木 秀和
東京都立松沢病院

東京医療センター精神科専門医研修プログラム

T38 内科医らと共に多職種で行う「東京医療センター・短期入院・アルコール・プログラム」（TAPPY）のご紹介

○杉原 正子
東京医療センター

公社豊島病院施設群精神科東京医師アカデミー専門研修プログラム

T39 公社豊島病院精神科 専門研修プログラムについて

○尾﨑 茂
公益財団法人東京都保健医療公社豊島病院

国府台病院・精神科専門医研修プログラム

T40 国府台病院精神科専門医研修プログラムについて –救急、地域、児童、リエゾン等、総合的能力を身につける–

○近藤 忠之、箱島 有輝、竹内 悠、七澤 英毅、柳澤 雄太、草西 俊、吉村 裕太、稲﨑 久美、中野 千恵子、鵜重 順康、牛島 洋景、宇佐美 政英、榎本 哲郎、伊藤 寿彦、早川 達郎
国立国際医療研究センター国府台病院

国立精神・神経医療研究センター病院精神科専門医研修プログラム

T41 国立精神・神経医療研究センター病院精神科専門医研修プログラムについて

○岡崎 光俊
国立精神・神経医療研究センター病院

松原病院精神科専門医研修プログラム

T42 幅広い知識を身につけた地域に貢献できる精神科医を育成する松原病院

○松原 三郎
社会医療法人財団松原愛育会松原病院

医療法人社団翠会成増厚生病院精神科専門医研修プログラム

T43 「患者さんとの臨床三昧の日々があなたを育てます」～成増厚生病院 精神科専門医研修プログラムのご紹介～

○中村 満、佐々木 博敏、阿部 凰三郎、北條 彩、丸茂 晋平、佐藤 健登、山崎 悠子、
長縄 瑛子、垣渕 洋一
医療法人社団翠会成増厚生病院

医療法人社団成仁病院精神科専門医研修プログラム

T44 成仁病院 精神科研修～救急から在宅支援まで～

○片山 成仁、佐々木 惇
医療法人社団成仁病院

医療法人財団青山会精神科専門医研修プログラム

T45 県立病院とも連携した民間病院プログラム

○高屋 淳彦[1]、日比野 浩之[1]、上山 岳彦[2]
[1]医療法人財団青山会福井記念病院、[2]医療法人財団みくるべ病院

久里浜医療センター連携施設精神科専門医研修プログラム

T46 久里浜医療センターのご紹介

○松下 幸生、木村 充
久里浜医療センター

沼津中央病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T47 静岡県東部地域における精神科専門医研修～沼津中央病院連携施設～

○杉山 直也
公益財団法人復康会沼津中央病院

ふじのくに精神科専門医研修プログラム

T48 静岡県立こころの医療センターの特色・ふじのくに精神科専門医研修プログラムの紹介

○大橋 裕、平野 雄也、梶塚 正誠、鈴木 健一、渡邊 瑠衣、小出 由梨香、富永 見佳、
村上 牧子、村上 直人
独立行政法人静岡県立病院機構静岡県立こころの医療センター

信州大学医学部附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T49 信州大学医学部附属病院連携施設 精神科専門医研修プログラムのご紹介

○荻原 朋美[1]、由井 寿美江[2]、鷲塚 伸介[2]
[1]信州大学医学部地域精神医療学講座、[2]信州大学医学部精神医学教室

山梨大学連携施設精神科専門医研修プログラム

T50 山梨大学連携施設 精神科専門医研修プログラムの紹介

○安田 和幸
山梨大学医学部精神神経医学講座

新潟大学精神科専門研修プログラム

T51 新潟大学精神科専門研修プログラムの特色

○渡部 雄一郎[1]、須貝 拓朗[1]、湯川 尊行[2]、小野 信[3]、川嶋 義章[4]、丸山 直樹[5]、西田 牧衛[6]、田中 弘[7]、北村 秀明[8]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学医歯学総合病院精神科、[2]魚沼基幹病院精神科、[3]新潟県立精神医療センター、[4]南浜病院、[5]田宮病院、[6]河渡病院、[7]三島病院、[8]佐潟荘

富山大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T52 富山大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラムについて

○高橋 努、鈴木 道雄
富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座

福井大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T53 福井大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラムのご紹介

○小坂 浩隆[1]、大森 一郎[1]、松村 由紀子[1]、水野 智之[1]、上野 幹二[1]、田中 悠二[1]、武藤 悠平[1]、三崎 真寛[1]、岡田 優[1]、石橋 知明[1]、幅田 加以瑛[1]、福元 進太郎[1]、神谷 拓[1]、森 鉄也[1]、福岡 彩加[1]、森本 武志[2]、鈴木 太[2]、杉山 登志郎[2]
[1]福井大学医学部病態制御医学講座精神医学領域、
[2]福井大学子どものこころの発達研究センター児童青年期こころの専門医育成部門

山梨県立北病院精神科専門研修プログラム

T54 山梨県立北病院精神科専門研修プログラムについて

○志田 博和[1]、渡辺 剛[2]、佐藤 琢也[3]、竹内 啓善[4]、嘉納 明子[1]、三澤 文斉[1]、宮田 量治[1]
[1]山梨県立北病院、[2]山梨県立中央病院、[3]甲府共立病院、[4]慶應義塾大学医学部精神科

北アルプス医療センターあづみ病院精神科専門医研修プログラム

T55 地域精神医療の中核病院としての展開

○古屋 昌宏、村田 志保、鬼頭 恆、中村 伸治、岡田 知徳、雨宮 光太郎、小笠原 紘輔、春原 隆史
北アルプス医療センターあづみ病院

長野県立こころの医療センター駒ヶ根精神科専門医研修プログラム

T56 “ここ駒”研修プログラム

○原田 謙、臼井 裕子
長野県立こころの医療センター駒ヶ根

立川メディカルセンター柏崎厚生病院精神科専門医研修プログラム

T57 **柏崎厚生病院における精神科研修の実際**

○吉濱 淳[1]、赤羽 学爾[1]、野村 健太郎[1]、石黒 裕美[1]、川村 剛[1]、松田 ひろし[1]、坂本 隆行[2]、阿部 亮[3]、恩田 晃[4]、村上 優[5]、井上 猛[6]
[1]立川メディカルセンター柏崎厚生病院精神科、[2]医療法人三交会三交病院精神科、[3]医療法人明生会関病院精神科、[4]恩田クリニック、[5]国立病院機構さいがた医療センター精神科、[6]東京医科大学メンタルヘルス科

浜松医科大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T58 **「やりたい」を「できる」に変える！～浜松医科大学精神科専門医研修プログラム～**

○栗田 大輔、宇佐美 梨奈、市川 太祐、亀野 陽亮、横倉 正倫、和久田 智靖、竹林 淳和、桑原 斉、高貝 就、山末 英典
浜松医科大学精神医学講座

愛知医科大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T59 **愛知医科大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム**

○大島 智弘、覚前 遊、佐治 木萌、郷治 洋子、加藤 悦史、星野 有美、田所 ゆかり、深津 孝英、森 康浩、兼本 浩祐
愛知医科大学病院精神神経科

名古屋大学精神科・児童精神科専門研修プログラム

T60 **名古屋大学精神科・児童精神科専門研修プログラムについて**

○名古屋大学医学部附属病院精神科・親と子どもの心療科
名古屋大学医学部附属病院精神科・親と子どもの心療科

名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野専門医研修プログラム

T61 **真の helping professional を目指そう！名古屋市立大学病院精神科専門医研修プログラム**

○山田 敦朗、奥山 徹、東 英樹、小川 成、内田 恵、中口 智博、鈴木 真佐子、近藤 真前、白石 直、渡辺 孝文、久保田 陽介、井野 敬子、今井 理紗、明智 龍男
名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

藤田医科大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T62 **藤田医科大学 精神科専門医研修プログラム**

○大河内 智、北島 剛司、内藤 宏、岩田 仲生
藤田医科大学精神神経科学

三重大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム

T63 **三重大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム**

○加藤 遼[1]、大久保 瑠璃[1]、岡 知加[2]、山本 佳将[3]、城山 隆[1]、岡田 元宏[1]
[1]三重大学医学部附属病院、[2]三重県立こころの医療センター、[3]独立行政法人国立病院機構榊原病院

奈良県立医科大学精神医療センター連携施設精神科専門医研修プログラム

T64-1 **奈良県立医科大学付属病院 精神医療センターの魅力**

○芳野 浩樹、岸本 年史
奈良県立医科大学精神医学教室

T64-2 **奈良県立医科大学連携施設 精神科専門医研修プログラム**

○鳥塚 通弘
奈良県立医科大学精神医学講座

京都府立医科大学連携施設精神科専門医研修プログラム

T65 **京都府立医科大学専門医研修プログラムの魅力**

○富永 敏行、綾仁 信貴、中前 貴、松岡 照之、飯田 直子、小野 淳子、阿部 能成、加藤 祐佳、上野 大介、成本 迅
京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

滋賀医科大学精神科専門研修プログラム

T66 **滋賀医科大学精神医学講座の紹介**

○吉村 篤[1]、松尾 雅博[1]、眞田 陸[1]、角 幸頼[1]、吉池 卓也[1]、田村 礼華[1]、河村 葵[1]、藤井 彰夫[1]、松田 有史[3]、清水 芳樹[1]、山本 佳樹[1]、上西 祐輝[1]、森田 幸代[2]、角谷 寛[3]、尾関 祐二[1]
[1]滋賀医科大学精神医学講座、[2]滋賀医科大学医学部附属病院腫瘍センター、[3]滋賀医科大学睡眠行動医学講座

大阪医科大学附属病院精神科専門研修プログラム

T67 **大阪医科大学精神科専門医研修プログラムについて**

○木下 真也、金沢 徹文、川野 涼、久保 洋一郎、山内 繁、康 純、米田 博
大阪医科大学精神神経科

大阪市立大学医学部附属病院精神科専門医研修プログラム

T68 **職場のメンタルヘルスから精神科救急まで、児童青年期から老年期まで、総合力のある精神科医育成を目指して**

○宮脇 大、井上 幸紀、岩崎 進一、片上 元素、山内 常生、出口 裕彦、内田 健太郎、原田 朋子、後藤 彩子、宮本 沙緒里
大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

大阪大学神経科精神科での研修システム

T69 **大阪大学神経科精神科での研修システムについて –バランスの取れた精神科医の育成から研究者の養成まで–**

○田上 真次
大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

近畿大学病院精神科専門医研修プログラム

T70 **近畿大学病院精神科専門医研修プログラムの紹介**

○辻井 農亜、柳 雅也、髙屋 雅彦、明石 浩幸、細見 史治、三川 和歌子、池田 真優子、安達 融、阪中 聡一郎、廣瀬 智之、川久保 善宏、矢野 貴詩、平野 愛佳、瀧川 清統、山形 祥礼、土屋 有希、森本 拓頌、丹羽 篤、後藤 雄一朗、和田 照平、白川 治
近畿大学医学部精神神経科学教室

兵庫医科大学精神科神経科学教室専門医研修プログラム

T71 **兵庫医科大学精神科専門医研修プログラムの概要**

○林田 和久[1]、湖海 正尋[1]、山田 恒[1]、清野 仁美[1]、宇和 典子[1]、西井 理恵[1]、前林 憲誠[1]、吉村 知穂[1]、山西 恭輔[1]、向井 馨一郎[1]、宮内 雅弘[1]、松井 徳造[2]、松永 寿人[1]
[1]兵庫医科大学精神科神経科学講座、[2]兵庫医療大学リハビリテーション学部

関西医科大学総合医療センター連携施設精神科専門医研修プログラム

T72 **あなたの知らない関西医科大学精神科と専門医研修プログラム**

○加藤 正樹、吉村 匡史、木下 利彦
関西医科大学精神神経科学講座

大阪市立総合医療センター精神科専門医研修プログラム

T73 **総合病院でこどもからお年寄りまで診れる魅力ある精神科医になる！**

○古塚 大介[1]、飯田 信也[2]、甲斐 利弘[1]、引地 克仁[1]、柳田 誠[2]、松本 慶太[2]、岡本 洋昭[1]、
粥川 朋哉[1]、小林 由実[1]、春原 敦[1]、岩倉 慶裕[2]
[1]大阪市立総合医療センター精神神経科、[2]大阪市立総合医療センター児童青年精神科

大阪精神医療センター未来の精神医学を拓く医師育成プログラム

T74 **大阪精神医療センター Mental Health for All**

○西倉 秀哉
地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター

阪南病院精神科専門医研修プログラム

T75 **阪南病院精神科専門研修の特色と実践**

○横田 伸吾、黒田 健治
医療法人杏和会阪南病院

さわ病院連携プログラム

T76 **さわ病院には、あなたのやりたい医療がある**

○澤 滋
社会医療法人北斗会さわ病院

浅香山病院精神科専門医研修プログラム

T77 **ようこそ浅香山病院へ！浅香山病院 精神科専門医研修プログラムのご紹介（大阪府）**

○谷口 典男、田伏 薫、篠崎 和弘、須藤 良隆、田中 秀樹、釜江 和恵、正木 慶大、眞本 晶子、
石田 剛士、戸井 優樹、小嶋 美希、尾池 芽有、柳川 宗司、更家 由梨、伊藤 久人、
冨岡 幹央、松本 佐知子、嶋 健作、三谷 政利、榎本 良広、田中 義
公益財団法人浅香山病院

京都府立洛南病院精神科専門医研修プログラム

T78-1 **京都府立洛南病院 精神科専門医研修プログラムの特徴と臨床実践（その 1）**

○山下 俊幸、髙橋 加奈子
京都府立洛南病院

T78-2 **京都府立洛南病院 精神科専門医研修プログラムの特徴と臨床実践（その 2）**

○山下 俊幸、髙橋 加奈子
京都府立洛南病院

YMMC 精神科専門医研修プログラム

T79 **国立病院機構 やまと精神医療センターの専門医研修プログラムのご紹介**

○紙野 晃人
国立病院機構やまと精神医療センター

神戸市立医療センター中央市民病院連携施設精神科専門研修プログラム

T80 神戸市立医療センター中央市民病院 –総合病院精神科の取り組みと研修プログラム–

○松石 邦隆[1]、福島 春子[1]、大谷 恭平[1]、宮井 宏之[1]、高橋 年道[1]、桑田 美子[1]、鷗端 洋人[2]、
木田 暁美[2]、花房 由美子[3]
[1]神戸市立医療センター中央市民病院精神・神経科、[2]神戸市立医療センター中央市民病院地域医療推進課、
[3]神戸市立医療センター中央市民病院看護部

社会医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院精神科専門医研修プログラム

T81 クールで暖かい心の医療の専門医養成をめざして～思春期から老年期まで；心理社会治療から核医学検査まで～

○渡辺 憲、英 裕人、山下 陽三、林 真彦、桑井 徹、岸田 英夫、竹内 亜理子、土居 聡子、
村上 敏、井上 郁、王 紅欣、森尾 亜希子、足立 正、野口 壮士、梶谷 直史、三浦 明彦、
岩田 正明、山根 享
社会医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院

雁の巣病院精神科専門医研修プログラム

T82 納得のいく医療の実践

○熊谷 雅之、田島 孝俊、原田 貴史、栗田 晋、長沼 英俊、西間 三修、植家 雄士、豊田 史郎
医療法人優なぎ会雁の巣病院

鳥取大学医学部附属病院精神科専門医研修プログラム

T83 鳥取大学精神科の専門研修プログラム –科学的思考と共感性を併せもつ精神科医の育成–

○山梨 豪彦、岩田 正明、松村 博史、三浦 明彦、板倉 征史、太田 貴士、太田 三恵、
梶谷 直史、松尾 諒一、西口 毅、有馬 和志、吉岡 大祐、朴 盛弘、兼子 幸一
鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

島根大学医学部附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T84 島根大学医学部附属病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

○長濱 道治[1]、河野 公範[1]、佐藤 皓平[1]、伊藤 司[1]、錦織 光[1]、伊豆原 宗人[1]、小池 昌弘[1]、
松田 泰行[1]、三木 啓之[1]、金山 三紗子[1]、三浦 章子[1]、山下 智子[1]、大朏 孝治[1]、林田 麻衣子[1]、
岡崎 四方[1]、橋岡 禎征[1]、和氣 玲[1]、宮岡 剛[1]、稲垣 正俊[1]、堀口 淳[2]
[1]島根大学医学部精神医学講座、[2]島根大学医学部免疫精神神経学共同研究講座

岡山大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T85 岡山大学病院連携施設精神科専門医研修プログラムについて

○川田 清宏
岡山大学病院

川崎医科大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T86 川崎医科大学附属病院精神科専門医研修プログラムの内容、特色

○宮崎 哲治、石原 武士、澤原 光彦、村上 伸治、北村 直也、末光 俊介、和迩 健太、原 正吾、
高橋 優
川崎医科大学精神科学教室

広島大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T87 広島大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラムの紹介

○岡田 剛、岡本 泰昌
広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医科学

山口大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T88 山口大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラムの紹介

○山形 弘隆、松原 敏郎、樋口 文宏、樋口 尚子、原田 健一郎、關 友恵、陳 冲、小林 正明、萩原 康輔、吉田 侑司、山科 貴裕、山田 典宏、橋本 亜希子、藤井 優子、佐藤 裕子、平田 圭子、中川 伸
山口大学医学部附属病院精神科神経科

徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野専門医研修プログラム

T89 徳島大学病院 精神科専門医研修プログラム

○中瀧 理仁[1]、沼田 周助[2]、富永 武男[2]、亀岡 尚美[1]、渡部 真也[2]、大森 哲郎[2]
[1]徳島大学病院精神科神経科、[2]徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学

高知大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T90 高知大学精神科における精神科専門医養成プログラムの紹介 −地方大学における専門医養成と社会的要請

○上村 直人
高知大学医学部精神科

産業医科大学精神科領域専門医研修プログラム

T91 産業医科大学精神科領域専門医研修プログラム

○香月 あすか、新開 隆弘、吉村 玲児
産業医科大学精神医学

九州大学精神科専門医研修プログラム

T92 九州大学精神科における専門研修プログラム

○神庭 重信
九州大学

福岡大学精神科専門医研修プログラム

T93 福岡大学病院 精神神経科 研修プログラム

○衞藤 暢明[1]、大串 祐馬[1]、吉良 健太郎[1,2]、飯田 仁志[1]、原田 康平[1]、永野 健太[1]、箱田 浩介[3]、畑中 聡仁[1]、川嵜 弘詔[1]
[1]福岡大学医学部精神医学教室、[2]医療法人祥風会甘木病院、[3]福岡大学筑紫病院

久留米大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム～臨床から研究まで～

T94 久留米大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム～臨床から研究まで～

○柳本 寛子、大島 勇人、比江嶋 啓至、上松 謙、大江 美佐里、土生川 光成、安元 眞吾、小鳥居 望、内野 俊郎、小路 純央、本岡 大道、内村 直尚
久留米大学医学部神経精神医学講座

大分大学医学部附属病院連携施設群精神科専門医研修プログラム

T95 **大分大学病院・別府医療センター・大分県立精神科病院の三位一体を視野に入れた、民間精神病院との機能的連携プログラム**

○石井 啓義、寺尾 岳
大分大学医学部精神神経医学講座

長崎大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T96 **離島を含む３つの総合病院で時代のニーズに応える精神科医を育成する**

○松坂 雄亮[1]、山口 尚宏[1]、木下 裕久[1]、今村 明[1]、蓬莱 彰士[2]、小田 孝[3]、小澤 寛樹[1]
[1]長崎大学病院精神科神経科、[2]国立病院機構長崎医療センター、[3]長崎県五島中央病院

鹿児島大学病院連携施設精神科専門医研修プログラム

T97 **鹿児島大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム**

○春日井 基文
鹿児島大学病院

福間病院精神科専門医養成プログラム

T98 **恵愛会 福間病院 –精神病者に光と土を**

○井上 雅之、東 和也、今村 徹
医療法人恵愛会福間病院

精神科専門研修プログラム「くまもと」

T99 **九州・くまもと・菊陽病院・精神科研修プログラム紹介**

○尾上 毅、兼氏 史郎、和田 冬樹、藤野 糺
社会医療法人芳和会菊陽病院

宮崎県立宮崎病院精神医療センター精神科領域専門研修プログラム

T100 **蒼い海 日本のひなた 実戦場**

○河野 次郎[1]、並木 薫[1]、直野 久雄[1]、小金丸 剛[1]、中武 大志[1]、古郷 央一郎[1]、猪飼 文音[1]、
直野 慶子[2]
[1]宮崎県立宮崎病院精神医療センター、[2]宮崎県精神保健福祉センター

6月21日（金） A会場（センター 1F 大会場）［展示ホールB］

受賞報告会

8:30～9:30

プレゼンター：九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野　神庭 重信

1. 精神医学奨励賞

司会：群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学　福田 正人

名古屋大学高等研究院・大学院医学系研究科　久島 周

2. 国際学会発表賞

司会：奈良県立医科大学医学部精神科　岸本 年史

・個人発表部門

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所　久保田 学
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室　黒川 駿哉
昭和大学発達障害医療研究所　藤野 純也
京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室　藤本 岳
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室　吉田 和生

・シンポジウム組織発表部門

三重県立こころの医療センター、奈良県立医科大学精神医学教室　長 徹二

3. フォリア賞

司会：慶應義塾大学精神神経科学教室　三村 將

桶狭間病院藤田こころケアセンター　宮田 明美
名古屋大学医学部附属病院精神科　岩本 邦弘

4. PCN Reviewer Awards

司会：慶應義塾大学精神神経科学教室　三村 將

関西医科大学精神神経科学教室　池田 俊一郎
市立芦屋病院緩和ケア内科　石井 良平
駅前メンタルクリニック　岩脇 淳
名古屋大学医学部附属病院精神科　山内 彩
順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学　馬場 元
埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科　松尾 幸治
東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻精神保健学分野　西 大輔

9:40～11:40 シンポジウム 33

日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッション

ポジティブ精神医学の産業メンタルヘルスへの活用

司会：**大野 裕**　国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
三村 將　慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S33-1 **ポジティブ精神医学的視点が企業や地域にもたらすもの**
○佐久間 啓
社会医療法人あさかホスピタル

S33-2 **ポジティブ精神医学を活用した産業界におけるメンタルヘルス向上**
○須賀 英道
龍谷大学短期大学部

S33-3 **職場における対人関係からみたポジティブ視点**
○岡 敬
特定医療法人十全会十全病院精神科

S33-4 **企業におけるメンタルヘルスプロモーションの現状と健康経営におけるポジティブメンタルヘルス**
○奥山 真司[1,2]
[1]トヨタ自動車株式会社人事部、[2]TRI-AD

〈コーディネーター〉 佐久間 啓　社会医療法人あさかホスピタル
須賀 英道　龍谷大学短期大学部

11:50～13:50 シンポジウム 42

ASD と ADHD の臨床的特徴と鑑別診断

司会：**岩波 明**　昭和大学医学部精神医学講座
柏 淳　ハートクリニック横浜

S42-1 **小児期の ASD と ADHD の臨床的特徴と鑑別診断**
○横山 富士男
埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

S42-2 **ASD と ADHD の生物学的指標と鑑別診断**
○岩波 明
昭和大学医学部精神医学講座

S42-3 **ASD と ADHD：併存を再考する**
○柏 淳
医療法人社団ハートクリニックハートクリニック横浜診療部

S42-4 **ASD・ADHD を予測する特徴はなにか？それはいつ観察されるか？**
○土屋 賢治[1,3]、高貝 就[2,3]
[1]浜松医科大学子どものこころの発達研究センター、[2]浜松医科大学児童青年期精神医学講座、
[3]大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科

〈コーディネーター〉 岩波 明　昭和大学医学部精神医学講座

14:10〜16:10 会長企画シンポジウム２
統合失調症患者の生命と健康を守るための新たなる視点

司会：**染矢 俊幸**　新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
松田 ひろし　医療法人立川メディカルセンター柏崎厚生病院

PS2-1　**統合失調症患者の低体重リスクについて**
○須貝 拓朗
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

PS2-2　**統合失調症の罹患者における糖脂質代謝異常の予防にむけて**
○菅原 典夫
獨協医科大学精神神経医学講座

PS2-3　**チーム医療で取り組む身体合併症対策と予防：栄養士の立場から**
○井戸 由美子
大阪梅花大学

PS2-4　**新潟大学における抗精神病薬使用にともなう身体的副作用研究の歩み**
○鈴木 雄太郎
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

〈コーディネーター〉 染矢 俊幸　新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
須貝 拓朗　新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

16:20〜18:20 シンポジウム51
日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッション
昨今の産業衛生のトピックスとメンタルヘルス的視点

司会：**工藤 喬**　大阪大学キャンパスライフ健康支援センター精神科
渡辺 洋一郎　横山・渡辺クリニック

S51-1　**「働き方改革」における精神科産業医の役割と課題**
○小山 文彦
東邦大学医療センター佐倉病院産業精神保健・職場復帰支援センター

S51-2　**健康経営に関する精神科医の役割**
○田中 克俊
北里大学大学院医療系研究科医学専攻産業精神保健学

S51-3　**「障害者就労」における精神科産業医の役割と課題**
○神山 昭男
医療法人社団桜メデイスン有楽町桜クリニック

S51-4　**「労災医療」における主治医と精神科産業医の役割と課題**
○黒木 宣夫[1,2]、桂川 修一[2]
[1]勝田台メディカルクリニック、[2]東邦大学医療センター佐倉病院精神神経医学研究室

〈コーディネーター〉 工藤 喬　大阪大学キャンパスライフ健康支援センター精神科

6月21日（金） B会場（センター 1F 中会場）［展示ホールA-1］

8:30～9:30 一般演題（口演）26
依存・行動嗜癖 1

司会：**樋口 進** 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

2-026-1 **発達障害の視点より治療し、著効を奏した初診“依存症”者 77 名の治療経験**
○大塚 明彦、森本 志保
大塚クリニック

2-026-2 **がんサバイバー患者のオピオイド鎮痛薬依存問題**
○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

2-026-3 **やめさせようとしない依存症治療の提案**
○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

2-026-4 **物質使用障害患者における通院中断への影響因 –初診 3 年後の通院継続状況から–**
○板橋 登子、小林 桜児、黒澤 文貴、福生 泰久、吉松 尚彦、西村 康平
神奈川県立精神医療センター

2-026-5 **抗精神病薬にて精神病症状が改善しなかった覚醒剤精神病にてメマンチンが奏功した一例**
○大野 友梨香、稲田 健、河野 敬明、堤 多可弘、林 安奈、安楽 勇太、山元 健太郎、西村 勝治
東京女子医科大学病院神経精神科

9:30～10:30 一般演題（口演）39
薬物療法 1

司会：**稲田 俊也** 名古屋大学大学院医学系研究科精神生物学分野

2-039-1 **2 型糖尿病を合併した治療抵抗性統合失調症にクロザピンを用いた 1 例**
○湯川 尊行[1]、小原 伸雅[2]、新藤 雅延[1,3]、井上 絵美子[1]、有波 浩[1,4]、恩田 啓伍[1]、渡部 雄一郎[1,4]、染矢 俊幸[4]
[1]魚沼基幹病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター内分泌・代謝内科、
[3]新潟市民病院精神科、[4]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

2-039-2 **クロザピン血中濃度が 1000ng/ml 以上の高値を示した治療抵抗性統合失調症の症例群の検討**
○木田 直也[1]、村上 優[2]、大鶴 卓[1]、久保 彩子[1]、吉田 和史[1]、石橋 孝勇[1]、中原 辰雄[3]、橋本 喜次郎[3]
[1]国立病院機構琉球病院精神科、[2]独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター、
[3]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

2-039-3 **慢性疼痛にデュロキセチンを処方され躁転した双極性障害の 1 例**
○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

2-039-4 **炭酸リチウム投与後、コミュニケーションおよび行動の柔軟性の改善を認めた自閉スペクトラム症の 1 例**
○菊地 佑、角田 智哉、横山 昇
福島県立矢吹病院精神科

2-039-5 **ADHD に対してグアンファシンを用いた薬物療法の臨床経験**

○山崎 知克[1]、中泉 享子[1,2]、岩城 貴美枝[1,2,3]、杉山 登志郎[1,2,4]
[1]浜松市子どものこころの診療所精神科、[2]浜松医科大学医学部附属病院精神神経科、[3]医療法人好生会三方原病院、[4]福井大学医学部附属病院

10:40～12:40 シンポジウム 34
あなたにもできる神経化学研究

司会：**工藤 喬**　大阪大学キャンパスライフ健康支援センター精神科
岸本 年史　奈良県立医科大学精神医療センター

S34-1 **幹細胞と遺伝子改変霊長類技術を用いた精神・神経疾患研究**

○岡野 栄之
慶應義塾大学医学部

S34-2 **ゲノム編集技術の基本原理と医学研究での可能性**

○山本 卓
広島大学

S34-3 **希少難病治療に向けた神経化学的アプローチ**

○今泉 和則
広島大学大学院医歯薬保健学研究科分子細胞情報学

S34-4 **中枢神経由来 EVs の精神神経疾患研究への応用**

○工藤 喬
大阪大学キャンパスライフ健康支援センター精神科

〈コーディネーター〉 工藤 喬　大阪大学キャンパスライフ健康支援センター精神科

13:50～15:50 シンポジウム 43
精神医学における価値の諸相

司会：**村井 俊哉**　京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座（精神医学）

S43-1 **医療実践における価値負荷性**

○植野 仙経
京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室

S43-2 **精神疾患概念における生物学的価値と社会的価値**

○榊原 英輔
東京大学医学部附属病院精神神経科

S43-3 **精神医学における医学的問題と社会的問題の線引き**

○鈴木 貴之
東京大学大学院総合文化研究科

S43-4 **価値中立的な「心の健康」の定義は可能か？ −メンタルヘルス基礎論の観点から**

○田所 重紀
室蘭工業大学保健管理センター

S43-5 **精神疾患と価値の相対的普遍性**

○信原 幸弘
東京大学大学院総合文化研究科

〈コーディネーター〉 榊原 英輔　　東京大学医学部附属病院精神神経科

6月21日（金） C会場（センター 1F 中会場）［展示ホールA-2］

8:30〜9:30 一般演題（口演）27
依存・行動嗜癖 2

司会：**惠紙 英昭** 久留米大学医療センター 先進漢方治療センター

2-027-1 **依存症入院患者の知的機能と退院後治療経過 –知能検査と退院後の自助グループ参加、断酒断薬継続との関連**
○板橋 登子、小林 桜児、黒澤 文貴、福生 泰久、吉松 尚彦、西村 康平
神奈川県立精神医療センター

2-027-2 **依存症専門外来における若年向精神薬使用障害患者の臨床的特徴**
○西村 康平、板橋 登子、福生 泰久、吉松 尚彦、黒澤 文貴、小林 桜児
神奈川県立精神医療センター

2-027-3 **反復する自傷行為に対し嗜癖の観点からの治療介入が有効であった 1 例**
○福田 周一、河合 徹郎、松本 健二、塩田 勝利、小林 聡幸、須田 史朗
自治医科大学精神医学教室

2-027-4 **スマートドラッグ問題が示すこと〜これからの薬物問題の行方について〜**
○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

2-027-5 **慢性疼痛患者のオピオイド鎮痛薬依存問題**
○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

9:30〜10:30 一般演題（口演）40
薬物療法 2

司会：**紫藤 昌彦** 紫藤クリニック

2-040-1 **ベンゾジアゼピン系睡眠薬の適正化に向けた取り組み〜病棟消灯時刻の変更と薬剤師のかかわり〜**
○飯塚 大祐[1]、松田 公子[1]、加瀬 浩二[1]、原 広一郎[2,3]、儘田 孝[2,3]、浅井 禎之[2,3]
[1]医療法人静和会浅井病院薬剤部、[2]医療法人静和会浅井病院精神科、[3]浅井病院研究所

2-040-2 **NDB オープンデータを活用した我が国における高齢者に対する抗うつ薬の使用実態**
○菊地 信示郎、吉村 健佑
千葉大学医学部付属病院

2-040-3 **Mianserin から Mirtazapine への置換中にセロトニン症候群が生じた一例**
○黒鳥 偉作[1]、橋本 直樹[1]、石川 修平[2]、成田 尚[1]、久住 一郎[1]
[1]北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室、[2]北海道大学病院薬剤部

2-040-4 **緊張病性昏迷を呈した統合失調症の二症例の臨床的検討**
○内野 英幸、渡辺 啓一
医療法人芳州会村井病院精神科

2-040-5 **強迫性障害におけるブレクスピプラゾールの臨床効果**
○西崎 真紀
まきメンタルクリニック

10:40～12:40 日本精神神経学会と日本神経科学学会との連携シンポジウム
精神疾患の新しい理解と支援に寄与する最先端神経科学

司会：**柚崎 通介**　慶應義塾大学生理学教室
笠井 清登　東京大学大学院医学系研究科精神医学分野

RS-1 **脳の細胞構築に注目して精神疾患の病態を理解する試みについて**
○久保 健一郎
慶應義塾大学医学部解剖学

RS-2 **意欲の神経基盤**
○田中 謙二
慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

RS-3 **日常臨床から着想した研究へ適応できる新規手法**
○田宗 秀隆[1,2]
[1]東京大学大学院医学系研究科、[2]東京都立多摩総合医療センター

RS-4 **精神病態シナプスパソロジーの多階層理解**
○林（高木）朗子
群馬大学生体調節研究所・脳病態制御分野

RS-5 **情動・認知学習の神経回路機構の研究から疾患横断的な精神疾患病態を考える**
○疋田 貴俊
大阪大学蛋白質研究所

〈コーディネーター〉 神庭 重信　九州大学
柚崎 通介　慶應義塾大学生理学教室
笠井 清登　東京大学大学院医学系研究科精神医学分野

13:50～15:50 シンポジウム 44
向精神薬と自動車運転等の注意喚起 –実臨床での課題とエビデンス、そして考えるべきこと–

司会：**松尾 幸治**　埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
中林 哲夫　独立行政法人医薬品医療機器総合機構

S44-1 **向精神薬が自動車運転に及ぼす影響 –自動車運転試験の現状–**
○岩本 邦弘
名古屋大学医学部附属病院精神科

S44-2 **実臨床における向精神薬と自動車運転の課題 –何に着目すればよいか？–**
○松尾 幸治
埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

S44-3 **向精神薬と自動車運転等の注意喚起 –実臨床での課題とエビデンス、そして考えるべきこと–**
○田中 完
日本製鉄株式会社鹿島製鉄所

S44-4 **向精神薬と自動車運転に係る法的課題**
○木ノ元 直樹
木ノ元総合法律事務所

S44-5 **医薬品の自動車運転に及ぼす影響の評価方法と今後に必要なエビデンス**

○中林 哲夫
独）医薬品医療機器総合機構

〈コーディネーター〉 松尾 幸治　埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
中林 哲夫　独立行政法人医薬品医療機器総合機構
岩本 邦弘　名古屋大学大学院医学系研究科発達老年精神医学分野

16:00〜18:00 委員会シンポジウム 16（司法精神医学委員会）
刑事責任能力鑑定の方法 –裁判員裁判における私の実践

司会：**米田 博**　大阪医科大学神経精神医学教室
黒田 治　東京都立松沢病院

CS16-1 **裁判員裁判を契機とした刑事責任能力鑑定の変化**

○五十嵐 禎人
千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門

CS16-2 **裁判員裁判の影響を検証する –精神鑑定の精神医学的価値を損なわないために**

○田口 寿子
神奈川県立病院機構神奈川県立精神医療センター

CS16-3 **裁判員裁判制度の功＜罪**

○村松 太郎
慶應義塾大学医学部精神神経科

CS16-4 **裁判員裁判を全ての訴訟関係者に有意義なものにするために**

○吉岡 眞吾
独立行政法人国立病院機構東尾張病院

〈コーディネーター〉 五十嵐 禎人　千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門

6月21日（金） D会場（センター 2F 中会場）［メインホールA］

8:30～9:30 一般演題（口演）28
認知症 3

司会：**鈴木 雄太郎** 医療法人敬愛会末広橋病院

2-028-1 **幻覚妄想状態で急性発症し、術後せん妄との鑑別を要した Probable DLB の一例**
○河野 靖世[1,2]、松井 仁美[1,2]、大矢 雅樹[1,2]、長谷川 裕美[1,2]、筒井 卓実[2]、古田 光[1,2]、竹内 崇[1]、車地 暁生[1]
[1]東京医科歯科大学医学部附属病院精神科、[2]東京都健康長寿医療センター

2-028-2 **著しい拒食および拒薬を呈したレビー小体型認知症にリバスチグミンが著効した 1 例**
○大野 真[1,2]、木村 大樹[1]、尾崎 紀夫[1]
[1]名古屋大学附属病院/名古屋大学医学部精神科、[2]医療法人交正会精治寮病院

2-028-3 **糖尿病を合併しているレビー小体型認知症の幻覚にアセナピンが著効した一例**
○伊佐治 千明[1,2]、松井 仁美[1,2]、橋本 彩[2,3]、大矢 雅樹[1,2]、長谷川 裕美[1,2]、筒井 卓実[1]、古田 光[1,2]
[1]東京都健康長寿医療センター精神科、[2]東京医科歯科大学医学部附属病院精神科、
[3]東京都保健医療公社豊島病院精神科

2-028-4 **運転免許失効後に交通事故を起こし、同乗家族の運転免許取り消し処分に至ったアルツハイマー型認知症の一例**
○志村 容子、森 康治、鈴木 由希子、松本 拓也、岩瀬 真生、吉山 顕次、池田 学
大阪大学医学部附属病院神経精神科

2-028-5 **認知症病棟入院患者と退院先決定因子についての検討**
○長塚 雄大、川合 秀明、佐藤 諒太郎、岩見 有里子、山田 真理、染村 宏法、長谷川 千種、田中 宏明、常岡 俊昭、岩波 明
昭和大学附属烏山病院精神科

9:35～10:35 教育講演 9

司会：**五十嵐 禎人** 千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門

EL9 **刑事精神鑑定の基礎**
○岡田 幸之
国立大学法人東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野

10:40～11:40 教育講演 10

司会：**松田 ひろし** 柏崎厚生病院

EL10 **精神医学における生物・心理・社会モデルと多元主義**
○村井 俊哉
京都大学大学院医学研究科精神医学教室

11:45～12:45 教育講演 11

司会：**松本 英夫**　東海大学医学部専門診療学系精神科学

EL11 **児童・思春期精神障害を理解するための３要因 –アタッチメント、虐待、そして発達障害–**

○齊藤 万比古
恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科

13:50～14:50 教育講演 12

司会：**伊藤 洋**　東京慈恵会医科大学葛飾医療センター

EL12 **精神疾患における睡眠障害の治療戦略**

○内山 真
日本大学医学部精神医学系

14:55～15:55 教育講演 13

司会：**松本 晃明**　静岡市こころの健康センター

EL13 **認知行動療法 –過去、現在、未来、その先へ–**

○中川 敦夫
慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教育研修部門

16:00～17:00 教育講演 14

司会：**髙橋 英彦**　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学

EL14 **精神・神経疾患の脳内回路と分子の可視化**

○須原 哲也
量子科学技術研究開発機構

17:05～18:05 教育講演 15

司会：**村井 俊哉**　京都大学大学院医学研究科・脳病態生理学講座（精神医学）

EL15 **精神科臨床に役立つ神経心理学の知識**

○三村 將
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

6月21日（金） E会場（センター 2F 中会場）［メインホールB］

8:30～9:30 一般演題（口演）29
依存・行動嗜癖 3

司会：**上野 修一** 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学

2-029-1 **依存症専門外来・病棟で自傷としての瀉血をおこなう 8 症例の臨床的特徴**
○西村 康平、板橋 登子、福生 泰久、吉松 尚彦、黒澤 文貴、森脇 久視、小林 桜児
神奈川県立精神医療センター

2-029-2 **プレイ間隔の不均一性による問題ギャンブリング行動の分析と予測**
○篠崎 元[1]、鈴木 浩子[2]、渡部 勇[2]
[1]University of Iowa Department of Psychiatry、[2]富士通研究所

2-029-3 **精神科救急病棟における物質使用障害への短期介入ツール開発の試み**
○井上 翔、花岡 晋平、増野 幸子、濵地 典夫、廣瀬 祐紀、深見 悟郎、平田 豊明
日下部記念病院精神科

2-029-4 **アルコール依存症の抑止要因としての広場恐怖・パニック障害：非活性型 2 型アルデヒド脱水素酵素に注目して**
○伊藤 満、米本 朋子、上野 文彦、湯本 洋介、岩原 千絵、中山 秀紀、真栄里 仁、木村 充、
松下 幸生、樋口 進
独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

2-029-5 **自己治療仮説と信頼障害仮説に基づいた新しい依存症診療部門の設立と現状 依存症なんでも診療します**
佐久間 寛之[1]、福田 貴博[2]、野村 憲一[1]、野村 照幸[1]、村山 裕子[1]、○二ノ宮 彩乃[1]、佐藤 暁[1]、
村上 優[1]
[1]独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター、[2]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

9:30～10:30 一般演題（口演）41
薬物療法 3

司会：**松永 寿人** 兵庫医科大学精神科神経科学講座

2-041-1 **うつ病・うつ状態患者に対する aripiprazole 増強療法の有効性・安全性についての検討 −1103 例の解析結果−**
○上島 国利[1]、安田 守良[2]、山村 佳代[2]、福田 泰彦[2]
[1]昭和大学、[2]大塚製薬株式会社

2-041-2 **慢性期統合失調症の幻聴に対するブロナンセリンの有用性と単剤化への試みおよび単剤化 10 年後の継続率の検討**
○西本 雅彦[1]、石垣 達也[2]、小山 雄史[2]、三浦 賢吾[1]、冨山 恵一郎[1]、若田部 博文[3]、黒岩 隆[1]
[1]医療法人社団青木末次郎記念会相州病院、[2]一般財団法人聖マリアンナ会東横恵愛病院、
[3]医療法人社団青木末次郎記念会あいかわ心療クリニック

2-041-3 **児童・青年期患者における向精神薬と QT 間隔の関連**
○折目 直樹[1,2]、鈴木 雄太郎[1,3]、杉本 篤言[1,2]、須貝 拓朗[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学研究科精神医学分野、[2]新潟県立精神医療センター、[3]医療法人敬愛会末広橋病院

2-041-4 **児童・青年期患者における向精神薬と安静時心拍数の関連**
○折目 直樹[1,2]、鈴木 雄太郎[1,3]、杉本 篤言[1,2]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学研究科精神医学分野、[2]新潟県立精神医療センター、[3]医療法人敬愛会末広橋病院

2-041-5 **精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究(EGUIDE プロジェクト)参加施設の評価**

○飯田 仁志[1]、伊賀 淳一[2]、越智 紳一郎[2]、安田 由華[3]、山本 智也[4]、稲田 健[5]、渡邊 衡一郎[6]、
橋本 亮太[7,8]、川嵜 弘詔[1]
[1]福岡大学医学部精神医学教室、[2]愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座、
[3]生きる・育む・輝くメンタルクリニック、[4]大阪大学医学部附属病院薬剤部、
[5]東京女子医科大学医学部精神医学講座、[6]杏林大学医学部精神神経科学教室、
[7]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、[8]大阪大学

10:40～12:40 シンポジウム 35
精神科領域における Shared Decision Making（SDM）の実現可能性

司会：**渡邊 衡一郎**　杏林大学医学部精神神経科学教室
藤井 千代　杏林大学医学部精神神経科学教室

S35-1 **精神科領域における Shared Decision Making（SDM）の実現可能性**

○渡邊 衡一郎
杏林大学医学部精神神経科学教室

S35-2 **ピアサポーターと協働するリカバリー志向型共同意思決定システムの効果：無作為化比較試験**

○山口 創生[1]、種田 綾乃[2]、松長 麻美[1]、伊藤 順一郎[3]
[1]国立・精神神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部、
[2]神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部、[3]メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ

S35-3 **統合失調症初回入院患者に対する SDM の実施可能性 –救急入院料病棟における無作為化比較試験–**

○石井 美緒[1]、奥村 泰之[2]、杉山 直也[3]
[1]公立大学法人横浜市立大学附属病院精神科、[2]公益財団法人東京都医学総合研究所、
[3]公益財団法人復康会沼津中央病院

S35-4 **気分障害を対象としたホームワーク式 Shared Decision-Making**

○青木 裕見
聖路加国際大学大学院看護学研究科

S35-5 **SDM の現状の課題と今後の普及に向けての展望**

○高江洲 義和
杏林大学精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 渡邊 衡一郎　杏林大学医学部精神神経科学教室

13:50～15:50 シンポジウム 45
平成 30 年度診療報酬改定後のベンゾジアゼピン系睡眠薬の減量

司会：**小曽根 基裕**　久留米大学医学部神経精神医学講座
三島 和夫　秋田大学医学部付属病院

S45-1 **診療報酬改定の経緯と今後の課題**

○三島 和夫
秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

S45-2 **大腿骨近位部骨折患者におけるポリファーマシーの現状と、高齢医学科との連携による処方適正化への取り組み**

○大黒 正志[1]、萩行 正博[2]、東川 俊寛[1]、犬嶋 博美[2]、重本 顕史[2]、澤口 毅[2]
[1]金沢医科大学高齢医学、[2]富山市民病院

S45-3 **ウェルビーイング手法による睡眠薬減量**

○須賀 英道
龍谷大学短期大学部

S45-4 **睡眠薬減量の動機づけ動画作成の試み**

○天谷 美里[1]、小曽根 基裕[2]
[1]東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科、[2]久留米大学医学部神経精神医学講座

S45-5 **全科共通の睡眠薬標準指示施行が転倒の事象に与える影響**

○小鳥居 望[1]、横山 晋二[2]、橋田 竜騎[3]、北野 登美子[2]、川野 佐由里[2]、岩越 有美[2]、古賀 和子[2]、新山 修平[2]、田中 芳明[2]、内村 直尚[1]
[1]久留米大学医学部神経精神医学講座、[2]久留米大学病院医療安全管理部、[3]久留米大学病院リハビリテーション部

〈コーディネーター〉 小曽根 基裕　久留米大学医学部神経精神医学講座

16:00～18:00 委員会シンポジウム 17（男女共同参画推進委員会）
母乳と授乳の精神医学

司会：**加茂 登志子**　若松町こころとひふのクリニック
　　早苗 麻子　萌クリニック

CS17-1 **授乳と母親-乳児関係：相互作用と心的発達の視点から**

○松木 邦裕
ちはやACTクリニック診療部

CS17-2 **母乳をめぐる歴史と文化**

○松岡 悦子
奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター協力研究員

CS17-3 **母乳・授乳にまつわる幻想とリアル**

○上別府 圭子
東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野

CS17-4 **ほ乳類に共通する、子の親への愛着の行動神経メカニズム**

○黒田 公美
理化学研究所脳神経科学研究センター

CS17-5 **〔指定発言〕**

○池淵 恵美
帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

〈コーディネーター〉 加茂 登志子　若松町こころとひふのクリニック
　　早苗 麻子　萌クリニック

6月21日（金） F会場（センター 2F 小会場）［中会議室201］

8:30〜9:30 一般演題（口演）30
ECT・ニューロモデュレーション

司会：**松尾 幸治** 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

2-030-1 電気けいれん療法において、カフェインが発作誘発の増強療法として有効であった 1 例

○中村 博大[1,2]、塩田 勝利[1]、高山 剛[1,2]、須田 史朗[1]
[1]自治医科大学精神医学教室、[2]上都賀総合病院精神科

2-030-2 クロザピン中止によるカタトニアと重篤なイレウスに、電気けいれん療法が奏功した難治性統合失調症の 1 例

○山田 裕士[1]、藤原 雅樹[1]、松井 友紀子[1]、流王 雄太[1]、酒本 真次[1]、川田 清宏[1]、髙木 学[1]、山田 了士[2]
[1]岡山大学病院精神科神経科、[2]岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学

2-030-3 電気けいれん療法の通電直後にたこつぼ型心筋症を発症した老年期女性：症例報告

○幅田 加以瑛、大森 一郎、上野 幹二、小坂 浩隆
福井大学医学部精神医学

2-030-4 うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）：当院における 2 症例報告

○山﨑 龍一、松田 勇紀、小高 文聰、鬼頭 伸輔、繁田 雅弘
東京慈恵会医科大学精神医学講座

2-030-5 超短パルス波刺激による右片側性電気けいれん療法の有効性および忍容性

○山下 慶一、安田 和幸、有賀 祐、上田 哲也、小林 慶太、鈴木 健文
山梨大学医学部附属病院精神神経医学・臨床倫理学講座

9:30〜10:30 一般演題（口演）42
分子遺伝・動物モデル

司会：**入谷 修司** 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学

2-042-1 IL-18 の欠損状態がうつ病など精神症状発現に及ぼす影響について〜神経再生と Epigenetics な視点から〜

○山西 恭輔[1]、土江 伸誉[2]、橋本 卓也[1]、井窪 薫[1]、向井 馨一郎[1]、李 文[3]、渡辺 優子[4]、宇和 典子[1]、山西 博道[4]、岡村 春樹[3]、松永 寿人[1]
[1]兵庫医科大学精神科神経科学講座、[2]兵庫医療大学、[3]兵庫医科大学腫瘍免疫制御学、[4]社会福祉法人枚方療育園

2-042-2 マカクザルにおける心の理論の検討および内側前頭前野の不活性化によるその関連性について

○林 剛丞[1,2]、江川 純[1]、川嵜 圭祐[3]、秋川 諒太[4]、長谷川 功[3]、飯島 淳彦[4]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟県立精神医療センター、
[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科神経生理学分野、[4]新潟大学工学部工学科

2-042-3 腸内細菌叢の相違による宿主行動特性への影響：神経発達症を見据えて

○渡邉 己弦[1]、三上 克央[1]、西野 良[2]、木本 啓太郎[1]、相場 勇志[1]、山本 賢司[1]、松本 英夫[1]
[1]東海大学医学部専門診療学系精神科学、[2]新潟大学医歯学総合病院臨床研究推進センター

2-042-4 **統合失調症患者の脳内ゲノムにおけるコピー数変異の評価**

○坂井 美和子[1,2]、渡部 雄一郎[1]、染矢 俊幸[1]、荒木 一明[2]、澁谷 雅子[1]、新里 和弘[3]、大島 健一[3]、
國井 泰人[4]、矢部 博興[4]、松本 純弥[4]、和田 明[4]、日野 瑞城[4]、橋本 健志[5]、菱本 明豊[5]、
北村 登[5]、入谷 修司[3,6]、白川 治[5,7]、前田 潔[5,8]、宮下 哲典[9]、丹羽 真一[4]、高橋 均[10]、柿田 明美[10]、
桑野 良三[9]、那波 宏之[2]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟大学脳研究所分子神経生物学分野、[3]東京都立松沢病院、
[4]福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、[5]神戸大学大学院医学研究科精神医学分野、
[6]名古屋大学大学院精神医療学、[7]近畿大学医学部精神神経科学教室、[8]神戸学院大学社会リハビリテーション学科、
[9]新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野、[10]新潟大学脳研究所病理学分野

2-042-5 **双極性障害・反復性うつ病多発家系の強い遺伝要因の探索**

○髙松 岳矢[1,2]、柳 久美子[4]、小金渕 佳江[3]、李 俊錫[1]、原田 綾乃[1]、伊佐 睦美[3]、服部 功太郎[5,6]、
早川 朋子[7]、原（宮内）央子[8]、馬目 陽子[8]、長谷川 実奈美[8]、岡野 ジェイムス洋尚[8]、功刀 浩[5]、
近藤 毅[2]、木村 亮介[3]、要 匡[4]、松下 正之[1]
[1]琉球大学大学院医学研究科分子・細胞生理学講座、[2]琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座、
[3]琉球大学大学院医学研究科人体解剖学講座、[4]国立成育医療研究センターゲノム医療研究部、
[5]国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾患研究第三部、
[6]国立精神・神経医療研究センターメディカル・ゲノムセンターバイオリソース部、[7]自治医科大学臨床薬理学講座、
[8]東京慈恵会医科大学再生医学研究部

10:40～12:20 ワークショップ５（PCN 編集委員会）
アクセプトされる精神医学研究論文の書き方

司会：**加藤 忠史**　理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム
神庭 重信　九州大学

WS5

〈講演者〉	神庭 重信	九州大学
	鈴木 道雄	富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学教室
	加藤 忠史	理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム
	髙橋 英彦	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学
	橋本 亮太	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
〈コーディネーター〉	加藤 忠史	理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム

13:50～15:50 シンポジウム 46
発達障害の連続・不連続とそれを踏まえた薬物療法について

司会：**齊藤 卓弥**　北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門
飯田 順三　奈良県立医科大学医学部看護学科

S46-1 **発達障害の連続・不連続について –注意欠如・多動症を中心に**

○岡田 俊
名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科

S46-2 **薬物療法における子どもと大人の異同について**

○辻井 農亜
近畿大学医学部精神神経科学教室

S46-3 **発達障害に対する薬物療法の適応とモニタリング**

○宇佐美 政英
国立国際医療研究センター国府台病院

S46-4 **発達障害における薬物療法の中止時期についての検討**

◯齊藤 卓弥
北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門

〈コーディネーター〉 齊藤 卓弥　北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門
飯田 順三　奈良県立医科大学医学部看護学科

16:00～18:00 委員会シンポジウム 18（精神保健福祉法委員会）
精神科医療における身体拘束の現状と課題

司会：**太田 順一郎**　岡山市こころの健康センター
岡崎 伸郎　独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

CS18-1 **精神病床での身体的拘束の法的特性と視点の整理**

◯山之内 芳雄
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神医療政策研究部

CS18-2 **我が国の精神科医療における隔離・身体拘束の問題点**

◯長谷川 利夫
杏林大学

CS18-3 **精神医療における身体的拘束・・・人権からの考察**

◯東 奈央
つぐみ法律事務所

CS18-4 **山梨県立北病院における身体拘束**

◯三澤 史斉
山梨県立北病院

〈コーディネーター〉 太田 順一郎　岡山市こころの健康センター
岡崎 伸郎　独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

6月21日（金） G会場（センター 3F 小会場）［中会議室301B］

8:30～9:30 一般演題（口演）31
ECT 関連・神経画像

司会：**内村 直尚** 久留米大学医学部神経精神医学講座

2-031-1 **慢性・難治例における反復経頭蓋磁気刺激法（rTMS）の治療的試み**

○田村 悠、宮本 礼子、神川 道穂、岡部 強、倉田 孝一
社会医療法人財団松原愛育会松原病院精神科

2-031-2 **電気痙攣療法（ECT）にて治療閾値の上昇を示す症例に対する合理的治療法**

○田中 康平、藤井 康男、宮田 量治
地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院診療部

2-031-3 **自殺リスクの高いうつ病患者における安静時機能的結合の特徴**

○石川 和宏[1]、根本 清貴[2]、臼庭 等[3]、山田 典子[3]、矢口 知絵[3]、白鳥 裕貴[2]、袖山 紀子[3,4]、太刀川 弘和[2]、堀 孝文[3]
[1]医療法人社団八峰会池田病院、[2]筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学、[3]茨城県立こころの医療センター、[4]筑波大学医学医療系臨床医学域地域・災害精神支援学

2-031-4 **Polymicrogyria（多小脳回症）を合併した血管型エーラス・ダンロス症候群の一例**

○塩江 遼太[1]、武藤 貴弘[1]、中野谷 貴子[1,2]、治徳 大介[1,2]、車地 暁生[1,2]、西川 徹[1,2]
[1]東京医科歯科大学医学部附属病院精神科、[2]東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野

2-031-5 **体外授精を用いて妊娠し、経過中に橋中心髄鞘崩壊症の画像所見を呈した回避・制限性食物摂取症の妊婦の症例**

○竹田 和弘[1,2]、徳倉 達也[1]、内藤 顕人[1]、尾崎 紀夫[1]
[1]名古屋大学医学部附属病院精神科・親と子どもの心療科、[2]特定医療法人八誠会もりやま総合心療病院

9:30～10:30 一般演題（口演）43
児童・思春期、発達障害 3

司会：**松本 英夫** 東海大学医学部専門診療学系精神科学

2-043-1 **成人発達障害者の他者への信頼感の研究**

○横山 太範
医療法人社団心劇会さっぽろ駅前クリニック北海道リワークプラザ

2-043-2 **自閉症スペクトラム障害（ASD）の就労を含む日常生活を維持するための診療**

○奈良 康
奈良心療クリニック精神科

2-043-3 **言語聴覚士と共に立ち上げた発達障害児対象のクリニック～1 年間のまとめ～**

○鈴木 啓子、木伏 結、赤坂 麻衣子、木村 智恵子、清野 由夏、阿部 あつ子、奥山 園子、長谷川 賢一
医療法人社団百合樹会かさはらLクリニック

2-043-4 **精神科病院における強度行動障害入院例（第 2 報）–行動療法と重度訪問介護による入院治療の可能性–**

○安藤 直也[1]、小山 千恵[1]、渡辺 宰子[1]、米村 千恵子[1]、佐藤 聖[1]、中村 恵子[1]、田口 祥子[1]、芳賀 彩織[1]、土屋 麻里奈[1]、長坂 晃人[1]、依田 真一[1]、飯島 尚高[2]、野口 直樹[3]、樋端 佑樹[4,5]、遠藤 謙二[1]
[1]医療法人友愛会千曲荘病院、[2]特定非営利活動法人たんと、[3]高水福祉会のぞみの郷高社、[4]あるぷすメンタルクリニック、[5]信州大学附属病院子どものこころ診療部

2-043-5 **ひきこもり外来を受診した成人の発達障害に対する心理社会的治療 –構造化された成人発達障害専門プログラムの効果–**

○河合 純[1]、桑原 秀樹[1,2]、中垣内 正和[1]
[1]ながおか心のクリニック、[2]医療法人社団総文会クリニック足立

10:40～12:40 委員会シンポジウム 13（精神保健福祉法委員会）
精神科医療における権利擁護制度 –とりわけアドボケーター・代弁者を巡って–

司会：**太田 順一郎** 岡山市こころの健康センター
大石 賢吾 千葉大学大学院医学研究院精神医学

CS13-1 **海外の精神科医療における権利擁護者制度について**

○佐竹 直子
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

CS13-2 **精神科入院患者に対する意思決定支援：モデル事業の結果を踏まえて**

○白石 弘巳
埼玉県済生会鴻巣病院

CS13-3 **入院に係る精神障害者の意思決定及び意思の表明に関するアドボケーターガイドライン**

○中島 公博
医療法人社団五稜会病院

CS13-4 **日本の精神医療に求められる真の「権利擁護者」とは？**

○竹端 寛
兵庫県立大学環境人間学部

CS13-5 **精神障害者に必要な権利擁護者とは～法律家の立場から**

○姜 文江
法律事務所ヴェント

〈コーディネーター〉 太田 順一郎 岡山市こころの健康センター

13:50～15:50 シンポジウム 47
国際カップルをめぐる諸問題と破局例の検討

司会：**倉本 英彦** 歌舞伎町メンタルクリニック
神山 昭男 外務省参与、有楽町桜クリニック

S47-1 **日仏カップルをめぐる諸問題と破局の要因について**

○太田 博昭
CMPF（パリ邦人医療相談室）

S47-2 **ラテンアメリカ人女性と日本人男性の国際結婚の問題について**

○阿部 裕
四谷ゆいクリニック

S47-3 **国際結婚カップルの不和～外国人の夫が「ぼくの妻は冷たい」と言う時～**

○松永 優子
めじろそらクリニック

S47-4 **〔指定発言〕**

○須藤 美恵
東京大学医学系研究科精神看護学分野

S47-5 〔指定発言〕

○下門 敬史
下門国際総合法律事務所

〈コーディネーター〉 紫藤 昌彦　　紫藤クリニック精神科

16:00〜18:00 シンポジウム 52
任意入院の開放処遇でうつ病の自殺を防止する –ストレスケア病棟の調査から–

司会：**川嵜 弘詔**　福岡大学医学部精神医学教室
市来 真彦　東京医科大学精神医学分野

S52-1 **働くうつ病患者の治療はどこが最適か？〜産業医の立場から〜**

○市来 真彦
東京医科大学病院メンタルヘルス科

S52-2 **ストレスケア病棟におけるリワーク準備プログラム**

○信田 広晶
医療法人社団心癒会しのだの森ホスピタル

S52-3 **阪南病院での入院患者への自殺予防対策**

○黒田 健治、土井 拓、熊取谷 知征、川村 吉彦、濱田 慶一郎、山本 庸太、白銀 薫、
長谷川 雅文、戎 伸一郎、上坂 謙悟
阪南病院医局

S52-4 **精神科病院で入院中に起こった自殺の調査から学ぶこと**

○松下 満彦[1,2]、徳永 雄一郎[1]、後藤 玲央[1,2]、奥村 幸祐[1]、高田 和秀[1,2]、島松 まゆみ[1]、
中野 心介[1,2]、小柳 綾[1]、原田 康平[1,2]、川嵜 弘詔[2]
[1]医療法人新光会不知火病院精神科、[2]福岡大学医学部精神医学教室

〈コーディネーター〉 徳永 雄一郎　不知火病院精神科

6月21日（金） H会場（センター 3F 小会場）［中会議室301A］

8:30〜9:30 一般演題（口演）32
臨床検査・バイオマーカー

司会：**大久保 善朗** 日本医科大学大学院精神・行動医学

2-032-1 未治療単極性うつ病患者における、音声病態分析による診断精度（HAMD 重症度予測）の検証

○宗 未来[1,2]、大宮 康宏[3]、高野 毅[3]、浦口 智貴[3]、篠原 修二[4]、中村 光晃[4]、樋口 政和[4]、光吉 俊二[4]、徳野 慎一[4]
[1]東京歯科大学市川総合病院精神科、[2]銀座泰明クリニック、[3]PST株式会社、
[4]東京大学大学院医学系研究科音声病態分析学講座

2-032-2 うつ状態 –SDS による重症度自己評価と UBOM による精神機能評価

丹羽 真一[1]、○後藤 大介[2]
[1]福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座、[2]福島県精神保健福祉センター

2-032-3 不確実な状況における自閉スペクトラム症の意思決定パターンについて：行動経済学的アプローチ

○藤野 純也[1,2]、鄭 志誠[1,2,3,4]、板橋 貴史[1]、青木 悠太[1]、太田 晴久[1,5]、久保田 学[1,2,6]、橋本 龍一郎[1,7]、中村 元昭[1,8]、加藤 進昌[1]、高橋 英彦[1,2]
[1]昭和大学発達障害医療研究所、[2]京都大学大学院医学研究科精神医学教室、[3]早稲田大学応用脳科学研究所、
[4]東京国際大学人間社会学部スポーツ科学科、[5]昭和大学医学部精神医学講座、
[6]量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部、
[7]首都大学東京大学院人文科学研究科言語科学教室、[8]神奈川県立精神医療センター

2-032-4 教員向けメンタルヘルスリテラシー教育プログラムの効果について

○上田 淳哉[1]、松田 康裕[1]、盛本 翼[1]、岡崎 康輔[1]、北岡 啓[1,2]、森戸 瞳[1]、中島 史裕[1]、佐々木 寛[1]、濱野 泰光[1]、松隈 誠矢[3]、山口 智史[3]、佐々木 司[3]、岸本 年史[1]
[1]奈良県立医科大学精神医学講座、[2]公益財団法人復光会垂水病院、[3]東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野

2-032-5 精神科入院患者の居住衛生環境の実態調査非特異的 IgE 抗体と MAST36 によるアレルギー反応とアレルゲン

○野村 憲一[1]、佐久間 寛之[1]、山田 悠至[2]、村上 優[1]
[1]独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

9:30〜10:30 一般演題（口演）44
コンサルテーション・リエゾン 1

司会：**山田 了士** 岡山大学大学院精神神経病態学

2-044-1 当院の精神科身体合併症病棟の立ち上げについて

○浅野 聡子[1]、椎名 是文[1]、大久保 健[1]、田口 茂正[2]、清田 和也[2]、三澤 仁[1]
[1]さいたま赤十字病院心療科、[2]さいたま赤十字病院救急科

2-044-2 緩和ケアを希望する乳がん患者の臨床的特徴

○櫛野 宣久[1,4]、平川 麻美[2,4]、藤本 晴美[5]、沼里 貞子[5]、月川 賢[3,4]、古茶 大樹[1]
[1]聖マリアンナ医科大学神経精神科学、[2]聖マリアンナ医科大学臨床腫瘍学、
[3]聖マリアンナ医科大学消化器・一般外科学、[4]聖マリアンナ医科大学緩和医療学、[5]聖マリアンナ医科大学病院看護部

2-044-3 総合病院における自殺既遂者の特徴に関する予備的検討

○三宅 誕実、橋本 知明、久米 歩、穴井 己理子、清水 千春、古茶 大樹
聖マリアンナ医科大学病院神経精神科学教室

2-044-4 レシピエントの腎機能廃絶を契機にうつ病を発症し、自死に至った生体腎ドナーの一例

○岡田 剛史[1]、松本 健二[1]、大塚 公一郎[2]、塩田 勝利[1]、小林 聡幸[1]、須田 史朗[1]
[1]自治医科大学附属病院精神科、[2]自治医科大学看護学部

2-044-5 **内リンパ水腫における精神疾患併存**

○清水 謙祐[1,2]、松田 圭二[2]、船橋 英樹[3]、吉田 建世[1]、石田 康[3]、東野 哲也[2]
[1]医療法人建悠会吉田病院精神科、[2]宮崎大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室、
[3]宮崎大学医学部臨床神経学会講座精神医学分野

10:40～12:40 シンポジウム 36
統合失調症バイオマーカーとしての Mismatch negativity（MMN）

司会：**矢部 博興**　福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
住吉 太幹　国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S36-1 **統合失調症および精神病発症リスク状態におけるミスマッチ陰性電位の有用性**

○樋口 悠子[1,2]、住吉 太幹[2]、立野 貴大[1]、西山 志満子[1]、高橋 努[1]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、
[2]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

S36-2 **統合失調症におけるミスマッチ陰性電位**

○荒木 剛、切原 賢治、越山 太輔、永井 達哉、多田 真理子、藤岡 真生、臼井 香、笠井 清登
東京大学医学部附属病院精神神経科

S36-3 **双極性障害・うつ病のミスマッチ陰性反応**

○鬼塚 俊明、平野 羊嗣、平野 昭吾
九州大学病院精神科神経科

S36-4 **統合失調症のドパミンシステムとミスマッチ陰性電位（MMN）**

○志賀 哲也、堀越 翔、穂積 宏俊、森 湧平、和田 知紘、落合 晴香、星野 大、菅野 和子、
刑部 有祐、野崎 途也、疋田 雅之、板垣 俊太郎、三浦 至、松岡 貴志、矢部 博興
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

〈コーディネーター〉 矢部 博興　福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

13:50～15:50 シンポジウム 48
生物学的精神医学のフロンティア

司会：**尾崎 紀夫**　名古屋大学大学院医学系研究科精神医学
加藤 忠史　理化学研究所脳科学総合研究センター

S48-1 **精神疾患のゲノム解析に基づいた病態研究**

○久島 周
名古屋大学高等研究院（医）

S48-2 **精神疾患の動物モデル/細胞モデルによる研究**

○鳥塚 通弘
奈良県立医科大学附属病院精神科

S48-3 **精神疾患の薬理ゲノム学**

○齋藤 竹生
藤田医科大学医学部精神科

S48-4 **超診断的な症状 –脳関係　および診断の影響**

○青木 悠太
昭和大学発達障害医療研究所

〈コーディネーター〉 牧之段 学　奈良県立医科大学医学部精神科

16:00〜18:00 シンポジウム 53
反芻思考とうつ病

司会：**中川 敦夫**　慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教育研修部門
貝谷 久宣　医療法人和楽会/医療法人和楽会パニック症研究センター

S53-1 **シンポジウム導入 –うつ病における反芻思考の意義**
○貝谷 久宣[1,2]
[1]医療法人和楽会、[2]医療法人和楽会パニック症研究センター

S53-2 **反芻思考と抑うつの神経科学**
○市川 奈穂、岡本 泰昌
広島大学大学院精神神経医科学

S53-3 **不安・抑うつ発作は、抑うつ的反芻思考による発作である**
○岸本 智数[1]、正木 美奈[1]、貝谷 久宣[1,2]
[1]医療法人和楽会なごやメンタルクリニック、[2]医療法人和楽会パニック症研究センター

S53-4 **反芻思考へのアプローチ：反芻焦点化認知行動療法**
○中川 敦夫
慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教育研修部門

〈コーディネーター〉 貝谷 久宣　医療法人和楽会/医療法人和楽会パニック症研究センター
岡本 泰昌　広島大学大学院精神神経医科学

6月21日（金） I会場（センター 3F 小会場）[中会議室302B]

8:30～9:30 一般演題（口演）33
睡眠障害・てんかん

司会：**井上 幸紀** 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

2-033-1 レム睡眠行動障害における抑うつ症状の異質性 認知機能・自律神経・ドパミン神経変性との関連
○角 幸頼[1]、松尾 雅博[1]、栗山 健一[1]、鷹見 将規[2]、角谷 寛[2]
[1]滋賀医科大学精神医学講座、[2]滋賀医科大学睡眠行動医学講座

2-033-2 薬剤抵抗性特発性過眠症の治療中に発達障害が判明した一例
○佐尾 知子、尾﨑 優樹、奥村 力、高石 裕介、仲地 究、細川 里瑛、山崎 聖広、河邉 憲太郎、清水 秀明、上野 修一
愛媛大学医学部附属病院

2-033-3 トラムセットの急激な中止によりむずむず脚症候群を呈した症例
○松木 晴香、須貝 拓朗、折目 直樹、福井 直樹、染矢 俊幸
新潟大学医歯学総合病院精神科

2-033-4 福島県立医科大学附属病院における診療科別の睡眠薬使用状況について
○浅野 太志、堀越 翔、松本 純弥、野崎 途也、戸田 亘、穂積 宏俊、三浦 至、矢部 博興
福島県立医科大学神経精神医学講座

2-033-5 結節性硬化症による症候性局在関連性てんかんにペランパネルが著効した一例
○仙 万梨子、堀之内 徹、栗田 紹子、櫻井 高太郎、武田 洋司、久住 一郎
北海道大学病院精神科神経科

9:30～10:30 一般演題（口演）45
コンサルテーション・リエゾン２

司会：**吉村 玲児** 産業医科大学医学部精神医学教室

2-045-1 不安障害に併存した脳脊髄液漏出症の１例
○清水 謙祐[1,2]、松田 圭二[2]、船橋 英樹[3]、石田 康[3]、吉田 建世[1]、國弘 幸伸[4]、江口 議八郎[5]、東野 哲也[2]
[1]医療法人建悠会吉田病院精神科、[2]宮崎大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室、
[3]宮崎大学医学部臨床神経学会講座精神医学分野、[4]慶応大学医学部耳鼻咽喉科、[5]熊本機能病院脳神経外科

2-045-2 幻聴スコア：AhHI（Auditory hallucination Handicup Inventory）の有用性
○清水 謙祐[1,2]、松田 圭二[2]、船橋 英樹[3]、石田 康[3]、吉田 建世[1]、東野 哲也[2]
[1]医療法人建悠会吉田病院精神科、[2]宮崎大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室、
[3]宮崎大学医学部臨床神経学会講座精神医学分野

2-045-3 咽頭違和感を主訴のうつ病治療中に球麻痺型筋萎縮性側索硬化症と診断された一例
○柄池 真規子[1]、廣岡 亜矢[2]、金子 鋭[3,4]
[1]済生会泉尾病院精神科、[2]済生会泉尾病院呼吸器内科、[3]関西医科大学付属病院脳神経内科、
[4]済生会泉尾病院脳神経内科

2-045-4 当院における植込型補助人工心臓装着患者に対する精神科リエゾンチームの活動報告
○松坂 雄亮[1,2]、福田 和久[1]、福田 亜紀[3]、木下 裕久[1]、今村 明[1]、小澤 寛樹[1]
[1]長崎大学病院精神科神経科、[2]長崎大学病院医療教育開発センター、[3]長崎大学病院看護部

2-045-5 ポータブル脳波計に AI 技術を適用したせん妄のスクリーニングアルゴリズムの開発
○篠崎 元[1]、平岡 和明[2]、梶谷 まり[2]、角田 友将[2]、鈴木 浩子[2]、伊海 佳昭[2]、門岡 良昌[2]
[1]University of Iowa Department of Psychiatry、[2]富士通研究所

10:40～12:20 ワークショップ 6
身体疾患を有する患者の自殺および希死念慮に対するリエゾン・コンサルテーション

司会：**清水 研**　国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科
西村 勝治　東京女子医科大学病院

WS6

〈講演者〉
佐伯 吉規　がん研究会有明病院
岩田 正明　鳥取大学医学部附属病院
明智 龍男　名古屋市立大学病院
桑原 達郎　国家公務員共済組合連合会立川病院

〈コーディネーター〉
清水 研　国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科
西村 勝治　東京女子医科大学病院

13:50～15:30 ワークショップ 7
脳波の応用コース

司会：**山内 俊雄**　埼玉医科大学名誉学長
矢部 博興　福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

WS7

〈講演者〉
山内 俊雄　埼玉医科大学名誉学長
原 恵子　原クリニック
太田 克也　恩田第二病院
渡邊 さつき　埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

〈コーディネーター〉
矢部 博興　福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
太田 克也　恩田第二病院

16:00～18:00 シンポジウム 54
成人の自閉スペクトラム症における精神科医と心理職の協働 –日常診療で公認心理師にどう活躍してもらうか

司会：**宮岡 等**　北里大学医学部精神科学地域児童精神科医療学
青木 省三　公益財団法人滋圭会精神医学研究所

S54-1 **成人自閉スペクトラム症臨床における心理職の役割**
○井上 勝夫
北里大学医学部精神科学地域児童精神科医療学

S54-2 **医療における成人 ASD 治療で我々は何をしているのか**
○原田 剛志
パークサイドこころの発達クリニック

S54-3 **当院での心理士との協業**
○橋本 大彦
橋本クリニック精神科

S54-4 **成人自閉スペクトラム症の理解と治療 –心理職がいない環境で診る場合を含めて–**
○村上 伸治
川崎医科大学精神科学教室

〈コーディネーター〉井上 勝夫　北里大学医学部精神科学地域児童精神科医療学

6月21日（金） J会場（センター 3F 小会場）［中会議室302A］

8:30～9:30 一般演題（口演）34
社会・司法精神医学

司会：**康 純** 大阪医科大学総合医学講座神経精神医学教室

2-034-1 通院処遇移行対象者の地域生活の現状と課題

○竹田 康二[1,2]、菅原 典夫[3]、松田 太郎[1]、島田 明裕[1]、岡田 幸之[2]、平林 直次[1]
[1]国立精神・神経医療研究センター病院精神科、[2]東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野、
[3]国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター

2-034-2 HIV/AIDS 診療従事者と精神医療従事者の連携と課題 –平成 27～29 年度厚労省エイズ対策研究事業から–

○角谷 慶子、仲倉 高広
長岡ヘルスケアセンター（長岡病院）

2-034-3 精神科入院患者における自殺関連行動の特徴と治療アウトカム –医療の質の観点から

○森脇 久視、茨木 丈博、伊津野 拓司、和田 直樹、林田 治美、伊藤 恵理子、板橋 登子、
岩井 一正
神奈川県立精神医療センター精神科

2-034-4 精神科患者の医療上の意思決定支援について –身体的急変時の延命処置希望に関する取り組みから–

○福田 陽明[1]、井藤 佳恵[1]、村端 祐樹[1]、佐々木 亮[1]、頃安 英毅[1]、樫山 鉄矢[2]、齋藤 正彦[1]
[1]東京都立松沢病院精神科、[2]東京都立松沢病院一般科

2-034-5 被虐待経験をもつ矯正施設被収容者

○宮本 悦子
東日本成人矯正医療センター

9:30～10:30 一般演題（口演）46
精神科救急 2

司会：**川勝 忍** 福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座

2-046-1 都道府県における「心の健康（K6）」の推移と地域要因の分析

○花岡 晋平[1,2]、北澤 健文[2]、松本 邦愛[2]、深見 悟郎[1]、平田 豊明[1]、長谷川 友紀[2]
[1]千葉県精神科医療センター、[2]東邦大学医学部社会医学講座

2-046-2 千葉県精神科救急医療圏における入院及び外来患者数の将来予想

○高橋 由美子[1,4]、花岡 晋平[1,2]、阿部 貴之[1]、澁谷 孝之[1]、深見 悟郎[1]、平田 豊明[1,3]
[1]千葉県精神科医療センター、[2]東邦大学医学部社会講座、[3]医療法人学而会木村病院、[4]医療法人直樹会磯ヶ谷病院

2-046-3 精神科救急入院料病棟における医療安全文化と精神的ストレス（K6）の経時分析

○五十嵐 佑弥[1]、花岡 晋平[1,2]、藤田 茂[2]、中田 正浩[1]、澁谷 孝之[1]、深見 悟郎[1]、平田 豊明[1,3]
[1]千葉県精神科医療センター、[2]東邦大学医学部社会医学講座、[3]医療法人学而会木村病院

2-046-4 軽症セロトニン症候群に対して、マプロチリンへの慎重な切り替えが有効であった反復性うつ病の一例

○醍醐 龍之介、山﨑 龍一、松田 勇紀、繁田 雅弘
東京慈恵会医科大学精神医学講座

2-046-5 **長年にわたり統合失調症として治療されてきたギャンブル依存症の一例**

○川合 秀明、宇野 宏光、山田 真理、佐藤 彩夏、岩見 有里子、長塚 雄大、田中 宏明、
常岡 俊昭、高塩 理、岩波 明
昭和大学烏山病院精神科

10:40～12:40 シンポジウム 37
環境や食生活とメンタルヘルス

司会：**寺尾 岳**　大分大学医学部精神神経医学講座
井上 猛　東京医科大学精神医学分野

S37-1 **食生活とメンタルヘルス**

○松岡 豊
国立研究開発法人国立がん研究センター社会と健康研究センター健康支援研究部

S37-2 **児童思春期における微量なリチウム摂取とメンタルヘルス**

○安藤 俊太郎[1,2]、西田 淳志[2]、山崎 修道[2]、笠井 清登[1]
[1]東京大学医学部付属病院精神神経科、[2]公益財団法人東京都医学総合研究所

S37-3 **養育環境と精神疾患**

○井上 猛
東京医科大学精神医学分野

S37-4 **微量なリチウムと自殺関連行動や認知症予防**

○石井 啓義、寺尾 岳
大分大学医学部附属病院精神科

〈コーディネーター〉 寺尾 岳　大分大学医学部精神神経医学講座

13:50～15:50 シンポジウム 49
子どもを虐待したくてしているわけじゃない！ –逆境体験(ACE)に精神科医療はどう向き合うか–

司会：**上野 千穂**　京都市児童福祉センター診療所
山下 浩　さいたま市子ども家庭総合センター

S49-1 **児童期逆境体験（ACE）とその影響、および養育者支援研究**

○友田 明美
福井大学子どものこころの発達研究センター

S49-2 **児童福祉現場における「発達性トラウマ障害」、「Complex PTSD」～新たな見立ての軸を得て～**

○稲葉 啓通[1,2]、石坂 好樹[2]
[1]京都桂病院、[2]ももの木学園（児童心理治療施設）精神科

S49-3 **児童相談所の保護者支援～地域に繋いでいくために**

○陶山 寧子
横浜市西部児童相談所

S49-4 **精神科医療におけるトラウマインフォームドケア**

○亀岡 智美
兵庫県こころのケアセンター

〈コーディネーター〉 山下 浩　さいたま市子ども家庭総合センター

16:00〜18:00 シンポジウム 55
患者の違法薬物使用を知ったとき、精神科医はどうふるまうべきなのか?

司会：**椎名 明大**　千葉大学社会精神保健教育研究センター
松本 俊彦　国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

S55-1 **薬物依存症臨床における守秘義務の重要性**
○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

S55-2 **麻薬中毒者届出制度の意義と課題**
○松本 俊彦
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

S55-3 **公務員の犯罪告発義務をめぐる問題**
○柑本 美和
東海大学

S55-4 **弁護士から見た、診療情報とそれに関する守秘義務の問題について**
○森野 嘉郎
東京パーソナル法律事務所

S55-5 **薬物使用者の権利擁護の立場から**
○古藤 吾郎
日本薬物政策アドボカシーネットワーク

S55-6 **〔指定発言〕**
○杉山 直也
公益財団法人復康会沼津中央病院

〈コーディネーター〉 松本 俊彦　国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部
成瀬 暢也　埼玉県立精神医療センター

6月21日（金） K会場（センター 3F 中会場）［小会議室303＋304］

8:30〜9:30 一般演題（口演）35
診断学 1

司会：**野間 俊一** 嵯峨さくら病院

2-035-1 統合失調症患者にバウムテストを長期的・縦断的に行って見いだした興味ある所見

○桑原 治雄[1,2]、小林 敏子[2]、鈴木 康広[2]、朝井 忠[2]、朝井 廉[2]
[1]桑原クリニック、[2]京都バウムテスト研究会

2-035-2 レビー小体病を併発した統合失調症の 1 例

○湯川 尊行[1]、寺島 健史[2]、井上 絵美子[1]、有波 浩[1,3]、恩田 啓伍[1]、染矢 俊幸[3]
[1]魚沼基幹病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター神経内科、
[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

2-035-3 抑うつ性混合状態と自閉スペクトラム症との関連

○新里 輔鷹[1]、栗原 雄大[1,2]、石橋 孝勇[1,2]、甲田 宗良[1]、中村 明文[1,3]、近藤 毅[1]
[1]琉球大学医学部附属病院精神神経科、[2]独立行政法人国立病院機構琉球病院、[3]あかりクリニック

2-035-4 気分障害における“価値の二極化”の背景に存在する脳内処理メカニズムについて

○池田 裕
公盡会出水病院精神科

2-035-5 辺縁系脳炎の一症例の診断における症候学の重要性

○菊池 孝
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター精神科

9:30〜10:30 一般演題（口演）47
分子遺伝・その他

司会：**白波瀬 丈一郎** 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

2-047-1 ゲノムワイド遺伝子多型データを用いた機械学習によるうつ状態脆弱性の予測

○髙橋 雄太[1,2]、植木 優夫[2]、田宮 元[2]、荻島 創一[2]、長神 風二[2]、福本 健太郎[3]、大塚 耕太郎[3]、
山本 雅之[2]、富田 博秋[1,2]
[1]東北大学病院精神科、[2]東北メディカル・メガバンク機構、[3]岩手医科大学附属病院

2-047-2 メタボロームデータを用いた非線形変数選択機械学習によるうつ状態の予測

○髙橋 雄太[1,2]、植木 優夫[2,3]、山田 誠[3]、田宮 元[2,3]、元池 育子[2]、三枝 大輔[2]、櫻井 美由紀[2]、
長神 風二[2]、小柴 生造[2]、木下 賢吾[2]、山本 雅之[2]、富田 博秋[1,2]
[1]東北大学病院精神科、[2]東北メディカル・メガバンク機構、[3]理化学研究所AIPセンター

2-047-3 統合失調症合併血管性認知症における易怒性・興奮にフルボキサミン併用療法が有用であった 1 例

○塚原 優、中村 有香、矢田 勇慈、来住 由樹
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター医療部

2-047-4 入院直前の過食により著しい低 P 血症となった神経性やせ症の一例

○上松 万里子、木村 大樹、竹田 和弘、田中 聡、尾崎 紀夫
名古屋大学病院精神科・親と子どもの心療科

10:40〜12:40 シンポジウム 38
第三世代認知行動療法を精神科臨床に活かす

司会：**貝谷 久宣**　赤坂クリニック
岡本 泰昌　広島大学病院

S38-1 **行動活性化の臨床応用 –可能性と限界–**
○神人 蘭[1]、高垣 耕企[2]、岡本 泰昌[3]
[1]広島大学病院精神科、[2]広島大学保健管理センター、[3]広島大学大学院精神神経医科学

S38-2 **精神科臨床におけるマインドフルネスの活用**
○佐渡 充洋
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S38-3 **アクセプタンス＆コミットメント・セラピーを病院臨床で活かす**
○近藤 真前
名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

S38-4 **医療者にマインドフルネスを活かす**
○林 紀行
ほうせんか病院心療内科

S38-5 **〔指定発言〕**
○藤澤 大介
慶應義塾大学病院

〈コーディネーター〉 佐渡 充洋　慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

13:50〜15:30 ワークショップ 8（司法精神医学委員会）
統合失調症の精神鑑定

司会：**五十嵐 禎人**　千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門
吉岡 眞吾　独立行政法人国立病院機構東尾張病院

WS8 〈講演者〉
村松 太郎　慶應義塾大学医学部精神神経科
田口 寿子　神奈川県立病院機構神奈川県立精神医療センター
太田 順一郎　岡山市こころの健康センター
赤崎 安昭　鹿児島大学医学部保健学科

〈コーディネーター〉 五十嵐 禎人　千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門

16:00〜18:00 シンポジウム 56
新アウトリーチ事業に始まる日本の精神科地域包括ケアシステムの可能性

司会：**原 敬造**　医療法人原クリニック
窪田 彰　医療法人草思会錦糸町クボタクリニック

S56-1 **多機能型精神科診療所の「新たなアウトリーチ事業」の受託による精神科地域ケアの発展**
○窪田 彰
医療法人草思会錦糸町クボタクリニック

S56-2 **埼玉県済生会鴻巣病院におけるアウトリーチ事業の結果と課題**
○白石 弘巳、関口 暁雄、栗田 早苗、關 紳一
埼玉県済生会鴻巣病院

S56-3 **浜松市における多機能型精神科診療所によるアウトリーチ事業の進行状況が目指すもの**

○大嶋 正浩
医療法人至空会メンタルクリニック・ダダ

S56-4 **民間支援機関と行政機関の連携による、新たな精神科アウトリーチ事業の可能性について**

○黒田 安計
さいたま市子ども家庭総合センター

S56-5 **〔指定発言〕**

○藤井 千代
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈コーディネーター〉 窪田 彰　医療法人草思会錦糸町クボタクリニック
原 敬造　医療法人原クリニック

6月21日（金） L会場（センター 3F 中会場）［小会議室306＋307］

8:30～9:30 一般演題（口演）36
児童・思春期、発達障害 2

司会：**尾関 祐二** 滋賀医科大学精神医学講座

2-036-1 **大人の ADHD の当事者と医療者が一緒に活用できる治療選択の手引き Decision Aid の開発 – SDM 促進にむけて**

○青木 裕見[1]、坪井 貴嗣[2]、高江洲 義和[2]、古野 毅彦[3]、萱間 真美[1]、中山 和弘[1]、渡邊 衡一郎[2]
[1]聖路加国際大学大学院看護学研究科、[2]杏林大学医学部精神神経科学教室、
[3]独立行政法人国立病院機構東京医療センター

2-036-2 **森田療法的面接と環境調整によって改善した思春期の神経症 4 症例について**

○原田 聰志、福治 康秀
独立行政法人国立病院機構琉球病院精神科

2-036-3 **当院思春期病棟における自殺暴力関連事象について**

○森脇 久視、横山 琢也、金澤 さやか、浅沼 和哉、礒﨑 仁太郎、小林 桜児
神奈川県立精神医療センター精神科

2-036-4 **児童思春期精神医療の充実に向けた地域の取り組み –札幌モデル–**

○齊藤 卓弥
北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門

2-036-5 **外来患者における属性と AQ-J 下位項目の性差**

○倉田 孝一[1]、日野 昌力[2]
[1]社会医療法人財団松原愛育会松原病院医療部、[2]石川県立高松病院

9:30～10:30 一般演題（口演）48
精神療法・その他

司会：**渡邊 衡一郎** 杏林大学医学部精神神経科学教室

2-048-1 **身体拘束の有効性について論ず**

○栗本 藤基
医療法人藤樹会滋賀里病院精神科

2-048-2 **三空間五段階面接法の応用**

○栗本 藤基
医療法人藤樹会滋賀里病院精神科

2-048-3 **症状との共存に工夫を要した高齢者の身体症状症の一例**

○市川 光[1]、小曽根 基裕[2]、平山 佳奈子[1]、児玉 和佳子[1]、繁田 雅弘[1]
[1]東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科、[2]久留米大学医学部神経精神医学講座

2-048-4 **宮崎大学医学部附属病院精神科の 40 年間の入院診療概況**

○日髙 弘登、三好 良英、松尾 寿栄、石田 康
宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野

10:40～12:40 シンポジウム 39
(日本精神神経科診療所協会推薦)私たちはなぜクリニックを開業したか –日精診女性会員の場合–

司会：**三原 伊保子**　医療法人りぼん・りぼん三原デイケア＋クリニックりぼん・りぼん
望月 美知子　つつじが岡メンタルクリニック

S39-1　**触法事例の地域支援にチームで取り組む**
○長谷川 直実
医療法人社団ほっとステーション大通公園メンタルクリニック

S39-2　**精神科医としてのアイデンティティを探して**
○田中 理香
スタジオリカクリニック

S39-3　**女性の開業について考える**
○海老澤 佐知江
アルバ・メンタルクリニック精神科

S39-4　**いろいろあっても働き続けたい**
○新田 活子
医療法人社団新木会木の花メンタルクリニック精神科

S39-5　**生涯医療人実現のためのてんかん専門クリニック開設**
○渡辺 雅子
新宿神経クリニック

〈コーディネーター〉　三原 伊保子　医療法人りぼん・りぼん三原デイケア＋クリニックりぼん・りぼん
佐藤 眞弓　医療法人ひまわり佐藤まゆみメンタルクリニック
早苗 麻子　萌クリニック

13:50～15:30 ワークショップ 9
新アルコール使用障害の診断治療ガイドラインに基づく治療の実際

司会：**齋藤 利和**　北仁会幹メンタルクリニック
白坂 知信　医療法人北仁会石橋病院

WS9　〈講演者〉
宮田 久嗣　東京慈恵会医科大学附属病院
樋口 進　独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科
杠 岳文　独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

〈コーディネーター〉　樋口 進　独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科

16:00～18:00 シンポジウム 57
認知症非専門医のための認知症診療の基本

司会：**水上 勝義**　筑波大学大学院人間総合科学研究科
馬場 元　順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック/順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学

S57-1　**長谷川式簡易知能スケールと MMSE の取り方と評価の仕方**
○谷向 知
愛媛大学大学院医学系研究科地域健康システム看護学講座老年・精神地域包括ケア学

S57-2 **おさえておきたい認知症画像診断の基礎：CT、MRI から SPECT 検査まで**

○川勝 忍[1]、小林 良太[2]、林 博史[2]
[1]福島県立医科大学会津医療センター附属病院、[2]山形大学医学部付属病院

S57-3 **ときどき遭遇する認知症**

○新井 哲明
筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

S57-4 **抗認知症薬の使い方の基本**

○馬場 元
順天堂大学医学部付属順天堂越谷病院

S57-5 **パーキンソニズムを呈する認知症 −神経内科の視点からの診断と治療−**

○髙梨 雅史、服部 信孝
順天堂大学医学部脳神経内科

〈コーディネーター〉 馬場 元　順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック/順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学
水上 勝義　筑波大学大学院人間総合科学研究科

6月21日（金） M会場（センター 4F 中会場）[国際会議室]

8:30～9:30 一般演題（口演）37
精神療法

司会：**大谷 浩一** 山形大学医学部精神医学講座

2-037-1 **Jaspersの精神療法論 初版と第二版の違いに注目して**
○佐藤 晋爾
茨城県立中央病院兼任筑波大学医学医療系茨城県地域臨床教育センター精神科

2-037-2 **うつ病の回復期における休養と行動的介入：森田療法の視点から**
○新村 秀人[1]、北西 憲二[2,3]
[1]慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、[2]北西クリニック、[3]森田療法研究所

2-037-3 **Comorbid substance use disorders associated with life expectancy reduction in people with psychotic disorders：an electronic case register study.**
○Rashmi Patel[1]、Edward Chesney[1]、Sam Hollandt[1]、Chi-Kang Chang[1]、Megan Pritchard[2]、Philip McGuire[1]
[1]Department of Psychosis Studies, IoPPN, King's College London、[2]NIHR Biomedical Research Centre, South London and Maudsley NHS Foundation Trust

2-037-4 **The Digital Phenotype：A new era for Precision Psychiatry**
○Rashmi Patel、Philip McGuire
Department of Psychosis Studies, IoPPN, King's College London

9:30～10:30 一般演題（口演）49
てんかん

司会：**和知 学** 医療法人青山信愛会新潟信愛病院

2-049-1 **良性成人型家族性ミオクローヌスてんかんと慢性精神病の併発例**
○立澤 賢孝[1]、角谷 真人[2]、海田 賢一[2]、吉野 相英[1]
[1]防衛医科大学校病院精神科、[2]防衛医科大学校病院神経内科

2-049-2 **二度の偶発的低体温症における特徴的三相波の反復**
○濱本 優[1,2]、田宗 秀隆[1,3]、越膳 航平[1]、廣瀬 友利彬[1]、福島 康浩[1]、山口 順嗣[1]、櫻井 薫[1]、寺澤 佑哉[1]、玉井 眞一郎[1]、日野 慶子[1]、山本 直樹[1]
[1]東京都立多摩総合医療センター精神神経科、[2]東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科、[3]東京大学大学院医学系研究科精神医学分野

2-049-3 **C11-carfentanil画像を用いた、側頭葉てんかんの不安・うつ症状におけるオピオイド受容体結合能の検討**
○曾根 大地、Marian Galovic、Jacqueline Foong、Matthias Koepp
University College London Institute of Neurology

2-049-4 **限局性皮質異形成（FCD）の精神病理の情報処理的検討 –EEGダイポール法による異常部位の経時的可視化–**
○瀧川 守國[1,2]、鹿井 博文[1]、今村 圭介[1]
[1]医療法人公盡会出水病院、[2]鹿児島大学

2-049-5 **てんかん患者では罹病期間に応じて不安が高まる**
○堀之内 徹、櫻井 高太郎、栗田 紹子、武田 洋司、久住 一郎
北海道大学大学院医学院神経病態学講座精神医学教室

10:40～11:40 特別講演 1

同時通訳(E→J)

司会：**加茂 登志子** 若松町こころとひふのクリニック

Current issues in women's mental health

○Helen Herrman
President, World Psychiatric Association/Orygen, The National Centre of Excellence in Youth Mental Health and the Centre for Youth Mental Health, The University of Melbourne, Victoria, Australia

11:45～12:45 特別講演 2

同時通訳(E→J)

司会：**染矢 俊幸** 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

The ICD-11 as a part of a comprehensive global mental health strategy

○Geoffrey M. Reed
Department of Mental Health and Substance Abuse World Health Organization

13:50～15:50 委員会シンポジウム 15（ICD-11 委員会）
ICD-11 が世界の精神科医療へもたらす影響

司会：**丸田 敏雅** 聖徳大学
松本 ちひろ 日本精神神経学会情報センター

CS15-1 Innovations and changes in the ICD-11 classification of mental, behavioural and neurodevelopmental disorders

○Geoffrey M. Reed
Department of Mental Health and Substance Abuse World Health Organization

CS15-2 Major differences between the ICD-11 classification of mental and behavioural disorders and the DSM-5

○Michael B. First
Columbia University/New York State Psychiatric Institute, New York, NY, USA

CS15-3 Management of the implementation of ICD-11 MBND in WHO member states

○Wolfgang Gaebel[1,2]
[1]WHO Collaborating Centre on Quality Assurance and Empowerment in Mental Health LVR-Klinikum Düsseldorf
[2]Department of Psychiatry and Psychotherapy Medical Faculty Heinrich-Heine University Bergische Landstraße 2 D-40629 Düsseldorf Germany

〈コーディネーター〉 神庭 重信 九州大学
丸田 敏雅 聖徳大学
松本 ちひろ 日本精神神経学会情報センター

16:00～18:00 **委員会シンポジウム 19（国際委員会）** 同時通訳(E→J)

卒後教育サブスペシャルティ

司会：**武田 雅俊**　大阪河﨑リハビリテーション大学
岸本 年史　奈良県立医科大学

CS19-1 **A Survey and Perspective on the State of Psychiatry in America**

○Bruce Schwartz
Department of Psychiatry and Behavioral Sciences, Montefiore Medical center & Albert Einstein College of Medicine

CS19-2 **The increasing specialisation of psychiatry - what it means for the RANZCP training program and the profession of psychiatry**

○John Allan
The Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists

CS19-3 **The development and prospect of psychiatric sub-specialty training in Taiwan**

○Shih-Cheng Liao
National Taiwan University

CS19-4 **精神科研修におけるサブスペシャルティの考え方**

○武田 雅俊
大阪河﨑リハビリテーション大学

〈コーディネーター〉 秋山 剛　NTT東日本関東病院精神科精神神経科

6月21日（金） N会場（ホテル 3F 小会場）[孔雀]

8:30～9:30 一般演題（口演）38
精神科救急 1

司会：**鵜飼 聡** 和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室

2-038-1 人工知能技術を用いた、入院患者の自殺リスク評価の試み

○池田 伸
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

2-038-2 精神科救急病棟における来日外国人症例および、邦人帰国症例の検討

○中西 健太[1,2]、山中 浩嗣[1]
[1]千葉県精神科医療センター、[2]社会医療法人社団同仁会木更津病院

2-038-3 体幹部の静脈に血栓を形成した緊張病の 2 例

○安武 稜多郎、岡田 剛史、稲川 優多、福田 和仁、松本 健二、須田 史朗
自治医科大学精神医学講座

2-038-4 奈良県立医科大学で実施した自殺企図者に対する救急患者精神科継続支援の有効性の検証と地域支援の強化

○岡村 和哉[1]、小森 崇史[1]、隅田 江美[1]、大森 章代[1]、石岡 希望[1]、池原 実伸[1]、杉本 麻衣[2]、
岸本 年史[1]
[1]奈良県立医科大学精神医学講座、[2]奈良県立医科大学精神医療センター

2-038-5 千葉県精神科救急医療システムの実態調査（平成 30 年本調査）

○河岸 嶺将[1]、花岡 晋平[1]、深見 悟郎[1]、平田 豊明[1,2]
[1]千葉県精神科医療センター精神科、[2]医療法人学而会木村病院

9:30～10:30 一般演題（口演）50
精神科救急 2

司会：**杉山 直也** 公益財団法人復康会沼津中央病院

2-050-1 精神科救急病棟（スーパー救急病棟）における高齢措置入院者の傾向について

○正木 慶大、谷口 典男、釜江 和恵、須藤 良隆、田中 秀樹、大矢 健造、眞本 晶子、
石田 剛士、小嶋 美希、戸井 優樹、榎本 良広、田中 義、伊藤 久人、冨岡 幹央、泉本 高之、
尾池 芽有、松本 佐知子、柳川 宗司、更家 由梨、嶋 健作、白濱 嘉樹、三谷 政利、
東尾 康倫、戸山 茜、平野 真由子、百崎 詩子、田伏 薫、篠崎 和弘
公益財団法人浅香山病院精神科

2-050-2 警察官通報事例に対する行政の地域生活支援体制整備の検討 −川崎市の複数回通報事例をもとに

○小池 純子[1]、柴崎 聡子[2]、河野 稔明[1]、竹島 正[2]
[1]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部、[2]川崎市精神保健福祉センター

2-050-3 飛び降り自殺未遂後の身体的急性期治療の終了前に精神科病院へ転院を要する患者の臨床的特徴

○松本 光輔[1]、井藤 佳恵[1]、間 美枝子[2]
[1]東京都立松沢病院精神科、[2]東京都立松沢病院社会復帰支援室

2-050-4 自傷のおそれを伴って措置入院となった患者の実態調査

○大塚 達以[1]、稲垣 中[2]、瀬戸 秀文[3]、島田 達洋[4]、岩永 英之[5]、中西 清晃[6]、中村 仁[3]、
渡辺 純一[7]、横島 孝至[8]、奥野 栄太[9]、太田 順一郎[10]、吉住 昭[5]
[1]宮城県立精神医療センター、[2]青山学院大学、[3]長崎県精神医療センター、[4]栃木県立岡本台病院、
[5]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、[6]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
[7]公益財団法人井之頭病院、[8]公益財団法人復康会沼津中央病院、[9]独立行政法人国立病院機構琉球病院、
[10]岡山市こころの健康センター

2-050-5 **精神科救急システム利用患者の社会的背景の特徴**

○佐藤 裕一[1,2]、富岡 大[1,2]、近藤 周康[1,2]、井田 百合子[1,2]、沖野 和磨[1,2]、河口 良登[1,3]、
坂内 めぐみ[1,2]、山田 浩樹[2]、野崎 伸次[2]、稲本 淳子[2]
[1]昭和大学横浜市北部病院、[2]昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、[3]昭和大学横浜市北部病院看護部

10:40～12:40 シンポジウム 40
家族をベースにする治療をどう実臨床に生かすのか

司会：**岡田 俊**　名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科
山下 達久　からすま五条・やましたクリニック

S40-1 **青年期神経性やせ症のための家族をベースにする治療**

○鈴木 太
福井大学子どものこころの発達研究センター

S40-2 **成人の摂食障害に対する、外在化モデルに基づく治療と家族介入、その効果と限界**

○田中 聡
名古屋大学医学部附属病院精神科

S40-3 **“Parentectomy”の終焉と同級生の誕生**

○山下 達久
からすま五条・やましたクリニック精神科

S40-4 **どう実臨床に生かすのか**

○永田 利彦
壱燈会なんば・ながたメンタルクリニック

〈コーディネーター〉 岡田 俊　名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科
永田 利彦　壱燈会なんば・ながたメンタルクリニック

13:50～15:50 シンポジウム 50
向精神薬による稀ではあるが重篤な副作用を避けるために（患者と医療者の双方のしあわせのために）

司会：**三國 雅彦**　社会医療法人函館博栄会函館渡辺病院
鈴木 映二　東北医科薬科大学医学部精神科学教室

S50-1 **向精神薬の重篤な副作用に対する薬剤師の取り組み**

○三輪 高市[1,2]、佐藤 光利[3]
[1]鈴鹿医療科学大学、[2]医療法人佐藤会弓削病院、[3]明治薬科大学

S50-2 **救急センターで遭遇する重篤な向精神薬の副作用を避けるために**

○上條 吉人
埼玉医科大学病院救急科

S50-3 **Psychiatric Internal Medicine の立場から、精神科薬物療法にともなう重篤な身体合併症を考える**

○中村 優[1]、長嶺 敬彦[2]
[1]更生会草津病院、[2]三光舎脳科学研究所

S50-4 **向精神薬による重症薬疹と通常の薬疹との鑑別とその対応**

○山田 和男
東北医科薬科大学病院精神科

S50-5 **薬物相互作用に起因する向精神薬の重篤な副作用**

○鈴木 映二
東北医科薬科大学医学部精神科学教室

〈コーディネーター〉 鈴木 映二　東北医科薬科大学医学部精神科学教室
山田 和男　東北医科薬科大学医学部精神科学教室

16:00～18:00 シンポジウム 58
精神疾患へのスティグマ研究の現在：学校教育、市民啓発、社会の取り組みに向けて

司会：**中根 秀之**　長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
安藤 俊太郎　東京大学医学部附属病院

S58-1 **映像による社会的接触およびインターネット自己学習におけるスティグマ是正の長期的効果：無作為化比較試験**

○山口 創生
国立・精神神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部

S58-2 **精神疾患に対する生医科学的内容のビデオ講義によるスティグマ軽減効果の検証：無作為化比較試験**

○小塩 靖崇
国立・精神神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部

S58-3 **INDIGO READ 研究の紹介と日本サイトでの実践**

○安藤 俊太郎[1]、山口 創生[2]、小川 亮[2]、小塩 靖崇[2]、市橋 香代[1,2]、近藤 伸介[1]、藤井 千代[2]、笠井 清登[1]
[1]東京大学医学部付属病院精神神経科、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S58-4 **統合失調症名称変更が一般市民のスティグマやマスメディア報道に与えた影響**

○小池 進介
東京大学大学院総合文化研究科附属進化認知科学センター

S58-5 **〔指定発言〕**

○中根 秀之
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

〈コーディネーター〉 小池 進介　東京大学大学院総合文化研究科附属進化認知科学センター
中根 秀之　長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
安藤 俊太郎　東京大学医学部附属病院

6月21日（金） O会場（ホテル 4F 小会場）［朱鷺A］

8:30～10:10 **ワークショップ４**（ICD-11 委員会）
ICD-11 の最新情報：ストレス関連障害群、不安および強迫関連障害群、パーソナリティ障害群

司会：**秋山 剛** NTT東日本関東病院
丸田 敏雅 聖徳大学保健センター

WS4 〈講演者〉 前田 正治 福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座
中尾 智博 九州大学病院
松本 ちひろ 日本精神神経学会

〈コーディネーター〉 丸田 敏雅 聖徳大学保健センター
秋山 剛 NTT東日本関東病院
松本 ちひろ 日本精神神経学会

10:40～12:40 **シンポジウム 41**
「適応障害とその背景」–日本精神分析学会企画

司会：**木村 宏之** 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野
池田 政俊 帝京大学文学部心理学科

S41-1 **適応障害 概論**
○木村 宏之
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

S41-2 **対象喪失と適応障害**
○鈴木 龍
鈴木龍クリニック

S41-3 **適応障害と自殺の関係について**
○張 賢徳
帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

S41-4 **働く場の不適応後成長という観点**
○白波瀬 丈一郎
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S41-5 **〔指定発言〕**
○福本 修
医療法人社団碧水会長谷川病院

〈コーディネーター〉 木村 宏之 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

14:00～16:40 **ワークショップ 11**（精神保健に関する委員会）

複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ：自殺のハイリスク患者に対するアセスメントと問題解決アプローチ

※本ワークショップは事前にお申し込みされた方のみご参加可能です

司会：**河西 千秋**　札幌医科大学医学部神経精神医学講座
大塚 耕太郎　岩手医科大学神経精神科学講座

WS11

〈講演者〉
河西 千秋　札幌医科大学医学部神経精神医学講座
大塚 耕太郎　岩手医科大学神経精神科学講座
張 賢徳　帝京大学医学部附属溝口病院精神科
太刀川 弘和　筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

〈コーディネーター〉
河西 千秋　札幌医科大学医学部神経精神医学講座
大塚 耕太郎　岩手医科大学神経精神科学講座

6月21日（金） P会場（ホテル 4F 小会場）[朱鷺B]

8:30～10:30 **委員会シンポジウム 12**（倫理委員会）
症例報告における倫理的配慮～本人同意をめぐる課題

司会：**久住 一郎** 北海道大学大学院医学研究院精神医学教室
加藤 忠史 理化学研究所脳神経科学研究センター

CS12-1 ガイドライン作成経緯と本人同意の例外事項に関する課題

○栗原（斉尾）千絵子
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所信頼性保証・監査室

CS12-2 精神医学研究における症例報告の重要性

○尾崎 紀夫
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

CS12-3 症例報告における患者同意はなぜ必要か～当事者・家族の立場から～

○夏苅 郁子
やきつべの径診療所

CS12-4 症例報告における倫理的配慮～本人同意をめぐる課題（法律家の視点）

○木ノ元 直樹
木ノ元総合法律事務所

〈コーディネーター〉 久住 一郎 北海道大学大学院医学研究院精神医学教室

10:40～12:40 **委員会シンポジウム 14**（災害支援委員会）
人為災害、テロがメンタルヘルスに及ぼす影響：2020 年東京五輪に向けて考えるべきこと

司会：**大塚 耕太郎** 岩手医科大学医学部神経精神科学講座
重村 淳 防衛医科大学校医学教育部精神科学講座

CS14-1 テロリズムがメンタルヘルスに与える影響

○重村 淳[1]、高橋 晶[2,3]、小林 佑衣[1]、黒澤 美枝[1]、長峯 正典[4]、清水 邦夫[4]、吉野 相英[1]
[1]防衛医科大学校精神科学講座、[2]筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学、
[3]筑波メディカルセンター病院精神科、[4]防衛医科大学校防衛医学研究センター行動科学研究部門

CS14-2 被災地のメンタルヘルスへの精神医学的介入

○大塚 耕太郎[1,2]、小泉 範高[1,2,3]、赤平 美津子[2,3]、酒井 明夫[2]
[1]岩手医科大学神経精神科学講座、[2]岩手県こころのケアセンター、[3]岩手医科大学災害・地域精神医学講座

CS14-3 テロ攻撃等による大規模集団被害後のメンタルヘルス活動における 4 つの課題

○飛鳥井 望
医療法人社団青山会青木病院精神科

CS14-4 海外での大規模緊急事態におけるメンタルヘルスケア

○鈴木 満
外務省診療所

CS14-5 〔指定発言〕

○高橋 晶
筑波大学医学医療系災害・地域精神医学/茨城県立こころの医療センター地域・災害支援部/筑波メディカルセンター精神科

〈コーディネーター〉 高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学/茨城県立こころの医療センター地域・災害支援部・室/筑波メディカルセンター精神科
重村 淳 防衛医科大学校医学教育部精神科学講座
大塚 耕太郎 岩手医科大学医学部神経精神科学講座

13:50〜15:30 ワークショップ 10（小児精神医療委員会）
小児精神医療入門：新シリーズ(2)子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について

司会：**松本 英夫** 東海大学医学部専門診療学系精神科学
鈴村 俊介 東京都立大塚病院

WS10 〈講演者〉
山下 洋 九州大学病院子どものこころの診療部
岩坂 英巳 ハートランドしぎさん
中土井 芳弘 独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター
大重 耕三 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

〈コーディネーター〉 松本 英夫 東海大学医学部付属病院精神科

16:00〜18:00 ワークショップ 12
日常診療に治療ガイドラインは役に立つのか？
※本ワークショップは事前にお申し込みされた方のみご参加可能です

司会：**渡邊 衡一郎** 杏林大学医学部付属病院
稲田 健 東京女子医科大学病院

WS12 〈講演者〉
橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部
山田 恒 兵庫医科大学
飯田 仁志 福岡大学
福本 健太郎 岩手医科大学
古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座
小松 浩 宮城県立精神医療センター
菊地 紗耶 東北大学
稲垣 貴彦 琵琶湖病院
大井 一高 金沢医科大学
木戸 幹雄 富山大学
中村 敏範 信州大学
今村 弥生 杏林大学精神神経科学教室
根本 清貴 筑波大学
村岡 寛之 東京女子医科大学医学部精神医学講座
長澤 達也 金沢医科大学

〈コーディネーター〉 橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部付属病院
稲田 健 東京女子医科大学病院

6月21日（金） Q会場（万代島ビル 6F）［会議室］

8:30～10:30 Fellowship Award Symposium 3
Case Vignette

Chairpersons：**Michael First** Columbia University / New York State Psychiatric Institute
Tomohiro Shirasaka Department of Psychiatry, Teine Keijinkai Hospital

FAS3-1 **Current situation and multimodal treatment of gaming disorder in Switzerland –A short overview**

○Michael Wallies
Psychiatric Clinic Clienia Littenheid of Thurgau, Switzerland

FAS3-2 **Internet Gaming Disorder：a worrying, controversial and emerging disorder**

○Óscar Soto
Department of Psychiatry, Vall d'Hebrón University Hospital, Spain

FAS3-3 **A review of internet gaming disorder in Thailand**

○Pavita Chongsuksiri
Buddhachinaraj Hospital, Thailand

FAS3-4 **How should we diagnosis and treat the Internet use disorder and gaming disorder ?**

○Shou Fukushima
Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Michinoo Hospital

〈Coordinator〉 Tomohiro Shirasaka：Department of Psychiatry, Teine Keijinkai Hospital

10:40～12:40 Fellowship Award Symposium 4
Case Vignette

Chairpersons：**Susumu Higuchi** National Hospital Organization Kurihama Medical and Addiction Center
Kumi Aoyama Yokohama city university, Department of child psychiatry

FAS4-1 **Gaming disorder in Belgium and Belgian perspectives on the situation of Patient A**

○Camille Noël[1,2]
[1]Department of Psychiatry, Saint-Luc University Hospital, Belgium、[2]Child and adolescent psychiatry hospital La Petite Maison ACIS, Belgium

FAS4-2 **Internet gaming disorder and internet-related problems in Singapore**

○Chau Sian Lim
Department of Psychological Medicine, Changi General Hospital, Singapore

FAS4-3 **A Neglected Disorder in the United States –Internet Gaming Disorder**

○Zijie Su
Maimonides Medical Center, USA

FAS4-4 **Current state and issues regarding gaming disorder in Japan**

○Nozomu Oya
Department of psychiatry, Kyoto Prefectural University of Medicine/Certified-NonProfit Organizatin Japan Young Psychiatrists Organization

〈Coordinator〉 Kumi Aoyama：Yokohama city university, Department of child psychiatry

13:50～15:50 Leaders Round Table（国際委員会）
アジア太平洋地域各国における精神科の多職種チーム医療について

Chairpersons：**岸本 年史** Japanese Society of Psychiatry and Neurology
秋山 剛 Japanese Society of Psychiatry and Neurology

[Speakers]
Bruce Schwartz American Psychiatric Association
Saul Levin American Psychiatric Association
John Allan The Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists
Andrew Peters The Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists
Shih-Cheng Liao Taiwanese Society of Psychiatry
西村 勝治 東京女子医科大学医学部精神医学講座
筒井 順子 東京女子医科大学医学部精神医学講座
秋山 剛 Japanese Society of Psychiatry and Neurology

〈Coordinator〉 秋山 剛 NTT東日本関東病院精神科精神神経科

16:00～18:00 シンポジウム 59
精神疾患における神経炎症の役割～バイオマーカー開発から病態解明まで

司会：**竹林 実** 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野

S59-1 **せん妄のエピジェネティクスと炎症性サイトカイン遺伝子における DNA メチル化解析**
○篠崎 元
University of Iowa Department of Psychiatry

S59-2 **うつ病における神経炎症の役割**
○岩田 正明
鳥取大学医学部精神行動医学分野

S59-3 **神経炎症抑制に着目した統合失調症の新規治療法開発**
○金沢 徹文
大阪医科大学神経精神医学教室

S59-4 **心因性疼痛における神経炎症の役割**
○朴 秀賢
神戸大学大学院医学研究科精神医学分野

〈コーディネーター〉 朴 秀賢 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野
篠崎 元 アイオワ大学精神科

6月21日（金） ポスター会場1（センター 2F）［エスプラナード］

12:50～13:38 一般演題（ポスター）30
統合失調症 14

司会：**菅原 典夫** 獨協医科大学精神神経医学講座

2-P30-1 **統合失調症入院例ケースビネットへの精神科医の抗精神病薬選択**

○宮田 量治[1]、三澤 史斉[1]、藤井 康男[1]、武田 俊彦[2]、内田 裕之[3]
[1]地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院精神科、[2]公益財団法人慈圭会慈圭病院、[3]慶應義塾大学病院

2-P30-2 **初回エピソード統合失調症における松果体体積減少**

○高橋 努[1]、中村 美保子[1]、笹林 大樹[1]、西川 祐美子[1]、高柳 陽一郎[1]、古市 厚志[1]、木戸 幹雄[1]、野口 京[2]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、[2]富山大学大学院医学薬学研究部放射線診断・治療学講座

2-P30-3 **統合失調型障害における松果体体積減少**

○高橋 努[1]、中村 美保子[1]、笹林 大樹[1]、西川 祐美子[1]、高柳 陽一郎[1]、古市 厚志[1]、木戸 幹雄[1]、野口 京[2]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、[2]富山大学大学院医学薬学研究部放射線診断・治療学講座

2-P30-4 ***KDM4C* 遺伝子における稀なバリアントと統合失調症および自閉スペクトラム症との関連**

○加藤 秀一、石塚 佳奈子、木村 大樹、久島 周、アレクシッチ ブランコ、尾崎 紀夫
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

2-P30-5 **統合失調症患者における SETD1A 遺伝子のシーケンス**

○森川 亮、井桁 裕文、渡部 雄一郎、保谷 智史、澁谷 雅子、江川 純、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

2-P30-6 **維持透析を継続することができた過飲水を繰り返す統合失調症の 1 例**

○萩倉 祥一、萩倉 美奈子、藤田 潔
桶狭間病院藤田こころケアセンター精神科

12:50～13:38 一般演題（ポスター）31
認知症 2

司会：**横山 裕一** 新潟大学医歯学総合研究科精神医学分野

2-P31-1 **免疫療法が奏功した“treatable”DLB の 1 例**

○阿部 紀絵、千葉 悠平、戸代原 奈央、許 博陽、吉見 明香、須田 顕
横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門

2-P31-2 **意味性認知症と自閉症スペクトラムは似ているのか？ PARS 思春期・成人期得点を用いた検討**

○佐久田 静[1]、橋本 衛[1]、髙﨑 昭博[2]、小山 明日香[1]、福原 竜治[2]、石川 智久[2]、宮川 雄介[2]、日髙 洋介[1]、兼田 桂一郎[3]、鈴木 真希[4]、堀田 牧[5]、欠田 恭輔[5]、末廣 聖[5]、池田 学[5]、竹林 実[1]
[1]熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野、[2]熊本大学医学部附属病院神経精神科、
[3]財団法人杏仁会くまもと青明病院、[4]大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄附講座、
[5]大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

2-P31-3 **病初期にウェルニッケ脳症と診断されていたハンチントン病の一例**

○竹之下 慎太郎、寺田 整司、冨永 悟、山田 了士
岡山大学病院

2-P31-4 **多様な精神症状を呈し診断に苦慮した前頭側頭型認知症の一例**

○丸茂 晋平[1]、北條 彩[1]、河上 緒[2]、渋川 茉莉[3]、仙石 練平[2,3]、亀山 征史[4]、徳丸 阿耶[4]、村山 繁雄[2,3]、中村 満[1]
[1]成増厚生病院精神科、[2]東京都健康長寿医療センター研究所神経病理学研究、
[3]東京都健康長寿医療センター神経内科、[4]東京都健康長寿医療センター放射線診断科

2-P31-5 **認知症病棟におけるインシデント・アクシデント報告の特徴**

○北尾 淑惠、笠原 俊彦
医療法人社団葛野会木野崎病院

2-P31-6 **軽度認知障害（MCI）の人への補償運転指導とその後の経過～道路交通法改正以前の 74 例について～**

○森田 昌宏[1,2]、田中 晋[1,2]、田中 弘[2]、田中 政春[2]
[1]特定医療法人楽山会三島病院認知症疾患医療センター精神科、[2]特定医療法人楽山会三島病院

12:50～13:38 一般演題（ポスター）32
認知症 3

司会：**山内 繁**　大阪医科大学附属病院

2-P32-1 **精神科病床での入院治療が求められる認知症患者の行動・心理症状に関する前向き多施設共同調査**

○互 健二[1]、品川 俊一郎[1]、上村 直人[2]、繁信 和恵[4,6]、樫林 哲雄[5]、東 眞吾[3]、吉山 顕次[3]、池田 学[3]、繁田 雅弘[1]、數井 裕光[2]
[1]東京慈恵会医科大学精神医学講座、[2]高知大学神経精神科学教室、[3]大阪大学医学部附属病院神経科精神科、
[4]公益財団法人浅香山病院、[5]兵庫県立リハビリテーション西播磨病院、
[6]大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄附講座

2-P32-2 **抗認知症薬の 6 ヶ月後の治療反応性はその後の転帰に影響するか**

○堀越 翔[1]、國井 泰人[2]、松本 純弥[1]、平尾 美枝子[3]、後藤 大介[4]、三浦 至[1]、矢部 博興[1]
[1]福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、[2]福島県立医科大学会津医療センター附属病院、
[3]福島県厚生農業協同組合連合会高田厚生病院、[4]福島県精神保健福祉センター

2-P32-3 **認知症スクリーニングテストと MRI 画像統計解析所見を用いた非認知症群についての検討**

○山下 裕之[1,2,3]、森田 喜一郎[1,2]、小路 純央[1,2]、加藤 雄輔[1,2]、吉本 幸治[1,2]、佐藤 守[1,2]、大川 順司[1,2]、内村 直尚[1,2]
[1]久留米大学精神神経科、[2]久留米大学高次脳疾患研究所、[3]鎌田医院

2-P32-4 **早期より介入を行った若年性アルツハイマー型認知症の一例**

○有田 正知[1,2,4]、川尻 玲子[2]、渡邉 徹[3]、中村 令子[4]、有田 要[2]
[1]新潟大学医歯学総合病院精神科、[2]医療法人社団有心会有田病院、[3]大杉脳外科医院、[4]特別養護老人ホームくるま乃

2-P32-5 **生前アルツハイマー型認知症と診断されていた進行性核上性麻痺の剖検例**

○田中 弘[1]、田中 秀智[2]、清水 宏[2]、柿田 明美[2]、高橋 均[2]
[1]医療法人楽山会三島病院医局、[2]新潟大学医歯学総合病院

12:50～13:38 一般演題（ポスター）33
認知症 4

司会：**高江洲 義和**　杏林大学医学部精神神経科学教室

2-P33-1 **Alzheimer 型認知症の BPSD と脳内 Dopamine 神経系の関連**

○宇土 仁木[1]、橋本 直樹[1]、中川 伸[2]、豊永 拓哉[3]、大柳 有加[1]、北川 寛[1]、成田 尚[1]、久住 一郎[1]
[1]北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室、[2]山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座、
[3]北海道大学大学院医学研究院放射線科学分野核医学教室

2-P33-2 **認知症初期集中支援チームと精神科医療の関わり**

○佐野 英孝、小林 定之、五十嵐 恵子、渡辺 宜子
白根緑ケ丘病院精神科

2-P33-3 **高齢者の認知機能検査と microRNA137 Variable Nucleotide tandem Repeat**

○宮内 雅利[1,2,3]、Alfredo Ramos Miguel[3,4]、Ryan Yan[3]、William Honer[3]
[1]医療法人誠心会神奈川病院、[2]公立大学法人横浜市立大学附属病院精神科、[3]Department Psychiatry, University of British Columbia、[4]Department of Pharmacology, University of the Basque Country

2-P33-4 **地域住民健診における認知機能低下と生活習慣病の身体指標の横断的関連性**

○武用 百子[1]、辻 富基美[2]、高橋 隼[2]、山田 信一[2]、服部 園美[3]、上松 右二[3]、鵜飼 聡[2]
[1]和歌山県立医科大学看護キャリア開発センター、[2]和歌山県立医科大学神経精神医学教室、
[3]和歌山県立医科大学保健看護学部

2-P33-5 **アルツハイマー病に対する免疫グロブリン療法の有用性の検討：系統的レビューとメタ解析**

○奥谷 理[1]、松永 慎史[1,2]、生田 敏一[3]、大矢 一登[1]、佐久間 健二[1]、野村 郁雄[1]、岸 太郎[1]、
岩田 仲生[1]
[1]藤田医科大学病院精神神経科学、[2]藤田医科大学病院認知症・高齢診療科、
[3]ミシシッピ大学応用科学部コミュニケーション障害学科

2-P33-6 **亜急性に認知機能低下を呈した深部脳静脈血栓症の 1 例**

○下出 崇輝[1]、上村 永[1]、村田 佳子[1]、松尾 幸治[1]、太田 敏男[2]
[1]埼玉医科大学病院神経精神科、[2]さやま総合クリニック

12:50～13:38 一般演題（ポスター）34
脳器質性症状性精神障害 1

司会：**坪井 貴嗣**　杏林大学医学部精神神経科学教室

2-P34-1 **著しい精神運動興奮により措置入院に至った抗 NMDA 受容体脳炎の 1 例**

○湯川 尊行[1]、小澤 鉄太郎[2]、寺島 健史[2]、伊藤 岳[2,4]、渡部 雄一郎[1,3]、信田 慶太[1,5]、菊地 佑[1,6]、
染矢 俊幸[3]
[1]魚沼基幹病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター神経内科、
[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[4]新潟県立新発田病院神経内科、[5]大島病院、[6]福島県立矢吹病院

2-P34-2 **外傷性頭部損傷後にハイパーモラル症候群を呈した 1 例**

○船越 得一、宮崎 大輔、瀬戸 秀文、山本 智一、高橋 克朗
長崎県精神医療センター

2-P34-3 **熱中症後に海馬の異常所見と記憶障害を認めた器質性健忘症候群の一例 –1 年後の経過を含めて**

○古市 厚志[1]、中田 翔太郎[1]、坂田 香[1]、吉野 修[2]、山口 幸志[1]、木戸 幹雄[1]、高柳 陽一郎[1]、
高橋 努[1]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学医学部附属病院神経精神科、[2]富山県リハビリテーション病院・こども支援センターリハビリ科

2-P34-4 **間歇型一酸化炭素中毒に対して長期間高圧酸素療法を施行した 2 症例 –経時的な認知機能検査結果も併せて**

○三瀬 耕平、若山 由賀里、車地 暁生
東京医科歯科大学医学部附属病院精神科

2-P34-5 **プラダー・ウイリー症候群（思春期）の心理行動症状と感覚プロフィールについて**

○齊間 草平[1]、窪田 悠希[1,3]、高橋 麻美[1,2]、石井 惇史[1,4]、尾形 広行[1]、佐山 真之[1]、村上 信之[5]、
大戸 佑二[5]、永井 敏郎[6]、井原 裕[1]
[1]獨協医科大学埼玉医療センターこころの診療科、[2]医療法人至信会池沢神経科病院、[3]医療法人社団啓心会岡田病院、
[4]独立行政法人国立病院機構花巻病院、[5]獨協医科大学埼玉医療センター小児科、[6]中川の郷療育センター

2-P34-6 **ステロイドパルス療法とリハビリにより改善した間歇型一酸化炭素中毒の 1 例**

○木戸 幹雄[1]、古市 厚志[1]、山口 幸司[1]、西川 祐美子[1]、陸田 典和[1]、坂田 香[2]、赤﨑 有紀子[2]、
西山 志満子[1]、高柳 陽一郎[1]、高橋 努[1]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部精神神経医学教室神経精神科、[2]富山大学附属病院

12:50～13:38 一般演題（ポスター）35
脳器質性症状性精神障害 2

司会：**大河内 智**　藤田医科大学精神神経学

2-P35-1 **千葉大学医学部附属病院におけるせん妄予防のストラテジー～日本語版 4A's Test(4AT-J)を用いて～**

○長谷川 直[1]、瀬尾 智美[1]、須藤 知子[1]、横田 久美[1]、村中 晃[2]、宮崎 尚[3]、酒井 郁子[4]
[1]千葉大学医学部附属病院、[2]医療法人淳英会おゆみの中央病院、[3]こころの杜クリニック、
[4]千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター

2-P35-2 **睡眠薬としてのスボレキサント導入前後におけるせん妄コンサルテーション件数の推移**

○立花 昌子[1,2]、稲田 俊也[2]、市田 勝[1]、兒嶋 しほり[1]、新井 孝文[3]、内藤 桂子[4]、尾崎 紀夫[2]
[1]名古屋掖済会病院精神科、[2]名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、[3]名古屋掖済会病院薬剤部、
[4]名古屋掖済会病院医療安全対策室

2-P35-3 **発症後 3 年で発作間欠期に精神病症状を呈した右前頭葉神経膠腫に併発した症候性てんかんの一例**

○石川 英一[1]、白石 渉[2]、秦 暢宏[3]、大橋 綾子[4]、平野 羊嗣[4]、神庭 重信[4]
[1]九州大学病院精神科神経科、[2]九州大学大学院医学研究院神経内科学、[3]九州大学大学院医学研究院脳神経外科学、
[4]九州大学大学院医学研究院精神病態医学

2-P35-4 **くも膜下出血に対する前交通動脈クリッピング術後に強迫症状を呈した一例**

○宮下 真子、橘 輝、三上 剛明、保谷 智史、染矢 俊幸
新潟大学医歯学総合病院精神科

2-P35-5 **一過性の失行を認めた高マンガン血症・高アンモニア血症の一例**

○稲山 靖弘、渡辺 浩年
渡辺病院医局

12:50～13:38 一般演題（ポスター）36
脳器質性症状性精神障害 3

司会：**小林 良太**　山形大学医学部精神医学講座

2-P36-1 **ステロイド反応性の認知機能障害を呈し、神経サルコイドーシスが疑われた一例**

○新堀 隼也[1]、石川 智久[1]、田中 響[1]、菅原 裕子[1]、髙﨑 昭博[1]、橋本 衛[1,2]、竹林 実[1,2]
[1]熊本大学医学部附属病院神経精神科、[2]熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野

2-P36-2 **抗 NMDA 受容体脳炎との鑑別が問題になった器質性解離性障害の 1 例；症例アンナ O.との比較**

○大賀 健太郎[1,2]、根本 安人[3]、奥平 智之[3]
[1]日本大学医学部精神医学系精神医学分野、[2]東雲メンタルヘルス研究室、[3]医療法人山口病院

2-P36-3 **妊娠経過中に躁症状や精神病症状を呈し、内分泌疾患が判明するまで診断に苦慮した 1 症例**

○蓬莱 政[1]、青山 慎介[1]、大塚 郁夫[1]、新名 尚史[1]、森脇 光信[2]、倉持 裕子[2]、曽良 一郎[1]
[1]神戸大学大学院医学研究科精神医学分野、[2]神戸大学医学部附属病院看護部

2-P36-4 **無症候性に進行し躁症状で発見された神経梅毒の一例**

○井上 絵美子[1]、谷 卓[2]、小澤 鉄太郎[2]、寺島 健史[2]、湯川 尊行[1]、有波 浩[3]、恩田 啓伍[1]、染矢 俊幸[3]
[1]魚沼基幹病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター神経内科、
[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

2-P36-5 **産後うつ病として治療されていたクッシング症候群の 1 例**

○湯川 尊行[1]、小松 健[2]、小原 伸雅[2]、土田 雅史[3]、若杉 正嗣[4]、井上 絵美子[1]、有波 浩[1,5]、恩田 啓伍[1]、染矢 俊幸[5]
[1]魚沼基幹病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター内分泌・代謝内科、
[3]新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター腎臓内科、[4]魚沼基幹病院整形外科、
[5]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

2-P36-6 **運動ニューロン疾患を伴う前頭側頭葉変性症におけるドパミン神経機能異常 –DAT-SPECT を用いた検討–**

○小林 良太[1]、川勝 忍[2]、林 博史[1]、大谷 浩一[1]
[1]山形大学医学部精神医学講座、[2]福島県立医大会津医療センター精神医学講座

6月21日（金） ポスター会場2（センター 2F）［メインホールAB前ホワイエ］

12:50～13:38 一般演題（ポスター）37
アルコール・薬物依存、行動嗜癖

司会：**合川 勇三** 埼玉県立精神医療センター

2-P37-1 **幼少からのゲームの習慣的使用はその後の依存的使用と関連する**

○中山 秀紀、松﨑 尊信、三原 聡子、北湯口 孝、前園 真毅、橋本 琢磨、樋口 進
独立行政法人国立病院機構久里浜アルコール症センター

2-P37-2 **Bupropion の過量服薬により中毒症状を呈した境界性パーソナリティー障害の一例**

○高山 敏樹、黄田 常嘉、西紋 昌平、柴田 展人、大沼 徹、新井 平伊
順天堂大学医学部精神医学教室

2-P37-3 **大学病院における嗜癖障害患者に対する集団療法の特徴（北里大学東病院の場合）**

○朝倉 崇文[1,2]、常岡 俊昭[3]、寺島 玲奈[1]、緒方 慶三郎[1]、蒲生 裕司[4]、大石 智[1]、松本 俊彦[5]、宮岡 等[1]
[1]北里大学東病院精神神経科、[2]北里大学大学院医療系研究科、[3]昭和大学附属烏山病院、[4]こころのホスピタル町田、[5]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

2-P37-4 **大学病院における嗜癖障害患者に対する集団療法の特徴（昭和大学附属烏山病院の場合）**

○常岡 俊昭[1]、朝倉 崇文[2]、小野 英里子[1]、横山 佐知子[1]、川合 秀明[1]、岩見 有里子[1]、長塚 雄大[1]、山田 真理[1]、松本 俊彦[3]、岩波 明[1]
[1]昭和大学附属烏山病院医学部精神医学講座、[2]北里大学病院精神神経科、[3]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

2-P37-5 **エナジードリンクの長期飲用を中止直後に統合失調症様症状が出現した 1 例**

○恩田 啓伍[1]、湯川 尊行[1]、井上 絵美子[1]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院、[2]新潟大学医歯学総合病院

2-P37-6 **3D-SSP 法を用いたアルコール性認知症の特異的脳血流低下部位同定の試み**

○白坂 知彦[1]、常田 深雪[1]、木村 永一[1]、齋藤 利和[2]
[1]手稲渓仁会病院精神保健科、[2]北仁会幹メンタルクリニック

12:50～13:38 一般演題（ポスター）38
老年期精神障害

司会：**小林 直人** 医療法人湖山荘あずま通りクリニック

2-P38-1 **アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症における嗅覚識別テストの特性**

○小路 純央[1,2]、森田 喜一郎[1,2]、山下 裕之[1,2]、加藤 雄輔[1,2]、吉本 幸治[1,2]、佐藤 守[1,2]、柳本 寛子[1]、内村 直尚[1,2]
[1]久留米大学医学部神経精神医学講座、[2]久留米大学高次脳疾患研究所

2-P38-2 **ブロナンセリンが著効した皮膚寄生虫妄想の 1 例**

○萩野谷 真人
医療法人圭愛会日立梅ヶ丘病院精神神経科

2-P38-3 **双極性障害で加療中、緩徐に進行する認知機能低下が出現し CADASIL が疑われた 1 例**

○上馬塲 伸始[1]、大竹 裕美[1]、大塚 道人[1]、野崎 洋明[2]、牧野 邦比古[2]
[1]新潟県立新発田病院精神科、[2]新潟県立新発田病院神経内科

2-P38-4 **認知機能トレーニングおける運動習慣、処理速度と実行機能の関連**

○根本 清貴[1]、レボウイッツ アダム[2]、山田 典子[3]、臼庭 等[3]、田村 昌士[3]、石川 和宏[4]、所 圭吾[5]、新井 哲明[1]
[1]筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学、[2]自治医科大学総合教育部門、[3]茨城県立こころの医療センター、[4]医療法人社団八峰会池田病院、[5]Rise total support

2-P38-5 **記憶障害とパーキンソニズムで発症し幻視、喚語困難、被害・嫉妬妄想を呈した 83 歳女性の一剖検例**

○関口 裕孝[1,2]、入谷 修司[3]、鳥居 洋太[3]、吉田 眞理[4]、藤田 潔[1]
[1]桶狭間病院藤田こころケアセンター、[2]NPO法人脳神経オーダーメード医療研究センター、[3]名古屋大学医学部付属病院、[4]愛知医科大学病院

2-P38-6 **認知症補助診断としてのポケット嗅覚識別テストの有用性の検討：その 2**

○柳本 寛子[1]、小路 純央[1,2]、山下 裕之[1,2]、加藤 雄輔[1,2,4]、吉本 幸治[1,2]、佐藤 守[1,2]、鬻久 裕貴[2]、内村 直尚[1,2]、森田 喜一郎[2,3]
[1]久留米大学医学部神経精神医学講座、[2]久留米大学高次脳機能疾患研究所、[3]特定医療法人社団相和会中村病院、[4]医療法人雄仁会加藤病院

12:50～13:38 一般演題（ポスター）39
コンサルテーション・リエゾン 1

司会：**大塚 道人**　新潟県立新発田病院

2-P39-1 **睡眠薬・抗不安薬の多剤併用の要因に関する研究：身体合併症の関与**

○酒井 要、金井 裕彦、中村 英樹、山内 茜、西嶋 長
長浜赤十字病院

2-P39-2 **日本・ベナン精神科医療情報交換会の報告**

○増田 将人[1]、吉川 潔[2]、ガンスー マグロワール[3]、アヤイアイ ガルベール[3]、木下 利彦[4]、岸本 年史[5]、川嵜 弘詔[1]
[1]福岡大学医学部附属病院精神医学教室、[2]在ベナン日本国大使館、[3]ベナン国立大学精神科病院、[4]関西医科大学精神神経科、[5]奈良県立医科大学精神医学講座

2-P39-3 **救急医療における心理職へのニーズの検討～東北大学病院高度救命救急センターでの臨床心理士の活動から～**

○中川 高[1,2]、富田 博秋[1,2,3]、野村 亮介[4]、井上 昌子[4]、町田 雄一郎[5]、和田 努[6]、佐久間 篤[3]、久志本 成樹[1,4]
[1]東北大学大学院医学系研究科、[2]東北大学東北メディカル・メガバンク機構予防医学・疫学部門、[3]東北大学病院精神科、[4]東北大学病院高度救命救急センター、[5]東北大学病院地域医療連携センター、[6]仙台市立病院精神科

2-P39-4 **救命救急センターでのコンサルテーション・リエゾン精神科診療における高齢患者に関する検討**

○渡邊 公聡[1]、赤羽 晃寿[1]、矢倉 朱緒[1]、松村 謙一[1]、池淵 恵美[1,2]
[1]帝京大学医学部精神神経科学講座、[2]帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

2-P39-5 **救急入院となった心不全患者におけるせん妄 –精神科リエゾン活動による早期介入–**

○和田 健[1]、板垣 圭[1]、増田 慶一[1]、山下 理英子[1]、石川 亮[1]、倉田 明子[2]、岩本 崇志[3]
[1]広島市立病院機構広島市立広島市民病院精神科、[2]広島大学病院精神科緩和ケアチーム、[3]広島中央通りメンタルクリニック

2-P39-6 **身体合併症のために当科へ入院を要した症例の検討**

○小池 香、瀬戸 愛生、小川 道、山﨑 あずさ、竹内 澄子、松田 久実、赤田 弘一、齋賀 孝久、佐藤 茂樹
成田赤十字病院精神神経科

12:50〜13:38　一般演題（ポスター）40
コンサルテーション・リエゾン2

司会：**菊池 結花**　秋田大学医学部附属病院精神科

2-P40-1　高齢患者の術後せん妄発症に対する術前認知機能障害・不安の影響について

○金尾 亮[1]、森田 幸代[1,2]、角 幸頼[1]、吉村 篤[1]、飯田 洋也[3]、角谷 寛[4]、清水 智治[3]、谷 眞至[3]、山田 尚登[1,5]
[1]滋賀医科大学精神医学講座、[2]滋賀医科大学腫瘍センター、[3]滋賀医科大学外科学講座、
[4]滋賀医科大学睡眠行動医学講座、[5]社会医療法人杏嶺会上林記念病院

2-P40-2　佐賀大学医学部附属病院におけるアセナピンの使用経験

○村川 徹
佐賀大学医学部附属病院精神神経科

2-P40-3　造血細胞移植患者のストレスコーピングと無菌室入室中の精神症状との関連について

○伊丹 寛二[1]、須藤 武司[1]、牧山 篤[1]、渡辺 俊太朗[1]、高橋 有記[1]、前原 瑞樹[1]、赤間 史明[1]、矢野 広[1,2]、大西 雄一[1]、鬼塚 真仁[3]、三上 克央[1]、松本 英夫[1]、山本 賢司[1]
[1]東海大学医学部専門診療学系精神科学、[2]東海大学医学部専門診療学系緩和医療学、
[3]東海大学医学部内科学系血液・腫瘍学

2-P40-4　流産・死産によるグリーフプロセスに影響を及ぼす心理社会的因子の検討

○岸本 真希子、立花 良之
国立成育医療研究センター乳幼児メンタルヘルス診療科

2-P40-5　造血細胞移植患者の精神症状と退院後の QOL について

○牧山 篤[1]、須藤 武司[1]、伊丹 寛二[1]、柴崎 文太[1]、土屋 博基[1]、前原 瑞樹[1]、赤間 史明[1]、矢野 広[3]、大西 雄一[1]、鬼塚 真仁[2]、三上 克央[1]、松本 英夫[1]、山本 賢司[1]
[1]東海大学医学部付属病院専門診療学系精神学科、[2]東海大学医学部付属病院内科学系血液・腫瘍内科、
[3]東海大学医学部付属病院医学部緩和ケア科

12:50〜13:38　一般演題（ポスター）41
社会精神医学または多文化精神医学

司会：**桂川 修一**　東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック

2-P41-1　統合失調症における妄想の性別的特性

○植村 智子[1]、井上 由美子[1,3]、山田 和男[4]、菊池 健[1]、神庭 重信[2]
[1]財団法人井之頭病院精神科、[2]九州大学病院、[3]新百合ケ丘スマイルメンタルクリニック、[4]東北医科薬科大学病院

2-P41-2　雲仙普賢岳噴火災害 25 年後調査：ストレス障害の長期経過と心的外傷後成長（PTG）

○木下 裕久[1]、中根 秀之[2]、太田 保之[6]、野中 俊輔[3]、森本 芳郎[3]、松坂 雄亮[3]、金替 伸治[4]、倉田 青弥[3]、中野 健[1]、野畑 宏之[1]、山口 尚宏[3]、本田 純久[5]、今村 明[4]、小澤 寛樹[3]
[1]長崎大学病院精神科神経科、[2]長崎大学大学院医歯薬学総合研究科リハビリテーション学科、
[3]長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学講座精神神経科学、
[4]長崎大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経学地域連携児童思春期精神医学診療講座、
[5]長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学科看護学専攻、[6]西九州大学作業療法学科

2-P41-3　わが国の DV（ドメスティック・バイオレンス）被害者の現状と課題〜裁判訴訟判例の検討〜

○森下 順子、須田 史朗
自治医科大学精神医学講座

2-P41-4　ひきこもり当事者が講師として参加する集団支援

○井川 大輔[1,2]、金谷 尚佳[1]、岩田 光宏[3]
[1]堺市こころの健康センター、[2]奈良県立医科大学精神医学講座、[3]堺市障害者更生相談所

2-P41-5 **WHODAS2.0 による関西医科大学総合医療センター精神科病棟の後方視的観察**

○青木 宣篤、西田 圭一郎、越川 陽介、木下 利彦
関西医科大学総合医療センター

2-P41-6 **東日本大震災被災地における中長期的な心理社会的支援の実態と課題**

○瀬戸 萌[1,2,3]、富田 博秋[1,2,3,6]、根本 晴美[2]、小林 奈津子[3]、金 吉晴[4,5]
[1]東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野、[2]東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野、
[3]東北大学病院精神科、[4]国立精神・神経医療研究センター成人精神保健福祉部、
[5]国立精神・神経医療研究センターストレス災害時こころの情報支援センター、
[6]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

6月21日（金） ポスター会場3（センター 2F）［201前ホワイエ］

12:50～13:38 **一般演題（ポスター）42**
統合失調症 15

司会：**吉益 晴夫** 埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック

2-P42-1 **意思決定支援により直腸癌の手術同意に至った統合失調症の 1 例**
○齊藤 隆晴、古市 厚志、関 有理沙、樋口 悠子、高柳 陽一郎、高橋 努、鈴木 道雄
富山大学付属病院神経精神科

2-P42-2 **高用量のクロザピンに加えバルプロ酸による増強療法を導入し退院可能となった治療抵抗性統合失調症の一例**
○池水 結輝、小吉 伸治、金 悠七、山本 千尋、焼田 まどか、町澤 暁、髙瀬 正幸、木村 敦史、新津 富央、石川 雅智、伊豫 雅臣
千葉大学医学部付属病院精神神経科

2-P42-3 **遅発性ジスキネジアがアリピプラゾールで軽快した一例**
○大久保 瑠璃、福山 孝治、岡田 元宏
三重大学医学部附属病院精神神経科

2-P42-4 **地方総合病院における統合失調症患者の死因調査**
○玉置 敦之[1,2]、辻 富基美[2]、上野 半兵衛[1]、鵜飼 聡[2]
[1]国保野上厚生総合病院神経精神科、[2]和歌山県立医科大学神経精神医学教室

2-P42-5 **統合失調症圏の患者に対する精神科リエゾン診療の現状と課題**
○前田 佑樹、大橋 綾子、磯村 周一、神庭 重信、平野 羊嗣、鬼塚 俊明
九州大学病院

6月21日（金） ポスター会場4（センター 3F）［301・302前ホワイエ］

12:50～13:38 一般演題（ポスター）43
脳器質性症状性精神障害 4

司会：**井上 眞**　やまと精神医療センター

2-P43-1 **当院における身体科入院患者のせん妄における薬物療法の比較検討**

○大迫 鑑顕[1,2]、林 果林[1,3]、中川 萌以[1]、関 昭宏[1]、大熊 孝裕[1]、倉田 勉[1]、橋本 佐[1,2]、
大掛 真太郎[1]、鈴木 均[1]、石毛 稔[1]、菊池 周一[1]
[1]袖ヶ浦さつき台病院精神科、[2]千葉大学大学院医学研究院精神医学教室、
[3]東邦大学医療センター佐倉病院精神神経医学研究室

2-P43-2 **ハンチントン病に伴う精神症状・行動障害の後方視的研究**

○永倉 暁人[1]、河上 緒[1,2]、梅田 健太郎[1]、今井 淳司[1]、齋藤 正彦[1]
[1]東京都立松沢病院精神科、[2]東京都健康長寿医療センター

2-P43-3 **悪性腫瘍の経過中に辺縁系脳炎の発症が疑われた症例**

○馬越 秋瀬[1]、筒井 幸[1]、石井 大介[2]、柴田 憲一[3]、神林 崇[1]、三島 和夫[1]
[1]秋田大学医学部付属病院、[2]平鹿総合病院消化器外科、[3]平鹿総合病院脳神経外科

2-P43-4 **間歇型一酸化炭素中毒にアマンタジンが奏功した 1 例**

○中野 智介、鈴木 大、元村 英史、城山 隆、福山 孝治、松本 竜介、加藤 遼、岡田 元宏
三重大病院精神科神経科

2-P43-5 **妊娠中に精神症状を呈し、急性間欠性ポルフィリン症が疑われた 1 例**

○坂上 仁[1]、横山 裕一[1]、折目 直樹[1]、恩田 啓伍[1]、竹内 真理[2]、佐藤 隆明[2]、福武 嶺一[2]、
金子 正儀[2]、堀内 綾乃[3]、生野 寿史[3]、高桑 好一[3]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学医歯学総合病院精神科、[2]新潟大学医歯学総合病院代謝内分泌内科、[3]新潟大学医歯学総合病院産科婦人科

2-P43-6 **慢性期に出現し被疑薬中止により改善した薬剤性せん妄 2 例の検討**

○梁取 慧、牧田 泉紀、田井 健、矢花 孝文
医療法人財団東京勤労者医療会みさと協立病院

12:50～13:38 一般演題（ポスター）44
ECT・ニューロモデュレーション 1

司会：**針間 博彦**　東京都立松沢病院精神科

2-P44-1 **ECT における有効けいれん発作を包括的に評価する Seizure qualiy categories を用いた後方視的研究**

○青木 宣篤、嶽北 佳輝、木下 利彦
関西医科大学精神神経科

2-P44-2 **自閉スペクトラム症に合併した精神病症状に対して電気けいれん療法が有効であった 4 例**

○藤巻 元、油田 直弥、福元 仁、久我 佳子、三好 紀子、岩永 英之、橋本 学
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

2-P44-3 **妊娠後期に修正型電気けいれん療法を施行し経腟分娩した、統合失調感情障害の 1 例**

○藤井 倫太郎、古澤 隆太朗、新開 隆弘、吉村 玲児
産業医科大学病院精神科

2-P44-4 **治療抵抗性統合失調症に対する電気けいれん療法とクロザピンの併用療法**

○陣門 洋平、深水 泰宏、橋本 学、久我 佳子、森松 友佳子、福山 順子、岩永 英之、
橋本 喜次郎
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

2-P44-5 **ラコサミドを併用し m-ECT を施行したカタトニア症候群の一例**

○長田 亮太[1]、美谷島 真理子[1]、荻原 朋美[2]、鷲塚 伸介[1,2]
[1]信州大学医学部付属病院精神医学教室、[2]信州大学医学部地域精神医療学講座

6月21日（金） ポスター会場5（センター 4F）［国際会議室前ホワイエ］

12:50～13:38 一般演題（ポスター）45
睡眠障害・その他

司会：**金沢 徹文** 大阪医科大学神経精神医学教室

2-P45-1 **夜型傾向は直接ではなく睡眠の問題を介して学生のうつ症状を引き起こす**

○志村 哲祥[1,2]、井上 猛[1]
[1]東京医科大学病院、[2]医療法人壽鶴会菅野病院

2-P45-2 **睡眠中の体動に伴う急激な心拍数の変化について**

○中島 亨[1]、神田 優太[2]、高江洲 義和[2]
[1]杏林大学保健学部臨床心理学科、[2]杏林大学医学部精神神経科学教室

2-P45-3 **一過性に統合失調症様症状を呈した非 24 時間睡眠覚醒症候群の一症例**

○坂本 隆行
三交病院精神科

2-P45-4 **閉塞性睡眠時無呼吸に対する質問紙を用いたスクリーニングに関する研究**

○山本 真太郎[1]、北島 剛司[1]、渡邊 晶子[1]、廣瀬 真里奈[1]、藤田 志保[2]、岩田 仲生[1]
[1]藤田医科大学病院精神科、[2]藤田医科大学病院臨床検査部

2-P45-5 **血清 BDNF 濃度と睡眠習慣の関連性：若年健常成人における性差について**

○斎藤 かおり、降旗 隆二、鈴木 正泰、高橋 栄、内山 真
日本大学医学部附属板橋病院精神科

2-P45-6 **エジンバラ産後うつ病質問票（EPDS）の妊娠中期における最適なカットオフ得点についての検討**

○臼田 謙太郎[1,2]、西 大輔[1,2,3]、岡﨑 絵美[1]、牧野 みゆき[4]、佐野 養[2]
[1]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所、[2]戸田中央産院、
[3]東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野/精神看護学分野、
[4]国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

12:50～13:38 一般演題（ポスター）46
児童・思春期精神障害および知的障害 2

司会：**岡田 俊** 名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科

2-P46-1 **長崎県佐世保市における学童の日常生活と潜在的うつ兆候についての研究**

○今村 弥生[1]、高江洲 義和[1]、苅田 香苗[2]、本田 純久[3]、渡邊 衡一郎[1]、小澤 寛樹[4]
[1]杏林大学医学部精神神経科学教室、[2]杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室、
[3]長崎大学大学院医歯薬学総合研究科看護学分野、[4]長崎大学病院精神科神経科

2-P46-2 **日本におけるメンタルヘルスリテラシーの向上をめざして～IACAPAP TEXTBOOK 翻訳の取り組み～**

○稲垣 貴彦[1,2]、岡田 俊[1,4]、中林 孝夫[1,5]、福地 成[1,6]、上野 千穂[1,7]、館農 勝[1,8]、藤田 純一[1,9]、
小野 善郎[1,3]
[1]IACAPAPテキストブック翻訳委員会、[2]医療法人明和会琵琶湖病院、[3]和歌山県精神保健福祉センター、
[4]名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科、[5]長浜赤十字病院精神神経科部、[6]みやぎ心のケアセンター、
[7]京都市児童福祉センター診療所、[8]特定医療法人さっぽろ悠心の郷ときわ病院、
[9]公立大学法人横浜市立大学附属病院精神科

2-P46-3 **小児 ADHD 患者におけるアトモキセチン投与量と血中濃度の関係性**

○吉永 清宏[1]、杉本 篤言[2]、鈴木 雄太郎[3,4]、折目 直樹[3]、林 剛丞[1]、小野 信[2]、須貝 拓朗[3]、
江川 純[3]、井上 義政[5]、染矢 俊幸[3]
[1]新潟県立精神医療センター精神科、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座、
[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[4]敬愛会末広橋病院、[5]獨協医科大学精神神経医学講座

2-P46-4 **発達障害としての治療が有効であった情緒、行動の問題を呈した Prader-Willi 症候群の女児の 1 例**

○熊代 奈津子[1,2]、野村 健介[1]
[1]島田療育センター、[2]医療法人社団東京愛成会高月病院

2-P46-5 **自閉スペクトラム症罹患同胞対 3 ペアのエクソーム解析**

○澁谷 雅子、渡部 雄一郎、保谷 智史、森川 亮、江川 純、杉本 篤言、井桁 裕文、林 剛丞、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

2-P46-6 **児童精神科初診患者における不安症状に関する診断横断的調査**

○岡 琢哉、荻野 和雄、吉村 桃、横山 貴和子、岡田 優、大倉 勇史
東京都立小児総合医療センター

12:50～13:38 一般演題（ポスター）47
児童・思春期精神障害および知的障害 3

司会：**齊藤 卓弥**　北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門

2-P47-1 **発達障害者の併存症と治療上の問題点**

○本田 教一、菅野 智美、志賀 忠夫、藤井 千太、田子 久夫
公益財団法人磐城済世会舞子浜病院医局

2-P47-2 **乳幼児健康診査に並行した半構造化行動観察（SACS-J）による自閉スペクトラム症診断の予測妥当性**

○上原 徹[1]、奥野 みどり[2]
[1]高崎健康福祉大学大学院・保健福祉学専攻、[2]日本医療科学大学保健医療学部

2-P47-3 **依存の治療における治療関係の重要性**

○青山 雅子
佐渇荘

2-P47-4 **成人患者の課題遂行中の前頭前皮質活動性と ADHD 症状の関連**

○杉本 篤言[1]、鈴木 雄太郎[2,3]、吉永 清宏[4]、折目 直樹[2]、林 剛丞[4]、小野 信[1]、須貝 拓朗[5]、江川 純[5]、染矢 俊幸[5]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学講座、[2]新潟大学医歯学総合病院精神科、[3]敬愛会末広橋病院、[4]新潟県立精神医療センター精神科、[5]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

2-P47-5 **Sluggish Cognitive Tempo の併存による不適応と考えられた発達障害の学生の 3 事例**

○大賀 健太郎[1,2]、横瀬 宏美[1]、今野 裕之[3]、室村 絵里香[4]、渡辺 登[5]、宮尾 益知[6]
[1]日本大学医学部精神医学系精神医学分野、[2]東雲メンタルヘルス研究室、[3]ブレインケアクリニック、[4]医療法人山口病院、[5]赤坂診療所、[6]どんぐり発達クリニック

2-P47-6 **DSM-5 診断における自閉症スペクトラム指数日本語版（AQ-J）の有用性について**

○吉永 清宏[1]、江川 純[2]、林 剛丞[1,2]、杉本 篤言[2]、新藤 雅延[3]、橘 輝[2]、北村 秀明[4]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟県立精神医療センター精神科、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[3]新潟市民病院精神科、[4]医療法人水明会佐渇荘

12:50～13:38 一般演題（ポスター）48
地域精神医療 1

司会：**市来 真彦**　東京医科大学精神医学分野

2-P48-1　院内死亡の高齢化 –単科精神科病院の死亡診断書調査–

○齋藤 暢是[1]、佐藤 謙伍[2]、小林 聡幸[1]、須田 史朗[1]
[1]自治医科大学附属病院、[2]広域紋別病院総合診療科

2-P48-2　東日本大震災と熊本地震の教訓に基づく精神科病院の災害対策の改善点

○富田 博秋[1]、山口 喜久雄[2]、富田 正徳[2]、矢田部 裕介[2]、犬飼 邦明[3]、相澤 明憲[4]、伴 亨[5]、
高階 憲之[6]、岩舘 敏晴[6]、菅野 庸[6]、渡部 康[7]、千葉 潜[8]、松田 ひろし[9]
[1]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、[2]熊本県精神保健福祉センター、[3]社会医療法人ましき会益城病院、
[4]特定医療法人佐藤会弓削病院、[5]平和台病院、[6]一般社団法人宮城県精神科病院協会、[7]一般財団法人桜ヶ丘病院、
[8]医療法人青仁会青南病院、[9]医療法人立川メディカルセンター柏崎厚生病院

2-P48-3　訪問診療における精神科医専門医の果たす役割

○中野 輝基
医療法人社団悠翔会在宅診療部診療部精神科

2-P48-4　周産期の不安・抑うつがボンディングに与える影響について

○橋尻 洸陽[1,2]、茂木 崇治[1]、福井 直樹[1]、坪谷 隆介[1]、須貝 拓朗[1]、江川 純[1]、三留 節子[3]、
荒木 理恵[3]、池 睦美[4]、生野 寿史[5]、山口 雅幸[5]、高桑 好一[6]、榎本 隆之[5]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟県立精神医療センター、[3]新潟大学医歯学総合病院看護部、
[4]新潟青陵大学大学院看護学研究科看護学部看護科、[5]新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科学分野、
[6]新潟大学医歯学総合病院総合周産期母子医療センター

2-P48-5　精神科訪問診療の可能性

○山田 治、五十嵐 薫、関 正寛、山田 理依、川﨑 智弘
医療法人崇徳会田宮病院

2-P48-6　妊産婦の発達特性が子へのボンディングに与える影響について

○坪谷 隆介[1]、茂木 崇治[1]、福井 直樹[1]、橋尻 洸陽[1]、須貝 拓朗[1]、江川 純[1]、三留 節子[2]、
荒木 理恵[2]、池 睦美[3]、生野 寿史[4]、山口 雅幸[4]、高桑 好一[5]、榎本 隆之[4]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟大学医歯学総合病院看護部、
[3]新潟青陵大学大学院看護学研究科看護学部看護科、[4]新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科学分野、
[5]新潟大学医歯学総合病院総合周産期母子医療センター

12:50～13:38 一般演題（ポスター）49
精神科救急

司会：**樋口 悠子**　富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座

2-P49-1　精神科救急症例における認知症疾患の増加と身体合併症が及ぼす転帰への影響：当センター 5 年間の検討

○六本木 知秀[1]、高橋 雄一[1]、野本 宗孝[1]、小田原 俊成[2]
[1]公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター、
[2]公立大学法人横浜市立大学保健管理センター

2-P49-2　妊産婦の精神科入院事例から考えられる臨床的課題について

○木村 文祥[1,2]、辻野 尚久[1,2]、田久保 陽司[1,2]、落 裕太[1,2]、齋藤 淳一[1,2]、池田 竜[1,2]、相川 祐里[1,2]、
山口 大樹[1]、片桐 直之[1]、根本 隆洋[1]、水野 雅文[1]
[1]東邦大学医学部精神神経医学講座、[2]済生会横浜市東部病院精神科

2-P49-3 **尿中薬物検査キット（MEDICAL STAT）でアンフェタミンが偽陽性を来したと考えられたグリホサート中毒の一例**

○工藤 瑞樹[1]、竹島 正浩[1]、吉沢 和久[2]、神林 崇[1]、三島 和夫[1]
[1]秋田大学医学部附属病院精神科、[2]市立大曲病院

2-P49-4 **当院における精神科救急病棟の現状と課題**

○熊田 智、川嶋 義章、豊岡 和彦、橋野 健一、新澤 秀範、鈴木 保穂、鈴木 好文、渋谷 太志
医療法人恵生会南浜病院精神科

2-P49-5 **厚生労働省自殺未遂者再企図防止事業：臨床現場におけるケース・マネージメント介入の実態**

○白石 将毅、石井 貴男、津山 雄亮、岩木 敦子、野呂 孝徳、成田 賢治、煤賀 隆宏、
田山 真矢、木川 昌康、河西 千秋
札幌医科大学附属病院

2-P49-6 **自殺報道と帝京大学附属病院救命救急センターでの自殺行動患者の受け入れとの関連についての検討**

○江村 康[1]、金田 渉[1]、松村 謙一[1]、赤羽 晃寿[1]、栃木 衛[1]、林 直樹[1]、池淵 恵美[1,2]
[1]帝京大学医学部附属病院メンタルヘルス科、[2]帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

12:50～13:38 一般演題（ポスター）50
ECT・ニューロモデュレーション２

司会：**小野 樹郎**　群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

2-P50-1 **撓骨遠位端骨折が修正型電気けいれん療法により生じた一例**

○森川 亮[1]、上馬塲 伸始[2]
[1]新潟大学医歯学総合病院精神科、[2]新潟県立新発田病院精神科

2-P50-2 **電気けいれん療法における使い捨て電極パッドの皮膚抵抗を下げるために使用する薬剤の介入研究**

○島野 朋也[1,2]、澤山 恵波[2]、夏山 卓[1,2]、大石 智[2]、齋藤 正範[2]、田中 克俊[1]、宮岡 等[2]
[1]北里大学大学院医療系研究科、[2]北里大学医学部精神科学

2-P50-3 **日本医科大学付属病院における継続・維持電気痙攣療法の現状について**

○坂寄 健、山本 憲、増岡 孝浩、朝山 健太郎、舘野 周、大久保 善朗
日本医科大学付属病院精神神経科

2-P50-4 **電気けいれん療法時のパルス幅変更による発作再誘発困難例への対応**

○朝山 健太郎、大矢 智之、鹿目 将至、坂寄 健、舘野 周、大久保 善朗
日本医科大学付属病院精神神経科

2-P50-5 **電気けいれん療法を精神科病棟で施行することについての調査**

○山本 憲、坂寄 健、朝山 健太郎、舘野 周、大久保 善朗
日本医科大学付属病院精神神経科

2-P50-6 **経頭蓋直流刺激による γ 帯域への効果の検討：無作為化二重盲検試験**

○宮岸 良彰[1]、池田 尊司[2]、高橋 哲也[3]、工藤 究[4]、森瀬 博史[4]、三邉 義雄[1,2]、菊知 充[2]
[1]金沢大学附属病院神経科精神科、[2]金沢大学子どものこころの発達研究センター、[3]福井大学保健管理センター、
[4]株式会社リコー研究開発本部リコー未来技術研究所

6月21日（金） ポスター会場6（ホテル 4F）［朱鷺ホワイエ］

12:50～13:38 一般演題（ポスター）51
気分障害 8

司会：**根本 隆洋** 東邦大学医学部精神神経医学講座

2-P51-1 **SSRI はコラーゲン受容体結合能を抑制することで血小板活性化を抑制する**

○杉田 尚子[1]、平方 秀男[2]、村井 俊哉[1]
[1]京都大学医学部附属病院精神科、[2]京都大学医学部附属病院初期診療救急科

2-P51-2 **電気けいれん療法（ECT）が奏功し卵巣腫瘍の手術可能となったうつ病の一例**

○高橋 賢人[1]、杉田 尚子[2]、村井 俊哉[2]、宮本 泰斗[3]、池田 愛紗美[4]
[1]大阪赤十字病院精神神経科、[2]京都大学医学部附属病院精神科神経科、[3]京都大学医学部付属病院産科婦人科、
[4]独立行政法人国立病院機構京都医療センター産科婦人科

2-P51-3 **うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激法の効果予測因子の検討**

○小出 蓉子、大久保 裕章、大井 一高、長澤 達也、上原 隆、川﨑 康弘
金沢医科大学精神神経科学

2-P51-4 **クエチアピン加療後に妊娠糖尿病を発症し、内科と併診しながら、内服を継続した双極性障害の一例**

○白石 匠[1]、愛川 可南子[2]、國武 裕[1]、安西 慶三[2]、門司 晃[1]
[1]佐賀大学医学部付属病院精神神経科、[2]佐賀大学医学部附属病院肝臓・糖尿病・内分泌内科

2-P51-5 **うつ病におけるアミロイド β タンパクが BDNF 濃度に与える影響**

○済田 貴生[1,2]、馬場 元[1,2]、前嶋 仁[1,2]、島野 嵩久[1,2]、夏目 俊太朗[1,2]、鈴木 利人[1,2]、新井 平伊[2]
[1]順天堂大学医学部付属順天堂越谷病院、[2]順天堂大学大学院医学研究科精神行動科学

2-P51-6 **担癌患者の自殺企図後、リエゾン介入により化学療法を継続し、寛解に至り自宅退院となった症例の検討**

○松尾 陽、大橋 綾子、磯村 周一、平野 昭吾、神庭 重信
九州大学病院精神科神経科

12:50～13:38 一般演題（ポスター）52
認知症 5

司会：**渡辺 義文** 総合南東北病院精神神経センター

2-P52-1 **ADHD と診断されていた Alzheimer 型認知症の一例**

○山口 世堯、鳥居 洋太、臼井 敏晶、尾崎 紀夫
名古屋大学医学部附属病院精神科

2-P52-2 **アルツハイマー病における抑うつ症状の神経基盤に関する検討**

○吉川 裕晶[1]、北村 聡一郎[1,3]、松岡 究[1]、高橋 誠人[1]、本多 将人[1]、水井 亮[1]、南 昭宏[1]、森 侑花[1]、
金田 東奎[1]、宮坂 俊輝[2]、吉川 公彦[2]、岸本 年史[1]
[1]奈良県立医科大学精神科、[2]奈良県立医科大学放射線科、[3]量研機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部

2-P52-3 **有酸素運動が健常高齢者の脳血流にもたらす影響 –地域縦断コホート研究から**

○織内 直毅[1]、田村 昌士[2]、根本 清貴[2]、征矢 英昭[3]、朝田 隆[4]、新井 哲明[2]
[1]筑波大学附属病院、[2]筑波大学医学医療系精神医学、[3]筑波大学体育学系運動生化学・スポーツ神経科学、
[4]メモリークリニックお茶の水

2-P52-4 **レビー小体型認知症の早期症状の再考**

○宮崎 秀仁[1,2]、勝瀬 大海[1]、井出 恵子[1]、千葉 悠平[1]、青木 直哉[1]、野口 功一[1]、山口 博行[1]、西尾 友子[3]、山口 和己[4]、佐伯 隆史[4]、古川 良子[3]、小田原 俊成[5]
[1]横浜市立大学精神医学教室、[2]公益財団法人復康会沼津中央病院、[3]横浜市総合保健医療センター、[4]医療法人誠心会神奈川病院、[5]横浜市立大学保健管理センター

2-P52-5 **アルツハイマー型認知症患者における内側側頭部の萎縮と記憶機能低下の関連**

○栃木 衛[1]、押久保 岳[1]、赤羽 晃寿[1]、池淵 恵美[1,2]
[1]帝京大学医学部精神神経科、[2]帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

2-P52-6 **自傷行為について健忘を残す高齢男性の２例**

○伊奈川 愛菓、古野 毅彦、前川 恵、樋山 光教
国立病院機構東京医療センター精神科

12:50～13:38 一般演題（ポスター）53
脳器質性症状性精神障害５

司会：**黒木 俊秀**　九州大学大学院人間環境学研究院

2-P53-1 **抗アレルギー薬投与を契機に体系的な妄想が出現・持続したパーキンソン病患者の一例**

○森 湧平、松本 純弥、刑部 有祐、堀越 翔、戸田 亘、浅野 太志、板垣 俊太郎、三浦 至、矢部 博興
福島県立医科大学神経精神医学講座

2-P53-2 **セフェピムにより急性の精神・行動症状をきたした抗菌薬関連脳症の一例**

○穂積 宏俊[1]、三浦 至[1]、野崎 途也[1]、刑部 有祐[1]、高橋 信久[2]、菊田 敦[2]、矢部 博興[1]
[1]福島県立医科大学神経精神医学講座、[2]福島県立医科大学附属病院小児腫瘍内科

2-P53-3 **Lamotrigine が奏功した CNS ループスの１例**

○小嶋 亮平、國武 裕、溝口 義人、門司 晃
佐賀大学医学部附属病院

2-P53-4 **ハンチントン病における精神症状の神経病理学的背景**

○平野 光彬[1]、入谷 修司[1,2]、藤城 弘樹[1,2]、鳥居 洋太[1,2]、関口 裕孝[3]、羽渕 知可子[4]、合澤 祐[4]、三輪 綾子[5]、藤田 潔[3]、吉田 眞理[6]、尾崎 紀夫[1]
[1]名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、[2]AMED名古屋大学精神科ブレインバンクコンソーシアム、[3]桶狭間病院藤田こころケアセンター、[4]愛知県精神医療センター、[5]特定医療法人八誠会もりやま総合心療病院、[6]愛知医科大学加齢医科学研究所

2-P53-5 **新潟市民病院を受診した自殺企図者の臨床的特徴**

○新藤 雅延[1]、中野 達夫[2]、木村 望[3]、廣瀬 保夫[4]
[1]新潟市民病院精神科、[2]新潟市民病院看護部、[3]新潟市民病院地域医療室、[4]新潟市民病院救急科

2-P53-6 **総合病院精神科の有床化における課題**

○上村 秀樹
奈良県総合医療センター精神科・心療内科・こども心療科

12:50～13:38 一般演題（ポスター）54
パーソナリティ・その他

司会：**井上 幸紀**　大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

2-P54-1 **成人の状態不安に対する小児期の両親の養育態度、対人関係敏感性、ライフイベントの相互作用の検討**

○岩尾 紅子[1,2]、市来 真彦[2]、桝屋 二郎[2,3]、井上 猛[2]
[1]厚生中央病院精神科、[2]東京医科大学病院精神医学分野、[3]東京医科大学茨城医療センター精神科

2-P54-2 **ビフィズス菌整腸剤の過量服薬を繰り返した境界性パーソナリティ障害の一例**

○松本 純弥、刑部 有祐、戸田 亘、泉 竜太、一瀬 瑞絵、森 湧平、板垣 俊太郎、三浦 至、矢部 博興
福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

2-P54-3 **摂食障害患者の死後脳を用いた神経病理的検討**

○梅田 健太郎[1,4]、河上 緒[1,2,3]、村端 祐樹[1]、新里 和弘[1]、大島 健一[1]、渡辺 亮平[2]、関口 裕孝[4]、羽渕 知可子[4]、鳥居 洋太[4]、池田 研二[2]、長谷川 成人[2]、村山 繁雄[3]、入谷 修司[4]、齋藤 正彦[1]
[1]東京都立松沢病院、[2]東京都医学総合研究所認知症プロジェクト、[3]東京都健康長寿医療センター、[4]名古屋大学医学部精神科

2-P54-4 **体組成計を用いた神経性やせ症に対する BCAA の効果の検討**

○吉原 喬[1,2]、横山 裕一[1]、渡邉 榮吉[2]、渡邉 晴香[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学医歯学総合病院精神科、[2]新潟医療福祉大学大学院健康科学専攻健康栄養学分野

2-P54-5 **一般成人において喫煙ならびに飲酒習慣と関連する精神医学的傾向の有無**

○中澤 広[1]、成瀬 麻夕[2]、井上 猛[2]
[1]東京医科大学大学院精神医学分野、[2]東京医科大学精神医学分野

2-P54-6 **防衛機能尺度の検証 –YGT との関連–**

○七里 佳代[1]、橘 輝[1]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟大学保健管理センター、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

12:50～13:38 一般演題（ポスター）55
精神保健・医学教育

司会：**吉村 篤**　滋賀医科大学精神医学講座

2-P55-1 **発達障害のある医学生への支援：現状と課題**

○澁谷 雅子[1,4]、伊藤 正洋[1]、鈴木 利哉[1,2]、土田 正則[2]、能登 宏[3]、染矢 俊幸[2,4]
[1]新潟大学総合医学教育センター、[2]新潟大学医学部医学科学務委員会、[3]新潟大学特別修学サポートルーム、[4]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

2-P55-2 **東日本大震災における周産期の女性と地域母子保健ヘルスケア従事者の経験に関する質的研究**

○小林 奈津子[1]、菊地 紗耶[1]、本多 奈美[2]、富田 博秋[3]
[1]東北大学病院精神科、[2]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、[3]東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野

2-P55-3 **EGUIDE プロジェクト参加施設の大学病院は統合失調症の薬物治療において 1 年後の診療の質に変化があったのか**

○堀 輝[1]、安田 由華[2]、山本 智也[3]、稲田 健[4]、渡邊 衡一郎[5]、橋本 亮太[3,6]、吉村 玲児[1]
[1]産業医科大学精神医学教室、[2]生きる・育む・輝くメンタルクリニック、[3]大阪大学医学部附属病院神経科精神科、[4]東京女子医科大学病院、[5]杏林大学医学部付属病院、[6]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

2-P55-4 **精神科療養病床における長期入院患者の退院阻害因子の検討**

○福田 耕嗣、竹本 香織、小川 晴子
医療法人香流会紘仁病院精神科

2-P55-5 **専門医認定試験の症例報告に患者・家族同意が必須でなくてよいか？**

○小笠原 一能[1,2]、飯島 祥彦[1]、尾崎 紀夫[2,3]
[1]名古屋大学医学部附属病院医学研究・臨床倫理推進室、[2]名古屋大学医学部附属病院精神科、
[3]名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

2-P55-6 **インターネット動画を用いた精神医学の教育方法について**

○松﨑 朝樹
筑波大学附属病院精神神経科

12:50～13:38 一般演題（ポスター）56
神経画像

司会：**須田 顕**　横浜市立大学医学部精神医学教室

2-P56-1 **精神病発症危険状態における脳回形成の偏倚：多施設共同研究**

○笹林 大樹[1]、高柳 陽一郎[1]、高橋 努[1]、小池 進介[2]、山末 英典[5]、片桐 直之[3]、佐久間 篤[4]、
小原 千佳[4]、中村 美保子[1]、古市 厚志[1]、木戸 幹雄[1]、西川 祐美子[1]、野口 京[6]、松本 和紀[4]、
水野 雅文[3]、笠井 清登[2]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、[2]東京大学大学院医学系研究科精神医学分野、
[3]東邦大学医学部精神神経医学講座、[4]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、
[5]浜松医科大学精神神経医学講座、[6]富山大学大学院医学薬学研究部放射線診断・治療学講座

2-P56-2 **第 1、第 2 世代の PET トレーサーを用いた、加齢性変化と認知症におけるミクログリア活性の検討**

○横倉 正倫[1]、寺田 達弘[2]、武内 智康[2]、中泉 享子[1]、加藤 康彦[1]、二ツ橋 昌実[3]、吉川 悦次[3]、
山末 英典[1]、尾内 康臣[2]
[1]浜松医科大学精神科、[2]浜松医科大学光尖端医学教育センター生体機能イメージング研究室、
[3]浜松ホトニクス株式会社

2-P56-3 **fMRI による健常成人女性における方向指示課題遂行中の脳活動について**

○井上 雅之[1,2]、森田 喜一郎[2,4]、佐藤 守[2,3]、山下 裕之[2,3]、小路 純央[2,3]、上野 雄文[2,5]、安陪 等思[6]、
内村 直尚[2,3]
[1]福間病院精神科、[2]久留米大学高次脳疾患研究所、[3]久留米大学病院精神神経科、[4]特定医療法人社団相和会中村病院、
[5]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、[6]久留米大学医学部放射線医学講座

2-P56-4 **摂食障害患者におけるミクログリア活性について：PET を用いた検討**

○横倉 正倫[1]、寺田 達弘[2]、武内 智康[2]、中泉 享子[1]、加藤 康彦[1]、二ツ橋 昌実[3]、吉川 悦次[3]、
山末 英典[1]、尾内 康臣[2]
[1]浜松医科大学精神科、[2]浜松医科大学光尖端医学教育センター生体機能イメージング研究室、
[3]浜松ホトニクス株式会社

2-P56-5 **カルバマゼピン中止後に一過性脳梁膨大部病変が出現した双極性障害の 1 例**

○髙須 庸平[1]、信田 慶太[3]、菊地 佑[4]、渡部 雄一郎[2]、染矢 俊幸[2]
[1]医療法人社団髙須クリニック髙須メンタルクリニック、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、
[3]医療法人恵愛会大島病院、[4]福島県立矢吹病院

2-P56-6 **統合失調症と気分障害における白質微細構造異常と認知機能障害との関係：DTI 研究**

○山田 信一[1]、高橋 隼[1]、石田 卓也[1]、大星 裕司[1]、辻 富基美[1]、篠崎 和弘[2]、寺田 正樹[3]、鵜飼 聡[1]
[1]和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室、[2]総合病院浅香山病院、[3]和歌山南放射線科クリニック

12:50〜13:38 一般演題（ポスター）57
神経生理・薬理学

司会：冨田 哲　　弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

2-P57-1　Fluvoxamine から paroxetine への置換における有用性の検討

○坪谷 隆介[1]、常山 暢人[1]、鈴木 雄太郎[1]、福井 直樹[1]、須貝 拓朗[1]、渡邉 純蔵[2]、小野 信[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟県厚生農業協同組合連合会中条第二病院精神科

2-P57-2　トラマドール/アセトアミノフェン配合剤（トラムセット R）で痙攣重積発作を呈した 1 症例

○塩田 勝利[1]、岡田 剛史[1]、小林 祐介[1,2]、須田 史朗[1]
[1]自治医科大学附属病院、[2]上都賀総合病院

2-P57-3　炭酸リチウムとクエチアピンの併用によりセロトニン症候群をきたした一例

○北元 健、横山 誠、吉永 陽子
医療法人社団碧水会長谷川病院

2-P57-4　ファイバーフォトメトリー法による自由行動マウスを用いたストレス誘発自律応答の脳内メカニズムの解析

○山下 哲、守谷 俊平、桑木 共之
鹿児島大学医歯学総合研究科

2-P57-5　第二世代抗精神病薬が日中および夜間の自律神経活動に与える影響

○渡邉 純蔵[1,2]、鈴木 雄太郎[1,3]、須貝 拓朗[1]、福井 直樹[1]、小野 信[1]、常山 暢人[1]、田尻 美寿々[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]医療法人社団敬成会白根緑ヶ丘病院、[3]医療法人敬愛会末広橋病院

2-P57-6　第二世代抗精神病薬が日中および夜間の心電図 QT 間隔に与える影響

○渡邉 純蔵[1,2]、鈴木 雄太郎[1,3]、須貝 拓朗[1]、福井 直樹[1]、小野 信[1]、常山 暢人[1]、田尻 美寿々[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]医療法人社団敬成会白根緑ヶ丘病院、[3]医療法人敬愛会末広橋病院

12:50〜13:38 一般演題（ポスター）58
神経心理・画像

司会：橋本 衛　　大阪大学大学院連合小児発達学研究科 行動神経学・神経精神医学寄付講座

2-P58-1　精神疾患患者サンプルにおける日本語版神経心理検査 RBANS の因子構造

○北村 秀明、高橋 聡子、長野 文枝、土屋 香織、後藤 公美子
医療法人水明会佐潟荘精神科

2-P58-2　ヒト手綱核の機能解析：嫌な出来事を避ける上でどう役立つか？

○吉野 敦雄[1]、岡田 剛[1]、岡本 泰昌[1]、山脇 成人[2]
[1]広島大学大学院精神神経科、[2]広島大学大学院社会産学連携室

2-P58-3　自閉症リスク遺伝子 Neuroligin3 の機能的リン酸化部位の機能解析

○江川 純[1]、五十嵐 道弘[2]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科分子細胞機能学分野

2-P58-4 **MAPT intron 10 +14 変異を伴う FTDP-17 の一剖検例**

○渡辺 亮平[1,2]、河上 緒[1,3]、池内 健[4]、村山 繁雄[3]、秋山 治彦[1]、新井 哲明[2]、女屋 光基[5]、長谷川 成人[1]
[1]東京都医学総合研究所認知症プロジェクト、[2]筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学、[3]東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク部門、[4]新潟大学脳研究所附属生命科学リソース研究センターバイオリソース研究部門遺伝子機能解析学分野・生命情報工学分野、[5]下総精神医療センター精神科

2-P58-5 **初回エピソード統合失調症患者における大脳皮質厚の変化と認知機能障害との関連**

○笹林 大樹[1]、高柳 陽一郎[1]、高橋 努[1]、西山 志満子[1]、古市 厚志[1]、木戸 幹雄[1]、西川 祐美子[1]、中村 美保子[1]、野口 京[2]、鈴木 道雄[1]
[1]富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、[2]富山大学大学院医学薬学研究部放射線診断・治療学講座

2-P58-6 **認知症の行動・心理症状（BPSD）と脳血流の関連**

○関根 彩[1]、中山 顕次郎[2]、塚田 恵鯉子[3]、太田 深秀[3]、東 晋二[3]、根本 清貴[3]、新井 哲明[3]
[1]筑波大学附属病院精神神経科、[2]筑波大学附属病院、[3]筑波大学医学医療系精神医学

12:50～13:38 一般演題（ポスター）59
司法精神医学・その他

司会：**西岡 直也**　国立病院機構久里浜医療センター精神科

2-P59-1 **医療刑務所における覚せい剤による精神病性障害の患者の特徴**

○関口 陽介[1,2]、奥村 雄介[1]、岡田 幸之[2]
[1]東日本矯正医療センター、[2]東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野

2-P59-2 **措置入院となった精神障害者の前向きコホート研究（その 3）：措置入院時の精神症状・社会機能について**

○稲垣 中[1]、瀬戸 秀文[2,5]、島田 達洋[3]、大塚 達以[4]、岩永 英之[5]、中西 清晃[6]、中村 仁[2]、渡辺 純一[7]、横島 孝至[8]、奥野 栄太[9]、太田 順一郎[10]、吉住 昭[5]
[1]青山学院大学、[2]長崎県精神医療センター、[3]栃木県立岡本台病院、[4]宮城県立精神医療センター、[5]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、[6]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[7]公益財団法人井之頭病院、[8]公益財団法人復康会沼津中央病院、[9]独立行政法人国立病院機構琉球病院、[10]岡山市こころの健康センター

2-P59-3 **措置入院となった精神障害者の前向きコホート研究（その 4）：措置解除時までの精神症状の改善度について**

○稲垣 中[1]、瀬戸 秀文[2,5]、島田 達洋[3]、大塚 達以[4]、岩永 英之[5]、中西 清晃[6]、中村 仁[2]、渡辺 純一[7]、横島 孝至[8]、奥野 栄太[9]、太田 順一郎[10]、吉住 昭[5]
[1]青山学院大学、[2]長崎県精神医療センター、[3]栃木県立岡本台病院、[4]宮城県立精神医療センター、[5]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、[6]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[7]公益財団法人井之頭病院、[8]公益財団法人復康会沼津中央病院、[9]独立行政法人国立病院機構琉球病院、[10]岡山市こころの健康センター

2-P59-4 **非行を発見した医療者が行う地域連携と守秘義務に関する法的研究**

○石川 博康
中通リハビリテーション病院精神科

2-P59-5 **経済的虐待を受けた精神科患者の保護に関する考察 –成年後見制度を利用した 3 症例の報告**

○青島 多津子
溝口病院

2-P59-6 **Risperidone 服用者における QT 間隔と CYP2D6 および ABCB1 遺伝子多型との関連**

○常山 暢人[1]、鈴木 雄太郎[1]、福井 直樹[1]、須貝 拓朗[1]、渡邉 純蔵[2]、小野 信[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟厚生連中条第二病院

12:50〜13:38 一般演題（ポスター）60
その他 1

司会：**佐野 英孝**　白根緑ケ丘病院

2-P60-1　関節リウマチ患者における不安・抑うつと、その疼痛への影響

○中神 由香子[1]、杉原 玄一[1]、武井 教使[2]、藤井 隆夫[3]、橋本 求[4]、村上 孝作[3]、布留 守敏[4]、伊藤 宣[4,6]、宇多 雅[7]、鳥井 美江[7]、任 和子[7]、三森 経世[5]、村井 俊哉[1]
[1]京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座（精神医学）、[2]浜松医科大学子どものこころの発達研究センター、[3]和歌山県立医科大学リウマチ・膠原病科学講座、[4]京都大学医学部附属病院リウマチセンター、[5]京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科、[6]京都大学医学部附属病院整形外科、[7]京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻

2-P60-2　看護管理職における「職場の適応に困難さのあるスタッフ」の課題と対応の検討

○稲垣 卓司
島根大学教育学部初等教育開発講座（特別支援教育）

2-P60-3　裁判例における向精神薬の副作用と自殺の関連性

○西山 健治郎
二番町法律事務所

2-P60-4　バセドウ病による甲状腺クリーゼをパニック発作と誤診した 1 症例

○安田 学[1]、熊倉 隼[1]、岡 聖典[2]、福田 和仁[1]
[1]自治医科大学附属病院、[2]自治医科大学内科学講座内分泌代謝学部

2-P60-5　中学生における生活習慣事項とコルチゾールの関連について

○井上 顕[1]、藤田 委由[2]、竹下 治男[3]、橋岡 禎征[4]、嘉村 正徳[5]
[1]高知大学教育研究部医療学系保健管理センター、[2]島根大学医学部、[3]島根大学医学部法医学講座、[4]島根大学医学部精神医学講座、[5]嘉村医院

2-P60-6　精神科病院における緘瘡患者 –15 年間の集計から

○鈴木 好文、川嶋 義章、豊岡 和彦、橋野 健一、熊田 智、渋谷 太志
南浜病院

6月22日（土） A会場（センター 1F 大会場）［展示ホールB］

8:10〜10:10 委員会シンポジウム 20（精神医学研究推進委員会）
精神疾患レジストリの構築による新たな診断・治療法の開発へ

司会：**中込 和幸** 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
尾崎 紀夫 名古屋大学医学部付属病院

CS20-1 **精神疾患レジストリの概要について**
○中込 和幸
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

CS20-2 **第 1、2 層の項目と品質管理**
○住吉 太幹
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

CS20-3 **精神疾患患者由来ゲノム・iPS 細胞・死後脳の情報整備による大規模解析から根本的治療薬創成へ**
○尾崎 紀夫
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

CS20-4 **血液・髄液生化学データの収集、標準化**
○功刀 浩[1]、服部 功太郎[1,2]
[1]国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部、
[2]国立精神・神経医療研究センターメディカルゲノムセンターバイオリソース管理部

CS20-5 **情報通信技術を活用したデータ収集やフォローアップ方法の検討**
○岸本 泰士郎
慶應義塾大学精神・神経科学教室

〈コーディネーター〉 中込 和幸 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

10:20〜12:20 シンポジウム 73
外来診療に活かす認知行動療法

司会：**川﨑 康弘** 金沢医科大学病院
工藤 喬 大阪大学保健センター

S73-1 **集団認知行動療法を用いた外来診療の活かし方**
○北川 信樹
医療法人ライブフォレスト北大通こころのクリニック

S73-2 **ARMS（at-risk mental state）研究の成果を外来診療に活かす**
○松本 和紀
東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

S73-3 **自殺念慮のある患者に対する認知行動療法活用のコツ**
○耕野 敏樹
岡山県精神科医療センター医局

S73-4 **薬物療法の効果を高める認知行動療法の使い方**
○菊地 俊暁
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S73-5 **外来診療における認知療法・認知行動療法と専門医教育**

○久我 弘典[1]、大野 裕[2]
[1]九州大学病院精神科神経科、[2]一般社団法人認知行動療法研修開発センター

〈コーディネーター〉 大野 裕　　大野研究所

6月22日（土） B会場（センター 1F 中会場）［展示ホールA-1］

8:10〜10:10 委員会シンポジウム 21（アンチスティグマ委員会）
教育を通じて伝えたいこと・伝えるべきこと –学校保健教育への発信–

司会：**水野 雅文** 東邦大学医学部精神神経医学講座
秋山 剛 NTT東日本関東病院

CS21-1 **高校生におけるメンタルヘルスリテラシー**
○小口 芳世
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

CS21-2 **学校における精神保健教育 –高校生への伝え方–**
○小塩 靖崇
国立・精神神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部

CS21-3 **高校生を対象としたコミュニケーション教育の実践報告**
○朝日 真奈
秋谷潮かぜ診療所

CS21-4 **学校の保健教育における精神疾患について**
○横嶋 剛
スポーツ庁政策課

〈コーディネーター〉 水野 雅文 東邦大学医学部精神神経医学講座
秋山 剛 NTT東日本関東病院

10:20〜12:20 委員会シンポジウム 23（精神保健に関する委員会）
日常精神医療が自治体の自殺対策計画に貢献できること

司会：**太刀川 弘和** 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

CS23-1 **自殺対策の計画**
○大塚 耕太郎[1,2]、小泉 範高[1,2,3]、赤平 美津子[2,4]
[1]岩手医科大学神経精神科学講座、[2]岩手県こころのケアセンター、[3]岩手県精神保健福祉センター、
[4]岩手医科大学災害・地域精神医学講座

CS23-2 **自殺未遂者に対する精神科医療と地域保健福祉の連携**
○辻本 哲士
滋賀県立精神保健福祉センター

CS23-3 **野田村の自殺対策計画策定：みんなでつなぐいのちを支える村づくりに向けて**
○大上 有子[1]、田中 和弘[1]、上山 晃[1]、中村 佳津美[1]、北田 真理[1]、大塚 耕太郎[2]、赤平 美津子[3]
[1]野田村住民福祉課、[2]岩手医科大学神経精神科学講座、[3]岩手医科大学災害・地域精神医学講座

CS23-4 **精神科医からみた地域自殺対策とは〜横須賀市での経験から〜**
○大滝 紀宏
湘南病院精神神経科

〈コーディネーター〉 太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

13:30〜15:30 **シンポジウム 85**

憑依再考 –DSM-5 時代の精神医療と霊のナラティブ

司会：**宮岡 等**　北里大学医学部精神科学
黒木 俊秀　九州大学大学院人間環境学研究院臨床心理学講座

S85-1 **リソースとしての憑依の利用「基本編」–憑き物に積極的な価値を見出すことによる祓い–**
○蒲生 裕司
こころのホスピタル町田

S85-2 **バウンダリーの曖昧さと取り込み像 –映像で見る解離性同一性障害の治療–**
○新谷 宏伸[1,2]
[1]本庄児玉病院、[2]USPT研究会

S85-3 **リソースとしての憑依の利用「応用編」–現代社会における憑依生成と離脱**
○西川 公平
CBTセンター

S85-4 **憑依の霊的治療と心理的治療**
○東畑 開人[1,2]
[1]十文字学園女子大学、[2]白金高輪カウンセリングルーム

S85-5 **〔指定発言〕**
○大宮司 信
北翔大学教育文化学部

〈コーディネーター〉 新谷 宏伸　本庄児玉病院/USPT研究会
宮岡 等　北里大学医学部精神科学

6月22日（土） C会場（センター 1F 中会場）［展示ホールA-2］

8:10〜10:10 委員会シンポジウム 22（PCN 編集委員会）
脳機能の可視化から探る精神機能の動態と病態

司会：**加藤 忠史** 理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム
神庭 重信 九州大学

CS22-1 **大脳神経活動状態の遷移ダイナミクスから捉える高機能自閉症**
○渡部 喬光
理化学研究所脳神経科学研究センター

CS22-2 **fMRI ニューロフィードバックによる精神疾患改善効果の脳全結合関連解析**
○三崎 将也、Bodurka Jerzy
Laureate Institute for Brain Research

CS22-3 **脳イメージングを用いた主観的経験の可視化と精神現象の理解**
○山田 真希子
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部脳とこころの研究チーム

CS22-4 **精神疾患における脳ネットワーク結合不全の理解**
○森島 陽介
ベルン大学精神科病院トランスレーショナルリサーチセンター

〈コーディネーター〉 加藤 忠史 理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム

10:20〜12:20 シンポジウム 74
摂食障害治療の国際比較

司会：**西園マーハ 文** 明治学院大学心理学部
紫藤 昌彦 紫藤クリニック精神科

S74-1 **米国フィラデルフィアの摂食障害治療施設での治療とケア −Renfrew Center と Belmont Behavioral Hospital**
○小笠原 知子
東京女子医科大学東医療センター内科

S74-2 **チューリッヒ大学病院摂食障害センターの入院プログラム**
○齊藤 麻里子[1,2]
[1]尚生会湊川病院精神科、[2]たかみやこころのクリニック

S74-3 **イギリス・モーズレー病院での摂食障害臨床の経験から**
○水原 祐起[1,2,3]
[1]京都府立こども発達支援センター診療課精神科、[2]京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、
[3]特定非営利活動法人SEEDきょうと

S74-4 **〔指定発言〕**
○西園マーハ 文
明治学院大学心理学部

〈コーディネーター〉 紫藤 昌彦 紫藤クリニック精神科

13:30～15:30 **委員会シンポジウム 27**（ECT・rTMS 等検討委員会）
国内におけるうつ病への rTMS 療法の現状と課題

司会：**水野 雅文**　東邦大学医学部精神神経医学講座
篠崎 和弘　公益財団法人浅香山病院

CS27-1 **本邦における rTMS 療法の臨床応用に向けた道標**
○野田 賀大
慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

CS27-2 **rTMS 療法の位置づけと有用性**
○中村 元昭[1,2]
[1]昭和大学発達障害医療研究所、[2]神奈川県立精神医療センター

CS27-3 **rTMS 療法の導入と現状**
○鬼頭 伸輔
東京慈恵会医科大学精神医学講座

CS27-4 **rTMS 療法の普及と今後の課題**
○三村 將
慶應義塾大学精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 鬼頭 伸輔　東京慈恵会医科大学精神医学講座
中村 元昭　昭和大学発達障害医療研究所

6月22日（土） D会場（センター 2F 中会場）［メインホールA］

8:10～9:10 **教育講演 16**（精神保健に関する委員会）
日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッション

司会：**荒井 稔** 東京臨海病院健康医学センター精神科

EL16 **精神疾患の労災認定後の長期療養の現状と課題**

○黒木 宣夫[1,2]
[1]勝田台メディカルクリニック、[2]東邦大学

9:15～10:15 **教育講演 17**

司会：**渡部 雄一郎** 新潟大学医学部精神医学教室

EL17 **ゲノム医科学の進展と精神科領域でのゲノム医療への展望**

○岩田 仲生
藤田医科大学医学部

10:20～11:20 **教育講演 18**

司会：**田中 究** 兵庫県立ひょうごこころの医療センター

EL18 **神経発達症の診断・治療の基礎と展開：青年期とそれ以後を中心に**

○松本 英夫
東海大学医学部専門診療学系精神科学

11:25～12:25 **教育講演 19**（利益相反委員会）

司会：**稲垣 中** 青山学院大学教育人間科学部/保健管理センター

EL19 **利益相反と責務相反**

○竹下 啓
東海大学医学部医療倫理学領域

6月22日（土） E会場（センター 2F 中会場）［メインホールB］

8:10～10:10 シンポジウム 60
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに於ける精神科診療所の可能性

司会：**上ノ山 一寛** 医療法人遙山会南彦根クリニック
鷲塚 輝久 医療法人東口メンタルクリニック

S60-1 **地域包括ケアシステムの構築に向けて～地域の現場で、精神科診療所の活動を通して考えていること～**
○三家 英明
医療法人三家クリニック

S60-2 **学校に馴染めない子どものためのデイケアから通信制高校を立ち上げるまで**
○鷲塚 輝久
医療法人東口メンタルクリニック

S60-3 **総合病院との連携から見た精神科救急への関わり**
○寺田 誠史[1]、窪田 幸久[2]、田口 博之[3]、岡本 典雄[4]、外岡 雄二[5]
[1]てらだ医院、[2]中央公園クリニック、[3]たぐちクリニック、[4]岡本クリニック、[5]富士市立中央病院

S60-4 **地域医療計画に生かす精神科診療所の役割と機能**
○上ノ山 一寛
医療法人南彦根クリニック

S60-5 **〔指定発言〕**
○竹島 正
川崎市精神保健福祉センター

〈コーディネーター〉 上ノ山 一寛 医療法人遙山会南彦根クリニック
紫藤 昌彦 医療法人社団コスモス会紫藤クリニック

10:20～12:20 委員会シンポジウム 24（ガイドライン検討委員会、精神医療・精神医学情報センター運営委員会）
精神医学ガイドラインの持つ意味：日本精神神経学会が果たすべき役割

司会：**鹿島 晴雄** 国際医療福祉大学大学院
尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科

CS24-1 **わが国の治療ガイドラインにおける諸問題と対策**
○渡邊 衡一郎
杏林大学医学部精神神経科学教室

CS24-2 **統合失調症に合併する肥満・糖尿病の予防ガイド**
○久住 一郎[1]、菅原 典夫[2]、鈴木 雄太郎[3]、古郡 規雄[2]
[1]北海道大学大学院医学研究院精神医学教室、[2]獨協医科大学精神神経医学講座、
[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

CS24-3 **診療ガイドラインの法的考察**
○鵜飼 万貴子[1,2]
[1]白水法律事務所、[2]京都府立医科大学

CS24-4 **精神医学ガイドラインの持つ意味：精神医学・精神医療の実践の立場から**
○中川 敦夫
慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教育研修部門

〈コーディネーター〉 鹿島 晴雄 国際医療福祉大学大学院
尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科

6月22日（土） F会場（センター 2F 小会場）［中会議室201］

8:10〜10:10 シンポジウム 61
神経症圏治療における治療導入、摂食障害を例として：どこまで医療化（外在化）し、いかに本格治療に導入するのか

司会：**宮岡 等** 北里大学医学部精神科学
山下 達久 からすま五条やましたクリニック

S61-1 **大学病院精神科を重症摂食障害患者が受診した場合：兵庫医科大学での対応**
○山田 恒[1,2]
[1]兵庫医科大学病院、[2]山田メンタルクリニック

S61-2 **精神科病床を有する総合病院における摂食障害の治療**
○横山 伸
長野赤十字病院精神科

S61-3 **摂食障害の治療導入：一般病床を有する大学病院心療内科を受診した場合**
○髙倉 修[1,2]
[1]九州大学病院心療内科、[2]福岡県摂食障害治療支援センター

S61-4 **神経性やせ症における「自由への恐怖」に焦点づけた任意入院による治療**
○崔 炯仁
稲門会いわくら病院精神科

S61-5 **精神科診療所を受診した場合、摂食障害治療での医療化の必要性と限界**
○永田 利彦
壱燈会なんば・ながたメンタルクリニック

〈コーディネーター〉 永田 利彦 医）壱燈会なんば・ながたメンタルクリニック
宮岡 等 北里大学医学部精神科学

10:20〜12:20 委員会シンポジウム 25（医療倫理委員会）
精神科臨床倫理の在り処その６（医療倫理と安全（責任）の葛藤）

司会：**水野 雅文** 東邦大学医学部精神神経医学講座
森村 安史 仁明会精神衛生研究所

CS25-1 **精神科治療におけるジレンマを乗り越える臨床「知」**
○白石 弘巳
埼玉県済生会鴻巣病院

CS25-2 **誰のための身体拘束か？〜高齢認知症患者における身体拘束の倫理的ジレンマ〜**
○山口 大樹
東邦大学医学部精神神経医学講座

CS25-3 **事故防止を優先した安全な対応の提供**
○高宮 眞樹
日本精神科病院協会常務理事（医療安全委員会担当）

CS25-4 **高齢認知症患者に対する身体拘束における法的検討課題**
○島戸 圭輔
東京弁護士会

〈コーディネーター〉 水野 雅文 東邦大学医学部精神神経医学講座

13:00～14:00　**一般演題（口演）51**
依存・行動嗜癖 4

司会：**鈴木 昭仁**　山形大学

3-051-1　**「公営競技ギャンブル依存症カウンセリングセンター」の最初の一年間の活動実績調査報告**
○廣山 祐仁[1]、岡部 忠司[2]、長船 直子[2]、加藤 清香[2]、日比野 由紀[2]
[1]東京海上日動メディカルサービス（株）第一医療部、[2]東京海上日動メディカルサービス（株）EAP室

3-051-2　**男性アルコール依存症患者の骨密度低下に関する横断的研究**
○蓬莱 政[1]、菱本 明豊[1]、大塚 郁夫[1]、新名 尚史[1]、岡崎 賢志[1]、毛利 健太朗[2]、朴 秀賢[1]、曽良 一郎[1]
[1]神戸大学大学院医学研究科精神医学分野、[2]神戸大学保健管理センター

3-051-3　**精神科急性期病棟における薬物依存症治療プログラム FARPP の介入結果報告（途中報告）**
○船田 大輔
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

3-051-4　**開放病棟における自己瀉血患者への入院治療の一症例**
○黒澤 文貴
神奈川県立精神医療センター依存症診療科

3-051-5　**当院における依存症集団療法 SMARPP の実施状況と課題 第 2 報**
○植原 亮介、栗山 政士、谷田 遥香、橘高 昭子、細野 清彦、川本 喜子、宮野 栄三
医療法人平和会吉田病院精神科

6月22日（土） G会場（センター 3F 小会場）［中会議室301B］

8:10〜10:10 シンポジウム 62
難治性トゥレット症の現状及び脳深部刺激療法に関する検討

司会：**金生 由紀子** 東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野
岡田 俊 名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科

S62-1 **難治性トゥレット症患者の実態：臨床症状と生活の困難**
○金生 由紀子
東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野

S62-2 **難治性トゥレット症に対する併存症も含めた治療**
○岡田 俊
名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科

S62-3 **トゥレット症候群の重度難治性チックに対する脳深部刺激療法**
○開道 貴信[1,2]
[1]大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科解剖生理学研究室、[2]国立病院機構奈良医療センター

S62-4 **難治性トゥレット症候群に伴う重度チックに対する脳深部刺激療法の長期的転帰**
○木村 唯子[1]、開道 貴信[2]、大森 まゆ[3]、金生 由紀子[4]、岩崎 真樹[1]
[1]国立精神神経医療研究センター病院脳神経外科、[2]大阪松蔭女子大学健康栄養学部、
[3]国立精神神経医療研究センター病院精神科、[4]東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野

S62-5 **〔指定発言〕**
○大森 まゆ
国立精神・神経医療研究開発センター精神科

〈コーディネーター〉 金生 由紀子 東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野
岡田 俊 名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科

10:20〜12:20 委員会シンポジウム 26（心理技術職に関する委員会）
公認心理師との協働と『医師の指示』

司会：**松田 ひろし** 医療法人立川メディカルセンター柏崎厚生病院
中嶋 義文 社会福祉法人三井記念病院

CS26-1 **「協働」と「医師の指示」を巡る公認心理師と精神科医の課題**
○佐藤 忠彦
桜ケ丘記念病院精神科

CS26-2 **公認心理師教育において「医師の指示」をいかに教えるか**
○黒木 俊秀
九州大学大学院人間環境学研究院臨床心理学講座

CS26-3 **一般医療領域（総合病院）の立場から**
○西村 勝治
東京女子医科大学病院

CS26-4 **開業心理士の立場から −公認心理師との協働と『医師の指示』**
○伊藤 絵美
洗足ストレスコーピング・サポートオフィス

CS26-5 〔指定発言〕

○幸田 るみ子
静岡大学人文社会科学部

〈コーディネーター〉 中嶋 義文　社会福祉法人三井記念病院
佐藤 忠彦　社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会桜ヶ丘記念病院

13:30～14:30 一般演題（口演）52
依存・その他

司会：**鷲塚 伸介**　信州大学医学部精神医学教室

3-052-1 **ギャンブル障害患者の男女差：生育歴上の特徴**

○小林 桜児、黒澤 文貴、吉松 尚彦、福生 泰久、西村 康平、板橋 登子
神奈川県立精神医療センター精神科

3-052-2 **物質使用障害患者 821 例における自傷・自殺企図 –成育歴上のリスク要因について**

○小林 桜児、板橋 登子、黒澤 文貴、吉松 尚彦、福生 泰久、西村 康平
神奈川県立精神医療センター精神科

3-052-3 **統合失調症認知機能簡易評価尺度日本語版（BACS-J）を用いた、アルコール依存症患者の認知機能の評価**

○栗原 雄大[1]、前上里 泰史[2]、新城 架乃[2]、石橋 孝勇[1,2]、新里 輔鷹[1]、甲田 宗良[1]、中井 美紀[2]、大鶴 卓[2]、近藤 毅[1]
[1]琉球大学医学部附属病院精神科神経科、[2]独立行政法人国立病院機構琉球病院

14:30～15:30 一般演題（口演）55
精神保健福祉 1

司会：**高橋 一志**　東京女子医科大学精神医学教室

3-055-1 **東日本大震災が沿岸地域の就労と精神的健康に及ぼした影響**

○片柳 光昭[1]、富田 博秋[2,5]、瀬戸 萌[1,2]、根本 晴美[2]、奥山 純子[2]、鈴木 智美[2,3]、菅原 由美[4]、中谷 直樹[5]、中村 智洋[5]、土屋 菜歩[5]、成田 暁[5]、小暮 真奈[5]、小高 晃[1]、辻 一郎[4,5]、寶澤 篤[5]
[1]みやぎ心のケアセンター、[2]東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野、[3]七ヶ浜役場健康増進課、
[4]東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野、[5]東北大学東北メディカル・メガバンク機構予防医学・疫学部門

3-055-2 **周産期メンタルヘルスの取り組み その 1 大学病院から**

○山下 洋[1]、山根 謙一[1]、鈴宮 寛子[2]、吉田 敬子[1,2]、鈴木 俊治[3,6]、相良 洋子[3,5]、関沢 明彦[3,4]
[1]九州大学病院子どものこころの診療部、[2]医療法人風のすずらん会メンタルクリニックあいりす、
[3]日本産婦人科医会、[4]昭和大学医学部産婦人科学講座、[5]さがらレディスクリニック、[6]葛飾赤十字病院産婦人科

3-055-3 **周産期メンタルヘルスの取り組み その 2～精神科クリニックからみた課題～**

○吉田 敬子[1]、鈴宮 寛子[1]、山根 謙一[2]、山下 洋[2]
[1]医療法人風のすずらん会メンタルクリニックあいりす、[2]九州大学病院子どものこころの診療部

3-055-4 **周産期メンタルヘルスの取り組み その 3～地域行政機関等との連携～**

○鈴宮 寛子、吉田 敬子
医療法人風のすずらん会メンタルクリニックあいりす

3-055-5 **精神保健福祉法第 26 条に基づく矯正施設長通報の現状把握に関する研究(その 1)通報・事前調査について**

○瀬戸 秀文[1]、藤井 千代[2]、稲垣 中[3]、太田 順一郎[4]、島田 達洋[5]、大塚 達以[6]、小口 芳世[7]、
岩永 英之[8]、椎名 明大[9]、平林 直次[2]、中西 清晃[2]、中村 仁[1]、吉住 昭[8,10]
[1]長崎県精神医療センター精神科、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[3]青山学院大学、
[4]岡山市こころの健康センター、[5]栃木県立岡本台病院、[6]宮城県立精神医療センター、[7]聖マリアンナ医科大学、
[8]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、[9]千葉大学社会精神保健教育研究センター、
[10]医療法人翠会八幡厚生病院

3-055-6 **精神保健福祉法第 26 条に基づく矯正施設長通報の現状把握に関する研究(その 2)指定医診察要否判断について**

○瀬戸 秀文[1]、藤井 千代[2]、稲垣 中[3]、太田 順一郎[4]、島田 達洋[5]、大塚 達以[6]、小口 芳世[7]、
岩永 英之[8]、椎名 明大[9]、平林 直次[2]、中西 清晃[2]、中村 仁[1]、吉住 昭[8,10]
[1]長崎県精神医療センター精神科、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[3]青山学院大学、
[4]岡山市こころの健康センター、[5]栃木県立岡本台病院、[6]宮城県立精神医療センター、[7]聖マリアンナ医科大学、
[8]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、[9]千葉大学社会精神保健教育研究センター、
[10]医療法人翠会八幡厚生病院

3-055-7 **精神保健福祉法第 26 条に基づく矯正施設長通報の現状把握に関する研究(その 3)指定医診察例について**

○瀬戸 秀文[1]、藤井 千代[2]、稲垣 中[3]、太田 順一郎[4]、島田 達洋[5]、大塚 達以[6]、小口 芳世[7]、
岩永 英之[8]、椎名 明大[9]、平林 直次[2]、中西 清晃[2]、中村 仁[1]、吉住 昭[8,10]
[1]長崎県精神医療センター精神科、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[3]青山学院大学、
[4]岡山市こころの健康センター、[5]栃木県立岡本台病院、[6]宮城県立精神医療センター、[7]聖マリアンナ医科大学、
[8]独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、[9]千葉大学社会精神保健教育研究センター、
[10]医療法人翠会八幡厚生病院

6月22日（土） H会場（センター 3F 小会場）［中会議室301A］

8:10〜10:10 シンポジウム 63
せん妄の新たな予防方略とその実効性を高める発症予測の研究展開

司会：**八田 耕太郎**　順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック
　　西村 勝治　東京女子医科大学神経精神科

S63-1 **せん妄の新たな予防方略の展開とそのエビデンス**

○八田 耕太郎[1]、橋本 直子[2]、須田 潔子[3]、平 俊浩[4]、和田 健[5]、内村 直尚[6]、岸 泰宏[7]、竹内 崇[8]、土田 和生[9]、臼井 千恵[1]、秋月 伸哉[3]、西尾 優子[3]、中西 幸子[3]、倉田 明子[10]、堀川 直希[6]、江口 寛[6]、伊藤 滋朗[7]、武藤 仁志[8]、大森 隆史[2]
[1]順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック、[2]徳島県立中央病院、[3]東京都立駒込病院、[4]福山市民病院、[5]広島市立広島市民病院精神科、[6]久留米大学病院精神神経科、[7]日本医科大学武蔵小杉病院、[8]東京医科歯科大学医学部附属病院、[9]公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院、[10]広島大学病院

S63-2 **予防方略の実効性を高める発症予測：せん妄のリスク因子から**

○小川 朝生
国立がん研究センター東病院先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野

S63-3 **ポータブル Bispectral EEG によるせん妄のスクリーニングと患者予後予測**

○篠崎 元
University of Iowa Department of Psychiatry

S63-4 **予防方略の実効性を高める発症予測 –生化学的マーカーから**

○西村 勝治
東京女子医科大学病院

〈コーディネーター〉 八田 耕太郎　順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック
　　岸 泰宏　日本医科大学武蔵小杉病院

10:20〜12:20 シンポジウム 75
児童虐待対応における地域精神保健・医療の役割

司会：**中山 浩**　川崎市こども家庭センター
　　森 昭憲　富山県リハビリテーション病院

S75-1 **児童虐待対応と地域精神保健・医療の役割の現状と課題**

○中山 浩
川崎市こども家庭センター

S75-2 **一般精神科医の役割**

○大塚 俊弘
川崎市こども未来局児童家庭支援・虐待対策室

S75-3 **小児総合病院における児童虐待対応 –神奈川県立こども医療センターの場合–**

○新井 卓
地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター

S75-4 **児童相談所を経験し、思春期病棟で働く児童精神科医から**

○堀 未来
愛知県精神医療センター

〈コーディネーター〉 中山 浩　川崎市こども家庭センター

13:30〜14:30　一般演題（口演）53
社会・司法精神医学

司会：**村上 優**　　独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター

3-053-1　一精神科クリニック初診患者の約４割がひきこもり経験者だった：ひきこもり（現在・過去）患者の割合と特徴

○今井 必生[1]、高松 桃子[3]、三家 英明[3]、吉澤 一[3]、三家 英彦[3]、浜中 利保[3]、岡崎 剛[3]、中村 理香[3]、古川 壽亮[2]
[1]大橋クリニック医局、[2]京都大学医学研究科・社会健康医学専攻健康増進・行動学分野、[3]医療法人三家クリニック

3-053-2　医療観察法データベースの構築 −医療の向上に資する基盤づくりと活用−

○河野 稔明[1,2]、竹田 康二[2]、山田 悠至[2]、小池 純子[1]、藤井 千代[1]、平林 直次[2]
[1]国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所、[2]国立精神・神経医療研究センター病院

3-053-3　拘置所入所者における向精神薬の服用率、および罪名との関連

○西尾 彰泰、堀田 亮、山本 眞由美
岐阜大学保健管理センター

3-053-4　医療観察法鑑定：入院処遇の判断が多いのは何故か？ −20 例の演者鑑定例からその理由を考察する−

○田野島 隆、佐藤 由佳、樋口 由利枝、後藤 愛代、美濃又 左千夫、菅原 規晃、葛西 典男、有田 矩明
社会医療法人共栄会札幌トロイカ病院医局

14:30〜15:30　一般演題（口演）56
精神保健福祉・その他

司会：**松本 和紀**　　東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

3-056-1　ひきこもり外来の地域社会への展開

○中垣内 正和[1]、桑原 秀樹[1,2]、河合 純[1]
[1]ながおか心のクリニック医局、[2]医療法人社団総文会クリニック足立

3-056-2　総合病院における精神科作業療法の効果

○嘉部 匡朗[1,4]、富岡 大[2]、大野 実里[1]、藤野 尚子[1]、青木 いづみ[1]、小金丸 泰史[2]、白井 將博[2]、太田 佐保子[2]、瀬戸 詩織[2]、坂内 めぐみ[3]、佐藤 啓[3]、稲本 淳子[2]
[1]昭和大学横浜市北部病院リハビリテーション室、[2]昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、
[3]昭和大学横浜市北部病院看護部、[4]昭和大学保健医療学部作業療法学科

3-056-3　地域精神保健医療の共創戦略の開発

○竹島 正[1,3]、高橋 邦彦[2]、臼杵 理人[3]、笹井 康典[4]、辻本 哲士[5]、竹之内 薫[6]、山田 正夫[7]、白川 教人[8]、宍倉 久里江[9]、立森 久照[3]、山之内 芳雄[3]
[1]川崎市精神保健福祉センター、[2]名古屋大学大学院医学系研究科、
[3]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[4]大阪府こころの健康総合センター、
[5]滋賀県精神保健福祉センター、[6]鹿児島県精神保健福祉センター、[7]神奈川県精神保健福祉センター、
[8]横浜市こころの健康相談センター、[9]相模原市精神保健福祉センター

3-056-4　回避・制限性食物摂取症とみなされていたがグルテン関連障害を疑った一例

○佐藤 由英[1]、佐々木 はづき[1]、篠﨑 將貴[1]、岡安 寛明[1]、椎木 麻姫子[2]、志水 太郎[2]、下田 和孝[1]
[1]獨協医科大学病院精神神経科、[2]獨協医科大学病院総合診療医学講座

3-056-5　拒否が著しく入院後、治療導入に難渋した神経性やせ症女子中学生：症例報告

○石橋 知明、福岡 彩加、大森 一郎、上野 幹二、小坂 浩隆
福井大学医学部附属病院

6月22日（土） I会場（センター 3F 小会場）［中会議室302B］

8:10〜10:10 シンポジウム 64
今、マインドフルネスを考える

司会：**北西 憲二** 北西クリニック/森田療法研究所
黒木 俊秀 九州大学大学院人間環境学研究院

S64-1 **マインドフルネスは、なぜ精神症状に効果を発揮するのか？**
○佐渡 充洋
慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

S64-2 **アクセプタンス＆コミットメント・セラピーにおける無我の概念**
○熊野 宏昭
早稲田大学人間科学学術院

S64-3 **森田療法と弁証法的行動療法（DBT）での若年患者の治療〜身体技法とマインドフルネス〜**
○竹田 康彦
福岡心身クリニック精神科

S64-4 **森田療法におけるマインドフルネス**
○新村 秀人
慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 新村 秀人 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
北西 憲二 北西クリニック/森田療法研究所

10:20〜12:20 シンポジウム 76
発達障害とてんかん：各診療科の立場から

司会：**曾根 大地** University College London Institute of Neurology
谷口 豪 東京大学医学部附属病院

S76-1 **発達障害とてんかん：成人てんかん科の立場から**
○曾根 大地
University College London Institute of Neurology

S76-2 **発達障害とてんかん –成人発達専門外来診療医の立場から–**
○中岡 健太郎
愛知県精神医療センター精神科

S76-3 **てんかんの外科治療と認知発達機能への影響**
○岩崎 真樹[1]、齋藤 貴志[2]、住友 典子[2]、飯島 圭哉[1]、高山 裕太郎[1]、村岡 範裕[1]、木村 唯子[1]、金子 裕[1]、中川 栄二[2]
[1]国立精神・神経医療研究センター病院脳神経外科、[2]国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科

S76-4 **神経発達症と小児てんかん**
○中川 栄二
国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科

〈コーディネーター〉 曾根 大地 University College London Institute of Neurology
金生 由紀子 東京大学医学部附属病院
谷口 豪 東京大学医学部附属病院

13:30〜14:30　一般演題（口演）54
神経心理

司会：**富岡 大**　　昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター

3-054-1　**統合失調症の社会認知機能の包括的検査バッテリー ABCD の成績と社会機能との関連**

○丹羽 真一[1]、國井 泰人[1]、星野 大[2]
[1]福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座、[2]福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

3-054-2　**重度認知症患者は扉を開けることができるか：アルツハイマー病と前頭側頭型認知症における検討**

○和泉 美和子[1]、丸山 志織[1]、田中 政春[2]、今村 徹[3]
[1]特定医療法人楽山会三島病院神経心理科、[2]特定医療法人楽山会三島病院精神科、
[3]新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健学専攻言語聴覚学分野

3-054-3　**失読失書をともなう症例への長期認知リハビリテーション**

○穴水 幸子[1]、仁井田 りち[2]、田渕 肇[2]、斎藤 文恵[2]、冨永 真紀子[3]、三村 將[2]
[1]国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科、[2]慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、
[3]東京リハビリテーション訪問看護ステーション中野

3-054-4　**第四世代の認知行動療法・けやき療法が有効だった 1 例**

○稲田 良宜、稲田 信子
駅前神経内科メンタルヘルス研究所

3-054-5　**「人格水準の低下」と「人格」の問題 –Frankl の人間観から–**

○杉岡 良彦
一般財団法人信貴山病院分院上野病院

14:30〜15:30　一般演題（口演）57
神経薬理・その他

司会：**西村 勝治**　　東京女子医科大学医学部精神医学講座

3-057-1　**Venlafaxine および O-desmethylvenlafaxine の鏡像異性体の薬物動態学的解析**

○佐々木 太郎[1]、渡邊 崇[1,3]、井上 義政[1]、佐々木 はづき[1]、篠﨑 將貴[1]、青木 顕子[1]、林 有希[1]、
加藤 和子[3]、黒田 仁一[2]、古郡 規雄[1]、下田 和孝[1]
[1]獨協医科大学病院精神神経医学講座、[2]栃木県立岡本台病院、[3]さくら・ら心療内科

3-057-2　**日本人における venlafaxine と活性代謝産物の薬物動態学的解析**

○佐々木 はづき[1]、渡邊 崇[1,3]、井上 義政[1]、佐々木 太郎[1]、篠﨑 將貴[1]、青木 顕子[1]、林 有希[1]、
加藤 和子[3]、黒田 仁一[2]、古郡 規雄[1]、下田 和孝[1]
[1]獨協医科大学精神神経医学講座、[2]栃木県立岡本台病院、[3]さくら・ら心療内科

3-057-3　**自閉スペクトラム症の特性を伴う思春期境界性パーソナリティ障害の一例**

○髙橋 有記、大西 雄一、三上 克央、山本 賢司、松本 英夫
東海大学医学部付属病院精神科

3-057-4　**境界例との終わりなき権力闘争に巻き込まれてはならない**

○深尾 琢
岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野

6月22日（土） J会場（センター 3F 小会場）［中会議室302A］

8:10～10:10 シンポジウム 65
「共同意思決定」を生む対話についての検討～患者の権利、意思とはなにか～

司会：**伊藤 順一郎** メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ
福井 里江 東京学芸大学教育心理学講座

S65-1 **「意思決定支援」から「欲望形成支援」へ**
○斎藤 環
筑波大学社会精神保健学

S65-2 **ホームレス支援の現場における支援付き意思決定 –歴史の共有と選択肢・情報・経験の保障–**
○熊倉 陽介
東京大学医学部大学院医学系研究科精神保健学分野

S65-3 **当事者・家族が最も求めるのは、想像力と尊敬です！**
○夏苅 郁子
やきつべの径診療所

S65-4 **当事者と医師、地域住民が共同する精神科医療への提言～日本の精神保健福祉へのピアサポートの可能性～**
○松谷 光太郎
武蔵野大学大学院

S65-5 **共同意思決定を支援するコンピュータシステム SHARE 開発：その効果と今後への期待**
○伊藤 順一郎[1]、福井 里江[2]、松谷 光太郎[3]、山口 創生[4]、藤田 英親[5]、種田 綾乃[6]、板垣 貴志[7]
[1]メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ、[2]東京学芸大学教育心理学講座、[3]武蔵野大学大学院、
[4]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、[5]国分寺すずかけ心療クリニック、
[6]神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部、[7]株式会社アクセライト

〈コーディネーター〉 伊藤 順一郎 メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ
福井 里江 東京学芸大学教育心理学講座

10:20～12:20 シンポジウム 77
急性精神病の最近の状況

司会：**坂元 薫** 赤坂クリニック
阿部 隆明 自治医科大学附属病院

S77-1 **スーパー救急病棟における急性精神病の背景・治療と非定型精神病診断の有用性**
○山田 浩樹
昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター

S77-2 **急性精神病に対する m-ECT の役割～適応と効能を再考する～**
○平林 万紀彦、中山 和彦
八千代病院精神科

S77-3 **非定型精神病の病態の変遷と長期的転帰～当院における直近 10 年間 56 症例の検討と考察～**
○渡辺 憲
社会医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院精神科

S77-4 **急性精神病の現状**
○金沢 徹文
大阪医科大学神経精神医学教室

S77-5 〔指定発言〕

○中山 和彦
八千代病院

〈コーディネーター〉 須賀 英道　　龍谷大学短期大学部

13:30〜15:30 シンポジウム 86
摂食障害の心理教育に役立つコンテンツ –ミニマル・エッセンシャルズ

司会：**井上 幸紀**　大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学
岡本 百合　広島大学保健管理センター

S86-1 **神経性やせ症の身体的合併症**

○鈴木 眞理
政策研究大学院大学保健管理センター

S86-2 **摂食障害の栄養療法**

○河合 啓介
国立国際医療研究センター国府台病院心療内科

S86-3 **摂食障害の心理社会的問題**

○西園マーハ 文
明治学院大学心理学部

〈コーディネーター〉 鈴木 眞理　　政策研究大学院大学保健管理センター

6月22日（土） K会場（センター 3F 中会場）［小会議室303＋304］

8:10～10:10 シンポジウム 66
精神科医は強度行動障害に何が出来るか？

司会：**市川 宏伸** 日本発達障害ネットワーク
會田 千重 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

S66-1 **精神科医は強度行動障害に何が出来るか？**
○市川 宏伸
日本発達障害ネットワーク

S66-2 **精神科医が強度行動障害にできることを「行動」の視点から考える**
○會田 千重
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

S66-3 **発達障害・強度行動障害の現状と課題～精神科医の立場から～**
○田渕 賀裕[1,2]
[1]関東医療少年院、[2]医療法人社団翠会成増厚生病院

S66-4 **精神科医が出来ること～福祉施設における役割～**
○田中 恭子
独立行政法人国立病院機構菊池病院

S66-5 **〔指定発言〕**
○川崎 葉子
むさしの小児発達クリニック

S66-6 **〔指定発言〕**
○井上 雅彦
鳥取大学医学部

〈コーディネーター〉 市川 宏伸 日本発達障害ネットワーク
會田 千重 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

10:20～12:20 シンポジウム 78
わが国における大規模処方調査“MUSUBI-J”から分かる双極性障害治療のあるべき姿

司会：**加藤 正樹** 関西医科大学精神神経科
勝元 榮一 かつもとメンタルクリニック

S78-1 **双極性障害の非寛解と関連する因子について見出した MUSUBI 1 次調査および 1.5 次調査からの知見**
○坪井 貴嗣
杏林大学医学部付属病院精神神経科学教室

S78-2 **情動安定剤と抗精神病薬および抗うつ薬の組み合わせから見た各薬物の特徴**
○古郡 規雄[1]、吉村 玲児[2]、加藤 正樹[3]、中川 敦夫[4]、菊地 俊暁[4]、坪井 貴嗣[5,6]、足立 直人[6]、窪田 幸久[6]、阿瀬川 孝治[6]、上田 均[6]、枝川 浩二[6]、勝元 榮一[6]、後藤 英一郎[6]、本郷 誠司[6]、渡邊 衡一郎[5]
[1]獨協医科大学精神神経医学講座、[2]産業医科大学病院、[3]関西医科大学精神神経科学講座、[4]慶應義塾大学病院、[5]杏林大学医学部付属病院、[6]日本精神神経科診療所協会

S78-3 **MUSUBI 研究 1.5 次調査（2017）の概要**

○足立 直人[1,2]、上田 均[2]、本郷 誠司[2]、阿瀬川 孝治[2]、三木 和平[2]、窪田 幸久[2]、勝元 榮一[2]、渡辺 洋一郎[2]、枝川 浩二[2]、後藤 英一郎[2]、古郡 規雄[3]、菊地 俊暁[3]、中川 敦夫[3]、坪井 貴嗣[3]、渡邊 衡一郎[3]、加藤 正樹[3]、吉村 玲児[3]
[1]武蔵屋足立医院、[2]日本精神神経科診療所協会、[3]日本臨床精神神経薬理学会

S78-4 **精神科診療所における双極性障害治療の実際と MUSUBI に期待すること**

○阿瀬川 孝治[1,2]、足立 直人[2]、上田 均[2]、本郷 誠司[2]、三木 和平[2]、窪田 幸久[2]、勝元 榮一[2]、渡辺 洋一郎[2]、枝川 浩二[2]、後藤 英一郎[2]、古郡 規雄[3]、菊地 俊暁[3]、中川 敦夫[3]、坪井 貴嗣[3]、渡邊 衡一郎[3]、加藤 正樹[3]、吉村 玲児[3]
[1]医療法人三精会汐入メンタルクリニック、[2]日本精神神経科診療所協会、[3]日本臨床精神神経薬理学会

S78-5 **長期間状態継続群と Rapid Cycle 群の背景や投薬内容の特徴から見えてくるものは？ MUSUBI 研究より**

○加藤 正樹
関西医科大学精神神経科学講座

〈コーディネーター〉 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座

13:30〜15:30 シンポジウム 87
腸内細菌叢–腸管–脳軸：発達早期における精神活動と行動への影響

司会：三上 克央 東海大学医学部専門診療学系精神科学
須藤 信行 九州大学大学院医学研究院心身医学

S87-1 **腸内細菌と脳腸相関**

○須藤 信行
九州大学大学院医学研究院心身医学

S87-2 **生来の常在細菌がマウスの情動行動の成長に与える影響**

○西野 良
新潟大学医歯学総合病院臨床研究推進センター

S87-3 **腸内細菌叢による発達早期の精神活動と行動への影響**

○三上 克央
東海大学医学部専門診療学系精神科学

S87-4 **母と子を結ぶ周産期母体腸内細菌と児の脳発達 –動物モデルを用いた研究成果から**

○栃谷 史郎[1,2]
[1]鈴鹿医療科学大学保健衛生学部、[2]福井大学子どものこころの発達研究センター

〈コーディネーター〉 三上 克央 東海大学医学部専門診療学系精神科学

6月22日（土） L会場（センター 3F 中会場）[小会議室306＋307]

8:10～10:10 シンポジウム 67
ミクログリアは精神疾患の成り立ちにどのように関与するのか？

司会：**門司 晃** 佐賀大学医学部精神医学講座

S67-1 **うつ病と認知症の共通病態としての神経炎症 –ミクログリアの役割は？–**
○溝口 義人
佐賀大学医学部精神医学

S67-2 **ミクログリアと心：脳内免疫細胞が心理社会的活動とその破綻に関わる可能性**
○加藤 隆弘
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S67-3 **ミクログリアの新規生理機能とその破綻による精神疾患の可能性**
○和氣 弘明
神戸大学大学院医学研究科

S67-4 **心理社会的ストレスによる慢性疼痛の変調：ミクログリアの関与**
○齊藤 秀俊、津田 誠
九州大学大学院薬学研究院ライフイノベーション分野

〈コーディネーター〉 門司 晃 佐賀大学医学部精神医学講座

10:20～12:20 シンポジウム 79
当事者研究・オープンダイアローグ・ACT –現在の地点と将来：その協働が日本の精神保健福祉にもたらすもの

司会：**池淵 恵美** 帝京平成大学大学院臨床心理学研究科
石原 孝二 東京大学大学院総合文化研究科

S79-1 **当事者研究の可能性**
○向谷地 生良
北海道医療大学看護福祉学部

S79-2 **当事者研究と共同創造**
○熊谷 晋一郎
東京大学先端科学技術研究センター

S79-3 **倫理的であることの治療的意義**
○斎藤 環
筑波大学社会精神保健学

S79-4 **ACT 実践に対話的文化をはぐくむことで見えてきたこと**
○伊藤 順一郎
メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ

S79-5 **日本における ACT とオープンダイアローグ、その将来**
○高木 俊介
たかぎクリニック

〈コーディネーター〉 石原 孝二 東京大学大学院総合文化研究科
斎藤 環 筑波大学医学医療系

13:30〜15:30 シンポジウム 88
精神疾患の背後に発達障害特性を見いだしたとき、いかに治療すべきか

司会：**岡田 俊**　名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科
小平 雅基　総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科

S88-1　**発達障害における強迫性と発達障害を背景とする強迫症状**
○小平 雅基
総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科

S88-2　**発達障害に伴う不安と発達障害を基盤とする表現型としての不安症**
○岡田 俊
名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科

S88-3　**発達障害を有する患者のトラウマ関連症状**
○岩垂 喜貴
医療法人財団青渓会駒木野病院精神科

S88-4　**ボーダーラインパーソナリティ特性と発達障害特性**
○渡部 京太
広島市こども療育センター

〈コーディネーター〉 岡田 俊　名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科
小平 雅基　総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科

6月22日（土） M会場（センター 4F 中会場）[国際会議室]

8:10〜10:10 シンポジウム 68
医療と司法からみたダイバーシティ

司会：**奥村 雄介** 東日本矯正医療センター
安藤 久美子 聖マリアンナ医科大学病院神経精神科学教室

S68-1 **ダイバーシティと矯正医療**
○奥村 雄介
東日本矯正医療センター

S68-2 **高齢者犯罪の増加をめぐって**
○野村 俊明
日本医科大学付属病院

S68-3 **司法の文脈における個性とダイバーシティ –ジェンダーと発達障害の視点から**
○安藤 久美子
聖マリアンナ医科大学病院神経精神科学教室

S68-4 **電脳空間における犯罪とダイバーシティ**
○岡田 幸之
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野

S68-5 **検察庁における再犯防止対策**
○横田 希代子
東京高等検察庁

〈コーディネーター〉 安藤 久美子 聖マリアンナ医科大学病院神経精神科学教室

10:20〜12:20 シンポジウム 80
統合失調症の Sense of Agency 研究：精神病理学–計算論的精神医学–神経科学の連繋

司会：**前田 貴記** 慶應義塾大学医学部精神神経科
山下 祐一 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S80-1 **統合失調症における自我障害の精神病理学**
○前田 貴記
慶應義塾大学医学部精神神経科

S80-2 **統合失調症における自我障害の神経心理学：Sense of Agency とは？**
○大井 博貴
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S80-3 **統合失調症における Sense of Agency の神経生理学**
○温 文
東京大学大学院工学系研究科精密工学専攻

S80-4 **予測符号化理論に基づく統合失調症の病態理解：精神病理学と神経科学の橋渡しとしての計算論的精神医学**
○山下 祐一
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第七部

S80-5 **ニューラルネットワークモデルによる統合失調症での Sense of Agency 異常の病態仮説検証**

◯沖村 宰[1,2]
[1]医療法人社団碧水会長谷川病院、[2]慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

〈コーディネーター〉 前田 貴記　慶應義塾大学医学部精神神経科
山下 祐一　国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

13:30〜15:30 委員会シンポジウム 28（法委員会）
旧優生保護法と精神科医療を検証する

司会：**三野 進**　みのクリニック
早苗 麻子　萌クリニック

CS28-1 **日本における優生法の歴史**

◯松原 洋子
立命館大学

CS28-2 **優生保護法と精神科医療**

◯岡田 靖雄
青柿舎

CS28-3 **優生保護法のもとで 障害者と女性の葛藤と共闘**

◯米津 知子[1,2,3]
[1]DPI女性障害者ネットワーク、[2]SOSHIREN女（わたし）のからだから、[3]優生手術に対する謝罪を求める会

CS28-4 **旧優生保護法と精神科医療に関する法委員会の報告**

◯佐藤 眞弓
医）ひまわり佐藤まゆみメンタルクリニック

〈コーディネーター〉 佐藤 眞弓　（医）ひまわり佐藤まゆみメンタルクリニック
三野 進　みのクリニック
早苗 麻子　萌クリニック

6月22日（土） N会場（ホテル 3F 小会場）[孔雀]

8:10～10:10 シンポジウム 69
慢性疼痛

司会：**臼井 千恵** 順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック科
井上 雄一 公益財団法人神経研究所睡眠学研究室

S69-1 **慢性痛の認知行動療法をより効果的なものにするために –課題と対策–**
○吉野 敦雄、神人 蘭、岡本 泰昌
広島大学大学院精神神経科

S69-2 **慢性疼痛：集学的治療の重要性**
○西原 真理、井上 雅之
愛知医科大学医学部学際的痛みセンター

S69-3 **線維筋痛症の脳機能画像研究および今後の展開**
○臼井 千恵
順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック科

S69-4 **オフセット疼痛を用いた慢性疼痛疾患である線維筋痛症とうつ病などの他の鑑別疾患との検討**
○長田 賢一[1]、臼井 千恵[2]
[1]聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室、[2]順天堂大学医学部附属練馬病院

S69-5 **Restless legs 症候群と疼痛の関係**
○井上 雄一
公益財団法人神経研究所睡眠学研究室

〈コーディネーター〉 臼井 千恵 順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック科
井上 雄一 公益財団法人神経研究所睡眠学研究室

10:20～12:20 シンポジウム 81
不安症状に対する新しい取り組み

司会：**穐吉 條太郎** 大分大学医学部分子解剖学/大分駅南クリニック
井上 猛 東京医科大学精神医学分野

S81-1 **不安を伴う自閉スペクトラム症児に対する集団認知行動療法プログラムの有用性の検討**
○神尾 陽子[1]、岡 琢哉[2]、中島 洋子[3]
[1]お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所、[2]東京都立小児総合医療センター、[3]医療法人豊仁会まな星クリニック

S81-2 **自然還元水または水道水のヒトへの長期投与における臨床ランダム化比較研究**
○穐吉 條太郎[1,2]
[1]大分大学医学部分子解剖学教室、[2]大分駅南クリニック

S81-3 **心身相関軸から介入する古くて新しい方法**
○熊野 宏昭
早稲田大学人間科学学術院

S81-4 **小児期の体験が不安症状に及ぼす影響**
○井上 猛
東京医科大学精神医学分野

S81-5 〔指定発言〕

○川崎 葉子
お茶の水女子大学

〈コーディネーター〉 穐吉 條太郎 大分大学医学部分子解剖学/大分駅南クリニック
井上 猛 東京医科大学精神医学分野

13:30〜15:30 シンポジウム 89
精神科薬物療法の出口戦略を考える

司会：**三島 和夫** 秋田大学大学院医学系研究科
渡辺 範雄 京都大学大学院社会健康医学系専攻

S89-1 **抗精神病薬**

○稲田 健
東京女子医科大学医学部精神医学講座

S89-2 **抗うつ薬治療で寛解した後の抗うつ薬中止を考える。 −メタ解析−**

○加藤 正樹
関西医科大学精神神経科学講座

S89-3 **気分安定薬により病状が安定した双極性障害患者は、その気分安定薬を継続すべきか？**

○岸 太郎[1]、松田 勇紀[2]、大矢 一登[1]、佐久間 健二[1]、野村 郁雄[1]、奥谷 理[1]、三宅 誕実[3]、波多野 正和[5]、橋本 保彦[4]、江角 悟[6]、松井 佑樹[7]
[1]藤田医科大学精神神経科、[2]東京慈恵会医科大学附属病院、[3]聖マリアンナ医科大学病院、[4]神戸学院大学、[5]藤田医科大学、[6]岡山大学病院、[7]医療法人明心会仁大病院

S89-4 **ベンゾジアゼピン受容体作動薬の減量・中止に心理社会療法は有用か？**

○高江洲 義和[1]、船田 大輔[2]
[1]杏林大学精神神経科学教室、[2]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S89-5 **ADHD 薬物治療の出口戦略を考える**

○齊藤 卓弥[1]、辻井 農亜[2]、宇佐美 正英[3]、桑原 秀徳[4]、藤田 純一[5]、根来 秀樹[6]、川村 路代[7]、飯田 順三[8]、岡田 俊[9]
[1]北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門、[2]近畿大学医学部精神神経科学講座、[3]国立国際医療研究センター国府台病院、[4]医療法人せのがわ瀬野川病院、[5]横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門、[6]奈良教育大学教育学部障害児医学分野、[7]北海道大学附属図書館研究支援課医系グループ、[8]奈良県立医科大学医学部看護学科、[9]名古屋大学医学部付属病院親と子どもの診療科

S89-6 〔指定発言〕

○橋本 亮太
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈コーディネーター〉 三島 和夫 秋田大学大学院医学系研究科
橋本 亮太 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
渡辺 範雄 京都大学大学院社会健康医学系専攻

6月22日（土） O会場（ホテル 4F 小会場）[朱鷺A]

8:10～10:10 シンポジウム 70
精神科治療に対する同意能力は適切に評価されているのか？患者の保護と自己決定の尊重

司会：**古郡 規雄** 獨協医科大学精神神経医学講座
橋本 有生 早稲田大学法学学術院

S70-1 **精神科医療における同意能力について**
○宮﨑 健祐
一般財団法人愛成会弘前愛成会病院精神科

S70-2 **医療同意における法律問題**
○橋本 有生
早稲田大学

S70-3 **統合失調症における同意能力研究の現状**
○菅原 典夫
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター情報管理・解析部

S70-4 **認知症患者における医療同意能力評価**
○成本 迅
京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

〈コーディネーター〉 古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座

10:20～12:20 シンポジウム 82
精神科診断に求められる機能・要件を考える

司会：**太田 敏男** さやま総合クリニック
仙波 純一 さいたま市立病院精神科

S82-1 **診療場面、特に初期・急性期において精神科診断に求められる枠組みと機能**
○太田 敏男
さやま総合クリニック

S82-2 **薬物療法からみた精神科診断の機能と要件**
○仙波 純一
さいたま市立病院精神科

S82-3 **精神科診断に求められる機能と要件：精神療法・カウンセリングの立場から**
○大野 裕
大野研究所

S82-4 **精神科診断における精神症状と脳機能と主観体験**
○福田 正人
群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

S82-5 **認知症診断の社会的機能：医療人類学の視点から**
○北中 淳子
慶應義塾大学文学部

〈コーディネーター〉 太田 敏男 さやま総合クリニック
仙波 純一 さいたま市立病院精神科

13:30〜15:30 シンポジウム 90
精神科診断を向上させるためのヘルスリテラシーの活用

司会：**鈴木 利人**　順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック
井上 猛　東京医科大学精神医学分野

S90-1 **ヘルスリテラシーとは何か**
○中山 和弘
聖路加国際大学

S90-2 **精神疾患診断のためのインターネット活用のリスク・ベネフィット**
○太刀川 弘和
筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

S90-3 **コミュニケーションツールを用いたメンタルヘルスリテラシーの向上**
○田中 克俊
北里大学大学院医療系研究科医学専攻産業精神保健学

S90-4 **メンタルヘルスリテラシーと人工知能**
○工藤 弘毅
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

〈コーディネーター〉 鈴木 利人　順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック
井上 猛　東京医科大学精神医学分野

6月22日（土） P会場（ホテル 4F 小会場）[朱鷺B]

8:10～10:10 シンポジウム 71
さまざまな精神神経疾患の妊娠・出産・授乳への対応

司会：**鈴木 利人** 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック
福井 直樹 新潟大学医歯学総合病院精神科

S71-1 **統合失調症合併妊産婦に対する妊娠・出産・授乳への対応**
○根本 清貴
筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

S71-2 **気分障害合併妊産婦に対する妊娠・出産・授乳への対応**
○菊地 紗耶[1]、小林 奈津子[1]、本多 奈美[2]、富田 博秋[2,3]
[1]東北大学病院精神科、[2]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、
[3]東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野

S71-3 **周産期における強迫症・パニック症**
○清野 仁美、橋本 卓也、松永 寿人
兵庫医科大学精神科神経科学講座

S71-4 **摂食障害合併妊婦と産後の地域包括ケアシステム**
○木村 大[1,2,3]、渡邉 博幸[1,4]、中里 道子[2,3]
[1]学而会木村病院、[2]千葉大学大学院医学研究院精神医学、[3]国際医療福祉大学精神医学、
[4]千葉大学社会精神保健教育研究センター

S71-5 **てんかん合併妊娠の医療的支援～妊娠前にすること、妊娠中にすること、出産後にすること～**
○加藤 昌明
むさしの国分寺クリニック

〈コーディネーター〉 鈴木 利人 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック
岡野 禎治 三重大学名誉教授

10:20～12:20 シンポジウム 83
精神科診療における自律神経活動評価：心拍変動計測の現状と展望

司会：**榛葉 俊一** 静岡済生会総合病院精神科
仮屋 暢聡 まいんずたわーメンタルクリニック

S83-1 **心拍変動の基礎と精神疾患における変化**
○榛葉 俊一
静岡済生会総合病院精神科

S83-2 **精神科診療所における心拍変動検査を用いた診断・治療の実際**
○仮屋 暢聡、松田 小織、松田 英江、小原 右輔、樋口 友香
まいんずたわーメンタルクリニック

S83-3 **ヨーガ療法による自律神経活動変化**
○井上 智子[1,2,4,5]、榛葉 俊一[1,3]、宮下 光弘[1,2]、鈴木 一浩[1]、堀内 泰江[1,2]、鳥海 和也[1]、糸川 昌成[1,2]、木村 慧心[4]、新井 誠[1]
[1]東京都医学総合研究所、[2]東京都立松沢病院、[3]静岡済生会総合病院、[4]日本ヨーガ療法学会、[5]首都大学東京

S83-4 **心拍変動（HRV）指標のロジスティック判別分析による客観的うつ病診断**
○孫 光鎬[1]、松井 岳巳[2]、榛葉 俊一[3]、仮屋 暢聡[4]
[1]電気通信大学、[2]首都大学東京、[3]静岡済生会総合病院、[4]まいんずたわーメンタルクリニック

S83-5 **子猫の動画視聴で分かる自律神経応答を用いたうつ病スクリーニングシステム**

○松井 岳巳
首都大学東京システムデザイン学部

〈コーディネーター〉 榛葉 俊一　静岡済生会総合病院精神科
仮屋 暢聡　まいんずたわーメンタルクリニック
松井 岳巳　首都大学東京システムデザイン学部

13:30〜15:30 委員会シンポジウム 29（精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会）
オンライン精神科医療：保険承認後の現状と課題

司会：**米田 博**　大阪医科大学
稲垣 中　青山学院大学

CS29-1 **精神科領域におけるオンライン診療：制度設計の経緯と展望**

○吉村 健佑
千葉大学医学部附属病院病院経営管理学研究センター

CS29-2 **オンライン精神科医療の現状と課題：特に保険診療としての位置づけに注目して**

○岸本 泰士郎
慶應義塾大学精神・神経科学教室

CS29-3 **自由診療を中心としたオンライン精神科医療の実態**

○来田 誠
新六本木クリニック

CS29-4 **オンライン精神科医療：保険承認後の現状と課題地域保健福祉の側面から**

○辻本 哲士
滋賀県立精神保健福祉センター

〈コーディネーター〉 稲垣 中　青山学院大学
辻本 哲士　滋賀県立精神保健福祉センター

6月22日（土） Q会場（万代島ビル 6F）［会議室］

8:10～10:10 シンポジウム 72
今必要な精神科臨床における心理教育

司会：**後藤 雅博** 医療法人崇徳会こころのクリニック・ウィズ
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

S72-1 **統合失調症の心理教育は単なる情報提供か～臨床現場での課題～**
○内野 俊郎
久留米大学医学部神経精神医学講座

S72-2 **うつ病の心理教育**
○藤田 博一
高知大学医学部医学教育創造・推進室

S72-3 **境界性パーソナリティ障害、摂食障害など、感情調節困難のための心理教育としての弁証法的行動療法の活用**
○遊佐 安一郎
長谷川メンタルヘルス研究所

S72-4 **多職種アウトリーチによる支援が心理教育に与える影響について**
○藤井 和世[1]、伊藤 順一郎[1]、岩谷 潤[1]、伊藤 砂智子[1]、浦林 翼[2]、上田 昌広[2]、斎藤 和彦[2]
[1]メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ精神科、[2]特定非営利法人リカバリーサポートセンターACTIPS

S72-5 **〔指定発言〕**
○渡邊 衡一郎
杏林大学医学部精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 後藤 雅博 医療法人崇徳会こころのクリニック・ウィズ
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

10:20～12:20 シンポジウム 84
DV で避難してきた患者とその子どもの精神疾患をどう診ていくか

司会：**三宅 和佳子** 大阪母子医療センター子どものこころの診療科
上野 千穂 京都市児童福祉センター診療所

S84-1 **精神医学的観点から DV を考える –精神科医療は他機関とどう連携するか–**
○山下 浩
さいたま市子ども家庭総合センター

S84-2 **児童相談所と DV（ドメスティックバイオレンス）**
○上野 千穂
京都市児童福祉センター診療所

S84-3 **DV 被害母子の親子間交流の特徴と親子相互交流療法（PCIT）を用いた治療的介入**
○加茂 登志子
若松町こころとひふのクリニックPCIT研修センター

S84-4 **DV 加害者への心理教育プログラム**
○森田 展彰
筑波大学医学医療系

〈コーディネーター〉 上野 千穂 京都市児童福祉センター診療所

6月22日（土） ポスター会場1（センター 2F）［エスプラナード］

12:30〜13:18 一般演題（ポスター）61
遺伝学・分子遺伝学

司会：**渡部 雄一郎** 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

3-P61-1 **児童精神科受診を契機にプラダー・ウィリ症候群の診断が確定した 12 歳児童症例**

○富田 順子[1]、井村 進吾[1]、滝井 泰孝[1]、川目 裕[2]、富田 博秋[3,4]
[1]東北福祉大学せんだんホスピタル、
[2]東北大学東北メディカル・メガバンク機構遺伝子診療支援・遺伝カウンセリング分野、
[3]東北大学大学院医学系研究科精神医学分野、[4]東北大学東北メディカル・メガバンク機構メンタルヘルスケア推進室

3-P61-2 **統合失調症罹患状態一致一卵性双生児家系のエクソーム解析**

○保谷 智史[1]、渡部 雄一郎[1]、布川 綾子[1,2]、井桁 裕文[1]、森川 亮[1]、澁谷 雅子[1]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]大島病院

3-P61-3 **統合失調症患者・両親トリオ 20 家系の全エクソーム解析**

○保谷 智史、渡部 雄一郎、澁谷 雅子、井桁 裕文、森川 亮、染矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

3-P61-4 **統合失調症を合併した Myhre 症候群の 1 例**

○井上 佳祐[1]、永露 毅[2]、瀬本 みさと[3]、六本木 知秀[1]、野本 宗孝[1]、高橋 雄一[1]
[1]横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター、[2]公益財団法人復康会沼津中央病院、
[3]独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

3-P61-5 **統合失調症と自閉スペクトラム症における DAB1 遺伝子内の稀な一塩基変異の探索**

○名和 佳弘、木村 大樹、石塚 佳奈子、久島 周、アレクシッチ ブランコ、尾崎 紀夫
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

3-P61-6 **自殺既遂者の血液・脳組織における Y 染色体喪失の解析**

○木村 敦、菱本 明豊、平田 尚士、山木 愛久、蓬莱 政、新名 尚史、大塚 郁夫、岡崎 賢志、朴 秀賢、曽良 一郎
神戸大学医学部附属病院

12:30〜13:18 一般演題（ポスター）62
児童・思春期精神障害および知的障害 3

司会：**小野 和哉** 聖マリアンナ医科大学

3-P62-1 **児童・思春期精神科病棟でのゲーム機使用に関する全国調査**

○吉永 清宏[1]、杉本 篤言[2]、姉崎 則子[3]、佐藤 博幸[3]、山本 万里子[3]、山田 美穂[3]、江川 純[4]、染矢 俊幸[4]
[1]新潟県立精神医療センター精神科、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座、
[3]新潟県立精神医療センター看護部、[4]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

3-P62-2 **児童精神科に入院、外来通院中の患児における体重、肥満度について**

○吉永 清宏[1]、林 剛丞[1,2]、松崎 陽子[1]、小野 信[1,3]、細木 俊宏[1]
[1]新潟県立精神医療センター精神科、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、
[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座

3-P62-3 **アトモキセチン血中濃度と副作用の関連性**

○杉本 篤言[1]、須貝 拓朗[2]、鈴木 雄太郎[3,4]、折目 直樹[3]、林 剛丞[5]、吉永 清宏[5]、江川 純[2]、小野 信[1]、井上 義政[6]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学講座、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、
[3]新潟大学医歯学総合病院精神科、[4]敬愛会末広橋病院、[5]新潟県立精神医療センター精神科、
[6]獨協医科大学精神神経医学講座

3-P62-4 **児童精神科外来での服薬指導が患児のアドヒアランスに与える影響について**

○杉本 篤言[1]、鈴木 雄太郎[2,3]、山下 朋江[4]、吉永 清宏[5]、折目 直樹[2]、松崎 陽子[5]、小野 信[1]、染矢 俊幸[6]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学講座、[2]新潟大学医歯学総合病院精神科、
[3]医療法人敬愛会末広橋病院、[4]新潟県立精神医療センター薬剤部、[5]新潟県立精神医療センター精神科、
[6]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

3-P62-5 **MEG で計測された非てんかん性突発波が自閉症スペクトラム児の認知機能に与える影響**

○廣澤 徹
金沢大学附属病院神経科精神科

3-P62-6 **自閉スペクトラム障害におけるメタボロミクスの特徴とオキシトシンによる変化について**

○加藤 康彦[1]、桑原 斉[1]、岡田 俊[2]、棟居 俊夫[3]、黒田 美保[4]、児島 正樹[4]、Yassin Walid[4]、ベナー 聖子[4]、江里口 陽介[4]、亀野 陽亮[1]、村山 千尋[1]、由比 光子[3]、尾崎 紀夫[2]、小坂 浩隆[5]、山末 英典[1]
[1]浜松医科大学医学部附属病院精神神経科、[2]名古屋大学医学部付属病院、[3]金沢大学附属病院神経科精神科、
[4]東京大学医学部附属病院、[5]福井大学医学部附属病院

12:30～13:18 一般演題（ポスター）63
児童・思春期精神障害および知的障害 4

司会：**遠藤 太郎**　新潟こころの発達クリニック

3-P63-1 **発達障害専門クリニックにおける注意欠如多動症のグアンファシン塩酸塩による治療転帰について**

○田村 立、遠藤 太郎
新潟こころの発達クリニック

3-P63-2 **小児精神科専門クリニック通院患者におけるゲーム症の実態調査 –ゲーム症と神経発達症の関連について–**

○遠藤 太郎、田村 立
新潟こころの発達クリニック

3-P63-3 **多様な精神医学援助により社会機能を維持した高機能自閉スペクトラム障害患者の 1 症例**

○藤本 浩之
四谷麹町メンタルクリニック

3-P63-4 **修正型電気けいれん療法で治療反応を認めた自閉症カタトニアの 3 症例**

○茂木 太一[1]、墳本 陽子[1]、新留 圭将[1]、高橋 知久[1]、角田 智哉[2]、吉野 相英[1]
[1]防衛医科大学校精神科学講座、[2]福島県立矢吹病院

3-P63-5 **Cornelia de Lange 症候群に併存した自閉スペクトラム症の 2 症例**

○宮下 真子[1]、渡邉 藍子[1]、福井 直樹[1]、吉永 清宏[1]、遠藤 太郎[3]、北村 秀明[2]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学医歯学総合病院精神科、[2]佐潟荘、[3]新潟こころの発達クリニック

3-P63-6 **Conners' Adult ADHD Rating Scales の矛盾指標に関する検討**

○北村 秀明
医療法人水明会佐潟荘精神科

12:30〜13:18　一般演題（ポスター）64
児童・思春期精神障害および知的障害５

司会：**江川 純**　　新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

3-P64-1　**ASD と ADHD の臨床的症状の比較**

○高橋 茜里、富田 秋沙、平田 亮人、岡島 由佳、岩波 明
昭和大学病院附属東病院精神神経科

3-P64-2　**自閉スペクトラム症の成人男性へのオキシトシン投与効果とキヌレニン経路の関係（予備的検討）**

○村山 千尋[1]、桑原 斉[1]、岡田 俊[2]、棟居 俊夫[3]、黒田 美保[4]、児島 正樹[4]、ヤシン ワリド[4]、
ベナー 聖子[4]、江里口 陽介[4]、亀野 陽亮[1]、加藤 康彦[1]、由比 光子[3]、増田 潤一[5]、尾崎 紀夫[2]、
小坂 浩隆[6]、山末 英典[1]
[1]浜松医科大学医学部附属病院精神神経科、[2]名古屋大学医学部付属病院、[3]金沢大学附属病院神経科精神科、
[4]東京大学医学部附属病院、[5]島津製作所、[6]福井大学医学部附属病院

3-P64-3　**成人期の ADHD の WAIS−III におけるディスクレパンシー**

○武田 俊信[1]、中島 陽大[2]、辻 由依[3]
[1]龍谷大学文学部、[2]洛和会音羽病院、[3]北海道医療大学

3-P64-4　**ロールシャッハテスト・バウムテストにおける自閉症スペクトラム症の心理的特徴の理解**

○佐野 英孝、妹尾 佳苗
白根緑ケ丘病院精神科

3-P64-5　**発達性計算障害症例における数概念について**

○丹治 和世[1,2]、加藤 進昌[2]
[1]山形県立こころの医療センター精神科、[2]昭和大学発達障害医療研究所

3-P64-6　**拡散テンソル画像を用いた脳機能結合と自閉スペクトラム症との関連解析**

○江川 純[1]、杉本 篤言[1]、吉永 清宏[1,2]、林 剛丞[1,2]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟県立精神医療センター

6月22日（土） ポスター会場2（センター 2F）［メインホールAB前ホワイエ］

12:30～13:18 一般演題（ポスター）65
コンサルテーション・リエゾン３

司会：**山田 健志** 公益財団法人がん研究会有明病院腫瘍精神科

3-P65-1 **PHQ-9 および SF-8 の調査結果から考察する肝移植ドナーの長期予後について**

○成田 尚、黒鳥 偉作、大柳 有加、高信 径介、渡辺 晋也、宇土 仁木、前田 珠希、岡 松彦、北川 寛、久住 一郎
北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

3-P65-2 **頭部外傷受傷者に対する東北大学病院精神科リエゾンチームの取り組み**

○佐久間 篤[1]、八木橋 真央[1]、中川 敦寛[2]、麦倉 俊司[3]、古谷 桂子[4]、工藤 大介[4,5]、大沢 伸一郎[2]、久志本 成樹[4,5]、冨永 悌二[2]、富田 博秋[6]
[1]東北大学病院精神科、[2]東北大学大学院医学系研究科神経外科学分野、
[3]東北大学大学院医学系研究科放射線診断学分野、[4]東北大学病院高度救命救急センター、
[5]東北大学大学院医学系研究科救急医学分野、[6]東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

3-P65-3 **総合病院リエゾン診療から見たアルコール依存症**

○落合 尚美[1]、三浦 裕介[1]、池田 真人[1]、紺井 理和[2]、岩田 多加子[3]、仲野 真由美[4]、横田 夏葉[5]
[1]聖路加国際病院精神科、[2]聖路加国際病院予防医療センター、[3]聖路加国際病院オンコロジーセンター、
[4]聖路加国際病院医療社会事業科、[5]聖路加国際病院臨床心理室

3-P65-4 **重症熱傷のリエゾン・コンサルテーション自殺企図後の顔面熱傷後瘢痕患者の治療について**

○川本 恭子[1]、亀井 航[2]、堀 圭二朗[2]、豊見山 則子[3]、櫻井 裕之[2]
[1]東京女子医科大学神経精神科、[2]東京女子医科大学病院形成外科、[3]東京女子医科大学八千代医療センター看護局

3-P65-5 **地域リエゾンの試み～不妊治療専門クリニックにおけるコンサルテーション・リエゾン精神医療**

○安田 貴昭[1]、栗原 瑛大[1,2]、原口 真里子[3]、松浦 恵[3]、村林 奈緒[3,4]、福田 純子[3]、俵 史子[3,4]
[1]埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック、[2]埼玉精神神経センター精神科、[3]俵IVFクリニック、
[4]浜松医科大学生殖周産期医学講座

3-P65-6 **地域リエゾンの試み～在宅療養支援診療所におけるコンサルテーション・リエゾン精神医療**

○安田 貴昭[1]、丸山 善治郎[2]、倉持 泉[1,3]、嶋崎 広海[1,4]、吉益 晴夫[1]
[1]埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック、[2]あい小児科、[3]埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科、
[4]西熊谷病院精神・神経科

12:30～13:18 一般演題（ポスター）66
コンサルテーション・リエゾン４

司会：**新藤 雅延** 新潟市民病院

3-P66-1 **緩和医療におけるハロペリドール注使用状況の調査**

○富岡 大[1,2,3]、岩船 めぐみ[2]、横山 和彦[2,4]、杉阪 利枝[2]、徳永 愛美[2]、梅野 頌子[2]、星川 麻美[2]、野村 美香[1,2]、小田 道子[1,2]、飛田 真砂美[3]、横山 佐知子[3]、富田 秋沙[3]、沖野 和麿[1,3]、佐藤 裕一[1]、佐藤 啓[1]、嘉部 匡朗[1]、岡本 健一郎[2,4]、稲本 淳子[1,3]、岩波 明[3]
[1]昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター精神神経科、[2]昭和大学横浜市北部病院緩和医療チーム、
[3]昭和大学医学部精神医学講座、[4]昭和大学横浜市北部病院緩和医療科

3-P66-2 **せん妄対策ワーキングチームによる院内せん妄対策標準化の試み：せん妄マニュアル運用前後での比較検討**

○井田 逸朗、村山 侑里、石井 あかね
独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター精神科

3-P66-3 **精神科有床総合病院の身体科病棟におけるソーシャルワークについて**

○榎本 哲郎[1]、浦野 隆[2]、山本 啓太[2]、佃 宏美[2]、原田 郁大[2]、佐藤 啓子[2]、金久保 正光[2]、
仁科 雄介[2]、瑞慶覧 紗希[2]、薬師寺 あかり[2]
[1]国立国際医療研究センター国府台病院精神科、[2]国立国際医療研究センター国府台病院

3-P66-4 **がん患者のうつ状態に対するエスシタロプラムの有効性および忍容性：非盲検非対照デザイン研究**

○市倉 加奈子[1,2]、宮島 美穂[2]、松島 英介[2]
[1]北里大学医療衛生学部健康科学科精神保健学、[2]東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科心療・緩和医療学

3-P66-5 **緩和ケア病棟で精神科医に求められること**

○和田 知未
大阪鉄道病院緩和ケア内科

12:30～13:18 一般演題（ポスター）67
薬物療法 1

司会：**鈴木 雄太郎** 新潟大学医歯学総合病院精神科

3-P67-1 **レビー小体型認知症患者の運動障害に対するゾニサミドの有効性および安全性の検討（第三相試験）**

○小田原 俊成[1]、長谷川 一子[2]、梶原 律子[3]、竹内 久朗[3]、田川 正秋[4]、高井 健太郎[4]、丸山 秀徳[4]、
村田 美穂[5]、小阪 憲司[6]
[1]横浜市立大学保健管理センター、[2]国立病院機構相模原病院神経内科、[3]大日本住友製薬（株）開発本部、
[4]大日本住友製薬（株）メディカルアフェアーズ部、[5]国立精神・神経医療研究センター神経内科、
[6]湘南いなほクリニック

3-P67-2 **カルバマゼピン、クロルプロマジン、バルプロ酸間で交差過敏性を示した症例における白血球表面抗原**

○櫻田 久美、山田 和男、丹生谷 正史、中川 誠秀、鈴木 映二
東北医科薬科大学病院精神科

3-P67-3 **単科精神科病院における慢性の薬剤性便秘の現状 –その病態と対策（治療）を中心に–**

○岩崎 真三
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院精神科

3-P67-4 **単剤および多剤治療群間における Aripiprazole と血中プロラクチン値の関連**

○橋尻 洸陽[1,2]、須貝 拓朗[2]、鈴木 雄太郎[2]、山崎 學[3]、下田 和孝[4]、森 隆夫[3]、尾関 祐二[4]、
松田 ひろし[3]、菅原 典夫[5]、古郡 規雄[4,6]、岡本 呉賦[3]、寒河江 豊昭[7]、染矢 俊幸[2]
[1]新潟県立精神医療センター、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[3]公益社団法人日本精神科病院協会、
[4]獨協医科大学精神神経医学講座、
[5]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター、
[6]弘前大学大学院神経精神医学講座、[7]山形県立米沢栄養大学健康栄養学部健康栄養学科

3-P67-5 **SCAP 法を用いた処方適正化チームによる抗精神病薬減量の試み**

○坂本 靖之[1,2]、助川 鶴平[3]、百出 卓実[2]、門野 恵莉[2]、平見 明浩[2]、小谷 直江[4]、板野 亨[2]、
三好 浩一郎[2]
[1]独立行政法人国立病院機構賀茂精神医療センター薬剤科、[2]独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター薬剤部、
[3]独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター医局、[4]独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター看護部

12:30〜13:18 一般演題（ポスター）68
産業精神医学

司会：**渡邉 純蔵**　医療法人社団敬成会白根緑ヶ丘病院

3-P68-1　ある朝、社長になっていたら –ストレスチェック医師面接におけるミラクル・クエスチョンの活用

○米沢 宏
ジャパンEAPシステムズ

3-P68-2　高ストレス市役所職員に対する意識調査

○衛藤 進吉
上都賀総合病院精神科

3-P68-3　産業医健康相談に弁証法的行動療法に基づくスキル指導が効果的であった情動調節困難の一例

○橘 輝[1,2]、七里 佳代[1,2]、鈴木 芳樹[2]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟大学保健管理センター

3-P68-4　初回エピソードうつ病患者の復職および再休職に影響する要因

○中川 正俊[1]、井原 一成[2]
[1]田園調布学園大学人間福祉学部、[2]弘前大学医学部社会医学講座

3-P68-5　労働者におけるメンタルヘルス不調と認知機能障害の関連性

○柴岡 三智[1]、宋 裕姫[2]、池澤 聰[3]、山下 真吾[3]、増田 将史[4]、江口 尚[5]、井上 志乃[1]、中込 和幸[3]
[1]独立行政法人東京労災病院、[2]日産自動車株式会社、[3]国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
[4]イオン株式会社、[5]北里大学公衆衛生学教室

3-P68-6　休職中の気分障害勤労者への産業医科大学病院精神科外来での集団精神療法の効果検討

○手銭 宏文、堀 輝、香月 あすか、松元 知美、梅津 舞子、吉野 幸司、井手 健太、坂倉 孝紀、
木島 玲緒人、岡本 直道、吉村 玲児
産業医科大学病院神経精神科

12:30〜13:18 一般演題（ポスター）69
動物モデル・基礎研究

司会：**布村 明彦**　東京慈恵会医科大学精神医学講座

3-P69-1　統合失調症に特異的な新規抗体探索へのアプローチ：予備的研究結果

○中神 由香子[1]、中島 則行[2]、杉原 玄一[1]、挾間 雅章[1]、松本 理器[3]、村上 孝作[4]、池田 昭夫[5]、
村井 俊哉[1]
[1]京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学、[2]久留米大学医学部医学科生理学講座、
[3]神戸大学大学院医学研究科内科学講座神経内科学分野、[4]京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科、
[5]京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座

3-P69-2　β ヒドロキシ酪酸は PTSD モデル動物において抗不安効果を有する

○山梨 豪彦、岩田 正明、常冨 恭平、永田 真友、梶谷 直史、三浦 明彦、松尾 諒一、西口 毅、
兼子 幸一
鳥取大学医学部付属病院精神科

3-P69-3　妊娠ラットへの継続的なバルプロ酸ナトリウム投与は神経細胞新生と認知行動に影響を与える

○伊藤 賢伸、金城 智也、鈴木 利人、新井 平伊
順天堂大学精神医学講座

3-P69-4　電気痙攣刺激（ECS）による血液脳関門の透過性調節（PROB）

○伊藤 賢伸、金城 智也、鈴木 利人、新井 平伊
順天堂大学精神医学講座

3-P69-5 **急性の嫌悪刺激は覚醒マウスの腹側被蓋野のドーパミン神経活動を急速に上昇させる**

○守谷 俊平、山下 哲、坂口 淳一、桑木 共之
鹿児島大学医歯学総合研究科統合分子生理学講座

3-P69-6 **1 型筋強直性ジストロフィー 4 症例の分子診断と睡眠障害**

○浦田 結嘉[1]、今村 研介[1]、塩川 奈理[1]、林 岳宏[1]、石塚 貴周[1]、中村 雅之[1]、神林 崇[2]、佐野 輝[1]
[1]鹿児島大学病院、[2]秋田大学医学部付属病院

6月22日（土） ポスター会場6（ホテル 4F）［朱鷺ホワイエ］

12:30～13:18 一般演題（ポスター）70
地域精神医療 2

司会：**福井 直樹** 新潟大学医歯学総合研究科精神医学分野

3-P70-1 **Mother-to-Infant Bonding Scale（MIBS）日本語版（MIBS-J）の因子構造についての検討**

○茂木 崇治[1]、福井 直樹[1]、橋尻 洸陽[1]、坪谷 隆介[1]、須貝 拓朗[1]、江川 純[1]、三留 節子[2]、荒木 理恵[2]、池 睦美[3]、生野 寿史[4]、山口 雅幸[4]、高桑 好一[5]、榎本 隆之[4]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟大学医歯学総合病院看護部、
[3]新潟青陵大学大学院看護学研究科看護学部看護科、[4]新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科学分野、
[5]新潟大学医歯学総合病院総合周産期母子医療センター

3-P70-2 **周産期のメンタルヘルスに影響を与える因子についての検討**

○茂木 崇治[1]、福井 直樹[1]、橋尻 洸陽[1]、坪谷 隆介[1]、須貝 拓朗[1]、江川 純[1]、三留 節子[2]、荒木 理恵[2]、池 睦美[3]、生野 寿史[4]、山口 雅幸[4]、高桑 好一[5]、榎本 隆之[4]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟大学医歯学総合病院看護部、
[3]新潟青陵大学大学院看護学研究科看護学部看護科、[4]新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科学分野、
[5]新潟大学医歯学総合病院総合周産期母子医療センター

3-P70-3 **分娩歴と完全母乳栄養が妊産婦の不安・抑うつに与える影響について**

○福井 直樹[1]、茂木 崇治[1]、橋尻 洸陽[1]、坪谷 隆介[1]、須貝 拓朗[1]、江川 純[1]、三留 節子[2]、荒木 理恵[2]、池 睦美[3]、生野 寿史[4]、山口 雅幸[4]、高桑 好一[5]、榎本 隆之[4]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟大学医歯学総合病院看護部、
[3]新潟青陵大学大学院看護学研究科看護学部看護科、[4]新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科学分野、
[5]新潟大学医歯学総合病院総合周産期母子医療センター

3-P70-4 **自閉スペクトラム指数（Autism-Spectrum Quotient）日本語版の因子構造について**

○福井 直樹[1]、茂木 崇治[1]、橋尻 洸陽[1]、坪谷 隆介[1]、須貝 拓朗[1]、江川 純[1]、三留 節子[2]、荒木 理恵[2]、池 睦美[3]、生野 寿史[4]、山口 雅幸[4]、高桑 好一[5]、榎本 隆之[4]、染矢 俊幸[1]
[1]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、[2]新潟大学医歯学総合病院看護部、
[3]新潟青陵大学大学院看護学研究科看護学部看護科、[4]新潟大学大学院医歯学総合研究科産科婦人科学分野、
[5]新潟大学医歯学総合病院総合周産期母子医療センター

3-P70-5 **僻地での精神科在宅診療の実践についての検討**

○楠野 泰之
医療法人共生会（ともにいきるかい）川湯の森病院

12:30～13:18 一般演題（ポスター）71
精神療法・心理教育

司会：**渋谷 雅子** 新潟大学医学部精神医学教室

3-P71-1 **強迫症の入院治療における認知行動療法のメリット・デメリットについて**

○吉田 賀一[1]、向井 馨一郎[2]、橋本 卓也[2]、上野 克樹[2]、岸野 恵[2]、前林 憲誠[2]、林田 和久[2]、松永 寿人[1,2]
[1]兵庫医科大学病院臨床心理部、[2]兵庫医科大学精神科神経科学講座

3-P71-2 **ブリーフセラピーと動作法の併用面接が有効であった 2 症例**

○土居 照代、小田桐 栄佳、鈴木 清人、石田 留生、澤谷 篤、下田 健吾、木村 真人
日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科

3-P71-3 **当院におけるひきこもり OT の取り組み**

○阿部 亮
関病院医局

3-P71-4 **22q11.2 欠失症候群メンタルヘルス専門外来**

○熊倉 陽介[1,2]、濱田 純子[2]、小川 知子[3]、笠井 清登[2]
[1]東京大学医学部大学院医学系研究科精神保健学分野、[2]東京大学医学部附属病院精神神経科、
[3]東京大学医学部附属病院こころの発達診療部

3-P71-5 **リワークによるうつ病患者のストレスコーピングの変化**

○油谷 元規、堤 康彦、増田 郁、石井 朋美、星野 陽子、眞柄 正隆
けやきの森病院

12:30～13:18 一般演題（ポスター）72
睡眠障害・その他

司会：**須貝 拓朗**　新潟大学医歯学総合病院精神医学教室

3-P72-1 **高度救命救急センターと精神科の共同した自殺未遂者支援事業からの自殺未遂者実態（ハブ＆スポークモデル）**

○池田 俊一郎[1]、中森 靖[2]、松田 達也[1]、山田 妃沙子[2]、和田 大樹[2]、住田 緒理依[2]、織田 裕行[1]、木下 利彦[1]
[1]関西医科大学精神神経科学教室、[2]関西医科大学総合医療センター

3-P72-2 **クロザピン内服中におけるアレルギー反応について**

○小野 信[1,2]、鈴木 雄太郎[3]、福井 直樹[3]、須貝 拓朗[3]、渡邉 純蔵[3]、常山 暢人[3]、田尻 美寿々[3]、染矢 俊幸[3]
[1]新潟県立精神医療センター、[2]新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座、
[3]新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

3-P72-3 **活動スケジュール法による行動活性化が奏功した慢性疼痛の一例**

○坂上 仁、橘 輝、松木 晴香、染矢 俊幸
新潟大学医歯学総合病院精神科

3-P72-4 **措置入院となった一例と、退院後の生活の包括的なサポートについて**

○長谷川 宝史、松田 ひろし、吉濱 淳、野村 健太郎、赤羽 学爾
柏崎厚生病院精神科

3-P72-5 **個別プログラムを施行したアルコールケアパック入院患者の予後調査**

○山田 真理、常岡 俊昭、杉田 秀太郎、川合 秀明、岩見 有里子、長塚 雄大、花輪 洋一、太田 晴久、高塩 理、岩波 明
昭和大学烏山病院精神科

ワークショップのご案内

事前参加申込はございません（ワークショップ11、12を除く）。席数に限りがありますので、ご参加の先生はお早めに会場にお越しください。参加者は原則として、最初から最後まで聴講できる方に限ります。途中の入退場はご遠慮ください。

ワークショップ

	テーマ	コーディネーター	月日	時間	会場	同通/単位
1	性同一性障害に対する精神的治療と身体的治療 （性同一性障害に関する委員会）	松本 洋輔 織田 裕行 松永 千秋	6月20日（木）	16:00～17:40	O会場	–
2	映像で学ぶ初回面接 –遷延性うつ病編– （精神療法委員会）	渡辺 俊之	6月20日（木）	16:00～17:40	P会場	–
3	脳波の基礎コース	矢部 博興	6月20日（木）	16:00～17:40	Q会場	–
4	ICD-11の最新情報：ストレス関連障害群、不安および強迫関連障害群、パーソナリティ障害群 （ICD-11委員会）	丸田 敏雅 秋山 剛 松本 ちひろ	6月21日（金）	8:30～10:10	O会場	–
5	アクセプトされる精神医学研究論文の書き方 （PCN編集委員会）	加藤 忠史	6月21日（金）	10:40～12:20	F会場	–
6	身体疾患を有する患者の自殺および希死念慮に対するリエゾン・コンサルテーション	清水 研 西村 勝治	6月21日（金）	10:40～12:20	I会場	–
7	脳波の応用コース	矢部 博興 太田 克也	6月21日（金）	13:50～15:30	I会場	–
8	統合失調症の精神鑑定（司法精神医学委員会）	五十嵐 禎人	6月21日（金）	13:50～15:30	K会場	–
9	新アルコール使用障害の診断治療ガイドラインに基づく治療の実際	樋口 進	6月21日（金）	13:50～15:30	L会場	–
10	小児精神医療入門：新シリーズ（2）子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について （小児精神医療委員会）	松本 英夫	6月21日（金）	13:50～15:30	P会場	–
11	複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ：自殺のハイリスク患者に対するアセスメントと問題解決アプローチ（精神保健に関する委員会）	河西 千秋 大塚 耕太郎	6月21日（金）	14:00～16:40	O会場	–
12	日常診療に治療ガイドラインは役に立つのか？	橋本 亮太 渡邊 衡一郎 稲田 健	6月21日（金）	16:00～18:00	P会場	–

コース内容紹介

1 性同一性障害に対する精神的治療と身体的治療（性同一性障害に関する委員会）

6月20日（木） 16：00〜17：40 O 会場（ホテル 4F 小会場）［朱鷺 A］

司　　会	（関西医科大学総合医療センター）	織田 裕行
	（ちあきクリニック）	松永 千秋
講 演 者	（大阪医科大学附属病院）	康 純
	（岡山大学病院ジェンダーセンター）	松本 洋輔
	（札幌医科大学附属病院）	市原 浩司
	（岡山大学病院ジェンダーセンター）	難波 祐三郎
コーディネーター	（岡山大学病院ジェンダーセンター）	松本 洋輔
	（関西医科大学総合医療センター）	織田 裕行
	（ちあきクリニック）	松永 千秋

1997 年より本学会が「性同一性障害（以下 GID）に関する診断と治療のガイドライン」を発表し、定期的な改訂を行っている。ガイドラインに記載されている治療技法は、精神療法に留まらず、手術療法やコンベンショナルな性ホルモン療法、GnRHa を用いる二次性徴抑制を含み、複数診療科がチーム医療を行うことになっている。性同一性障害診療の実務にあたって、精神科における診断、精神療法に加えて、治療に参画する他診療科の治療技法に関する知識の習得は非常に重要である。ガイドラインには、GID 診療に対する学会員の研修に対する本学会の責任も明記されており、研修の一環としてこのワークショップを実施する。　我が国における中核的な治療施設で多数の臨床実践を行っている医師が講師として登壇する。まず、精神科医 2 名が治療の概要と当学会のガイドラインに沿った診療手順を解説する。その後、ホルモン療法の実際について泌尿器科医から、性別適合手術をはじめとする手術療法とその合併症について形成外科医から解説する。

2 映像で学ぶ初回面接 –遷延性うつ病編–（精神療法委員会）

6月20日（木） 16：00～17：40 P会場（ホテル 4F 小会場）［朱鷺B］

司　　会	（渡辺医院/高崎西口精神療法研修室）	渡辺 俊之
	（東邦大学）	水野 雅文
講 演 者	（東京慈恵会医科大学）	中村 敬
	（上智大学）	吾妻 壮
	（茨城大学）	布施 泰子
	（大野研究所）	大野 裕
コーディネーター	（渡辺医院/高崎西口精神療法研修室）	渡辺 俊之

表情、抑揚、間の取り方など、面接の技法は「手続き知 procedural knowledge」であり、文字を通しての習得には限度がある。現在でも、精神科医の多くは先輩医師の面接に同席し「手続き知」を習得してきている。こうした「知」は、同席する医師の面接スタイルと学び手の個人特性（背景理論、志向性、性格特性など）とのブレンドで完成されていくものである。本委員会ではマスターセラピストが模擬患者と面接する場面を録画し、その映像をもとに面接法を講義するワークショップを継続的に開催してきた。今回は遷延性のうつ病を想定し、オリエンテーションや立場の異なる3人の委員の模擬面接を収録してテーマとした。症状が充分に改善せず社会復帰に結びつかない遷延性うつ病が近年は増えていることは多くの精神科医が実感しているであろう。うつ病が遷延化する背景は多様であるが、精神科医は初回面接でどのような点に注意して面接に臨むべきなのか、ディスカッションを深めたいと考えている。

3 脳波の基礎コース

6月20日（木） 16：00〜17：40 Q会場（万代島ビル 6F）［会議室］

司　　会	（埼玉医科大学名誉学長）	山内 俊雄
	（福島県立医科大学医学部神経精神医学講座）	矢部 博興
講 演 者	（福島県立医科大学医学部神経精神医学講座）	矢部 博興
	（原クリニック）	原 恵子
	（恩田第2病院）	太田 克也
	（埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科）	渡邊 さつき
コーディネーター	（福島県立医科大学医学部神経精神医学講座）	矢部 博興

精神科医のHans Bergerが求めた精神現象をとらえる脳波研究は道半ばであるが、臨床脳波はてんかん精神病、脳炎、睡眠、認知症などの精神科臨床において膨大な知見をもたらしてきた。やはり、脳波は精神科医に必須の知識・技能である。昨年までの本学会の脳波ワークショップには、多くの参加者があり、臨床脳波の基礎を学ぶ機会を求めている精神科医が多数おられることが浮き彫りとなった。検査を行う臨床検査技師サイドからの指摘もあるが、脳波を学ぶ機会の減少は臨床精神医学にとって重大な危機である。基礎コースの目的は、脳波に疎遠な医療環境で臨床を行うことを余儀なくされている精神科医に対して、基礎的な脳波を学ぶ機会を提供することである。昨年までは、基礎をもっと充分な時間で学びたいと訴える声も多かったが、熟練者向けの応用的な知見を求める声もあり、双方に配慮して、やや不十分なものとなっていた。ここでは電極付けから始まる基礎コースを提案したい。

4 ICD-11 の最新情報：ストレス関連障害群、不安および強迫関連障害群、パーソナリティ障害群（ICD-11 委員会）

6月21日（金） 8：30〜10：10 O 会場（ホテル 4F 小会場）［朱鷺 A］

司　　会	（NTT 東日本関東病院）	秋山 剛
	（聖徳大学保健センター）	丸田 敏雅
講 演 者	（福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座）	前田 正治
	（九州大学病院）	中尾 智博
	（日本精神神経学会）	松本 ちひろ
コーディネーター	（聖徳大学保健センター）	丸田 敏雅
	（NTT 東日本関東病院）	秋山 剛
	（日本精神神経学会）	松本 ちひろ

世界保健機関（World Health Organization：WHO）による第 11 回国際疾病分類（International Statistical Classification of Diseases and Related Health Conditions, Eleventh Revision：ICD-11：ICD-11）の最終版は 2019 年 5 月頃に公表される。精神分野は ICD-11 の派生分類である診断ガイドライン（Diagnostic Guidelines：DG）も作成されており、これが精神科臨床では不可欠のツールになると思われる。本ワークショップでは、日常臨床でよく遭遇するストレス関連障害群、不安および強迫関連障害群や、ICD-10 から大きく変更されたパーソナリティ障害群を取り上げ、DG からそれらの該当箇所を紹介すると共に WHO が作成した事例集からいくつかを紹介し、実際の運用の仕方を演者らと当ワークショップ参加者双方が参加して行う予定である。当日は資料を配付し当ワークショップ参加者の ICD-11 についての理解を深めて頂く予定であり、いち早く ICD-11 の情報を得ることができる。尚、6 月 22 日（土）23 日（日）の両日は、ICD-11 作成に中心的に作業をされた Reed 先生を講師として ICD-11 セミナーも開催されますのでこちらにもどうぞご参加下さい。

5 アクセプトされる精神医学研究論文の書き方（PCN 編集委員会）

6月21日（金） 10：40〜12：20 F 会場（センター 2F 小会場）［中会議室 201］

司　　会	（理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム）	加藤 忠史
	（九州大学）	神庭 重信
講 演 者	（九州大学）	神庭 重信
	（富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学教室）	鈴木 道雄
	（理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム）	加藤 忠史
	（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学）	髙橋 英彦
	（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター）	橋本 亮太
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	（理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム）	加藤 忠史

研究成果を論文として投稿する時のまとめ方、投稿先の選び方、そして査読を経て受理までこぎ着けるコツについて、精神神経学会の機関誌である Psychiatry and Clinical Neurosciences の編集委員によるプレゼンテーションを行った後、小グループに分かれて、個別相談に応じます。

6 身体疾患を有する患者の自殺および希死念慮に対するリエゾン・コンサルテーション

6月21日(金) 10：40～12：20 Ⅰ会場（センター 3F 小会場）[中会議室 302B]

司　　会	(国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科)	清水 研
	(東京女子医科大学病院)	西村 勝治
講 演 者	(がん研究会有明病院)	佐伯 吉規
	(鳥取大学医学部附属病院)	岩田 正明
	(名古屋市立大学病院)	明智 龍男
	(国家公務員共済組合連合会立川病院)	桑原 達郎
コーディネーター	(国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科)	清水 研
	(東京女子医科大学病院)	西村 勝治

身体疾患を有する患者において、自殺のリスクは一般人口よりもはるかに高い。したがって総合病院臨床においては、①自殺の一次予防、②自殺企図を行った患者への対応、③自殺既遂後の対応などについて、リエゾン精神科医への要請は大きいものがある。自殺対策は一般的に推奨される対応を行っていても完全に防げるわけではないので、個々の場面において精神科医は対応に苦慮することが多い。例えば希死念慮が切迫した患者の場合は、苦悩している患者の主体性・自律性を尊重する方向性と、自殺を防ぐための精神病床への強制入院を含めた管理的なアプローチに基づく方向性がある。この相反する２つの立場のどちらを取るのが適切か、確信が持てる情報が得られない中での判断が求められる機会が多いうえに、主治医や看護師を含めた医療チームが不安をかかえながらも機能できるように働きかける必要がある。また、不幸にして自殺既遂が院内で生じた場合は、自らを含めた医療者の無力感や罪悪感のマネジメントを行い、燃え尽きずに継続的に医療を提供するための働きかけを行う必要がある。本シンポジウムにおいては、症例提示を２例行い、臨床判断を要するターニングポイントにおいて、あなたならどうしますか、どう考えますかとクイズ形式で臨床疑問として症例呈示者が問いかける。参加者から症例について質問を受けた後に、実際に行った臨床判断を種明かしして、さらに症例呈示をすすめてゆく。もちろん、症例呈示者の行った臨床判断が必ずしも正解とは限らないし、唯一の解答というものも存在しない。目の前の患者さんにとってより良い臨床判断を行おうとするプロセスを共有し、ディスカッサントともに考え方を深める中で、リエゾン・コンサルテーション精神医学の極意を習得していただく機会となることが、本シンポジウムの目的である。　なお、本シンポジウムは、日本総合病院精神医学会専門医制度委員会よりの企画として提案するものである。

7 脳波の応用コース

6月21日（金） 13：50〜15：30 Ⅰ会場（センター 3F 小会場）［中会議室 302B］

司　　会	（埼玉医科大学名誉学長）	山内 俊雄
	（福島県立医科大学医学部神経精神医学講座）	矢部 博興
講 演 者	（埼玉医科大学名誉学長）	山内 俊雄
	（原クリニック）	原 恵子
	（恩田第二病院）	太田 克也
	（埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科）	渡邊 さつき
コーディネーター	（福島県立医科大学医学部神経精神医学講座）	矢部 博興
	（恩田第二病院）	太田 克也

「脳波は精神疾患の診断と治療にどう役立つか −私の経験した症例から−」臨床脳波は、精神科医の Hans Berger によって約 90 年前に発見されたが、それ以来、てんかん精神病、脳炎、睡眠、認知症などの精神科臨床において多くの膨大な知見をもたらしてきた。現在、脳波は精神科医に必須の知識・技能であることが再認識されてきている。昨年までの本学会の脳波ワークショップでも、臨床脳波検査を学ぶ機会を求めて多くの参加者があった。その中で、基礎を学びたい初心者がいる一方、もっと深く実践的な熟練者向けの応用的な知見を求める精神科医も多かった。しかし、これまでの一つのワークショップの中で双方のニーズに応えることを目的とした結果、熟練者にはやや不十分なものとなっていた。そこで本年は基礎コースの他に、演者らの経験症例を中心とした応用コースを設けて、より実践的な学びの機会を提供したい。

8 統合失調症の精神鑑定（司法精神医学委員会）

6月21日（金） 13：50〜15：30 K 会場（センター 3F 中会場）［小会議室 303＋304］

司　　会	（千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門）	五十嵐 禎人
	（独立行政法人国立病院機構東尾張病院）	吉岡 眞吾
講 演 者	（慶應義塾大学医学部精神神経科）	村松 太郎
	（神奈川県立病院機構神奈川県立精神医療センター）	田口 寿子
	（岡山市こころの健康センター）	太田 順一郎
	（鹿児島大学医学部保健学科）	赤崎 安昭
コーディネーター	（千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門）	五十嵐 禎人

刑事責任能力の判断とは、「精神の障害」により、「理非善悪を判断する能力」（弁識能力）や「それに従って行動する能力」（制御能力）がどのような影響を受けていたのかに関する法的判断であり、最終的には司法による総合的な判断に委ねられるものである。精神鑑定は、司法がそうした判断を行うための参考資料を提供するために行われる。司法の判断に資するために行われる今日の精神鑑定は、可知論的なアプローチを基本としており、鑑定人は、被鑑定人について診断を確定する（生物学的要素）だけにとどまらず、被鑑定人の犯行当時やその前後の精神状態について、細かに聴取・分析したうえで、犯行当時に罹患していた精神障害のどのような症状がどの程度に被鑑定人の行動や判断に影響を及ぼしていたか（心理学的要素）を詳細に検討することが求められる。113 回、114 回学術総会で開催された当委員会企画の精神鑑定事例に関するワークショップは、多数の会員が参加するなど好評であった。今回は、統合失調症の精神鑑定に関するワークショップを企画した。 最初に統合失調症の精神鑑定についての基本的なレクチャーを行なう。次いで、精神鑑定事例 3 例を提示し、それぞれの事例について、統合失調症が犯行に与えた影響や機序についてどのように判定したのかなどについて、具体的に説明していただく予定である。それぞれの事例を比較・検討することを通じて、統合失調症の精神鑑定における責任能力判定のポイントを明らかにしたい。

9 新アルコール使用障害の診断治療ガイドラインに基づく治療の実際

6月21日（金） 13：50〜15：30 L 会場（センター 3F 中会場）［小会議室 306＋307］

司　　会 （北仁会幹メンタルクリニック） 齋藤 利和
（医療法人北仁会石橋病院） 白坂 知信

講 演 者 （東京慈恵会医科大学附属病院） 宮田 久嗣
（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科） 樋口 進
（独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター） 杠 岳文

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ （独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科） 樋口 進

2014 年 6 月に施行されたアルコール健康障害対策基本法の基本理念として、アルコール健康障害の発生、進行及び再発の各段階に応じ、減酒又は断酒の指導、専門的治療等を受けるための指導並びに関係機関との連携の確保を適切に実施することが定められている。

そこで、厚生労働科学研究班「アルコール依存症に対する総合的な医療の提供に関する研究」において診断・治療ガイドライン（案）を作成し、改定・編集を加えたものを 2018 年 9 月に「新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン」として出版した。

本ガイドラインではアルコール関連疾患を治療しているすべての診療科の医師を対象にして、アルコール関連問題に興味を持ち、治療の裾野を広げることを目標としている。そのために、依存症の概念、診断、治療、疫学、法的事項、支援者や家族に対する対応、外来診療で経験する症例への初期対応など多岐にわたって解説した。また、“ハームリダクション”の概念が欧米で広がってきていることから、新たな治療選択肢として飲酒量低減を加えた。

さらに、本ガイドラインが広く普及し、日常診療で実践されることを目的として、本ガイドラインを基に診断、治療目標の選択、治療の要点を抜き出して解説を加えた「新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドラインに基づいたアルコール依存症の診断治療の手引き」を作成した。

本ワークショップでは、「新ガイドラインに基づく手引き」に沿ってアルコール依存症の診断、治療目標の選択、心理社会的治療の実際を解説し、アルコール依存症を専門としない医師でも、本ガイドラインを理解し、アルコール依存症の治療に参画できるようになることを目的としている。

なお、本プログラムは日本アルコール・アディクション医学会および日本アルコール関連問題学会の推薦ワークショップである。

10 小児精神医療入門：新シリーズ（2）子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について（小児精神医療委員会）

6月21日（金） 13：50～15：30 P 会場（ホテル 4F 小会場）［朱鷺 B］

司　　会	（東海大学医学部専門診療学系精神科学）	松本 英夫
	（東京都立大塚病院）	鈴村 俊介
講 演 者	（九州大学病院子どものこころの診療部）	山下 洋
	（ハートランドしぎさん）	岩坂 英巳
	（独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター）	中土井 芳弘
	（地方独立行政法人岡山県精神科医療センター）	大重 耕三
コーディネーター	（東海大学医学部付属病院精神科）	松本 英夫

小児精神医療委員会は、本学会専門医試験を受験することを目指している精神科医や、そのための研修を支え指導する指導医、さらには子どもの精神科医療に関心のある会員を対象として、子どもの精神科医療に関連する諸課題に関する均衡のとれた基本情報を提供することを目的に活動している。2013 年から一昨年までの 5 回の総会で一区切りとなったために、昨年度の総会から新シリーズが開始された。新シリーズでは当初の目的どおり専門医を目指す精神科医を対象にするため、子どもの精神科医療について基本的な事柄を伝え確認することが基本になる。しかし再受講する会員にも内容が新鮮で興味を持ちやすいように、前シリーズとは異なる切り口やテーマを設けるなど、さまざまな工夫をしたいと考えている。今回は新シリーズ全 5 回の 2 回目である。第 115 回学術総会では「新シリーズ（2）子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について」として 4 席の講義からなるワークショップを開催する。子どもが示す症状は大人を対象に確立された症候学にそのまま当てはめることはできない。子どもが示す症状の持つ意味や診断的な位置づけは文字通り多様であり一筋縄ではいかない。そこが児童精神医学の難しさや奥深さの一面でもある。そこで、今回は代表的な症状をいくつか取り上げ、児童精神医学のエキスパートによる解説を行う。第 1 席は「愛着の問題」（講師：山下　洋委員）と題して、愛着の問題を呈する主に乳幼児や児童について解説する。第 2 席は「多動」（講師：岩坂英巳委員）と題して、幼児や児童が示す多動・衝動性について解説する。第 3 席は「不安・抑うつ」（講師：中土井芳弘委員）と題して、乳幼児から青年期にかけて広く認められる不安・抑うつの臨床的な意味や診断学について解説する。第 4 席は「精神病症状」（講師：大重耕三委員）と題して、子どもが示す精神病症状の表現型やその診断的位置づけなどについて解説を行う。前シリーズと同様、4 席の講義の後に、参加者との質疑応答の形式で議論を行う予定である。

11 複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ：自殺のハイリスク患者に対するアセスメントと問題解決アプローチ（精神保健に関する委員会）

※本ワークショップは事前にお申し込みされた方のみご参加可能です

6月21日（金） 14：00～16：40　O 会場（ホテル 4F 小会場）［朱鷺 A］

司　　会	（札幌医科大学医学部神経精神医学講座）	河西 千秋
	（岩手医科大学神経精神科学講座）	大塚 耕太郎
講 演 者	（札幌医科大学医学部神経精神医学講座）	河西 千秋
	（岩手医科大学神経精神科学講座）	大塚 耕太郎
	（帝京大学医学部附属溝口病院精神科）	張 賢徳
	（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）	太刀川 弘和
コーディネーター	（札幌医科大学医学部神経精神医学講座）	河西 千秋
	（岩手医科大学神経精神科学講座）	大塚 耕太郎

自殺の予防、そして自殺の後に遺された人へのケアを含む事後対応は、精神医療の中で重要な領域です。自殺と精神疾患の関連は密接であり、自殺予防対策に関する法規、大綱等においても、精神科医の自殺予防対策への関与が求められています。今年度からは、都道府県に加え、全国市区町村に自殺対策行動計画策定が求められており、各地域での具体的な精神科医・精神科医療機関の対応も求められるところとなります。しかしながら、精神科医の多くは、これまで卒前教育・生涯教育において自殺予防学を学ぶ機会は少なく、総じて保健従事者は自殺関連行動への対応について知識・技量の不足を自覚し、困難感を感じていることが調査により明らかにされています。当該研修会では、自殺リスクを抱える複雑事例について、自殺予防対策の専門家（多職種）を講師・ファシリテーターとして、所定の教育モジュールを用いた症例検討が行われます。受講者は、自殺のリスク・アセスメントと問題解決アプローチの知識と技量を習得することができます。この研修プログラムは、日本精神神経学会で２年連続で実施されており満席・好評をいただいております。（日本自殺予防学会との共同ワークショップ）

12 日常診療に治療ガイドラインは役に立つのか？

※本ワークショップは事前にお申し込みされた方のみご参加可能です

6月21日（金） 16：00～18：00 P 会場（ホテル 4F 小会場）［朱鷺 B］

司　　会	（杏林大学医学部付属病院）	渡邊 衡一郎
	（東京女子医科大学病院）	稲田 健
講 演 者	（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部）	橋本 亮太
	（兵庫医科大学）	山田 恒
	（福岡大学）	飯田 仁志
	（岩手医科大学）	福本 健太郎
	（獨協医科大学精神神経医学講座）	古郡 規雄
	（宮城県立精神医療センター）	小松 浩
	（東北大学）	菊地 紗耶
	（琵琶湖病院）	稲垣 貴彦
	（金沢医科大学）	大井 一高
	（富山大学）	木戸 幹雄
	（信州大学）	中村 敏範
	（杏林大学精神神経科学教室）	今村 弥生
	（筑波大学）	根本 清貴
	（東京女子医科大学医学部精神医学講座）	村岡 寛之
	（金沢医科大学）	長澤 達也
コーディネーター	（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部）	橋本 亮太
	（杏林大学医学部付属病院）	渡邊 衡一郎
	（東京女子医科大学病院）	稲田 健

統合失調症薬物治療ガイドライン、うつ病治療ガイドライン、双極性障害治療ガイドラインなどが公開されているが、精神科診療に日常的に用いられているとは言えないのが現状である。その理由には、精神科医療にはガイドラインがなじみにくいこと、ガイドラインが使いにくいこと、ガイドラインが使えない症例も多数あることがあげられる。本ワークショップにおいては、最初にガイドラインとは何かということについて概説する。ガイドラインとは、患者と医療者を支援する目的で作成されており、臨床現場における意思決定の際に、判断材料の一つとして利用することができるものであり、科学的根拠に基づき、系統的な手法により、複数の治療選択肢について、効果と副作用の評価に基づいて作成された推奨を含む文書である。そして、科学的根拠は、あくまでもある状態の患者に対する確率論的な情報であり、個々の患者の経過を完全に予測するものではなく、これを踏まえた臨床経験が診療には必要であることを解説する。

本ワークショップでは、日常診療で遭遇する臨床問題にどのように対応するべきかについて、架空症例を用いて 6 人程度のスモールグループでディスカッションを行い、その検討結果を全体で発表し、全体ディスカッションを行う。この症例ディスカッションの中で、臨床経験に基づいたガイドラインの使いこなし方、その意義と限界、更にはガイドラインにはない判断の仕方を学ぶことを目的としている。

今回は、治療を開始した初発統合失調症の 2 回目の診察場面を取り上げて、評価とその後の治療をテーマに行う。答えが一つとは限らない日常診療場面について、ディスカッションを通じてお互いに意識を共有していくことができる機会を体験することを目標としている。

企画：EGUIDE プロジェクト（精神科診療ガイドラインの普及・教育・検証活動）
推薦：日本神経精神薬理学会、日本うつ病学会、日本臨床精神神経薬理学会

Leaders Round Table
アジア太平洋地域各国における精神科の多職種チーム医療について（国際委員会）

6月21日（金） 13：50〜15：50 Q 会場（万代島ビル 6F）［会議室］

Chairpersons	（Japanese Society of Psychiatry and Neurology）	岸本 年史
	（Japanese Society of Psychiatry and Neurology）	秋山 剛
Speakers	（American Psychiatric Association）	Bruce Schwartz
	（American Psychiatric Association）	Saul Levin
	（The Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists）	John Allan
	（The Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists）	Andrew Peters
	（Taiwanese Society of Psychiatry）	Shih-Cheng Liao
	（東京女子医科大学医学部精神医学講座）	西村 勝治
	（東京女子医科大学医学部精神医学講座）	筒井 順子
	（Japanese Society of Psychiatry and Neurology）	秋山 剛
Coordinator	（NTT 東日本関東病院精神科精神神経科）	秋山 剛

背景　日本精神神経学会は、大阪、幕張、名古屋、神戸の各総会で、海外からの参加者を交えて、Leaders Round Table 企画を行い、各国学会の状況に関する情報収集、および日本精神神経学会が行っている活動についての情報の発信を行ってきている。2018 年の神戸総会では、日本精神神経学会の加茂登志子氏、アメリカ精神医学会の Altha Stewart 氏、オーストラリア・ニュージーランド精神医学会の Kym Jenkins 氏、台湾精神医学会の Winston Shen 氏により、“diversity”に関する報告が行われ、一般参加者と活発な討論が交わされた。

目的　新潟総会においても、日本精神神経学会、アメリカ精神医学会、オーストラリア・ニュージーランド精神医学会、台湾精神医学会などからの参加が予定されており、Leaders Round Table において、アジア太平洋地域各国における精神科の多職種チーム医療についての発表、討論を計画している。

Background　The Japanese Society of Psychiatry and Neurology（JSPN）organized “Leaders Round Table” at its annual congresses in Osaka（2015）, Makuhari（2016）, Nagoya（2017）and Kobe（2018）. The purposes of this program are to learn the information about the current activities of other psychiatric organizations and to share he information about the activities of the JSPN. At the Kobe congress in 2018, Toshiko Kamo from the JSPN, Altha Stewart from the American Psychiatric Association（APA）, Kym Jenkins from the Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists（RANZCP）, Winston Shen from Taiwanese Society of Psychiatry（TSOP）reported on the issue of “diversity” and exchanged active discussion with the audience.

Purpose　At the Niigata congress in 2019, participants from the JSPN, the APA, the RANZCP and the TSOP are expected to report and discuss on the issue of multi-disciplinary psychiatric team in Asia-Pacific region at Leaders Round Table.

日本精神神経学会学術総会 会長一覧

回数	開催年		開催地	会長（または主催者）名（所属 職名）
	西暦	和暦		
第1	1902	明35	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
2	1903	明36	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
3	1904	明37	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
4	1905	明38	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
5	1906	明39	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授）
6	1907	明40	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
7	1908	明41	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
8	1909	明42	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
9	1910	明43	大阪	今村　新吉（大阪医科大学 教授）
10	1911	明44	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
11	1912	明45	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
12	1913	大2	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
13	1914	大3	東京	三浦謹之助（東京医科大学 教授）
14	1915	大4	福岡	榊　保三郎（九州医科大学 教授）
15	1916	大5	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
16	1917	大6	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授）
17	1918	大7	東京	呉　　秀三（東京医科大学 教授）
18	1919	大8	東京	呉　　秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
19	1920	大9	東京	呉　　秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
20	1921	大10	東京	呉　　秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
21	1922	大11	京都	今村　新吉（京都帝国大学 教授）
22	1923	大12	東京	呉　　秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
23	1924	大13	東京	呉　　秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
24	1925	大14	福岡	榊　保三郎（九州帝国大学 教授）

回数	開催年		開催地	会長（または主催者）名（所属 職名）
	西暦	和暦		
25	1926	大15	東京	呉　　秀三（東京帝国大学 教授）
26	1927	昭2	京都	今村　新吉（京都帝国大学 教授）
27	1928	昭3	東京	呉　　秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授）
28	1929	昭4	仙台	丸井　清泰（東北帝国大学 教授）
29	1930	昭5	大阪	和田　豊種（大阪医科大学 教授）
30	1931	昭6	東京	呉　　秀三・三浦謹之助・ 三宅　鑛一・島薗順次郎（東京帝国大学 教授）
31	1932	昭7	名古屋	北林　貞道（名古屋医科大学 教授）
32	1933	昭8	京都	今村　新吉（京都帝国大学 教授）
33	1934	昭9	東京	三宅　鑛一（東京帝国大学 教授）
34	1935	昭10	新潟	中村　隆治（新潟医科大学 教授）
35	1936	昭11	東京	三宅　鑛一（東京帝国大学 教授）
36	1937	昭12	岡山	林　　道倫（岡山医科大学 教授）
37	1938	昭13	京都	久保昱二郎（京都府立医科大学 教授）
38	1939	昭14	東京	植松七九郎（慶應義塾大学 教授）
39	1940	昭15	大阪	和田　豊種（大阪帝国大学 教授）
40	1941	昭16	熊本	黒沢　良臣（熊本医科大学 教授）
41	1942	昭17	東京	内村　祐之（東京帝国大学 教授）
42	1943	昭18	名古屋	杉田　直樹（名古屋帝国大学 教授）
43	1946	昭21	東京	内村　祐之（東京帝国大学 教授）
44	1947	昭22	大阪	堀見　太郎（大阪帝国大学 教授）
45	1948	昭23	金沢	秋元波留夫（金沢医科大学 教授）
46	1949	昭24	東京	植松七九郎（慶應義塾大学 教授）
47	1950	昭25	京都	三浦　百重（京都大学 教授）
48	1951	昭26	東京	高良　武久（東京慈恵会医科大学 教授）
49	1952	昭27	福岡	中　　脩三（九州大学 教授）
50	1953	昭28	仙台	石橋　俊実（東北大学 教授）
51	1954	昭29	名古屋	村松　常雄（名古屋大学 教授）
52	1955	昭30	京都	三浦　百重（京都大学 教授）
53	1956	昭31	新潟	上村　忠雄（新潟大学 教授）
54	1957	昭32	札幌	諏訪　　望（北海道大学 教授）
55	1958	昭33	千葉	荒木　直躬（千葉大学 教授）
56	1959	昭34	東京	三浦　岱栄（慶應義塾大学 教授）
57	1960	昭35	久留米	王丸　　勇（久留米大学 教授）
58	1961	昭36	岡山	奥村　二吉（岡山大学 教授）
59	1962	昭37	松本	西丸　四方（信州大学 教授）

回数	開催年		開催地	会長（または主催者）名（所属 職名）
	西暦	和暦		
60	1963	昭38	大阪	金子　仁郎（大阪大学 教授）
61	1964	昭39	盛岡	三浦　信之（岩手医科大学 教授）
62	1965	昭40	広島	小沼十寸穂（広島大学 教授）
63	1966	昭41	東京	秋元波留夫（東京大学 教授）
64	1967	昭42	名古屋	堀　　要（名古屋大学 教授）
65	1968	昭43	長崎	仁志川種雄（長崎大学 教授）
66	1969	昭44	金沢	島薗　安雄（東京医科歯科大学 教授）
67	1970	昭45	徳島	今泉恭二郎（徳島大学 教授）
68	1971	昭46	東京	加藤　正明（国立精神衛生研究所 所長）
69	1972	昭47	大阪	太田　幸雄（大阪赤十字病院精神神経科 科長）
70	1973	昭48	名古屋	井上　正吾（三重県立高茶屋病院 院長）
71	1974	昭49	東京	島薗　安雄（東京医科歯科大学 教授）
72	1975	昭50	東京	宮本　忠雄（自治医科大学 教授）
73	1977	昭52	東京	岡田　幸夫（近畿大学 教授）
74	1978	昭53	東京	長谷川和夫（聖マリアンナ医科大学 教授）
75	1979	昭54	広島	更井　啓介（広島大学 教授）
76	1980	昭55	浜松	大原健士郎（浜松医科大学 教授）
77	1981	昭56	名古屋	笠原　　嘉（名古屋大学 教授）
78	1982	昭57	京都	加藤　伸勝（京都府立医科大学 教授）
79	1983	昭58	札幌	山下　　格（北海道大学 教授）
80	1984	昭59	福岡	西園　昌久（福岡大学 教授）
81	1985	昭60	東京	野口　拓郎（埼玉医科大学 教授）
82	1986	昭61	盛岡	切替　辰哉（岩手医科大学 教授）
83	1987	昭62	東京	森　　温理（東京慈恵会医科大学 教授）
84	1988	昭63	大阪	斎藤　正己（関西医科大学 教授）
85	1989	平元	金沢	山口　成良（金沢大学 教授）
86	1990	平2	鹿児島	松本　　啓（鹿児島大学 教授）
87	1991	平3	東京	風祭　　元（帝京大学 教授）
88	1992	平4	高槻	堺　　俊明（大阪医科大学 教授）
89	1993	平5	東京	宮坂　松衛（獨協医科大学 教授）
90	1994	平6	松山	柿本　泰男（愛媛大学 教授）
91	1995	平7	長崎	中根　允文（長崎大学 教授）
92	1996	平8	札幌	高畑　直彦（札幌医科大学 教授）
93	1997	平9	東京	融　　道男（東京医科歯科大学 教授）
94	1998	平10	宜野湾	小椋　　力（琉球大学 教授）
95	1999	平11	東京	鈴木　二郎（東邦大学 教授）

回数	開催年		開催地	会長（または主催者）名（所属 職名）
	西暦	和暦		
96	2000	平12	仙台	佐藤　光源（東北大学 教授）
97	2001	平13	大阪	武田　雅俊（大阪大学 教授）
98	2002	平14	横浜	山崎　晃資（東海大学 教授）
99	2003	平15	東京	牛島　定信（東京慈恵会医科大学 教授）
100	2004	平16	札幌	小山　　司（北海道大学 教授）
101	2005	平17	埼玉	山内　俊雄（埼玉医科大学 学長）
102	2006	平18	福岡	前田　久雄（久留米大学 教授）
103	2007	平19	高知	井上　新平（高知大学 副学長）
104	2008	平20	東京	鹿島　晴雄（慶應義塾大学 教授）
105	2009	平21	神戸	前田　　潔（神戸大学 教授）
106	2010	平22	広島	山脇　成人（広島大学 教授）
107	2011	平23	東京	三國　雅彦（群馬大学 教授）
108	2012	平24	札幌	齋藤　利和（札幌医科大学 教授）
109	2013	平25	福岡	神庭　重信（九州大学 教授）
110	2014	平26	横浜	宮岡　　等（北里大学 教授）
111	2015	平27	大阪	岸本　年史（奈良県立医科大学 教授）
112	2016	平28	千葉	中山　和彦（東京慈恵会医科大学 教授）
113	2017	平29	名古屋	尾崎　紀夫（名古屋大学 教授）
114	2018	平30	神戸	米田　　博（大阪医科大学 教授）
115	2019	令元	新潟	染矢　俊幸（新潟大学 教授）

広告掲載企業（五十音順）

大塚製薬株式会社

株式会社三京房

塩野義製薬株式会社

株式会社スペクトラテック

大日本住友製薬株式会社

Meiji Seikaファルマ株式会社

ヤンセンファーマ株式会社

第115回学術総会　専門医単位について

専門医更新のための単位付与方法、単位数は以下のとおりです。

単位種別	学会（次回更新が2020年度以前）	日本専門医機構（次回更新が2021年度以降）
会員カードの提示	総会来場時と退場時（セッションごとの提示はなし）	
1時間あたり単位数	1.5単位	1単位
1日あたり上限	10単位	1〜2日目：7単位 3日目：6単位
1総会上限	20単位	20単位

※受講したセッションは次ページの記録表へ、マーカー等により印をつけ、ご自身で記録してください。専門医更新審査時に受講セッションについて問い合わせさせていただく可能性がございますので、次回更新時まで必ず保管してください。

【留意事項】

・機構認定専門医としての更新は、「専門医更新についての重要なお知らせ」（2018年3月）にてご案内の通り2021年度（認定期限2022年3月末）より開始予定となりました。
従って2019年度（認定期限2020年3月末）、2020年度（認定期限2021年3月末まで）に専門医を更新予定の方は単位取得期限（認定期限前年の10月末）までに学会単位を40単位取得してください。
2021年度（認定期限2022年3月末）以後更新予定の方は、原則として機構認定専門医として更新することになりますので、日本専門医機構での単位を単位取得期限（認定期限前年の10月末）までに40単位取得いただくことになります。

・共通講習については、第115回学術総会内では実施されません。
総会3日目の生涯教育研修会で1セッション（医療倫理）実施されます。また、学会ホームページよりeラーニングでご受講いただくことも可能です。

制度改定の混乱によりご迷惑をおかけしますが、よりよい専門医制度の発展のため必要な調整を鋭意行っていきますので、今後ともご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

生涯教育委員会
委員長　紫藤昌彦

本件に関するお問い合わせ先
日本精神神経学会事務局　生涯教育委員会 担当
E-mail: senmonkoushin@jspn.or.jp

2019年6月20日(木) 1日目

＊1：P9・10・11参照
＊2：P9・10参照

建物名	新潟コンベンションセンター													ホテル日航新潟			万代島ビル	ポスター会場 1〜6 ＊1	特別ポスター会場 ＊2
会場名	A会場（センター 1F 大会場）	B会場（センター 1F 中会場）	C会場（センター 1F 中会場）	D会場（センター 2F 中会場）	E会場（センター 2F 中会場）	F会場（センター 2F 小会場）	G会場（センター 3F 小会場）	H会場（センター 3F 小会場）	I会場（センター 3F 小会場）	J会場（センター 3F 小会場）	K会場（センター 3F 中会場）	L会場（センター 3F 中会場）	M会場（センター 4F 中会場）	N会場（ホテル 3F 小会場）	O会場（ホテル 4F 小会場）	P会場（ホテル 4F 小会場）	Q会場（万代島ビル 6F）		
フロア部屋名	1F 展示ホールB	1F 展示ホールA-1	1F 展示ホールA-2	2F メインホールA	2F メインホールB	2F 中会議室201	3F 中会議室301B	3F 中会議室301A	3F 中会議室302B	3F 中会議室302A	3F 小会議室303＋304	3F 小会議室306＋307	4F 国際会議室	3F 孔雀	4F 朱鷺A	4F 朱鷺B	6F 会議室		
8:00																		8:00〜10:00 ポスター掲示	8:00〜10:00 特別ポスター掲示
8:30	8:20〜8:30 開会式																		
9:00	8:30〜10:30 **会長企画 シンポジウム1** 科学的根拠に基づいた精神保健医療政策立案：病床推計法の進化からみたこれからの方向性 PS1-1〜PS1-4	8:30〜10:30 **シンポジウム1** 認知症とてんかんにおける記憶障害を探る S1-1〜S1-4	8:30〜10:30 **委員会 シンポジウム1** 退院後支援の現状と課題−措置入院を中心に− CS1-1〜CS1-5 （精神医療・保健福祉システム委員会）	8:30〜9:30 **教育講演1** 精神神経機能障害としてのてんかん：病態機序を神経病理学からさぐる EL1	8:30〜10:30 **委員会 シンポジウム2** 精神科専門医に必要な精神療法の学び方 CS2-1〜CS2-5 （精神療法委員会）	8:30〜10:30 **委員会 シンポジウム3** ECTの標準化に向けて CS3-1〜CS3-5 （ECT・rTMS等検討委員会）	8:30〜10:30 **シンポジウム2** よくわかるうつ病 脳科学入門−臨床医のための脳科学研究講座− S2-1〜S2-4	8:30〜10:30 **シンポジウム3** 精神科学と神経免疫学のクロストーク S3-1〜S3-4	8:30〜10:30 **シンポジウム4** 新精神科専門医制度における内科教育の実践 S4-1〜S4-5	8:30〜10:30 **シンポジウム5** 双極性障害の予後を悪化させる要因と対応 S5-1〜S5-5	8:30〜10:30 **シンポジウム6** 精神病理学の古典を再読する：DSM精神医学の補完を目指して S6-1〜S6-4	8:30〜10:30 **委員会 シンポジウム4** 育てと育ちの精神医学〜困難な育児・逆境における育ちの支え II〜 CS4-1〜CS4-5 （精神保健に関する委員会）	8:30〜10:30 **シンポジウム7** 精神科救急・急性期医療と地域包括ケア〜厚生労働科学研究の成果〜 S7-1〜S7-4	8:30〜10:30 **シンポジウム8** 精神神経科領域におけるロボット治療の現状と今後の課題 S8-1〜S8-8	8:30〜10:30 **シンポジウム9** 新規抗うつ剤の最適使用戦略を確立する日本最大の実践的メガトライアルSUN☺ D study S9-1〜S9-5	8:30〜10:30 **シンポジウム10** 実践！双極性感情障害の対人関係社会リズム療法（IPSRT）入門〜明日からできる、つまみ食いIPSRTのすすめ！ S10-1〜S10-4	8:30〜10:30 **シンポジウム11** 内観療法の理論と現代的応用 S11-1〜S11-5		
10:00				9:35〜10:35 **教育講演2** 精神障害リハビリテーション−人が回復するということ EL2															
10:30																			
11:00	10:40〜11:40 **会長講演** −ときをこえてはばたけ− 人・こころ・脳をつなぐ精神医学 PL	10:40〜12:40 **シンポジウム12** 高齢者に求められる精神療法とはどのようなものか S12-1〜S12-4	10:40〜12:40 **シンポジウム13** 精神保健予防に向けた学校・地域における連携 S13-1〜S13-5	10:40〜11:40 **教育講演3** 精神分析的アプローチから見た自閉スペクトラム症と自閉スペクトラム性について EL3	10:40〜12:40 **シンポジウム14** 不安症・強迫症の診療ガイドライン S14-1〜S14-4	10:40〜12:40 **委員会 シンポジウム5** 認知症診療における精神科医の役割−適正な薬物療法についての再検討− CS5-1〜CS5-4 （認知症委員会）	10:40〜12:40 **委員会 シンポジウム6** メンタルヘルスの専門家ないし医療者は性的マイノリティについて何を知るべきか CS6-1〜CS6-4 （性同一性障害に関する委員会）	10:40〜12:40 **シンポジウム15** 自閉スペクトラム症の本質に迫る：感覚・運動機能という新たな視点から S15-1〜S15-6	10:40〜12:40 **シンポジウム16** 症状把握を掘り下げる S16-1〜S16-3	10:40〜12:40 **シンポジウム17** 精神疾患の臨床病理検討（CPC）から疾病を理解する精神科プレインバンクへの期待（その3） S17-1〜S17-6	10:40〜12:40 **シンポジウム18** ICD-11に収載された複雑性PTSDの理解と治療−トラウマケア技法の実際− S18-1〜S18-5	10:40〜12:40 **シンポジウム19** うつ病リワークプログラムの始め方、続け方〜クリニック、病院、大学、and etc S19-1〜S19-6	10:40〜12:40 **シンポジウム20** てんかんと精神医療の新たな連携の形（psycho-epilepsy-tology） S20-1〜S20-4	10:40〜12:40 **シンポジウム21** 定型的な薬物療法に行き詰まった時の新たな治療戦略−難治性精神症状への挑戦− S21-1〜S21-5	10:40〜12:40 **シンポジウム22** アルツハイマー型認知症の臨床：現状と今後への展望 S22-1〜S22-6	10:40〜12:40 **シンポジウム23** 物質使用障害のスティグマを乗り越える S23-1〜S23-7	10:40〜12:40 **Fellowship Award Symposium 1** Coercive measures in psychiatry FAS1-1〜FAS1-4	10:00〜12:50 ポスター閲覧	10:00〜18:10 特別ポスター閲覧
11:30																			
12:00	11:50〜12:50 **先達に聞く** 精神科診断学とICDの今後の課題 MP			11:45〜12:45 **教育講演4** 摂食障害の認知行動療法改良版（CBT-E） EL4													※19ページ参照	12:50〜13:38 代議員会（ポスター1・2） 13:38〜18:10 学生・研修医・学部学生 ポスター1 29	
12:30																			
13:00																			
13:30																			
14:00	13:50〜15:50 **シンポジウム24** 精神・発達障害者の就労支援に関わる精神科医（主治医・産業医）の必須アイテム S24-1〜S24-4	13:50〜14:50 **一般演題（口演）1** 統合失調症1 1-O1-1〜1-O1-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）2** 統合失調症2 1-O2-1〜1-O2-4	13:50〜14:50 **教育講演5** 認知機能低下にともなう不安への精神療法的アプローチ：軽度認知障害やアルツハイマー病を対象として− EL5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）3** 気分障害1 1-O3-1〜1-O3-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）4** 児童・思春期、発達障害1 1-O4-1〜1-O4-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）5** 気分障害2 1-O5-1〜1-O5-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）6** 気分障害3 1-O6-1〜1-O6-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）7** 脳器質性・症状性精神病障害1 1-O7-1〜1-O7-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）8** 脳器質性・症状性精神病障害2 1-O8-1〜1-O8-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）9** 気分障害4 1-O9-1〜1-O9-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）10** 産業精神医学 1-O10-1〜1-O10-4	13:50〜14:50 **一般演題（口演）11** 神経症 1-O11-1〜1-O11-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）12** 摂食障害関連1 1-O12-1〜1-O12-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）13** 認知症1 1-O13-1〜1-O13-5	13:50〜14:50 **一般演題（口演）14** 認知症2 1-O14-1〜1-O14-5	13:50〜15:50 **Fellowship Award Symposium 2** Coercive measures in psychiatry FAS2-1〜FAS2-4	13:38〜18:10 ポスター閲覧	
14:30																			
15:00		14:50〜15:50 **一般演題（口演）15** 統合失調症3 1-O15-1〜1-O15-5	14:50〜15:50 **一般演題（口演）16** その他 1-O16-1〜1-O16-5	14:55〜15:55 **教育講演6** トラウマ記憶を処理する心理療法：EMDR（眼球運動による脱感作と再処理法） EL6	14:50〜15:50 **一般演題（口演）17** その他 1-O17-1〜1-O17-5	14:50〜15:50 **研修医・学部学生演題（口演）1** 研修医・学部学生1 1-KO1-1〜1-KO1-5	14:50〜15:50 **研修医・学部学生演題（口演）2** 研修医・学部学生2 1-KO2-1〜1-KO2-5	14:50〜15:50 **研修医・学部学生演題（口演）3** 研修医・学部学生3 1-KO3-1〜1-KO3-4	14:50〜15:50 **一般演題（口演）18** 脳器質性・症状性精神病障害3 1-O18-1〜1-O18-5	14:50〜15:50 **一般演題（口演）19** 気分障害5 1-O19-1〜1-O19-5	14:50〜15:50 **一般演題（口演）20** 統合失調症4 1-O20-1〜1-O20-4	14:50〜15:50 **一般演題（口演）21** 統合失調症5 1-O21-1〜1-O21-5	14:50〜15:50 **一般演題（口演）22** 脳器質性・症状性精神病障害/その他 1-O22-1〜1-O22-5	14:50〜15:50 **一般演題（口演）23** 疫学・その他 1-O23-1〜1-O23-5	14:50〜15:50 **一般演題（口演）24** 地域精神医療1 1-O24-1〜1-O24-3	14:50〜15:50 **一般演題（口演）25** 地域精神医療2 1-O25-1〜1-O25-5		
15:30																			
16:00	16:00〜18:00 **委員会 シンポジウム7** うつ病から復職就労者の再発再燃を防ぐために精神科医と産業医ができること CS7-1〜CS7-4 （精神保健に関する委員会）	16:00〜18:00 **シンポジウム25** 全国の精神保健福祉センターにおける自殺対策の取り組みについて S25-1〜S25-5	16:00〜18:00 **シンポジウム26** 不安症治療でベンゾジアゼピン系抗不安薬はいかに用いられるべきか〜最適化を目指すためのコツと注意点〜 S26-1〜S26-5	16:00〜17:00 **教育講演7** 精神科における高齢者てんかん診療のこつを探る EL7	16:00〜18:00 **シンポジウム27** 自然災害時における統合失調症をもつ人々のSSTによる支援 S27-1〜S27-4	16:00〜18:00 **委員会 シンポジウム8** 訪問診療・訪問看護における多職種協働 CS8-1〜CS8-4 （多職種協働委員会）	16:00〜18:00 **委員会 シンポジウム9** 向精神薬と死亡リスク CS9-1〜CS9-5 （薬事委員会）	16:00〜18:00 **シンポジウム28** 身体症状症および関連症群の治療導入はどうすべきか？−最前線の臨床医による工夫− S28-1〜S28-4	16:00〜18:00 **シンポジウム29** てんかんと知的障害の併存症例に対する精神科医の工夫と取り組み S29-1〜S29-4	16:00〜18:00 **シンポジウム30** 過眠は神経症状か、精神症状か？ S30-1〜S30-4	16:00〜18:00 **シンポジウム31** 医療倫理コンサルテーションと意思決定支援：リエゾン精神医学の新たな課題 S31-1〜S31-4	16:00〜18:00 **委員会 シンポジウム10** 近年の自然災害から学ぶ精神保健医療支援の実際−身近な地域での災害発生に備えて− CS10-1〜CS10-4 （災害支援委員会）	16:00〜18:00 **委員会 シンポジウム11** Fellowship Award programの新たな展開−社会的ひきこもりに関する国際共同研究 CS11-1〜CS11-5 （国際委員会）	16:00〜18:00 **シンポジウム32** 金沢総会後50年−その後の学会の変革と将来への展望− S32-1〜S32-4	16:00〜17:40 **ワークショップ1** 性同一性障害に対する精神的治療と身体的治療 WS1 （性同一性障害に関する委員会）	16:00〜17:40 **ワークショップ2** 映像で学ぶ初回面接−遷延性うつ病編− WS2 （精神療法委員会）	16:00〜17:40 **ワークショップ3** 脳波の基礎コース WS3		
17:00				17:05〜18:05 **教育講演8** NDB等を用いた多様な精神疾患の患者数の集計 EL8															
17:30																			
18:00																			18:10〜19:10 フリーディスカッション（サブ）
18:30																			
19:00																			
19:30																			

※精神科専門医の方におかれましては、受講したセッションをマーカー等により本紙に印をつけ、ご自身で記録してください。専門医資格更新時に受講セッションについて問い合わせさせていただく可能性がございますので、次回更新時まで必ず保管してください。

受講記録表

2019年6月21日㊎ 2日目

＊1：P9・10・11参照
＊2：P9・10参照

建物名	新潟コンベンションセンター													ホテル日航新潟			万代島ビル			建物名
会場名	A会場（センター 1F 大会場）	B会場（センター 1F 中会場）	C会場（センター 1F 中会場）	D会場（センター 2F 中会場）	E会場（センター 2F 中会場）	F会場（センター 2F 小会場）	G会場（センター 3F 小会場）	H会場（センター 3F 小会場）	I会場（センター 3F 小会場）	J会場（センター 3F 小会場）	K会場（センター 3F 中会場）	L会場（センター 3F 中会場）	M会場（センター 4F 中会場）	N会場（ホテル 3F 小会場）	O会場（ホテル 4F 小会場）	P会場（ホテル 4F 小会場）	Q会場（万代島ビル 6F）	ポスター会場 1～6 ＊1	特別ポスター会場 ＊2	会場名
フロア部屋名	1F 展示ホールB	1F 展示ホールA-1	1F 展示ホールA-2	2F メインホールA	2F メインホールB	2F 中会議室201	3F 中会議室301B	3F 中会議室301A	3F 中会議室302B	3F 中会議室302A	3F 小会議室303＋304	3F 小会議室306＋307	4F 国際会議室	3F 孔雀	4F 朱鷺A	4F 朱鷺B	6F 会議室			フロア部屋名
8:00																				8:00
8:30	8:30～9:30 受賞報告会	8:30～9:30 一般演題（口演）26 依存・行動嗜癖1 2-O26-1～2-O26-5	8:30～9:30 一般演題（口演）27 依存・行動嗜癖2 2-O27-1～2-O27-5	8:30～9:30 一般演題（口演）28 認知症3 2-O28-1～2-O28-5	8:30～9:30 一般演題（口演）29 依存・行動嗜癖3 2-O29-1～2-O29-5	8:30～9:30 一般演題（口演）30 ECT・ニューロモデュレーション 2-O30-1～2-O30-5	8:30～9:30 一般演題（口演）31 ECT関連・神経画像 2-O31-1～2-O31-5	8:30～9:30 一般演題（口演）32 臨床検査・バイオマーカー 2-O32-1～2-O32-5	8:30～9:30 一般演題（口演）33 睡眠障害・てんかん 2-O33-1～2-O33-5	8:30～9:30 一般演題（口演）34 社会・司法精神医学 2-O34-1～2-O34-5	8:30～9:30 一般演題（口演）35 診断学1 2-O35-1～2-O35-5	8:30～9:30 一般演題（口演）36 児童・思春期、発達障害2 2-O36-1～2-O36-5	8:30～9:30 一般演題（口演）37 精神療法 2-O37-1～2-O37-4	8:30～9:30 一般演題（口演）38 精神科救急1 2-O38-1～2-O38-5	8:30～10:10 ワークショップ4 ICD-11の最新情報：ストレス関連障害群、不安および強迫関連障害群、パーソナリティ障害群 WS4（ICD-11委員会）	8:30～10:30 委員会シンポジウム12 症例報告における倫理的配慮～本人同意をめぐる課題 CS12-1～CS12-4（倫理委員会）	8:30～10:30 Fellowship Award Symposium 3 Case Vignette FAS3-1～FAS3-4	8:30～12:50 ポスター閲覧	8:30～18:10 特別ポスター閲覧	8:30
9:00																				9:00
9:30	9:40～11:40 産 シンポジウム33 ポジティブ精神医学の産業メンタルヘルスへの活用 S33-1～S33-4	9:30～10:30 一般演題（口演）39 薬物療法1 2-O39-1～2-O39-5	9:30～10:30 一般演題（口演）40 薬物療法2 2-O40-1～2-O40-5	9:35～10:35 教育講演9 刑事精神鑑定の基礎 EL9	9:30～10:30 一般演題（口演）41 薬物療法3 2-O41-1～2-O41-5	9:30～10:30 一般演題（口演）42 分子遺伝・動物モデル 2-O42-1～2-O42-5	9:30～10:30 一般演題（口演）43 児童・思春期、発達障害3 2-O43-1～2-O43-5	9:30～10:30 一般演題（口演）44 コンサルテーション・リエゾン1 2-O44-1～2-O44-5	9:30～10:30 一般演題（口演）45 コンサルテーション・リエゾン2 2-O45-1～2-O45-5	9:30～10:30 一般演題（口演）46 精神科救急2 2-O46-1～2-O46-5	9:30～10:30 一般演題（口演）47 分子遺伝・その他 2-O47-1～2-O47-4	9:30～10:30 一般演題（口演）48 精神療法・その他 2-O48-1～2-O48-4	9:30～10:30 一般演題（口演）49 てんかん 2-O49-1～2-O49-5	9:30～10:30 一般演題（口演）50 精神科救急2 2-O50-1～2-O50-5						9:30
10:00																				10:00
10:30		10:40～12:40 シンポジウム34 あなたにもできる神経化学研究 S34-1～S34-4	10:40～12:40 日本精神神経学会と日本神経科学学会との連携シンポジウム 精神疾患の新しい理解と支援に寄与する最先端神経科学 RS-1～RS-5	10:40～11:40 教育講演10 精神医学における生物・心理・社会モデルと多元主義 EL10	10:40～12:40 シンポジウム35 精神科領域におけるShared Decision Making（SDM）の実現可能性 S35-1～S35-5	10:40～12:20 ワークショップ5 アクセプトされる精神医学研究論文の書き方 WS5（PCN編集委員会）	10:40～12:40 委員会シンポジウム13 精神科医療における権利擁護制度－とりわけアドボケーター・代弁者を巡って－ CS13-1～CS13-5（精神保健福祉法委員会）	10:40～12:40 シンポジウム36 統合失調症バイオマーカーとしてのMismatch negativity（MMN） S36-1～S36-4	10:40～12:20 ワークショップ6 身体疾患を有する患者の自殺および希死念慮に対するリエゾン・コンサルテーション WS6	10:40～12:40 シンポジウム37 環境や食生活とメンタルヘルス S37-1～S37-4	10:40～12:40 シンポジウム38 第三世代認知行動療法を精神科臨床に活かす S38-1～S38-5	10:40～12:40 シンポジウム39 （日本精神神経科診療所協会推薦）私たちはなぜクリニックを開業したか －日精診女性会員の場合－ S39-1～S39-5	10:40～11:40 特別講演1 Current issues in women's mental health	10:40～12:40 シンポジウム40 家族をベースにする治療をどう実臨床に生かすのか S40-1～S40-4	10:40～12:40 シンポジウム41 「適応障害とその背景」－日本精神分析学会企画 S41-1～S41-5	10:40～12:40 委員会シンポジウム14 人為災害、テロがメンタルヘルスに及ぼす影響：2020年東京五輪に向けて考えるべきこと CS14-1～CS14-5（災害支援委員会）	10:40～12:40 Fellowship Award Symposium 4 Case Vignette FAS4-1～FAS4-4			10:30
11:00																				11:00
11:30	11:50～13:50 シンポジウム42 ASDとADHDの臨床的特徴と鑑別診断 S42-1～S42-4			11:45～12:45 教育講演11 児童・思春期精神障害を理解するための3要因－アタッチメント、虐待、そして発達障害－ EL11									11:45～12:45 特別講演2 The ICD-11 as a part of a comprehensive global mental health strategy							11:30
12:00																				12:00
12:30																				12:30
13:00																		12:50～13:38 一般演題（ポスター）		13:00
13:30																	※19ページ参照			13:30
14:00	14:10～16:10 会長企画シンポジウム2 統合失調症患者の生命と健康を守るための新たなる視点 PS2-1～PS2-4	13:50～15:50 シンポジウム43 精神医学における価値の諸相 S43-1～S43-5	13:50～15:50 シンポジウム44 向精神薬と自動車運転等の注意喚起－実臨床での課題とエビデンス、そして考えるべきこと－ S44-1～S44-5	13:50～14:50 教育講演12 精神疾患における睡眠障害の治療戦略 EL12	13:50～15:50 シンポジウム45 平成30年度診療報酬改定後のベンゾジアゼピン系睡眠薬の減量 S45-1～S45-5	13:50～15:50 シンポジウム46 発達障害の連続・不連続とそれを踏まえた薬物療法について S46-1～S46-4	13:50～15:50 シンポジウム47 国際カップルをめぐる諸問題と破局例の検討 S47-1～S47-5	13:50～15:50 シンポジウム48 生物学的精神医学のフロンティア S48-1～S48-4	13:50～15:30 ワークショップ7 脳波の応用コース WS7	13:50～15:50 シンポジウム49 子どもを虐待したくてしているわけじゃない！－逆境体験（ACE）に精神科医療はどう向き合うか－ S49-1～S49-4	13:50～15:30 ワークショップ8 統合失調症の精神鑑定 WS8（司法精神医学委員会）	13:50～15:30 ワークショップ9 新アルコール使用障害の診断治療ガイドラインに基づく治療の実際 WS9	13:50～15:50 委員会シンポジウム15 ICD-11が世界の精神科医療へもたらす影響 CS15-1～CS15-3（ICD-11委員会）	13:50～15:50 シンポジウム50 向精神薬による稀ではあるが重篤な副作用を避けるために（患者と医療者の双方のしあわせのために） S50-1～S50-5	14:00～16:40 ワークショップ11 複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ：自殺のハイリスク患者に対するアセスメントと問題解決アプローチ WS11（精神保健に関する委員会）［事前申込制］	13:50～15:30 ワークショップ10 小児精神医療入門：新シリーズ（2）子どもが示す症状の多様性：その意味と疾患との関連について WS10（小児精神医療委員会）	13:50～15:50 Leaders Round Table アジア太平洋地域各国における精神科の多職種チーム医療について（国際委員会）	13:38～18:10 ポスター閲覧		14:00
14:30				14:55～15:55 教育講演13 認知行動療法－過去、現在、未来、その先へ－ EL13																14:30
15:00																				15:00
15:30																				15:30
16:00	16:20～18:20 産 シンポジウム51 昨今の産業衛生のトピックスとメンタルヘルス的視点 S51-1～S51-4	16:20～18:00 新専門医制度報告会	16:00～18:00 委員会シンポジウム16 刑事責任能力鑑定の方法－裁判員裁判における私の実践 CS16-1～CS16-4（司法精神医学委員会）	16:00～17:00 教育講演14 精神・神経疾患の脳内回路と分子の可視化 EL14	16:00～18:00 委員会シンポジウム17 母乳と授乳の精神医学 CS17-1～CS17-5（男女共同参画推進委員会）	16:00～18:00 委員会シンポジウム18 精神科医療における身体拘束の現状と課題 CS18-1～CS18-4（精神保健福祉法委員会）	16:00～18:00 シンポジウム52 任意入院の開放処遇でうつ病の自殺を防止する－ストレスケア病棟の調査から－ S52-1～S52-4	16:00～18:00 シンポジウム53 反芻思考とうつ病 S53-1～S53-4	16:00～18:00 シンポジウム54 成人の自閉スペクトラム症における精神科医と心理職の協働－日常診療で公認心理師にどう活躍してもらうか S54-1～S54-4	16:00～18:00 シンポジウム55 患者の違法薬物使用を知ったとき、精神科医はどうふるまうべきなのか？ S55-1～S55-6	16:00～18:00 シンポジウム56 新アウトリーチ事業に始まる日本の精神科地域包括ケアシステムの可能性 S56-1～S56-5	16:00～18:00 シンポジウム57 認知症非専門医のための認知症診療の基本 S57-1～S57-5	16:00～18:00 委員会シンポジウム19 卒後教育サブスペシャルティ CS19-1～CS19-4（国際委員会）	16:00～18:00 シンポジウム58 精神疾患へのスティグマ研究の現在：学校教育、市民啓発、社会の取り組みに向けて S58-1～S58-5		16:00～18:00 ワークショップ12 日常診療に治療ガイドラインは役に立つのか？ WS12［事前申込制］	16:00～18:00 シンポジウム59 精神疾患における神経炎症の役割～バイオマーカー開発から病態解明まで S59-1～S59-4			16:30
17:00				17:05～18:05 教育講演15 精神科臨床に役立つ神経心理学の知識 EL15																17:00
17:30																				17:30
18:00																				18:00
18:30																			18:10～19:10 フリーディスカッション（メイン）	18:30
19:00																				19:00
19:30																				19:30

新潟グランドホテル 3F 悠久
19:30～21:00 懇親会

2019年6月22日(土) 3日目

＊1：P9・10・11参照
＊2：P9・10参照

建物名	新潟コンベンションセンター													ホテル日航新潟			万代島ビル	ポスター会場 1〜6 ＊1	特別ポスター会場 ＊2
会場名	A会場（センター 1F 大会場）	B会場（センター 1F 中会場）	C会場（センター 1F 中会場）	D会場（センター 2F 中会場）	E会場（センター 2F 中会場）	F会場（センター 2F 小会場）	G会場（センター 3F 小会場）	H会場（センター 3F 小会場）	I会場（センター 3F 小会場）	J会場（センター 3F 小会場）	K会場（センター 3F 中会場）	L会場（センター 3F 中会場）	M会場（センター 4F 中会場）	N会場（ホテル 3F 小会場）	O会場（ホテル 4F 小会場）	P会場（ホテル 4F 小会場）	Q会場（万代島ビル 6F）		
フロア部屋名	1F 展示ホールB	1F 展示ホールA-1	1F 展示ホールA-2	2F メインホールA	2F メインホールB	2F 中会議室201	3F 中会議室301B	3F 中会議室301A	3F 中会議室302B	3F 中会議室302A	3F 小会議室303＋304	3F 小会議室306＋307	4F 国際会議室	3F 孔雀	4F 朱鷺A	4F 朱鷺B	6F 会議室		
8:00																			
8:30	8:10〜10:10 **委員会 シンポジウム20** 精神疾患レジストリの構築による新たな診断・治療法の開発へ CS20-1〜CS20-5 (精神医学研究推進委員会)	8:10〜10:10 **委員会 シンポジウム21** 教育を通じて伝えたいこと・伝えるべきこと−学校保健教育への発信− CS21-1〜CS21-4 (アンチスティグマ委員会)	8:10〜10:10 **委員会 シンポジウム22** 脳機能の可視化から探る精神機能の動態と病態 CS22-1〜CS22-4 (PCN編集委員会)	8:10〜9:10 **教育講演16** 精神疾患の労災認定後の長期療養の現状と課題 EL16 (精神保健に関する委員会)	8:10〜10:10 **シンポジウム60** 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに於ける精神科診療所の可能性 S60-1〜S60-5	8:10〜10:10 **シンポジウム61** 神経症圏治療における治療導入、摂食障害を例として：どこまで医療化（外在化）し、いかに本格治療に導入するのか S61-1〜S61-5	8:10〜10:10 **シンポジウム62** 難治性トゥレット症の現状及び脳深部刺激療法に関する検討 S62-1〜S62-5	8:10〜10:10 **シンポジウム63** せん妄の新たな予防方略とその実効性を高める発症予測の研究展開 S63-1〜S63-4	8:10〜10:10 **シンポジウム64** 今、マインドフルネスを考える S64-1〜S64-4	8:10〜10:10 **シンポジウム65** 「共同意思決定」を生む対話についての検討〜患者の権利、意思とはなにか〜 S65-1〜S65-5	8:10〜10:10 **シンポジウム66** 精神科医は強度行動障害に何が出来るか？ S66-1〜S66-6	8:10〜10:10 **シンポジウム67** ミクログリアは精神疾患の成り立ちにどのように関与するのか？ S67-1〜S67-4	8:10〜10:10 **シンポジウム68** 医療と司法からみたダイバーシティ S68-1〜S68-5	8:10〜10:10 **シンポジウム69** 慢性疼痛 S69-1〜S69-5	8:10〜10:10 **シンポジウム70** 精神科治療に対する同意能力は適切に評価されているのか？患者の保護と自己決定の尊重 S70-1〜S70-4	8:10〜10:10 **シンポジウム71** さまざまな精神神経疾患の妊娠・出産・授乳への対応 S71-1〜S71-5	8:10〜10:10 **シンポジウム72** 今必要な精神科臨床における心理教育 S72-1〜S72-5	8:10〜12:30 ポスター閲覧	8:10〜13:18 特別ポスター閲覧
9:00				9:15〜10:15 **教育講演17** ゲノム医科学の進展と精神科領域でのゲノム医療への展望 EL17															
9:30																			
10:00																			
10:30	10:20〜12:20 **シンポジウム73** 外来診療に活かす認知行動療法 S73-1〜S73-5	10:20〜12:20 **委員会 シンポジウム23** 日常精神医療が自治体の自殺対策計画に貢献できること CS23-1〜CS23-4 (精神保健に関する委員会)	10:20〜12:20 **シンポジウム74** 摂食障害治療の国際比較 S74-1〜S74-4	10:20〜11:20 **教育講演18** 神経発達症の診断・治療の基礎と展開：青年期とそれ以後を中心に EL18	10:20〜12:20 **委員会 シンポジウム24** 精神医学ガイドラインの持つ意味：日本精神神経学会が果たすべき役割 CS24-1〜CS24-4 (ガイドライン検討委員会、精神医療・精神医学情報センター運営委員会)	10:20〜12:20 **委員会 シンポジウム25** 精神科臨床倫理の在り処その6（医療倫理と安全（責任）の葛藤） CS25-1〜CS25-4 (医療倫理委員会)	10:20〜12:20 **委員会 シンポジウム26** 公認心理師との協働と『医師の指示』 CS26-1〜CS26-5 (心理技術職に関する委員会)	10:20〜12:20 **シンポジウム75** 児童虐待対応における地域精神保健・医療の役割 S75-1〜S75-4	10:20〜12:20 **シンポジウム76** 発達障害とてんかん：各診療科の立場から S76-1〜S76-4	10:20〜12:20 **シンポジウム77** 急性精神病の最近の状況 S77-1〜S77-5	10:20〜12:20 **シンポジウム78** わが国における大規模処方調査“MUSUBI-J”から分かる双極性障害治療のあるべき姿 S78-1〜S78-5	10:20〜12:20 **シンポジウム79** 当事者研究・オープンダイアローグ・ACT−現在の地点と将来：その協働が日本の精神保健福祉にもたらすもの S79-1〜S79-5	10:20〜12:20 **シンポジウム80** 統合失調症のSense of Agency研究：精神病理学−計算論的精神医学−神経科学の連繋 S80-1〜S80-5	10:20〜12:20 **シンポジウム81** 不安症状に対する新しい取り組み S81-1〜S81-5	10:20〜12:20 **シンポジウム82** 精神科診断に求められる機能・要件を考える S82-1〜S82-5	10:20〜12:20 **シンポジウム83** 精神科診療における自律神経活動評価：心拍変動計測の現状と展望 S83-1〜S83-5	10:20〜12:20 **シンポジウム84** DVで避難してきた患者とその子どもの精神疾患をどう診ていくか S84-1〜S84-4		
11:00				11:25〜12:25 **教育講演19** 利益相反と責務相反 EL19 (利益相反委員会)															
11:30																			
12:00																			
12:30																		12:30〜13:18 61〜72（ポスター）一般演題	
13:00						13:00〜14:00 **一般演題（口演）51** 依存・行動嗜癖 4 3-O51-1〜3-O51-5											※19ページ参照		
13:30		13:30〜15:30 **シンポジウム85** 憑依再考−DSM-5時代の精神医療と霊のナラティブ S85-1〜S85-5	13:30〜15:30 **委員会 シンポジウム27** 国内におけるうつ病へのrTMS療法の現状と課題 CS27-1〜CS27-4 (ECT・rTMS等検討委員会)				13:30〜14:30 **一般演題（口演）52** 依存・その他 3-O52-1〜3-O52-3	13:30〜14:30 **一般演題（口演）53** 社会・司法精神医学 3-O53-1〜3-O53-4	13:30〜14:30 **一般演題（口演）54** 神経心理 3-O54-1〜3-O54-5	13:30〜15:30 **シンポジウム86** 摂食障害の心理教育に役立つコンテンツ−ミニマル・エッセンシャルズ S86-1〜S86-3	13:30〜15:30 **シンポジウム87** 腸内細菌叢−腸管−脳軸：発達早期における精神活動と行動への影響 S87-1〜S87-4	13:30〜15:30 **シンポジウム88** 精神疾患の背後に発達障害特性を見いだしたとき、いかに治療すべきか S88-1〜S88-4	13:30〜15:30 **委員会 シンポジウム28** 旧優生保護法と精神科医療を検証する CS28-1〜CS28-4 (法委員会)	13:30〜15:30 **シンポジウム89** 精神科薬物療法の出口戦略を考える S89-1〜S89-6	13:30〜15:30 **シンポジウム90** 精神科診断を向上させるためのヘルスリテラシーの活用 S90-1〜S90-4	13:30〜15:30 **委員会 シンポジウム29** オンライン精神科医療：保険承認後の現状と課題 CS29-1〜CS29-4 (精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会)		13:20〜14:20 ポスター撤去	
14:00																			
14:30							14:30〜15:30 **一般演題（口演）55** 精神保健福祉 1 3-O55-1〜3-O55-7	14:30〜15:30 **一般演題（口演）56** 精神保健福祉・その他 3-O56-1〜3-O56-5	14:30〜15:30 **一般演題（口演）57** 神経薬理・その他 3-O57-1〜3-O57-4										
15:00																			
15:30	15:30〜19:10 **第24回指導医講習会**			15:30〜18:40 **生涯教育研修会**															
16:00						15:45〜16:30 **会員報告会**							16:00〜17:30 **市民公開講座**						
16:30						16:30〜16:40 閉会式													
17:00																			
17:30																			
18:00																			
18:30																			
19:00																			
19:30																			

受講記録表

The 41st Annual Meeting of Japanese Society of Biological Psychiatry

第41回日本生物学的精神医学会

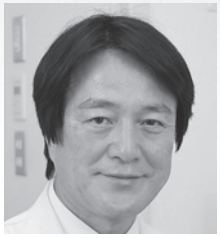
心の病の明日を拓く 生物学的精神医学!!

Frontier Spirits in Biological Psychiatry

2019年6月22日(土)-23日(日)

朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター

大会長 **岸本 年史**（奈良県立医科大学 精神医学講座 教授）



参加費

区 分	大 会	
	事前参加登録※2	当日参加
会員	8,000円	10,000円
非会員	11,000円	13,000円
大学院生・研修医※1	5,000円	7,000円
学部学生	——	無 料

※1 後期研修医は研修医に含む　※2 事前登録は2019年5月31日(金)まで　※懇親会参加費用は5,000円(学部学生は3,000円)

詳細はこちら ▶ http://www.c-linkage.co.jp/jsbp2019/

6月22日(土) プログラム

特別講演

時間 17:00-18:00

会場 第2会場 2F 中会議室201

脳とAI、そして医療へ Brain, AI, and Medical Care

演者 **池谷 裕二 先生**（東京大学 薬学部）

生物学的精神医学入門セミナー

時間 19:00-20:00　会場 第2会場 2F 中会議室201

講師 **岡野 栄之** 慶應義塾大学 医学部 生理学教室　テーマ **iPS細胞技術を用いた精神・神経疾患の病態・創薬研究**

講師 **岩田 仲生** 藤田医科大学医学部 精神科　テーマ **精神疾患のゲノム研究**

若手研究者育成プログラム交流会

時間 19:00-20:00

特別メンター **那波 宏之** 新潟大学脳研究所 基礎神経科学部門 分子神経生物学分野

イブニングセミナー

時間 18:10-19:00

イブニングセミナー1 精神科治療のパラダイムシフトに向けて～反復性経頭蓋磁気刺激法（rTMS）の過去・現在・未来～

会場 第2会場 2F 中会議室201　演者 **野田 賀大** 慶応義塾大学病院 精神・神経科　共催：持田製薬株式会社/吉富製薬株式会社

イブニングセミナー2 脳画像を統合失調症診療に活かす

会場 第3会場 3F 中会議室301　演者 **高橋 英彦** 東京医科歯科大学 精神行動医科学分野　共催：Meiji Seikaファルマ株式会社

イブニングセミナー3 睡眠覚醒システムから見た精神疾患の病態

会場 第4会場 3F 中会議室302A　演者 **尾崎 紀夫** 名古屋大学 大学院医学系研究科 精神医学　共催：アステラス製薬株式会社

イブニングセミナー4 統合失調症治療におけるドパミンD3受容体の画像診断技術による包括的理解

会場 第5会場 3F 中会議室302B　演者 **橋本 直樹** 北海道大学病院 精神科神経科

舘野 周 日本医科大学付属病院 精神神経科　共催：大日本住友製薬株式会社

6月23日㊐ プログラム

特別講演

時間 13:00-14:00
会場 第1会場 2F メインホールA

同時通訳あり

Autism:insights from the “Little Brain”

演者 **Dr. Peter Tsai** (UT Southwestern Medical Center)

シンポジウム1
アジア圏で国際共同臨床研究を行う意義:Asian Consortium on MRI studies in Psychosis, ACMP
時間 9:00-11:00 会場 第1会場 2F メインホールA

シンポジウム2
うつ病や認知症予防を食生活や環境から考える。
時間 9:00-11:00 会場 第2会場 2F 中会議室201

シンポジウム3
情動と痛み　脳内インターラクション ー基礎から臨床までー
時間 9:00-11:00 会場 第3会場 3F 中会議室301

シンポジウム4
自閉症学の魅力
時間 9:00-11:00 会場 第5会場 3F 中会議室302B

シンポジウム5
精神科における脳回路研究の最前線
時間 15:00-17:00 会場 第1会場 2F メインホールA

シンポジウム6
生物学的自殺研究の最前線
時間 15:00-17:00 会場 第2会場 2F 中会議室201

シンポジウム7
精神科遺伝学がもたらした地平
時間 15:00-17:00 会場 第3会場 3F 中会議室301

シンポジウム8
前頭葉機能異常の基盤
時間 15:00-17:00 会場 第5会場 3F 中会議室302B

教育講演

時間 14:00-15:00

教育講演1
PG（病的賭博）の生物学的理解

演者 村井　俊哉 京都大学 精神医学
テーマ 行動嗜癖の生物学的理解
会場 第1会場 2F メインホールA

教育講演2
精神疾患の霊長類研究の現状と未来

演者 岡野　栄之 慶應義塾大学 医学部 生理学教室
会場 第2会場 2F 中会議室201

教育講演3
腸内細菌と脳腸相関

演者 須藤　信行 九州大学大学院医学研究院 心身医学
テーマ 腸内細菌ー腸ー脳相関"に関する最近のトピックス
会場 第3会場 3F 中会議室301

モーニングセミナー

時間 8:00-9:00

モーニングセミナー1 **双極性障害の病態解明への道筋**
演者 岩田　仲生 藤田医科大学医学部 精神科
会場 第2会場 2F 中会議室201　共催：共和薬品工業株式会社

ランチョンセミナー

時間 12:00-12:50

ランチョンセミナー1 **統合失調症に対する抗精神病薬治療：最近の研究結果と臨床への応用**
会場 第1会場 2F メインホールA　演者 岸　太郎 藤田医科大学医学部 精神科　共催：大塚製薬株式会社

ランチョンセミナー2 **外来におけるうつ病治療についてーうつ病の神経炎症仮説とデュロキセチンの位置づけー**
会場 第2会場 2F 中会議室201　演者 門司　晃 佐賀大学医学部 精神医学教室　共催：日本イーライリリー株式会社/塩野義製薬株式会社

ランチョンセミナー3 **LAIの新たな可能性**
会場 第3会場 3F 中会議室301　演者 三澤　史斉 山梨県立北病院 診療科　共催：ヤンセンファーマ株式会社

ランチョンセミナー4 **気分障害の原因はどこまでわかったか**
会場 第4会場 3F 中会議室302A　演者 加藤　忠史 理化学研究所脳神経科学研究センター　共催：武田薬品工業株式会社/ルンドベックジャパン株式会社

ランチョンセミナー5 **腸内細菌と脳内炎症から見るうつ病**
会場 第5会場 3F 中会議室302B　演者 岩田　正明 鳥取大学医学部脳神経医科学講座　共催：ファイザー株式会社/大日本住友製薬株式会社